

磐越自動車道関係発掘調査報告書

上ノ平遺跡 C 地点

1996

新潟県教育委員会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

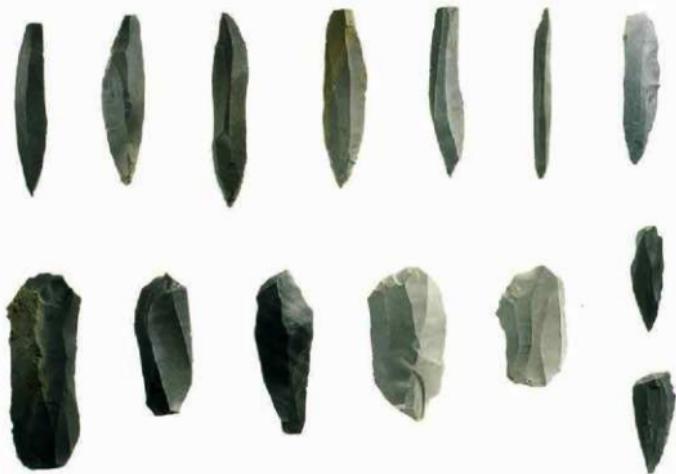
磐越自動車道関係発掘調査報告書

上ノ平遺跡 C 地点

1996

新潟県教育委員会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団



上：旧石器時代のナイフ形石器・彫刻刀形石器

下：縄文時代草創期の尖頭器・接合資料

撮影：小川忠博氏

序

平成9年度に全線開通予定の磐越自動車道は、福島県いわき市と本県新潟市を結ぶ高速自動車道で、太平洋側と日本海側とが結ばれるとともに常磐・東北・北陸自動車道とも連結され、地域の発展には多大の役割を果たすものと期待されております。

新潟県教育委員会では、磐越自動車道の建設に先だって数多くの遺跡の発掘調査を行ってまいりました。本書は磐越自動車道阿賀野川サービスエリアの建設に伴う上ノ平遺跡C地点の発掘調査報告書です。この遺跡では旧石器時代から中世までのさまざまな遺構、遺物が発見されました。旧石器時代および縄文時代草創期の調査は、同じ阿賀野川サービスエリアの上ノ平遺跡A地点、吉ヶ沢遺跡B地点とあわせて、県内でも初めての大規模な面積の調査であり、当時の人間行動復元のためのきわめて貴重な情報を得ることができました。また、縄文時代前期の遺構・遺物は当時の一時的なキャンプ地の姿を示すものとして注目されます。中世のものと思われる焼土坑群は、山間地の利用形態を示す資料となるものと思われます。

今回の調査成果が、旧石器時代、縄文時代を初めとした考古学研究のための資料として広く活用されるとともに、県民の方々が埋蔵文化財に対する理解と認識を深める契機となれば幸いです。

最後に、本調査に参加された地元の方々、ならびに多大なご協力とご援助を賜った三川村・津川町・安田町教育委員会、日本道路公団新潟建設局、同津川工事事務所に対して厚くお礼申し上げます。

平成8年3月

新潟県教育委員会

教育長 平野清明

例　　言

- 1 本報告書は新潟県東蒲原郡三川村大字上谷渡字上ノ山16270ほかに所在する上ノ平遺跡C地点の発掘調査記録である。発掘調査は磐越自動車道の建設に伴い、新潟県が日本道路公団から受託して実施したものである。
 - 2 発掘調査は平成3年度は調査主体である新潟県教育委員会が、平成4・5年度は財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団(以下、埋文事業団)に調査を委託して実施した。
 - 3 整理および報告書作成にかかる作業は平成7年度に実施し、埋文事業団職員、埋文事業団作業員がこれにあたった。ただし、接合資料の実測用写真の撮影は、小川忠博氏に委託した。
 - 4 出土遺物と調査にかかる資料は全て新潟県教育委員会が保管している。遺物の注記号は「上ノ平C」として遺物番号、遺物によっては出土地点・層位を併記した。
 - 5 石器石材については、新潟県教育センター地学研究室の河内一男氏にご教示を賜った。
 - 6 文中の註は全て脚註とした。また、引用文献は著者および発行年(西暦)を文中に〔 〕で示し、巻末に一括して著者、発行年、論文名、出典などを掲載した。
 - 7 本書の執筆、編集は沢田 敦(埋文事業団文化財調査員)が担当した。ただし、第Ⅱ章は株式会社古環境研究所に委託した。
 - 8 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々から多大なご教示・助言を賜った。厚くお礼申し上げる。(敬称略、五十音順)

阿部朝衛、石川恵美子、荒木繁雄、岡村道雄、小熊博史、小野 昭、織笠 昭、小林 克、桜井美枝、菅沼 亘、須藤隆司、源訪問順、閑口博史、高尾好之、高橋泰栄、田中耕作、谷 和隆、立木宏明、津島秀章、堤 隆、中島庄一、中村由克、西井幸雄、北田井民子、藤塚 明、藤原妃敏、本田秀生、増子正三、本橋恵美子、柳田後雄、山川史子、吉井雅勇、渡辺督也、三川村教育委員会、津川町教育委員会、安田町教育委員会
 - 9 本遺跡の調査成果については『現地説明会資料』『財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団平成4年度年報』『財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団平成5年度年報』『埋文にいたがた』などの埋文事業団刊行物の他に、下記の刊行物でその内容を紹介したが、本書の記載内容がこれらに優先する。
- 沢田 敦 1992 「新潟県三川村上ノ平遺跡の調査」『第5回長野県旧石器文化交流会－発表要旨－』
　　　　　　　pp. 42~46
- 沢田 敦 1992 「新潟県三川村上ノ平遺跡の調査」『第6回東北日本の旧石器文化を語る会 予稿集』
　　　　　　　pp. 16~18
- 沢田 敦 1993 「三川村上ノ平遺跡の調査—旧石器を中心として—」『新潟県考古学会第5回大会
研究発表会発表要旨』 pp. 6~9
- 沢田 敦・飯坂盛泰 1993 「新潟県三川村上ノ平遺跡・吉ヶ沢遺跡の調査」『第7回東北日本の旧石
器文化を語る会 予稿集』 pp. 17~20

凡 例

- 1 石器実測図では磨擦痕、敲打痕（ツブレ）、節理面を下図のとおり表現した。



- 2 旧石器時代、縄文時代草創期の実測図番号の後に遺物番号を()内に記した。
3 石器実測図の白抜きの剥離面は後世のものである。
4 旧石器時代、縄文時代草創期遺物観察表における器種の略記号は以下のとおりである。
- | | | |
|------------|------------------|--------------|
| KN……ナイフ形石器 | BU……彫刻刀形石器 | PO……尖頭器 |
| BF……両面加工石器 | RF……二次加工ある剥片(石刃) | BP……彫刻刀形石器母型 |
| CO……石核 | BL……石刃 | FL……剥片 |
| BS……彫刻刀削片 | CH……チップ | PB……蹠 |
- 5 旧石器時代、縄文時代草創期遺物観察表における石器石材で岩石名すべてを表記できないものは以下のとおり略した。
- | | | | |
|----------|-------------|----------|---------|
| 珪質……珪質頁岩 | 凝灰……凝灰岩 | チャ……チャート | 流紋……流紋岩 |
| 鉄石……鉄石英 | 粘板……粘板岩 | 黒曜……黒曜石 | 花崗……花崗岩 |
| 安山……安山岩 | 無斑……無斑晶質安山岩 | | |
- 6 土色・土器胎土・母岩の色調の表記は、農林水産省農林水産会議・財團法人日本色彩研究所監修『新版 標準土色帳』によった。
- 7 遺物観察表の北南・西東は大グリッド内での平面座標である。座標原点となる大グリッド枠は当該グリッドの北西隅に位置する。

目 次

第 I 章 序 言

1 調査に至る経緯	1
-----------------	---

第 II 章 遺跡の環境

1 旧石器時代	2
2 繩文時代	2

第 III 章 調査の概要

1 第1次調査	4
A 調査方法	4
B 調査経過	4
C 調査体制	4
2 第2次調査	5
A 調査方法	5
B 調査経過	7
C 調査体制	8
3 整理作業	8
A 方 法	8
B 経過と体制	9

第 IV 章 遺跡の概要

1 基本層序	10
2 遺跡の概要	12

A 旧石器時代	12
B 縄文時代草創期	12
C 縄文時代(草創期を除く)	13
D 歴史時代	13

第 V 章 旧石器時代の調査

1 遺 構	14
2 遺 物	15
A 分 類	15
B 石器各説	20
C 母岩別資料	32
D 接合資料	35
E ふるい選別資料	36

第 VI 章 縄文時代草創期の調査

1 遺 構	51
2 遺 物	52
A 分 類	52
B 石器各説	52
C 母岩別資料	55
D 接合資料	56

第 VII 章 縄文時代(草創期を除く)の調査

1 遺物の出土状況	77
2 遺 構	77
3 遺 物	78
A 土 器	78
B 石 器	81

第Ⅷ章 歴史時代の調査

1 遺 構	92
A 土 坑	92
B ピ ット	96
2 遺 物	97
A 砥 石	97

第Ⅸ章 自然科学分析

1 上ノ平遺跡C地点出土炭化材の樹種同定	98
A 試料と方法	98
B 結 果	98
2 放射性炭素年代測定	99

第Ⅹ章 ま と め

1 旧石器時代の石器について	100
A 石器製作技術	100
B 神山型彫刻刀における刃部再生と形態変化	103
C 石器群の編年的位置づけ	105
2 繩文時代草創期の石器について	106
A 接合資料から見た石器製作技術	106
B 石器群の編年的位置づけ	108
3 繩文時代前期末の上ノ平遺跡C地点	109
4 歴史時代の焼土坑について	110
《要 約》	111
《引用・参考文献》	112

挿 図 目 次

第1図	周辺の遺跡	3
第2図	グリッド設定図	5
第3図	土層柱状図	11
第4図	ブロック毎標高別遺物出土点数	16
第5図	旧石器分類図	18
第6図	石器属性計測基準	21
第7図	縄文時代草創期接合資料1模式図	57
第8図	縄文時代草創期接合資料2個体1模式図	57
第9図	縄文時代草創期接合資料2個体2模式図	57
第10図	縄文時代草創期接合資料3模式図	58
第11図	縄文時代草創期接合資料4模式図	59
第12図	縄文時代草創期接合資料5個体1模式図	59
第13図	縄文時代草創期接合資料5個体2模式図	60
第14図	縄文時代草創期接合資料7模式図	60
第15図	縄文時代草創期接合資料8模式図	60
第16図	縄文石器主要器種の実測展開方法と部位名称、計測基準	88
第17図	土坑形態分類図	92
第18図	石刃の剥離長幅散布図	101
第19図	石刃打面幅厚散布図	101
第20図	石刃剥離角ヒストグラム	101
第21図	石刃幅厚散布図	101
第22図	ナイフ形石器幅厚散布図	101
第23図	彫刻刀形石器幅厚散布図	101
第24図	ナイフ形石器・彫刻刀形石器基部加工角度ヒストグラム	102
第25図	接合資料6における刃部再生による形態変化	103
第26図	彫刻刀削片の主要剥離面と石器背面・主要剥離面のなす角の補角ヒストグラム	104
第27図	彫刻刀削片の主要剥離面と石器背面・主要剥離面のなす角の補角相間図	104
第28図	彫刻刀形石器の刃部再生工程模式図	104
第29図	接合資料1削片の剥離長幅散布図	107
第30図	接合資料1削片の打面幅厚散布図	107
第31図	接合資料3削片の剥離長幅散布図	107
第32図	接合資料3削片の打面幅厚散布図	107
第33図	接合資料4削片の剥離長幅散布図	107
第34図	接合資料4削片の打面幅厚散布図	107

表 目 次

第1表 周辺の遺跡	3
第2表 グリッド基準杭の国土座標	5
第3表 ブロック毎層位別出土点数	16
第4表 旧石器時代石器組成表	20
第5表 旧石器時代石材組成表	20
第6表 ブロック 3a 石器組成表	22
第7表 ブロック 3a 石材組成表	22
第8表 ブロック 3b 石器組成表	23
第9表 ブロック 3b 石材組成表	23
第10表 ブロック 4 石器組成表	24
第11表 ブロック 4 石材組成表	24
第12表 ブロック 5 石器組成表	26
第13表 ブロック 5 石材組成表	26
第14表 ブロック 7a 石器組成表	28
第15表 ブロック 7a 石材組成表	28
第16表 ブロック 7b 石器組成表	29
第17表 ブロック 7b 石材組成表	29
第18表 ブロック 8 石器組成表	31
第19表 ブロック 8 石材組成表	31
第20表 旧石器時代の各母岩の特徴	33
第21表 旧石器時代各母岩の石器点数と分類	34
第22表 旧石器時代各母岩のブロック別出土点数	34
第23表 ブロック 3a・3b ふるい選別資料出土点数	37
第24表 ブロック 5 ふるい選別資料出土点数	38
第25表 ブロック 3a 出土石器観察表(1)	39
第26表 ブロック 3a 出土石器観察表(2)	40
第27表 ブロック 3b 出土石器観察表(1)	40
第28表 ブロック 3b 出土石器観察表(2)	41
第29表 ブロック 4 出土石器観察表	41
第30表 ブロック 5 出土石器観察表(1)	42
第31表 ブロック 5 出土石器観察表(2)	43
第32表 ブロック 5 出土石器観察表(3)	44
第33表 ブロック 7a 出土石器観察表(1)	44
第34表 ブロック 7a 出土石器観察表(2)	45
第35表 ブロック 7a 出土石器観察表(3)	46

第36表 ブロック7b出土石器観察表	46
第37表 ブロック8出土石器観察表	46
第38表 ブロック外出土石器観察表	47
第39表 ナイフ形石器観察表	47
第40表 彫刻刀形石器観察表(1)	48
第41表 彫刻刀形石器観察表(2)	49
第42表 石刃観察表	50
第43表 純文時代草創期石器組成表	53
第44表 純文時代草創期石材組成表	53
第45表 ブロック1石器組成表	53
第46表 ブロック1石材組成表	53
第47表 ブロック6石器組成表	54
第48表 ブロック6石材組成表	54
第49表 ブロック9石器組成表	54
第50表 ブロック9石材組成表	54
第51表 ブロック10石器組成表	54
第52表 ブロック10・11石材組成表	54
第53表 ブロック11石器組成表	54
第54表 純文時代草創期の各母岩の特徴	56
第55表 純文時代草創期各母岩の石器点数と分類	56
第56表 純文時代草創期各母岩のブロック別出土点数	56
第57表 ブロック1出土石器観察表(1)	61
第58表 ブロック1出土石器観察表(2)	62
第59表 ブロック1出土石器観察表(3)	63
第60表 ブロック1出土石器観察表(4)	64
第61表 ブロック1出土石器観察表(5)	65
第62表 ブロック1出土石器観察表(6)	66
第63表 ブロック1出土石器観察表(7)	67
第64表 ブロック1出土石器観察表(8)	68
第65表 ブロック1出土石器観察表(9)	69
第66表 ブロック1出土石器観察表(10)	70
第67表 ブロック1出土石器観察表(11)	71
第68表 ブロック6出土石器観察表	72
第69表 ブロック9出土石器観察表(1)	73
第70表 ブロック9出土石器観察表(2)	74
第71表 ブロック10出土石器観察表	75
第72表 ブロック11出土石器観察表	75
第73表 接合資料1剥片観察表	75

第74表	接合資料2 刺片観察表	75
第75表	接合資料3 刺片観察表	76
第76表	接合資料4 刺片観察表	76
第77表	接合資料7 刺片観察表	76
第78表	接合資料8 刺片観察表	76
第79表	不定形石器細分基準	83
第80表	縄文時代の石器、器種・石材組成表	84
第81表	縄文土器観察表	89
第82表	縄文時代の石器観察表1)	90
第83表	縄文時代の石器観察表2)	91
第84表	歴史時代の土坑観察表	97
第85表	樹種同定結果	99
第86表	放射性炭素年代測定の試料と方法	99
第87表	放射性炭素年代測定結果	99
第88表	完形石刃の形態分類	99
第89表	彫刻刀面刃部再生時の削片の数と割合	105

図 版 目 次

図 面

巻頭カラー図版 旧石器時代のナイフ形石器・彫刻刀形石器 縄文時代草創期の尖頭器・接合資料

図版1 阿賀野川サービスエリア予定地内発掘調査範囲図

図版2 遺跡全体図(1)

図版3 遺跡全体図(2)

図版4 旧石器時代・縄文時代草創期発掘調査区図

図版5 ブロック3a遺物分布図

図版6 ブロック3b遺物分布図

図版7 ブロック4遺物分布図

図版8 ブロック5遺物分布図

図版9 ブロック7a遺物分布図

図版10 ブロック7b遺物分布図

図版11 ブロック8遺物分布図

図版12 ブロック3a出土石器実測図

図版13 ブロック3a出土石器実測図

図版14 ブロック3a出土石器実測図

図版15 ブロック3a出土石器実測図

図版16 ブロック3a・3b出土石器実測図

図版17 ブロック3b出土石器実測図

- 図版18 ブロック4出土石器実測図
図版19 ブロック4・5出土石器実測図
図版20 ブロック5出土石器実測図
図版21 ブロック5出土石器実測図
図版22 ブロック5出土石器実測図
図版23 ブロック5・7a出土石器実測図
図版24 ブロック7a出土石器実測図
図版25 ブロック7a出土石器実測図
図版26 ブロック7a・7b出土石器実測図
図版27 ブロック7b出土石器実測図
図版28 ブロック8出土石器実測図
図版29 ブロック8・ブロック外出土石器実測図
図版30 ブロック外出土・表面採集石器実測図
図版31 表面採集石器・接合資料実測図
図版32 接合資料実測図
図版33 接合資料実測図
図版34 接合資料実測図
図版35 接合資料実測図
図版36 旧石器時代母岩1～6遺物分布図
図版37 旧石器時代母岩7～12遺物分布図
図版38 旧石器時代母岩13～18遺物分布図
図版39 旧石器時代母岩19～24遺物分布図
図版40 旧石器時代母岩25～30遺物分布図
図版41 旧石器時代母岩31～35・単独母岩遺物分布図
図版42 ブロック1遺物分布図
図版43 ブロック6遺物分布図
図版44 ブロック9遺物分布図
図版45 ブロック10・11遺物分布図
図版46 繩文草創期の石器実測図
図版47 繩文草創期の石器実測図
図版48 繩文草創期の石器実測図
図版49 繩文時代草創期母岩1遺物分布図
図版50 繩文時代草創期母岩2・3遺物分布図
図版51 繩文時代草創期母岩4遺物分布図
図版52 繩文時代草創期母岩5遺物分布図
図版53 繩文時代草創期母岩6～10遺物分布図
図版54 繩文時代草創期接合資料1模式図
図版55 繩文時代草創期接合資料1実測図

- 図版56 縄文時代草創期接合資料 1 石器実測図
図版57 縄文時代草創期接合資料 1 石器実測図
図版58 縄文時代草創期接合資料 1 石器実測図
図版59 縄文時代草創期接合資料 1 石器実測図
図版60 縄文時代草創期接合資料 1 石器実測図
図版61 縄文時代草創期母岩 1 石器実測図
図版62 縄文時代草創期接合資料 2 実測図
図版63 縄文時代草創期接合資料 2 個体 1 実測図
図版64 縄文時代草創期接合資料 2 個体 1 石器実測図
図版65 縄文時代草創期接合資料 2 個体 2 実測図
図版66 縄文時代草創期接合資料 3 実測図
図版67 縄文時代草創期接合資料 3 模式図
図版68 縄文時代草創期接合資料 3 石器実測図
図版69 縄文時代草創期接合資料 3 石器実測図
図版70 縄文時代草創期接合資料 3 石器実測図
図版71 縄文時代草創期接合資料 4 実測図
図版72 縄文時代草創期接合資料 4 (その 1) 実測図
図版73 縄文時代草創期接合資料 4 (その 1) 模式図
図版74 縄文時代草創期接合資料 4 (その 2) 実測図
図版75 縄文時代草創期接合資料 4 (その 2) 模式図
図版76 縄文時代草創期接合資料 4 石器実測図
図版77 縄文時代草創期接合資料 4 石器実測図
図版78 縄文時代草創期接合資料 4 石器実測図
図版79 縄文時代草創期接合資料 4・母岩 4 石器実測図
図版80 縄文時代草創期接合資料 5 実測図
図版81 縄文時代草創期接合資料 5 個体 1 実測図
図版82 縄文時代草創期接合資料 5 個体 1 石器実測図
図版83 縄文時代草創期接合資料 5 個体 2 実測図
図版84 縄文時代草創期接合資料 5 個体 2 石器実測図
図版85 縄文時代草創期接合資料 5 個体 2・接合資料 6 実測図
図版86 縄文時代草創期母岩 5・6 石器実測図
図版87 縄文時代草創期接合資料 7 実測図
図版88 縄文時代草創期接合資料 8 実測図
図版89 縄文時代草創期母岩外石刃・制片実測図
図版90 縄文時代の遺物分布図
図版91 縄文時代の遺構実測図
図版92 縄文土器実測図・拓本
図版93 縄文土器実測図・拓本

- 図版94 縄文土器実測図・拓本
図版95 縄文時代の石器実測図(西地区)
図版96 縄文時代の石器実測図(西地区)
図版97 縄文時代の石器実測図(西地区)
図版98 縄文時代の石器実測図(西地区)
図版99 縄文時代の石器実測図(西地区)
図版100 縄文時代の石器実測図(西地区)
図版101 縄文時代の石器実測図(西地区)
図版102 縄文時代の石器実測図(西地区)
図版103 縄文時代の石器実測図(西地区・東地区)
図版104 縄文時代の石器実測図(東地区)
図版105 縄文時代の石器実測図(東地区)
図版106 縄文時代の石器実測図(東地区)
図版107 縄文時代の石器実測図(東地区)
図版108 縄文時代の石器実測図(東地区)・歴史時代の砥石実測図
図版109 歴史時代の土坑実測図
図版110 歴史時代の土坑実測図
図版111 歴史時代の土塹実測図
図版112 歴史時代の土塹実測図
図版113 歴史時代の土坑実測図
図版114 ピット実測図

写 真

- 図版115 1. 遺跡遺景 2. 遺跡遺景 3. 上ノ平遺跡 C 地点遺景 4. 吉ヶ沢遺跡 B 地点遺景
図版116 1. 遺跡空撮写真 2. 遺跡遺景 3. ブロック 3a・3b 遺物出土状況 4. 基本層序
5. 彫刻刀形石器出土状況 6. ブロック 5 遺物出土状況 7. ブロック 5 遺物出土状況
図版117 1. ブロック 4 遺物出土状況 2. ブロック 7a 遺物出土状況 3. ブロック 7b 遺物出土状況
図版118 1. 彫刻刀形石器出土状況 2. ブロック 8 遺物出土状況 3. 石刀出土状況 4. 東地区完掘状況
図版119 1. ブロック 1 IIa層遺物出土状況 2. ブロック 1 遺物出土状況 3. ブロック 1 遺物出土状況
図版120 1. ブロック 1 潜伏器出土状況 2. ブロック 6 遺物出土状況 3. ブロック 9 遺物出土状況
4. ブロック 6 尖頭器出土状況
図版121 1. 西地区縄文時代の遺物出土状況 2. 西地区縄文時代の遺物出土状況
3. 西地区南斜面遺物出土状況 4. 西地区南斜面遺物出土状況
図版122 1. SI1 桿出状況 2. SI1 完掘状況 3. SI1 土壙断面 4. SI1 Pit 1 断面
5. SI Pit 2 断面 6. SI Pit 3 断面
図版123 1. Pit 15土器出土状況 2. 東地区折線式土器出土状況 3. 1号集石遺構 4. 2号集石遺構
5. 3号集石遺構

- 図版124 1. SK 1 土層完掘 2. SK 1 土層断面 3. SK 2 完掘 4. SK 2 土層断面 5. SK 4 完掘
6. SK 4 土層断面 7. SK 6 完掘 8. SK 6 土層断面 9. SK 7 完掘 10. SK 7 土層断面
- 図版125 1. SK 14 完掘 2. SK 14 土層断面 3. SK 17 完掘 4. SK 17 土層断面 5. SK 18 完掘
6. SK 18 土層断面 7. SK 21 完掘 8. SK 21 土層断面 9. SK 24 完掘 10. SK 24 土層断面
- 図版126 1. SK 20 完掘 2. SK 20 土層断面 3. SK 22 完掘 4. SK 22 土層断面 5. SK 25 完掘
6. SK 23 土層断面 7. SK 25 完掘 8. SK 25 土層断面 9. SK 19 完掘 10. SK 19 土層断面
- 図版127 1. SK 26 完掘 2. SK 26 土層断面 3. SK 28 完掘 4. SK 28 土層断面 5. SK 32 完掘
6. SK 32 土層断面 7. SK 29 完掘 8. SK 29 土層断面 9. SK 37 完掘 10. SK 37 土層断面
- 図版128 1. SK 50 完掘 2. SK 50 土層断面 3. SK 30 完掘 4. SK 30 土層断面 5. SK 51 完掘
6. SK 51 土層断面 7. SK 52 完掘 8. SK 52 土層断面 9. SK 31 完掘 10. SK 31 土層断面
- 図版129 1. SK 33 完掘 2. SK 33 土層断面 3. SK 34 完掘 4. SK 34 土層断面 5. SK 35 完掘
6. SK 35 土層断面 7. SK 38 完掘 8. SK 38 土層断面 9. SK 39 完掘 10. SK 39 土層断面
- 図版130 1. SK 41 完掘 2. SK 41 土層断面 3. SK 42 完掘 4. SK 42 土層断面 5. SK 43 完掘
6. SK 43 土層断面 7. SK 46 完掘 8. SK 46 土層断面 9. SK 44 完掘 10. SK 44 土層断面
- 図版131 1. SK 45 完掘 2. SK 45 土層断面 3. Pit 1 完掘 4. Pit 1 土層断面 5. Pit 2 完掘
6. Pit 2 土層断面 7. Pit 4 完掘 8. Pit 4 土層断面 9. Pit 9 完掘 10. Pit 9 土層断面
- 図版132 ブロック 3a 出土石器
- 図版133 ブロック 3a 出土石器
- 図版134 ブロック 3a 出土石器・ブロック 3b 出土石器
- 図版135 ブロック 3b 出土石器・ブロック 4 出土石器
- 図版136 ブロック 4 出土石器・ブロック 5 出土石器
- 図版137 ブロック 5 出土石器
- 図版138 ブロック 5 出土石器
- 図版139 ブロック 5 出土石器・ブロック 7a 出土石器
- 図版140 ブロック 7a 出土石器
- 図版141 ブロック 7a 出土石器・ブロック 7b 出土石器
- 図版142 ブロック 7b 出土石器・ブロック 8 出土石器
- 図版143 ブロック外出土石器・表面採集石器
- 図版144 表面採集石器・接合資料1・接合資料2・接合資料3
- 図版145 接合資料4・接合資料5・接合資料6・接合資料7
- 図版146 接合資料8・接合資料9・接合資料10・接合資料11・接合資料12
- 図版147 繩文時代草創期のトゥール
- 図版148 繩文時代草創期のトゥール・石核
- 図版149 繩文時代草創期接合資料1
- 図版150 繩文時代草創期接合資料1
- 図版151 繩文時代草創期接合資料1
- 図版152 繩文時代草創期接合資料1
- 図版153 繩文時代草創期接合資料1・母岩1

- 図版154 縄文時代草創期母岩 1・接合資料 2・接合資料 2 個体 1
- 図版155 縄文時代草創期接合資料 2 個体 1・接合資料 2 個体 2・母岩 2
- 図版156 縄文時代草創期接合資料 3
- 図版157 縄文時代草創期接合資料 3・母岩 3
- 図版158 縄文時代草創期接合資料 4
- 図版159 縄文時代草創期接合資料 4
- 図版160 縄文時代草創期接合資料 4
- 図版161 縄文時代草創期接合資料 4・母岩 4
- 図版162 縄文時代草創期接合資料 5・接合資料 5 個体 1
- 図版163 縄文時代草創期接合資料 5・接合資料 5 個体 2
- 図版164 縄文時代草創期接合資料 5 個体 2・接合資料 6・母岩 5・母岩 6
- 図版165 縄文時代草創期接合資料 7・母岩 7・接合資料 8・母岩外
- 図版166 縄文時代草創期母岩外・縄文時代の石器(西地区)
- 図版167 縄文土器
- 図版168 縄文土器
- 図版169 縄文時代の石器(西地区)
- 図版170 縄文時代の石器(西地区)
- 図版171 縄文時代の石器(西地区)
- 図版172 縄文時代の石器(西地区)
- 図版173 縄文時代の石器(西地区・東地区)
- 図版174 縄文時代の石器(東地区)
- 図版175 縄文時代の石器(東地区)
- 図版176 縄文時代の石器(東地区)・歴史時代の砥石
- 図版177 上ノ平遺跡 C 地点出土炭化材の顕微鏡写真

第Ⅰ章 序 言

磐越自動車道は福島県いわき市を起点として常磐自動車道から分岐し、郡山市で東北縦貫自動車道と連結、さらに会津若松市を経て新潟市で北陸自動車道と結ばれる総延長212kmの高速道路である。この高速道路の完成によって、阿武隈山系および奥羽山脈を越え太平洋側と日本海側の生活圏が直結されることにより、沿線地域の産業、経済、文化の交流が促進されることが期待されている。

1 調査に至る経緯

磐越自動車道の新潟～津川間は昭和53年12月に基本計画が決定され、昭和57年1月に建設大臣から日本道路公团新潟建設局(以下道路公团)に調査の開始指示が出された。昭和59年8月道路公团は新潟県教育委員会(以下県教委)に対して、新潟～津川間の計画路線内およびその周辺の分布調査を依頼した。県教委はこれを受けて、同年10月に周知の遺跡の分布調査結果および平野部や段丘上には未周知の遺跡が存在する可能性があり、引き続いて分布調査および第1次調査を実施する必要性があることを回答した。

昭和60年2月には、新潟～津川間の工事施工令が、建設大臣から道路公团に出された。道路公团は、県教委の行った分布調査の結果を考慮して、法線の再検討を行い、赤坂山遺跡をはずすなど、路線の計画変更を行っている。同年3月には新津～安田間、11月には安田～津川間、翌年8月には新潟～新津間の最終的な路線を発表した。

これに伴い、埋蔵文化財遺跡分布調査が昭和62年11月24～27日に県教委によって実施された。この時点では阿賀野川サービスエリア¹⁾(以下阿賀野川SA)予定地内では遺物は発見できなかったが、地形上遺跡の存在する可能性があるので、第1次調査を行う必要がある旨を道路公团に伝えた。その後、平成元年3月6～7日に磐越自動車道津川工事事務所管内発掘予定地の踏査が行われた。当時の上ノ平遺跡の状況は畠地および杉の植林地で遺物は採集できなかったが、踏査の結果この遺跡は阿賀野川の河岸段丘上に立地し、より上流部ではこうした河岸段丘面上に多くの縄文時代の遺跡が立地しており、ここでも遺跡の存在する可能性があること、そして何より、小林弘氏、高橋春栄氏らの研究者によって阿賀野川SA予定地内およびその周辺で旧石器時代の遺物が採集されていることから[小林・高橋1988]、今後第1次調査を行うという方針をもって、道路公團と協議を行った。

これらのことを受け、平成2年11月19日～12月7日には阿賀野川SA予定地内の第1次調査が実施された。その結果、円形土坑などの遺構や磨石類、剣片などの遺物が得られた。このことから、東西に走る谷の北側の段丘面を上ノ平遺跡(A・B・C地点)、南側の段丘面を吉ヶ沢遺跡(A・B地点)と命名した。

1) 上ノ平遺跡 A 地点の報告書では三川サービスエリアとしていたが、その後阿賀野川サービスエリアに名称が変更された。

第Ⅱ章 遺跡の環境

遺跡周辺の環境については、すでに上ノ平遺跡A地点(以下A地点)の報告書で詳述した(沢田ほか1994)。したがって、重複を避けるため本報告書ではA地点報告書刊行以降に調査が行われた周辺の旧石器時代、縄文時代の遺跡についてのみ述べることにする。

1 旧石器時代

安田町上野林1遺跡は1992年に安田町教育委員会によって発掘調査が行われ、台形様石器、石核、剥片などが出土した。石器群の内容から始島Ta火山灰降灰以前の石器群と考えられる(田中・増子ほか1994)。同じ安田町の円山遺跡では財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団(以下埋文事業団)が北陸自動車道建設のための土取りに伴い発掘調査を行い、東山型ナイフ形石器、エンドスクレイバーなどを組成するいわゆる東山石器群を調査した(高橋1995)。

2. 縄文時代

磐越自動車道建設に伴い、阿賀野川中流域で数多くの縄文時代の遺跡が調査された。

三川村蟹沢・上城遺跡は平成5年度に発掘調査が行われ、密度はあまり高くはなかったものの、縄文時代後期の南三十塙式期の遺構、遺物が得られた(佐藤ほか1995)。同村牧ノ沢遺跡も平成5年度に発掘調査が行われ、土坑2基や縄文土器が得られた(宍沢ほか1995)。津川町大坂上道遺跡、猿額遺跡、中棚遺跡は平成4・5年度に調査が行われ、前期末・中期前葉、後期中葉を中心に遺構、遺物が出土した(宍沢ほか1995)。特に、猿額遺跡では前期末葉の大木5~6式の土器が比較的まとまって出土した。

上川村北野遺跡は沼沢火山の噴火に伴うと考えられる洪积層(以下沼沢火山灰層)の上下から遺構、遺物が出土した(高橋1995)。上層からは中期末~後期初頭の集落跡、中期前葉、中葉の住居跡、フ拉斯コ状土坑群が検出され、下層からは前期末の集落跡、早期後半の土器などが出土した。遺構、遺物の密度の高さから、上層、下層ともに当該期、当地域における拠点的集落であった可能性が高い。同村七堀道下遺跡は平成6年度に埋文事業団によって発掘調査が行われ、やはり沼沢火山灰層の上下から遺構、遺物が出土した。上層からは中期前葉、末、後期中葉の土器、石器が出土し、下層からは土器は出土しなかったものの、18点の石器が出土した(坂坂1994)。同村上小島遺跡は平成7年度に埋文事業団によって発掘調査が行われ、縄文時代早期を中心とした遺構、遺物が得られた。

同村キンカ杉遺跡は平成5・6年度に村教育委員会によって発掘調査が行われ、中期中葉のフ拉斯コ状土坑群と多量の遺物が得られたという。同村大谷原遺跡は平成6・7年に村教育委員会によって発掘調査が行われ早期中葉、中期初頭の遺構、遺物が得られた。特に、早期中葉は竪穴住居跡、土坑などが検出された。



No.	地名	時期(植物)	No.	地名	時期(植物)	No.	地名	時期(植物)	No.	地名	時期(植物)
1	上小山中 橋	文 化	2	花 田平	嘉 慶	3	上野林 F 橋	文 政	4	名 山園	文 治
2	金タツ沢 駅	文 化	3	家 浦 A	安 政	5	上野林 G 橋	文 政	6	山 園	文 政
3	鶴 堀 堂	文 化	4	家 浦 B	文 明	7	田 畠新 橋	文 政	8	山 園	文 政
4	大 室 堂	文 化	5	御 堂	文 明	9	中 圣 子 橋	文 政	10	下 福	文 政
5	下 足 日 石 井 河	文 明	6	成 田 屋	文 明	11	風 敷	文 政	12	下 福	文 政
6	下 足 日 石 井 河	文 明	7	成 田 屋 A	文 明	13	風 敷	文 政	14	竹 林	文 政
7	下 足 日 石 井 河	文 明	8	成 田 屋 B	文 明	15	五 輪 院 院	文 政	16	小 葉 林	文 政
8	下 足 日 石 井 河	文 明	9	成 田 屋 C	文 明	17	稻 荷	文 政	18	小 葉 林	文 政
9	大 京 坂 下 坂 久 中 間	文 明	10	家 浦 D	文 明	19	山 園	文 政	20	稻 荷	文 政
10	山 王 坂	文 明	11	小 山 坂	文 明	21	中 山 坂	文 明	22	木 林	文 明
11	王 子 坂 又 前 坂	文 明	12	坂 坂 坂 坂	文 明	23	中 山 坂	文 明	24	中 山 坂	文 明
13	十二 神	文 明	14	赤 坂	文 明	25	中 山 坂	文 明	26	中 山 坂	文 明
15	貝 塚 平 塚 久 中 間	文 明	16	赤 坂	文 明	27	中 山 坂	文 明	28	中 山 坂	文 明
16	赤 坂	文 明	17	赤 坂	文 明	29	中 山 坂	文 明	30	中 山 坂	文 明
17	村 野 野	文 明	18	赤 坂	文 明	31	中 山 坂	文 明	32	中 山 坂	文 明
19	赤 坂	文 明	20	赤 坂	文 明	33	中 山 坂	文 明	34	中 山 坂	文 明
21	上 ノ 山	文 明	22	上 野 佐 野	文 明	35	中 山 坂	文 明	36	中 山 坂	文 明
23	内 川	文 明	24	上 野 佐 野 A	文 明	37	中 山 坂	文 明	38	中 山 坂	文 明
25	内 川	文 明	26	上 野 佐 野 B	文 明	39	中 山 坂	文 明	40	中 山 坂	文 明
27	赤 坂	文 明	41	中 山 坂	文 明	42	中 山 坂	文 明	43	中 山 坂	文 明
28	赤 坂	文 明	44	中 山 坂	文 明	45	中 山 坂	文 明	46	中 山 坂	文 明
29	赤 坂	文 明	47	中 山 坂	文 明	48	中 山 坂	文 明	49	中 山 坂	文 明
30	赤 坂	文 明	50	中 山 坂	文 明	51	中 山 坂	文 明	52	中 山 坂	文 明
31	赤 坂	文 明	53	中 山 坂	文 明	54	中 山 坂	文 明	55	中 山 坂	文 明
32	赤 坂	文 明	56	中 山 坂	文 明	57	中 山 坂	文 明	58	中 山 坂	文 明
33	赤 坂	文 明	59	中 山 坂	文 明	60	中 山 坂	文 明	61	中 山 坂	文 明
34	赤 坂	文 明	62	中 山 坂	文 明	63	中 山 坂	文 明	64	中 山 坂	文 明
35	赤 坂	文 明	65	中 山 坂	文 明	66	中 山 坂	文 明	67	中 山 坂	文 明
36	赤 坂	文 明	68	中 山 坂	文 明	69	中 山 坂	文 明	70	中 山 坂	文 明
37	赤 坂	文 明	71	中 山 坂	文 明	72	中 山 坂	文 明	73	中 山 坂	文 明
38	赤 坂	文 明	74	中 山 坂	文 明	75	中 山 坂	文 明	76	中 山 坂	文 明
39	赤 坂	文 明	77	中 山 坂	文 明	78	中 山 坂	文 明	79	中 山 坂	文 明
40	赤 坂	文 明	80	中 山 坂	文 明	81	中 山 坂	文 明	82	中 山 坂	文 明
41	赤 坂	文 明	83	中 山 坂	文 明	84	中 山 坂	文 明	85	中 山 坂	文 明
42	赤 坂	文 明	86	中 山 坂	文 明	87	中 山 坂	文 明	88	中 山 坂	文 明
43	赤 坂	文 明	89	中 山 坂	文 明	90	中 山 坂	文 明	91	中 山 坂	文 明
44	赤 坂	文 明	92	中 山 坂	文 明	93	中 山 坂	文 明	94	中 山 坂	文 明
45	赤 坂	文 明	95	中 山 坂	文 明	96	中 山 坂	文 明	97	中 山 坂	文 明
46	赤 坂	文 明	98	中 山 坂	文 明	99	中 山 坂	文 明	100	中 山 坂	文 明
47	赤 坂	文 明	101	中 山 坂	文 明	102	中 山 坂	文 明	103	中 山 坂	文 明
48	赤 坂	文 明	104	中 山 坂	文 明	105	中 山 坂	文 明	106	中 山 坂	文 明
49	赤 坂	文 明	107	中 山 坂	文 明	108	中 山 坂	文 明	109	中 山 坂	文 明
50	赤 坂	文 明	110	中 山 坂	文 明	111	中 山 坂	文 明	112	中 山 坂	文 明
51	赤 坂	文 明	113	中 山 坂	文 明	114	中 山 坂	文 明	115	中 山 坂	文 明

第1図・第1表 周辺の遺跡
(国土地理院発行 平成3年「新津」平成4年「津川」1:50,000原図)

第Ⅲ章 調査の概要

既に述べたように阿賀野川SA予定地内の第1次調査は平成2年に行われた。この結果を受けて、平成3年に第2次調査を行ったが、この調査により上ノ平遺跡C地点、吉ヶ沢遺跡B地点の調査範囲が大きく拡大することになり、平成4・5年に継続して調査が行われた。この時の範囲拡大の経緯は上ノ平遺跡A地点の報告書に詳しく述べられている。ここでは平成3年以降の調査を第2次調査として、A地点報告書との重複を避けるため、第2次調査については平成4年以降の調査を中心に説明する。

1 第1次調査

A 調査方法

調査対象面積は56,400m²で、対象範囲の全面に対して調査を行った。この時点では遺跡の状況は畠地と山林だったので、調査は畠地についてはバックホーを用いて、山林は人力で行った。トレンチはバックホーが2×5m、人力掘削が1×1mで183か所を任意に設定した。確認調査面積は上段で723m²であった。

B 調査経過

5か所のトレンチから遺構が検出され、21か所のトレンチから剝片などの石器を中心とした遺物が出土した。この結果から、東西に走る谷の北側では段丘面東端の10,300m²、段丘面中央の1,020m²、段丘西端の900m²で第2次調査が必要と判断され、それぞれ上ノ平遺跡A地点・B地点・C地点と命名された。谷の南側では段丘面東端の800m²、段丘面西端900m²で第2次調査が必要とされ、それぞれ吉ヶ沢遺跡A地点・B地点と命名された。

C 調査体制

調査主体	新潟県教育委員会(教育長 堀川徹夫)		
管 理	大島圭己 (新潟県教育庁文化行政課長)		
	吉倉長幸	(✿ 課長補佐)
指 導	横山勝栄	(✿ 埋蔵文化財第1係長)
	本間信昭	(✿ 埋蔵文化財第2係長)
庶 務	藤田守彦	(✿ 主事)
担 当	山本 雄	(✿ 主任)
	藤巻正信	(✿ 主任)
	関 洋介	(✿ 文化財専門員)

2 第2次調査

A 調査方法

(1) グリッドの設定

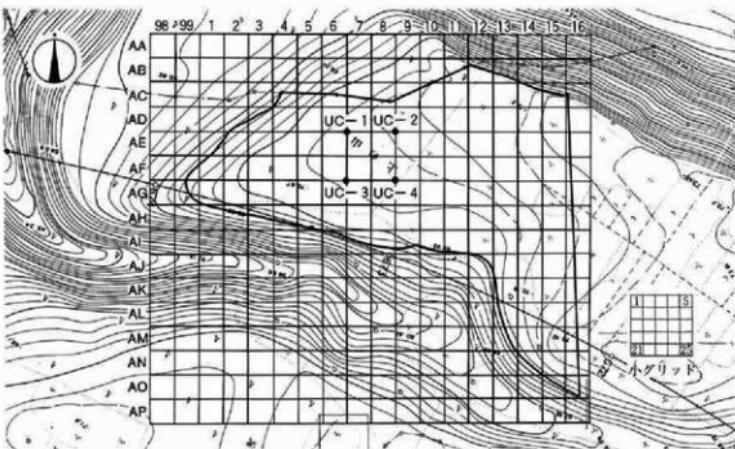
平成3年の発掘調査で範囲を大幅に拡張する必要があることが判明したため、平成4年度の発掘調査では範囲の拡大に伴いグリッド名称を大きく変更した。グリッド名称変更の経緯については既にA地点報告書の中で触れられているが、重要事項であると思われる所以ここでもう一度説明することにする。

グリッドの基点となるのは平成3年に設定されたUC-1～4であり、その国土座標上の位置は第2表に示したとおりである。グリッドの基準線はUC-1～4をそれぞれ結んで延長したものであり、真の東西南北方向に合わせてある。10mグリッドを大グリッドとし、平成3年度は北から南へローマ数字でI、II、III……とあらわし、西から東へアルファベットでA、B、C……とあらわした。それぞれ、UC-1はM-I、UC-2はO-II、UC-3はM-III、UC-4はO-IVになった。大グリッドはさらに5行5列に25の小グリッドに分割され、西から東、北から南に向かって1、2、3……23、24、25と呼称した。したがって、北西隅が1、北東隅が5、南西隅が21、南東隅が25である。小グリッドまでの呼称はA-II-5のようになる。

平成4年度の調査では発掘区を拡張する必要が出てきたため、グリッドの呼称方法も見直すこととした。

第2表 グリッド基準杭の国土座標

旧 杭 名	新 杭 名	国 土 座 標
UC-1	AE 7	(192882, 545, 72302, 366)
UC-2	AE 9	(192882, 545, 72322, 366)
UC-3	AG 7	(192862, 545, 72302, 366)
UC-4	AG 9	(192862, 545, 72322, 366)



第2図 グリッド設定図

グリッドの基点と基準線は平成3年度のものをそのまま継承し、北から南へアルファベットで AA、AB ……AZ、BA、BB……と、西から東へアラビア数字で1、2、3……とあらわした。そして、A 地点と C 地点を同一座標上で調査できるように、UC-1 (M-V) を AE 7、UC-2 (O-V) を AE 9、UC-3 (M-V) を AG 7、UC-4 (O-V) を AG 9 とした。平成3年と同様に、大グリッドはさらに5行5列に25の小グリッドに分割され、西から東、北から南に向かって1、2、3……23、24、25と呼称した。したがって、北西隅が1、北東隅が5、南西隅が21、南東隅が25である。小グリッドまでの呼称は AE 9-15 のようになる。

(2) 調査方法

まず、表土除去をバックホーを用いて行ったが、第1次調査によって遺物集中地点のあることがわかっている範囲については人力で表土除去を行った。表土除去の後、南北基準線の10・12ライン、東西基準線のAGラインに土層観察用のベルトを残して人力で包含層除去を行った。この時点ですでに判明していた遺物集中地点の範囲についてはより詳細な調査が必要なため、包含層除去の範囲から除外した。また、包含層除去で旧石器時代の遺物が複数出土した範囲についても遺物集中地点の可能性があるため、その時点でも包含層除去をやめた。

遺構検出は基本層のIIb層の上面とIII層の上面で包含層除去と並行して行った。上ノ平遺跡C地点で検出されることが予想された遺構の多くは、歴史時代の焼土坑で縄文時代の包含層であるIIa層を切って掘り込まれており、本来遺構検出はIIa層上面で行う必要がある。しかし、IIa層上面で遺構を検出して調査したA地点での調査成果から、①遺構密度が低い、②IIa層上面から掘り込まれている焼土坑は焼け面の存在、埋土の特徴から明らかに縄文時代以前の遺構と区別できる、③焼土坑の埋土上層から遺物が出土した例がない、ことが判明していたのでIIb層以下で遺構確認を行った。したがって、縄文時代の遺構と歴史時代の焼土坑を同一確認面上で調査したことになる。確認した遺構は全て半裁、土層断面写真撮影・実測、完掘、完掘写真撮影・実測を行った。ただし、集石遺構は写真撮影・平面図作成の後、半裁、土層断面写真撮影・実測を行った。実測は、集石遺構の平面図、断面図を1/10、それ以外の遺構は1/20で行った。

旧石器時代、縄文時代草創期の遺物集中地点の発掘は移植ごて、小ジョレンを用いて行い、可能な限り微細な遺物の検出に努めた。一回の掘り下げは5cmとし、一回ごとに炭化物の集中、焼土や遺構の有無を確認しながら、掘り下げを繰り返した。掘り下げは2回連続して遺物が出土しないことを基準として、やめることにした。結果として、各遺物集中地点とも基本層のV層中位まで掘り下げた。出土遺物は柱で残し、出土状況写真撮影後取り上げた。なお、遺物は集中地点であるないにかかわらず、全て座標、標高、出土層位を台帳に記録して取り上げた。遺物番号は、集中地点出土遺物は集中地点ごとの通し番号、それ以外の遺物はその全体での通し番号とした。なお、調査はほぼ全面同時進行で行ったため、集中地点以外から出土した遺物は10ライン以西(以下西地区)は1からの通し番号、以東(以下東地区)は1001からの通し番号とした。また、ブロック3・5については微細遺物の検出のため、ふるい選別を行った。ふるい選別はブロックの範囲を50cmグリッドに分割し、各グリッドの一回掘り下げ分づつを土嚢袋にサンプリングした後、水洗選別した。したがって、1つの取り上げ単位はおよそ12,500ccである。ふるい選別用土壤サンプルの採取はIII層上面から2回行った。したがって、悉皆採集ではないが、A地点でのふるい選別の結果から、微細遺物の分布等はある程度実態を反映していると考えている。

包含層発掘の終了後、より下層の遺物の有無を確認するため、2×2m(Ⅲ層上面まで)と2×4m(Ⅲ層上面まで)のトレンチを設定し深掘を行った(図版4)。

B 調査経過

平成4・5年の調査について記す。

(1) 平成4年度の調査

調査期間：平成4年4月22日～7月22日

当初、平成4年度の調査はA地点調査班とは別の調査班が行うことになっていたのであるが、遺跡東側の2,500m²について道路公団から工事工程上早期の引き渡しを要請されたので、A地点調査班が同時に並行で行うことになった。

上記の2,500m²について4月22日から表土除去を行い、その後、遺構確認・発掘を行った。この範囲では、土坑9基、ピット4基を検出しこれを調査した。その後、旧石器時代の確認調査を行い、ブロック5を検出した。ブロック5の調査を終了し、平成4年度の調査が終了したのは7月22日であった。

(2) 平成5年の調査

調査期間：平成5年4月12日～8月24日

平成5年の調査は、上ノ平遺跡C地点と中峰遺跡、吉ヶ沢遺跡B地点にそれぞれ別の調査班が入り並行して行う予定であったが、道路公団からの上ノ平遺跡C地点の早期引き渡しの要請により、中峰遺跡の調査終了後、中峰遺跡・吉ヶ沢遺跡B地点の調査班の応援を得て発掘することとなった。

4月12日器材を搬入し、まず表土除去を行った。表土除去は5月7日に終了し、引き続き包含層発掘に入った。5月中旬から中峰遺跡班の作業員も加わり60名を超える作業員で発掘作業を行った。この後、主に発掘区の西地区を本来の上ノ平遺跡C地点調査班が調査を行い、東地区を中峰遺跡・吉ヶ沢遺跡B地点調査班が調査を行った。両地区では主体となる時期が異なるため以下は西地区と東地区に分けて経過を説明する。

西地区では、5月7日から包含層発掘を行った。遺物は主に縄文時代前期末の土器、石器が出土した。また、調査区南側の斜面からも遺物が出土し、ここで予想以上に手間取ってしまった。6月中旬以降、遺構精査・発掘・遺物集中地點の調査を並行して行った。検出された遺構は、歴史時代の焼土坑、縄文時代のピットなどである。また、大型の両面加工尖頭器の存在などから、西地区的ブロックが縄文時代草創期のものであることも明らかとなつた。また、7月に入って、AG5区に焼土をまばらに含む土層が分布していることがわかり、遺構の存在が予想されることから慎重に遺構確認を行い、SI1を検出した。7月中旬以降はブロック1の調査、SI1の調査を行い、また、旧石器時代の深掘トレンチの発掘を行った。

東地区では、5月中旬から包含層発掘を行い、5月下旬から並行して遺構確認・発掘を行った。検出された遺構は、歴史時代の焼土坑、縄文時代の集石遺構などである。また、包含層発掘では縄文時代中期前葉と思われる土器、石器のほかに旧石器時代の遺物が集中して出土する地點があることがわかり、第1次調査で確認されたもの以外にも遺物集中地點があることが判明した。6月下旬から旧石器時代の遺物集中地點の調査に入りブロック8・3・4・7・9の順で調査を行った。調査の結果、ブロック3～8はナイフ形石器をブロック9は尖頭器を出土することが判明した。また、7月上旬以降可能なところから旧石器時代の深掘トレンチの発掘を行った。

以上の経過で発掘調査は進行し、全ての調査が終了したのは8月24日であった。

C 調査体制

(1) 平成4年

調査主体 新潟県教育委員会(教育長 本間栄三郎)
 調査 財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団(理事長 本間栄三郎)
 管理 藍原直木(事務局長)
 波辺耕吉(総務課長)
 茂田井信彦(調査課長)
 指導 戸根与八郎(調査課調査第1係長)
 担当 沢田 敦(専門員)
 職員 中沢 稔(主任)
 関 洋介(専門員)
 飯坂盛泰(専門員)
 山田 昇(嘱託)
 小池右子(嘱託)
 庶務 藤田守彦(総務課主事)

(2) 平成5年

調査主体 新潟県教育委員会(教育長 本間栄三郎)
 調査 財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団(理事長 本間栄三郎)
 管理 藍原直木(事務局長)
 波辺耕吉(総務課長)
 茂田井信彦(調査課長)
 指導 藤巻正信(調査課調査第1係長)
 担当 飯坂盛泰(専門員)
 職員 大川原英智(主任)
 中沢 稔(主任)
 沢田 敦(専門員)
 小池右子(嘱託)
 大杉真実(嘱託)
 庶務 藤田守彦(総務課主事)

3 整理作業

A 方 法

出土遺物の大部分は石器で、旧石器時代・縄文時代草創期のものが多い。石器はまず水洗、注記を行い、

その後、遺物台帳を作成した。この遺物台帳は報告書の観察表になるものでこの時点での決定、分類、計測を行った。作成した台帳はコンピューターに入力し、台帳管理などを行った。実測は旧石器時代、縄文時代草創期のトゥールは全点行うことを原則とし、その他の石刃、剝片、削片や縄文時代の遺物は選んで実測した。実測は、主に作業員が簡易実測器(鈴木・高橋1992)を使用して行ったが、石器の後線、リング、フィッシャーの記入は調査員が行った。石器実測は点数が多かったこともあり最も多くの時間を要した。石器接合は実測と並行して行ったが、特に縄文時代草創期で良好な接合資料が得られたこともあり、この作業に約4ヶ月を費やした。土器は、平箱で約3箱とそれほど多くなかった。接合、復元の後、作業員が実測、採拓したものを調査員が点検・修正した。

図面は台帳作成、点検・修正を行った後、遺跡全図などの作成、トレース、レイアウトを行った。

B 経過と体制

(1) 経過

出土遺物の水洗、注記、図面・写真的整理・台帳作成、遺構カード作成は基本的に発掘調査と並行して行い、残ったものは調査終了後、埋文事業団曾和分室で行った。

本格的に整理作業が始まったのは平成6年12月からである。平成6年12月～平成7年3月までは調査員2名で行ったが、平成4年4月以降は調査員1名で行った。他に、作業員約5名が調査員を補佐した。

まず、平成7年1～2月は遺物台帳作成を主に行い、これと並行して縄文土器の接合、石器実測、石器接合作業を行い、縄文土器接合はこれを終了した。石器接合は主に作業員が中心となって行い、7月までこれを行った。石器実測は作業員が後線を実測し、調査員がチェック、リング・フィッシャー入れを行い、途中5月に調査員が発掘調査に出るなどの中断もあったものの、10月25日にこれを終了した。遺物実測図のトレースは実測作業と並行して8月から11月中旬まで行った。12月以降図版・挿図作成および原稿執筆を行った。

(2) 体制

指導　藤巻正信（調査課調査第1係長）

担当　沢田 敦（　　・　文化財調査員）

職員　山田 昇（　　・　嘱託・平成6年12月～7年3月）

第IV章 遺跡の概要

1 基本層序(第3図)

遺跡の基本層序はA地点と基本的に同じである(沢田ほか1994)。I層は表土で、縄文時代の包含層である。IIa層の堆積は薄く、段丘面上では合わせて30~40cmである。焼土坑がIIa層上面で確認できることから、IIa層の年代的な下限が中世であることがわかる。ただし、IIa層上面は後世の耕作等で削平されている。IIb層はいわゆる漸移層であるが、縄文時代前期末の遺物がIIb層と全く区別できない層から出土した。また、堅穴住居跡であるSI1の埋土もIIb層との識別がきわめて困難であった。こうしたことを考え合わせると、本遺跡では土層の堆積速度が極めて遅いため、黒色土の発達が極端に悪く、縄文時代の包含層であっても褐色を呈しているものと考えられる。したがって、IIb層の年代的な下限は縄文時代前期まで下るものと思われる。

III~V層がいわゆるローム層で層厚は約1mである。縄文時代草創期の遺物は表土からV層にかけて出土し、旧石器時代の遺物は表土からV層にかけて出土した。どちらにも螺群を伴うブロックがなかったため、推定はA地点ほど確実ではないが、遺物の出土状況から縄文時代草創期の生活面はIIb層からIII層にかけて、旧石器時代の生活面はIII層の中にあったと考えている。ただし、両者は地点を越えて出土し、全体に土層の堆積が薄いため層位的な上下の根拠は不十分である。A地点(沢田ほか1994)、吉ヶ沢遺跡B地点(未報告)で火山灰分析を行ったこともあり、本遺跡では火山灰分析は行わなかったが、A地点での分析結果ではV層上部が始良Tn火山灰(AT)、III層上部が浅間一草津黄色軽石(AS-YPk)の降灰層準に推定されている。VI層は砂・岩片混じりのローム層で何らかの水の影響を受けていると思われる。A地点での植物珪酸体分析でVI層から植物珪酸体が全く検出されなかったことから、水成堆積である可能性が高い。VI層以下は砂礫層でこの層以下は明らかに水成層である。

本遺跡のある段丘面上には微小な起伏が認められるがIII層以下のローム層はこの起伏に沿って堆積しているので、これらの起伏が旧石器時代には確実に存在していたことがわかる。

本遺跡の基本層の特徴は以下のとおりである。

I層：表土。

IIa層：黒褐色シルト。層厚約10~30cmで、縄文時代の包含層である。

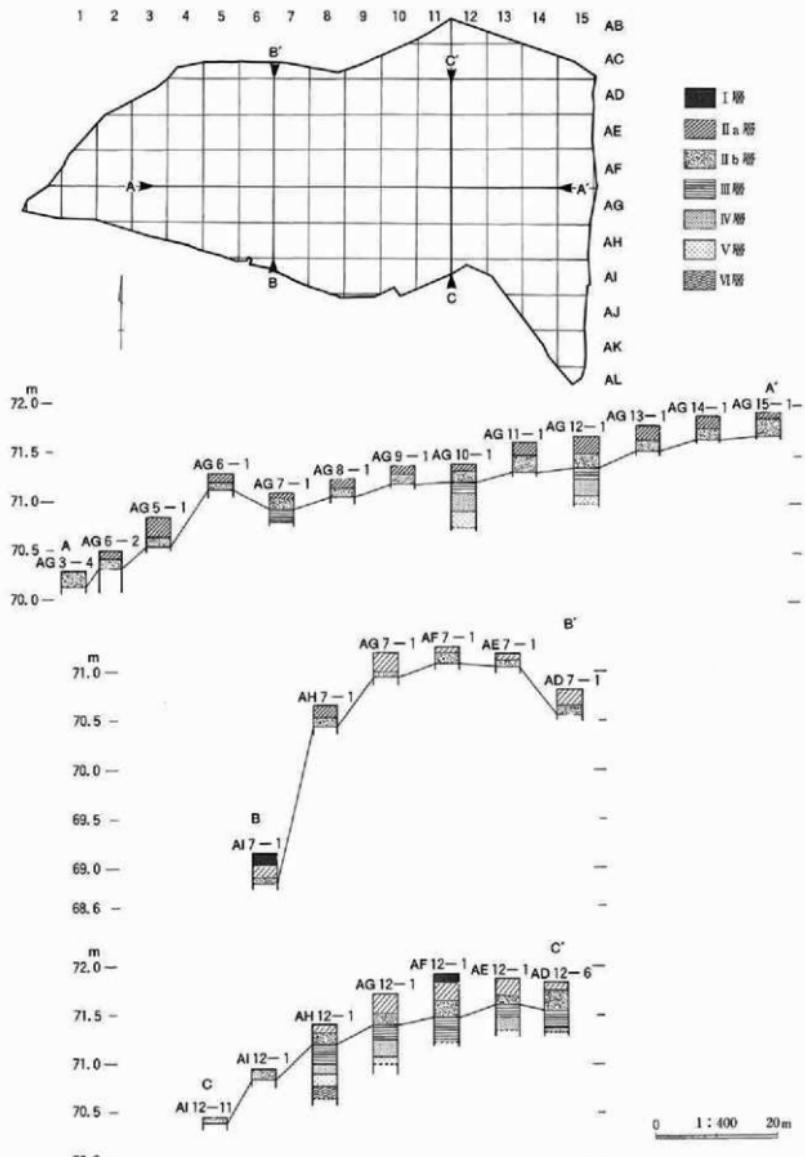
IIb層：褐色粘土。層厚約10~20cmである。黒色土とローム層の漸移層である。

III層：黄褐色粘土。層厚約15cmで、旧石器時代の生活面はこの層の中にあると考えられる。

IV層：明褐色粘土。層厚は約15cmである。ローム層の中では最も粘性が強く、色調が赤みを帯びている。径5mm程度の白色土粒を含む。

V層：明褐色粘土で層厚約15cm。IV・VI層よりも淡い色調を呈し、白色土粒の含有量も少ない。A地点での火山灰分析の結果によれば本層上部が始良Tn火山灰(AT)の降灰層準である。

VI層：明黄褐色粘土。しまりはローム層中で最も強い。径1cm以下の岩片を含む。層厚は30cm程度で、A地点に比べると薄い。



第3図 土層柱状図

2 遺跡の概要

上ノ平遺跡C地点では旧石器時代の遺物集中地点7か所、縄文時代草創期の遺物集中地点5か所、縄文時代の竪穴住居跡1棟、ピット1基、集石遺構3基、歴史時代のものと思われる土坑47基、その他の遺構14基を検出した。遺物は旧石器時代の石器、礫など694点、縄文時代草創期の石器、礫など924点、草創期以外の縄文時代の遺物が735点、その他の遺物3点である。

以下、本遺跡の概要を時代ごとに述べる。

A 旧石器時代

旧石器時代の遺物集中地点は7か所で、それぞれブロック3a・3b・4・5・7a・7b・8と呼称する。これらのブロックは東地区で検出され、南北約30m×東西40mの範囲に収まる。母岩の共有関係が認められることから、これら7か所のブロックは同時期に形成されたものと思われる。それぞれのブロックはその大きさと遺物点数から、比較的大型で數十～百数十点の遺物で構成されるものと、小型で20～30点で構成されるものとに分類できる。ブロック3a・5・7aが前者で、7b・4・8が後者にあたる。3bは両者の中间の規模を持つ。いずれも、遺物の密度は低く散漫な分布を示す。遺物は、最大80cmの上下差を持って出土しているが、いずれのブロックも遺物の出土ピークからⅢ層中に生活面があると考えている。A地点での火山灰分析によればV層上部に始良Tn火山灰層の降灰層準があると考えられる。C地点の基本層序は基本的にA地点とおなじであるので、C地点の旧石器時代のブロック群は始良Tn火山灰層降灰以降のものであると考える。

出土遺物は、ナイフ形石器、彫刻刀形石器、石刃、彫刻刀削片などで、石核は出土しなかった。ナイフ形石器は杉久保型、彫刻刀形石器は神山型を主体としている。また、石刃が多く出土するものの石刃石核が出土しない点、石刃以外の制片が極めて少ない点、彫刻刀削片が多い点を出土石器群の特徴とすることができる、これらの特徴はA地点出土石器群の特徴と非常によく似ている。

B 縄文時代草創期

縄文時代草創期の遺物集中地点は5か所で、ブロック1・6・9・10・11と呼称する。これらの内、ブロック1・6・10・11の間では母岩の共有が認められるので、これらは同時に形成されたものと思われる。これら4か所のブロックは西地区で検出されており、ブロック6はブロック1の西約14mに、ブロック10はブロック1の北東約22mに、ブロック11は南西約16mに位置している。ブロック9はほかのブロックと母岩の共有関係がなく時期が異なるものと考えている。検出された場所もAH11区ではかの3ブロックから離れている。

ブロック1は多量の制片類と石核が出土したこと、これらの間に接合関係が認められたことから、制片生産を主体とした石器製作が主に行われていたことがわかる。ブロック6はブロック1に比べて遺物点数も少ないので、石器製作が行っていたと思われる。ブロック10・11は大型の石刃や制片を主体としており、母岩の共有関係からブロック1から持ち出された、あるいは廃棄されたものと考えている。ブロック9はチップを主体としており、ツール製作に関連するブロックと考えられる。尖頭器が3点出土しており、旧石器時代の終末から縄文時代草創期のものであろう。

C 繩文時代(草創期を除く)

縄文時代の遺構は竪穴住居跡1棟、ピット1基、集石遺構3基である。これらの遺構の内、竪穴住居跡、ピットは西地区から検出され、周辺から出土した土器から縄文時代前期末のものであると考えられる。

竪穴住居跡は壁の一部と柱穴、地床炉の一部を検出したのみであったが、径5~6mの隅丸方形を呈するものと思われる。壁は北側のみで検出したことだけであったが内側に周溝がめぐっていた。柱穴は4本であった。ピットは縄文前期末の土器を出土するものである。集石遺構は東地区で検出され、1号集石遺構の近くで新崎式の土器片がまとめて出土したことから中期前葉のものであると考える。3基とも集石下の土坑は検出されず、いずれの集石遺構でも礫が被熱していた。

西地区から土器234点、石器368点、礫13点が出土した。土器の大部分が縄文時代前期末の土器であることから、石器も基本的にこの時期のものと思われる。石器は、石鏃、砲状石器、両極制離石器、不定形石器、石核などである。東地区から出土した遺物は土器片数十点、石器82点、礫43点で、土器で時期のわかるものは先の新崎式の破片のみである。したがって、出土石器も中期前葉のものが主体を占めるものと思われる。石器は、石鏃、砲状石器、打製石斧、磨製石斧、不定形石器、石核などである。

D 歴史時代

時期不明の土坑が47基検出された。これらの大部分は埋土に炭化物・焼土片を多量に含み、底面や側面に焼け面を持つものもある。また、ほぼ円形の平面形を持ち上端の直径は1~2mである。地面に穴を掘った後、火を焚いた遺構であると考えられるが、中には床を張った後に火を焚いているものもある。明らかに縄文時代の包含層を切って掘り込まれていることや平安時代の遺物が包含層から出土していることからA地点ではこれらの焼土坑は平安時代のもので(沢田等1994)、その性格を炭焼きのための土坑と推定した。今回、これらの土坑の内4基で放射性炭素年代測定を行い、その結果からこれらの土坑の所属時期は主に中世であるという結果が得られた(第IX章参照)。

第V章 旧石器時代の調査

1 遺 構

上ノ平遺跡C地点で検出された旧石器時代の遺物は7か所の遺物集中地点(以下ブロック)のみである。これらのブロックは調査区の東地区 AE-AG・II-15の範囲に分布している。ブロックの名称は発掘時のものをそのまま用いたが、発掘当初1つのブロックと認識していたブロック3と7は調査の進展によって、それぞれ2か所のブロックに分けられることがわかったため、ブロック3a・3b・7a・7bとした。これらのブロックは、比較的大型で100点を越える遺物によって構成されているブロック3a・5・7aと比較的小型で二十数点前後の遺物によって構成されているブロック4・7b・8と両者の中間の規模を持つブロック3bとに分類できそうである。

ブロック3a(図版5)

AE 11グリッド南東隅を中心に AE 12、AG 11・12にも分布が広がり、石器174点と礫2点で構成されている。遺物は IIa層からV層にかけて約70cmの上下差を持って出土しているが、III層から出土したもののが最も多く当時の生活面はIII層にあるものと思われる。平面的には約6m四方の範囲から遺物がまばらに出土している。遺物密度はあまり高くない。

ブロック3b(図版6)

AE 10・11、AF 10・11に位置し、石器99点、礫1点で構成されている。遺物は IIa層からV層にかけて約60cmの上下差を持って出土している。出土層位を見ても IIa層から出土したものが最も多く、原位置から大きくなはずれた遺物が多い。標高別の出土石器点数グラフの標高71.55-71.599mにみられるピークはこうしたIIa層出土石器によるものであり、差し引いて考える必要がある。むしろ、標高71.3m付近のピークを生活面と関連づけて考えるべきであろう。したがって、平面的には約6m四方の範囲から遺物がまばらに出土しているものの、III層以下から出土した石器は AE 11-21・22、AF 11-1・2に集中しており、ブロック3bの本来の分布域を示しているものと考える。

ブロック4(図版7)

AE 13・14に位置し、石器24点、礫2点で構成されている。遺物は IIa層からV層にかけて約60cmの上下差を持って出土しているが、III層から出土したものが最も多い。平面的には約4m四方の範囲から遺物がまばらに出土している。遺物密度は極めて低い。

ブロック5(図版8)

AF 15に位置し、石器191点、礫5点で構成されている。遺物は IIb層からV層にかけて約80cmの上下差を持って出土しているが、IIa層が削平されていたので、実際の上下差はさらに大きい。III層からIV層にかけて出土したものが最も多く、生活面はIII層下部からIV層上部に存在するものと考える。平面的には約6m四方の範囲から遺物が出土しているが、特に遺物が多いのは AF 15-8を中心とした。約3m四方の範囲である。遺物の密度は今回検出した旧石器時代のブロックの中では最も高いが、これは主にチップ検出率の高さによる。

プロック 7 a(図版9)

AG 11・12に位置し、石器94点、礫1点で構成されている。遺物はⅡa層からV層にかけて約70cmの上下差を持って出土しているが、Ⅲ層から出土したものが最も多い。したがって、当時の生活面はⅢ層中にあったものと考える。平面的には東西約8m、南北5mの範囲から遺物がまばらに出土し、特に遺物の密度の高い部分は認められない。

プロック 7 b(図版10)

AF、AG 11に位置するが、特にAG 11-3付近でまとめて出土している。石器26点で構成される。遺物は約80cmの上下差を持って出土しているが、Ⅲ層からIV層にかけて出土したものが多。生活面もこの付近にあるものと考える。遺物密度は極めて低く、小型で遺物の少ないプロックのあり方を示している。

プロック 8 (図版11)

AE 12に位置するが、遺物の分布は極めて散漫で、中ではAE 12-12・13にわずかにまとまりが見られる。石器26点で構成される。遺物は約70cmの上下差を持って出土しているがⅡb-IV層から出土したが多い。ほかのプロック同様Ⅲ層中に生活面があったものと思われる。

2 遺 物

A 分 類

(1) 分類、記述の方針

A 地点の報告書(沢田等1994)および本報告書作成にあたっては出土石器群の内容をできるだけ詳しくかつ明示的に記述することを整理の基本方針とした。ところで、石器に限らず分類とは連続的なものを分節化し言語化する行為であって、その過程と結果は分類の主体者に依存している。したがって、出土石器群の内容の記述といえどもそれが観察者の主觀から離れた客観的なものであることはありえないし、分類という行為は対象物が本来持っている実体を抽出するものではない。このように分類という行為が本質的に持っている恣意性を認めた上で、ここでは本報告書における石器記述の方針を提示する。

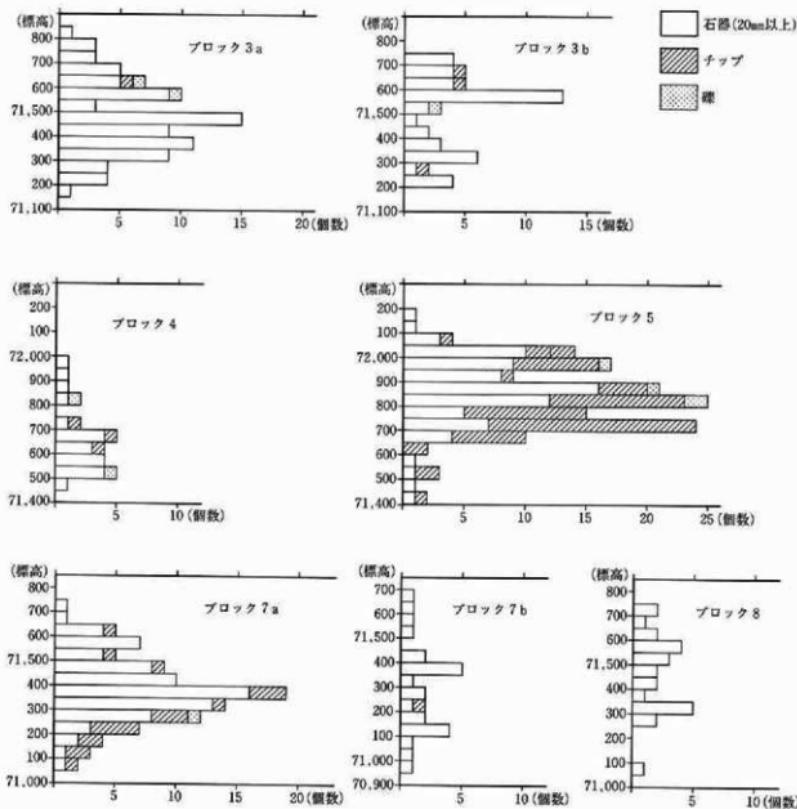
本報告書では石器の分類、記述を石器製作技術に基づいた形態学的な視点、いわゆる技術形態学に基づいて行う(山中1979)。したがって、石器を分類した結果に対して直接的に機能的な解釈を与えることはできず、本報告書で用いる器種という概念には本来的に機能的な意味は付加しない。石器が道具である以上その機能・用途を明らかにすることの重要性はいうまでもないが、現在行われている機能推定の多くは石器の形態と機能との相関関係の存在を前提として推定するものである。もちろん、これらの間には何らかの関係が存在していることが一般的には想定可能なわけだが、これらの相関関係は石器の形態と使用痕や石器の出土状況など石器の機能を直接反映する情報との照合によって検討されるべき問題であり、前提というよりは検討対象というべきものである。

出土石器はまずその製作技術の特徴、形態などからナイフ形石器、彫刻刀形石器などの各種トゥール、石刃、剥片など剥片類、彫刻刀削片、チップなどに器種分類した。分類に際しては従来の分類を可能な限り生かすようにした。今日行われている石器の分類・名称は、結局のところこれまでの研究の蓄積の結果である。分類者である我々がこうした研究の流れの中にいて、分析者間での情報のやりとり、認識の共有

第3表 旧石器時代プロック層位別出土点数

計
石器
チップ
礫

プロック 層位	3 a	3 b	4	5	7 a	7 b	8	計
I								1 0
II a	17 1 1 15 1 31 16 4	0 26 24 6 6 10 6 0	24 0 6 7 5 9 3 1	6 0 0 5 1 71 3 0	14 0 24 5 34 27 6 4	13 0 22 5 34 27 6 9	3 0 5 6 9 8 7 2	3 0 3 0 6 0 9 0 7 0 7 0 6 0 1 0
II b								
III								
IV								
V								
計	85	49	26	151	95	26	24	不調1



第4図 プロック毎標高別遺物出土点数

化においてこれらが機能している以上、これを完全に否定してしまうことは好ましくないし、生産的でもない。本報告書における石器整理が石器群の内容の記述を第1の方針としているのであるから、現時点で分析者間で「共通言語」として受け入れられている分類・用語を使用すべきであろう。もちろん、このことは分類・用語を今後とも現在のまま固定化することを主張するものではない。これらが用いられる研究的な背景を整理したり、新たな分析結果を盛り込んだりすることによって、分類・用語に対して修正を加えてゆく必要があるだろうし、ときには分類体系そのものを見直すことも必要であろう〔仙庭1994〕。しかし、こうした修正も基本的にはこれまでの分類との対応関係を明らかにした上で行う必要があると考える。

(2) 分類(第5図)

出土石器は、ナイフ形石器、彫刻刀形石器、彫刻刀形石器母型、二次加工ある制片(石刃)、石刃、制片、彫刻刀削片、チップの各器種に分類し、このうち、ナイフ形石器、彫刻刀形石器、石刃をさらに細分した。

ナイフ形石器

制片または石刃の一部に刃つぶし状の二次加工が施され形が整えられた石器をナイフ形石器とする。したがって、二次加工が施されずに残された素材制片(石刃)の鋸い縁辺を刃部と認定する。ただし、本遺跡で出土しているナイフ形石器は基部加工の移保型を主体としているので、こうした概念規定が有効かどうかは疑問であり、検討は今後の課題である。今回は、基本的にA地点の報告書における分類を踏襲してI~V類に分類した〔沢田ほか1994〕。

I類：基部に二次加工が施されたもので打面を残さないもの。さらに、基部の主要剥離面に背面からの二次加工が認められるものをIa類、認められないものをIb類とする。さらに、先端部が遺存するものは二次加工の有無によって細分し、先端側縁に二次加工の認められるものをIa-1類、認められないものをIa-2類とした。

II類：基部に二次加工が施されたもので打面を残すもの。さらに、基部の主要剥離面に二次加工が認められるものをIIa類、認められないものをIIb類とする。I類と同様に先端部の二次加工の有無できらに細分した。

III類：石刃などの先端部のみに二次加工が認められるもの。また、基部側を欠損し、基部の二次加工の有無が不明のものもIII類に含めた。

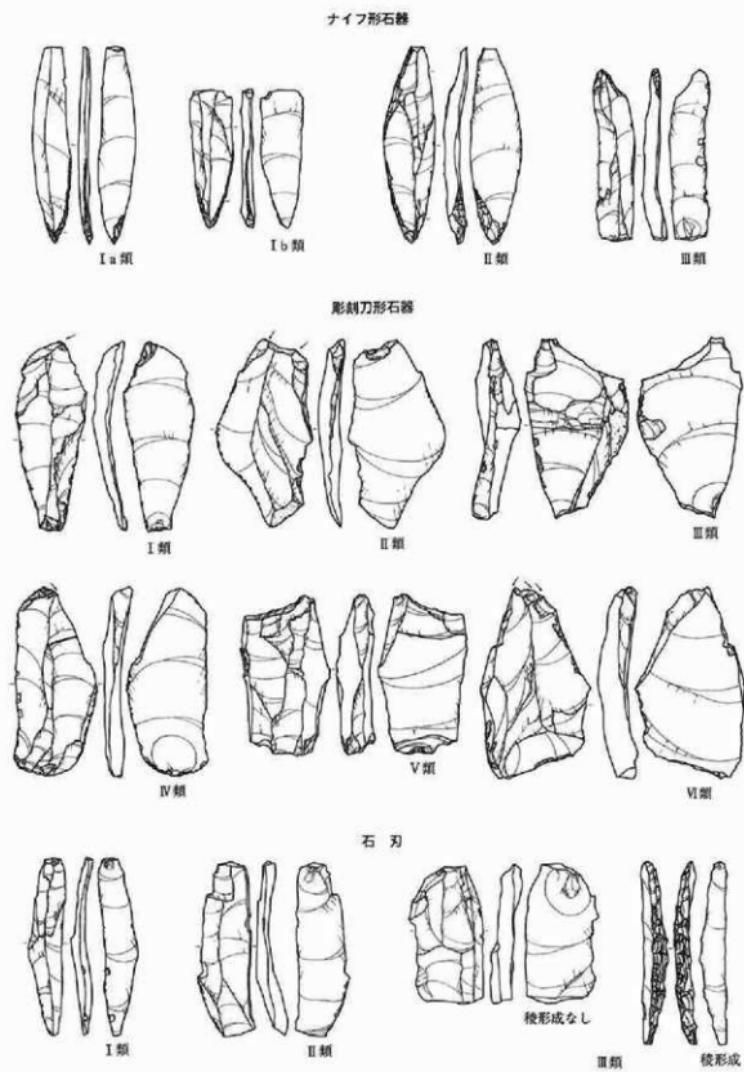
IV類：一個縁の全部あるいは大部分とその反対側縁の基部に二次加工が認められ、いわゆる二側縁加工のナイフ形石器となるもの。

V類：その他のナイフ形石器

ところで本遺跡出土の彫刻刀形石器には一見ナイフ形石器と区別できない基部加工が施されているものがある。したがって、先端を欠損し基部のみが遺存した石器はナイフ形石器か彫刻刀形石器なのかを厳密に認識することはできない。ここでは、これらの石器を暫定的にナイフ形石器として扱うことにする。

彫刻刀形石器

石刃または制片の縁辺に沿ってこれを取り込むような細長い一枚の二次加工剥離面を柄状剥離面とし、これが認められた石器を彫刻刀形石器とする。また、この柄状剥離を彫刻刀面、その打面を彫刻刀打面と呼ぶ。彫刻刀面が素材の縁辺ではなく背面に作出された場合、素材の縁辺が取り込まれないので厳密には柄状剥離とことができないが、彫刻刀打面作出が認められた場合はこれも彫刻刀面とした。彫刻刀面が単



第5図 旧石器分類図

数、複数であるとかかわらず、ある一連の手順によって彫刻刀面打面、彫刻刀面が作出されている範囲を刃部と呼び、その作出とくに彫刻刀打面作出方法によってⅠ～Ⅴ類に分類した。したがって、一点の石器に複数の刃部があるときにはそれらが併記されることになる。また、基部加工の認められるものをa類、認められないものをb類とし、Ⅰa類、Ⅰb類のように表記する。

Ⅰ類：素材の端部に背面から主要剝離面に対して加えられた調整を打面として、肩ないし背面に彫刻刀面が作出されたもの。いわゆる典型的な神山型彫刻刀形石器(以下、神山型彫刻刀)がこれにあたる。

Ⅱ類：素材を断ち切るように加えられた主要剝離面への連続的な二次加工を打面として、左右両側縁や背面に彫刻刀面が作出されたもの。

Ⅲ類：素材の折断面を打面として彫刻刀面が作出されたもの。彫刻刀面は主に両側縁に作出される。

Ⅳ類：素材の端部に主要剝離面から背面に対して加えられた調整を打面として、肩ないし背面に彫刻刀面が作出されたもの。

Ⅴ類：素材を断ち切るように加えられた背面への二次加工を彫刻刀打面とするもの。

VI類：彫刻刀面を打面として穂状剝離が加えられ新たな彫刻刀面が作出されたもの。

Ⅶ類：その他の彫刻刀面。

石器の分類では最も新しい調整・加工を分類基準とするという原則に従えば、彫刻刀面がその他の調整に切られているものは彫刻刀形石器には分類できない。しかし、A地点や今回報告する接合資料の中に穂状剝離とその他の調整を繰り返しながら刀部再生を行うものが認められる。そこで、そのような石器はナイフ形石器、エンドスクレイバーなどの明らかに他のツールに器種替えされている場合を除いて彫刻刀形石器に分類した。

彫刻刀形石器母型

彫刻刀面が認められないものの、形態や施されている調整がその後の彫刻刀面作出を意図していると考えられる石器を彫刻刀形石器母型とした。具体的には、彫刻刀打面の作出、穂状剝離をスムースに施すための整形を意図したと思われる調整の存在を基準とした。

二次加工ある剥片(石刃)

剥片ないし石刃の一部に不規則な二次加工が加えられた石器を二次加工ある剥片(石刃)とする。ただし、実際の資料認定はナイフ形石器、彫刻刀形石器などの定型的なツールに分類できないツールに対してこの名称を与えていた。出土点数も少ないため、これ以上の細分は行わなかった。

石刃

剝離長が制限幅のはば2倍以上で、両側縁と背面の棱線が平行する剥片を石刃とする。背面構成によつてⅠ～Ⅲ類に分類した。ただし、この分類は完形の石刃にのみ行った。

Ⅰ類：背面が全て主要剝離面とおなじ方向の剝離面によって構成されるもの。

Ⅱ類：背面が主要剝離面と同じ方向および逆方向の剝離面によって構成されるもの。

Ⅲ類：背面に主要剝離面と直交する方向の剝離面を含むもの。

なお、背面に打点の残る横方向の剝離面が認められたり、打点を残さないものの連続した横方向の剝離面が認められ、これをいわゆる石刃技法の稜形成による剝離面と判断できる場合は、この石刃を稜形成石刃として観察表に記載した。稜形成痕の判断は破損した石刃に対しても行い、上記の特徴が認められた場合は全て稜形成石刃とした。

剥片・チップ

折断面、微細な剥離痕、破損などを除いた最終剥離面がポジティヴな石器で、石刃および彫刻刀削片を除き最大長20mm以上のものを剥片、20mm以下のものをチップとする。また、このポジティヴな最終剥離面を主要剥離面と呼ぶ。

彫刻刀削片

剥離面の観察から塊状剥離によって生じたと判断された剥片類を彫刻刀削片とする。彫刻刀形石器の素材の主要剥離面(以下、素材主要剥離面)をその一部に持っていることが主な認定基準である。

B 石器各説

出土石器の各説はブロック出土石器、ブロック外出土石器、接合資料の順に行う。出土石器の石器組成は第4表、石材組成は第5表で示したとおりである。各説で用いる石器部位等の名称の基準は第6図のとおりである。観察表は出土地点のわかる遺物全点を提示した。また遺物属性表は、ナイフ形石器、彫刻刀形石器、完形石刃のうち計測可能なものについて全点掲載した。観察表、属性表の計測基準は第6図のとおりである。本文、観察表の遺物番号は発掘調査の遺物取り上げの際につけたものである。

(1) ブロック3a出土石器(図版12~16、写真図版132~134)

石器は手掘り85点、ふるい90点の175点出土した。石器組成は第6表、石材組成は第7表に示したとおりである。

ナイフ形石器(1~5、実測図番号以下同じ) 6点出土しており、小破片のB3~91(遺物番号、以下ブロック番号は省略)を除く5点を図示した。全てI類で、94がIa類、126・132がIa-1類、30・41がIb類である。石材は全て珪質頁岩である。また、基部腹面に認められる調整は、いずれも背面への基部加工より新しい。132は、先端に塊状剥離とツブレ状の微小剥離痕が認められる。この石器が彫刻刀形石器である可能性も否定できないが、衝撃剥離の可能性が高い[御堂島1991]。

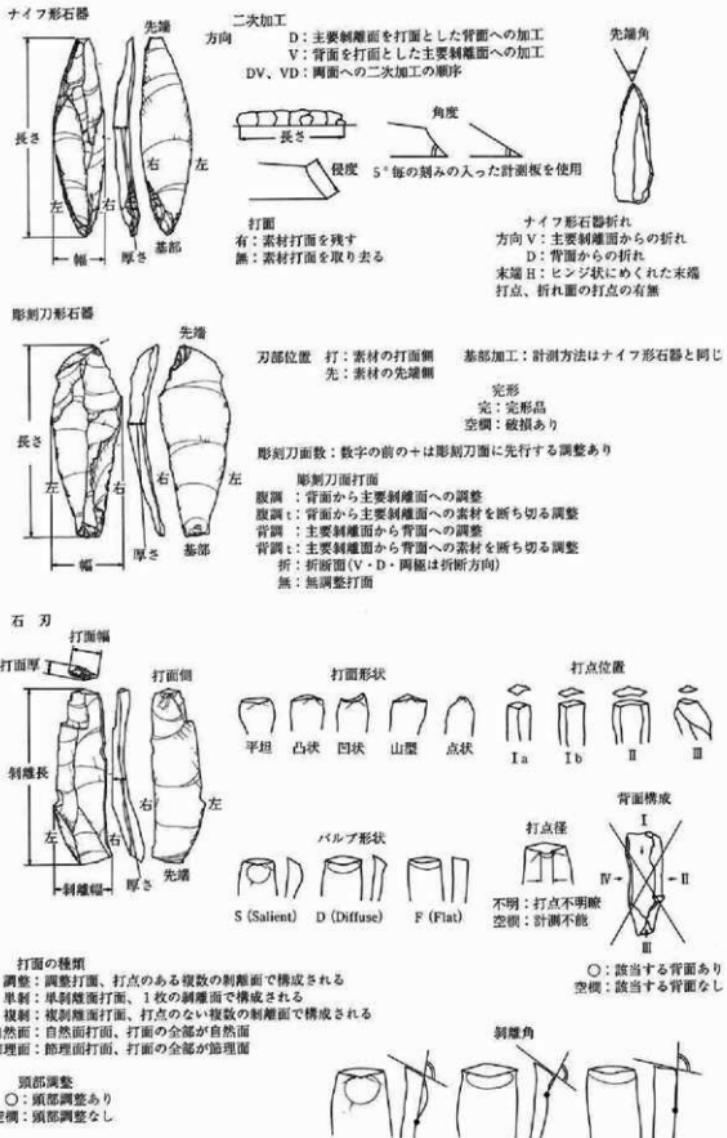
彫刻刀形石器(6~24) 21点出土した。143は石刃先端にわずかに施された主要剥離面への二次加工を打面として塊状剥離が1条左肩に施されて、基部両側縁に連続的な背面加工が施されている。基部の折れ面は横方向からのものである。Ia類、珪質頁岩製。46は焼けはじけによって彫刻刀打面の作出方法はわか

第4表 旧石器時代の石器組成

	ナイフ	彫刻刀	その他	石刃	剥片	彫削片	チップ	礫	計
3 a	6	21	1	33	2	42	69	2	176
3 b	4	8	1	18	6	17	45	1	100
4	3	6		6	3	3	3	2	26
5	5	15		20	4	47	100	5	196
7 a	6	19	2	19	4	25	19	1	95
7 b	4	8	1	9		3	1		26
8	4	4		12		6			26
外	4	4		14	7	3			32
表 採	6	10		2		2			20
計	42	95	5	130	29	148	237	11	697

第5表 旧石器石材組成表

石 材	石 器			計
	手掘り	ふるい	B類	
珪質頁岩	393	147	36	577
頁岩	17		9	26
玉髓	27	26	1	54
燧灰岩	5	3	2	15
チャート	2	7	1	10
黒曜石		2		2
鈍石英		1	1	2
流紋岩	1	2	2	5
安山岩	1			1
花崗岩			2	2
砂岩			2	2
粘板岩			1	1
合 計	446	188	52	697



第6図 石器属性計測基準

らないが、削片との接合により I 類であることがわかった。基部側を折れによって欠損するものの、両側縁に主要剝離面への二次加工が認められる Ia 類である。珪質頁岩製である。43は棱形形成石刀を素材とした I 類の彫刻刀形石器で左右に彫刻刀面が作出されている。107は先端側に IV 類の刃部、基部に VI 類の刃部を持つ彫刻刀形石器である。先端側の彫刻刀面は右肩背面への連続的な二次加工を打面として 1 条作出され、基部の彫刻刀面は右側縁からの器体を横断する折れ面状の塊状剝離を打面として左右両側縁に作出され、主要剝離面間に傾いている。珪質頁岩製である。96は石刀の先端左肩の連続的な背面加工を打面として右側縁に彫刻刀面が作出された IV 類の彫刻刀形石器で珪質頁岩製である。彫刻刀面から背面に笠屋型彫刻刀に特徴的なフラットグレーパー状剝離(総賞・堤 1987)によく似た調整が加えられている。34は左肩に 1 条の彫刻刀面を持つ I 類の彫刻刀形石器であるが、右側縁には彫刻刀打面に切られる古い塊状剝離が残っている。珪質頁岩製である。37は両端が切斷された石刀を素材としており、先端側の折断面から右側縁の主要剝離面間に II 類の彫刻刀面が作出されている。また、左側縁主要剝離面側にはステップ状で連続した大型の微小剝離痕が認められる。珪質頁岩製。89・134は珪質頁岩製の I 類の彫刻刀形石器である。89・134とも石刀先端右肩の主要剝離面への調整を打面として左肩に彫刻刀面が作出されている。89には彫刻刀面より新しい背面への調整が認められ、134には彫刻刀面に先行する連続的な背面への調整が認められる。134は背面からの折断面によって基部側を欠損する。142は石刀先端の左肩に一条の彫刻刀面が作出されているが、彫刻刀面が右肩の背面加工に切られるため彫刻刀打面の作出方法は不明である。先端および両側縁には微小剝離痕が認められる。珪質頁岩製である。45は玉髓製の I 類の彫刻刀形石器である。77は玉髓製の厚手の石刀を素材とし、先端を斬ち切るようにノッチ状に背面調整した後、これを打面として左側縁に彫刻刀面が作出されている。V 類であるが、ノッチ状の背面調整に切られた主要剝離面への加

第6表 ブロック 3 a 石器組成表

母岩No.	ナイフ	彫刻刀	その他の	石刀	削片	彫刻片	チップ	塵	計
1	1	3		1		1			6
3			1	1					2
6	1			1					2
7		1							1
8				2	0				2
10		1							1
12				1					1
13				1					1
15	1								1
17				1					1
19						2			2
20		1		1					2
21	1					1			2
22	1								1
23	1		1						2
24	1								1
25	1		2						3
28	1					1			2
29	1								1
30	1								1
31	1								1
単 独		1		1					2
母岩外	3	4	1	19	2	14	2	2	47
ふるい						23	67		90
合 計	6	21	1	33	2	42	69	2	176

第7表 ブロック 3 a 石材組成表

石 材 名	石 器	塵	合 計
珪質頁岩	71	70	141
頁 岩	7		7
玉 鹽	5	16	21
凝灰岩	1		1
チャート		2	2
波紋岩		2	2
砂 岩			1
合 計	84	90	176

工も認められる。72は珪質頁岩製のIV類の彫刻刀形石器である。右側縁の全部と左側縁の基部側に背面調整が施され、基部主要剥離面への調整も認められる。この右肩への背面調整を打面として左肩に彫刻刀面が作出されている。彫刻刀面に先行する背面加工が左肩に認められる。42は珪質頁岩製のI類である。130は珪質頁岩の石刃の両端にⅣ類の刃部が作出されている。基部側は右側縁から、先端側は石刃先端からいずれも彫刻刀打面を作出することなしに橢状剥離が施されている。33は頁岩製の石刃の先端に刃部が認められる。I類の刃部で、彫刻刀面に先行する背面調整が残っている。基部右側縁にはこの調整に切られる折れ面があり、そこには微小削痕も認められる。95も埴輪の彫刻刀で右側縁から無調整で橢状剥離が施されている。珪質頁岩製である。128は石刃先端の連続的な背面加工によって彫刻刀面の打点跡が切られているため、彫刻刀打面作出方法は不明である。全体的な形状から見るとI類の可能性が高い。珪質頁岩製で、基部にはナイフ形石器と区別のつかない調整が認められる。

彫刻刀形石器母型(17) 145はIa類の彫刻刀形石器の母型であろう。珪質頁岩製である。

石刃(25~44) 石刃は33点出土し、このうち20点を図示した。石材は珪質頁岩28点、頁岩2点、凝灰岩1点、玉髓2点である。完形の石刃はI類の86、II類の22・85、III類の23・100のみである。100の右側縁の横からの剥離は石核調整痕であると思われるが後形成の可能性も否定できない。20の背面左側縁付近の剥離面は主要剥離面に切られており、二次加工ではなく後形成痕である。

彫刻刀形石器削片(45~55) 19点出土し、このうち11点を図示した。石材は珪質頁岩が18点、頁岩が1点である。88は彫刻刀形石器の95と接合しているが、削片にも彫刻刀打面作出を示す調整はない。31・35・40・70・76・104・109・131はいずれも素材主要剥離面への調整を打面として、左肩に作出された橢状剥離によるもので、I類の彫刻刀面作出時のものである。99は素材主要剥離面を取り込んでおらず、背面に作出された彫刻刀面からのものと思われる。

(2) ブロック3b出土石器(図版16~17、写真図版135)

手掘り47点、ふるい52点、計99点の石器と礫1点が出土した。石器組成は第8表、石材組成等は第9表に示したとおりである。

ナイフ形石器(56~59) 出土した4点全てを図示した。石材は10が玉髓、このほかの3点は珪質頁岩である。151は両側縁の背面と左側縁の主要剥離面への調整によって基部を整形したものである。先端を背面からの折れで欠損しているが、基部・先端とも尖っていたものと思われ、典型的な杉久保型ナイフである。

第8表 ブロック3b石器組成表

母岩No.	ナイフ	彫刻刀	その他	石刃	剥片	形削片	チップ	礫	計
4		1		1	2				4
7	1			3					4
14				1		1			2
17				1					1
20	1	1		1		1			4
22		1		1		1			3
27				2					2
29	1	1				2			4
30				1					1
単 独	1	2							3
母岩外		2	1	8	4	2	3	1	21
ふるい						10	42		52
合 計	4	8	1	18	6	17	45	1	100

第9表 ブロック3b石材組成表

石材名	石 器		礫	合計
	手掘り	ふるい		
珪質頁岩	34	35		69
頁岩	3			3
玉髓	8	9		17
凝灰岩			3	1
チャート	1	2		3
黒曜石			2	2
鉄石英			1	1
波紋岩	1			1
合計	47	52	1	100

先端の折れは衝撃剝離の可能性が高い。Ia類である。10は基部両側縁を背面加工によって調整したIb類で、器形が三日月形を呈するものである。114は焼けはじけによって先端側を大きく欠損するIa類である。115もIa類であるが、基部背面への加工はほかの2点ほど顕著ではない。素材石刀も先端ほど幅の広いやや不整形のものであったようである。3点のIa類の基部主要剝離面への調整は、いずれも背面への調整より新しい。

彫刻刃形石器(60~66) 8点出土したうち、小破片の62を除く7点を図示した。150は珪質頁岩製のI類である。先端右の主要剝離面と逆方向からの剝離面も彫刻刃面の可能性があるが、主要剝離面との切り合いで明確でなく彫刻刃面とは認定しなかった。9も珪質頁岩製で基部左側縁の主要剝離面に調整があり、Ia類である。47は玉髓製のI類であるが、基部側を新しい破損で大きく失っている。53・111とも珪質頁岩製のI類で、52は折れと焼けはじけによって器体下半と左側縁を、111は折れによって基部側をそれぞれ欠損している。111には彫刻刃面を切る背面への調整と右側縁に顕著な微小剝離痕が認められる。124は玉髓製の厚手の石刃の先端をエンドスクリイバー状に調整した後、その先端主要剝離面に剝離を施し、さらにこの剝離面を打面として右肩に1条の彫刻刃面を作出している。ここでは主要剝離面への加工を穂状剝離とみなしあ且焼としておくが、これを彫刻刃打面作出のための調整とみなせばI類のバリエーションとなる。15は素材の先端を切り取るような背面への調整を打面として右側縁に穂状剝離が施されたV類である。珪質頁岩製。

石刃(67~75) 18点出土したうち、9点を図示した。石材は珪質頁岩が14点、玉髓が3点、流紋岩が1点である。完形品はII類の71、III類の123である。123の横方向の剝離面は石核の底面であり、稜形成痕ではない。116は背面に稜形成痕を持つ。

彫刻刃削片(76~81) 手掘り出土7点のうち6点を図示した。117が頁岩、118が玉髓のほかは珪質頁岩製である。54と64が右側縁の穂状剝離で生じたと考えられるが、これ以外は左肩ないし左側縁から剝離されたものである。また、打面が観察可能であった59・117・120は全て素材主要剝離面への調整を打面としている。

(3) ブロック4出土石器(図版18~19、写真図版135~136)

24点の石器と2点の礫が出土した。石器組成は第10表、石材組成は第11表に示したとおりである。

ナイ形石器(82~84) 出土した3点全てを図示した。石材は5が玉髓で、25・26が珪質頁岩である。5

第10表 ブロック4石器組成表

母岩No.	ナイフ	彫刻刃	その他	石刃	剝片	彫刻片	チップ	礫	計
1		1							1
2		1							1
10	1								1
16		2							2
19		1							1
22						1			1
23	1								1
26					1		1		2
31				1					1
單独	1								1
母岩外		1		5	2	2	2	2	14
合計	3	6	0	6	3	3	3	2	26

第11表 ブロック4石材組成表

石材名	石器	礫	合計
珪質頁岩	22		22
玉髓	1		1
擬灰岩	1		1
花崗岩		2	2
合計	24	2	26

は右側縁全体に背面への調整が施されているが、基部側を主要剝離面からの折れで欠損しているので基部調整の状況を知ることができない。一側縁加工なし二側縁加工のナイフ形石器かもしれない。25は小型のIb-1類の完形品である。基部から背面の後線への階段状の剝離は基部主要剝離面からの折断面ないし二次加工が回り込んだものである。26は主に先端の右側縁に調整が施されたものである。左側縁にもわずかに調整が認められ、この調整に切られた小さな槽状剝離も認められる。彫刻刀形石器あるいはA地点の報告書で雑形石器としたものと同じタイプの石器である可能性もあるが、今回はナイフ形石器に分類した。

彫刻刀形石器(85~90) 出土した6点全てを図示した。石材は全て珪質頁岩である。23は石刃の先端左肩の背面にノッチ状に施された調整を打面として右肩に比較的大きな1条の槽状剝離が施されており、IV類とした。また、この槽状剝離に切られた古い彫刻刀面が4条右側縁に認められる。19は基部側を新しい折れ面で欠損するI類である。両側縁に連続する背面調整は彫刻刀面、彫刻刀打面に切られている。3は素材石刃の先端左肩に右側縁の槽状剝離を打面として槽状剝離を加えて彫刻刀面を作出したもので、基部には両側縁の背面への調整が認められる。Via類である。24は両端に彫刻刀面を持つ。先端側の彫刻刀面は典型的なI類で槽状剝離に先行する背面への調整も認められる。基部側は右側縁の槽状剝離を打面として左肩に4状の槽状剝離が施され彫刻刀面が作出されるVI類の刃部である。13も両端に彫刻刀面を持つ。先端側の刃部は、左肩の主要剝離面に対して施された調整を打面として右側縁に彫刻刀面が作出されるI類の刃部で、彫刻刀面と主要剝離面がほぼ直角になる。基部側の彫刻刀面は折れ面を打面として右側縁に槽状剝離が施されたもので、III類にあたる。両端の彫刻刀面の切り合いは前者の方が新しい。20は先端にI類の刃部が作出されたもので槽状剝離に先行する背面への調整も認められる。基部も錯交剝離によって整形されており、この石器はIa類に分類される。

石刃(91~94) 6点出土したうちの4点を図示した。石材は全て珪質頁岩である。完形品はII類の14、10、I類の15の3点である。14・15は先端をわずかに欠損するが分類、計測に影響を与えるほどのものではないので完形品とみなした。10は先端に石核の底面を取り込んでおり、背面先端付近の剝離痕は底面からの調整と考え得形成痕とはみなさなかった。

彫刻刀削片(95~97) 出土した3点全てを図示した。石材は全て珪質頁岩である。1・17は左肩ないし側縁、8は右側縁から剝離されたものである。打面が観察可能な1・8とも主要剝離面への調整を打面としている。17もその形状からI類、II類の槽状剝離で生じた可能性は低く、ブロック4から出土した削片がこの遺跡では例外的なもので構成されていることがわかる。

(4) ブロック5出土石器(図版19~23、写真図版136~139)

ブロック5からは、手掘り145点、ふるい46点の計191点の石器と5点の礫が出土した。石器組成は第12表、石材組成は第13表に示したとおりである。

ナイフ形石器(98~100) 5点出土しているが小破片の46・88の2点を除く3点を図示した。石材は73が玉髓の他は4点とも珪質頁岩である。81はIIa-1類で、基部調整は錯交剝離による。左側縁は基部と先端の調整が連続しかかっており、二側縁調整のナイフ形石器に近似した形態である。先端を主要剝離面からの折れでわずかに欠損し、先端左側縁の刃部に微小剝離痕が認められる。73・87は破片資料で全体の形を知ることができない。87は先端部の破片資料である。73は先端、基部のいずれかは不明であるが、本遺跡やA地点では素材石刃の打面側をナイフ形石器の先端側とする例が確認されていないことから基部の

第12表 ブロック5石器組成表

母岩No.	ナイフ	彫刻刀	その他	石刃	製片	彫刻片	チップ	擦	計
1	1			1		1	1		4
3	1								1
6		1							1
7				1	1				2
9				2					2
11				1					1
12		1							1
13	1						1		2
14				1		1			2
18				2					2
21		1					2		3
22		2					1		3
26		1			1	1	1		4
27		1							1
29				1			2		3
32		1					1		2
34		1							1
單 独		1		3					4
母岩外	2	5		8	2	28	61	5	112
ふるい							11	35	46
合 計	5	15	0	20	4	47	100	5	196

第13表 ブロック5石材組成表

石材名	石 器		砾	合計
	手掘り	ふるい		
珪質頁岩	137	42	1	180
頁岩	4			4
玉髓	4	1		5
擬灰岩			3	4
チャート		3		3
流紋岩				0
砂岩			1	1
合計	145	46	5	196

可能性が高い。

彫刻刀形石器(101~115) 出土した15点全てを図示した。石材は玉髓の57を除いて全て珪質頁岩である。51は両端に彫刻刀面を持ち、先端側にI類、基部にⅤ類の彫刻刀刃部が作出されている。基部の刃部は素材の側縁から彫刻刀打面作出を行わずに楕状剥離を主要剥離面側に施すもので、楕状剥離に先行する背面への調整が認められる。97も両端に彫刻刀刃部を持つが、いずれもI類である。先端側の彫刻刀面はその後の主要剥離面への調整に打点付近を切られている。基部の彫刻刀面と主要剥離面との後縁には顕著な線状痕と磨耗が認められる。線状痕が棱線とほぼ直交していることからこの刃部がWhittlingないしScrapingに使用されたことがわかる(従原・阿子島1981)。70は幅広で大型の石刃の先端側にI類の刃部が作出されたもので、彫刻刀片18・31との良好な接合資料がある(図版33)。57は石刃の先端左側縁に無調整で楕状剥離の施されたⅤ類でブロック5唯一の玉髓製のものである。先端には微細な折れ面と剥離痕が認められ、これらは彫刻刀打面作出のためのものかもしれないが、使用痕ないし偶発剥離(西秋1994)の可能性も否定できないので彫刻刀打面とはみなさなかった。82は70と同様な幅広の石刃を素材とし、先端にI類の刃部が作出されたもので、やはり彫刻刀削片40、B8-8との良好な接合資料がある(図版32)。両側縁に比較的顕著な微小剥離痕が認められる。10も幅広の石刃なし削片を素材として先端にI類の刃部が作出されたものである。図示しなかったが彫刻刀打面作出時のチップが接合している。右側縁主要剥離面に鋸歯状の調整が施されている。47は両端に彫刻刀刃部を持ち先端側がI類、基部側がⅤ類の刃部である。I類の刃部には彫刻刀面より新しい背面への調整がわずかに認められる。Ⅴ類の刃部は右側縁から未調整で楕状剥離を施したものである。9は石刃を素材として先端右肩にI類の刃部が作出されたものである。彫刻刀面に先行する背面への調整が認められる。45は石刃打面側の主要剥離面への調整を打面として左肩に2条、右側縁に1条の彫刻刀面を作出したI類の彫刻刀形石器である。基部側は左からの折れによって欠損しておりこの折れ面も彫刻刀面の可能性があるが、打点付近が発掘時の破損によって壊されており不明である。左側縁にはかなり多くの微小剥離痕が見られる。69・198は石刃の先端左肩にI類の刃部を作出

した彫刻刀形石器である。69は3条の彫刻刀面を持ち、基部左側縁に背面加工による調整が、両側縁に微小剥離痕が認められる。198は4条の彫刻刀面を持ち、基部側縁を節理折れで欠損している。1・30は基部調整のある彫刻刀形石器で先端左肩に彫刻刀面が作出されている。両者とも彫刻刀面の打点付近を背面への調整で切られており、彫刻刀打面作出方法を正確に知ることはできないが、先端右主要剥離面にノッチ状の調整がありI類であると考えている。特に30は基部加工と先端の彫刻刀刃部が連続しており、五泉市篠山遺跡の音沼による彫刻刀形石器IIa類(音沼1992)、秋田県協和町米ヶ森遺跡で荒巻型彫刻刀形石器類似品とされたIII類(富権1977)にきわめてよく似ている。12は石刀先端にI類の刃部が作出された彫刻刀形石器である。彫刻刀面が器体を横断するように作出されているが、打面と器体の角度が原因であろう。彫刻刀面に先行する背面調整と左側縁に微小剥離痕が認められる。77は素材打面側の左側縁に加えられた橢状剥離を打面として右側縁に彫刻刀面が作出されており、左側縁に4条、右側縁に3条の彫刻刀面が認められる。両側縁とも橢状剥離に先行する背面調整が認められる。左側の彫刻刀面と背面との接線には大型のステップフレイキングが背面側にのみ連続しており、この接線が刃部としてWhittlingないしScrapingに利用された可能性が高いことを示している。

石刀(116~128) 20点出土したうちの13点を図示した。石材は珪質頁岩が18点、頁岩1点、玉髓が1点である。完形品はII類の41、III類の42・44、I類の95の4点である。54は大型の石刀で完形品ではないもののII類の可能性が高い。8・118・119も完形品ではないものの依存率の高い比較的形の整った石刀で8、85はI類、80はII類の可能性が高い。44は入念な後形成が行われた石刀で、後形成調整の打面であった背面左の剥離面がボディティガな石核は剥片素材であろう。5+48は折断面で接合したが、5は右側縁、48は両側縁に微小剥離痕が認められ、切断後それが使用されたことを示している。

彫刻刀削片(129~153) 47点出土し、25点を図示した。石材は全て珪質頁岩である。18・31は彫刻刀形石器70と、74と77と、193は69との接合資料が得られた。また、図示したものでは34・50・138が右肩ないし右側縁から剥離された他は全て左側から剥離されたものである。

(5) ブロック7a出土石器(図版23~26、写真図版139~141)

ブロック7aからは、94点の石器と1点の櫻が出土し、石器組成は第14表、石材組成は第15表に示した。ナイフ形石器(154~159) 出土した6点全てを図示した。石材は全て珪質頁岩である。51はIa-1類の完形品で、先端につぶれと橢状剥離、右側縁に微小剥離痕が認められる。特に先端のつぶれと橢状剥離は衝撃剥離の可能性がある。30・41・50・71はいずれもIa類で先端側縁を折れで欠損している。こうしたあり方もナイフ形石器が主に槍先などの刺突具として使用されたことを示していると考える。また、背面加工のない50を除き51を含めた4点の基部主要剥離面への調整はいずれも背面加工後に施されている。

彫刻刀形石器(160~178) 出土した19点のうち小破片の124を除く18点を図示した。石材は珪質頁岩17点、玉髓2点である。15は石刀の両縁に刃部を作出したものである。先端はI類の刃部で彫刻刀面より新しい背面調整が認められる。打面側は無調整の右側縁から橢状剥離が施されている。この橢状剥離は横方向からの折れ面の可能性もあるが、明確な打点が認められたことから橢状剥離とした。85は石刀先端の左肩にI類の刃部が作出されたものである。彫刻刀面に見られる鋸歯状の剥離は発掘時の破損で調整ではない。右側縁先端よりにタール状の付着物、基部左側縁に微細な調整が認められる。20は石刀の両縁にI類の刃部が作出されている。基部側の刃部にみられる背面への調整は橢状剥離よりも新しい。8は玉髓の石刀先端に4条の橢状剥離を施しI類の刃部を作出したものでB3-103と折れ面で接合している。67は石刀の

第14表 ブロック7a石器組成表

母岩No.	ナイフ	彫刻刀	その他	石刀	剥片	彫削片	チップ	礫	計
1		1		1			1		3
2	2								2
3		1				1			2
4		2							2
7		1					1		2
8	1								1
10		2							2
11							1		1
13		1	1	1					3
14					2	1			3
16		1	1						2
19		2							2
20		2			1		1		4
24				1					1
27		1							1
29						1			1
31		1	1						2
33	2			1					3
35						1			1
单 独					2				2
母岩外	1	4	1	9	3	18	18	1	55
合 計	6	19	2	19	4	25	19	1	95

第15表 ブロック7a石材組成表

石 材 名	石 器	種	合 計
珪質頁岩	83		83
頁 岩	2		2
玉 體	6		6
攝 灰 岩	2		2
安 山 岩	1		1
粘 板 岩		1	1
合 計	94	1	95

先端にI類の刃部を持つ彫刻刀形石器で基部側を主要剥離面からの折れで欠損している。橢状剥離は4条施されている。18はI類の刃部の先端である。橢状剥離が器体自身を横断してしまい下半が失われている。66は石刀先端の左肩に彫刻刀刃部を作出し、基部調整の施された彫刻刀である。刃部には橢状剥離に先行する背面への調整も認められる。基部にも橢状剥離が認められるが、これはしばしばナイフ形石器の基部調整などにも認められるもので彫刻刀面とはみなさなかった。78は石刀の基部側にI類の彫刻刀刃部が作出されたものである。彫刻刀打面付近に大きな焼けはじけがあるが、主要剥離面への調整による彫刻刀打面をかろうじて確認できた。88は石刀先端の右側縁から横断するように施された橢状剥離を打面として右側縁に1条、主要剥離面に1条の橢状剥離が加えられたV類である。左側縁の主要剥離面には小さな剥離が連続している。52は厚手の石刀を素材として両端に彫刻刀面が作出されている。素材基部側は主要剥離面に加えられた平坦な剥離を打面としてノッチ状に素材を断ち切る連続的な背面調整を施し、これを彫刻刀打面として右側縁主要剥離面に橢状剥離を加えている。V類に分類した。素材先端側は素材を断ち切るように主要剥離面に施された調整を打面として背面に1条の橢状剥離が施されている。また、背面中央と右側縁に彫刻刀打面に切られた古い橢状剥離が残っており、彫刻刀面作出が最低でも2回行われていたことがわかる。49は玉體の石刀の先端にI類の彫刻刀面が作出されたもので、被熱している。右側縁に微小剥離痕が認められる。87は薄手の石刀の先端にI類の刃部を作出したもので、一見ナイフ形石器と区別のつかない基部調整が施されている。折れたナイフ形石器から器種替えされた可能性がある。86は石刀の先端にI類の刃部が作出されたもので、左側縁基部側に鋸齒状の調整が認められる。彫刻刀面の縁辺には背面側に集中した微小剥離痕が認められる。57は石刀の両端に刃部が作出されている。先端側の刃部は右肩に施された背面調整を打面として左肩に橢状剥離の加えられたV類で、彫刻刀面縁辺に微小剥離痕が認められる。基部側には器体を横断するようなI類の刃部が作出されている。92は石刀先端の右肩に施された橢状剥離を打面として左肩に橢状剥離が施されて彫刻刀面が作出されたV類で、左右両側縁に連続す

る小刺離痕が認められる。25は石刀を素材とし、先端側にV類、基部側にIV類の刃部が作出されたものである。先端側は素材を断ち切るようなゆるいノッチ状の背面調整を打面として左右両側縁に橢状刺離が施されている。基部側は、左側縁の連続的な調整を打面にして右側縁に斜めに彫刻刀面が作出されている。右側縁における彫刻刀面同士、左側縁における基部側の調整と先端側の橢状刺離の切り合はいずれも先端側の方が新しい。12は剥片ないし石刀の打面側の両側縁に彫刻刀面の作出されている彫刻刀形石器である。右側縁は側縁に沿って施された橢状刺離を打面として彫刻刀面が作出されている。また、左側縁は素材の打面から無調整で施されている。先端側の左縁辺にはエンドスクリューバー状の背面加工とこれより新しい主要刺離面へのノッチ状の調整が認められる。132は、幅広の石刀の先端に器体を切断するような調整を施し、これを打面として左側縁主要刺離面側に橢状刺離を加えて彫刻刀面が作出されたもので、V類に分類した。基部は左側縁の主要刺離面への調整と右側縁の主要刺離面と背面への調整とによって舌部を作り出すように整形されている。右側縁の調整は主要刺離面への調整の後に、背面に加えられておりナイフ形石器の基部加工とは明らかに異なる。

二次加工ある石刀(179) 出土した2点のうち、63の1点を図示した。もう一点の32は小破片なので除外した。石材はいずれも珪質頁岩である。63は石刀の折れ面に背面から連続的な調整が施されたものである。右側縁側に微小刺離痕が認められる。

石刀(180~187) 出土した19点(接合の結果18点)のうち9点(接合の結果8点)を図示した。石材は珪質頁岩17点(接合の結果16点)、頁岩1点、玉髓1点である。完形品はI類の24、III類の3+5である。また、36は先端を、4は打面側を欠損しているものの遺存率は高く、いずれもI類の可能性が高い。完形の3+5は背面に稜形痕をとどめている。

彫刻刀削片(188~202) 25点出土したうち15点を図示した。石材は25点全て珪質頁岩である。図示した中では、9・10・123の3点のみが素材の右肩ないし右側縁から刺離されたもので、他は全て左側縁から刺離されたものである。25点のうち打面を観察できた18点中17点が素材主要刺離面への調整を打面としており、I類ないしII類の彫刻刀面作出時に生じたものである。また、61はB3-153と接合した。

(6) ブロック7b出土石器(図版26・27、写真図版141・142)

ブロック7bからは、26点の石器が出土した。石器組成は第16表、石材組成は第17表のとおりである。

ナイフ形石器(203~206) 出土した4点全てを図示した。116は珪質頁岩の石刀を素材としたIa-1類で

第16表 ブロック7b石器組成表

母岩No.	ナイフ	彫刻刀	その他の	石刀	剥片	彫刻片	チップ	礫	計
4		1							1
6		1							1
11	1			2					3
13	1	1							2
15		2		1					3
19				1					1
20		1							1
28				1					1
29					1				1
31		2							2
単 独	1								1
母岩外	1			1	4		2	1	9
合 計	4	8	1	9	0	3	1	0	26

第17表 ブロック7b石材組成表

石 材 名	石 器	礫	合 計
珪質頁岩	22		22
玉 錦	2		2
擬 灰 岩	1		1
チャート	1		1
合 計	26	0	26

ある。先端を背面からの折れで欠損するが、右側縁に先端加工が一部残っている。基部主要剝離面の調整は背面加工よりも新しい。107・114・117の3点は先端のみが遺存しているもので、石材は107がチャート、114が珪質頁岩、117が玉髓である。107は先端左の背面側に、114は先端左の背面側と右の主要剝離面に調整が認められ、いずれもⅢ類である。117は先端にも微細な加工が認められるが、左側縁基部側にも調整が認められⅠ類と考えられる。

彫刻刀形石器(207~213) 出土した8点のうち7点を図示した。石材は111の玉髓を除いて全て珪質頁岩である。110は石刀の先端右肩の主要剝離面への調整を彫刻刀打面として左肩の縁辺から背面にかけて4条の槽状剝離が施された彫刻刀面である。左肩には槽状剝離に先行する背面調整が、左側縁には微小剝離痕が認められる。111は石刀の先端にⅠ類の刃部が作出されたもので、素材打面側を焼けはじけによって欠損する。108は厚手で幅広の石刀先端の左側縁に作出された槽状剝離を打面として右肩に刃部の作出されたⅢ類の彫刻刀である。両側縁には比較的大型の微小剝離痕がまばらに分布し、基部側を主要剝離面からの折れによって欠損している。103は石刀の打面側にノッチ状に背面加工を施して作出した尖頭部から1条の槽状剝離が主要剝離面側に施された彫刻刀でⅤ類に分類した。基部側も同様な尖頭部が作出されているがここには槽状剝離が見られず先端に微小剝離痕が認められた。先端側の槽状剝離が使用痕であるとするならばこの石器は錐形石器に分類されるべきかもしれないが、ここでは槽状剝離を優先する。120は石刀の打面側に刃部が作出されているが、焼けはじけにより彫刻刀打面作出方法を検討することができないので分類不能である。118は石刀の先端にⅠ類の刃部が作出されたものである。115も石刀の先端にⅠ類の刃部が作出された彫刻刀である。彫刻刀打面は右肩の主要剝離面に施された1枚の剝離面で、これを打面として器体を横断するような槽状剝離が施されている。基部調整はナイフ形石器のものと一見区別できず、折れたナイフ形石器から器種替えされたものかもしれない。

彫刻刀形石器母型(214) 82はⅠ類の彫刻刀形石器の母型と思われる。石刀先端の右肩の主要剝離面と両肩の背面に連続的な調整が施されている。両者の切り合いは背面への調整の方が新しい。

石刀(215~219) 出土した9点のうち5点を図示した。石材は9点全て珪質頁岩である。完形品はⅠ類の105・126、Ⅱ類の102で、102と105は接合する。また、104は背面に棱形成痕をとどめている。

彫刻刀削片(220・221) 3点出土しているが、図示したのは2点である。石材は3点とも珪質頁岩である。112はⅠ類の彫刻刀面作出時のものである。113は上半を欠損している。

(7) ブロック8出土石器(図版28・29、写真図版)42)

ブロック8からは26点の石器が出土した。石器組成は第18表、石材組成は第19表のとおりである。

ナイフ形石器(226~225) 出土した4点全て図示した。石材は全て珪質頁岩である。5・13・16はいずれもⅠa-1類で、先端を折れで欠損する。また、3点とも基部主要剝離面への調整の方が背面への調整より新しい。6は背面調整のみで基部が整形されたⅠb類で先端側を不規則な折れで欠損している。

彫刻刀形石器(226~229) 出土した4点全て図示した。石材は全て珪質頁岩製である。20は石刀の先端にⅠ類の刃部が作出された彫刻刀形石器である。19も石刀先端にⅠ類の刃部が作出されたもので、左肩の縁辺から背面にかけて4条の彫刻刀面が作出されている。基部側を背面からの折れで欠損する。15は石刀の先端にⅠ類の刃部が作出されたもので、彫刻刀面よりも新しい背面への調整が認められる。彫刻刀削片4・7との間で良好な接合資料が得られた。22も石刀の先端にⅠ類の刃部を作出するもので左肩の縁辺から背面にかけて2条の彫刻刀面が作出されている。

第18表 ブロック8石器組成表

母岩No.	ナイフ	彫刻刀	その他	石刃	剥片	彫刻片	チップ	礫	計
3						1			1
5	2								2
18				1					1
20				1					1
23		1		1					2
26						1			1
27		1					2		3
33				1					1
犀 鮫	2	1							3
母岩外		1		8			2		11
合 計	4	4	0	12	0	6	0	0	26

石刃(230~234) 出土した12点のうち5点を図示した。石材は珪質頁岩10点、頁岩1点、玉髓1点である。完形品は2・27の2点で全てII類である。また、3+12、26は依存率が高くそれぞれI類、II類であると考えられる。25は背面に棱形成痕をとどめている。

彫刻刀削片(235~240) 出土した6点全てを図示した。石材は6点全て珪質頁岩である。また、6点とも左肩ないし左側縁に作出されたI類の刃部作出時に生じたものである。8が彫刻刀形石器B5-82、彫刻刀削片B5-40と4、7が彫刻刀形石器15と接合する。

(8) ブロック外出土石器(図版30、写真図版143)

ブロック外出土石器で確実に旧石器と判断できる石器は32点である。

ナイフ形石器(241~244) 4点出土した。198はAE5区、113はAH5区からの出土で旧石器時代のブロック群からは大きく離れている。198はチャート製のやや不整形な石刃を素材としたIb-1類である。基部両側縁と先端左に背面への調整が認められる。113は珪質頁岩の石刃を素材としている。背面側は基部の両側縁と先端左に、主要刺離面側は左側縁全部と右側縁の基部とはか一部に調整が施されている。ほぼ全周に調整が施されることになり、本道跡で出土したナイフ形石器の中では特異な存在である。1098はAF12区からの出土で、珪質頁岩の石刃を素材としたIb類である。背面からの折れで先端側を欠損する。212は頁岩製の石刃を素材とし先端と基部の両側縁に調整が施されている。

彫刻刀形石器(245~247) 4点出土した。611はAG8区、191はAE5区、1087はAF11区からの出土である。611は珪質頁岩の石刃を素材としたII類の彫刻刀形石器で、素材先端の左肩を断ち切るような主要刺離面への調整を彫刻刀打面として左側縁と背面に彫刻刀面が作出されている。左側縁には不規則な二次加工が施されている。1087はI類の彫刻刀刃部作出時の彫刻刀削片を素材とした彫刻刀形石器である。素材先端の主要刺離面から無調整で極状刺離が施されている。II類に分類でき、石材は珪質頁岩である。191は珪質頁岩のやや不整形な石刃の打面側の主要刺離面に断ち切るような調整が施され、これを打面として両側縁に極状刺離が施されたII類の彫刻刀形石器である。

石刃(248) 出土した14点のうち、1点図示した。1080はAF11区から出土した珪質頁岩製の石刃である。

彫刻刀削片(249~251) 3点出土した。641はAF7区からの出土でチャート製である。I類の彫刻刀刃部作出時のものと思われる。背面上にはこの彫刻刀削片の刺離に先行する調整が認められる。1200はAF12からの出土で、I類の刃部作出時のものである。やはり削片刺離に先行する調整が認められる。珪質頁岩製である。369はAD5区からの出土である。珪質頁岩製で、II類の刃部作出時のものと思われる。

第19表 ブロック8石材組成表

石 材 名	石 器	磯	合 計
珪質頁岩	24		24
頁 岩	1		1
玉 錫	1		1
合 計	26	0	26

(9) 表面採集石器(図版30・31、写真図版143・144)

表面採集した石器のうち確実に旧石器時代の石器と判断したのは20点で14点を図示した。

ナイフ形石器(252~256) 5点図示した。252(実測図番号以下同じ)は玉髓製のIb-1類である。253はIa-1類、254はIII類、255はIb類、256はIa-1類でいずれも珪質頁岩製である。Ia-1類の2点の基部主要剥離面への調整はいずれも背面加工よりも新しい。

彫刻刃形石器(257~266) 9点図示した。全て珪質頁岩製である。257は石刃打面側の背面右肩への調整を彫刻刃打面として左側縁に彫刻刃面が作出されたIV類である。258は石刃先端の左肩にI類の刃部を作出したもので、楕状剥離に先行する背面への調整が認められる。右側縁主要剥離面に平坦な調整が認められるが、左側縁主要剥離面の連続的な剥離は発掘時の破損である。259は石刃打面側の右肩に主要剥離面への調整が施され、これを打面として左肩に彫刻刃面が作出されている。石器基部の右側縁に連続的な調整が認められる。260は石刃の先端側にI類の刃部を作出したもので、両側縁の主要剥離面に連続的な調整が認められる。261は石刃を素材とし、先端側左肩の背面調整を彫刻刃打面とするものでIV類である。263は石刃の先端側にI類の刃部を作出したもので、楕状剥離は4条施されている。262は石刃の打面側の背面調整を打面として右側縁に楕状剥離が施されたもので、V類にあたる。下半部は回り込んだ楕状剥離によって欠損している。264は石刃の先端に右下がりの背面加工が施されたものである。エンドスクレイバーの可能性もあるが、確実ではないものの左側縁の背面加工に切られた小剥離が楕状剥離と考えられることから彫刻刃形石器としておきたい。

C 母 岩 別 資 料

上ノ平遺跡C地点出土石器群は珪質頁岩を主体とし接合資料も少ない。そこでA地点出土石器群同様、主に母岩の共有関係からブロックの同時性を検討することを目的として母岩の識別を行った。したがって、母岩の識別の不確実な資料はたとえ同一母岩の可能性があっても識別不能とした。

(1) 母岩の識別と分類

上ノ平遺跡C地点の手掘り出土石器のうち175点を35母岩に分類した。また、明らかに単独母岩資料と考えられる石器が12点ある。各母岩の特徴を第20表、出土点数と母岩の分類を第21表に示した。母岩の識別は、色調、模様、自然面の特徴、粒度、光沢などを参考にして行った。出土石器には灰白色の極細粒緻密で光沢を有する母岩が多く、特にチップ、彫刻刃削片ではこれらを識別することは困難であった。

A地点同様、遺跡内で行われた石器製作の工程によって各母岩をI~IIIに分類した。

I類：遺跡内で石刃生産およびトゥールの製作・刃部再生が行われた痕跡を持つもの。石刃生産の痕跡は、石刃、各種調整削片、チップの多出、接合資料の存在を基準とし、トゥールの製作・刃部再生は彫刻刃削片、チップの出土を基準とした。

II類：遺跡内でトゥールの製作または刃部再生が行われた痕跡を持つもの。

III類：遺跡内で石器製作が行われた痕跡を持たず、トゥールが搬入されたと思われるもの。

この結果、35の母岩はII類13母岩、III類22母岩で、単独母岩資料12点もIII類と考えられることから、III類は34母岩であることになる。I類の母岩は存在しなかった。ただし、サンプリングエラーや削片・チップにおける母岩識別率が特に低いことを考慮すると、II類の割合が低く見積もられているかもしれない。し

第20表 各母岩の特徴 (旧石器)

部No.	岩石名	色調	粒度	光沢	特徴	自然面の特徴
1	珪質頁岩	灰白色	極細	中	白色の斑点状の模様	浅黄色で表面なめらか
2	珪質頁岩	灰白色	極細	中		
3	珪質頁岩	灰白色	極細	中	白色の斑点状の模様	浅黄色で表面なめらか
4	珪質頁岩	灰白色	極細	強	にぶい赤褐色の墨流し状の模様	
5	珪質頁岩	灰白色	細	中	明黄褐色の夾雜物	
6	珪質頁岩	灰白色	細	弱	模様	
7	珪質頁岩	灰白色	細	中	黒色粒子を含む	
8	珪質頁岩	灰白色	細	弱	黒色粒子を含む	
9	珪質頁岩	灰黃褐色	細	中		灰白色で表面なめらか
10	珪質頁岩	褐灰色	極細	中		
11	珪質頁岩	褐灰色	中	弱	模様	
12	玉髓	灰白色	細	弱	灰黃褐色の模様	
13	珪質頁岩	黃灰色	細	弱	黃褐色の斑点状のしみ	灰褐色
14	珪質頁岩	灰白色	細	弱	にぶい赤褐色の模様	浅黄色で表面なめらか
15	珪質頁岩	黃灰色	細	弱		
16	珪質頁岩	灰黃褐色	極細	強	褐色の墨流し状の模様	明黄褐色で表面凹凸あり
17	玉髓	にぶい褐色	細	弱	明青灰色・灰白色の模様	
18	珪質頁岩	褐灰色	中	弱		
19	珪質頁岩	褐灰色	中	弱	模様、黃褐色の粒子多量に含む	にぶい黄褐色で表面は細かな凹凸あり
20	玉髓	青灰色	細	弱	白色の粒子、焼けたもの灰白色	
21	珪質頁岩	灰白色	中	弱	白色部分と灰色部分あり	
22	珪質頁岩	灰白色	中	弱	模様	
23	珪質頁岩	褐灰色	極細	中	淡黄色の部分がある	
24	珪質頁岩	黃灰色	極細	中	黒褐色の斑点、網目状の模様	
25	珪質頁岩	黃灰色	細	中	淡黄色の粒子	
26	珪質頁岩	灰色・黃灰色	細	弱	模様	
27	珪質頁岩	灰白色	細	強	やや色の濃い部分有り	
28	珪質頁岩	灰褐色	極細	強		にぶい黄褐色
29	珪質頁岩	灰白色	細	中	模様	褐灰色でなめらか
30	玉髓	暗褐色	細	強	白色の模様	
31	珪質頁岩	灰黃褐色	極細	中	斑状の模様	
32	珪質頁岩	褐灰色	細	弱		淡黄色
33	珪質頁岩	灰白色	極細	中		
34	珪質頁岩	にぶい黄褐色	中	弱		明黄褐色表面なめらか
35	珪質頁岩	灰白色	極細	中	褐色の模様	

かし、もし仮に識別不能資料の中に同一母岩資料があったとしても、石刃生產が行われていたとは考えられず、I類の母岩が存在しない点については大きく変更される可能性は低いと考える。

(2) ブロック間での共有状況

母岩別資料の出土状況を図版36~41に、ブロック別出土点数を第22表に示した。ブロック3aから8まで順に36点、25点、11点、35点、38点、16点、12点で母岩が識別され、全てのブロックの間で母岩の共有関係が認められる。したがって、上ノ平遺跡C地点の7か所の旧石器時代のブロックは母岩の共有レベルでの同時性が検証された。点数が少ないとおり、母岩の共有関係における特定ブロック同士の強い結びつきは認められない。各母岩とも各ブロックに散在しているように見える。

D 接合資料 (図版31~35、写真図版144~146)

石刃の折れ面での接合などを除いた12例を提示する。

第21表 各母岩の出土点数と分類

母岩No.	ナイフ	彫刻刀	その他	石刃	削片	側面片	チップ	計	分類
1	2	5		3		3	1	14	II
2	2	1						3	
3	1	2		1		1	5	7	III
4		4		1	2			7	III
5	2							2	III
6	1	2		1			4	5	III
7	1	2		4	1	1	9	11	III
8	1			1	1		3	5	III
9				2			2	4	III
10	1	3					4	5	III
11	1			3		1	5	7	III
12		1		1			2	3	III
13	2	2	I	2		1	8	11	III
14				4		3	7	10	II
15	1	2		1			4	5	III
16		3		1			4	5	III
17				2			2	4	III
18				3			3	6	III
19	3			1	2		6	8	II
20	1	5		3	1	1	1	12	II
21		2				3		5	
22	4			1	3		8	11	II
23	1	2		2			5	7	III
24	1			1			2	3	III
25	1			2			3	5	III
26	1			2	2	2	7	11	II
27	3			2	2		7	9	III
28	1				2		3	5	II
29	1	2		1	4		2	10	II
30		1		1				2	III
31	4			2			6	8	III
32	1			1			2	3	III
33	2			2			4	6	III
34	1				1		2	3	III
35					2		2	4	III
単 種	5	5		2				12	III
計	25	64	1	50	15	26	6	187	

第22表 各母岩のプロック別出土点数

母岩No.	3a	3b	4	5	7a	7b	8	外	計
1	6		1	4	3				14
2				1	2				3
3	1			1	2	1			5
4		4			2	1			7
5							2		2
6	2			1		1			4
7	1	4		2	2				9
8	2				1				3
9				2					2
10	1		1		2				4
11				1	1	3			5
12	1				1				2
13	1			2	3	2			8
14		2		2	3				7
15	1					3			4
16			2		2				4
17	1	1							2
18				2			1		3
19	2		1		2	1			6
20	2	4			4	1	1		12
21	2				3				5
22	1	3	1	3					8
23	2		1			2			5
24	1				1				2
25	3								3
26			2	4			1		7
27		2	1	1		3			7
28	2					1			3
29	1	4		3	1	1			10
30	1	1							2
31	1		1		2	2			6
32				2					2
33				3		1			4
34				1			1		2
35					1			1	2
計	36	25	11	35	38	16	12	2	175

接合資料1 (B3-47+B3-118)

母岩20の彫刻刀形石器B3-47と削片B3-118の接合資料である。接合距離は2.4mであるが、B3-47はIIa層からの出土で新しい破損を受けており信頼できる数字ではない。削片B3-118の剥離によって石刃端部にI類の彫刻刀面が作出されているが、削片の打面側と彫刻刀形石器基部側は欠損している。彫刻刀形石器の欠損は新しいものである。

接合資料2 (B3-95+AE11-25-b①+B3-88)

母岩21における彫刻刀形石器と削片2点の接合資料である。削片のうち1点はふるい選別で得られた。接合距離はB3-95とB3-88の間で1.6mで、AE11-25も両者の間に位置する。石刃先端の右側縁から打面作出が行われずに2点の削片が剥離され彫刻刀面が作出されている。これに先行する彫刻刀面があることから、この接合資料は刃部再生を示していると考えられ、刃部が石刃の長軸方向に後退していることがわかる。

接合資料3 (B3-40+B3-46+B7-81)

母岩28における彫刻刀形石器B3-46、削片B3-40、石刃B7-81の接合資料である。接合距離はB3-40とB3-46で5.8m、B3-40とB7-81で17.2mである。B3-46とB3-40の接合は彫刻刀形石器の刃部再生を、B3-46とB7-81の接合は石刃剥離を示す。B7-81は打面側を折れで欠損する石刃であるが、その形態から石刃の打面は折れ面からかなり遠いものと思われる。B3-46の素材となった石刃はB7-81以前に剥離されたものであるから、その打面がB3-46よりも近いということはありえない。途中折断などによる調整が行われていないとすれば、B3-46とB3-40で示される一連の刃部再生によって石刃の長さが大きく減少していることがわかる。

接合資料4 (B5-82+B5-40+B8-8)

母岩26における彫刻刀形石器と削片2点の接合資料である。接合距離はB8-8とB5-40で32.8m、B5-40とB5-82で1.2mである。この接合資料も彫刻刀における刃部が石刃の長軸方向に後退してゆく刃部再生を示していると考えられる。これに先行する彫刻刀面が存在し、B8-8の先端でも素材石刃が十分に厚いことから、この接合資料以前にも刃部再生が繰り返され、素材石刃の長さがかなり減少していた可能性が高い。この接合資料は1枚目の削片がブロック8から、2枚目の削片と彫刻刀形石器がブロック5から出土しているおり、B8-8剥離後彫刻刀形石器がブロック5に移動したと考える。

接合資料5 (B5-77+B5-74)

母岩22における彫刻刀形石器B5-77と削片B5-74の接合資料で、接合距離は1.2mである。楕状剥離を打面として削片B5-74が剥離され、新たな彫刻刀面が作出される刃部再生を示す接合資料である。削片の剥離に先行する背面への調整が認められる。

接合資料6 (B5-70+B5-18+B5-31)

母岩21における彫刻刀形石器B5-70と削片B5-18・B5-31の接合資料である。接合距離はB5-18とB5-31で2.5m、B5-18とB5-70で0.6mである。接合資料2や4と同様、素材石刃の長軸方向に後退する刃部再生を示す接合資料である。B5-31とB5-18の彫刻刀打面は同一ではなく、打面作出と楕状剥離がくり返されていたことがわかる。

接合資料7 (B5-69+B5-193)

母岩32における彫刻刀形石器B5-69と削片B5-193の接合資料で接合距離は2.2mである。彫刻刀形石器の先端左肩に削片が接合しており、I類の彫刻刀刃部の再生を示している。

接合資料8 (B7-105+B7-102)

母岩11における石刃同士の接合資料で接合距離は2.1mである。2点の石刃の打面の高さが違っており、B7-102の剥離からB7-105の剥離の間に打面再生が行われたことがわかる。しかし、この遺跡では同一母岩の打面再生剥片や碎片など石刃生産に伴う遺物が出土していないことから、この2点の石刃は他の遺跡で剥離されたものが持ち込まれたと考える。

接合資料9 (B5-51+B5-66)

母岩7における彫刻刀形石器B5-51と削片B5-66との接合資料で、I類の彫刻刀の刃部再生を示す。B5-66の背面には先行する彫刻刀面が残るが、この彫刻刀面を打面として、彫刻刀形石器背面に連続的な調整が施されている。また、刃部再生が石刃の長軸方向に後退するように進行していたものと思われる。

接合資料10 (B7-87+B7-27)

母岩7における彫刻刀形石器B8-87と削片B7-27の接合資料で接合距離は3.1mである。B7-87は

その形態から破損したナイフ形石器から器種替えされた可能性を既に指摘したが、この接合資料からはこれを証明することができなかった。削片B7-27には背面への調整が認められる。

接合資料11(表採16+B7-61)

母岩35における彫刻刀削片同士の接合資料である。彫刻刀形石器本体は出土せず、遺跡外に持ち出されたことを示している。B7-61剥離と表採16の剥離の間には少なくとも一回の楕状剥離と背面調整が行われている。B7-61に先行する背面調整も認められ、背面調整と楕状剥離を繰り返しながら、I類の彫刻刀刃部の再生が行われたことがわかる。また、この接合資料でも接合資料2・4・6・9同様石刃の長軸方向に刃部が後退しているようである。

接合資料12(B8-15+B8-7+B8-4)

母岩27における彫刻刀形石器B8-15と削片B8-7・B8-4の接合資料である。接合距離はB8-4とB8-7で1.1m、B8-7とB8-15で3.0mである。I類の彫刻刀刃部の再生を示す接合資料と考えられる。彫刻刀形石器の左肩に施された背面調整はB8-7の剥離以後のものであり、この調整以降の楕状剥離は認められない。彫刻刀面や削片の背面にしばしば認められるこうした調整がいつも楕状剥離の直前に行われるわけではないことをこの接合資料は示している。

E ふるい選別資料

ブロック3a・3b・5では微細遺物の回収を目的として、土壤のふるい水洗を行った。土壤を採集した範囲は、ブロック3a・3bがAE11-6-25・AF11-1-5、ブロック5がAF15全体である。この範囲を50cmグリッドに分割し土壤採集を行った。また、土壤採集は調査期間などから限定して行わざるをえず、A地点でのふるい選別の結果を参考にして、遺物の埋没後の移動が少なく比較的出土点数の多いと思われるⅢ層上面から5cmずつ2回行った。これはⅢ層のほぼ全てをサンプリングしたことになる。したがって、今回のふるい選別は悉皆採集をめざすというよりはサンプリングエラーの程度を検討する意味あるいは強い。使用したフルイは3mmメッシュである。これは今回のふるい選別の主な目的が、A地点同様彫刻刀削片の回収を目的としているためである。

ブロック3a・3bからチップ109点、彫刻刀削片33点、合計142点、ブロック5からチップ35点、彫刻刀削片11点、合計46点の遺物が得られた。ブロック3a・3bではⅢ層からチップ1点、彫刻刀削片11点、ブロック5ではチップ20点、彫刻刀削片22点を手掘りの遺構精査で検出している。これらを比較するとブロック3a・3bとブロック5の間で手掘り調査の精度に大きな差が見られる。いずれのブロックでも遺構精査におけるトゥールや石刃の見落としは認められなかったものの、比較的調査精度の高いブロック5でも彫刻刀削片の3分の1を見落としていることになり、手掘り調査における微細遺物の回収には限界があることを示している。

ふるい選別資料のグリッド別出土状況を第23・24表に示した。ブロック3aのAE11-13・14・18・19で多量の彫刻刀削片が出土しており、この周辺で彫刻刀形石器を使用した活動が盛んに行われていたものと思われる。ブロック5でもAF15-8付近に彫刻刀削片がわずかながらまとまっている。

第23表 ブロック3a・3bふるい選別資料出土点数

1回目		チップ			彫刻刀削片		
2							
1		1	1	1			
1		1	1	2 1 1			
1		1	2 1	3			
3	2	1 1	1 3 1	2			
1	1	1	1	1			
2	1	1	1	1			
1	1	1 1	1				
1	1	1		1			
1	1	1 1	1				

2回目		チップ			彫刻刀削片		
1		1	1	1			
1		1	1	1			
1		1	1	4 2 1			
1		1	3 2				
1		1	1	2			
1	1	1	1	2 1 1			
1	1	1	1	1			
1	1	1		2			
1	1	1		1			
1	1	1		1			

0 6 m

	6	7	8	9	10
AE II	11	12	13	14	15
	16	16	17	18	19
	21	22	23	24	25
AF II	1	2	3	4	5

第24表 ブロック5ふるい選別資料出土点数

チップ					彫刻刀削片				
	1					1			
	1 3		1 1			1			
1		1		1					
1 1	2 1								
2	1			1					
	1 1								
1 1	4			1					
2		2							
	1								
1		1							

	1	2	3	4	5
AF 15	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25

0  6 m

第25表 プロツク3a出土石器観察表(1)

番号	図No.	人ケリヤ	北南	東西	厚	幅	高	分類	絶大長	絶大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	縫隙	破損	備考
18	34	A E11	680	565	Ⅱ a	71.617	B L	62.8	33.4	7.1	9.93	珪質	有	破損			
19		A E11	638	609	Ⅱ b	71.606	B L	22.5	21.7	4.6	1.75	珪質	無	破損			
20	30	A E11	637	640	Ⅱ b	71.483	B L	51.3	16.3	4.9	4.06	珪質	單	無	破損	棱形	
21		A E11	587	657	Ⅱ a	71.719	B L	23.9	16.7	2.8	0.90	珪質	無	破損			
22	26	A E11	578	688	Ⅲ	71.476	B L	51.8	13.6	3.3	3.07	珪質	1	無	完形		
23	38	A E11	636	711	Ⅱ b	71.480	B L	45.5	10.4	3.4	1.63	珪質	無	破損			
24		A E11	540	705	Ⅱ a	71.739	B L	24.1	14.5	4.4	1.39	珪質	無	破損			
25	41	A E11	618	767		71.649	B L	45.4	27.9	7.2	9.49	珪質	單	無	破損		
27		A E11	595	792		71.569	B L	53.3	15.6	4.9	3.77	珪質	無	破損			
29	48	A E11	464	876	Ⅱ b	71.581	B S	24.6	5.8	2.8	0.27	珪質	無	破損			
30	5	A E11	559	919	Ⅱ a	71.560	K N	32.9	17.3	3.4	1.54	珪質	無	破損			
31	51	A E11	645	810	Ⅱ b	71.485	B S	25.3	17.2	5.7	1.80	珪質	1	無	完形		
32	29	A E11	696	662	Ⅲ	71.478	B L	60.9	13.9	4.2	2.57	珪質	無	破損			
33	22	A E11	643	789		71.598	B U	42.3	23.4	6.6	6.97	頁岩	無	破損			
34	11	A E11	667	809	Ⅱ a	71.636	B U	39.7	28.4	7.1	7.07	珪質	單	無	破損		
35	49	A E11	696	793	Ⅲ	71.517	B S	30.5	6.7	2.8	0.40	珪質	無	完形			
36	33	A E11	744	906	Ⅱ a	71.683	B L	66.7	33.1	5.8	10.10	珪質	25	有	破損		
37	12	A E11	705	768	Ⅱ b	71.517	B U	39.9	31.2	10.7	10.70	珪質	7	無	破損	後形成	
38		A E11	722	878	Ⅱ a	73.000	F L	40.6	17.4	3.5	1.92	頁岩	有	破損			
40	45	A E11	735	827	Ⅱ a	71.791	B S	23.2	9.9	3.9	0.64	珪質	28	無	完形		
41	3	A E11	733	807	Ⅱ a	71.967	K N	55.5	16.9	3.9	4.53	珪質	6	無	破損		
42	20	A E11	247	743	Ⅱ b	71.592	B U	67.4	32.1	4.5	11.70	珪質	24	無	完形		
43	8	A F11	31	829	Ⅱ a	71.826	B U	45.8	22.3	11.0	10.10	珪質	29	無	破損	後形成	
44		A F11	105	821	Ⅱ a	71.782	B L	42.3	23.0	3.3	2.88	珪質	6	無	破損		
45	16	A E11	984	755	Ⅱ b	71.591	B U	42.5	23.5	3.7	4.02	玉髓	30	無	完形		
46	6	A F11	178	684	Ⅱ a	71.670	B U	42.7	22.3	6.0	6.30	珪質	28	有	破損		
67		A F11	189	580	Ⅱ b	71.576	P B	92.0	82.5	55.9	413.80	砂岩	無	完形			
69		A D11	988	673	Ⅱ a	71.639	P B	77.5	33.2	23.5	45.30	凝灰岩	無	完形			
70	47	A E11	733	862	Ⅱ b	71.586	B S	17.5	12.8	3.1	0.72	珪質	無	破損			
72	19	A E11	501	594	IV	71.315	B U	70.3	25.6	4.8	8.82	珪質	無	完形			
73		A E11	588	639	IV	71.318	B S	13.8	9.7	6.6	0.64	珪質	19	無	破損		
74	27	A E11	665	549	Ⅲ	71.347	B L	71.2	27.7	5.3	8.29	珪質	23	無	完形		
75	31	A E11	609	700	IV	71.333	B L	85.1	22.2	6.2	9.31	珪質	34	無	破損		
76	54	A E11	612	719	IV	71.340	B S	17.3	7.8	2.2	0.31	珪質	無	完形			
77	18	A E11	830	31	V	71.228	B U	78.3	42.6	12.7	38.96	玉髓	20	無	完形		
80		A E11	606	899	V	71.255	B L	43.4	15.2	2.7	1.16	珪質	無	破損			
82	35	A E11	317	971	Ⅱ a	71.546	B L	97.5	75.7	16.2	130.80	凝灰岩	無	完形			
83		A E11	396	945	Ⅲ	74.408	R B	74.7	43.8	13.4	26.60	頁岩	無	破損			
84	42	A E12	518	333	II	71.590	B L	50.6	33.5	5.7	7.59	玉髓	12	無	破損		
85	43	A E12	522	50	II	71.644	B L	36.9	22.8	3.3	1.84	珪質	8	無	破損		
86	44	A E12	578	431	II	71.592	B L	31.7	15.6	4.1	1.83	珪質	8	無	完形		
87	39	A E12	673	11	IV	71.357	B L	31.0	28.4	6.3	5.59	珪質	3	無	破損		
88	55	A E12	743	44	Ⅲ	71.465	B S	18.6	6.1	2.4	0.37	珪質	21	無	完形		
89	13	A E12	743	15	Ⅲ	71.466	B U	99.8	27.7	6.4	14.70	頁岩	無	完形			
90		A E11	765	995	Ⅱ b	71.655	B L	25.2	22.0	4.0	1.72	頁岩	無	破損			
91		A E11	744	972	Ⅲ	71.437	B U	18.5	17.1	3.6	1.18	珪質	無	破損			
92		A E11	768	948	Ⅲ	71.395	K N	5.7	7.7	2.5	0.22	珪質	無	破損			
93	25	A E11	683	915	Ⅲ	71.437	B L	60.2	50.6	7.9	21.70	珪質	有	破損			
94	1	A E11	694	900	Ⅲ	71.439	K N	79.4	17.3	4.1	6.44	珪質	15	無	破損		
95	23	A E11	708	890	Ⅲ	71.456	B U	74.7	36.1	6.9	17.10	珪質	21	無	破損		
96	10	A E11	725	892	Ⅲ	71.418	B U	76.5	34.7	6.7	18.70	珪質	1	無	完形		
97		A E11	698	875	Ⅲ	71.473	B S	10.3	4.9	2.8	0.12	頁岩	有	完形			
98		A E11	710	885	IV	71.318	B L	11.9	6.7	1.3	0.10	珪質	無	破損			
99	53	A E11	711	858	IV	71.377	B S	14.8	11.1	2.9	0.50	珪質	無	完形			
100	26	A E11	701	805	IV	71.358	B L	79.6	21.4	6.5	9.46	珪質	25	無	完形		
101		A E11	678	760	IV	71.377	B S	15.8	3.4	1.2	0.06	珪質	無	完形			
102		A E11	690	757	IV	71.355	B S	10.1	4.6	1.2	0.06	珪質	無	破損			
103	40	A E11	704	756	IV	71.348	B U	50.9	26.9	4.6	6.98	玉髓	20	無	破損		
104	52	A E11	709	761	Ⅲ	71.443	B S	30.7	10.9	3.8	1.55	珪質	無	完形			
105		A E11	743	781	Ⅲ	71.416	C H	15.7	13.8	2.5	0.32	珪質	有	破損			

第26表 ブロック3 a出土石器観察表(2)

遺物No.	図No.	大アリヤド	北東	西東	層	標	高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	成熟	破損	備考
106 36	A E11	743	756	III		71.295	BL	101.6	66.2	11.8	55.5	珪質		無	破損		
107 9	A E11	760	780	III		71.426	BU	59.4	25.6	12.5	13.0	珪質	10	無	完形		
108	A E11	695	729	III		71.400	BU	17.5	10.2	5.9	0.94	珪質	23	無	破損		
109 50	A E11	705	739	III		71.342	BS	22.0	8.3	4.7	0.76	珪質	19	無	完形		
125	A E11	829	896	IV		71.247	BL	28.5	12.8	1.8	0.46	珪質		無	破損		
126 4	A E11	785	691	III		71.420	KN	89.6	8.8	5.6	3.36	珪質		無	完形		
127	A E11	884	679	IV		71.385	BL	23.6	19.4	2.8	1.24	珪質		無	破損		
128 24	A E11	819	687	IV		71.370	BU	45.4	15.1	3.3	2.75	珪質	1	無	完形		
129	A E11	772	704	IV		71.268	BL	26.4	16.7	4.7	1.47	珪質	13	無	破損		
130 21	A E11	996	715	IV		71.357	BU	49.4	20.3	4.0	8.60	珪質	1	無	完形		
131 46	A E11	856	750	V		71.167	BS	27.5	21.5	10.5	3.54	珪質		無	完形		
132 2	A E11	804	765	IV		71.236	KN	64.0	15.2	4.0	4.29	珪質	1	無	完形		
133	A E11	829	745	IV		71.244	BL	53.3	15.8	2.7	2.44	珪質		無	破損		
134 14	A E11	822	777	III		71.322	BU	65.3	56.3	9.7	28.1	珪質	3	無	破損		
135	A E11	892	862	III		71.370	BS	12.7	8.3	2.0	0.13	珪質		無	破損		
136	A E11	838	877	III		71.394	BL	38.7	24.6	3.0	1.80	珪質		無	破損		
137	A E11	816	876	V		71.218	BS	19.2	3.8	0.9	0.04	珪質		無	破損		
138 32	A E11	835	911	III		71.458	BL	63.9	37.1	12.6	19.6	玉髓	17	無	破損		
139	A E11	813	924	III		71.447	BS	10.9	5.0	1.6	0.10	珪質		無	破損		
140	A E11	821	959	III		71.498	BS	12.1	6.9	0.8	0.09	珪質		無	完形		
141	A E11	808	961	II b		71.628	CH	17.7	13.1	2.5	0.63	珪質		有	破損		
142 15	A E11	895	971	III		71.472	BU	67.1	26.0	8.1	13.0	珪質	25	無	破損		
143 7	A E11	943	978	III		71.463	BU	63.0	27.3	6.2	9.42	珪質	22	無	破損		
144	A E11	972	999	II b		71.652	FL	21.9	19.9	3.6	1.43	珪質		有	破損		
145 17	A E12	938	37	II a		71.760	BP	37.8	17.8	5.1	3.63	珪質		無	完形		
149 37							BL	91.0	25.4	8.1	17.5	珪質	22	無	破損		

第27表 ブロック3 b出土石器観察表(1)

遺物No.	図No.	大アリヤド	北東	西東	層	標	高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	成熟	破損	備考
1	A E11	657	403	II b		71.515	PB	23.9	21.8	3.9	2.13	板状		無	完形		
2	A E11	664	350	II a		71.605	BL	29.2	27.3	5.9	3.1	珪質		無	破損		
3	A E11	683	328	II a		71.610	CH	11.3	7.8	2.1	0.15	珪質		無	完形		
4	A E11	661	309	II a		71.694	R F	20.9	16.4	3.3	0.9	珪質		無	破損		
5	A E11	590	365	II a		71.550	FL	37.7	19.7	8.8	3.24	珪質		無	破損		
8 71	A E11	606	223	II a		71.713	BL	47.2	27.8	3.7	4.7	珪質		無	破損		
9 61	A E11	641	224	II a		71.720	BU	45.6	24.0	5.3	6.56	珪質		有	破損		
10 58	A E11	577	105	II a		71.519	KN	42.6	12.4	4.2	2.23	玉髓		無	完形		
12	A E11	640	119	II a		71.632	BL	43.2	24.8	6.4	7.65	珪質		無	完形		
13	A E10	727	854	II a		71.584	BL	31.1	15.0	4.0	1.27	珪質		無	破損		
15 66	A E10	696	970	II a		71.579	BU	46.4	31.8	15.1	21.0	頁岩	單	無	完形		
16 70	A E11	688	159	III		71.412	BL	52.4	12.4	3.6	2.86	珪質	7	無	完形		
17	A E10	646	810	II a		71.676	CH	12.5	11.3	2.3	0.3	玉髓		無	完形		
47 64	A F11	94	487	II b		71.692	BU	28.6	22.6	4.7	2.72	玉髓	20	無	破損		
48	A F11	303	331	II b		71.545	BL	23.1	17.2	2.1	0.83	玉髓	20	有	破損		
49	A F11	220	399	II b		71.583	BL	24.1	21.0	3.0	1.34	珪質		無	破損		
50	A F11	147	399	II b		71.567	FL	24.0	16.9	5.0	2.35	珪質		有	破損		
51	A E11	686	499	II a		71.508	FL	20.5	9.1	1.9	0.27	珪質	4	有	破損		
52	A E11	973	398	II a		71.593	FL	42.6	22.3	3.5	1.92	珪質	4	有	破損		
53 65	A F11	87	367	II a		71.680	BU	27.1	18.3	4.6	2.15	珪質	4	有	破損		
54 26	A F11	108	372	II a		71.576	BL	67.7	16.0	6.2	5.88	珪質	27	無	破損		
55 68	A F11	66	270	II a		71.696	BL	38.5	25.6	5.6	5.66	珪質	14	無	破損		
57	A F11	156	136	II a		71.508	FL	22.9	21.0	8.6	3.57	ナガ		有	破損		
58 74	A F11	95	92	II b		71.551	BL	62.1	26.4	6.0	10.5	珪質	27	無	破損		
59 80	A F11	85	49	II a		71.625	BS	19.3	7.6	3.3	0.33	珪質	29	無	完形		
60 75	A F11	19	92	II a		71.640	BL	31.0	30.7	9.4	8.28	珪質		有	破損		
61	A F11	29	82	II a		71.582	BS	15.4	7.7	1.6	0.14	珪質		無	完形		
62	A F10	10	925	II b		71.576	BU	12.3	11.5	2.4	0.3	珪質		加	破損		
63	A E11	141	141	II a		71.710	BL	33.0	24.4	4.6	2.82	流紋		無	破損		
64 78	A E11	115	180	II a		71.726	BS	35.2	8.1	5.3	1.85	珪質	14	無	破損		
71 69	A E11	816	253	III		71.402	BL	41.9	21.0	5.9	3.9	珪質	29	無	完形		
79	A E11	880	489	V		71.242	BS	12.6	7.8	1.7	0.15	珪質		無	破損		
110 73	A E11	802	86	III		71.332	BL	35.3	20.4	3.6	1.86	珪質	7	無	破損		

第28表 プロック3 b出土石器観察表(2)

遺物No.	遺物No.	大分類	北南	東西	層	標高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備考
111	63	A E11	875	144	III	71.347	B U	79.3	24.7	9.4	16.2	珪質	29	無	破損	
112		A E11	938	111	III	71.335	F L	19.7	8.1	2.6	0.35	頁岩		有	破損	
114	56	A E11	850	207	III	71.327	K N	43.5	19.9	4.5	3.05	珪質	29	有	破損	
115	59	A E11	923	247	IV	71.225	K N	54.0	16.5	4.9	3.15	珪質	單	無	破損	棱形成
116	72	A E11	975	235	IV	71.223	B L	119.3	47.3	12.8	51.3	玉髓	17	無	破損	
117	79	A F11	48	187	III	71.356	B S	22.2	7.3	3.3	0.51	頁岩		無	破損	
118	81	A F11	59	249	IV	71.277	B S	20.4	6.7	2.3	0.27	玉髓	20	無	破損	
119		A F11	87	305	IV	71.205	B L	49.1	18.1	4.1	3.09	珪質	7	無	破損	
120	77	A F11	30	300	III	71.352	B S	37.5	10.9	3.3	4.11	珪質	22	無	完形	
121		A E11	971	365	IV	71.325	B L	18.9	17.3	3.1	0.73	珪質	4	有	破損	
122		A E11	813	375	IV	71.292	C H	15.1	10.2	3.6	0.64	珪質		無	完形	
123	67	A F11	11	420	III	71.356	B L	63.1	27.4	7.4	9.47	玉髓	30	無	完形	
124	62	A F11	73	450	III	71.345	B U	93.8	29.3	8.1	32.2	玉髓	單	無	完形	
150	60						B U	76.8	27.8	6.7	13.6	珪質	22	無	完形	
151	57						K N	80.6	14.9	3.8	4.25	珪質	7	無	破損	

第29表 プロック4出土石器観察表

遺物No.	遺物No.	大分類	北南	東西	層	標高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備考
1	95	A E13	864	953	III	71.713	B S	16.9	9.6	1.6	0.24	珪質		無	完形	
2		A E13	911	989	II a	71.877	B L	22.4	11.0	1.8	0.35	珪質		有	破損	
3	87	A E13	900	901	III	71.675	B U	45.8	15.0	6.3	3.86	珪質	16	無	破損	
4		A E13	876	761		71.528	P B	116.9	83.0	47.0	432.8	花崗岩		有	完形	
5	82	A E13	758	635	III	71.530	K N	35.6	15.0	6.0	2.84	玉髓	單	無	破損	
6		A E13	984	914	II b	71.725	C H	19.9	11.3	3.4	0.71	珪質		無	破損	
7		A E13	995	817	IV	71.555	F L	45.0	31.3	10.7	16.2	珪質		無	破損	
8	95	A F13	47	925	III	71.625	B S	26.0	7.0	2.1	0.51	珪質		無	完形	
9		A E13	992	796	III	71.556	B L	81.4	15.1	3.3	3.91	珪質		無	破損	
10	94	A F13	47	881	III	71.595	B L	97.3	28.1	12.2	20.1	珪質		無	完形	
11	93	A F13	35	885	IV	71.523	B L	99.7	35.7	9.4	30.9	珪質		無	破損	
12		A F13	78	882	III	71.636	C H	16.1	9.8	2.3	0.32	珪質		無	完形	
13	89	A F13	14	781	V	71.461	B U	72.7	40.7	16.3	40.3	珪質	16	無	完形	
14	92	A F13	104	731	II a	71.909	B L	76.6	21.9	10.7	12.3	珪質		無	完形	
15	91	A F13	81	656	III	71.650	B L	43.3	18.0	3.9	2.89	珪質	31	無	破損	
16		A F13	35	627	II b	71.692	F L	22.6	7.3	1.5	0.19	珪質	26	無	破損	
17	97	A F13	74	614	IV	71.542	B S	20.8	11.2	3.3	0.7	珪質	22	無	破損	
18		A F13	283	922	II b	71.815	P B	140.6	125.2	41.6	1002.5	花崗岩		有	破損	
19	86	A F13	197	813	II a	71.804	B U	30.7	23.6	4.1	2.65	珪質	2	無	破損	
20	99	A F13	372	799	II a	71.951	B U	56.3	18.5	9.3	8.86	珪質		有	破損	
21		A F13	385	665	II b	71.637	F L	29.5	14.9	5.7	2.44	凝灰岩		無	破損	
22		A F13	109	772	II b	71.681	C H	17.9	12.8	3.2	0.47	珪質	26	無	破損	
23	85	A E13	805	790	II a	71.624	B U	54.5	34.2	14.0	25.4	珪質	19	無	完形	
24	88	A E13	795	865	II b	71.554	B U	72.1	35.7	14.4	32.1	珪質	1	無	完形	
25	84	A E13	845	780	II a	71.684	K N	47.8	11.6	5.0	2.65	珪質	10	無	完形	
26	83	A E13	900	860	II b	71.519	K N	69.7	17.6	5.7	6.05	珪質	23	無	完形	

第30表 プロック5 出土石器観察表(1)

遺物番号	図版No.	大ダミコード	北南	東西	層	種	高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備考
1	112	A F15	265	440	II b	72.905	B U	49.7	15.6	5.3	4.3	32	珪質	22	無	完形	
2		A F15	387	490	II b	72.000	C H	18.1	9.1	2.5	0.44	珪質		無	破損		
3		A F15	355	432	■	71.958	C H	8.0	6.1	0.3	0.02	珪質		無	破損		
4	149	A F15	320	570	■	71.932	B S	17.3	7.3	3.6	0.42	珪質		無	完形		
5	127	A F15	250	528	■	72.000	B L	49.9	19.0	3.2	2.9	珪質	單	無	破損		
6		A F15	300	527	■	71.992	P B	37.0	21.6	17.0	12.1	珪質		無	破損		
7		A F15	295	225	■	72.021	B L	23.6	9.3	2.36	0.49	珪質		無	完形		
8	120	A F15	220	497	■	71.917	B L	82.9	21.8	5.7	11.6	珪質	29	無	破損		
9	108	A F15	554	420	■	71.884	B U	61.1	32.6	7.2	13.2	珪質	34	無	完形		
10	106	A F15	337	570	■	71.961	B U	66.6	69.5	10.8	39.6	珪質	1	無	完形		
11		A F15	525	373	■	71.952	C H	15.5	19.4	1.2	0.21	珪質		無	完形		
12	114	A F15	569	354	■	71.995	B U	58.3	31.2	9.2	12.6	珪質	6	無	破損		
13	128	A F15	480	500	■	71.967	B L	41.2	24.5	7.1	7.43	珪質		無	破損		
14	132	A F15	455	370	■	71.938	B S	27.0	11.4	3.2	1.04	珪質		無	完形		
15		A F15	440	608	■	72.018	B S	18.0	10.1	2.1	0.26	珪質		有	破損		
16		A F15	428	380	■	71.870	C H	8.6	7.3	1.5	0.08	珪質		無	完形		
17		A F15	380	530	■	72.030	P B	37.0	22.9	12.6	6.67	砂岩		有	磨损		
18	133	A F15	280	570	■	71.965	B S	29.5	12.9	6.1	1.99	珪質	21	無	完形		
20		A F15	210	193	■	71.986	F L	19.4	15.1	2.4	0.45	珪質	26	無	破損		
21		A F15	277	205	■	71.938	B L	32.5	15.1	4.31	1.34	珪質		無	破損		
22	117	A F15	512	237	■	71.843	B L	44.5	26.1	5.8	5.32	珪質	9	無	破損		
23	150	A F15	426	245	■	71.875	B S	24.2	11.8	2.7	0.62	珪質		無	完形		
24		A F15	320	370	■	71.951	C H	6.3	4.3	1.1	0.02	珪質		無	完形		
25		A F15	270	362	■	71.951	C H	6.1	6.0	1.7	0.04	珪質		無	完形		
26		A F15	272	333	■	71.883	C H	5.6	4.6	2.0	0.03	珪質		無	完形		
27		A F15	320	298	■	71.918	C H	7.1	5.4	0.6	0.02	珪質		無	完形		
28		A F15	310	292	N	71.838	C H	7.0	4.4	1.0	0.03	珪質		無	完形		
29		A F15	150	52	■	71.958	C H	15.7	11.3	2.6	0.35	玉髓		無	破損		
30	113	A F15	145	510	■	71.945	B U	49.1	20.8	4.1	5.15	珪質		無	完形		
31	130	A F15	75	545	■	72.095	B S	57.4	18.2	7.1	53.7	珪質	21	無	完形		
32		A F15	50	410	■	71.965	C H	14.0	11.5	1.7	0.22	珪質	29	無	完形		
34	151	A F15	140	473	■	72.068	B S	23.9	10.8	2.6	0.9	珪質		無	完形		
35	126	A F15	195	325	■	71.880	B L	53.6	25.1	3.3	6.08	珪質	11	無	破損		
36	131	A F15	312	197	■	71.829	C H	9.4	3.2	2.6	0.05	珪質		有	破損		
37		A F15	311	247	■	71.846	C H	8.2	6.4	9.0	0.05	珪質		無	完形		
38	142	A F15	310	215	■	71.860	B S	17.1	4.6	2.3	0.16	珪質		無	完形		
39		A F15	306	280	■	71.914	B S	34.2	14.3	6.0	2.59	珪質		無	破損		
40	148	A F15	328	432	■	71.885	B S	21.2	10.9	4.4	0.74	珪質	26	無	完形		
41	119	A F15	155	430	■	71.933	B L	70.9	16.4	3.8	3.96	質劣	18	無	完形		
42	125	A F15	85	455	■	72.005	B L	32.2	12.2	3.9	1.45	珪質	14	無	完形		
43	118	A F15	12	600	■	71.955	B L	33.0	25.3	6.9	4.48	珪質	7	無	破損		
44	123	A F15	350	540	■	71.918	B S	73.8	10.6	5.9	3.72	珪質		無	破損		
45	109	A F15	405	550	■	72.003	B U	62.0	30.5	5.4	11.8	珪質	27	無	完形		
46		A F15	180	670	■	72.010	K N	4.9	12.0	1.9	0.34	珪質		無	破損		
47	107	A F15	180	709	■	72.015	B U	51.0	25.0	6.6	7.75	珪質		無	完形		
48	127	A F15	20	690	■	72.156	B L	56.2	34.6	6.7	珪質	單	無	破損			
49	136	A F15	186	789	N	72.037	B S	42.7	7.5	4.3	1.25	珪質	13	無	完形		
50	137	A F15	60	175	■	72.004	B S	23.8	9.8	2.2	0.42	珪質		無	破損		
51	101	A F15	351	203	■	71.894	B U	61.8	32.7	6.8	13.9	珪質	7	無	完形		
52		A F15	320	739	■	72.090	C H	8.3	6.2	1.3	0.07	珪質		無	完形		
53	134	A F15	340	660	■	72.065	B S	46.8	8.1	3.2	1.37	珪質	14	無	完形		
54	116	A F15	173	720	■	71.935	B L	129.1	55.0	9.3	43.0	珪質	1	無	破損		
55	147	A F15	237	223	N	71.799	B S	20.4	6.5	3.1	0.24	珪質		無	完形		
56		A F15	322	260	N	71.770	C H	15.8	11.9	1.8	0.33	珪質		無	完形		
57	104	A F15	246	250	N	71.776	B U	65.6	17.5	5.9	6.73	玉髓	12	無	完形		
58		A F15	194	431	■	71.876	B S	6.3	3.4	0.5	0.01	珪質		無	完形		
59		A F15	343	450	■	71.837	C H	13.7	10.5	3.2	0.44	珪質		無	完形		
60		A F15	139	470	■	71.857	C H	9.2	5.9	0.9	0.05	珪質		無	完形		
61		A F15	395	458	■	71.842	C H	7.8	6.8	0.8	0.04	珪質		無	破損		
62	149	A F15	248	525	■	71.967	B S	22.0	6.5	2.2	0.19	珪質		無	完形		

第31表 プロツク5出土石器観察表(2)

調査No.	房No.	大カテゴリ	南北	東西	層	標	高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	焼熱	破損	備考
63	A F15	448	433	III	71.818	C H	8.3	6.7	1.1	0.05	珪質		有	破損			
64	A F15	496	436	IV	71.815	B S	21.2	11.2	4.0	0.8	珪質		無	破損			
65	A F15	426	56	III	71.870	B S	30.7	7.0	2.9	0.43	珪質		無	完形			
66	A F15	443	640	III	71.891	B S	25.3	8.9	5.2	1.06	珪質	7	無	完形			
67	A F15	492	644	III	71.897	B S	29.8	10.5	3.1	0.71	珪質		無	完形			
68	A F15	268	36	III	71.885	C H	14.2	13.6	1.9	0.3	珪質		無	完形			
69	A F15	239	540	III	71.865	B U	92.0	39.2	8.9	33.4	珪質	32	無	完形			
70	A F15	329	692	III	71.898	B U	75.0	44.3	7.9	28.9	珪質	21	無	完形			
71	A F15	50	530	III	71.856	B S	9.7	3.3	0.9	0.02	珪質		無	完形			
72	A F15	99	530	III	71.851	B S	23.3	6.5	4.0	0.42	珪質	1	無	破損			
73	A F15	253	580	III	71.830	K N	15.3	9.6	4.3	0.5	玉髓		無	破損			
74	A F15	254	570	IV	71.820	B S	39.7	11.7	3.9	1.82	珪質	22	無	破損			
75	A F15	319	510	IV	71.817	B S	28.4	12.9	5.8	1.9	珪質		有	破損			
76	A F15	370	603	IV	71.836	C H	3.7	2.8	0.4	0.01	珪質		無	破損			
77	A F15	377	570	III	71.850	B U	76.8	44.0	11.1	38.1	珪質	22	無	完形			
78	A F15	420	540	III	71.849	B L	24.9	16.3	2.0	0.82	珪質		無	破損			
79	A F15	445	525	IV	71.811	B S	16.6	4.3	3.2	0.23	珪質		無	破損			
80	A F15	339	496	IV	71.808	B L	82.9	19.9	5.0	6.39	碧岩	18	無	破損			
81	A F15	280	491	IV	71.999	K N	79.2	20.5	6.6	10.2	珪質	3	無	破損			
82	A F15	230	497	IV	71.799	B P	59.7	42.2	6.6	29.5	珪質	26	無	完形			
83	A F15	284	440	IV	71.827	B S	15.9	7.8	2.4	0.35	珪質		無	完形			
84	A F15	74	409	IV	71.827	B S	19.5	9.6	3.3	0.55	珪質		無	完形			
85	A F15	230	400	IV	71.806	B L	84.6	23.6	9.6	14.1	珪質		無	破損			
86	A F15	456	284	IV	71.750	C H	9.6	6.3	3.3	0.2	珪質		有	破損			
87	A F15	253	758	IV	71.845	K N	34.1	17.3	1.8	1.22	珪質	13	無	破損			
88	A F15	306	545	IV	71.776	K N	13.0	9.4	1.9	0.22	珪質		無	破損			
89	A F15	382	432	IV	71.768	C H	14.4	12.7	2.8	0.41	珪質		無	完形			
90	A F15	283	529	IV	71.835	C H	5.4	3.2	0.7	0.01	珪質		無	完形			
91	A F15	360	524	IV	71.778	C H	6.6	3.6	0.7	0.02	珪質		無	完形			
92	A F15	335	524	IV	71.759	C H	14.6	9.4	2.3	0.27	珪質		無	破損			
93	A F15	395	309	IV	71.720	C H	14.4	8.0	1.8	0.23	珪質	1	無	完形			
94	A F15	344	487	IV	71.794	C H	6.1	3.3	0.6	0.02	珪質		無	破損			
95	A F15	356	369	IV	71.710	B L	48.3	29.3	2.7	4.82	玉髓	單	無	完形			
96	A F15	357	500	IV	71.750	C H	4.9	4.4	0.4	0.02	珪質		無	破損			
97	A F15	342	330	IV	71.705	B U	70.4	22.4	7.1	13.2	珪質		無	完形			
98	A F15	288	409	IV	71.715	B S	14.2	7.1	1.1	0.15	珪質		無	完形			
99	A F15	356	416	IV	71.777	C H	5.7	3.0	0.9	0.02	珪質		無	完形			
100	A F15	365	399	IV	71.720	C H	12.5	7.4	1.0	0.11	珪質		有	破損			
101	A F15	302	328	IV	71.684	C H	9.5	73.1	1.3	0.1	珪質		無	完形			
102	A F15	205	758	IV	71.828	C H	10.3	7.4	2.7	0.16	碧岩		無	破損			
132	A F15	708	70	IV	71.749	B S	16.6	7.0	4.1	0.26	珪質		無	完形			
133	A F15	378	500	IV	71.737	C H	40.4	13.9	8.4	1.97	珪質		無	完形			
134	A F15	210	429	IV	71.750	C H	16.7	11.7	2.6	0.48	珪質	29	無	完形			
135	A F15	232	490	IV	71.740	C H	5.9	1.3	1.0	0.01	珪質		無	破損			
136	A F15	330	512	IV	71.808	P B	49.6	45.1	20.1	36.4	板灰		無	完形			
137	A F15	264	510	III	71.835	P B	80.2	31.8	12.2	19.1	板灰		無	完形			
138	A F15	261	532	IV	71.865	P B	72.4	63.1	9.8	25.6	板灰		無	破損			
139	A F15	56	554	IV	71.835	C H	18.8	4.4	1.6	0.1	碧岩		無	破損			
141	A F15	330	530	IV	71.750	C H	6.8	6.2	1.3	0.06	珪質		無	破損			
142	A F15	322	507	IV	71.698	C H	5.3	2.9	0.6	0.02	珪質		無	完形			
143	A F15	319	504	IV	71.716	C H	5.3	2.5	1.3	0.03	珪質		無	破損			
144	A F15	306	503	IV	71.715	C H	3.0	1.0	0.3	0.01	珪質		無	破損			
145	A F15	329	199	IV	71.730	C H	3.5	1.3	0.5	0.01	珪質		無	破損			
146	A F15	321	194	IV	71.715	C H	2.4	1.4	0.3	0.01	珪質		無	完形			
147	A F15	318	191	IV	71.723	C H	1.5	1.5	0.2	0.01	珪質		無	完形			
148	A F15	312	187	IV	71.732	C H	2.6	2.5	0.6	0.01	珪質		無	完形			
149	A F15	297	171	IV	71.711	C H	6.9	2.8	0.9	0.03	珪質		無	破損			
150	A F15	385	462	IV	71.722	C H	13.1	9.9	2.4	0.26	珪質		無	完形			
151	A F15	213	572	IV	71.730	C H	11.2	6.9	1.0	0.1	珪質		無	完形			
152	A F15	378	462	IV	71.702	C H	13.4	7.3	2.9	0.25	碧岩		無	破損			
153	A F15	344	482	IV	71.710	C H	9.6	7.7	1.6	0.09	珪質		無	完形			

第32表 ブロック5出土石器複数表(3)

遺物No.	戸名	大アリット	北南	東西	深	標 高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備 考
154	A F15	348	472	IV	71.693	C H	5.6	35.0	0.6	0.02	珪質		無	完形		
155	A F15	313	485	B	71.706	C H	1.8	1.4	0.2	0.01	珪質		無	完形		
156	A F15	264	548	IV	71.700	C H	10.1	6.8	1.2	0.09	珪質		無	完形		
157	A F15	298	724	IV	71.716	B L	46.1	20.3	4.2	2.75	珪質	9	有	破損		
158	A F15	334	476	B	71.700	B S	6.6	2.1	2.1	0.01	珪質		無	完形		
159	A F15	285	492	IV	71.695	C H	3.3	2.7	1.1	0.02	珪質		無	完形		
160	A F15	291	456	IV	71.710	C H	5.1	3.0	0.4	0.01	珪質		無	破損		
161	A F15	279	387	B	71.658	F L	25.8	6.8	2.2	0.46	珪質		無	完形		
162	A F15	313	469	B	71.666	C H	4.7	4.4	0.7	0.01	珪質		無	完形		
163	A F15	208	475	IV	71.678	C H	18.5	11.1	2.1	0.35	珪質		有	破損		
164	A F15	274	536	B	71.676	B L	22.3	8.1	1.6	0.33	珪質		無	完形		
170	A F15	258	598	B	71.668	F L	30.4	20.5	2.2	1.69	珪質		無	破損		
171	A F15	364	586	IV	71.655	B S	13.1	8.7	2.2	0.17	珪質		無	破損		
172	A F15	320	565	B	71.625	C H	16.0	7.2	1.3	0.07	珪質		無	完形		
174	A F15	344	425	B	71.587	B L	14.6	9.4	2.2	0.27	珪質		無	破損		
178	A F15	227	502	IV	71.524	C H	17.2	12.4	2.1	0.53	珪質	26	無	完形		
184	A F15	254	496	B	71.518	B S	11.1	3.0	1.4	0.04	珪質		無	破損		
185	A F15	274	459	B	71.505	C H	5.9	4.5	0.2	0.02	珪質		無	完形		
187	A F15	338	399	V	71.475	C H	14.0	9.2	2.5	0.25	珪質		無	完形		
188	A F15	304	648	V	71.425	B S	11.7	7.9	1.0	0.09	珪質		無	完形		
189	A F15	519	446	V	71.410	C H	12.6	9.2	2.4	0.25	珪質		無	完形		
190	A F15	403	602	■	72.059	C H	3.3	2.8	0.5	0.01	珪質		有	破損		
191	A F15	200	663	■	71.995	C H	7.6	6.8	0.9	0.06	珪質		無	完形		
192	A F15	391	400	■	71.925	B S	10.1	3.7	2.8	0.04	珪質		無	完形		
193	145	A F15	395	388	■	71.850	B S	17.6	9.7	3.0	0.5	珪質	32	無	完形	
194	A F15	392	418	■	71.848	C H	10.5	9.9	1.1	0.09	珪質		無	破損		
195	A F15	198	397	■	71.625	C H	7.3	6.4	1.1	0.04	珪質		無	完形		
197	A F15	790	195	B	72.109	F L	28.6	17.9	4.7	1.64	珪質		無	完形		
198		111				B U	81.4	31.4	7.9	17.3	珪質	單	無	完形		

第33表 ブロック7 a出土石器複数表(1)

遺物No.	戸名	大アリット	北南	東西	深	標 高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備 考
1	191	A G12	21	594	■	71.346	B S	29.6	9.4	7.1	1.3	珪質	1	無	完形	
2		A G12	793	552	IV	71.289	P B	24.9	18.4	2.5	1.46	板状		有	破損	
3	185	A G12	57	533	■	71.394	B L	36.8	16.8	4.4	3.31	珪質	14	無	破損	後形成
4	180	A G12	46	497	■	71.390	B L	27.3	23.0	6.1	16.3	珪質	13	無	破損	
5	185	A G12	99	554	■	71.496	B L	39.3	19.3	7.0	3.34	珪質	14	無	破損	後形成
8	163	A G12	225	524	■	71.312	B U	53.7	21.7	8.3	9.2	玉髓	20	無	破損	
9	198	A G12	264	483	IV	71.302	B S	18.7	4.5	2.9	0.18	珪質	14	無	破損	
10	202	A G12	202	454	■	71.362	B S	31.8	11.6	5.5	1.47	珪質	11	無	破損	
12	177	A G12	118	438	V	71.700	B U	41.4	36.0	8.9	14.3	珪質	16	無	完形	
13		A G12	66	444	■	71.355	C H	14.1	8.0	2.4	0.25	珪質		無	破損	
14		A G12	41	378	■	71.357	C H	8.1	5.8	0.6	0.04	珪質		無	完形	
15	160	A G12	82	366	■	71.620	B U	48.3	24.2	6.2	5.39	珪質		無	破損	
16		A G12	96	396	■	71.478	B L	28.2	16.7	3.1	1.57	玉髓		有	破損	
17		A G12	122	333	■	71.356	C H	12.7	5.3	1.5	0.08	珪質		無	完形	
18	167	A G12	224	402	■	71.506	B U	23.8	16.4	4.0	1.65	珪質	10	無	破損	
19		A G12	223	391	■	71.525	C H	13.6	9.7	1.7	0.18	珪質		無	完形	
20	162	A G12	194	342	IV	71.346	B U	63.3	40.1	8.7	20.0	珪質		無	完形	
21		A G12	380	407	IV	71.226	C H	10.5	10.0	1.6	0.13	珪質		有	破損	
24	187	A G12	39	150	■	71.384	B L	79.2	21.6	5.1	9.36	珪質		無	完形	
25		A G12	19	86	■	71.418	B U	40.2	18.5	5.9	5.9	珪質	10	無	完形	
26		A G12	998	74	V	71.141	B S	11.4	4.3	1.4	0.06	珪質		無	完形	
27	197	A G12	21	76	■	71.335	B S	18.4	5.7	4.5	0.26	珪質	7	無	完形	
28		A G12	45	18	■	71.380	B L	39.4	10.5	4.4	1.55	珪質		無	破損	
29		A G12	75	49	V	71.206	C H	17.4	7.5	2.6	0.35	珪質		無	破損	
30	157	A G12	96	86	IV	71.173	K N	25.6	10.7	2.6	0.76	珪質	33	無	破損	
31		A G12	56	124	■	71.347	B L	48.8	13.0	3.0	1.8	珪質		無	破損	
32		A G12	67	145	■	71.466	F L	21.2	17.1	3.3	1.29	珪質		有	破損	
33		A G12	136	85	■	71.288	F L	23.6	12.8	1.7	0.66	玉髓		無	完形	
34		A G12	139	80	■	71.285	C H	7.1	5.7	0.7	0.03	凝灰		無	破損	
35		A G12	124	151	IV	71.186	C H	14.0	9.0	2.2	0.27	珪質		無	破損	

第34表 プロツク7a出土石器観察表(2)

遺物No.	部品No.	大きさ	北南	西東	昂	標	高	分類	絶大長	絶大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備考
36	181	A G12	141	153	II b	71.293	B L	76.3	24	5.8	11.6	珪質	16	無	破損		
37		A G12	98	188	III	71.358	B L	9.6	9.3	2.8	0.16	珪質		無	破損		
38		A G12	165	162	II b	71.412	B S	7.7	5.8	3.3	0.05	珪質		無	破損		
39		A G12	112	203	IV	71.130	C H	6.6	5.9	1.3	0.03	珪質		無	完形		
40		A G12	81	205	V	71.087	C H	8.9	4.7	1.0	0.05	珪質		無	破損		
41	159	A G12	195	220	II a	71.477	K N	49.5	20.2	6.4	6.5	珪質	2	無	破損		
42	194	A G12	210	232	II a	71.655	B S	14.8	11.7	4.9	0.45	珪質		無	完形		
43	184	A G12	232	164	III	71.365	B L	62.9	32.5	7.2	6.2	珪質	單	無	破損		
44		A G12	234	153	II a	71.637	B L	15.2	13.3	2.8	0.44	珪質		無	破損		
45		A G12	216	142	II a	71.629	C H	13.1	7.3	1.7	0.12	珪質		無	完形		
46		A G12	204	137	II a	71.588	B L	25.9	12.6	3.6	0.9	珪質		無	破損		
47		A G12	212	101	b	71.451	C H	5.8	2.4	0.5	0.01	珪質		無	破損		
48		A G12	206	100	II b	71.463	B S	15.1	6.6	4.0	0.27	珪質		無	完形		
49	171	A G12	200	86	II b	71.511	B U	65.2	26.8	5.3	9.87	玉體	20	有	完形		
50	156	A G12	204	70	III	71.285	K N	18.2	11.1	3.5	0.57	珪質	2	無	破損		
51	154	A G12	301	362	III	71.299	K N	90.3	19.8	7.5	9.4	珪質		無	完形		
52	170	A G12	319	365	III	71.325	B U	64.4	35.8	12.8	34.1	珪質	19	無	完形		
53		A G12	320	352	III	71.299	C H	19.7	13.3	2.9	0.43	玉體	20	無	完形		
54	186	A G12	351	340	II b	71.434	B L	34.6	13.7	3.4	1.52	珪質		無	破損		
55		A G12	348	354	II b	71.430	B S	15.1	6.4	4.4	0.18	珪質		無	破損		
57	176	A G12	506	237	II b	71.439	B U	46.6	25.4	6.4	7.8	珪質	13	無	破損		
58		A G12	423	369	II b	71.370	B S	13.6	9.3	3.3	0.25	珪質		無	完形		
59		A G12	470	209	III	71.269	B S	13.0	7.6	4.7	0.18	珪質		無	破損		
60	182	A G12	342	245	II b	71.515	B L	46.8	35.8	5.5	11.2	珪質	24	無	破損		
61	199	A G12	333	226	IV	71.184	B S	26.0	10.4	7.4	1.22	珪質	35	無	完形		
62		A G12	114	303	II a	71.588	F L	26.8	16.5	8.2	2.54	玉體	20	有	破損		
63	179	A G12	102	303	II b	71.469	R B	543.9	30.1	6.6	1.8	珪質	13	無	完形		
64		A G12	61	241	II b	71.449	F L	26.1	17.0	2.7	1.01	凝灰		無	破損		
65		A G12	72	238	IV	71.337	C H	16.2	9.3	2.3	0.36	珪質		無	破損		
66	165	A G12	70	250	IV	71.225	B U	82.6	20.8	5.3	10.4	珪質	19	有	完形		
67	164	A G12	278	262	III	71.326	B U	65.8	34.3	7.8	13.0	珪質		無	破損		
68	158	A G12	274	218	III	71.335	K N	33.5	20.4	3.6	1.59	珪質	8	無	破損		
69		A G12	265	239	III	71.282	B S	13.8	5.2	1.7	0.13	珪質		無	破損		
70	201	A G12	218	304	IV	71.238	B S	21.6	13.0	6.9	0.8	珪質		有	破損		
71	155	A G12	213	287	II a	71.557	K N	48.0	17.7	3.3	3.27	珪質	33	無	破損		
72		A G12	136	25	III	71.400	B S	13.7	37.0	1.6	0.07	珪質		無	破損		
73	193	A G12	142	17	IV	71.265	B S	24.3	6.3	4.6	0.57	珪質	29	無	完形		
74	200	A G11	24	59	II a	71.665	B S	16.7	9.5	7.4	0.66	珪質		無	完形		
76		A G12	838	82	IV	71.178	C H	12.9	10.6	1.4	0.16	珪質		無	破損		
77		A G11	67	964	III	71.295	C H	9.9	7.5	1.0	0.07	珪質		無	完形		
78	166	A G11	104	891	II a	71.572	B U	30.7	22.9	4.9	2.73	珪質	4	有	破損		
79		A G11	59	849	IV	71.245	C H	9.0	5.3	1.1	0.06	珪質		無	完形		
85	161	A G12	277	152	III	71.200	B U	80.7	30.9	7.1	20.4	珪質	31	無	完形		
86	173	A G12	314	163	IV	71.282	B U	60.4	32.3	6.8	13.7	珪質	27	無	完形		
87	172	A G12	328	67	III	71.468	B U	62.1	21.4	4.2	5.3	珪質	7	無	完形		
88	169	A G12	359	89	II b	71.477	B U	33.0	22.3	5.5	3.94	珪質	4	無	破損		
89	192	A G12	348	33	II b	71.358	B S	26.7	20.5	8.6	2.89	珪質	3	無	完形		
90	189	A G12	358	31	III	71.355	B S	21.0	6.5	5.0	0.36	珪質		無	完形		
91		A G12	381	37	III	71.368	B L	22.0	15.0	3.0	0.78	珪質		無	破損		
92		A G12	368	55	III	71.432	B U	48.1	17.2	6.9	4.99	珪質	3	無	完形		
93	195	A G12	430	122	II a	71.303	B S	21.8	7.1	5.1	0.46	珪質		無	完形		
94	190	A G12	448	140	III	71.337	B S	37.2	8.8	6.9	0.82	珪質		有	完形		
95		A G11	315	965	II b	71.397	F L	40.8	24.8	4.1	3.74	安山		有	完形		
96	196	A G11	310	971	II b	71.396	B S	24.5	9.8	5.9	0.59	珪質		無	完形		
99		A G11	518	907	IV	71.205	C H	18.1	5.5	2.0	0.44	珪質		無	完形		
100		A G11	353	940	IV	71.514	B L	42.5	20.4	4.7	2.55	珪質	1	無	破損		
123	188	A G11	192	997	II a	71.695	B S	30.7	12.8	4.8	1.73	珪質		有	破損		
124	168	A G12	201	10	II a	71.616	B U	21.9	13.3	4.4	0.98	珪質		有	破損		
126	183	A G12	108	301	楕		B L	78.4	36.8	9.5	20.2	碧岩		無	完形		
127		A G12	239	148	II b	71.386	B S	36.0	6.4	5.8	1.53	珪質		無	完形		
128		A G12	198	103	III	71.293	B L	83.3	27.4	8.1	15.2	珪質		無	破損		

第35表 プロック7a 出土石器観察表(3)

通巻No.	図No.	大グラット	北南	西東	層	標	高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備考
129		AG12	305	139	V	71.107	CH	9.3	6.4	1.9	0.09	珪質		無	破損		
130		AG12			V	71.085	RS	9.0	4.2	1.7	0.06	珪質		無	完形		
132	178	AG11	600	519	II b	71.440	B U	76.2	45.6	8.0	27.6	珪質	1	無	完形		
133					B L	53.7		13.9	4.6	2.45	珪質	33	無	破損			

第36表 プロック7b 出土石器観察表

通巻No.	図No.	大グラット	北南	西東	層	標	高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備考
80		AF11	944	776	II b	71.350	BL	29.5	20.1	4.3	1.65	珪質	15	無	破損		
81		AG11	451	287	II b	71.430	BL	56.3	18.8	7.3	6.15	珪質	28	無	破損		
82	213	AG11	324	725	III	71.340	BU	28.3	22.0	5.6	3.41	珪質	4	無	破損		
101		AF11	830	284	V	71.137	BL	63.7	41.2	9.4	20.6	珪質	19	無	破損		
102	217	AF11	831	287	V	71.128	BL	118.3	28.5	8.2	32.1	珪質	11	無	完形		
103	210	AF11	849	313	V	71.037	BU	45.1	33.0	6.7	8.8	珪質	31	無	完形		
104	215	AF11	949	333	V	71.168	BL	95.2	36.1	10.0	33.8	珪質		無	破損	後形成	
105	218	AF11	95	426	III	71.194	BL	117.7	30.6	10.2	25.2	珪質	11	無	完形		
106		AF11	970	475	III	71.223	CH	10.9	7.0	2.4	0.1	珪質		無	完形		
107	204	AF11	889	583	V	71.115	KN	39.0	20.5	5.0	2.84	土+	單	無	破損		
108	209	AF11	949	577	V	71.148	BU	103.5	46.9	10.0	50.9	珪質	13	無	破損		
109	216	AG11	5	507	II b	71.398	BL	43.5	27.1	5.4	5.68	珪質		無	破損		
110	207	AG11	2	491	III	71.305	BU	52.5	33.9	6.0	13.2	珪質	31	無	破損		
111	208	AG11	58	439	III	71.265	BU	41.8	17.7	4.9	3.23	玉髓	29	有	破損		
112	221	AG11	122	434	V	70.977	BS	16.0	10.1	3.8	0.57	珪質	29	有	破損		
113	220	AG11	44	534	V	71.208	BS	35.6	8.1	6.2	1.39	珪質		有	破損		
114	206	AG11	133	508	II b	71.396	RB	39.6	18.8	3.8	2.24	珪質	11	無	破損		
115	214	AG11	53	583	V	71.066	BU	58.5	17.9	5.3	5.02	珪質	15	無	破損		
116	203	AG11	88	625	III	71.373	KN	70.8	18.5	4.9	6.38	珪質	13	無	破損		
117	205	AG11	109	612	III	71.355	KN	40.2	14.8	4.3	2.29	玉髓	單	無	破損		
118	212	AG11	101	654	II a	71.605	BU	38.5	15.5	3.6	1.52	珪質	15	無	破損		
119		AG11	106	661	II a	71.547	BL	27.0	20.4	5.0	1.29	珪質		無	破損		
120	211	AG11	288	460	II b	71.428	BU	47.0	24.1	8.3	8.5	珪質	6	有	破損		
121		AG12	213	6	II a	71.575	RF	40.1	28.1	6.4	5.48	珪灰		有	完形		
125		AG11	104	662	III	71.292	BS	16.5	9.6	5.4	0.4	珪質		無	完形		
131		AF11	857	228	III	71.395	BL	68.4	29.9	7.7	13.2	珪質		無	破損		

第37表 プロック8 出土石器観察表

通巻No.	図No.	大グラット	北南	西東	層	標	高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備考
1	237	AE12	380	661	III	71.508	BS	21.2	6.5	4.6	0.59	珪質		無	完形		
2	232	AE12	423	495	V	71.310	BL	71.6	15.3	5.5	3.92	珪質	18	無	完形		
3	230	AE12	423	496	II b	71.495	BL	73.2	46.4	7.4	31.6	珪質	21	無	破損		
4	240	AE12	523	495	III	71.409	BS	22.9	14.6	2.8	0.84	珪質	27	無	完形		
5	222	AE12	544	468	V	71.257	KN	83.2	21.8	4.2	7.21	珪質	單	無	破損		
6	224	AE12	580	580	II b	71.559	KN	43.5	19.0	3.5	3.03	珪質	單	無	破損		
7	239	AE12	521	602	II b	71.575	BS	22.9	19.1	4.8	1.31	珪質	27	無	完形		
8	236	AE12	542	478	II a	71.666	BS	51.7	20.1	6.8	5.8	珪質	26	無	完形		
9	235	AE12	755	546	II a	71.323	BS	28.7	13.7	4.5	1.32	珪質	3	無	破損		
10	238	AE12	709	540	III	71.723	BS	30.1	9.7	4.8	1.2	珪質		無	完形		
11		AE12	570	395	V	71.349	BL	38.6	13.7	3.8	1.68	珪質		無	破損		
12	230	AE12	562	376	V	71.344	BL	73.0	51.6	5.6	21.8	珪質	21	無	破損		
13	225	AE12	476	413	III	71.459	KN	69.1	18.0	4.9	4.43	珪質	5	無	破損		
15	226	AE12	545	298	II b	71.596	BS	57.1	35.2	8.5	19.7	珪質	27	無	完形		
16	223	AE12	515	329	II b	71.610	KN	61.9	19.2	3.8	4.4	珪質	5	無	破損		
17		AE12	430	324	III	71.336	BL	65.8	12.6	3.2	2.78	珪質	33	無	破損		
18		AE12	485	171	II b	71.626	BL	26.3	11.2	2.9	0.84	珪質		無	破損		
19	227	AE12	608	415	III	71.417	BU	42.3	27.7	7.5	8.21	珪質		無	破損		
20	226	AE12	715	58	III	71.502	BU	19.9	14.5	5.8	1.41	珪質	23	無	破損		
21		AE12	605	612	III	71.548	BL	21.2	10.3	2.8	0.7	珪質		無	破損		
22	229	AE12	790	490	I	71.579	BU	66.4	27.1	8.0	15.7	珪質		無	完形		
23		AE12	860	170	I	71.739	BL	73.1	17.3	6.5	6.03	珪質		無	破損		
24												BL	39.0	33.5	9.0	9.57	珪質
25	233	AE12	694	796	V	71.252	BL	83.7	30.1	13.0	25.0	珪質		無	破損	後形成	
26	231	AE12	689	908	V	71.398	BL	105.4	24.0	11.0	20.9	玉髓	20	有	完形		
27	234	AE12	795	696	V	71.08	BL	33.5	27.8	6.1	3.73	珪質	23	無	破損		

第38表 ブロック外出土石器観察表

遺物No.	図版No.	大分類	北南	東西	厚	標高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	破壊	破損	備考
113	244	A H 5	485	994	II a	60.566	K N	80.8	26.3	6.0	11.3	珪質		無	破損	
191	247	A E 5	310	594	II b	70.730	B U	76.1	39.7	7.5	18.9	珪質		無	完形	
198	241	A E 5	134	698	II b	70.633	K N	69.1	19.5	3.0	3.5	流紋		無	完形	
212	243	A D 5	873	388	II a	20.476	K N	38.3	14.5	3.2	1.59	頁岩		無	完形	
369	251	A D 5	847	380	II b	70.149	B S	51.2	29.2	12.9	10.5	珪質		無	完形	
611	245	A G 8	44	574	II b	71.249	B U	86.9	31.5	5.4	21.6	頁岩		無	完形	
611	249	A F 7	920	805	II b	71.200	B S	46.3	21.3	10.3	8.1	鉄石		無	破損	
1080	246	A F 11	636	839	II a	71.652	B L	90.2	23.8	5.6	11.4	珪質		無	破損	
1087	246	A F 11	891	162	III	71.260	B U	61.3	27.1	12.1	15.3	珪質		無	完形	
1200	250	A F 12	489	22	II b	71.603	B S	34.6	15.9	6.7	3.07	珪質		無	破損	

第39表 ナイフ形石器属性表

遺物番号	図版番号	長さ	幅	分類	二 次 加 工 (方向・長さ・傾度・角度)				打面	表端角	折れ	方向	根端打点	完形	備考
					基高	左基部	右先端	左先端							
B 3-94	1	80.0	17.0	I a	D V 38.1 2.475	D	38.8 4.830			無	D	V			完
B 3-132	2	64.5	15.5	I a-1	D V 30.7 4.370	D	30.9 3.025		VD	0.7 4.160	無	75			
B 3-11	3	55.0	17.0	I a-2	D	18.4 4.780	D	32.3 2.790		無	V	無			
B 3-126	4	80.0	9.5	I a-1	D	5.8 1.545	D	8.6 2.875		無	35				完
B 3-30	5	22.5	16.5	I a-2	D	20.4 1.580	D	32.2 2.960		無	V	無			
B 3-114	56	45.5	20.0	I a	D V 30.5 4.280	D	30.9 3.075			無					
B 3-151	57	80.5	15.5	I a	D V 38.8 2.745	D	36.3 3.075			無	D	無			
B 3-10	58	42.5	11.5	I b	D	18.6 3.880	D	9.6 2.185		無					
B 3-115	59	53.5	15.5	I a	D V 32.5 4.025					無	V	無			
B 4-5	82	36.0	15.0	D	?	5.275					75	V	H	無	
B 4-26	83	69.5	16.5	III					D	43.1 2.670	D	14.2 2.75	90		完
B 4-25	84	48.0	11.5	I b-1	D	IL 6.2 2.00	D	10.1 1.745	D	8.2 3.930	無	50			完
B 5-88	98	79.5	20.5	I a-1	D V 35.8 3.280	V	22.8 5.9 105	D	35.5 5.870		有	V	無	完	
B 5-87	99	34.0	16.5	III					D	12.7 1.335	55	D	有		
B 5-73	100	14.5	10.5	I b	D	?	2.170	D	?	3.880					
B 7-54	154	91.0	18.5	I a-1	D V 29.3 2.740	D V	29.2 4.125			無	70				完
B 7-71	155	48.5	17.5	I a	D V 35.7 4.760	D	15.4 4.175			無	D	無			
B 7-59	156	18.5	11.5	I a	V	11.1 2.480	V	?	2.880		無	V	無		
B 7-39	157	15.5	10.5	I a	D	12.8 2.170	D V	16.1 3.375		無	D	無			
B 7-66	158	31.5	18.5	I a					D	13.7 1.975		D	有		
B 7-41	159	49.0	19.0	I a	D V 42.2 5.085	D V	42.9 4.180			無					
B 7-116	203	71.0	18.5	I a-1	D V 18.9 1.985	D V	22.1 2.480			無					
B 7-107	204	38.5	15.5	III					D	13.2 2.275		D	無		
B 7-117	205	40.0	14.0	I	D	?	2.085				55	D	無		
B 7-114	206	39.5	18.5	III					D	22.7 1.470	D V	12.1 2.935	90	V	有
B 8-5	222	85.5	21.0	I a-1	D V 32.4 4.380	D V	20.4 1.780			無	D	D	無		
B 8-16	223	52.0	16.5	I a-1	D V 27.2 2.835	D	27.2 2.770				V	無			
B 8-6	224	43.0	19.0	I b	D V 26.6 2.285	D	32.2 2.775			無	V	無			
B 8-13	225	69.5	15.5	I a-1	D V 24.4 1.830	D V	24.2 1.680			無	D	無			
B 8-186	241	69.5	19.0	I b-1	D	11.6 2.835	D	15.3 1.260	D	6.1 1.985	60				完
B 8-1198	242	37.5	15.5	I b	D	32.1 1.475	D	27.0 3.275		無	D	無			
B 8-212	243	38.1	14.0	D	18.7 3.545	D	18.7 3.875	D	12.9 1.755	D	3.8 0.770	75			完
B 8-113	244	80.5	21.0	N	D V 30.8 1.590	D V	30.9 1.780	D V	30.1 3.275		無	V	有		
表様1	252	50.0	14.5	I b-1	D	30.1 2.830	D	30.9 3.185	D	18.9 3.285	75				完
表様2	253	65.5	15.5	I a-1	D V	24.4 2.670	D	17.0 3.280	D	14.8 2.275	55				完
表様3	254	49.5	16.5	III					D	18.1 1.370		50			
表様4	255	49.0	14.5	I b-1	D	38.8 2.475	D	18.5 2.835		無	D				
表様5	256	52.5	18.5	I a	D V 25.5 2.830	V	32.7 4.480			無	右	無			

第40表 彫刻刀形石器属性(完)

遺物番号	図番号	長さ	幅	分類	位置	彫刻刀面数			彫刻刀面刃角			彫刀面			基部加工		打面	備考	
						左	右	中	左	右	中	打面	左	右	左	右			
B 3-46	6	42.5	22.5	I	基	2			85										
B 3-143	7	62.5	26.5	I a	末	1			75			腹溝	D	?	5.6 65	D	?	3.9 80	
B 3-43	8	45.0	20.5	I	末	2	1		75	60		腹溝							
B 3-107	9	60.0	25.5	II	末	1	4		125			縫状							
				IV	基	1			60			背溝							
B 3-96	10	77.0	33.0	IV	末			1			105								
B 3-34	11	39.0	23.5	I	基	1			50			腹溝							
B 3-37	12	36.5	24.5	III	末			1			85								
B 3-89	13	90.0	27.5	I	末	+1			45			腹溝							
B 3-134	14	60.5	49.0	I	末	+1			65			腹溝							
B 3-142	15	67.5	25.0		末	1			55			無							
B 3-45	16	41.5	19.5	I	末	2			65			腹溝							
B 3-145	17	38.5	17.5	母型	末								D V	?	5.6 65	D	?	3.9 65	
B 3-77	18	78.5	37.5	V	末	1			55			腹溝							
B 3-72	19	69.5	26.0	IV	末	+2			60			背溝	D V	45.2	5.0 85	D V	40.1	2.7 70	
B 3-42	20	68.5	32.0	I	末	3			50			腹溝							
B 3-130	21	48.0	19.5	W	末	2			105			無							
				VI	基	4			80			無							
B 3-33	22	42.0	22.0	I	末														
B 3-95	23	72.0	30.5	VI	末		+2				75	無調整							
B 3-128	24	46.0	15.5		末														
B 3-150	60	77.0	27.5	I	末	1			55			腹溝							
B 3-9	61	45.5	23.5	I a	末	2			60			腹溝	V	?	3.6 75				
B 3-124	62	90.0	28.0	III	末	+1	+1		120	115		無	縫						
B 3-111	63	78.5	20.5	I	基	+1			50			腹溝							
B 3-47	64	18.5	22.5	I	末	1			80			腹溝							
B 3-53	65	25.5	16.5	I	末	3													
B 3-15	66	46.0	28.5	V	末		1			90			背溝	D	17.5 6.7 85			有	
B 3-108	17.0	11.5	4.5	IV	末	1			70			背溝							
B 4-23	85	52.5	39.0	IV	末		1		70			背溝							
B 4-19	86	27.0	23.0	I	末	+1			75			腹溝							
B 4-3	87	46.5	14.0	W	基	4	1		40	50		縫	D	21.5 3.5 85	D	19.5 4.7 85			
B 4-24	88	72.5	36.5	I	末	1			50			腹溝							
B 4-13	89	73.0	42.0		末	1			35			縫断面							
B 4-20	90	56.5	18.5	I	末		+2						腹溝	V	?	3.7 80	D V	?	4.6 80
B 5-51	101	60.5	29.5	W	末	+4							無						
				I	基	1			95			腹溝							
B 5-97	102	71.0	22.0	I	末	5			120			腹溝							
				I	基	1			75			腹溝							
B 5-70	103	74.5	39.0	I	末	4			55			腹溝							
B 5-57	104	66.0	16.5	W	末	1			90			無							
B 5-82	105	59.5	41.5	I	末	5			100			腹溝							
B 5-10	106	61.5	58.5	I	末	2			45			腹溝	D	16.2 5.4 70	V	40.9 4.7 70	有		
B 5-47	107	51.0	25.0	I	末	+2			75			腹溝							
				W	基	1	1		90			無							
B 5-9	108	60.0	25.5	I	末		+1		75			腹溝							
B 5-45	109	62.0	26.0	I	基	2			70			腹溝							
B 5-69	110	91.5	34.5	I	末	3			40			腹溝	D	19.0 4.4 95			有		
B 5-198	111			I	末	4			55			腹溝							
B 5-1	112	50.5	16.0	I	末	+1			65			腹溝	D	21.5 3.0 70	D	21.8 3.9 75	無		

第41表 彫刻刀形石器属性表(2)

遺物番号	器番号	長さ	幅	分類	位置	彫刻刀面数			彫刻刀面刃角			彫刀面			基部加工		打面	角考
						左	右	中	左	右	中	打面	左	右	左	右		
B 5 -30	113	48.5	20.5	I	末	+1						腹溝	D V	40.4 3.5 70	D V	39.3 3.4 55	無	
B 5 -12	114	57.5	26.5	I	末	+2				40		腹溝						
B 5 -77	115	76.5	44.5	V	末	+4	+3		90			極状	D	19.3 7.2 85			有	
B 7 -15	169	47.0	19.0	I	末	+1			65			腹溝						
B 7 -85	161	80.5	27.0	I	末	+1			50			腹溝						
B 7 -20	162	63.5	40.5	I	末	+1			55			腹溝						
				I	基	4			40			腹溝						
B 7 -8	163	98.0	25.5	I	末	4			70			腹溝						
B 7 -67	164	63.5	30.0	I	末	4			50			腹溝						
B 7 -66	165	82.5	21.5	I	末	+1			50			腹溝	D V	27.6 4.0 70	D	20.1 3.5 80	無	
B 7 -78	166	29.0	18.5	I	末	1			50			腹溝						
B 7 -18	167	23.5	15.5	I	末	1			80			腹溝						
B 7 -88	169	22.5	19.0	V	末	1	1		55			極状						
B 7 -52	170	64.0	35.5	II	末	1			腹溝									
				V	基	1			125			背溝						
B 7 -49	171	65.5	21.0	I	末	1			60			腹溝						
B 7 -87	172	63.0	21.0	I	末	3			65			腹溝	D V	34.7 2.8 60	D	34.7 4.6 65	有	
B 7 -86	173	60.0	30.0	I	末	2			55			腹溝	D	30.4 3.6 65			有	
B 7 -25	174	40.5	18.0	V	末	1	1		125	90		背溝 t						
				IV	基	1			75			背溝						
B 7 -92	175	48.0	17.5	V	末	1	1		75	90		背溝						
B 7 -57	176	46.5	23.0	V	末	1			75			背溝						
				I	基	1			85			腹溝						
B 7 -12	177	40.5	36.5	V	基	+2	+5		45	90		無 磨						
B 7 -132	178	75.5	41.0	V	末		3		80			背溝 t	V	21.8 7.0 85	V D	30.2 3.7 90	有	
B 7 -110	207	52.5	34.0	I	末	+1		3	60			腹溝						
B 7 -111	208	41.0	14.5	I	末	2			75			腹溝						
B 7 -108	209	103.5	43.0	III	末	2	+2		60	85		極状						
B 7 -103	210	45.5	33.5	V	基	1			45			背溝 t						
B 7 -120	211	46.5	23.0		末	1			110									
B 7 -118	212	38.5	13.5	I	末	1			60			腹溝						
B 7 -82	213	28.5	19.5	I	末			+1				腹溝						
B 7 -115	214	58.5	17.5	I	末	1			75			腹溝	D	25.2 2.9 75	D	30.2 3.7 75	有	
B 8 -20	226	19.5	13.0	I	末	1			70			腹溝						
B 8 -19	227	40.6	27.5	I	末	4			腹溝									
B 8 -15	228	57.5	33.5	I	末	+1			55			腹溝						
B 8 -22	229	66.5	26.5	I	末	2			50			腹溝						
B外-661	245	87.0	34.0	II	末	+2			50			腹溝 t						
B外-1087	246	62.0	27.0	V	末	1			105			無						
B外-191	247	76.5	39.0	II	基	1	1		60	50		腹溝 t						
B外-638	250	39.0	21.0	I	末	1			55			腹溝						
表採6	257	390	18.5	IV	基	1			60			背溝						
表採7	258	45.5	26.0	I	末	1			55			腹溝						
表採8	259	49.5	20.5	I	基	1			50			腹溝						
表採9	260	47.0	26.5	I	末	1			60			腹溝						
表採10	261	43.3	27.7	I	末	3			75			腹溝						
表採11	262	37.0	19.0	I	基	2			55			腹溝						
表採12	263	31.0	26.5	I	末	1	2		85			腹溝						
表採13	264	45.5	22.5		末													
表採14	265	39.0	33.0	V	基		2			75		背溝 t						
表採15	266	50.9	32.2	IV	末		1		95			背溝						

第42表 石刀観察表

遺物番号	試番号	削離長	剥離幅	分類	打面		打点		バブル 状	背面構成				剥離角	備考	
					幅	厚さ	種類	形状		I	II	III	IV	自節		
B 3 - 93	25				16.1	5.8	調整	平坦	II	不明	S	○			104	
B 3 - 74	27				10.4	3.0	調整	平坦	I a	1.7	S	○	○	○	○	104
B 3 - 22	28	52.0	19.3	II				点状	I a		S	○	○			
B 3 - 32	29				3.5	1.6	調整	平坦	II		S	○				90
B 3 - 20	30				9.1	4.5	調整	平坦	I a	不明	S	○	○	○	○	106
B 3 - 75	31				6.6	3.5	調整	凸	I a	不明	S	○				102
B 3 - 36	33				5.7	2.7	調整	平坦	I a	不明	S	○	○	○		92
B 3 - 18	34				16.4	6.8	調整	平坦	I b	1.4	S	○	○			82
B 3 - 82	35				15.6	6.8	剥離	平坦	I b	不明	S	○	○			96
B 3 - 23	38	45.8	10.7	III	1.6	1.9	調整	点状	I a		○		○			
B 3 - 87	39				18.8	7.54	調整	山型	II	不明	F	○			○	83
B 3 - 26	41				9.8	4.8	調整	平坦	I a		S	○		○	○	95
B 3 - 84	42				15.8	5.8	調整	山型	II	不明	S	○	○	○		75
B 3 - 85	43	26.3	20.4	II				剥離	平坦	II	不明	S	○	○		101
B 3 - 86	44	31.0	14.6	I	9.8	5.5	調整	凸	I a	1.3	S	○				93
B 3 - 123	67	62.1	33.6	III	2.0	1.0	剥離	平坦	I a		S	○				
B 3 - 55	68				12.2	4.1	調整	凸	II	不明	S	○		○	○	99
B 3 - 71	69	41.5	15.2	II	5.9	3.4	剥離	平坦	II	不明	S	○	○			92
B 3 - 16	70				5.8	2.6	剥離	平坦	II	不明	F	○				86
B 3 - 8	71				17.3	5.3	調整	凸	II	不明	S	○				90
B 3 - 110	73				6.0	1.8	調整	平坦	I a	不明	S	○				99
B 3 - 58	74				4.2	1.5	剥離	平坦	I a	不明	S	○				
B 3 - 60	75				12.3	14.4	調整	山型	II	不明	S	○				123
B 3 - 12					13.7	4.2	自然	平坦	II	不明			○			101
B 3 - 24		22.3	20.3	III				点状	II		S	○	○	○		
B 4 - 15	91	43.6	17.6	I	14.5	6.9	調整	山型	I a	不明	S	○				111
B 4 - 14	92	76.5	22.5	II	13.0	3.7	剥離	凸	II		S	○	○			89
B 4 - 11	93				6.6	2.2	剥離	平坦	II		F	○				89
B 5 - 22	117				3.7	1.5		平坦	I a		S	○	○	○		95
B 5 - 43	118				12.0	5.5	調整	凸	I b	不明	D	○				94
B 5 - 41	119	71.2	16.5	II	4.3	0.7	剥離	平坦	I a		S	○	○		○	
B 5 - 50	121				6.7	1.4	調整	平坦	II		S	○	○			94
B 5 - 85	122				4.4	1.4	剥離	平坦	II	1.1	S	○	○			114
B 5 - 44	123	74.0	11.5	III				点状	I a		S	○	○	○		
B 5 - 95	124	48.5	25.5	I	4.3	1.4	剥離	平坦	I a		D	○			○	112
B 5 - 42	125	32.5	12.0	III	2.1	1.2	剥離	平坦	I a		S	○	○			
B 5 - 13	126				12.3	7.8	調整	平坦	II	1.3	S	○				109
B 7 - 36	181				11.5	3.5	調整	山型	II		S	○				91
B 7 - 126	183	78.5	35.1	I	17.6	8.9	調整	凸	I a	不明	S	○		○		102
B 7 - 43	184				22.8	6.8	調整	山型	II		S	○				95
B 7 - 3+5	185	73.5	18.5	II	7.7	4.5	調整	平坦	I a	不明	S	○	○	○	○	88
B 7 - 24	187	79.5	22.5	I	16.5	5.1	調整	凸	I b	不明	S	○				96
B 7 - 104	215				15.7	4.2	調整	山型	II	不明	D	○	○	○		98
B 7 - 109	216				6.5	1.4	剥離	平坦	II		D	○				
B 7 - 102	217	118.5	28.5	II	8.8	4.4	調整	平坦	I b	不明	D	○	○			93
B 7 - 105	218	117.0	41.5	I	13.2	3.9	調整	凸	II	1.8	S	○				89
B 7 - 101					18.6	5.5	調整	凸	I b		S	○	○			95
B 8 - 3+12	230				17.8	9.4	調整	凸	I a	不明	S	○				94
B 8 - 2	232	71.4	16.6	II	6.0	2.5	剥離	平坦	I a	0.9	S	○	○			89
B 8 - 27	234	105.2	22.0	II	7.4	4.1	調整	凸	I a	1.1	S	○	○			101
B外-1069					9.8	4.4	調整	山型	II	不明	S	○				94

第VI章 縄文時代草創期の調査

1 遺構

上ノ平遺跡C地点で検出された縄文時代草創期の遺構は5か所の遺物集中地點(以下ブロック)である。これらのブロックは西地区のAD-AH-5-8の範囲に分布するブロック1・6・10・11、東地区のAH11にあるブロック9である。ブロックの名称は発掘時のものをそのまま用いたが、ブロック11は遺物整理の段階で新たに設定したものである。西地区の4か所のブロックの間では母岩の共有関係、接合資料が認められ、これらは同時に形成されたと考える。一方、ブロック9とその他のブロックとの間にこうした関係は認められない。

ブロック1(図版42)

AF6・7の南寄りに位置し、石器661点、礫1点の多量の遺物で構成され、剝片、チップが多く、接合資料が存在することから、剝片生産を中心とした石器製作が行われていたと考える。遺物は南北10m、東西8mの範囲に分布するが、特にAF6-10・15、AF7-6・11の径3mの範囲に集中する。ここが、剝片生産の場であった可能性が高い。遺物は、約70cmの上下差を持って出土したが、IIa～III層から出土したものが多く、大型の剝片類や石核はⅢ層から出土したことから、生活面はⅢ層上部にあると考える。

このような遺物の出土状況から縄文時代草創期のブロックは旧石器時代のものよりも層位的に上位にあるというのが発掘時からの所見であったが、本遺跡ではⅢ層の層厚が10～15cmであることを考慮すると必ずしも明確であるとはいえない。

ブロック6(図版43)

AF、AG-5に位置し、石器57点で構成される。出土遺物の大半が母岩6の剝片であることから、母岩6の剝片生産を中心とした場であったと考える。南北5m、東西6mの範囲に分布するが、AF5-22・23付近の南北3m、東西2.5mの範囲にまとまりがある。遺物は約50cmの上下差を持って出土しているが、IIb層から出土したものが多く、出土遺物の下限はⅢ層である。

ブロック9(図版44)

AH12の北側に位置し、石器120点、礫1点で構成される。出土遺物の大半がチップで、石器製作によって形成されたものと思われる。遺物は約50cmの上下差を持って出土したが、IIb層から出土したが多い。平面形は径2mのはば円形を呈すると思われるが、南半分は平成3年の確認トレンチに切られていた。

ブロック10(図版45)

AD8に位置し、石器7点で構成される。遺物は約50cmの上下差を持って南北4m、東西2mの範囲から出土したが、その密度は極めて低い。出土層位はⅢ層のものが大半である。

ブロック11(図版45)

AH6に位置し、石器5点で構成される。AH6-7杭の北で4点、その北東約3mで1点出土している。遺物の上下差は約20cmと少なく、出土層位はIIa層が1点、IIb層が4点である。

2 遺 物

上ノ平遺跡 C 地点から出土した縄文時代草創期のものと考えられる遺物は石器だけである。

A 分 類

縄文時代草創期の石器は、尖頭器(未成品を含む)、彫刻刀形石器、二次加工ある剥片、石刃、両面加工石器、石核、剥片、チップに分類した。これらの石器はいずれも少量の出土であり、これ以上の細分は行わなかった。また、彫刻刀形石器、二次加工ある剥片、石刃、剥片、チップの定義は旧石器時代の石器と同じであり、ここでの説明は省略する。

尖頭器

剥片や礫を素材とし、連続的な加工によって尖頭部が作出され、平面形が木葉形、柳葉形などを呈する石器を尖頭器とする。

両面加工石器

厚手の剥片や扁平な礫を素材とし、表裏両面のほぼ全体に渡る加工によってある一定の形状に仕上げられた石器を両面加工石器と呼ぶ。石核との区別が問題となるが、ここでは剥離面の規則性を重視し、平面形が橢円形で断面形がレンズ状ないし D 字状のものを両面加工石器とした。

石核

最終剥離面がネガティヴな剥離面で、その大きさ、規則性などから刃部を作出するための調整と判断されなかった石器を石核とする。

B 石 器 各 説

(1) 石器各説の方針

ブロック 1・6・10・11から出土した石器は後述する母岩の共有状況、石器の接合関係などから同時期に形成されたものであることは確実である。また、トゥールの割合が少ない。そこで、まずトゥールと石核をブロックごとに説明し、母岩別資料の概要を説明した後、接合資料を説明する。剥片は接合資料のものを中心に図示した。

遺物観察表にはブロック出土石器を掲載した。また、剥片属性表は接合した剥片で計測可能なものを掲載した。観察表、属性表の計測基準は第5回のとおりである。遺物番号は発掘調査の遺物取り上げの際につけたものである。縄文時代草創期の石器組成は第43表、石材組成は第44表のとおりである。

(2) ブロック 1 出土石器(図版47・48、写真図版147・148)

ブロック 1 からは石器660点、疊 1 点が出土した。石器組成は第45表、石材組成は第46表のとおりである。尖頭器(4・5・6、実測番号以下同じ) 未成品を含め 3 点出土した。B1-312(遺物番号、以下ブロック番号省略)は両面加工の尖頭器で、石材は黒曜石である。夾雜物を原因とする折れで先端側を欠損するが、完形時は細身の木葉形を呈していたものと思われる。基部側には橢状剥離が認められ、使用等による欠損であろう。616は錯交剥離によって調整されたもので珪質岩製である。剥片を素材とし、左側縁の主要

第43表 縄文時代草創期石器組成表

ブロックNo.	尖頭器	彫刻刀	両側面	その他	石核	石刀	剥片	チップ	礫	計
1	3	1		5	7	34	497	113	1	661
6	1		1			2	32	21		57
9	3						14	103	1	121
10						2	5			7
11						3	2			5
外	1					6	9			16
表採等							45	12		57
計	8	1	1	5	7	47	604	249	2	924

第45表 ブロック1石器組成表

母岩No.	尖頭器	彫刻刀	その他	石核	石刀	剥片	チップ	礫	計
1			1		7	103	16		127
2					1	32	9		42
3					10	98	37		145
4			1		6	95	11		113
5	1	1	3	3	3	75	19		102
6									0
7				1	3	13	2		19
8				1	1	1			3
9					2	15	1		18
10					1	1			2
単独	2	1				1			4
母岩外			2	2		63	17	1	85
計	3	1	5	7	34	497	113	1	661

第44表 縄文時代草創期石材組成表

石 材 部	石器	礫	合計
珪質頁岩	292		292
頁岩	608		608
玉髓	2		2
流紋岩	3		3
凝灰岩	9		9
鐵石英	2		2
無斑晶質安山岩	1		1
黒曜石	1		1
チャート	2		2
砂岩	1		1
粘板岩		1	1
花崗岩		1	
合計	922	2	924

第46表 ブロック1石材組成表

石 材 名	石器	礫	合計
珪質頁岩	111		111
頁岩	534		534
玉髓	2		2
流紋岩	1		1
凝灰岩	7		6
鐵石英	2		2
黒曜石	1		1
チャート	1		1
砂岩	1		1
粘板岩		1	1
合計	661	1	661

制離面と右側縁の背面にプランティング状の調整が施され、小型で木葉形の器形に仕上げられている。調整は同側縁の縁辺のみに認められ、素材の背面、主要制離面、打面を残している。679は凝灰岩製の尖頭器未成品である。背面左側縁に自然面を残した剥片を素材とし、背面右側縁基部側と主要制離面の両側縁に調整が施されている。基部側半分を背面からの折れ面で欠損するが、この折れ面は製作時に生じたものであろう。

彫刻刀形石器(7) 1点出土した。325はチャートの石刀を素材とし、両端に刃部が作出されている。先端側は先端左の背面への二次加工を打面として右側縁に2条の楕状制離が施され刃部が作出されている。彫刻刀面と主要制離面のなす角がほぼ直角で彫刻刀面と背面との棱線には頗著な微小制離痕が認められる。基部側の刃部は、左1条、右2条と両側縁に楕状制離が施され彫刻刀面が作出されている。これらの彫刻刀面を切る素材を切断するような背面へのノッチ状の調整が認められるが、新たな楕状制離のための打面かもしれない。

二次加工ある剥片(石刀)(8-10) 5点出土し、3点図示した。169は小型の石刀を素材として左側縁打面側と先端の主要制離面に調整が施されている。被然しており、左側縁先端の背面を焼けはじめて欠損する。頁岩製である。485は珪質頁岩の石核を素材とし、最終制離面の末端側に施された調整によって厚手のスクレイバー状の刃部が作出されている。544は背面と側面に節理面・自然面を残す厚手の剥片を素材とし、主要制離面の右側縁に平坦で連続的な調整が施されている。施されている調整が尖頭器の調整に似ているため、尖頭器の未成品である可能性もあるが、調整が部分的にしか認められず両面加工でもないことから、

尖頭器には分類しなかった。頁岩製である。

石核(11-13) 7点出土し、3点図示した。522は両面体を母型とする石刃石核である。上端に打面調整を施しながら石刃が生産されており、生産工程を示す良好な接合資料が存在する。頁岩製である。533は断面D字形の両面加工石器の可能性もあるが、実測図正面に示した縦長の剥片(石刃と呼んでもよいかもしれない)が連続的に剥離された痕跡が認められるため、石核とした。後述するように剥離工程を示す良好な接合資料が存在する。珪質頁岩製である。541は珪質頁岩製であり、節理面が多く認められていることから、分割難いし大型の剥片を素材とするものと思われる。節理面を打面として打面転移・作業面転移を頻繁に行なうながら、幅広や縦長の剥片が剥離され、甲高な亀甲状を呈する石核である。打面調整等も認められない。剥片剥離を示す接合資料が存在する。632は珪質頁岩製の石核で分割難いし剥片を素材とし、作業面の周縁で打面を横方向に移動させながら剥片が剥離され、その裏面に節理面を大きく残している。

(3) ブロック6出土石器(図版46-48、写真図版147・148)

ブロック6からは57点の石器が出土し、石器組成は第47表、石材組成は第48表のとおりである。

尖頭器(1) 60は長さ27.0cmと極めて大型で柳葉形を呈する両面加工の尖頭器である。石材は流状構造を持った無斑品質安山岩で表面は風化が著しい。きわめて大型の石器でありながら厚さは1cmにみたず非常に高度な製作技術をうかがうことができる。また、同一母岩資料は他に全く出土しておらず、完成品で搬入されたことは確実である。基部側を折れ面でわずかに欠損している。

両面加工石器(15) 1点出土した。34は珪質頁岩製の両面加工石器で片面に自然面を残している。左側縁には剥片状の剥片を剥離した痕跡が認められ、その後この剥離面の打面を取り去るような剥離が施され

第47表 ブロック6石器組成表

母岩No.	尖頭器	節理刀	ナイフ	両面加	石核	石刃	剥片	チップ	礫	計
1							1			1
3							1			1
4							6			6
5							1	1		2
6							23	21		45
単 独	1						1			2
計	1	0	0	1	0	2	32	21	0	57

第48表 ブロック6
石材組成表

石材名	石器
珪質頁岩	48
頁岩	8
無斑品質	1
合 計	57

第49表 ブロック9石器組成表

母岩No.	尖頭器	剥片	チップ	礫	計
11	2	7	49		58
12		5	40		45
母岩外		17	1	18	
	2	12	106	1	121

第50表 ブロック9石材組成表

石材名	石器	礫	計
珪質頁岩	118		118
頁岩	1		1
チャート	1		1
花崗岩		1	1
合 計	120	1	121

第51表 ブロック10石器組成表 第52表 ブロック10-11石 第53表 ブロック11石器組成表

母岩No.	石刃	剥片	計
1	1	4	5
4		1	1
8	1		1
計	2	5	7

石材名	ブロック10	ブロック11
頁岩	7	5
合 計	7	5

母岩No.	石刃	剥片	計
1		2	3
母岩外	1	1	2
計	3	2	5

ている。

(4) ブロック9出土石器(図版46、写真図版147)

ブロック9からは120点の石器が出土し、石器組成は第49表、石材組成は第50表のとおりである。

尖頭器(2) 出土した2点は同一母岩の破片資料で、同一個体の可能性が高い。最も大きい破片である22は両面加工の尖頭器の破片で、石材は珪質頁岩である。形状から大型で木葉形の尖頭器の一部と思われるが、ごく一部の破片資料であり確実ではない。

(5) ブロック外出土石器(図版46、写真図版147)

尖頭器(3) 流紋岩の横長剥片の周辺に平坦な両面加工で調整が施されたものである。調整は周縁のみであり素材の背面・主要剥離面を大きく残し、周縁を全周しない。したがって、両面加工の尖頭器の未成品であると考える。

C 母岩別資料

(1) 母岩の識別と分類

草創期の石器はやや粗粒の頁岩や珪質頁岩を主体とし、模様などから母岩識別の容易なものが多かった。特に、遺跡内で石器製作が行われていると思われる母岩1~8は、1母岩あたりの資料数も多い。手掘り作業で出土した石器のうち748点を12の母岩に識別した。また、明らかに単独母岩資料と考えられる石器が7点ある。これ以外は、小破片であること焼けていることなどから母岩の識別に不確実さが伴う。母岩1~3は母岩の特徴が極めて似ており、特に小さい石器では母岩の識別が困難であったが、それぞれの接合資料と個々の石器を比較して母岩の識別を行った。各母岩の特徴は第54表、出土点数と母岩の分類を第55表に示した。母岩の識別は、色調、模様、自然面の特徴、粒度、光沢などを参考にして行った。また、遺跡内で行われた石器製作の工程によって各母岩をI~IIIに分類した。分類の内容、認定基準は前章で示した旧石器の場合と同じである。

その結果、12の母岩はI類10母岩、II類2母岩であり、母岩別資料748点のうち636点がI類の母岩に帰属している。一方、単独母岩資料7点はIII類と考えられ、その多くはトゥールである。こうしてみると、純文時代草創期の石器は大部分が剥片剥離を中心とした石器製作活動で生じたものと考えられ、わずかに嵌入されたトゥールが伴うというあり方を示していることがわかる。

(2) ブロック間での共有状況

母岩1・3・4・5・8のブロック間での共有関係から、ブロック1・6・10・11は母岩の共有レベルでの同時性が検証された(第56表)。ブロック1は母岩1~10の母岩別資料748点のうち575点を占め、次項に示す接合資料からも、ここが剥片剥離を中心とした石器製作の場であったことを示している。ブロック6は出土石器のほとんどが母岩6の資料で占められ、剥片等が多く出土していることから母岩6の剥片剥離の場であるといえよう。一方、ブロック10・11は石器の出土点数は少ない。しかも、出土石器における母岩別資料の全てがブロック1と母岩の共有関係を持つことを考慮すると、ブロック1から持ち出された石器が使用などの過程をへて廃棄しないで遺棄された場と考えられる。

第54表 各母岩の特徴(草創期)

母岩No.	岩石名	色	調	粒度	光沢	特徴		自然面の特徴	
S 1	頁岩	灰	白	粗	なし	灰色の斑点状の模様		にぶい黄褐色で表面やめらか	
S 2	頁岩	灰	白	粗	なし	灰色の斑点状の模様・にぶい黄褐色のしみ		にぶい黄褐色・灰色で2~3mm単位の凹凸	
S 3	頁岩	灰	白	粗	なし	灰色の斑点状の模様		にぶい黄褐色・灰白色でややなめらか	
S 4	頁岩	灰	オリーブ	中	なし	灰色の筋状の模様がわざかに入る		浅黄色でなめらかが約10mmの窪み、青灰色斑片	
S 5	珪質頁岩	灰色・灰白色	細	弱	暗灰色の筋状の模様			暗灰色でなめらか、灰白色でなめらか	
S 6	頁岩	灰	白	細	弱			浅黄褐色でなめらか	
S 7	頁岩	灰	白	中	なし	暗赤褐色の筋状の模様			
S 8	頁岩	灰	白	粗	なし	灰色の斑点状の模様			
S 9	頁岩	灰	白	粗	なし				
S 10	頁岩	褐	灰	粗	なし				
S 11	珪質頁岩	灰	黄褐色	細	中	暗褐色の模様が入る			
S 12	珪質頁岩	にぶい黄褐色	中	なし	暗灰色の模様が入る				

第55表 各母岩の出土点数と分類

母岩No.	尖頭	節理	両面加	その他	石核	石刃	剥片	チップ	計	分類
S 1				1		10	109	16	136	I
S 2						1	33	9	43	I
S 3						10	104	38	152	I
S 4				1		7	96	11	115	I
S 5	1			1	3	3	75	19	102	I
S 6		1					23	21	45	I
S 7				1	3	13	2	19	I	
S 8				1	1	2		4	I	
S 9					2	15	1	18	I	
S 10						2	1	3	I	
S 11	2						9	49	58	II
S 12							5	40	45	II
平均	3	1				2	1	7	III	
計	7	1	1	3	5	40	486	205	748	

第56表 各母岩のブロック別出土点数

母岩No.	1	6	9	10	11	外	計
S 1	127	1		5	3		136
S 2	42						42
S 3	146	1					147
S 4	113	6		1			120
S 5	102	2					104
S 6	45						45
S 7	19						19
S 8	3			1			4
S 9	18						18
S 10	2						1 3
S 11				59			58
S 12				46			45
準母岩	4	2			1		7
計	575	57	105	7	2	2	748

D 接合資料

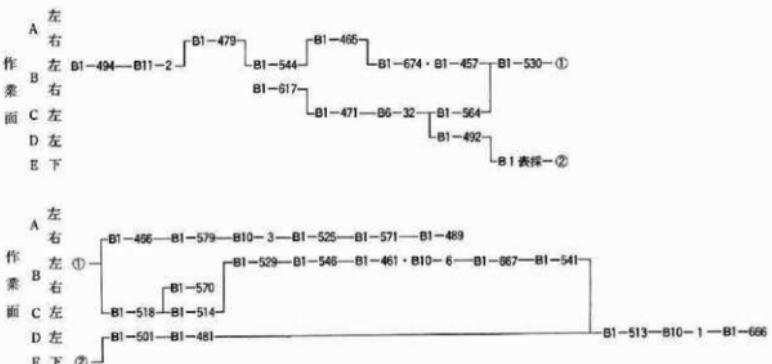
7母岩で9例の接合資料が得られたが、このうち主な7例を説明する。なお、模式図中のアルファベットは作業面を、上下左右は作業面における剥片剥離の打面の位置を示している。

接合資料1(図版54~60、写真図版149~153)

母岩1における剥片32点、二次加工ある剥片1点からなり、原石の形状がほぼ復元できる接合資料である。原石は30.4×11.5×11.4cmの四角柱状の縁で、下半部を除いて大半が復元された。B面に図示した側面は節理面、これ以外の側面は自然面となる。接合した剥片の大部分はこの自然面、節理面を除去する際に生じたもので、石核は出土しなかったので遺跡外に搬出されたと考える。

自然面・節理面の除去はまずA・B・C面で行われた。B1-617からB1-546までは後線3に沿って、片面につき1~3回の剥離を繰り返しながら、B面とC面の上半部の自然面・節理面が除去され、B1-494からB1-530まで後線2に沿ってほぼ交互剥離でA・B面下半部の自然面・節理面が除去されている。また、B6-32に後続して、E面の自然面除去も行われている。この段階で生じた剥片は、比較的長で厚手のものが多い。背面は自然面・節理面および主要剥離面と同一方向の剥離面で構成されていることが多く、複複剥離面打面を持ち、バルブが発達している。接合資料の後半は、おもにB面左側を作業面としてやや打面を固定しながら剥片剥離が行われている。これらの剥離は、打面が固定的であること、剥

片の形状が整ってきてること、これらの剥片の中にブロック10に撤出されているものがあることから、自然面・節理面除去に続く工程と考えられ、生じた剥片の中で形状の適したもののが選択され使用されると思われる。あるいは、目的的な剥片を剥離する段階といえるのかもしれない。実際、生じた剥片の中に縦長のものや打面調整のあるものも存在する。中心部分は石核あるいはその母型として撤出されたと考えるが、その形態は角柱状で長さ25cmを越える大型の両面体であった可能性が高い。

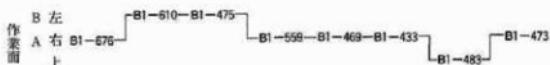


第7図 純文時代草創期接合資料1模式図

接合資料2(図版62、写真図版154)

母岩2の剥片11点からなる接合資料で、節理面で2個体に分割された後、それぞれの個体で剥片剥離が行われている。個体1・2とも剥片は自然面および主要剥離面と同一方向の剥離面で背面が構成されているものが多い。また、石核は出土しておらず、遺跡外に撤出されたものと思われる。

個体1(図版63・64、写真図版154・155) 8点の剥片で構成されている。B1-64からB1-433まで後線1に沿って片面につき数回の剥離がA面とB面に繰り返され自然面・節理面が除去されている。この後、A面では上下からB1-483・473が剥離された。最終的には、これらの剥離による両面加工で仕上げられた石核が遺跡外に撤出されたと考えられる。



第8図 純文時代草創期接合資料2個体1模式図

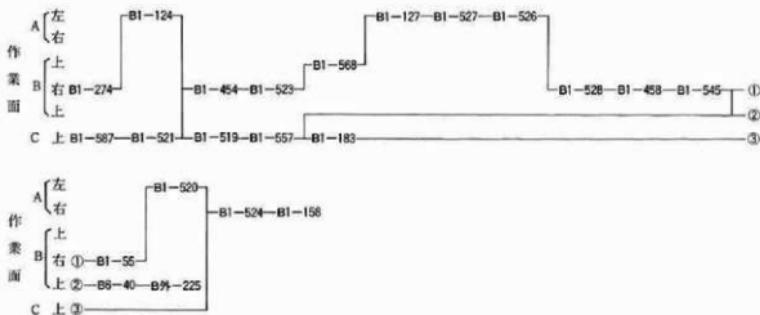
個体2(図版65、写真図版155) 3点の剥片で構成されている。分割による節理面を作業面とする3枚の剥片が接合したが、石核は出土しておらず遺跡外に撤出されたものと思われる。

作業面 A上 B1-460 → B1-61 → B1-477

第9図 純文時代草創期接合資料2個体2模式図

接合資料3(図版66~70、写真図版156・157)

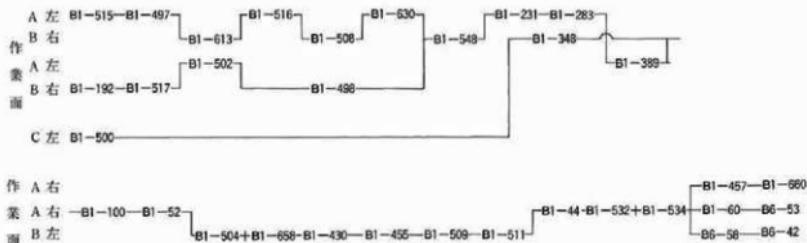
母岩3の剥片22点で構成される接合資料である。原石の形状がほぼ復元でき、 $16.6 \times 13.4 \times 9.4\text{cm}$ の亜角錐であった。棱線1に沿って片面につき1~数回の剥離を繰り返しながら、A面左半部、B面右半部の自然面が除去されている。この自然面除去が終了した段階での石核の棱線1の形状は石刀技法における棱形成された棱線に類似するものであったと思われる。この工程で生じた剥片は、横長で複数の剥離面による打面、背面に自然面および主要剥離面と同じ方向の剥離面を持ち、バルブが発達しているものが多い。B1-454は調整打面であり、この工程の初期の段階でも打面調整による剥離のコントロールが行われていた可能性がある。また、A面右半部は棱線2からの剥離によって自然面が除去され、B面左には上面を打面とした棱線3に沿った綫長の剥片B外-225・B1-640が剥離されている。C面は上方からの連続的な数回の剥離によって自然面除去が行われているが、剥離面の切り合いからA・B面における自然面除去のいずれかの段階に挿入されて行われたようである。中心部分は石核あるいは母型として遺跡外に搬出されたと考えるが、その形態は1面に自然面を残して両面加工された石核で、石核整形と棱形成の終了した石刀石核に類似したものであろう。



第10図 繩文時代草創期接合資料3 模式図

接合資料4(図版71~79、写真図版158~161)

母岩4の剥片33点で構成されている接合資料である。原石の形状がほぼ復元でき、 $23.6 \times 17.6 \times 8.0\text{cm}$ の扁平な円錐であった。原石右縁辺の棱線2に沿った交互剥離によってB1-515とB1-192・B1-389が剥離され、A・B面の縁辺付近の自然面除去が行われた(図版72・73)。また、左側縁のB1-500も同様の工程で剥離されたものであろう。この段階で生じる剥片は、横長で背面の大部分が自然面に覆われているものが多く、打面は単・複剥離面のものが大部分であるが、初期の段階で剥離されたB1-613・516は自然面打面である。B1-348以降はA・B面の中央付近の自然面除去および石核整形が行われ(図版74・75)、棱線1に沿って片面1~数回が剥離を交互に繰り返される。生じた剥片は、主要剥離面と同一方向の剥離面と自然面で背面の構成されているものが主体である。中心部分は石核あるいは母型として搬出されたと思われ、その形態は一部に扁平な円錐の縁辺を残した扁平な両面体であったと考える。

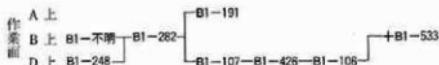


第11図 純文時代草創期接合資料4模式図

接合資料5(図版80、写真図版162)

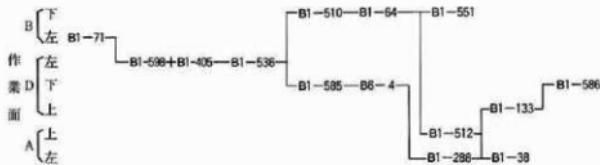
母岩5の剥片22点(接合の結果21点)と石核1点で構成される接合資料であり、節理面で分割された後、それぞれの個体で剥片剥離が行われている。

個体1(図版81・82、写真図版162) 個体1は、剥片7点、石核1点で構成されている。まず、B面を作業面、分割による節理面であるD面を打面として数点の剥片が剥離された後、A面とD面を作業面として剥片剥離が行われた。A面には1点、D面には3点の剥片が接合している。A面の作業面の打面はD面に、D面の作業面の打面はC面に固定されており打面転移は認められない。石核の作業面の観察からA面からは整った綫長剥片(石刃といつてもいいかもしれない)が、D面からはやや幅広な綫長剥片が連続的に剥離されていたと思われる。接合する剥片が少ないことから遺跡外へ搬出された可能性が高い。



第12図 純文時代草創期接合資料5個体1模式図

個体2(図版83-85、写真図版163・164) 個体2は剥片15点(接合の結果14点)で構成されている。主に石核調整にかかる剥片剥離を示す接合資料であると考えられるが、節理面が多く認められるため、不規則な剥離が多くその解釈を困難にしている。B面ではその上下を打面として4枚の剥片が接合している。生じた剥片は節理面を含む不整形なものが多い。一方、D・E面を作業面としてB1-71-38の剥片が剥離されている。打面転移が頻繁に行われ、剥片はやはり節理を含む不整形なものが多い。一方、D面を作業面とするB1-538・B6-4は節理も少なく比較的形も整っている。特にB6-4は分類上は石刃であり、ブロック6に搬出されている。これは、原石のこのあたりに節理が少なかったためで、特に調整等によって剥離がコントロールされていたわけではなく形状の整った石核調整剥片が搬出され、あるいは使用されていたかもしれないことを示す事例であろう。これらの、剥片剥離の順序はB1-71-536が最も古く、その後、B面とD面を作業面とする剥片剥離、B1-288・38の順で剥離されたことがわかる。最後にF面を作業面としてB1-113・586が剥離された。個体2の中心部分は出土おらず石核あるいはその母型として遺跡外へ搬出されたと考える。



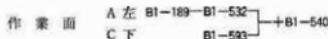
第13図 純文時代草創期接合資料5個体2模式図

接合資料6(図版85、写真図版164)

母岩5の剥片2点(接合の結果1点)と不定形石器1点で構成される接合資料である。剥片B1-209+B1-560が不定形石器B1-485と接合し、接合面はB1-209+B1-560の主要剥離面となっており、B1-485は石核素材の不定形石器である。B1-209+B1-560の打面は節理による同時割れで欠損しており、またB1-209とB1-560への分割も節理による同時割れによるものである。

接合資料7(図版87、写真図版165)

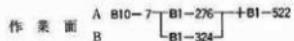
母岩7の剥片3点、石核1点で構成される接合資料である。それぞれの剥片が石核に接合しているが、連続した剥離工程を示すような接合は認められない。石核の観察からも剥片剥離は打面転移、作業面転移の頻繁なものであったことがうかがえる。



第14図 純文時代草創期接合資料7模式図

接合資料8(図版88、写真図版165)

母岩8の石刃1点、剥片2点、石核1点で構成される石刃剥離の工程を示す接合資料である。石刃B10-7が剥離された後、打面調整剥片B1-276と石核調整剥片B1-324が剥離されている。さらにこの後に、B1-276とそれに後続する1回の剥離で調整された打面から石刃1点が剥離されている。石核は断面がD字形を呈する両面体を母型とするもので、石核の裏面には大型の剥離による整形痕が認められる。接合資料1~4で遺跡外に搬出された石核の形状を示している可能性が高い。石質そのものも母岩1~3に似ているが接合関係は認められなかった。



第15図 純文時代草創期接合資料8模式図

第57表 プロット1出土石器観察表(1)

番号	通号	大分類	北南	東西	層	標高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備考
1	A F 6	320	372	II b	70,991	F L	21.3	6.8	3.9	0.48	頁岩	3	無	破損		
2	A F 6	413	423	II b	71,037	C H	15.8	10.8	2.0	0.24	頁岩		無	破損		
3	A F 6	340	540	II b	71,089	F L	26.7	18.4	4.1	1.61	頁岩	5	無	破損		
4	A F 6	350	588	II a	71,158	F L	31.6	23.2	5.1	3.51	頁岩	4	無	破損		
5	A F 6	110	710	II b	71,128	F L	21.0	15.7	3.6	0.99	凝灰	7	無	破損		
6	A F 6	170	725	II b	71,163	C H	13.0	10.9	2.0	0.25	頁岩		無	破損		
7	A F 6	237	755	II b	71,158	F L	31.5	22.3	4.2	2.95	建頁	5	無	破損		
8	A F 6	389	672	II b	71,091	F L	26.5	25.9	6.3	4.82	頁岩	1	無	破損		
9	A F 6	382	690	II b	71,096	F L	42.6	32.7	8.8	10.2	頁岩	1	無	完形		
10	A F 6	450	632	II a	71,100	C H	15.7	7.9	3.5	0.34	頁岩	2	無	破損		
11	A F 6	451	655	II a	71,099	C H	13.1	9.7	2.8	0.2	頁岩	3	無	破損		
12	A F 6	457	687	II a	71,130	F L	23.9	17.2	3.7	1.26	頁岩	3	無	破損		
13	A F 6	466	683	II a	71,068	F L	24.3	14.1	4.7	1.54	頁岩	3	無	破損		
14	A F 6	473	673	II a	71,123	C H	13.2	12.6	1.6	0.19	頁岩	1	無	破損		
15	A F 6	478	677	II a	71,128	F L	20.4	13.7	2.4	0.52	頁岩	3	無	破損		
16	A F 6	486	580	II a	71,161	C H	17.7	14.5	1.4	0.33	頁岩	5	無	破損		
17	A F 6	500	510	II a	71,163	C H	19.5	13.5	2.7	0.55	頁岩		無	破損		
18	A F 6	490	72	II a	71,071	F L	25.6	15.9	4.7	1.33	頁岩	3	無	破損		
19	A F 6	646	175	II b	70,951	F L	26.1	17.0	4.9	1.37	頁岩	3	有	破損		
20	A F 6	530	522	II a	71,155	C H	17.6	8.3	5.3	0.44	頁岩	3	無	破損		
21	A F 6	600	503	II b	70,958	C H	12.6	10.0	1.6	0.16	頁岩		無	破損		
22	A F 6	547	554	II a	71,158	F L	41.8	25.7	8.9	6.25	頁岩		無	破損		
23	A F 6	538	576	II a	71,120	F L	39.6	22.7	5.7	4.18	頁岩	3	無	破損		
24	A F 6	554	607	II a	71,153	F L	25.4	14.7	5.7	1.41	頁岩		無	破損		
25	A F 6	569	567	II a	71,149	C H	15.9	6.8	2.8	0.35	頁岩	3	無	完形		
26	A F 6	561	615	II a	71,115	C H	11.6	9.7	1.7	0.16	頁岩	3	無	破損		
27	A F 6	587	591	II a	71,063	F L	34.2	16.9	4.1	2.87	建頁	5	無	破損		
28	A F 6	509	654	II a	71,121	F L	23.0	20.5	4.0	1.37	頁岩	3	有	完形		
29	A F 6	537	673	II a	71,166	C H	14.5	11.3	2.4	0.2	頁岩	3	無	破損		
30	A F 6	504	667	II b	71,066	F L	91.6	63.2	25.5	105.0	頁岩	4	無	完形		
31	A F 6	498	694	II a	71,116	F L	20.7	13.8	3.8	0.66	頁岩	4	無	破損		
32	A F 6	503	704	II b	71,069	C H	13.2	10.0	1.9	0.21	頁岩	2	無	完形		
33	A F 6	514	693	II b	71,093	F L	27.8	21.0	5.2	2.2	頁岩	4	無	完形		
34	A F 6	578	703	II a	71,114	F L	28.8	14.2	3.7	0.88	頁岩	3	有	破損		
35	A F 6	580	715	II a	71,127	C H	18.4	12.6	2.5	0.39	頁岩		無	破損		
36	A F 6	606	695	II a	71,188	F L	43.0	15.9	7.9	3.91	頁岩		無	破損		
37	A F 6	609	682	II a	71,182	C H	11.2	6.5	1.6	0.12	頁岩	5	無	破損		
38	156	A F 6	620	642	II a	71,207	F L	73.2	48.7	15.9	48.7	理頁	5	無	完形	
39	A F 6	180	607	II b	71,106	F L	28.9	15.4	6.0	1.61	理頁	7	無	破損		
40	A F 6	575	652	II a	71,205	C H	9.0	8.4	1.1	0.09	頁岩	1	有	破損		
41	A F 6	583	692	II a	71,184	C H	14.8	10.2	2.1	0.32	頁岩	4	無	破損		
42	A F 6	61	809	II b	71,109	F L	51.4	29.3	6.8	8.66	頁岩		無	破損		
43	A F 6	6	873	II a	71,158	F L	21.0	13.0	3.2	0.72	頁岩		無	破損		
44	A F 6	135	880	II b	71,145	F L	26.5	14.0	4.5	1.29	頁岩		無	完形		
45	A F 6	135	933	II b	71,136	F L	46.7	28.1	10.5	9.41	頁岩	3	無	破損		
46	A F 6	133	943	II b	71,135	F L	20.6	12.9	3.9	1.09	頁岩	3	無	破損		
47	A F 6	144	976	II a	71,130	C H	18.4	12.3	4.9	0.75	流紋	3	無	破損		
48	A F 6	145	939	II b	71,122	C H	9.5	3.5	1.2	0.04	頁岩	4	無	破損		
49	A F 6	165	938	II b	71,110	C H	6.3	4.8	0.7	0.08	頁岩	1	無	破損		
50	A F 6	109	942	II a	71,259	C H	18.3	9.7	3.1	0.51	頁岩	5	無	破損		
52	1	A F 6	158	886	II b	71,183	C O	55.7	48.1	19.8	37.2	頁岩		無	完形	
53	A F 6	171	881	II b	71,200	F L	22.8	21.6	3.3	1.3	頁岩	3	有	破損		
54	A F 6	226	865	II a	71,226	F L	40.6	23.3	3.4	3.13	頁岩	3	無	破損		
55	92	A F 6	258	855	II b	71,110	F L	60.8	52.3	12.0	27.6	頁岩	3	無	破損	
56	A F 6	277	921	II b	71,119	F L	31.8	23.3	5.9	2.06	凝灰	7	無	破損		
57	A F 6	276	937	II b	71,133	F L	23.9	19.3	4.0	1.17	頁岩	4	無	破損		
58	A F 6	300	855	II a	71,194	C H	16.8	12.2	1.9	0.34	頁岩		無	破損		
59	A F 6	313	838	II a	71,171	F L	56.4	39.8	12.8	27.5	頁岩	7	無	破損		
60	129	A F 6	326	965	II a	71,134	F L	75.2	55.9	14.9	40.0	頁岩	4	無	完形	

第58表 プロック1出土石器観察表(2)

遺物No.	図版No.	大ダリッド	北側	東側	幅	標	高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	破壊	破損	備考
61	70	A F 6	332	965	II a	71.134	F L	75.3	52.2	5.2	17.4	頁岩	2	無	破損		
62		A F 6	325	325	II a	71.715	F L	27.0	19.4	1.6	0.71	頁岩	9	無	破損		
63		A F 6	338	942	II a	71.186	F L	25.9	19.2	2.3	0.9	頁岩	3	無	破損		
64	144	A F 6	333	934	II a	71.134	R F	58.2	40.5	22.4	44.8	頁岩	5	無	完形		
65		A F 6	348	963	II a	71.139	F L	23.4	16.8	1.8	0.64	頁岩	3	無	破損		
66		A F 6	352	972	II a	71.137	F L	18.2	12.6	2.5	0.5	頁岩	4	無	破損		
67		A F 6	253	946	II a	71.152	F L	22.82	22.5	2.0	1	頁岩	1	無	破損		
68		A F 6	357	939	II a	71.191	F L	19.6	10.7	3.4	0.46	泥紋	3	無	破損		
69		A F 6	342	931	II a	71.219	F L	21.4	17.5	3.2	0.87	頁岩	4	無	破損		
70		A F 6	319	927	II a	71.205	C H	16.0	9.3	1.2	0.15	頁岩	3	無	破損		
71	149	A F 6	338	903	II a	71.182	F L	37.8	18.5	9.7	6.34	頁岩	5	無	完形		
72		A F 6	342	867	II a	71.124	F L	22.8	17.8	3.2	1.11	頁岩	3	無	破損		
73		A F 6	342	887	II b	71.127	F L	20.0	5.0	2.9	0.28	頁岩	1	無	破損		
74		A F 6	360	874	II b	71.210	F L	21.6	14.9	2.9	0.7	頁岩	無	破損			
75		A F 6	445	705	II b	71.047	F L	32.1	19.4	9.5	4.97	頁岩	5	無	破損		
76		A F 6	440	742	II b	71.064	F L	20.7	16.2	6.1	1.49	頁岩	3	無	破損		
77		A F 6	399	749	II b	71.101	F L	20.1	10.1	1.3	0.27	頁岩	無	破損			
79		A F 6	409	756	II a	71.146	F L	47.1	44.7	10.5	15.0	頁岩	9	無	破損		
80		A F 6	402	777	II b	71.113	F L	23.4	14.2	3.8	0.79	頁岩	3	無	破損		
81		A F 6	412	809	II b	71.092	F L	19.8	14.7	4.8	0.93	凝灰	無	破損			
82		A F 6	335	666	II b	71.127	C H	12.8	11.3	3.0	0.31	頁岩	無	破損			
83		A F 6	339	794	II a	71.185	C H	18.5	13.4	8.9	1.28	頁岩	3	無	完形		
84	1	A F 6	345	793	II b	71.138	R F	38.2	32.0	18.9	8.21	頁岩	無	完形			
85		A F 6	356	793	II b	71.168	F L	18.0	16.4	1.3	0.42	頁岩	9	無	破損		
86		A F 6	382	818	II b	71.190	F L	20.5	20.1	3.3	0.91	頁岩	5	無	破損		
87		A F 6	383	824	II a	71.169	C H	16.4	13.3	3.8	0.46	凝灰	3	無	破損		
88		A F 6	383	834	II a	71.150	F L	25.1	19.5	4.3	1.47	頁岩	5	無	破損		
89		A F 6	373	839	II b	71.131	C H	14.1	8.1	1.7	0.15	玉髓	有	完形			
90		A F 6	250	845	II b	71.065	F L	40.4	21.8	5.9	3.89	頁岩	4	無	破損		
91		A F 6	383	857	II b	71.107	F L	26.8	25.7	4.3	2.36	頁岩	5	無	完形		
92		A F 6	393	868	II b	71.067	B L	6.8	36.6	6.1	13.5	頁岩	3	無	完形		
93		A F 6	365	870	II a	71.201	F L	45.1	24.7	7.6	7.3	頁岩	2	無	破損		
94		A F 6	418	851	II b	71.076	F L	24.7	18.1	5.1	1.41	頁岩	無	破損			
95		A F 6	430	855	II b	71.074	F L	53.3	42.8	12.9	19.5	頁岩	1	無	破損		
96		A F 6	428	870	II b	71.063	F L	34.4	24.7	2.7	1.98	頁岩	1	無	破損		
97		A F 6	184	825	II b	71.099	F L	48.6	31.4	7.6	9.71	頁岩	1	無	破損		
98		A F 6	27	426	II b	71.040	C H	19.0	17.4	4.2	0.94	頁岩	5	無	破損		
99		A F 6	62	495	II b	71.054	C H	15.1	9.2	1.1	0.13	頁岩	3	無	破損		
100	100	A F 6	5	292	II a	71.141	F L	72.6	55.9	9.5	22.7	頁岩	4	無	完形		
102		A F 6	145	406	II b	70.988	F L	66.1	32.2	12.1	19.4	頁岩	1	無	完形		
103	56	A F 6	405	920	II b	71.043	F L	75.8	60.3	9.7	44.9	頁岩	1	無	完形		
104		A F 6	456	866	II b	71.081	F L	40.8	36.0	6.0	8.6	頁岩	3	無	破損		
105		A F 6	458	879	II b	71.077	B L	46.6	25.8	5.0	4.74	頁岩	3	無	完形		
106	141	A F 6	479	871	II b	71.000	F L	62.7	25.8	14.8	17.7	頁岩	5	無	完形		
107	138	A F 6	492	871	II b	71.112	F L	45.6	25.1	5.7	4.79	頁岩	5	無	完形		
108		A F 6	504	893	II b	71.167	F L	27.2	19.5	4.5	2.01	頁岩	4	無	破損		
109		A F 6	514	910	II b	71.130	F L	15.2	9.8	2.3	0.25	頁岩	5	無	破損		
110		A F 6	527	800	II a	71.125	B L	36.0	31.4	6.7	5.89	頁岩	10	無	破損		
111		A F 6	539	816	II a	71.177	F L	41.6	25.5	16.7	14.1	頁岩	3	無	破損		
112		A F 6	531	818	II a	71.181	F L	36.6	30.0	9.2	5.0	頁岩	有	破損			
113	157	A F 6	522	850	II a	71.200	F L	55.2	27.6	5.2	6.3	頁岩	5	無	破損		
114		A F 6	518	870	II a	71.177	F L	33.3	25.6	7.1	4.24	頁岩	9	無	破損		
115		A F 6	892	892	II b	71.158	F L	21.7	11.5	4.6	1.27	頁岩	無	破損			
116		A F 6	541	885	II a	71.197	C H	15.5	12.2	1.5	0.26	頁岩	2	無	破損		
117		A F 6	454	876	II a	71.186	F L	40.3	25.9	3.9	3.57	頁岩	9	無	破損		
118		A F 6	471	898	II b	71.069	F L	34.8	25.1	5.2	3.33	頁岩	1	無	破損		
119		A F 6	486	907	II b	71.080	C H	9.4	9.2	1.0	0.09	頁岩	7	無	破損		
120		A F 6	502	917	II b	71.074	F L	51.0	29.0	4.4	5.4	頁岩	無	破損			
121		A F 6	512	933	II b	71.066	F L	18.1	15.0	3.8	0.96	頁岩	4	無	破損		
122		A F 6	517	937	II b	71.062	C H	15.6	14.9	3.4	0.48	頁岩	7	無	完形		

第59表 プロック1出土石器観察表(3)

遺物No.	遺物名	北南	東西	高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備考	
124	82	A F 6	542	953	II a	71.164	F L	50.2	35.0	8.6	13.0	頁岩	3	無	破損
125	A F 6	463	957	II b	71.072	C H	15.5	11.8	2.6	0.37	頁岩	5	無	破損	
126	A F 6	478	975	II b	71.075	C H	17.0	12.4	1.4	0.35	頁岩	3	無	破損	
127	86	A F 6	501	988	II b	71.085	F L	59.2	40.1	8.0	16.3	頁岩	3	無	完形
128	A F 6	527	930	II a	71.193	F L	26.5	24.1	6.8	3.48	頁岩	無	破損		
129	A F 6	547	919	II a	71.194	F L	32.2	22.6	3.9	2.27	頁岩	1	無	破損	
130	A F 6	550	924	II b	71.163	C H	11.1	9.1	0.05	0.06	頁岩	1	無	完形	
131	A F 6	560	950	II b	71.211	C H	14.6	18.6	1.6	0.13	頁岩	1	無	破損	
133	A F 6	580	932	II a	71.157	F L	37.8	20.6	6.9	4.65	頁岩	3	無	完形	
134	A F 6	600	943	II a	71.161	F L	39.6	23.2	4.9	4.82	頁岩	3	無	破損	
135	A F 6	606	930	II a	71.204	F L	34.2	21.2	4.9	2.81	頁岩	3	無	破損	
136	A F 6	598	880	II b	71.104	F L	40.6	32.4	3.7	4.78	頁岩	4	無	破損	
137	A F 6	626	915	II b	71.145	F L	33.7	17.6	2.6	1.47	粘板岩	無	破損		
138	A F 6	621	910	II a	71.141	F L	25.8	15.8	3.3	1.22	頁岩	2	無	破損	
139	A F 6	544	746	II a	71.143	F L	52.2	44.6	8.3	11.4	頁岩	4	無	破損	
140	A F 6	566	776	II a	71.145	F L	35.5	26.1	7.1	4.76	頁岩	無	破損		
141	A F 6	576	773	II a	71.150	C H	16.9	10.8	3.7	0.59	頁岩	3	無	破損	
142	A F 6	581	781	II a	71.143	F L	26.7	16.3	2.0	0.69	頁岩	無	破損		
143	A F 6	618	788	II b	71.124	C H	17.0	10.0	1.7	0.29	頁岩	無	完形		
144	A F 6	523	784	II a	71.151	F L	5.3	40.8	8.4	14.5	凝灰岩	無	破損		
145	A F 6	655	769	II a	71.135	F L	39.2	33.6	8.2	7.51	頁岩	3	無	完形	
146	A F 6	695	789	II b	71.100	F L	25.2	14.5	1.7	0.65	頁岩	無	完形		
147	A F 6	706	899	II a	71.112	F L	59.3	48.8	21.5	74.8	頁岩	無	完形		
148	A F 6	810	766	II b	71.088	F L	24.8	15.4	8.0	2.07	砂岩	有	破損		
149	A F 7	130	0	II a	71.288	F L	3.5	18.6	4.5	1.58	頁岩	3	無	破損	
150	A F 7	185	25	II a	71.200	F L	22.6	18.1	2.4	0.73	頁岩	2	無	破損	
151	A F 7	221	135	II a	71.178	F L	34.6	23.4	8.5	5.06	頁岩	4	無	完形	
152	A F 7	226	180	II b	71.123	B L	40.7	13.3	3.8	1.78	頁岩	4	無	完形	
153	A F 7	263	137	II b	71.152	F L	28.0	26.1	4.7	21.3	頁岩	3	無	破損	
154	A F 7	270	125	II a	71.195	F L	20.9	15.3	2.7	0.6	頁岩	4	無	破損	
155	A F 7	278	38	II b	71.116	F L	25.1	18.2	3.5	1.07	頁岩	3	無	破損	
156	A F 7	283	82	II a	71.234	C H	16.5	7.3	3.0	0.33	頁岩	2	無	完形	
157	A F 7	278	95	II a	71.248	F L	32.1	19.4	10.9	3.23	頁岩	3	無	破損	
158	95	A F 7	300	66	II b	71.130	F L	67.9	46.8	7.4	20.1	頁岩	3	無	破損
159	A F 7	303	171	II a	71.238	F L	46.8	40.8	10.6	13.4	頁岩	1	無	完形	
161	A F 7	329	56	II a	71.260	C H	17.7	10.1	2.0	0.32	頁岩	3	無	破損	
162	A F 7	346	124	II a	71.224	F L	20.6	8.6	3.1	0.47	頁岩	3	無	破損	
163	A F 7	344	179	II b	71.135	C H	17.8	14.1	3.3	0.58	頁岩	3	無	完形	
164	A F 7	354	51	II a	71.212	F L	31.2	13.7	6.1	1.65	頁岩	3	無	破損	
165	A F 7	354	65	II a	71.213	F L	47.0	32.9	9.1	10.6	頁岩	1	無	破損	
166	A F 7	357	77	II b	71.156	F L	58.3	45.5	9.4	18.0	頁岩	2	無	完形	
167	A F 7	362	90	II a	71.211	F L	23.2	15.7	3.7	0.99	頁岩	5	有	破損	
168	A F 7	380	93	II a	71.212	F L	33.9	27.5	4.1	3.81	頁岩	1	無	破損	
169	8	A F 7	367	78	II a	71.176	F L	43.8	19.6	5.5	4.24	頁岩	有	破損	
170	A R 7	383	199	II b	71.147	F L	32.3	26.0	5.7	4.47	頁岩	3	無	破損	
171	A R 7	373	210	II b	71.179	F L	59.6	42.0	22.0	34.2	凝灰岩	無	完形		
172	A R 7	422	60	II a	71.039	F L	78.3	47.0	5.2	17.1	頁岩	1	無	完形	
173	A R 7	444	223	II b	71.115	F L	70.8	43.8	14.4	33.9	頁岩	10	無	破損	
174	A R 7	457	29	II a	71.211	C H	12.9	9.7	2.4	0.22	頁岩	3	無	破損	
175	A R 7	461	38	II a	71.205	F L	39.2	24.8	4.7	2.7	頁岩	3	無	破損	
176	A R 7	367	64	II a	71.160	F L	35.6	28.0	4.9	3.91	頁岩	無	完形		
177	53	A R 7	464	98	II a	71.129	B L	64.3	37.4	7.9	13.6	頁岩	1	無	完形
178	A R 7	475	243	II a	71.193	F L	30.1	20.6	2.4	1.51	頁岩	1	無	破損	
179	A R 7	475	34	II a	71.184	C H	16.3	13.8	2.6	0.5	頁岩	3	無	破損	
180	A R 7	474	60	II a	71.195	C H	14.7	8.1	1.3	0.16	頁岩	3	無	破損	
181	A R 7	478	72	II a	71.190	F L	52.5	41.0	13.4	29.6	頁岩	1	無	完形	
182	A R 7	518	53	II a	71.189	F L	44.1	24.2	3.9	3.5	頁岩	無	破損		
183	A R 7	577	48	II a	71.175	F L	38.3	18.6	6.3	5.8	頁岩	5	無	破損	
184	54	A R 6	295	898	II a	71.069	F L	69.9	44.7	5.6	15.1	頁岩	1	無	完形

第60表 プロック1出土石器観察表(4)

遺物No.	図No.	大分類	北南	東西	標	標	高	分類	最大長	設大幅	厚さ	重設(g)	石材	母岩	被燃	破損	備 考
185	AF 6	318	965	II b	71.155	F L	34.3	30.2	5.6	4.16	頁岩	1	無	完形			
187	AF 6	362	957	II b	71.110	F L	44.9	35.9	3.0	2.95	頁岩	1	無	完形			
188	AF 6	376	950	II b	71.082	F L	44.9	29.2	4.5	6.1	頁岩	1	無	破損			
189	171	AF 6	379	896	II b	71.076	F L	44.9	29.8	7.3	6.8	頁岩	5	無	定形		
190	AF 6	486	897	II b	71.044	B L	48.3	27.3	8.2	7.3	頁岩	1	無	完形			
191	137	AF 6	500	828	II b	71.085	F L	38.5	28.8	8.0	4.92	珪質	5	無	破損		
192	108	AF 6	465	828	II b	71.058	F L	71.0	40.8	19.5	45.9	頁岩	4	無	完形		
193	AF 6	552	825	II b	71.036	F L	43.8	39.7	8.5	12.6	凝灰		無	破損			
194	AF 6	568	798	II b	66.829	F L	28.9	23.3	7.6	3.41	凝灰		無	完形			
195	AF 6	564	792	II b	71.039	B L	82.3	17.2	7.7	3.7	頁岩	7	無	完形			
196	AF 6	584	779	II b	71.098	F L	34.4	28.7	4.4	2.26	頁岩	4	無	完形			
197	AF 6	644	773	II b	71.054	F L	32.7	28.5	7.9	4.13	頁岩	4	無	定形			
198	AF 6	611	690	II b	71.059	C H	15.0	7.7	1.2	0.16	頁岩	3	無	破損			
199	AF 6	862	975	II a	71.103	F L	34.1	21.0	7.6	3.92	頁岩	3	無	完形			
200	AF 6	875	920	II a	71.199	F L	30.9	28.4	10.6	8.54	頁岩		無	破損			
201	AF 7	827	145	II b	71.088	F L	50.1	43.2	10.0	13.3	頁岩	1	無	破損			
202	AF 7	856	191	II a	71.202	F L	33.3	25.8	3.9	2.8	頁岩		無	破損			
203	AF 7	673	308	II b	71.145	C H	13.1	7.8	0.8	0.11	頁岩	3	無	破損			
204	AF 7	685	116	II a	71.180	B L	24.0	19.0	3.9	1.31	頁岩	3	無	破損			
205	AF 7	582	64	II b	71.088	C H	19.7	19.1	3.5	0.89	頁岩	3	無	完形			
206	AF 7	526	37	II b	71.106	F L	49.3	26.6	6.7	4.17	頁岩	3	無	破損			
207	AF 7	474	100	II b	71.052	F L	46.8	21.7	13.1	12.1	頁岩	1	無	完形			
208	AF 7	466	46	II b	71.080	F L	54.1	33.3	3.8	7.93	頁岩	3	無	破損			
209	160	AF 7	344	181	II b	71.135	F L	38.2	27.2	12.4	8.7	珪質	3	無	完形		
210	AF 7	343	97	II b	71.104	F L	28.6	20.1	3.0	1.02	頁岩	1	無	定形			
211	AF 7	198	36	II b	71.137	F L	20.8	13.7	3.7	0.5	頁岩	7	無	破損			
212	AF 7	207	123	II b	71.166	F L	28.5	18.8	3.0	1.27	頁岩	2	無	破損			
213	AE 6	924	247	II b	71.015	F L	43.7	31.5	13.7	13.5	チャ		無	破損			
215	AE 6	999	376	II b	71.039	F L	68.4	36.5	2.9	10.1	頁岩	1	無	破損			
216	AE 6	992	374	II b	71.020	F L	40.8	37.4	3.6	4.88	頁岩	1	無	破損			
217	AE 6	990	392	II b	71.018	F L	22.3	16.7	21.0	0.79	頁岩	1	無	破損			
218	AE 6	38	423	II b	70.993	C H	12.6	11.6	2.0	0.26	頁岩	5	無	破損			
219	51	AF 6	43	443	II b	71.909	B L	64.7	35.9	5.7	11.3	頁岩	1	無	完形		
220	AF 6	97	493	II b	71.025	F L	35.0	26.6	3.2	3.07	頁岩	1	無	破損			
221	AF 6	375	464	II b	70.996	B L	58.6	20.3	7.7	6.56	頁岩	4	無	破損			
222	AF 6	372	696	II b	71.000	F L	60.3	33.9	6.4	10.5	砂岩		無	破損			
223	AF 6	322	753	II b	71.049	K N	44.0	27.8	6.1	7.2	頁岩		無	破損			
224	AF 6	330	885	II b	71.070	F L	29.4	22.7	6.2	3.51	頁岩	4	無	破損			
225	AF 6	328	890	II b	71.069	F L	31.8	16.7	6.9	2.03	頁岩	1	無	完形			
226	AF 6	313	954	II b	71.058	C H	17.5	13.0	4.4	0.3	頁岩		無	破損			
227	AF 6	329	953	II b	71.063	C H	18.8	12.0	1.3	0.35	頁岩	3	無	破損			
228	AF 6	349	934	II b	71.066	C H	10.3	9.4	1.6	0.06	玉髓		無	破損			
229	AF 6	371	916	II b	71.063	F L	37.6	21.9	4.6	2.79	頁岩	1	無	破損			
230	AF 6	452	850	II b	71.026	C H	9.2	8.0	0.9	0.08	頁岩	3	無	破損			
231	114	AF 6	481	910	II b	71.035	F L	44.5	34.4	8.7	9.93	頁岩	4	無	完形		
232	AF 6	468	778	II b	70.958	F L	52.2	42.1	10.9	15.5	頁岩	9	無	完形			
233	AF 6	943	775	II a	71.105	F L	36.9	29.7	5.4	5.67	珪質	5	無	破損			
235	AF 6	928	902	II a	71.165	F L	23.2	19.8	3.1	1.12	頁岩	1	無	破損			
236	AF 6	15	499	II a	71.093	F L	53.9	32.6	16.6	22.2	達城		無	完形			
237	AF 6	22	435		71.204	C H	17.1	14.6	7.0	1.03	頁岩		無	完形			
238	AF 6	345	877	II a	71.195	F L	22.4	15.5	3.3	0.83	頁岩	2	無	破損			
239	AF 6	360	868	II a	71.162	C H	15.1	10.9	2.8	0.31	頁岩	5	無	完形			
240	AF 6	367	873	II a	71.140	F L	25.1	9.1	2.5	0.65	頁岩	1	無	破損			
242	AF 6	375	932	II a	71.191	F L	24.5	18.3	3.2	1.2	珪質	5	有	破損			
243	AF 6	520	856	II a	71.188	C H	13.5	5.9	2.9	0.17	頁岩	3	無	破損			
244	AF 6	567	962	II a	71.181	F L	31.0	21.0	4.9	1.99	頁岩	7	無	破損			
245	AF 6	607	650	II a	71.165	B L	19.0	10.5	1.5	0.26	頁岩	2	無	破損			
246	AF 6	615	650	II a	71.116	F L	24.5	16.7	4.5	1.6	頁岩	4	無	破損			

第61表 プロット1出土石器観察表(5)

遺物No.	大分類	北東	西東	層	標	高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	焼熱	破損	備考
247	A F 6	597	684	II a	71.113	F L	31.0	25.1	6.3	4.43	珪質	5	無	完形		
248	I36 A F 6	621	755	II a	71.076	F L	22.7	12.2	5.7	1.28	珪質	5	無	破損		
249	A F 6	539	821	II a	71.128	F L	38.7	31.7	12.1	6.71	頁岩	1	無	破損		
250	A F 7	339	126	II a	71.196	F L	19.8	14.5	2.7	9.02	頁岩	2	無	破損		
251	A F 6	315	939	II a	71.130	F L	26.9	19.5	4.2	1.88	頁岩	7	無	破損		
252	A F 6	328	935	II a	71.128	B L	21.8	10.6	4.4	0.69	頁岩	1	無	完形		
253	A F 6	377	836	II b	71.080	F L	36.4	26.1	3.8	3.53	頁岩	9	無	破損		
254	A F 6	380	823	II b	71.093	C H	12.8	11.8	4.5	0.46	頁岩	2	無	完形		
255	A F 6	451	827	II b	71.086	F L	41.4	30.0	5.0	5.89	頁岩	9	無	破損		
256	A F 6	548	558	II b	70.994	C O	39.5	25.4	11.7	7.29	珪質	5	無	完形		
257	A F 6	555	930	II b	71.035	F L	16.5	15.8	2.4	0.52	頁岩	4	無	破損		
258	A F 6	569	958	II b	71.111	F L	23.0	20.2	4.5	1.78	頁岩	無	無	完形		
259	A F 6	620	879	II b	71.094	C H	19.1	9.3	0.6	0.07	頁岩	3	無	破損		
260	A F 7	331	59	II b	71.167	F L	36.6	22.9	2.9	1.91	頁岩	3	無	破損		
261	A F 7	478	74	II b	71.126	B L	35.0	30.1	8.0	6.85	頁岩	3	無	破損		
262	A F 7	454	96	II b	71.123	B L	35.6	22.0	3.5	1.68	頁岩	3	無	破損		
263	A F 7	517	46	II b	71.163	F L	19.7	18.8	2.8	0.61	頁岩	3	無	破損		
264	A F 7	98	176	II b	71.117	F L	34.5	25.9	5.1	3.35	頁岩	2	無	破損		
265	A F 6	400	773	III	70.977	F L	24.2	14.7	2.0	0.5	珪質	5	無	完形		
266	A F 6	565	757	III	70.937	F L	21.0	19.9	3.1	1.0	珪質	5	無	破損		
267	A F 6	534	825	II b	71.041	F L	29.2	20.7	2.1	1.15	頁岩	4	無	完形		
268	A F 6	520	858	II b	71.137	F L	26.1	17.1	6.3	1.91	頁岩	4	無	完形		
269	A F 6	467	785	III	70.953	F L	59.1	56.3	10.8	27.4	頁岩	9	無	完形		
270	A F 6	494	864	III	71.015	F L	18.8	13.4	7.4	0.95	頁岩	3	無	破損		
271	A F 6	476	823	III	70.951	F L	60.0	42.2	8.4	13.7	頁岩	4	無	破損		
272	A F 6	468	834	III	70.966	F L	28.6	22.9	6.1	3.05	頁岩	4	無	破損		
273	A F 6	459	870	II b	71.063	F L	61.8	37.4	7.1	11.3	頁岩	9	無	破損		
274	81 A F 6	553	990	II b	71.115	F L	67.5	51.4	7.8	25.7	頁岩	3	無	破損		
275	A F 6	512	961	III	70.956	F L	23.8	17.1	2.6	0.99	頁岩	1	無	破損		
276	177 A F 6	486	958	II b	71.042	F L	32.1	18.0	5.7	2.5	頁岩	8	無	完形		
277	A F 6	444	954	III	70.953	F L	34.3	20.0	6.8	2.48	頁岩	4	無	破損		
278	A F 6	414	967	III	70.970	F L	27.9	24.3	2.8	1.37	頁岩	2	無	破損		
279	A F 6	415	912	III	70.955	C H	15.3	7.9	5.5	0.45	珪質	5	無	破損		
280	A F 6	400	893	III	70.955	F L	23.4	17.7	2.8	0.93	頁岩	4	無	破損		
281	A F 6	376	932	II a	71.189	C H	15.2	13.4	2.8	0.53	鍾乳石	無	無	破損		
282	139 A F 6	388	943	III	70.955	F L	67.6	41.4	30.3	39.6	珪質	5	無	完形		
283	113 A F 6	386	930	III	70.997	F L	67.7	51.8	12.3	29.3	頁岩	4	無	完形		
284	A F 6	392	907	III	71.005	F L	42.6	37.0	4.8	6.29	頁岩	4	無	破損		
285	A F 6	392	890	III	70.972	C H	18.4	8.4	3.1	0.52	頁岩	4	無	破損		
286	A F 6	392	865	III	70.999	F L	70.8	44.8	5.7	14.9	頁岩	9	無	破損		
287	A F 6	367	896	III	70.972	F L	29.6	23.3	4.7	2.22	頁岩	4	無	破損		
288	154 A F 6	389	851	III	70.968	F L	67.3	41.2	20.7	45.6	珪質	5	無	完形		
289	A F 6	364	830	III	70.964	F L	49.0	36.8	7.9	12.2	頁岩	9	無	完形		
290	A F 6	385	814	III	71.017	B L	30.9	13.5	2.6	1.01	珪質	5	無	破損		
291	A F 6	375	830	II b	71.075	F L	26.7	18.2	5.2	1.69	頁岩	3	無	完形		
292	A F 6	372	720	III	70.953	F L	22.1	8.7	3.6	0.63	珪質	4	無	破損		
293	A F 6	345	708	III	70.989	F L	55.0	24.8	4.6	2.54	珪質	5	無	完形		
294	A F 6	332	753	III	71.002	F L	29.8	15.6	7.5	2.75	珪質	5	無	破損		
295	A F 6	361	776	III	70.994	F L	61.9	33.7	10.1	15.7	頁岩	4	無	完形		
296	A F 6	356	795	III	71.009	F L	26.5	18.8	1.0	0.61	頁岩	1	無	破損		
297	A F 6	382	744	III	71.027	C H	12.8	7.4	1.2	0.11	頁岩	4	無	破損		
298	A F 6	272	732	III	71.027	C H	18.1	9.3	3.6	0.26	頁岩	4	無	破損		
299	A F 6	228	768	III	71.004	F L	39.5	25.3	8.5	6.75	頁岩	3	無	破損		
300	A F 6	332	819	II b	71.040	C H	13.6	7.6	3.0	0.26	珪質	5	無	完形		
301	A F 6	262	812	III	70.993	F L	25.1	21.6	5.7	1.94	頁岩	4	有	破損		
302	A F 6	187	744	III	70.969	C H	15.3	12.6	2.8	0.41	頁岩	4	無	破損		
303	155 A F 6	228	843	III	70.975	F L	39.7	26.7	14.7	14.6	珪質	5	無	破損		
304	A F 6	260	873	III	70.972	F L	25.1	23.7	7.3	2.32	頁岩	1	無	完形		
305	A F 6	292	829	III	70.970	C H	15.9	7.4	0.8	0.1	珪質	5	無	破損		
306	A F 6	295	863	II b	71.019	C H	15.8	13.6	2.6	0.37	頁岩	無	無	破損		
307	A F 6	356	861	III	71.053	F L	34.2	26.0	5.5	4.47	珪質	5	無	破損		
308	A F 6	338	861	III	70.981	F L	22.4	22.2	7.1	2.77	珪質	5	無	破損		

第62表 プロック1出土石器観察表(6)

遺物No.	大分類	北南	東西	層	標 高	分類	範 大長	最 大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被 烈	破損	備 考
309	A F 6	322	883	III	71,026	F L	31.1	13.8	3.7	1.31	頁岩	4	無	完形	
310	A F 6	315	883	II b	71,052	C H	9.9	9.3	1.2	0.09	頁岩	3	無	破損	
311	A F 6	312	908	II b	71,059	F L	35.1	19.4	4.2	2.94	建頁	5	無	破損	
312 4	A F 6	352	927	II a	71,170	P O	30.7	18.4	7.7	4.50	黑曜	早	無	破損	
313	A F 6	308	955	III	71,024	F L	29.8	20.3	3.8	1.45	頁岩	1	無	破損	
314	A F 6	338	921	III	71,031	F L	28.7	16.3	5.3	1.82	凝灰	4	無	破損	
315	A F 6	1	400	III	70,933	F L	56.7	32.8	6.6	10.9	頁岩	1	無	完形	
316	A F 6	101	455	III	70,983	C H	18.9	10.8	1.9	0.36	頁岩	1	無	破損	
317	A F 6	40	540	III	70,985	B L	31.2	22.7	5.9	3.06	頁岩	7	無	破損	
318	A F 6	14	815	II b	71,014	F L	20.3	18.0	3.0	1.09	頁岩	4	無	破損	
319	A F 6	560	20	III	70,881	F L	22.7	12.3	3.6	0.88	頁岩	1	有	破損	
320	A F 7	394	27	III	71,030	F L	20.7	19.0	5.4	1.05	頁岩	5	無	破損	
321	A F 7	394	38	III	71,007	F L	21.3	12.7	3.5	0.88	頁岩	1	無	完形	
322	A F 7	395	35	II b	71,023	C H	15.3	12.4	1.9	0.23	頁岩	無	完形		
323	A F 7	205	150	III	71,079	F L	17.2	13.4	1.5	0.28	頁岩	2	無	破損	
324	A F 7	455	48	II b	70,995	B L	64.2	27.6	5.2	9.05	頁岩	8	無	完形	
325 7	A F 7	846	902	III	70,972	B U	107.3	35.6	7.7	34.8	堆積	早	無	完形	
326	A F 7	664	978	III	70,975	C H	19.9	15.0	1.6	0.36	頁岩	4	無	破損	
327	A F 7	605	905	III	71,000	F L	26.1	18.2	2.7	1.1	頁岩	3	無	破損	
328	A F 7	447	887	III	71,000	F L	22.1	17.4	5.7	1.23	頁岩	5	無	破損	
329	A F 7	194	83	III	71,047	C H	17.1	9.5	3.3	0.44	頁岩	3	無	完形	
330	A F 7	220	87	III	71,044	F L	26.0	14.3	3.1	1.06	頁岩	3	無	破損	
331	A F 7	267	77	III	71,025	F L	28.7	12.0	4.7	1.28	頁岩	2	無	破損	
332	A F 7	358	138	II b	71,078	F L	38.6	25.2	3.8	3.35	頁岩	3	無	完形	
333	A F 6	356	925	III	71,045	C H	13.5	13.0	1.2	0.25	堆積	5	無	破損	
334	A F 7	329	114	II	71,026	C H	18.2	15.2	1.7	0.42	頁岩	4	無	破損	
335	A F 7	347	95	II b	71,066	F L	59.8	36.9	7.3	11.2	頁岩	1	無	完形	
336	A F 7	327	62	III	71,040	F L	20.9	17.4	5.8	1.48	頁岩	5	無	破損	
337	A F 7	340	69	III	71,033	F L	22.7	17.6	2.0	0.55	頁岩	2	無	破損	
338	A F 7	391	133	III	70,995	C H	19.6	12.2	2.2	0.52	頁岩	3	無	完形	
339	A F 7	388	74	III	71,027	B L	15.7	9.1	2.5	0.35	堆積	5	無	破損	
340	A F 7	473	186	II	71,037	F L	28.2	21.8	4.7	0.84	頁岩	3	無	完形	
341	A F 7	436	83	III	71,010	F L	27.3	23.1	2.2	0.94	頁岩	3	無	破損	
342	A F 6	328	875	III	70,977	B L	20.7	9.4	2.1	0.35	頁岩	3	無	破損	
343	A F 6	325	880	III	70,973	F L	24.9	23.4	3.2	1.1	凝灰	4	無	破損	
344	A F 6	522	867	III	71,005	F L	28.4	15.1	3.1	1.09	堆積	5	無	破損	
345	A F 6	513	850	III	70,947	F L	23.6	19.4	2.4	0.97	頁岩	4	無	破損	
346	A F 7	305	44	II	70,969	F L	22.0	9.5	4.0	0.71	頁岩	3	無	破損	
347	A F 6	314	798	III	70,883	C H	18.6	13.2	1.8	0.49	頁岩	9	無	破損	
348 117	A F 6	331	826	III	70,870	F L	35.5	26.7	5.4	3.37	頁岩	4	無	破損	
349	A F 6	322	844	III	70,870	F L	26.9	21.1	3.7	2.21	堆積	5	無	完形	
350	A F 6	366	829	III	70,969	C H	18.7	13.9	3.6	0.62	頁岩	無	無	破損	
351	A F 6	362	838	III	70,974	F L	26.5	25.3	2.1	1.08	頁岩	1	無	完形	
352	A F 6	382	828	III	70,871	C H	19.6	11.1	4.0	0.64	頁岩	2	無	破損	
353	A F 6	346	862	III	70,921	C H	18.1	13.5	1.4	0.3	堆積	5	無	破損	
354	A F 6	356	900	III	70,914	B L	26.4	11.6	1.8	0.48	頁岩	3	無	破損	
355 145	A F 6	386	885	III	70,886	F L	20.0	12.7	4.7	0.87	頁岩	3	無	破損	
356	A F 6	561	742	III	70,897	C H	16.2	11.0	1.0	0.22	堆積	5	無	破損	
357	A F 6	522	772	III	70,853	F L	23.3	16.4	3.8	1.32	頁岩	4	無	破損	
358	A F 6	499	759	III	70,863	F L	22.1	23.0	1.9	0.57	頁岩	無	無	破損	
359	A F 6	569	849	III	70,856	F L	21.9	20.2	1.5	0.77	頁岩	4	無	破損	
360	A F 6	529	840	III	70,900	C H	18.1	16.0	1.8	0.43	頁岩	3	無	破損	
361	A F 6	495	830	III	70,870	C H	16.3	11.6	1.3	0.25	頁岩	1	無	破損	
362	A F 6	540	937	III	70,848	C H	19.0	13.9	2.5	0.64	頁岩	5	無	破損	
363	A F 6	562	951	III	70,873	F L	32.4	23.2	3.0	2.26	堆積	5	無	破損	
364	A F 6	480	974	III	70,996	F L	21.9	10.4	2.7	0.51	頁岩	3	無	完形	
365	A F 6	458	951	III	70,941	S H	18.9	18.1	1.9	0.47	頁岩	1	無	破損	
366	A F 6	484	985	III	70,900	F L	26.7	21.2	4.9	2.2	頁岩	3	無	破損	
367	A F 6	480	972	III	70,914	C H	14.0	11.4	4.0	0.51	頁岩	3	無	破損	
368	A F 6	458	925	III	70,936	F L	20.6	12.0	3.0	0.6	堆積	5	無	完形	
369	A F 6	446	862	III	70,914	B L	38.7	21.8	4.0	2.05	頁岩	9	無	破損	
370	A F 6	388	981	III	70,897	F L	23.5	21.7	3.4	0.96	流紋	7	無	完形	

第63表 プロックI出土石器観察表(7)

遺物No.	図No.	大分類	北南	東西	層	幅	高	分類	絶大長	絶大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備考	
371	A F 6	385	922	■	20,951	F L	29.2	14.7	7.0	2.3	頁岩	1	無	破損				
372	A F 6	250	934	■	70,860	F L	21.6	12.0	3.3	0.66	頁岩	3	無	破損				
373	A F 6	291	919	■	70,938	F L	23.8	20.1	4.4	2.08	珪質	5	無	破損				
374	A F 6	272	965	■	70,935	F L	28.8	14.6	2.8	1.2	頁岩	3	無	破損				
375	A F 6	301	967	■	70,893	B L	22.1	17.5	4.5	1.28	頁岩	3	無	破損				
376	A F 6	295	979	■	70,859	F L	27.3	21.2	3.4	1.67	頁岩	3	無	破損				
377	A F 6	319	943	■	70,924	F L	24.0	18.3	7.9	2.13	頁岩		無	破損				
378	A F 6	332	945	■	70,933	F L	21.5	13.2	4.6	0.85	頁岩	7	無	破損				
379	A F 6	415	928	■	70,923	C H	16.7	13.2	1.9	0.39	頁岩	4	無	破損				
380	A F 6	493	559	■	70,844	F L	25.8	16.8	7.0	1.52	珪質	5	無	完形				
381	A F 6	345	990	■	a	71,152	R F	24.5	21.5	8.8	2.61	頁岩		無	完形			
382	A F 6	333	998	■	b	71,169	F L	41.7	38.0	3.9	7.2	頁岩	1	無	破損			
383	A F 6	219	997	■	a	71,222	F L	20.2	18.0	3.6	1.07	頁岩	3	無	破損			
384	A F 6	455	963	■	a	71,141	F L	21.2	16.3	4.8	1.3	頁岩	7	無	完形			
385	A F 6	447	999	■	a	71,165	C H	15.8	12.6	1.2	0.18	頁岩	2	無	破損			
386	A F 7	474	25	■	b	71,214	F L	28.3	21.0	8.2	3.47	珪質	5	無	破損			
387	A F 7	468	29	■	a	71,158	F L	23.4	18.1	4.7	1.6	頁岩	1	無	破損			
388	A F 7	440	13	■	a	71,142	F L	31.0	14.3	5.5	1.69	頁岩	3	無	破損			
389	115	A F 7	459	25	■	b	71,102	F L	52.8	28.4	9.7	12.2	頁岩	4	無	破損		
390	A F 7	451	26	■	b	71,077	C H	16.4	16.6	4.4	0.69	頁岩	3	無	破損			
391	A F 7	441	21	■	b	71,019	F L	31.6	17.8	5.2	2.39	頁岩	1	無	破損			
392	A F 7	433	43	■	b	70,959	F L	26.8	12.0	2.1	0.68	頁岩	5	無	破損			
393	A F 7	412	7	■	b	71,054	F L	38.7	25.2	6.4	5.52	頁岩	5	無	破損			
394	A F 7	382	915	■	b	70,857	C H	17.6	15.7	1.8	0.49	頁岩	4	無	破損			
395	A F 6	419	913	■	b	70,879	F L	33.0	24.9	3.8	2.22	頁岩	4	無	破損			
396	A F 7	374	1	■	a	71,200	F L	25.1	21.6	4.3	1.66	頁岩	4	無	破損			
397	A F 7	383	2	■	a	71,170	F L	41.0	22.2	9.9	8.42	頁岩		無	破損			
398	A F 7	368	15	■	b	71,126	C H	18.1	14.6	1.8	0.45	頁岩	3	無	破損			
399	A F 7	316	15	■	a	71,172	F L	25.4	18.0	5.1	1.64	珪質	5	無	破損			
400	A F 7	301	0	■	a	71,177	B L	62.4	25.7	6.3	9.76	頁岩	4	無	破損			
401	A F 7	296	13	■	a	71,167	C H	14.5	13.6	2.1	0.3	頁岩	3	無	破損			
402	A F 7	278	4	■	b	71,100	F L	22.1	14.1	2.3	0.52	頁岩	5	無	破損			
403	A F 7	318	53	■	b	70,998	F L	20.8	8.1	4.8	0.48	頁岩	2	無	破損			
404	A F 7	337	47	■	b	70,990	F L	32.0	22.9	6.3	2.96	頁岩	3	無	破損			
405	150	A F 7	364	48	■	b	71,017	F L	30.0	16.9	5.7	2.58	頁岩	5	無	破損		
406	A F 7	339	32	■	b	70,952	C H	13.4	10.5	2.4	0.21	頁岩	3	無	破損			
407	A F 7	352	33	■	b	70,943	F L	27.4	18.3	2.7	1.38	頁岩	2	無	破損			
408	A F 7	367	34	■	b	70,940	C H	14.4	12.0	1.2	0.16	頁岩	3	無	完形			
409	A F 7	378	38	■	b	70,999	F L	26.8	16.0	3.3	1.17	頁岩	4	無	破損			
410	A F 7	415	80	■	b	70,894	F L	29.6	26.7	4.6	3.14	頁岩	3	無	破損			
411	A F 7	425	101	■	b	70,948	F L	20.1	15.1	1.7	0.53	頁岩	1	無	破損			
412	A F 7	386	139	■	b	70,963	C H	13.9	4.9	2.2	0.11	頁岩	3	無	破損			
413	A F 7	400	22	■	b	70,994	F L	31.2	19.8	4.8	2.27	頁岩	3	無	破損			
414	A F 7	319	115	■	b	70,948	F L	20.2	14.7	2.6	0.65	頁岩	2	無	完形			
415	A F 7	459	0	■	b	71,038	L	31.1	14.8	2.6	1.3	頁岩	1	無	破損			
416	A F 7	369	2	■	b	71,135	F L	27.1	16.5	4.4	1.3	頁岩	2	無	完形			
417	A F 6	482	750	■	b	70,965	F L	28.0	17.2	2.2	0.96	頁岩	3	無	完形			
418	A F 7	455	13	■	b	70,979	C H	16.2	12.7	1.6	0.26	頁岩	3	無	破損			
419	A F 6	351	872	■	b	70,885	F L	23.1	14.9	3.8	1.18	頁岩	1	無	破損			
420	A F 7	335	21	■	b	70,921	C H	17.9	11.7	3.3	0.57	頁岩	1	無	破損			
421	A F 7	341	21	■	b	70,922	F L	21.5	6.0	2.3	0.19	頁岩	1	無	破損			
422	A F 7	293	14	■	b	70,926	C H	18.2	12.9	1.3	0.27	頁岩	3	無	破損			
423	A F 6	430	892	■	b	70,928	C H	16.0	11.2	3.6	0.55	珪質	5	無	破損			
424	A F 6	225	707	■	b	70,919	F L	32.6	20.3	6.7	3.47	珪質	5	無	完形			
425	A F 6	238	716	■	b	70,921	F L	28.2	22.5	3.2	1.79	珪質	5	無	破損			
426	140	A F 6	462	734	■	b	70,926	F L	48.8	35.1	5.9	9.61	珪質	5	無	完形		
427	A F 6	530	778	■	b	70,917	F L	61.7	49.1	18.2	44.0	珪質	5	無	完形			
428	A F 6	562	727	■	b	70,880	F L	40.8	30.9	5.5	6.2	珪質	9	無	完形			
429	A F 6	568	967	■	b	70,916	B L	44.1	36.3	9.2	9.39	頁岩	4	無	破損			
430	120	A F 6	462	940	■	b	70,889	F L	59.2	31.9	5.4	4.98	頁岩	4	無	破損		
431	A F 6	476	961	■	b	70,886	B L	67.2	31.5	6.8	7.57	頁岩	單	無	完形			
432	75	A F 7	533	68	■	b	70,949	F L	67.1	55.8	8.6	17.7	頁岩	2	無	完形		

第64表 ブロック1出土石器観察表(8)

遺物No.	大分類	北南	西東	層	標	高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被然	破損	備考
433	67	A F 7	454	194	■	70.915	F L	49.6	37.2	13.1	20.3	頁岩	1	無	破損	
434		A F 7	420	146	■	70.998	B L	50.3	25.1	13.2	8.3	頁岩	3	無	破損	
435		A F 7	353	129	■	70.921	F L	40.4	26.1	4.2	3.01	頁岩	3	無	完形	
436		A F 7	314	150	■	70.937	F L	57.6	45.8	8.7	27.9	頁岩	1	無	破損	
437	52	A F 7	312	116	■	70.910	B L	35.1	31.8	3.8	4.41	頁岩	1	無	破損	
438		A F 6	338	924	■	70.998	F L	34.6	18.8	3.2	1.54	頁岩	4	無	破損	
439		A F 6	338	924	■	70.931	F L	45.5	13.6	3.2	1.99	頁岩	3	無	破損	
440		A F 6	342	888	■	70.912	F L	37.8	32.5	5.2	5.6	頁岩	1	無	破損	
441		A F 6	369	858	■	70.924	F L	42.5	22.7	5.6	4.74	頁岩	9	無	破損	
442		A F 6	365	888	■	70.894	F L	32.2	26.0	4.3	3.28	頁岩	5	無	完形	
443		A F 6	354	916	■	70.910	F L	38.2	31.8	6.2	5.2	頁岩	3	無	破損	
444		A F 6	388	943	■	70.901	F L	34.7	28.5	13.3	10.5	珪質	5	無	破損	
445		A F 6	448	850	■	70.902	F L	26.6	23.7	6.2	2.21	珪質	5	無	完形	
446		A F 6	479	923	■	70.926	F L	30.2	19.3	5.2	2.0	珪質	1	無	破損	
447		A F 6	452	959	■	70.936	F L	30.0	22.4	3.8	1.81	頁岩	1	無	破損	
448		A F 7	370	6	■	70.910	B L	35.9	15.2	7.2	3.19	頁岩	1	無	完形	
449		A F 6	459	997	■	71.005	F L	34.8	21.4	5.8	3.28	珪質	5	無	完形	
450		A F 7	419	33	■	70.919	F L	33.8	27.6	2.5	2.35	頁岩	1	無	破損	
451	52	A F 7	444	30	■	70.875	B L	63.3	33.0	4.5	8.7	頁岩	1	無	破損	
452		A F 7	327	80	■	71.038	F L	36.2	33.4	5.3	4.25	頁岩	1	無	完形	
453		A F 7	303	70	■	71.005	F L	40.8	33.1	6.4	5.35	頁岩	1	無	破損	
454	84	A F 6	275	937	■	70.949	F L	55.8	50.1	8.0	15.5	頁岩	3	無	完形	
455	121	A F 6	400	874	■	70.916	F L	39.3	34.1	11.7	10.2	頁岩	4	無	完形	
456		A F 6	399	917	■	70.939	F L	56.4	27.8	4.8	6.3	頁岩	5	無	破損	
457	127	A F 6	435	886	■	70.943	F L	50.4	38.0	7.2	13.9	頁岩	4	無	破損	
458	99	A F 7	310	12	■	70.968	F L	46.9	41.5	6.8	8.6	頁岩	3	無	完形	
459		A F 7	360	0	■	71.003	F L	96.9	54.4	18.9	56.8	頁岩	2	無	完形	
460	69	A F 7	370	14	■ b	71.088	F L	62.8	39.8	10.2	17.7	頁岩	2	無	完形	
461	49	A F 7	386	20	■ b	71.033	F L	62.1	59.2	14.9	46.5	頁岩	1	無	破損	
462		A F 7	353	22	■	70.941	F L	48.5	38.3	7.8	10.4	頁岩	3	無	完形	
463		A F 7	368	31	■	70.960	F L	61.7	41.1	4.6	13.4	頁岩	1	無	完形	
464		A F 7	379	38	■ b	71.015	F L	55.0	41.8	6.9	14.5	頁岩	3	無	完形	
465	19	A F 7	355	27	■	70.890	F L	83.8	57.7	5.1	40.4	頁岩	1	無	完形	
466	28	A F 7	349	32	■	70.919	F L	90.9	62.4	5.7	39.1	頁岩	1	無	破損	
467		A F 7	248	52	■	70.969	F L	63.0	45.8	23.8	30.2	頁岩	1	無	破損	
468	74	A F 7	342	81	■	71.011	F L	69.0	55.6	10.6	41.4	頁岩	2	無	完形	
469	65	A F 7	358	64	■	70.948	F L	74.5	71.1	12.9	53.9	頁岩	2	無	完形	
470	73	A F 7	367	53	■	70.956	F L	63.4	53.0	7.2	20.6	頁岩	2	無	完形	
471	24	A F 7	368	75	■	70.938	F L	91.3	71.9	14.9	130.1	頁岩	1	無	完形	
472		A F 7	374	61	■ b	57.760	F L	55.3	29.8	6.6	14.0	頁岩	1	無	破損	
473	68	A F 7	377	72	■ b	71.018	F L	73.6	63.3	11.3	41.0	頁岩	2	無	完形	
474	174	A F 7	369	98	■	71.029	F L	67.8	51.6	7.1	23.2	頁岩	7	無	完形	
475	63	A F 7	382	52	■	70.927	F L	57.2	47.8	7.2	20.1	頁岩	2	無	完形	
476	50	A F 7	388	57	■	70.943	F L	88.9	55.9	11.0	45.5	頁岩	1	無	完形	
477	71	A F 7	390	70	■ b	70.979	F L	66.4	56.1	20.4	52.0	頁岩	2	無	完形	
478		A F 7	383	82	■	70.947	F L	62.1	58.6	11.4	45.6	頁岩	1	無	破損	
479	18	A F 7	396	53	■ b	70.931	F L	98.2	59.0	20.7	100.6	頁岩	1	無	完形	
480		A F 7	403	19	■ b	71.017	F L	62.4	47.7	7.6	18.3	頁岩	1	無	完形	
481	46	A F 7	411	31	■ b	70.938	F L	95.3	62.0	14.7	55.2	頁岩	1	無	完形	
482		A F 7	415	45	■ b	70.890	F L	103.4	80.4	36.8	219.2	頁岩	1	無	完形	
483	66	A F 7	408	59	■ b	70.983	F L	75.3	56.4	10.4	35.1	頁岩	2	無	完形	
484		A F 7	418	58	■ b	70.988	F L	45.6	27.4	3.5	5.7	頁岩	3	無	破損	
485	159	A F 7	408	74	■ b	70.958	S C	57.7	55.9	22.5	82.2	塊頁	5	無	完形	
486	98	A F 7	431	16	■ b	71.072	B L	73.9	32.2	10.9	19.4	頁岩	3	無	破損	
487		A F 7	421	20	■ b	70.912	F L	72.4	31.7	8.2	16.4	頁岩	1	無	破損	
488		A F 7	424	55	■ b	70.867	F L	89.3	58.8	27.6	130.2	頁岩	1	無	破損	
489	34	A F 7	446	82	■	70.880	F L	93.6	48.0	7.2	28.4	頁岩	1	無	完形	
490		A F 7	436	30	■ b	70.923	F L	78.3	57.5	28.8	70.8	頁岩	1	無	破損	
491		A F 7	448	4	■	71.016	F L	45.5	35.5	5.8	7.9	頁岩	3	無	破損	
492	43	A F 7	459	11	■	70.946	F L	78.9	59.8	17.0	52.8	頁岩	1	無	完形	
493	98	A F 7	464	11	■	70.931	B L	42.5	40.1	11.4	15.5	頁岩	3	無	破損	
494	16	A F 7	455	36	■	70.936	F L	64.4	34.7	10.5	16.3	頁岩	1	無	完形	

第65表 プロツク1出土石器観察表(9)

遺物No.	開発No.	大分類	北南	東西	層	幅	高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被破	破損	備考
495	A F 7	484	43	II b	70,982	F L	52.1	44.7	7.4	10.2	頁岩	3	無	破損			
496	A F 6	407	846	III	70,893	F L	54.2	44.1	11.8	20.9	頁岩	4	無	完形			
497	103	A 6	409	857	III	70,912	F L	97.9	87.9	26.8	142.1	頁岩	4	無	破損		
498	110	A F 6	411	860	III	70,893	F L	73.6	60.1	12.4	37.6	頁岩	4	無	破損		
499	A F 6	407	859	III	70,906	F L	22.1	17.7	3.8	0.69	頁岩	4	無	破損			
500	116	A F 6	419	850	III	70,889	F L	107.1	64.6	23.6	141.1	頁岩	4	無	完形		
501	A F 6	429	850	III	70,867	F L	85.2	43.1	14.9	40.7	頁岩	4	無	破損			
502	111	A F 6	429	858	III	70,930	F L	83.1	47.2	13.2	45.4	頁岩	4	無	完形		
503	A F 6	409	864	III	70,889	F L	55.3	38.8	6.0	15.4	頁岩	4	無	破損			
504	122	A F 6	417	868	III	70,912	F L	67.7	55.0	11.1	38.3	頁岩	4	無	完形		
505	A F 6	422	875	III	70,901	F L	69.8	53.5	23.6	67.5	頁岩	5	無	破損			
506	A F 6	429	872	III	70,872	C O	97.1	44.5	31.3	99.1	頁岩	4	無	破損			
507	A F 6	435	867	III	70,889	F L	68.4	54.5	17.3	43.2	頁岩	9	無	完形			
508	106	A F 6	407	900	III	70,924	F L	84.9	58.0	14.7	56.2	頁岩	4	無	破損		
509	123	A F 6	416	908	III	70,922	F L	82.1	44.4	10.6	20.7	頁岩	4	無	破損		
510	143	A F 6	432	897	III	70,905	F L	80.9	54.1	22.2	74.8	頁岩	5	無	完形		
511	124	A F 6	426	910	III	70,906	F L	132.3	68.9	14.1	106.9	頁岩	4	無	完形		
512	147	A F 6	437	911	III	70,900	F L	104.4	71.1	20.8	146.3	頁岩	5	無	完形		
513	48	A F 6	417	937	III	70,876	F L	58.5	81.1	12.5	86.3	頁岩	1	無	完形		
514	36	A F 6	428	933	III	70,885	F L	103.3	54.6	20.8	74.0	頁岩	1	無	破損		
515	102	A F 6	470	956	III	70,928	F L	66.9	53.4	19.1	36.8	頁岩	4	無	完形		
516	104	A F 6	463	896	III	70,828	F L	102.9	57.8	13.4	85.6	頁岩	4	無	完形		
517	109	A F 6	346	911	III	70,928	R F	85.9	59.2	10.0	49.8	頁岩	4	無	完形		
518	33	A F 6	305	967	III	70,971	F L	90.3	79.7	9.6	54.3	頁岩	1	無	完形		
519	78	A F 6	318	999	III	71,053	F L	63.4	60.2	13.2	28.6	頁岩	3	無	完形		
520	93	A F 6	328	983	b	71,011	F L	72.2	60.6	10.2	40.0	頁岩	3	無	完形		
521	77	A F 6	338	906	III	70,979	F L	67.5	51.3	6.2	25.0	頁岩	3	無	完形		
522	175	A F 6	356	949	III	70,925	C O	109.4	66.0	21.9	160.0	頁岩	8	無	完形		
523	83	A F 6	347	978	III	70,977	F L	88.7	56.7	9.0	60.0	頁岩	3	無	完形		
524	94	A F 6	362	979	III	70,965	F L	72.0	71.3	4.3	27.1	頁岩	3	無	完形		
525	31	A F 6	368	977	III	70,960	F L	92.5	68.0	7.0	31.3	頁岩	1	無	完形		
526	88	A F 6	344	991	II b	71,068	F L	69.2	53.6	6.1	17.3	頁岩	3	無	完形		
527	87	A F 6	34	995	III	70,978	F L	86.0	60.8	11.8	67.4	頁岩	3	無	完形		
528	89	A F 6	251	997	III	70,967	F L	97.5	61.1	10.9	45.4	頁岩	3	無	完形		
529	37	A F 6	353	964	III	70,961	F L	75.5	43.6	6.7	19.6	頁岩	1	無	完形		
530	26	A F 6	353	964	III	70,961	F L	112.5	82.9	21.4	115.3	頁岩	1	無	破損		
531	162	A 6	261	831	III	70,962	F L	61.2	40.7	15.0	29.9	頁岩	5	無	完形		
532	172	A F 6	397	867	III	70,912	F L	69.8	58.8	13.8	49.5	頁岩	5	無	完形		
533	142	A F 6	351	897	III	70,899	C O	91.9	59.5	40.5	196.5	頁岩	5	無	完形		
534	126	A F 6	377	878	III	70,896	F L	85.6	50.6	13.2	54.1	頁岩	4	無	破損		
535	A F 6	392	885	III	70,920	F L	66.3	45.5	4.2	15.6	頁岩	4	無	破損			
536	151	A F 6	398	894	III	70,925	F L	68.6	39.8	8.1	19.9	頁岩	5	無	完形		
537	A F 6	360	899	III	70,877	F L	73.8	52.3	11.3	30.3	頁岩	4	無	完形			
538	A F 6	425	866	III	70,882	F L	74.0	69.1	20.6	79.7	頁岩	4	無	破損			
539	99	A F 6	410	996	III	70,995	F L	71.8	53.1	16.8	45.8	頁岩	3	無	完形		
540	A F 6	418	993	III	70,884	C O	114.8	101.8	78.6	745.6	頁岩	7	無	完形			
541	42	A F 6	338	971	III	70,969	F L	90.2	51.7	6.2	33.7	頁岩	1	無	完形		
542	A F 7	278	7		III	71,010	F L	42.0	30.1	6.1	9.1	頁岩	3	有	完形		
543	A F 7	300	4		III	70,908	F L	44.2	34.4	8.2	6.48	頁岩	3	無	完形		
544	20	A F 6	315	996	III	70,968	S C	111.7	66.9	20.7	144.7	頁岩	1	無	完形		
545	91	A F 6	335	993	III	70,978	F L	83.3	71.9	11.9	52.4	頁岩	3	無	完形		
546	38	A F 6	340	995	III	70,940	F L	79.3	75.8	12.0	50.1	頁岩	1	無	完形		
547	A F 6	408	873	III	71,358	F L	54.8	51.0	13.9	20.6	頁岩	4	無	破損			
548	112	A F 6	424	862	III	70,867	F L	70.9	48.5	9.5	18.1	頁岩	4	無	完形		
549	A F 6	420	871	III	70,861	F L	50.9	39.3	5.6	6.1	頁岩	9	無	完形			
550	A F 6	475	866	III	70,868	F L	24.9	14.9	4.7	1.07	頁岩	4	無	破損			
551	146	A F 6	326	896	III	70,884	F L	76.6	53.6	19.8	59.0	頁岩	5	無	完形		
552	A F 6	404	892	III	70,873	F L	23.5	14.8	2.1	0.53	頁岩	4	無	破損			
553	A F 6	395	897	III	70,907	F L	45.6	28.1	6.8	9.2	頁岩	4	無	破損			
554	A F 6	395	897	III	70,908	C H	15.5	15.0	1.8	0.3	頁岩	1	無	破損			
555	A F 6	361	867	III	70,876	F L	72.4	56.0	16.6	62.8	頁岩	4	無	完形			
556	A F 6	343	893	III	70,890	C H	16.2	13.3	2.9	0.52	頁岩	5	無	破損			

第66表 ブロック1出土石器観察表(6)

遺物No.	層No.	大グリッド	北南	東西	厚	幅	高	分類	嵌入長	嵌入幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備考
557	79	A F 6	351	962	■■	70.932	F L	69.5	66.8	14.5	78.2	頁岩	3	無	完形		
558		A F 7	338	73	■■	70.910	F L	21.2	8.6	3.2	0.33	頁岩	1	無	破損		
559	64	A F 7	368	103	■■ b	71.009	F L	76.2	67.4	12.9	64.1	頁岩	2	無	完形		
560	160	A F 7	403	113	■■ b	71.030	F L	69.5	44.1	18.4	49.4	頁岩	5	無	破損		
561		A F 7	374	70	■■	70.915	F L	61.6	37.9	11.0	26.9	頁岩	1	無	破損		
562		A F 7	318	10	■■	70.929	F L	26.5	17.7	2.5	1.04	頁岩	3	無	破損		
563		A F 7	331	11	■■	70.955	F L	23.1	18.2	3.0	0.74	頁岩	1	無	破損		
564	27	A F 6	372	984	■■	70.907	F L	74.9	52.3	4.8	26.5	頁岩	1	無	破損		
565		A F 6	435	863	■■	70.858	F L	64.8	61.2	13.4	38.3	頁岩	4	無	破損		
566		A F 6	437	885	■■	70.858	F L	45.1	29.1	4.1	4.49	頁岩	4	無	破損		
567	85	A F 7	363	3	■■	70.918	F L	25.0	20.5	5.7	2.21	頁岩	2	無	破損		
568		A F 7	366	9	■■	70.965	F L	62.1	54.1	13.0	28.9	頁岩	3	無	破損		
569		A F 7	379	13	■■	70.965	F L	29.5	22.8	9.7	3.91	頁岩	1	無	破損		
570	35	A F 7	398	15	■■	70.957	F L	108.0	61.5	10.6	77.4	頁岩	1	無	完形		
571	32	A F 7	395	17	■■ b	70.964	F L	67.6	58.2	8.1	27.2	頁岩	1	無	完形		
572		A F 7	392	49	■■ b	70.872	F L	67.7	48.4	11.5	42.9	頁岩	1	無	破損		
573		A F 7	398	54	■■ b	70.918	F L	57.2	40.1	5.3	12.3	頁岩	1	無	破損		
574		A F 7	411	29	■■ b	70.907	F L	5.0	40.4	5.9	15.5	頁岩	1	無	破損		
575		A F 7	463	10	■■	70.903	F L	33.8	20.6	9.8	4.46	珪質	3	無	破損		
576		A F 6	485	986	■■	70.888	F L	37.2	29.2	6.0	5.9	珪質	5	無	完形		
577		A F 7	372	102	■■	70.869	C H	18.9	12.9	1.7	0.47	珪質	5	無	破損		
578		A F 6	477	774	■■	70.833	F L	25.6	23.4	3.3	1.72	珪質	9	無	破損		
579	29	A F 7	394	2	■■	80.948	F L	89.9	74.7	10.2	57.7	頁岩	1	無	完形		
580		A F 6	347	781	■■	70.846	C H	19.9	10.5	1.0	0.34	珪質	1	無	破損		
581		A F 6	375	805	■■	70.868	F L	34.4	24.1	3.7	2.97	頁岩	1	無	破損		
582		A F 6	344	817	■■	70.871	C H	14.5	9.3	2.7	0.25	頁岩	1	無	破損		
583		A F 6	402	826	■■	70.889	C H	19.3	13.0	3.6	0.77	頁岩	1	無	破損		
584		A F 6	370	836	■■	70.849	C H	15.9	12.0	1.4	0.21	頁岩	1	無	破損		
585	152	A F 6	427	874	■■	70.803	F L	89.6	54.9	15.7	74.4	珪質	5	無	完形		
586	158	A F 6	455	884	■■	70.820	F L	64.2	41.0	8.7	24.7	珪質	5	無	破損		
587	76	A F 6	348	887	■■	70.842	F L	65.5	45.5	10.9	17.4	頁岩	3	無	完形		
588		A F 6	415	909	■■	70.839	F L	21.8	19.0	3.0	1.07	頁岩	4	無	破損		
589		A F 6	399	962	■■	70.880	F L	20.2	17.0	2.1	0.5	頁岩	3	無	破損		
590	55	A F 7	409	0	■■	70.948	S C	83.4	52.0	10.6	36.5	頁岩	1	無	完形		
591		A F 7	448	18	■■	70.862	F L	33.3	17.2	5.9	2.1	頁岩	3	無	破損		
592		A F 7	327	22	■■	70.855	F L	33.8	15.9	10.4	2.5	0.39	頁岩	5	無	破損	
593	173	A F 6	208	988	■■	70.990	F L	67.9	34.1	13.0	22.6	頁岩	7	無	破損		
594		A F 7	424	193	■■	70.890	F L	47.0	29.5	6.9	7.9	頁岩	1	無	破損		
595		A F 7	443	170	■■	70.888	F L	22.6	14.6	5.1	1.59	頁岩	1	無	破損		
596	101	A F 7	416	48	■■	70.830	F L	54.6	39.8	3.5	12.0	珪質	3	無	完形		
597		A F 6	378	852	■■	70.830	F L	33.8	25.0	4.2	2.13	頁岩	4	無	破損		
598	148	A F 6	389	855	■■	70.781	F L	66.5	44.5	15.1	38.9	珪質	5	無	破損		
599	57	A F 6	423	845	■■	70.899	F L	76.3	43.0	13.6	41.7	頁岩	单	無	完形		
600		A F 6	402	847	■■	70.785	C H	19.6	11.7	1.4	0.3	頁岩	4	無	破損		
601		A F 6	414	860	■■	70.806	F L	25.6	20.5	6.6	3.03	珪質	5	無	完形		
602		A F 6	416	877	■■	70.825	C H	19.8	12.3	2.4	0.31	頁岩	3	無	完形		
603		A F 6	419	878	■■	70.803	F L	23.5	15.7	3.8	0.77	頁岩	1	無	破損		
604		A F 6	434	893	■■	70.793	F L	38.3	19.7	5.0	2.7	頁岩	4	無	破損		
605		A F 6	433	918	■■	70.830	B L	25.7	18.5	4.7	1.55	頁岩	4	無	破損		
606		A F 6	474	922	■■	70.826	C H	18.4	17.6	2.7	0.53	頁岩	4	無	破損		
607		A F 6	421	150	■■	70.821	F L	20.2	20.9	1.6	0.49	頁岩	1	無	破損		
608		A F 6	388	965	■■	70.817	F L	25.3	16.6	3.6	1.03	頁岩	3	無	破損		
609		A F 6	396	986	■■	70.832	B L	27.7	23.8	5.9	3.01	頁岩	4	無	破損		
610	62	A F 7	400	0	■■	70.937	F L	83.7	60.4	7.6	50.8	頁岩	1	無	完形		
611		A F 6	471	866	■■	70.777	F L	26.2	20.1	11.8	3.17	頁岩	4	無	破損		
612		A F 6	435	850	■■	70.748	F L	21.3	17.1	2.2	0.65	珪質	5	無	破損		
613	105	A F 6	416	868	■■	70.720	F L	69.3	56.2	23.8	68.3	頁岩	4	無	完形		
614		A F 6	393	820	■■	70.743	F L	26.1	19.4	3.5	1.21	珪質	5	無	完形		
615		A F 6	450	911	■■	70.696	F L	22.6	18.4	5.5	2.07	頁岩	3	無	破損		
616	5	A F 6	369	911	■■	70.093	P O	37.1	16.0	4.4	3.17	珪質	無	完形			
617	23	A F 6	336	907	■■	70.701	F L	99.3	44.0	7.1	33.7	頁岩	1	無	完形		
618		A F 6	345	924	■■	70.754	F L	55.1	34.9	13.2	14.3	頁岩	4	無	破損		

第67表 プロツクI出土石器検査表(II)

遺物No.	団No.	大ダツク	北南	西東	層	標	高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重さ(g)	石材	母岩	破壊	破損	備考
619	A F 6	308	878	IV	70.755	F L	22.9	17.4	2.1	0.85	頁岩	9	無	破損			
620	A F 6	450	909	IV	70.672	F L	21.3	20.4	1.3	0.91	頁岩	5	無	完形			
621	A F 6	423	907	IV	70.660	C H	17.5	14.0	1.6	0.39	頁岩	5	無	破損			
622	A F 6	388	928	IV	70.693	F L	22.5	30.6	4.7	1.4	頁岩	3	無	破損			
623	A F 6	376	973	IV	70.704	C H	15.4	15.3	2.9	0.47	頁岩	1	無	破損			
624	A F 7	357	34	IV	70.663	F L	32.1	16.9	2.4	1.04	頁岩	1	無	破損			
625	A F 7	405	105	IV	70.787	F L	32.0	22.7	3.0	1.43	頁岩	1	無	破損			
626	A F 7	384	104	IV	70.778	F L	21.6	16.5	3.7	1.26	頁岩	1	無	破損			
627	A F 7	356	105	IV	70.786	C H	15.6	11.3	1.1	0.2	頁岩	1	無	破損			
628	A F 7	359	175	IV	70.792	F L	34.2	21.8	1.7	1.61	頁岩	1	無	破損			
629	A F 6	458	865	V	70.631	F L	27.9	15.1	2.2	0.71	頁岩	4	無	破損			
630	107	A F 6	425	847	V	70.613	F L	69.3	53.7	8.9	30.7	頁岩	4	無	完形		
631	A F 6	430	949	V	70.597	F L	23.0	19.0	2.5	0.59	頁岩	4	無	破損			
632	14	A F 6	457	866	V	70.589	C O	70.0	65.7	19.4	87.5	頁岩	5	無	完形		
633	A F 6	482	874	V	70.656	F L	22.0	16.5	2.1	0.69	頁岩	4	無	破損			
634	A F 7	352	69	V	70.652	F L	39.8	25.3	3.4	2.69	頁岩	1	無	破損			
635	A F 6	368	938	V	70.525	F L	22.6	21.1	3.1	1.39	頁岩	3	無	破損			
636	A F 7	415	49	III	70.655	F L	35.0	19.1	6.7	4.13	頁岩	5	有	破損			
637	A F 6	495	991	III	70.662	F L	30.7	20.8	2.5	1.47	頁岩	4	無	破損			
638	A F 6	265	858	III	70.658	F L	26.2	14.5	4.4	1.50	珪質	5	無	破損			
641	A F 6	45	99	II	71.039	C O	97.9	61.5	16.7	119.8	珪質	無	破損				
642	A F 6	45	230	II	71.058	F L	86.7	68.2	20.2	118.8	凝灰	無	破損				
643	A F 6	299	230	II	71.241	F L	58.9	36.5	5.6	12.14	頁岩	無	破損				
644	A F 6	247	825	II	71.101	F L	33.0	18.6	3.7	1.84	頁岩	3	無	破損			
645	A F 6	303	610	I	71.156	C H	19.9	15.8	2.0	0.57	頁岩	3	無	破損			
646	A F 6	348	624	I	71.196	F L	26.5	20.1	5.8	2.61	頁岩	無	破損				
648	A F 6	418	510	I	71.121	R F	88.4	68.2	18.2	99.7	凝灰	無	破損				
649	A F 6	446	497	I	71.151	F L	29.4	24.0	6.1	2.3	頁岩	無	破損				
650	A F 6	414	447	I	71.086	F L	37.0	34.8	15.6	13.5	珪質	無	破損				
651	A F 6	635	532	I	71.181	F L	45.2	39.3	21.0	27.0	珪質	無	破損				
652	A F 6	638	535	I	71.181	F L	41.4	37.1	6.5	7.0	頁岩	無	完形				
653	A F 6	642	530	I	71.181	F L	51.9	34.6	11.3	14.5	頁岩	無	完形				
654	A F 6	403	623	I	71.161	F L	40.2	34.5	8.3	9.45	頁岩	4	無	完形			
655	133	A F 6	430	614	II	71.101	F L	82.9	67.0	12.0	65.9	頁岩	4	無	破損		
656	A F 6	424	668	I	71.206	F L	41.2	40.6	8.1	9.1	頁岩	有	破損				
657	A F 6	436	669	I	71.196	F L	35.0	17.7	2.9	1.83	珪質	5	無	完形			
658	122	A F 6	447	671	II	71.116	F L	46.0	33.0	5.5	5.98	頁岩	4	無	破損		
659	A F 6	417	685	I	71.136	F L	67.5	43.1	4.7	11.7	頁岩	9	無	完形			
660	126	A F 6	438	684	I	71.116	F L	68.4	46.9	8.3	17.1	頁岩	4	無	完形		
661	47	A F 6	403	697	II	71.201	F L	43.0	34.1	10.0	9.56	頁岩	2	無	完形		
662	A F 6	402	766	I	71.221	F L	47.9	29.3	4.6	6.26	頁岩	1	無	破損			
663	A F 6	403	778	I	71.198	F L	28.4	12.8	3.7	1.14	珪質	無	破損				
664	A F 6	404	799	II	71.201	F L	47.3	39.8	3.8	6.35	頁岩	無	破損				
665	A F 6	405	803	I	71.166	F L	32.6	16.8	4.1	1.92	珪質	無	完形				
667	41	A F 6	436	809	II	71.116	F L	65.2	47.8	7.3	26.4	頁岩	1	無	完形		
669	A F 6	445	811	I	71.156	F L	28.0	14.1	6.7	2.23	頁岩	無	破損				
670	A F 6	444	832	I	71.116	F L	23.6	16.4	10.1	2.64	珪質	無	破損				
671	A F 6	448	847	I	71.156	F L	50.2	29.5	5.0	6.45	頁岩	有	破損				
672	A F 6	447	864	I	71.191	F L	32.6	28.3	3.8	2.54	頁岩	無	破損				
674	21	A F 6	442	884	II	71.126	F L	51.1	41.6	10.5	17.1	頁岩	1	無	完形		
675	A F 6	416	955	I	71.211	F L	37.5	24.8	6.5	4.17	頁岩	2	無	破損			
676	61					F L	66.5	59.4	14.6	46.0	頁岩	2	無	完形			
677						C H	16.0	15.3	1.7	0.33	頁岩	3	無	破損			
678						F L	29.1	14.2	4.3	1.89	頁岩	4	無	破損			
679	6					F O	73.5	37.7	12.5	31.5	凝灰	無	破損				

第68表 プロツク6出土石器

遺物名	回No.	大アリツ	北南	西東	署	標高	分類	股大長	股大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被然	破損	備考
1	AG 5	85	200	II b	70.615	F L	20.0	14.0	2.1	0.68	頁岩	6	無	破損		
2	AF 5	82	200	II b	70.615	F L	57.5	29.3	9.5	7.38	頁岩	5	無	完形		
4	AF 5	983	53	II b	70.630	B L	82.9	38.3	10.3	26.0	頁岩	5	無	完形		
5	AF 5	930	35	II b	70.632	C H	13.1	12.3	1.1	0.16	頁岩	6	無	破損		
6	AF 5	931	99	II b	70.595	F L	34.4	19.1	2.8	1.19	頁岩	6	無	破損		
7	AF 5	907	202	II b	70.620	C H	18.6	14.4	1.7	0.46	頁岩	6	無	破損		
8	AF 5	872	292	II b	70.557	F L	25.7	20.6	3.4	1.55	頁岩	6	無	破損		
9	166	AF 5	851	300	II b	70.556	F L	53.0	23.9	3.2	2.71	頁岩	6	無	完形	
10		AF 5	703	374	II a	70.770	F L	20.3	11.3	1.8	0.37	頁岩	6	無	破損	
11		AF 5	747	360	II b	70.630	C H	15.3	13.1	2.0	0.27	頁岩	6	無	破損	
12		AF 5	764	3456	II b	70.553	F L	27.9	23.5	2.6	1.54	頁岩	6	無	破損	
13		AF 5	763	387	II b	70.550	F L	22.2	18.8	1.5	0.6	頁岩	6	無	破損	
14		AF 5	780	365	III	70.530	C H	16.0	15.2	2.7	0.57	頁岩	6	無	破損	
15		AF 5	795	363	II a	70.673	F L	30.2	20.6	1.9	1.49	頁岩	6	無	破損	
16		AF 5	736	453	II a	70.700	F L	31.4	16.8	4.7	1.85	頁岩	6	無	破損	
17		AF 5	746	475	III	70.505	C H	16.4	14.6	1.6	0.31	頁岩	6	無	破損	
18		AF 5	761	471	II b	70.632	C H	19.1	15.7	1.9	0.71	頁岩	6	無	破損	
19		AF 5	782	429	II b	70.677	C H	15.3	8.5	1.5	0.18	頁岩	6	無	破損	
20		AF 5	795	425	II b	70.635	C H	16.7	13.6	1.8	0.43	頁岩	6	無	破損	
21		AF 5	784	539	II b	70.673	C H	11.3	8.6	24.0	0.21	頁岩	6	無	破損	
22		AF 5	804	522	II a	70.665	C H	10.3	7.9	0.8	0.08	頁岩	6	無	破損	
23		AF 5	822	345	II b	70.602	F L	25.9	15.5	2.8	0.77	頁岩	6	無	破損	
24		AF 5	865	346	II b	70.643	F L	29.8	23.3	4.4	2.28	頁岩	6	無	完形	
25		AF 5	874	354	II b	70.637	F L	22.8	14.8	2.6	0.7	頁岩	6	無	破損	
26		AF 5	875	374	II b	70.550	C H	18.0	14.9	1.8	0.35	頁岩	6	無	破損	
27	170	AF 5	899	322	II b	70.482	F L	31.0	30.1	3.2	2.98	頁岩	6	無	破損	
28	164	AF 5	810	40	III	70.535	F L	57.4	36.6	4.2	6.88	頁岩	6	無	完形	
29		AF 5	820	410	II b	70.637	F L	36.5	25.3	2.5	1.61	頁岩	6	無	破損	
30		AF 5	858	419	III	70.550	C H	19.9	14.4	4.9	0.9	頁岩	6	無	完形	
31		AF 5	810	440	II a	70.758	C H	18.1	14.5	2.2	0.58	頁岩	6	無	完形	
32		AF 5	800	445	II b	70.707	F L	107.8	100.3	34.4	269.6	頁岩	1	無	完形	
33		AF 5	837	448	II b	70.630	F L	22.0	17.3	1.9	0.69	頁岩	6	無	破損	
34	15	AF 5	812	462	II b	70.690	B F	91.1	55.7	30.1	163.1	頁岩	6	無	完形	
35		AF 5	826	490	II b	70.675	C H	19.7	16.7	1.5	0.43	頁岩	6	無	破損	
36	165	AF 5	882	475	II b	70.660	F L	58.2	33.1	11.3	15.2	頁岩	6	無	破損	
38	168	AF 5	956	413	II b	70.500	F L	45.3	36.0	8.3	8.9	頁岩	5	無	破損	
39		AF 5	977	539	III	70.640	F L	22.8	20.1	3.1	1.03	頁岩	6	無	破損	
40		AG 5	8	55	II a	70.458	F L	58.3	47.4	7.4	21.9	頁岩	3	無	完形	
41		AG 5	32	245	II b	70.737	F L	73.3	41.3	7.0	15.2	頁岩	4	無	破損	
42		AG 5	50	255	II a	70.595	F L	84.2	64.4	10.0	48.2	頁岩	4	無	完形	
44		AG 5	131	300	II b	70.667	F L	66.3	39.3	12.2	20.7	頁岩	4	無	破損	
45		AG 5	51	404	II a	70.615	F L	24.9	20.9	16.8	2.05	頁岩	6	無	破損	
46		AG 5	915	353	II b	70.810	C H	15.1	11.1	0.7	0.13	頁岩	6	無	破損	
47		AF 5	925	328	II b	70.615	F L	33.9	25.4	8.9	6.75	頁岩	6	無	完形	
48		AF 5	957	325	II a	70.580	F L	25.0	17.6	3.9	0.94	頁岩	6	無	完形	
49		AF 5	956	351	III	70.718	C H	14.5	12.2	1.8	0.24	頁岩	6	無	破損	
50		AF 5	985	334	III	70.488	C H	14.4	11.6	4.1	0.58	頁岩	6	無	完形	
51		AF 5	450	445	III	70.567	F L	53.1	40.4	10.1	15.9	頁岩	單	無	破損	
52		AF 5	365	494	III	70.633	F L	89.6	56.4	11.1	35.8	頁岩	4	無	完形	
53		AF 5	420	623	III	70.705	F L	66.7	52.4	4.3	15.3	頁岩	4	無	破損	
54		AF 5	804	353	II b	70.605	C H	14.1	11.8	1.3	0.17	頁岩	6	無	破損	
55	169	AF 5	824	333	III	70.433	F L	56.5	36.5	6.8	10.56	頁岩	6	無	完形	
56		AF 5	870	36	III	70.463	C H	13.2	11.5	1.0	0.14	頁岩	6	無	破損	
57		AF 5	924	336	II b	70.580	C H	9.6	6.2	1.1	0.04	頁岩	6	無	破損	
58		AF 5	981	5	III	70.575	F L	65.0	42.7	11.3	27.5	頁岩	4	無	完形	
59		AF 5	364	492	III	70.617	C H	18.1	17.5	5.3	0.85	頁岩	6	無	破損	
60	1	AF 5	570	274	II b	70.755	P O	270.0	57.7	11.5	171.8	無	畢	無	破損	

第69表 プロック9出土石器観察表(1)

遺物No.	図No.	大分類	北南	東西	層	標	高	分類	最大長	最大幅	厚	重さ(g)	石材	母岩	被熱	破損	備考
1	AH11	215	670	II b	71.245	CH	7.7	5.4	0.6	0.03	珪質	12	無	破損			
2	AH11	186	668	II b	71.25	CH	13.0	12.1	1.3	0.19	珪質	12	無	破損			
3	AH11	170	655	II b	71.279	CH	18.8	17.5	2.6	0.51	珪質	12	無	破損			
4	AH11	127	608	II b	71.274	CH	13.4	10.1	1.6	0.19	珪質	12	無	破損			
5	AH11	150	595	II b	71.161	CH	19.2	14.1	1.8	0.36	珪質	12	無	破損			
6	AH11	175	583	II b	71.248	CH	9.1	4.5	1.3	0.02	珪質	12	無	破損			
7	AH11	193	602	II b	71.162	CH	10.2	8.5	1.9	0.16	珪質	11	無	破損			
8	AH11	194	588	III	71.148	CH	18.0	12.7	3.3	0.50	珪質	12	無	破損			
9	AH11	209	606	II b	71.184	CH	12.8	7.3	2.8	0.18	珪質	11	無	破損			
10	AH11	218	609	II b	71.168	FL	22.6	14.0	2.1	0.52	珪質	12	有	完形			
11	AH11	211	603	II b	71.173	CH	11.5	8.3	1.4	0.09	珪質	12	無	破損			
12	AH11	207	592	II b	71.175	CH	9.8	6.8	0.8	0.05	珪質	12	無	破損			
13	AH11	193	571	II b	71.218	FL	21.5	17.1	1.7	0.67	珪質	11	無	完形			
14	AH11	208	559	III	71.114	FL	17.0	12.1	4.7	0.85	珪質	11	無	破損			
15	AH11	192	534	II b	71.245	CH	10.4	9.0	1.9	0.14	珪質	12	無	破損			
16	AH11	187	556	III	71.109	CH	10.8	7.6	1.6	0.13	珪質	11	無	破損			
17	AH11	178	565	III	71.117	FL	18.2	15.4	3.1	0.59	珪質	12	無	破損			
18	AH11	190	562	III	71.136	CH	11.3	11.2	2.2	0.20	頁岩	無	破損				
19	AH11	147	560	III	71.142	FL	25.8	12.3	4.2	0.95	珪質	11	無	破損			
20	AH11	134	554	III	71.14	CH	5.5	4.5	0.9	0.02	珪質	無	破損				
21	AH11	154	519	III	71.131	CH	4.5	3.2	0.4	0.01	珪質	無	破損				
22	2 AH11	166	512	II b	71.24	PO	36.4	18.7	7.3	3.56	珪質	11	無	破損			
23	AH11	163	500	II b	71.192	CH	9.3	8.4	1.7	0.10	珪質	12	無	破損			
26	AH11	58	490	III	71.158	FL	19.2	17.7	3.7	0.10	珪質	12	無	破損			
27	AH11	76	446	II b	71.226	CH	19.0	15.5	2.9	0.53	珪質	12	有	破損			
28	AH11	127	448	III	71.141	CH	12.7	8.5	1.6	0.10	珪質	無	破損				
29	AH11	203	447	II b	71.217	CH	12.7	10.1	2.3	0.22	珪質	無	完形				
33	AH11	180	590	II b	71.23	PE	87.5	60.0	28.8	182.9	花崗岩	無	破損				
35	AH11	203	438	III	71.13	FL	19.9	13.0	2.5	0.43	珪質	12	無	破損			
36	AH11	209	656	II b	71.195	CH	16.6	8.9	2.1	0.29	珪質	12	無	破損			
37	AH11	176	582	II b	71.157	CH	8.2	6.9	0.6	0.05	珪質	11	無	破損			
38	AH11	185	587	II b	71.165	CH	19.8	12.9	3.0	0.63	珪質	12	無	完形			
39	AH11	182	602	III	71.109	CH	8.3	8.0	1.0	0.08	珪質	12	無	破損			
40	AH11	136	592	II b	71.329	CH	17.6	9.5	4.2	0.40	珪質	12	無	破損			
41	AH11	195	594	II b	71.133	CH	3.9	2.4	0.6	0.01	珪質	無	破損				
42	AH11	214	607	II b	71.169	CH	10.1	8.3	1.5	0.09	珪質	12	無	完形			
43	AH11	207	597	II b	71.159	CH	13.3	8.3	1.9	0.19	珪質	11	無	破損			
44	AH11	204	591	II b	71.136	CH	10.0	6.3	1.7	0.14	珪質	11	無	破損			
45	AH11	194	587	II b	71.134	CH	9.1	6.5	1.5	0.07	珪質	12	無	破損			
46	AH11	187	581	II b	71.175	CH	11.1	10.0	0.8	0.09	珪質	11	無	破損			
48	AH11	185	566	II b	71.126	CH	6.9	4.4	0.8	0.03	珪質	12	無	破損			
49	AH11	184	566	II b	71.125	CH	14.7	6.6	1.3	0.11	珪質	11	無	破損			
50	AH11	192	567	II b	71.163	FL	29.7	15.0	2.7	0.88	珪質	11	無	破損			
51	AH11	203	577	II b	71.129	CH	16.7	12.9	2.3	0.46	珪質	11	無	完形			
52	AH11	206	585	III	71.128	CH	4.8	4.0	0.5	0.01	珪質	無	破損				
53	AH11	192	529	III	71.135	CH	5.2	4.9	0.4	0.01	珪質	無	破損				
54	AH11	198	447	II b	71.192	CH	6.8	5.2	1.4	0.03	珪質	11	無	破損			
55	AH11	211	596	II b	71.119	CH	13.3	11.5	1.5	0.18	珪質	11	無	破損			
56	AH11	209	596	II b	71.127	CH	6.7	3.6	0.7	0.02	珪質	11	無	破損			
57	AH11	215	604	II b	71.118	CH	8.2	3.4	2.0	0.04	ナメ	無	破損				
58	AH11	184	585	II b	71.148	CH	7.7	4.9	0.7	0.01	珪質	11	無	破損			
59	AH11	197	576	II b	71.105	CH	7.0	3.9	1.0	0.03	珪質	12	無	破損			
60	AH11	189	579	II b	71.114	CH	10.0	6.4	1.1	0.05	珪質	11	無	完形			
61	AH11	185	581	II b	71.116	CH	5.6	5.5	0.4	0.02	珪質	11	無	破損			
62	AH11	193	564	II b	71.107	CH	25.6	13.1	5.5	1.69	珪質	11	無	破損			
63	AH11	186	599	II b	71.109	CH	13.3	7.2	1.3	0.10	珪質	12	無	破損			
64	AH11	183	601	II b	71.104	CH	8.4	6.4	0.6	0.03	珪質	11	無	破損			
65	AH11	181	595	II b	71.105	CH	12.8	9.3	1.6	0.16	珪質	11	無	破損			
66	AH11	89	515	III	71.156	CH	12.5	8.5	1.4	0.13	珪質	11	有	破損			
67	AH11	219	561	III	71.109	CH	7.9	4.6	0.9	0.03	珪質	無	破損				

第70表 ブロック9出土石器観察表(2)

番号(通番)	大アリット	北南	東西	厚	高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備考
68	AH11	203	542	III	71.097	CH	10.0	7.6	1.0	0.07	珪質	12	無	破損	
69	AH11	210	534	III	71.086	CH	10.0	7.7	1.0	0.09	珪質	11	無	破損	
70	AH11	208	589	III	71.102	CH	6.0	3.7	0.9	0.02	珪質	無	破損		
71	AH11	212	595	II b	71.1	CH	5.3	4.2	1.1	0.01	珪質	11	無	完形	
72	AH11	206	566	III	71.103	CH	12.1	7.7	0.9	0.08	珪質	11	無	破損	
73	AH11	209	567	III	71.097	CH	8.5	6.9	1.0	0.05	珪質	11	無	破損	
74	AH11	211	554	III	71.062	CH	7.2	6.0	1.1	0.03	珪質	11	無	破損	
75	AH11	220	554	III	71.046	CH	11.2	7.4	1.3	0.09	珪質	11	無	破損	
76	AH11	207	576	II b	71.096	FL	16.4	8.9	0.7	0.13	珪質	11	無	破損	
77	AH11	216	599	II b	71.096	CH	7.0	6.2	1.2	0.05	珪質	11	無	破損	
78	AH11	207	574	II b	71.067	CH	7.2	4.5	0.7	0.02	珪質	11	無	破損	
79	AH11	222	599	II b	71.069	CH	9.0	5.7	0.9	0.05	珪質	11	無	破損	
80	AH11	209	588	III	71.054	CH	8.6	7.1	1.0	0.08	珪質	12	無	破損	
81	AH11	191	545	II b	71.058	CH	12.2	9.8	2.4	0.22	珪質	11	無	完形	
82	AH11	184	515	III	71.045	FL	15.1	13.3	1.5	0.28	珪質	11	有	破損	
83	AH11	224	609	II b	71.077	CH	14.0	3.4	2.2	0.40	珪質	11	無	破損	
84	AH11	198	505	III	71.042	CH	14.1	8.9	1.8	0.15	珪質	12	無	破損	
85	AH11	205	619	II b	71.072	CH	12.3	9.2	3.0	0.28	珪質	無	破損		
86	AH11	169	616	III	71.078	CH	5.9	4.2	0.7	0.02	珪質	無	破損		
87	AH11	182	639	II b	71.073	CH	8.7	8.0	0.8	0.05	珪質	12	無	破損	
88	AH11	180	606	II b	71.07	CH	16.3	13.8	2.0	0.42	珪質	12	無	完形	
89	AH11	189	565	II b	71.067	CH	11.9	7.3	0.7	0.07	珪質	12	無	破損	
90	AH11	196	616	III	71.059	CH	14.4	6.7	1.2	0.11	珪質	11	無	完形	
91	AH11	185	577	II b	71.072	CH	15.3	8.7	4.9	0.46	珪質	12	無	完形	
92	AH11	195	588	II b	71.088	CH	12.4	9.8	1.0	0.13	珪質	11	有	完形	
93	AH11	158	644	II b	71.072	CH	10.2	9.0	1.1	0.09	珪質	12	無	破損	
94	AH11	179	608	II b	71.058	CH	7.3	6.9	0.5	0.03	珪質	無	破損		
95	AH11	183	582	II b	71.086	CH	8.1	5.3	1.2	0.05	珪質	12	無	完形	
96	AH11	190	569	II b	71.058	CH	9.7	6.6	1.3	0.06	珪質	12	無	破損	
97	AH11	183	572	II b	71.069	CH	17.3	9.9	2.9	0.62	珪質	11	無	完形	
98	AH11	180	582	II b	71.068	FL	17.2	11.2	2.6	0.36	珪質	12	無	破損	
99	AH11	162	565	II b	71.083	CH	10.3	7.0	0.8	0.06	珪質	11	無	完形	
100	AH11	164	590	II b	71.109	CH	18.2	11.9	2.5	0.55	珪質	11	無	破損	
101	AH11	160	581	II b	71.111	CH	8.2	6.4	0.9	0.04	珪質	12	無	破損	
102	AH11	154	585	II b	71.118	CH	14.3	9.9	1.6	0.28	珪質	12	無	破損	
103	AH11	162	567	II b	71.064	CH	9.5	8.9	0.9	0.09	珪質	11	無	破損	
104	AH11	184	600	II b	71.068	CH	5.6	4.6	0.6	0.02	珪質	11	無	破損	
105	AH11	155	590	II b	71.104	CH	5.9	4.8	0.9	0.02	珪質	11	無	破損	
106	AH11	130	565	II b	71.13	CH	13.3	9.2	1.8	0.23	珪質	11	無	破損	
107	AH11	160	652	III	71.071	CH	17.2	15.1	1.7	0.38	珪質	12	無	完形	
108	AH11	214	746	II	71.14	CH	9.7	5.7	1.2	0.06	珪質	12	無	破損	
109	AH11	177	730	II	71.115	CH	9.1	7.9	0.8	0.06	珪質	12	無	破損	
110	AH11	200	592	II b	71.072	CH	10.2	5.8	0.8	0.06	珪質	11	無	破損	
111	AH11	210	631	III	71.051	CH	9.4	5.9	1.9	0.08	珪質	12	無	破損	
112	AH11	223	607	II	71.025	CH	14.5	8.4	3.0	0.29	珪質	11	無	破損	
113	AH11	176	565	III	71.033	CH	14.1	13.6	1.9	0.28	珪質	12	無	破損	
114	AH11	190	588	II b	71.013	CH	13.0	9.1	1.8	0.19	珪質	11	無	破損	
115	AH11	199	592	II b	71.000	CH	7.9	5.2	0.7	0.02	珪質	12	無	破損	
116	AH11	183	581	II b	70.997	CH	11.4	8.7	1.3	0.12	珪質	11	無	破損	
117	AH11	203	605	II b	71.154	PO	18.2	12.2	5.0	0.78	珪質	11	無	破損	
118	AH11	195	601	II b	71.133	CH	8.3	7.8	0.7	0.06	珪質	11	無	完形	
119	AH11	194	553	III	70.991	FL	21.0	17.6	1.7	0.68	珪質	11	無	完形	
120	AH11	196	601	II b	71.13	CH	9.4	8.6	1.0	0.06	珪質	11	無	完形	
121	AH11	195	599	III	71.058	CH	16.9	7.4	1.6	0.15	珪質	无	無	破損	
122	AH11	204	599	II b	71.074	CH	8.6	7.3	1.0	0.05	珪質	12	無	破損	
123	AH11	204	599	II b	71.074	CH	18.0	3.8	1.2	0.37	珪質	11	無	完形	
124	AH11	195	697	III	70.875	CH	24.4	21.1	3.5	1.39	珪質	11	無	破損	
125	AH11	165	640	III	70.939	CH	11.2	7.1	1.1	0.06	珪質	11	無	完形	
126						CH	8.0	7.3	1.3	0.05	珪質	11	無	完形	
127						CH	12.9	12.2	1.7	0.23	珪質	12	無	破損	
128						CH	10.0	8.5	1.0	0.07	珪質	11	無	破損	

第71表 プロツタ10出土石器観察表

遺物No.	図No.	大分類	北南	東西	層	標 高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備 考
1	AD 8	694	297	Ⅲ	71.115	FL	78.3	42.2	10.5	31.3	頁岩	1	無	完形		
2	AD 8	755	346	Ⅲ	71.050	FL	70.1	40.6	8.5	28.4	頁岩	1	無	破損		
3	AD 8	726	445	Ⅲ	71.120	FL	16.7	60.7	10.4	68.5	頁岩	1	無	完形		
4	AD 8	907	371	Ⅲ	71.085	BL	68.3	48.7	10.3	26.1	頁岩	1	無	破損		
5	AD 8	928	355	Ⅲ	71.238	FL	61.0	47.2	5.5	18.8	頁岩	4	無	完形		
6	AD 8	946	379	Ⅲ	71.252	RF	105.7	58.26	162	74.1	頁岩	1	無	破損		
7	AD 8	965	384	Ⅲ	71.201	BL	117.2	49.5	11.3	57.3	頁岩	8	無	完形		
8	AD 8	49	436	Ⅱ b	71.378	RF	66.6	57.0	12.8	38.6	頁岩		無	完形		

第72表 プロツタ11観察表

遺物No.	図No.	大分類	北南	東西	層	標 高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備 考
1	AH 6	144	184	Ⅱ b	70.175	FL	90.7	58.8	22.1	83.1	頁岩	無	完形			
2	17	AH 6	181	196	Ⅱ a	70.268	FL	99.7	53.1	12.7	74.8	頁岩	1	無	完形	
3	AH 6	151	225	Ⅱ b	70.317	BL	105.2	33.1	9.2	27.8	頁岩	1	無	完形		
4	AH 6	123	233	Ⅱ b	20.257	BL	93.1	46.6	7.1	29.4	頁岩	1	無	完形		
5	AH 6	73	524	Ⅱ b	70.385	BL	26.9	22.4	5.3	2.4	頁岩		無	破損		

第73表 接合資料1 制片属性表

プロツタ	遺物No.	接合資料	制離長	制離幅	打		面		打		点		バルブ		背面構成		断面 調整	制離角	備 考
					幅	厚さ	種類	形状	位置	様	形態	I	II	III	IV	自然	面積		
1	465	1			57.4	14.6	修理	平坦	Ⅲ	5.7	S	○	○	○	○	○		71	
1	466	1			20.7	6.6	修理	平坦	Ⅲ	不明	S	○	○	○	○	○		97	
1	471	1	81.8	70.3	47.9	19.8	修理	平坦	Ⅲ	1.1	S	○	○	○	○	○		120	
1	479	1	65.4	97.7	32.6	15.2	修理	平坦	Ⅳ		S	○	○	○	○	○		113	
1	481	1	72.2	83.1	16.5	7.7	修理	平坦	Ⅲ		S	○	○	○	○	○		103	
1	489	1	82.7	64.3	22.4	7.3	調整	山型	Ⅰ b	不明	S	○	○	○	○	○		95	
1	492	1	58.0	74.5	20.5	7.7	修理	平坦	Ⅲ							○			
1	494	1	45.3	58.3	13.3	7.6	修理	平坦	Ⅲ		F			○	○	○		104	
1	501	1	82.1	42.7	18.3	5.2	修理	平坦	Ⅲ	不明	S		○	○	○	○		98	
1	513	1	78.6	97.6	47.9	14.2	調整	山型	Ⅲ	不明	S	○	○	○	○	○		105	
1	518	1	86.0	70.7	15.8	7.8	修理	山型	Ⅲ	不明	S	○	○	○	○	○		92	
1	525	1	82.3	69.4	29.1	8.9	修理	山型	Ⅲ	不明	F	○	○	○	○	○		113	
1	529	1	67.0	52.6	19.1	11.8	修理	平坦	Ⅰ a	不明	S	○	○	○	○	○		104	
1	541	1	52.2	86.4	69.5	11.4	修理	山型	Ⅲ	不明	S	○	○	○	○	○		102	
1	564	1	68.6	55.2	51.1	12.9	調整	山型	Ⅲ	不明	S	○	○	○	○	○		97	
1	570	1	95.5	58.8	41.0	15.1	調整	凸	Ⅲ	不明	S	○	○	○	○	○		98	
1	571	1	69.0	57.0	65.1	14.5	調整	山型	Ⅲ	1.9	S	○	○	○	○	○		105	
1	579	1	79.7	79.0	63.6	20.1	修理	凸	Ⅲ		S	○	○	○	○	○		111	
1	617	1	89.2	43.8	29.5	4.7	自然	平坦	Ⅲ	1.5	S			○	○	○		104	
1	674	1	39.0	49.0	35.6	6.5	修理	平坦	Ⅲ		F		○	○	○	○		99	
10	3	1				8.7	1.8	修理	平坦	Ⅲ	不明	F	○	○	○	○			

第74表 接合資料2 制片属性表

プロツタ	遺物No.	接合資料	制離長	制離幅	打		面		打		点		バルブ		背面構成		断面 調整	制離角	備 考
					幅	厚さ	種類	形状	位置	様	形態	I	II	III	IV	自然	面積		
1	61	2			30.9	8.9	修理	山型	Ⅲ	不明	S	○	○	○	○	○		94	
1	433	2			43.2	15.5	自然	平坦	Ⅲ	不明	S	○	○	○	○	○		48	
1	460	2	42.3	32.5	37.5	22.1	修理	平坦	Ⅲ	不明						○			
1	469	2	65.0	58.4	41.9	14.7	修理	山型	Ⅰ b	1	S	○	○	○	○	○		113	
1	473	2	67.7	53.2	19.7	6.9	修理	凸	Ⅲ	不明	S	○	○	○	○	○		97	
1	475	2	46.5	50.3	49.8	14.2	自然	凸	Ⅲ	13.2	S	○	○	○	○	○		112	
1	477	2	50.3	64.0	18.6	12.5	修理	平坦	Ⅰ b	2.3	S	○	○	○	○	○		101	
1	483	2	73.4	54.4	24.7	10.2	修理	平坦	Ⅰ a	3.4	S	○	○	○	○	○		99	
1	559	2	57.5	61.5	37.2	15.8	修理	凸	Ⅲ	2.3	S	○	○	○	○	○		111	
1	610	2	58.5	82.6	59.2	14.1	自然	凸	三	1.3	S	○	○	○	○	○		113	

第75表 接合資料3剥片属性表

プロット番号	接合資料	剥離長	剥離幅	打面			打点			バルブ形態			背面構成				剥離角	備考
				幅	厚さ	種類	形状	位置	径	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	自然	物理	調査		
1 127	3	51.5	46.9	19.7	8.8	剥離	平坦	Ⅲ	不明	S				○			104	
1 274	3			25.7	7.9	剥離	平坦	Ⅲ	不明	S				○			113	
1 454	3	46.0	53.0	32.9	8.0	調整	山型	Ⅲ	5	S	○		○	○	○	103		
1 458	3	37.7	41.7	21.1	6.2	剥離	凸	Ⅱ	1.4	S	○		○			88		
1 519	3	54.3	62.0	22.6	11.4	剥離	凹	Ⅲ	不明		○		○	○			103	
1 521	3	62.0	47.4	26.7	13.9	剥離	凸	Ⅲ	4.8	S	○		○				103	
1 523	3	61.8	86.4	54.3	12.4	複剥	凸	Ⅲ	不明	S	○		○	○			96	
1 527	3	61.0	86.0	58.7	20.1	複離	山型	Ⅲ	不明	S	○		○				102	
1 528	3	97.0	58.0	9.1	3.9	剥離	平坦	平粗	1 b	不明	S	○		○			97	
1 545	3	81.6	72.7	30.7	13.7	剥離	平坦	Ⅲ	不明	S	○		○	○			103	
1 557	3	59.7	67.2	24.2	15.0	剥離	平坦	Ⅲ		S	○		○				100	
1 568	3			55.3	11.6	複剥	西	I a	不明	F	○	○		○			113	
1 587	3	48.3	40.6	27.0	12.5	剥離	平坦	Ⅲ	不明	F	○		○				118	

第76表 接合資料4剥片属性表

プロット番号	接合資料	剥離長	剥離幅	打面			打点			バルブ形態			背面構成				剥離角	備考
				幅	厚さ	種類	形状	位置	径	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	自然	物理	調査		
6 44	4	25.5	15.5	12.6	6.2	調整	西	I a	不明	D	○		○				113	
1 60	4	55.5	65.0	20.4	8.5	複離	凸	Ⅲ	不明	S	○	○		○			122	
1 100	4	72.6	56.3	31.8	8.1	調整	凸	Ⅲ	1.1	S	○		○	○			109	
1 231	4	44.0	35.0	30.9	10.2	自然	凸	Ⅲ	不明	F							72	
1 283	4	64.0	47.5	12.4	4.0	剥離	平坦	Ⅲ	不明	S	○		○	○			110	
1 389	4	52.0	33.2					I a			○	○						
1 455	4	32.5	38.3	16.9	4.7	剥離	平坦	Ⅲ	不明	S	○		○				96	
1 497	4	95.3	84.7	10.7	5.1	剥離	平坦	Ⅲ	1	S	○	○		○			109	
1 600	4	63.8	106.8	52.8	13.2	剥離	凸	Ⅲ	不明	S			○	○			114	
1 504	4			33.2	8.6	複離	山型	Ⅲ	不明		○	○		○			125	
1 508	4			34.9	11.9	剥離	平坦	Ⅲ	0.7	S	○		○				112	
1 511	4	67.7	132.4	16.4	9.9	複離	山型	Ⅲ	1.4	S	○		○	○			101	
1 515	4	62.4	51.2	17.7	4.4	剥離	平坦	Ⅲ		S	○		○				114	

第77表 接合資料7剥片属性表

プロット番号	接合資料	剥離長	剥離幅	打面			打点			バルブ形態			背面構成				剥離角	備考	
				幅	厚さ	種類	形状	位置	径	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	自然	物理	調査			
1 189	7	30.5	36.0	26.0	7.4	剥離	平坦	Ⅲ			○			○					
1 593	7	64.2	28.9	11.2	5.7	剥離	平坦	I b	不明	S	○		○				102		
1 532	7	61.0	59.0	38.1	12.5	剥離	凹	Ⅲ	不明	F	○	○		○				106	

第78表 接合資料8剥片属性表

プロット番号	接合資料	剥離長	剥離幅	打面			打点			バルブ形態			背面構成				剥離角	備考
				幅	厚さ	種類	形状	位置	径	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	自然	物理	調査		
1 276	8	28.0	24.5	4.3	0.8	剥離	平坦	Ⅲ			○		○	○				
1 324	8	63.5	28.5	6.7	1.8	剥離	平坦	I a	不明	S	○	○	○				116	
10 7	8	113.3	48.4	17.0	7.5	調整	平坦	I a	3.4	S	○		○				104	

第VII章 繩文時代(草創期を除く)の調査

1 遺物の出土状況(図版90)

縄文時代の遺物出土状況を図版90に示した。遺物は段丘面上の平坦部分では比較的希薄で、主に斜面部分から出土している。とくに、AH4・5グリッド周辺から遺物が集中して出土していることがわかる。竪穴住居跡SI1がAG5とAH5グリッドにまたがって検出されていたことから、これらの遺物はこのSI1と関連する遺物である可能性が高い。SI1下の斜面部分から主に出土していることから、SI1からの廃棄場であったと考える。ただし、土器は大木6式古段階と新段階の土器が混在している。この斜面で土器が出土した包含層は黄褐色を呈しており、細かな分層はできない状況であった。したがって、両者の土器を層位的に分離することができなかった。土器の出土状況を検討するとほかの地点でもおおむね大木6式古段階と新段階の土器が混在して出土している。ここでも遺物包含層が層厚10cm程度と薄いため層位的に両者を分離することはできない。

結果的には大木6式古段階と新段階を分離できるような層位的な所見は得られていない。ただし、これは主に堆積状況の悪さによるもので、両者が共存することにはならない。縄文時代前期の遺跡の性格等についても大木6式の土器が混在して出土しているという状況をふまえて考える必要がある。

2 遺構(図版91、写真図版122・123)

検出された遺構の中で確実に縄文時代のものと考えられるのは、竪穴住居跡1棟、集石遺構3基、ピット1基(Pit15)のみである。竪穴住居跡・ピットは西地区に位置し縄文時代前期末葉、集石遺構は東地区に位置し縄文時代中期前葉のものの可能性が高い。

1号竪穴住居跡(SI1)(図版91、写真図版122)

AG5・AH5区に位置する。南に向かってなだらかに傾斜する緩斜面にあり、北側の壁面が検出されたにすぎない。遺構検出面はIIb層上面である。また、埋土がわずかに汚れたロームで地山との区別がきわめて困難であり、遺物もほとんど出土していないことから、当初、竪穴住居跡と気づかず旧石器の確認トレンチを入れてしまい、北西隅と北東隅を壊してしまった。西側には立木があったことからここでも壁面は検出できなかった。したがって、平面形はPitと壁の関係などから推定せざるを得ないが、約5m四方の隅丸方形になるものと思われる。検出された掘り込みはきわめて浅く、壁面の高さは8~15cmであった。また、壁面の内側で幅約40cm、深さ約20cmの溝が北側でのみ検出された。住居跡内でPitは4基検出されているが全て柱穴であり、一辺が2.5~2.8mのほぼ正方形に配置されている。柱穴の平面形は径40~25cmの円形で比較的小さいが、深さはいずれも70cm以上あり、Pit1・3・4は住居跡の内側に向かって、Pit2は外側に向かって傾いていた。また、Pit3では柱痕を確認することができた。炉は、4本柱穴の中心からやや東にはずれたところに地床炉が設けられているが、擾乱によって一部を壊されている。掘り込みがきわめて浅いため埋土の性格等はよくわからないが、ローム層を由来とする自然堆積土の可能性が高

いと考える。出土した遺物はきわめて少なく、埋土から縄文時代前期末のものと思われる地文のみの土器片が少量出土しているにすぎない。

1号集石遺構(図版91、写真図版123)

AG 13区に位置する。構築された生活面は(以下生活面)Ⅱa層中と思われる。礫の分布範囲は約2.5m四方で、とくに中心付近の約1.3m四方に礫が集中する。集石遺構を構成する礫は径5~20cmの円礫・亜円礫で、いずれも被熱して赤変しており、中には被熱のため割れているものもある。礫が上下差を持たずにして出土したこと、下に掘り込みが確認できなかったことから、土坑を伴わない集石遺構と考える。この土坑の北東約3mから縄文時代中期前業新崎式の同一個体破片がまとまって出土した。東地区で時期の判定できる土器はこれだけで、集石遺構の時期を示している可能性が高い。

2号集石遺構(図版91、写真図版123)

AH 10区の北東隅に位置し、一部は隣接するグリッドにかかっている。推定された生活面はⅡa層中である。礫の分布範囲は南北2.6m、東西2.9mで、比較的密集している。中心から南東寄りで礫が円形に希薄な部分があるが、これはこの集石遺構を切って掘り込まれたSK 38の範囲である。集石遺構は被熱して破碎した礫片によって構成され、個々の礫片は径5~10cmのものが多く10cmを越えるものは少ない。破碎前の形状は円礫・亜円礫だと思われるが、接合作業を行っていないためその大きさ等は不明である。ほかの集石遺構と同様に礫が上下差を持たず面をなして出土し、下に掘り込みも確認できなかったことから土坑を伴わない集石遺構であると考える。この遺構に伴う遺物は出土していない。

3号集石遺構(図版91、写真図版123)

AD 11区に位置する。推定された生活面はⅡa層中だが、Ⅱb層上面とのレベル差はわずかである。礫の分布範囲は南北約2.3m、東西1.6mで、とくに中心付近の径1.2mの範囲に密集している。集石遺構を構成する礫は径5~15cmの円礫・亜円礫でいずれも被熱して赤変しており、中には割れているものもある。ほかの集石遺構と同様に礫が上下差を持たず面をなして出土し、下に掘り込みも確認できなかったことから土坑を伴わない集石遺構であると考える。この集石遺構に伴う遺物は出土していない。

Pit 15(図版91、写真図版123)

AD 5~11区に位置し、長径43cm、短径33cm、深さ34cmのピットである。埋土は自然堆積と考えられ、4層に細分可能である。いずれも地山のローム層に由来する土で埋土の識別には困難が伴った。埋土上部に食い込んでI群土器4類の底部が出土しており、このピット検出の契機となった。

3 遺 物

A 土 器(図版92~94、写真図版167・168)

帰属する時期にもとづいて土器の分類を行った。破片資料が多く、器形が十分に把握できないため文様を中心に分類を行わなければならず、必ずしも根柢が十分ではない部分もある。所属時期による土器群の設定は以下のとおりである。

第Ⅰ群土器……前期末業の土器

第Ⅱ群土器……中期の土器

第Ⅲ群土器……後期・晩期の土器

(1) 第Ⅰ群土器(1~59)

出土した織文土器の大部分がこれにあたる。大木6式の土器を主体とし、わずかに北陸系の土器がこれに加わっている。また、大木6式の古段階と新段階の土器が出土しているが、これらが混在して西地区を中心に出土している状況である。したがって、ここでは古段階と新段階が層位的に分離されて出土した福島県法正尻遺跡(松本1991)、新潟県猪飼遺跡(高沢ほか1995)を参考にしながら、文様にもとづいて細分した。本来であれば器形による分類を行った後に、文様による分類を行うべきと考えるが、出土土器の多くは破片資料で器形が復元できるものが少ないため、個々の土器の記載の中で器形が推定可能なものについてこれを述べることにする。文様にもとづいた第Ⅰ群土器の分類基準は以下のとおりである。

- 1類：口縁部に縦側面圧痕が施されたもの。
- 2類：粘土貼り付けによって複合口縁状に肥厚した幅の狭い口縁部を持つもの。口縁部には指円状の区画がもうけられている。
- 3類：口縁部の下端に三角形状の彫り込みが施されたもの。
- 4類：幅5mm前後の連続する爪形文が施されたもの。
- 5類：爪形文の施された幅5mm前後の隆線を横位・斜位を基本に施すもの。
- 6類：肥厚する上下幅の狭い口縁部に沈線で文様が描かれたもの。
- 7類：板状に肥厚する口縁部に沈線で文様が描かれたもの。
- 8類：沈線の側縁に爪形文が施されたもの。
- 9類：細い粘土紐を貼り付けて文様を描くもの。粘土紐上に細かい爪形文が施されることが多く、描かれる文様も4類に比べると幾何学的で複雑である。
- 10類：半截竹管による半隆起線で平行沈線、渦巻文が施されたもの。
- 11類：その他分類不能の文様。
- 12類：口縁部に無文帶のめぐるもの。

以下、この分類に沿って出土土器の説明を行う。

1類(4)

4は丸く肥厚する口縁部に撫りの継いLRの縦側面圧痕が施されたものである。波状口縁を持ち、頭部の屈曲から胴部にかけてゆるやかに張った深鉢になるものと思われる。

2類(5・6)

5・6は複合口縁状に肥厚した口縁部に指円状の区画が施されたものである。いずれも、胴部が円筒形状となる深鉢であろう。

3類(2)

2は口縁に貼り付けた粘土紐の下端に三角形の彫り込みを施した後、その下にさらに粘土紐を貼り付けたものである。口縁は4単位の突起を持ち、この突起には彫り込み前と後の粘土紐によって区画が設けられ、その中に3本の粘土紐が縦に貼り付けられている。頭部下端の隆線によって頭部と胴部が区画され、胴部にはLR縞文が施される。器形は胴部上半の張った深鉢である。

4類(3・7~11・14~18)

3は胴部の上半に連続する爪形文で文様の描かれた土器である。口縁部と胴部は横位の2条の連続爪形文で区画され、胴部上半には斜行渦巻文とその下に圓齒状の沈線文が描かれている。胴部上半と下半は横

位の連続爪形文で区画されている。器形は胴部上半の張った深鉢となり金魚鉢型にはならないようである。7は頸部に2条の連続爪形文が横位に施され、肥厚する口縁部の下端に浅い刻みが加えられている。口縁はゆるやかな波状口縁である。8は幅の狭い肥厚する口縁部に2列の爪形文が施されたもので、口縁の内側は小波状を呈する。器形は円筒形状の深鉢であろう。9・10は同一個体と考えられ、板状に肥厚した口縁部に連続爪形文で同心円の文様が描かれたものである。同心円の中心にはボタン状の突起が貼り付けられているが、9では剥落している。また、口縁部と胴部が横位の連続爪形文で区画されている。11は肥厚した口縁部に沈線で梢円文が描かれ、頸部には横位の連続爪形文が施されている。器形は円筒形状の深鉢であろう。14・15はいずれも胴部破片で、14には1条の、15には2条の横位の連続爪形文が認められる。16・17・18も胴部破片であるが、陸線の脇に沿って連続爪形文が施されている。

5類(12・19)

12は口縁に沿って2列の隆線が横位に施され、その下には隆線で幾何学的な文様が描かれている。口縁部は肥厚していない。19は胴部破片で横位の隆線とそれに連結する2条の斜行する隆線が認められる。

6類(13)

13は厚く肥厚する口縁部に横位と斜行する沈線で文様が描かれ、口縁部の下端には梢円形の刻みが施されている。器形は円筒形状の深鉢であろう。

7類(22~24)

22は横位と斜行する沈線で文様が描かれたものである。23は口縁部に2条の沈線で横位の文様が描かれている。器形は22・23とも円筒形状の深鉢であろう。24は外傾した口縁部と強く張った胴部を持つ深鉢で、口縁部には沈線で鋸歯状の文様が描かれている。

8類(21)

21は外傾した口縁部と強く張った胴部を持つ深鉢で、口縁部から肩上半にかけて文様が描かれている。文様は口縁、口縁下の屈曲、肩の中位に施された横位の沈線で口縁部と肩部上半の2つの文様帶に区画されている。口縁部には斜行する沈線や鋸歯状の文様が描かれ、肩上半は平行する斜行沈線で文様が描かれている。

9類(20・25)

20は複合口縁状に肥厚した口縁部を持つ円筒形状の深鉢である。口縁部は細い爪形文が施された隆線で梢円状に区画され、横位の隆線と沈線で区画された胴部上半の文様帶には2本1対の隆線で幾何学状の文様が描かれている。この2本1対の隆線は、まず2本の粘土紐に細い爪形文を施した後で粘土紐の間に沈線を引き直すという手法で作出されている。したがって、沈線を引いた後にその側縁に爪形文を施す8類とは明らかに文様の施文方法が異なる。25は肥厚しない口縁部の上下端に横位の粘土紐が2条貼り付けられたものである。器形は円筒形状の深鉢であろう。

10類(32・33)

32は重層する沈線で横位、縱位、同心円状の文様が描かれたものである。33は重層する沈線で横位、同心円の文様を描いた後、先の鋭く尖った工具で放射状、縱位の重層する沈線が施されたものである。また、いずれも同心円の中心には円形の彫り込みが、33には三角形状の彫り込みが施されている。これらの土器は、新潟県柿崎町鍋屋町遺跡第Ⅲ群第3類土器[寺村・室岡ほか1960]に類例を求めることができ、北陸系の土器であると考えられる。

11類(1・34・35)

1は口縁部が外傾し、胴部上半の張った深鉢である。口縁部には山型に隆起が貼り付けられ、これに斜めの刻みが施されている。胴部はLRの結節繩文による地文のみである。34・35は横位に粘土紐の貼り付けられた胴部破片で、35には粘土紐上に綻の刻みが施されている。

12類(26~30)

26~30は口縁部に無文帯のめぐるものである。27は波状口縁をなし、28は口縁部と胴部が斜線で区画されている。

その他の土器

胎土などから無文ないし地文のみの破片の大部分は前期末のものと思われる。37~48は底部の破片である。37は金魚鉢形の深鉢の底部である。40・42は胴部との接合部で円盤状に剥離した底部で、大木6式土器にしばしば認められ、土器製作技法を反映している可能性のあることが指摘されている(丹野・本間ほか1991)。48の胴部に認められる地文は条の太さの異なる単節のRL繩文を縱方向に回転したものである。49~59は無文ないし地文のみの胴部破片である。単節のLR原体を横方向に回転したものが多いが、撫りの継ぎ LRの繩側面圧痕(53)、網目状燃文(54)、結節繩文(55・56)なども認められる。

(2) 第Ⅱ群土器

中期の土器は新崎式の同一個体破片が東地区のAG13区でおよそ50cm四方の範囲からまとめて出土したのみである。これらの土器片はいずれも細片で、明らかに同一個体のものでありながら接合関係があまり認められない。完形に近い土器が廃棄されたというよりは、何らかの別の行為がかかわっていた可能性が高い。あるいは、耕作の影響を受けているのかもしれない。ここでは、これらの土器片の中から接合により大型破片となったものと底部のみを掲載する。60aは突起部分の口縁部破片である。横位の竹管平行沈線と連続爪形文によって口縁部と頸部の文様帯が区画される。口縁部文様帯は格子目沈線で充填され、頭部文様帯は無文である。60bは胴部破片で竹管平行沈線による縱方向の区画やB字状文の中が格子目沈線で充填されている。この土器は1号集石造構の北東約3mから出土しており1号集石造構の所属時期を示している可能性が高い。

(3) 第Ⅲ群土器

所属時期の明確な土器で繩文時代後期から晩期のものと考えられるものである。61は口縁下からLR繩文が施されたもので、胎土・調整などから後期のものと思われる。62は無文の口縁部文様帯の下に横位の連続する刻みが加えられたものである。口縁部には突起が設けられている。63は折り返し口縁の土器で無文である。62・63は晩期後葉のものと思われる。

B 石 器

すでに、土器の記述で指摘したように、出土土器の大半を占める前期末の土器は主に西地区から出土し、東地区から出土した土器で時期のわかるものは中期前葉のものだけである。したがって、それぞれの地区から出土した石器も大体では土器と同時期のものと考えることができる。そこで、ここでは石器を西地区、東地区に分けて掲載し記述することにする。

(1) 分類

石器は石錐、石匙、篦状石器、不定形石器、磨石類などの各種ツール、剥片、チップ、石核に器種分類した。これらのうち、五丁歩遺跡における高橋の分類に基づいて不定形石器をさらに細分した(第79表)。各器種の分類基準は以下のとおりである。

石錐

鋭利な先端部が作出された小型で薄手の石器を石錐とする。

石錐

調整によって鋭利な先端部が作出された石器を石錐とする。また、調整によらない先端部に磨耗、微小剥離痕などが認められた石器も石錐に含める。

石匙

ノッチ状の二次加工によってつまみが作出された石器を石匙とする。

篦状石器

細長い打製石器で一端に長軸と直交ないし斜行する刃部を作出した石器で、D字形の断面形を持ち、幅の最大値が石器の刃部付近にあるもの。また、刃部は片刃であることが多い。比較的硬質の石材が用いられることが多いが、本遺跡例では軟質の石材も多用されている。

両極石器

対向する刃ないし端部に両極剥離によると思われる密集する剥離痕やつぶれを持つ石器、または両極剥離によると思われる平坦でリングの密集する剥離痕を持つ石器。いわゆる、ピエス・エスキュール、両極石核、両極剥片がこれに含まれる。三者の識別については、個々の石器の観察にもとづいて石器各説で示したが、点数が少ないとても十分な根拠があるわけではない。

打製石斧

細長い打製石器で一端に長軸と直交する刃部を作出した石器で断面が扁平なもの。篦状石器と比べた場合、軟質の石材が用いられることが多い。

磨製石斧

細長い磨製石器で一端に斧状の刃部が作出されたもの。

磨石類

表面に磨痕、凹み痕、敲打痕の最低1つが認められた砾を磨石類とする。

不定形石器

剥片ないし薄手で扁平な砾を素材として二次加工が施された石器で定型的な形態をとらないものを不定形石器とする。基本的に五丁歩遺跡の分類を踏襲して細分したが(高橋1992)、①五丁歩遺跡におけるH・J類は微小剥離痕ある剥片として剥片類に含める、②資料数の問題などから各分類内での細分は特にを行わないなどの違いがある。分類の名称も第79表に示した五丁歩遺跡のものと同じとした。

石核

ネガティヴな最終剥離面を持つ石器。不定形石器の一部や礫器類との区別が困難だが、最終剥離面の大きさがおおよそ20mmを越えているものを石核とした。また、剥離の大きさ以外に規則性、連続性を基準とする場合もある。以下の4類型に細分した。

A類：作業面転移、打面転移を頻繁に行って剥片が剥離され、多面体を呈するもの。

第79表 不定形石器分類表

分類	刃部形状	刃部ライン	素材	二次加工部位	細分類
A類	スクレイパー 中型・急角度・連続剥離	外縁状	縦長	側縁	A類
			横長	底縁・側縁	
B類	スクレイパー 小型・急角度・連続剥離	外縁状	縦長	側縁	B類
			横長	底縁・側縁	
C類 縫 縫 縫 縫	大型・急角度・断面剥離	直縁状 外縁状	縦長・厚手	側縁	C1類
			横長・厚手	底縁	
	中型・小型・急角度・断面剥離	直縁状 外縁状	縦長・薄手	側縁	C2類
			横長・薄手	底縁・側縁	
D類 鋭利な尖端部を持つ石器	大型・急角度剥離	直縁状 内縁状	厚手	片側縁(一方の片側縁は古い剥離面や底盤面等を利用する)	D1類
				両側縁	
	大型・浅角度剥離	直縁状 内縁状	——	片側縁(D1類と同じ)	D2類
				両側縁	
	中型・小型剥離	直縁状 内縁状	薄手	片側縁(D1類と同じ)	D3類
			厚手	片側縁(D1類と同じ)	
			——	両側縁	
E類 拓入石器 (ノッチ)	大型ノッチ 大型・中型・拓入剥離	内縁状	縦長・厚手	側縁	E1類
			横長・厚手	底縁	
	小型ノッチ 大型・中型・拓入剥離	内縁状	縦長・薄手	側縁	E2類
			横長・薄手	底縁・側縁	
F類	中型・小型・不連続剥離	——	縦長	側縁	F1類
			端部に丸味	側縁と底縁	
			——	底縁・側縁	
G類	大型・中型・浅角度・不連続剥離	直縁状 外縁状	縦長・厚手	底縁	G類
			横長・薄手	側縁	
H類	無加工(使用痕あり) 中型・小型・浅角度・不連続剥離	外縁状	背面は自然面	底縁・側縁	H類
I類	端部に小型・連続剥離	端部に丸味	縦長・厚手	端部	I類
			横長・薄手	端部	
J類	無加工(使用痕あり)	——	縦長	側縁	J1類
			——	側縁と底縁	
			横長	底縁	J2類
			——	底縁と側縁	
K類	両面加工(済整)石器 刃部平面形は波状、側面観はジグザグ状	外縁状	厚手	ほぼ全周(円形・梢円形)	K1類
				ほぼ半周(半円形状)	
				K1・K2類は以外(不整形)	K3類
複合	A~K類の組み合わせ	——	——	——	複合

※ゴシック以外の明朝体は、一般的の傾向を表す。(高橋1992、表28より)

B類：一つの打面から連続的に剥離片が剥離されたもの。

C類：周縁から中心に向かって求心的に剥離が行われたもの。打面と作業面を入れ替えて剥離が進行するため、周縁が鋭く円盤状となる。

D類：打面と作業面が固定されて緩長の剥離片が連続的に剥離されたもの。いわゆる石刃石核に近いもの。

(2) 石 器 各 説

西地区から368点、東地区から82点の縄文時代の石器が出土した。それぞれの地区での石器組成は第80表のとおりである。また、表面採集資料など出土地点の不明な石器が54点存在する。観察表は図示した石器についてのみ掲載した。本文、観察表、実測図、写真的遺物番号は全て統一してある。観察基準は第16回のとおりである。

西地区出土石器(国版95-103、写真図版169-173)

石錐 1点出土した。1(実測図番号)は西地区出土であるが、表面採集のため出土地点は明確ではない。凝灰岩製の有茎石錐である。先端と基部をわずかに欠損する。

石錐 1点出土した。2は珪質頁岩製の石錐である。先端側左右両側縁の調整によって錐状の刀部が作

第80表 縄文時代の石器、器種・石材組成表

西地区

	石錐	鉈形石器	石匙	塊状石器	圓錐石器	打製石斧	磨製石斧	磨石頭	不定形石器	石核	剥片	チップ	計
頁岩				2		1			13	10	64	9	99
珪質頁岩	1							1			7	2	11
凝灰岩	1		1	2				23	11	141	3	183	
珪質凝灰岩								1			2		3
流紋岩					4			6			18		27
鐵石英								2	2	13	4	21	
玉髓								2		8	2	12	
チャート										2	1	3	
砂岩										4		4	
ホルンフェルス										1		1	
粘板岩							1				1		2
安山岩							1						1
凝灰角礫岩													1
花崗岩								1					1
計	1	1	0	3	6	1	0	4	47	23	281	21	368

東地区

	石錐	鉈形石器	石匙	塊状石器	圓錐石器	打製石斧	磨製石斧	磨石頭	不定形石器	石核	剥片	チップ	計
頁岩									9	2	13	2	26
珪質頁岩	1		2								3		6
凝灰岩	1		3		3			4	1	12			24
珪質凝灰岩								1					1
流紋岩						1					1		2
鐵石英													0
玉髓								2		2	3	7	
チャート											1		1
砂岩						2	1	2	1		3		98
ホルンフェルス						1							1
粘板岩						1							1
安山岩								2					2
凝灰角礫岩								2					2
花崗岩													0
計	1	1	2	3	0	8	3	4	17	3	34	6	82

出されている。調整は両側縁とも両面加工で、いずれも主要剝離面側の調整の方が背面調整より新しい。

範状石器 3点出土した。3は背面に自然面を持った凝灰岩製の厚手の剥片を素材として、両側縁を中心調整が施されたものである。調整は半両面加工で素材の主要剝離面を大きく残している。刃部にはあまり調整が施されておらず、未完成の可能性もある。刃部左に機械削離が1条施されている。4は両面加工で仕上げられたもので、断面形はD字形というよりはレンズ形に近い。石器の表裏の判断が難しいが、刃部の形態から判断した。頁岩製である。7は頁岩製の範状石器である。両側縁が両面加工で、基部側の端部と刃部が片面加工で調整されている。調整は比較的大振りの加工によってなされている。

両極石器 5は流紋岩製のビエス・エスキューである。上下両端には両極剝離によるものと思われる微細な剝離痕とつぶれが認められる。また、左側縁の古い横方向からの剝離面以外は全て両極剝離による。6も流紋岩製のビエス・エスキューである。上下両端には両極剝離による剝離痕が見られる。10は剥片素材の石核を素材とするビエス・エスキューである。上下と左右のやや尖った端部に両極剝離による剝離痕とつぶれが認められる。凝灰岩製である。8は流紋岩製の厚手の両極剥片を素材としたビエス・エスキューである。主要剝離面に左側縁から施されている剝離は主要剝離面を切っている。したがって、この石器は両極剝離による素材の獲得、側縁の調整、ビエス・エスキューとしての使用という過程を経ていることがわかる。9は頁岩製の両極石核である。上下と左右に両極剝離による剝離とツブレが認められる。石器正面の上からと右からの剝離はいずれも両極剝離による。断面が明瞭な楔形にならないこと、比較的大きな剥片が剝離されていることから両極石核と判断した。

打製石斧 11は薄手の横長剥片を素材として、刃部を除く周縁に両面加工が施され器体が整形されている。調整が周縁付近に限られるため、素材の背面、主要剝離面は大きく残されており、半両面加工の打製石斧ということができる。刃部が薄く、比較的小型の折れ状の剝離が認められる。頁岩製である。

磨石類 12は扁平な円盤の表裏面に磨痕が認められるものである。また、周縁にはまばらな敲打痕が認められる。安山岩製である。13はなめらかな磨痕を持つもので粘板岩製である。

不定形石器 出土した48点の不定形石器のうち34点を図示した。内訳はB類5点、C類9点、E類6点、F類13点、分類不能1点である。B類はいずれも剥片を素材とし、14・18・16は典型的なスクレイパー刃部が、17は厚手の剥片、15は石核を素材として厚い刃部が作出されたものである。14が頁岩、18が流紋岩の他は凝灰岩を石材としている。C類はいわゆる鋸歯縁石器に相当するもので、いずれも剥片を素材にしている。21・27のように小型の剝離を連続させて一つのノッチを構成するものと、1枚の大型の剝離で一つのノッチを構成するものがある。E類は抉り状の調整が連続しないものでいわゆるノッチ、抉入石器に相当する。29が連続する小型の剝離でノッチを作出している他は大型の一枚の剝離がノッチを構成している。いずれも剥片素材であるが33・29のように比較的薄手のものと、28・26・31・32のように厚手のものとがある。F類は不連続な調整が施されたもので、素材の形状をほとんど変えないものである。全て剥片を素材とし、34・36・38・43・40・46のように縱長剥片を素材とするものや、30のように筋理割れ剥片を素材とするもの、長さと幅のほぼ等しい厚手の剥片を素材とする35・37・39・41などがある。調整は素材の側縁や末端に両面加工、片面加工を施すものが多く、特に両面加工の割合が高く、35のように大きさにばらつきのある剝離が連続するものと、36のように不連続でまばらな剝離が施されるものがある。45は分類不能のもので範状石器の基部状の加工が施されている。末端は背面からの折断によって失われている。

石核 出土した23点のうち18点を図示した。内訳はA類6点、B類2点、C類8点、D類1点、分類不能1点である。A類は打面転移、作業面転移が頻繁に行われたものである。48と49は同一母岩の凝灰岩を

石材とするが接合関係は認められなかった。円錐を分割した後、それぞれの分割剥片を石核としたものと思われるが、剥離された剥片の数はそれほど多くない。2点とも被熱している。51・52・50・53はいずれもサイクロ状を呈する石核で、石材は51が凝灰岩、52が頁岩、50・53が鉄石英と硬質の石材が多く用いられている点に特徴がある。54と55はB類である。いずれも厚手の剥片を素材とし、54は素材の主要剥離面を打面、側面を作業面として、55は素材の背面を打面、主要剥離面を作業面として剥片が剥離されている。いずれも剥離された剥片は長さ3cm幅4~5cm程度の横長剥片であったものと思われる。石材はいずれも凝灰岩である。56~63はC類の石核である。いずれも厚手の剥片を素材とし、打面と作業面を入れ替えるながら求心的に剥片が剥離されている。石材は59が鉄石英、61~63が頁岩のほかは凝灰岩である。64は頁岩製のD類の石核である。剥片なし分割錐を素材とし、一枚の大きな剥離面を打面として連続的に縱長剥片を剥離している。打面調整、180度の打面転移は認められない。頭部調整、棱形成などが行われていたかは不明である。また、作業面の長さ、幅とともに小さく大型の整った形態の縱長剥片はそれほど多くは剥離されていなかったものと思われる。65は厚手の剥片の素材を切断し、この面を打面、素材の背面を作業面として剥片が剥離され、さらにこの作業面を打面、素材の主要剥離面を作業面として剥片が剥離された石核である。打面転移、作業面転移を行っていることからA類に分類できるかもしれないが残核の形態が異なるため、ここでは分類不能とした。凝灰岩製である。

東地区出土石器(国版103~108、写真国版173~176)

石錐 66は頁岩製の凹基の石錐である。

石匙 2点出土した。67は剥片に両面加工による調整が施されたもので、製作途中の折れで欠損した破片と思われる。つまみ部は遺存していないが調整から石匙の破片の可能性が高いと判断し図示した。頁岩製である。68は剥片を素材とし、全周に両面加工で刃部とつまみ部の作出された石匙である。石材は良質の珪質頁岩である。

石錐 1点出土した。69は凝灰岩製の大型剥片を素材とした石錐で、微細な調整によって錐状の尖頭部が作出されている。主要剥離面右側縁には素材の打面と主要剥離面との棱線を除去する調整が認められる。

鎌状石器 3点出土した。70は凝灰岩製の剥片を素材とし、素材の打面を除く全周に両面加工による調整が施されている。特に、刃部付近は細かな調整で整形されている。71も凝灰岩製の剥片を素材とした鎌状石器で全周が両面加工によって調整されている。特に、左側縁には顕著なツブレが認められる。主要剥離面の刃部付近は使用痕と思われる磨耗が認められ、刃部に直交する線状痕が肉眼でも観察できる。79は凝灰岩の剥片を素材とし、両側縁に調整が施された素材の鋭い線辺を刃部としている。左側縁の調整は両面加工だが、右側縁は素材剥片剥離時に生じた折れ状の剥離面から背面に施されている。これらの鎌状石器はいずれも軟質の石材が用いられている点に特徴がある。

打製石斧 76は流紋岩の薄手の節理割れ剥片を素材とし、ほぼ全周に両面加工が施されている。特に両側縁の基部側半分には、着柄あるいは着柄のための調整かもしれないツブレが認められる。72は扁平錐を素材とし、基部を除く全周に両面加工の施された打製石斧である。両側縁の基部側半分には76と同様のツブレが認められる。ただし、刃部の形態が十分に整えられておらず、未成品あるいは失敗品の可能性も否定できない。73は凝灰岩の剥片を素材とし、刃部を除く全周に両面加工が施されている。刃部は片面加工による調整が施されているが形狀は十分には整えられてはいない。未成品の可能性が高い。75は粘板岩の横長剥片を素材とし、全周に調整の施された打製石斧である。素材剥片は背面に環面を大きく残した貝殻状の剥片である。77、78は砂岩の剥片を素材とし、両側縁に両面加工の施されたものである。いずれも、

片面に縁面を大きく残しており、貝殻状剥片を素材としたものと思われる。80は凝灰岩の剥片の全周に両面加工の施されたもので、打製石斧ないし籠状石器の未完成と思われる。

磨製石斧 3点出土した。いずれも折れで欠損しており完形品はない。折れは3点とも器体を横断する方向で縁辺には小剝離が認められ、使用による破損と思われる。81は凝灰角礫岩製の基部である。両側縁とも研磨で仕上げられており、断面は長方形を呈する。82は側面の研磨はそれほど行われず、断面は楕円形を呈する。刃部の平面形は円刃、断面形は両凸刃である。凝灰角礫岩製で基部側を欠損する。83は砂岩製で、平面形は最大幅が刃部付近にある。側縁の研磨は比較的顕著で断面形は隅丸長方形となり、刃部の平面形は円刃、断面形は両凸刃である。砂岩製で基部側を欠損する。

敲石 84は砂岩の乳棒状を呈する標の先端周辺に敲打痕の認められるものである。基部側を折れで欠損する。

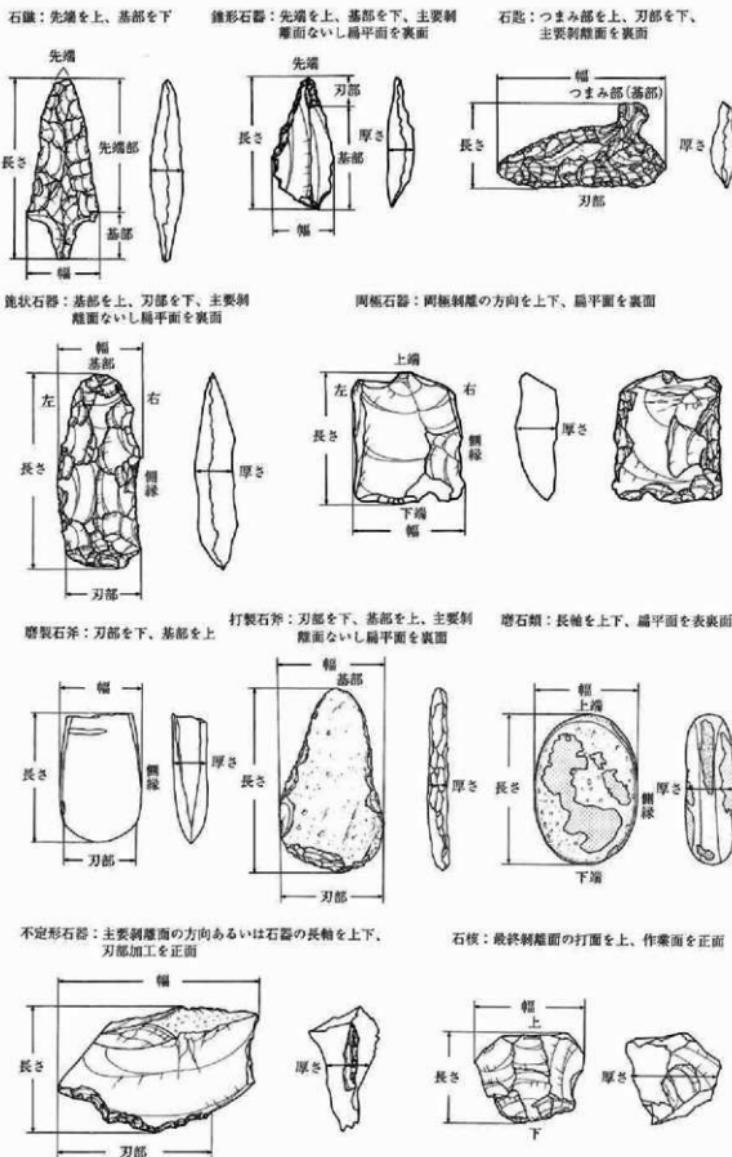
磨石類 85は花崗岩製のやや扁平な円盤の表裏面にそれぞれ2か所の窪みを持つ。表面状態が悪いため敲打痕等の有無は不明である。

不定形石器 出土した17点のうち9点を図示した。この内訳はA類2点、B類1点、C類1点、D類1点、E類1点、F類2点、K類1点である。86・87は同一母岩のA類で節理面で接合する。いずれも素材を横方向に用いて、大きな剝離を連続させて厚いスクレイバー状の刃部が作出されている。88は玉頭製で横長剥片素材のB類である。素材の末端にスクレイバー状の刃部が作出されている。90はC類で一枚の剥離でノッチを形成しこれを連続させたもので凝灰岩製である。89はE類で緑色凝灰岩製である。91はD類で基部側を折れで欠損する。両側縁へのまばらな調整で尖頭状の刃部を作出している。頁岩製である。92は凝灰岩製の剥片の右側縁の主要剝離面に調整の施されたF類である。素材剥片の末端はヒンジフランチューাーを呈する。94は断面三角形に両面加工されたK類で頁岩製である。裏面下に残された古い剝離面は素材の主要剝離面で剥片素材であることがわかる。両面加工ということで不定形石器K類としたが、断面が甲高の三角形ということもあり、石核との分類に問題を残している。95は凝灰岩製の厚手で大型の打面再生剥片の右側縁に大きさの異なる剝離で調整の施されたF類である。

石核 出土した3点を図示した。96は頁岩製の厚手の剥片を折断しこれを打面、右側縁を作業面として剥片が剝離された石核である。左側縁でも素材の背面である自然面を打面とし、主要剝離面を作業面として剥片が剝離されている。A類である。97は打面と作業面を入れ替えながら周縁から剥片の剝離されたものでC類である。凝灰岩製で素材は不明であるが、厚手の剥片素材である可能性が高い。98は厚手の頁岩製剥片を素材とし、主要剝離面を打面として剥片を連続的に剝離した石核である。作業面の裏側は折れ面によって失われている。

出土地点不明石器

表採品などで出土地点の不明なものから4点を図示した。99は両面加工で返しのない棒状の石針である。先端には平坦剝離が認められ基部は折れており、これらは石針としての使用中に生じた衝撃剝離である可能性が高い。100~101の3点はいずれもF類の不定形石器である。101は緑色凝灰岩の剥片を素材とし、素材打面側の主要剝離面に両面加工による調整が施されている。両側縁にはまばらで不規則な調整が認められる。100は凝灰岩製の剥片の周縁にまばらに加工が施されたものである。素材の末端はヒンジフランチューাーを呈する。102は凝灰岩製の剥片を素材とし、右側縁と末端にまばらな背面加工による調整が施されている。



第16図 純文石器主要器種の実測展開方法と部位名称、計測基準

第81表 漢文土器観察表

器種	出土地點 グリッド 遺構	層位	分類	法 量		堆 文	勘 定 土			備 考
				口径	底径		色	調	混 和 物	
1 漢鉢	AD 5	II a	11	36.6	16.2	LR	に赤い黄褐	石英・長石・岩片		
2 漢鉢	AG 6	II a	3	32.6		LR	桂	石英・岩片		
3 漢鉢	AH 5	II a	4	36		LR結節	に赤い黄褐	長石・玉髓片		
4 漢鉢	AD 5	II b	1				に赤い黄褐	石英・長石・赤褐色岩		
5 漢鉢	AH 4	II b	2			LR	に赤い黄褐	石英・長石・岩片		
6 漢鉢	AH 4	II b	2				に赤い黄褐	石英・長石・岩片		
7 漢鉢	AG 3	II b	4				に赤い黄褐	石英・岩片		
8 漢鉢	AH 4	II a	4			LR	桂	岩片		
9 漢鉢	不明		4				に赤い黄褐	石英・長石・岩片		
10 漢鉢	AH 5	II b	4				桂	石英・岩片		
11 漢鉢	AH 5	II a	4				に赤い黄褐	石英・長石		
12 漢鉢	AH 4	II b	5				に赤い黄褐	石英・雲母・岩片		
13 漢鉢	AE 4	II b	6				に赤い黄褐	長石・岩片		
14 漢鉢	AE 5	II a	4				桂	石英		
15 漢鉢	AH 5	II a	4				に赤い黄褐	石英・角閃石		
16 漢鉢	AH 5	II a	4				桂	石英・長石		
17 漢鉢	AF 7	II a	4				に赤い黄褐	石英・角閃石・岩片		
18 漢鉢	AD 4	II b	4				に赤い黄褐	石英		
19 漢鉢	AG 8	II b	5			LR	に赤い黄褐	石英・雲母・岩片		
20 漢鉢	AG 6	II a	9	21.2		LR	桂	石英・長石		
21 漢鉢	AF 8	II b	8	27.6		LR	に赤い黄褐	石英・岩片		
22 漢鉢	AH 5	II b	7				灰褐色	石英		
23 漢鉢	AE 5	II a	7			LR	桂	石英		
24 漢鉢	AG 8 ピット15	II b	7				明黄褐色	石英・岩片		
25 漢鉢	AG 8	II b	9	29.5			に赤い黄褐	辰石		
26 漢鉢	AD 5		12			LR	に赤い黄褐	石英		
27 漢鉢	AF 7	II a	12				桂	石英・岩片		
28 漢鉢	AH 4	II b	12			LR	に赤い黄褐	石英・長石		
29 漢鉢	AG 9	II a	12				に赤い黄褐	石英・角閃石		
30 漢鉢	AD 5	II b	12				に赤い黄褐	石英・長石		
31 漢鉢	AH 7	II b					桂	石英・長石		
32 漢鉢	AH 5	II b	10				に赤い黄褐		北陸系	
33 漢鉢	AH 5	II b	10				に赤い黄褐		北陸系	
34 漢鉢	AG 6	II a	11			LR	に赤い黄褐	石英・長石		
35 漢鉢	AD 5 ピット15	II a	11			LR	桂	石英		
36 漢鉢	AH 5	II a					桂	石英・長石		
37 漢鉢	AD 5			10.2		LR	に赤い黄褐	石英・岩片		
38 漢鉢	AH 5	II b		14.5		LR	桂	石英・長石		
39 漢鉢	AH 5	II b		11.7			に赤い黄褐			
40 漢鉢	AH 5	II b		8.3			に赤い黄褐	辰石		
41 漢鉢	AH 5	II b		10.9			に赤い黄褐	石英		
42 漢鉢				8.7			に赤い黄褐			
43 漢鉢	AG 9	II b		9.9			に赤い黄褐	角閃石		
44 漢鉢	AI 8	II a		10			桂	岩片		
45 漢鉢	AG 3	II b		7.5			に赤い黄褐	辰石		
46 漢鉢	AG 6	II a		9.4			明黄褐色			
47 漢鉢	AF 7	II b		9.5	RL		桂	岩片		
48 漢鉢	AD 6	II b			LR		に赤い黄褐	辰石		
49 漢鉢	AG 5	II a			LR		桂	辰石・岩片		
50 漢鉢	AH 5 ピット15	II b			RL		に赤い黄褐	石英・長石		
51 漢鉢	AH 5	II b			LR		に赤い黄褐	長石		
52 漢鉢	AD 5				LR 0段		長石・石英・雲母			
53 漢鉢	AE 3	II a			LR		桂	岩片		
54 漢鉢	AG 9	II a					網目状	角閃石		
55 漢鉢	AD 5	II b				LR結節	に赤い黄褐	長石・玉髓		
56 漢鉢	AH 5	II a				LR結節	桂	石英・長石		
57 漢鉢	AD 5	II a							52と同一個体	
58 漢鉢	AG 4	II b				LR	に赤い黄褐	長石・岩片		
59 漢鉢	AF 7	II a				LR	に赤い黄褐			
60 漢鉢	AG 13	II a	II群	10.8			に赤い黄褐	岩片		
61 漢鉢	AG 6	II a	II群			LR	に赤い黄褐	石英・長石・雲母		
62 漢鉢	AH 6	II a	II群				桂	石英		
63 漢鉢	AG 5	II b	II群				に赤い黄褐	長石		

第82表 純文時代の石器観察表(1)

出 土 地 点	層位	分 類	法 量			重 量	石 材	書 材	備 考	
			器	種	分断					
1 表面採集	南北 西東	石 砕	37.8	14.5	6.7	2.3	凝灰岩			
2 AF 4	16 600	II b	塊状石器	33.0	15.0	5.2	2.1	珪質頁岩	横長削片	
3 AH 5	411 562	II b	塊状石器	78.7	64.5	25.1	86.3	凝灰岩	縱長削片	
4 AH 9	848 463	II b	塊状石器	78.0	34.0	14.3	37.8	頁岩		
5 AG 8	293 113	II a	圓錐石器	46.5	15.5	8.2	5.3	流紋岩		
6 AH 6	355 638	II b	圓錐石器	58.0	41.0	19.6	49.3	流紋岩	剝片 右側面折れ	
7 AG 7			塊状石器	91.0	67.5	27.5	118.2	頁岩	剝片	
8 AH 3	349 925	II b	圓錐石器	54.5	45.0	26.1	53.4	流紋岩	圓板削片 左側面折れ	
9 AF 8			圓錐石器	52.7	45.4	18.1	47.7	頁岩	剝片	
10 AG 8	495 323	II b	圓錐石器	80.5	55.0	23.4	104.3	凝灰岩	剝片 左側面折れ	
11 AF 3	174 930	II a	打製石斧	82.5	36.0	8.4	23.0	頁岩	橫長削片	
12 AE 4	190 396	II a	磨石頭	112.0	77.7	36.1	501.1	安山岩	輝	
13			磨石頭	78.1	38.3	11.9	37.4	粘板岩		
14 AH 5	408 865	II a	不定形石器	B	71.4	43.9	11.0	32.7	頁岩	縱長削片
15 AG 8	569 168	II b	不定形石器	B	46.2	60.5	24.5	57.4	凝灰岩	石核索材
16 AG 7	143 388	II a	不定形石器	B	77.2	62.1	18.8	52.4	凝灰岩	剝片
17 AE 4	541 2	II a	不定形石器	B	64.2	89.7	33.3	116.9	凝灰岩	剝片
18 AE 6			不定形石器	C	137.6	69.8	19.2	190.9	流紋岩	橫長削片
19 AD 5	509 279	II a	不定形石器	C	76.9	60.9	21.0	81.7	凝灰岩	縱長削片
20 AD 5	240 910	II a	不定形石器	C	70.9	52.9	17.5	53.4	頁岩	橫長削片
21 AE 4	119 798	II a	不定形石器	C	49.8	77.2	21.7	73.0	鐵石英	橫長削片
22 AH 5	878 676	II b	不定形石器	C	56.4	24.1	13.9	22.0	凝灰岩	剝片
23 AG 8	986 592	II b	不定形石器	C	86.0	57.9	34.1	126.5	頁岩	剝片
24 AG 8	577 862	II b	不定形石器	C	81.8	59.0	23.0	78.7	流紋岩	剝片 両側面折れ調整
25 AF 9	576 763	II b	不定形石器	C	72.2	45.5	18.6	51.7	凝灰岩	剝片
26 AH 4	481 620	II a	不定形石器	E	102.5	74.8	26.1	184.4	珪質頁岩	剝片
27 AH 5	284 824	II a	不定形石器	C	64.5	44.0	16.4	41.5	頁岩	剝片 左側面切削
28 AH 5	807 888	II b	不定形石器	E	105.1	44.6	21.6	79.0	凝灰岩	剝片 左半分同時割れ
29 AD 6	681 253	II a	不定形石器	E	50.8	43.6	12.4	16.6	頁岩	剝片 下半分折れ
30 AD 5	707 347	II a	不定形石器	E	54.7	35.3	17.8	23.3	鐵石英	節理削れ剝片寸材
31 AG 8	886 347	II b	不定形石器	E	69.8	48.8	25.9	64.8	凝灰岩	剝片
32 AH 3	176 820	II a	不定形石器	C	97.0	37.0	15.8	68.9	凝灰岩	縱長削片 接合の結果 1点
33 地点不明			不定形石器	E	51.2	43.5	13.6	26.8	珪質凝灰岩	剝片
34 AF 4	512 352	II a	不定形石器	F	72.4	29.0	8.4	15.0	凝灰岩	縱長削片
35 AH 5	436 931	II a	不定形石器	F	93.9	79.3	21.7	180.2	流紋岩	剝片 右側面折れ
36 AF 6	528 958	II b	不定形石器	F	115.5	45.5	21.0	74.3	凝灰岩	縱長削片
37 AE 4	147 727	II a	不定形石器	F	92.0	60.8	17.5	71.4	流紋岩	剝片
38 AG 8	656 365	II b	不定形石器	F	86.0	54.0	26.5	81.9	凝灰岩	剝片 先端折れ
39 AG 8	958 645	II a	不定形石器	F	56.5	64.0	22.0	61.9	流紋岩	橫長削片 先端端折れ
40 AE 6	382 346	II b	不定形石器	F	65.0	27.5	9.7	16.6	頁岩	縱長削片 先端折れ
41 AI 8	967 886	II b	不定形石器	F	76.7	84.1	18.1	106.9	凝灰岩	剝片
42 AH 7	508 288	II b	不定形石器	F	32.6	56.1	23.7	32.3	凝灰岩	節理削れによる欠損
43 AF 9	379 949	II b	不定形石器	F	83.5	43.0	11.3	34.9	頁岩	縱長削片
44 AG 9	689 617	II b	不定形石器	F	60.3	39.2	14.2	21.2	凝灰岩	橫長削片 右側面折れで欠損
45 AH 6	652 115	II b	不定形石器	F	83.4	69.0	34.5	138.1	凝灰岩	剝片 先端折れ・塊状石器の
46 AD 6	968 347	II a	不定形石器	F	110.3	46.5	20.8	87.8	凝灰岩	縱長削片
47 AF 6	8 67	II a	不定形石器	F	52.9	76.9	19.3	50.1	流紋岩	橫長削片
48 AF 9	528 295	III	石 棱	A	42.7	51.8	42.0	147.2	凝灰岩	
49 AH 5	118 476	II a	石 棱	A	79.4	93.7	59.6	244.9	凝灰岩	
50 地点不明			石 棱	A	42.7	46.8	36.0	67.8	鐵石英	
51 AE 4	266 318	II a	石 棱	A	42.7	51.8	42.0	81.7	凝灰岩	

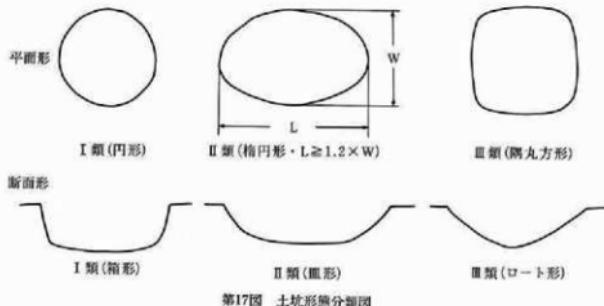
第83表 純文時代の石器観察表(2)

出土地点	層位	分類				法 量	重 量	石 材	書 材	備 考
		器 種	分類	長 さ	幅 厚					
52 AH 4	244 881	II b	石 核	A	39.8	45.7	39.2	73.6	頁 岩	
53 AD 6	125 598	II a	石 核	A	39.8	52.8	49.0	83.6	鉄 石 英	
54 AF 5	813 490	II a	石 核	B	29.4	61.3	43.8	76.9	凝 灰 岩	
55 AG 5	588 143	II a	石 核	B	39.2	121.4	55.1	187.7	凝 灰 岩	削 片
56 AH 7	859 992	II b	石 核	C	44.7	65.9	30.1	54.3	凝 灰 岩	削 片
57 AG 8	860 315	II b	石 核	C	62.9	87.1	34.6	221.6	凝 灰 岩	
58 AE 6	85 289	II a	石 核	C	42.5	49.7	18.3	28.7	凝 灰 岩	削 片
59 AH 5	171 666	II b	石 核	C	65.2	40.1	21.5	63.7	鉄 石 英	削 片
60 AH 4	580 450	II a	石 核	C	65.2	40.1	21.5	52.7	凝 灰 岩	削 片
61 AH 5	773 439	II b	石 核	C	57.8	76.1	32.6	83.8	頁 岩	削 片
62 AG 7	773 258	II a	石 核	C	51.2	67.1	25.2	94.1	頁 岩	削 片
63 AC 6	784 565	II a	石 核	C	72.6	80.6	38.6	193.1	頁 岩	削 片
64 AE 5	84 110	II a	石 核	D	77.5	55.5	40.8	156.3	頁 岩	削 片
65 AG 8	982 543	II a	石 核		64.8	52.5	32.4	28.7	凝 灰 岩	削 片
66 AH 11	210 182	II a	石 核		17.5	15.7	2.9	0.5	頁 岩	
67 AH 10	395 460	II b	石 匙		26.9	26.0	8.8	4.6	頁 岩	製作途上の折れ
68 AG 11	89 600	II b	石 匙		29.5	60.5	8.8	12.3	珪質 頁 岩	削 片
69 AF 11	478 715	II a	難形石器		83.1	71.5	27.6	87.8	凝 灰 岩	削 片
70 AG 13	157 9	II a	難形石器		73.2	43.5	18.9	48.7	凝 灰 岩	削 片
71 AG 12	750 779	II a	難形石器		94.5	45.9	20.2	62.2	凝 灰 岩	削 片
72 AF 12	985 392	打製石斧			100.7	52.9	18.6	135.9	ホルンフェルス	塊
73 表面採集		打製石斧			108.5	59.1	21.6	105.1	凝 灰 岩	削 片
74 AG 12	275 718	II a	打製石斧		93.8	40.2	21.0	57.2	凝 灰 岩	横長削片 未成品
75 AG 12	104 544	II a	打製石斧		80.7	39.1	10.8	42.1	粘 板 岩	横長削片
76 AG 12	750 779	II a	打製石斧		109.8	62.1	11.9	79.3	流 紋 岩	削 片
77 AF 11	636 839	II a	打製石斧		83.7	53.2	19.1	69.2	砂 岩	削 片
78 AF 12	982 478	II b	打製石斧		102.8	58.0	25.2	151.3	砂 岩	削 片
79 AG 12	230 808	II b	打製石斧		89.3	52.2	27.3	99.6	凝 灰 岩	削 片
80 AG 11	578 880	II b	打製石斧		107.0	76.9	45.5	308.9	凝 灰 岩	
81 AF 12	524 513	II a	磨製石斧		45.8	40.5	20.2	90.7	凝灰角砾岩	折れで刃部側を欠損
82 AF 11	478 715	II a	磨製石斧		78.2	48.6	25.1	101.6	凝灰角砾岩	折れで基部側を欠損
83 AE 12	266 230	II a	磨製石斧		78.2	48.6	20.9	141.4	砂 岩	折れで刃部側を欠損
84 AF 12	422 630	II a	磨 石 類		85.7	36.2	28.3	177.2	砂 岩	折れで基部側を欠損
85 AH 12	83 185	II b	磨 石 類		112.0	83.3	51.6	552.9	花 崗 岩	
86 AF 10	762 661	II b	不定形石器	A	83.7	133.1	59.9	536.6	頁 岩	分割 塊
87 AF 10	786 662	II b	不定形石器	A	89.9	136.7	56.0	586.7	頁 岩	分割 塊
88 AH 10	0 540	II b	不定形石器	B	51.7	62.7	14.3	32.1	玉 髓	削 片
89 AH 11	74 485	II b	不定形石器	E	95.1	69.8	17.6	130.8	凝 灰 岩	削 片
90 AG 12	203 684	II b	不定形石器	C	129.4	78.9	28.6	348.2	砂 岩	節理割れ削片材
91 AH 11	74 485	II b	不定形石器	D	19.8	22.7	10.6	2.4	頁 岩	削 片
92 AF 12	152 242	II b	不定形石器	F	39.1	39.0	6.2	4.7	凝 灰 岩	削 片
93 AF 10	774 610	II b	剥 片		67.3	94.2	18.6	122.3	頁 岩	削 片
94 AG 11	108 860	II b	不定形石器	K	98.0	41.4	35.4	112.0	凝 灰 岩	削 片
95 AG 12	10 473	II a	不定形石器	F	90.4	93.0	32.5	220.6	凝 灰 岩	削 片
96 AG 13	276 386	II b	石 核	A	59.1	37.6	65.3	88.0	頁 岩	削 片
97 AF 12	615 485	II a	石 核	C	33.2	70.4	37.2	58.8	凝 灰 岩	
98 AG 12	570 642	II a	石 核	B	27.3	53.8	36.6	38.5	頁 岩	削 片
99 表面採集		石 核			33.1	12.1	7.6	3.0	珪質 頁 岩	先端から剥伏削離
100 表面採集		不定形石器			28.0	28.0	7.5		凝 灰 岩	削 片
101 表面採集		不定形石器			51.2	50.1	9.7	15.1	凝 灰 岩	削 片
102 表面採集		不定形石器			55.0	41.2	9.2	23.7	凝 灰 岩	削 片

第Ⅷ章 歴史時代の調査

1 遺 構

検出された歴史時代の遺構は土坑47基、ピット14基である。土坑の多くは埋土に炭化物、焼土を多量に含み、底面、側壁などに焼け面が認められた。同様の土坑は阿賀野川SA予定地内の他の遺跡でも検出されており、A地点の報告書では炭窯として報告した。第Ⅲ章の調査方法やA地点の報告書で示したように、これらの土坑は縄文時代の遺物包含層であるⅡa層を切って掘り込まれている。また、土坑埋土に含まれていた炭化物を用いて放射性炭素年代測定を行ったところ、13~14世紀という年代が得られた(第Ⅳ章参照)。したがって、これらの土坑が歴史時代に構築されたものであることは疑いがない。ピットについては性格不明のものが多く、縄文時代のものも含まれているかもしれない。すでに述べたように遺構の確認作業はⅡb層上面、Ⅲ層上面で行った(第Ⅲ章参照)。特にことわりのない限り、遺構検出面はⅡb層上面である。



第17図 土坑形態分類図

A 土 坑 (図版109~113、写真図版124~131)

SK 1 (図版109、写真図版124)

AL 15区に位置し、長径1.2m、短径1.1mの円形の土坑である。断面形は箱形(第17図参照)で深さは0.3mである。埋土は6枚に分層され、全て自然堆積土で炭化物を多量に含んでいる。底面と側壁に頗る焼け面が認められる。

SK 2 (図版109、写真図版124)

AJ 14区に位置し、長径1.2m、短径1.1mの円形の土坑である。断面形は箱形で深さは0.25mである。埋土は3枚に分層され、全て自然堆積土で1・2層は炭化物、焼土を多量に含んでいる。側壁に焼け面が認められる。

SK 3 (図版109)

AI 15区に位置し、長径1.1m、短径0.9mの楕円形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.25mである。埋土は3枚に分層され、全て自然堆積土である。

SK 4 (図版109、写真図版124)

AH 15区に位置し、長径1.4m、短径1.3mの円形の土坑である。断面形は半円形で深さは0.3mである。埋土は4枚に分層された。4層はローム、黒色土、焼土が混ざりあっており、土坑構築時に床面に貼り付けられた土(以下、貼り土)の可能性がある(SK 14の記述参照)。3層は中心部分が盛り上がっていていることから、人為的に埋め戻された土の可能性が高く、黒褐色で炭化物を多量に含んでいる。1・2層は自然堆積土である。

SK 6 (図版109、写真図版124)

AG 14区に位置し、確認トレンチに東側を切られており、長径を測ることができない。短径はおよそ1.2mで、平面形は楕円形を呈するものと思われる。断面形はロート形で深さは0.3mである。埋土は4枚に分層され、全て自然堆積土である。2・3層は焼土、炭化物を含んでいる。

SK 7 (図版109、写真図版124)

AI 13区に位置し、長径1.55m、短径1.25mの楕円形の土坑である。断面形は箱形で深さは0.2mである。埋土は3枚に分層され、3層は貼り土、1・2層は自然堆積土と考える。東側の側壁に焼け面が認められる。

SK 13(図版109)

AH 4区に位置し、長径1.2m、短径1.2mの円形の土坑である。断面形は半円形で深さは0.25mである。埋土は3枚に分層され、3層は貼り土、1・2層は自然堆積土と考える。2層は多量の炭化物を含む。

SK 14(図版109、写真図版125)

AG 13区に位置し、長径1.8m、短径1.7mの円形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.3mである。埋土は4枚に分層された。4層はローム、黒色土と少量の炭化物の混ざりあった土で、より上層の埋土と比較するとしまりが強い。また、土坑の底面に沿って3~5cmの厚さで均等に堆積している。こうした埋土の特徴から、この層は土坑構築時に貼り付けられたものと考える。4層上面で底面と側壁に焼け面が認められる点からも、この土が貼り土であることは間違いないものと思われる。2・3層は中心部でより厚く堆積していることから人為的な埋め戻し土、1層は自然堆積土と考える。

SK 17(図版109、写真図版125)

AG 14区に位置し、長径1.4m、短径1.1mの楕円形の土坑である。断面形は箱形で深さは0.2mである。埋土は3枚に分層され、全て自然堆積土である。1・2層は炭化物を多量に含んでいる。

SK 18(図版110、写真図版125)

AG 13区に位置し、長径1.6m、短径1.5mの円形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.2mである。埋土は2枚に分層され、全て自然堆積土である。

SK 19(図版110、写真図版126)

AG 13区に位置し、長径1.9m、短径1.7mの円形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.3mである。埋土は4枚に分層され、全て自然堆積土である。埋土は全て多量の炭化物を含んでいる。

SK 20(図版110、写真図版126)

AD 11区に位置する。確認トレンチに南側約半分を切られており、正確な大きさ、平面形を知ることは

できない。IIa層上面で検出した北側半分から推定すると、平面形は長軸2.6m、短軸2.5mの隅丸方形、断面形は段を持った箱形になるものと思われる。また、北西側を直径0.8mの擾乱に切られている。埋土は5枚に分層され、全て自然堆積土と考える。底面と側壁に焼け面が認められる。

SK 21(図版110、写真図版125)

AH 10区に位置し、セクションベルトにかかっているため西半分を IIa層上面、東半分を III層上面で検出した。埋土は5枚に分層され、5層が貼り土、2~4層が自然堆積土、1層が人為的堆積土である。

SK 22(図版110、写真図版126)

AE 12区に位置する。SK 23の北に隣接しているが、切り合ひ関係は認められなかった。長径1.9m、短径1.5mの梢円形を呈し、断面形は皿形で深さは0.3mである。埋土は5枚に分層され、5層は貼り土、1~4層は自然堆積土と考える。

SK 23(図版110、写真図版126)

AE 12区に位置する。SK 22の南に隣接しているが、切り合ひ関係は認められなかった。長径1.1m、短径0.9mの梢円形を呈するが、南側の一部は直径25cmの擾乱に切られている。断面形は皿形で深さは0.2mである。埋土は2枚に分層され、いずれも自然堆積土と考える。

SK 24(図版110、写真図版125)

AI 12区に位置し、長径1.25m、短径1.15mの円形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.2mである。埋土は4枚に分層され、4層は貼り土、1~3層は自然堆積土と考える。全ての埋土が炭化物を多量に含んでいる。

SK 25(図版110、写真図版126)

AH 12区に位置し、長径1.0m、短径0.9mの円形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.2mである。埋土は4枚に分層され、全て自然堆積土と考える。1・2層は多量の炭化物を、1・3層は焼土を含んでいる。

SK 26(図版111、写真図版127)

AH 12区に位置し、長径1.9m、短径1.3mの不整形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.25mである。埋土は3枚に分層され、全て自然堆積土と考える。1層は多量の炭化物を、1・2層は焼土を含んでいる。

SK 27(図版110)

AH 11区に位置し、長軸、短軸とも1.1mの隅丸方形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.1mである。埋土は2枚に分層され、いずれも自然堆積土と考える。1層は多量の炭化物を含んでいる。

SK 28(図版111、写真図版127)

AH 10区に位置し、長径1.1m、短径1.0mの不整形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.15mである。南東側の一部を直径0.2mの擾乱に切られている。埋土は2枚に分層され、いずれも自然堆積土と考える。1層は多量の炭化物を含んでいる。

SK 29(図版111、写真図版127)

AF 11区に位置し、長径1.4m、短径1.2mの円形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.2mである。埋土は3枚に分層され、全て自然堆積土と考える。1~3層は炭化物を、1・2層は焼土をそれぞれ少量含んでいる。

SK 30(図版111、写真図版128)

AF 11区に位置し、長径1.8m、短径1.6mの円形の土坑である。断面形はロート形で深さは0.5mである。

埋土は7枚に分層され、7層は貼り土、1~6層は自然堆積土と考える。あるいは3層は人為的な埋め戻し土かもしれない。7層上面の東側壁に焼け面が認められる。

SK 31(図版112、写真図版128)

AG 9区に位置し、長径1.65m、短径1.5mの円形の土坑である。セクションベルトにかかっていたため、北側半分はⅡa層上面、南側半分はⅢ層上面で検出した。断面形は半円形で深さは0.4mである。埋土は4枚に分層され、全て自然堆積土と考える。

SK 32(図版111、写真図版127)

A18区に位置し、長径1.4m、短径1.2mの円形の土坑である。断面形は半円形で深さは0.4mである。埋土は4枚に分層され、4層は貼り土、1~3層は自然堆積土と考える。3層は炭化物を多量に含み、1・2層は焼土を含む。

SK 33(図版112、写真図版129)

AH 8区に位置し、長径1.8m、短径1.65mの円形の土坑である。断面形は箱形であるが北側に段を持ち上端が広がる。深さは0.45mである。埋土は4枚に分層され、全て自然堆積土と考える。3層は炭化物を多量に含む。

SK 34(図版112、写真図版129)

A19区に位置し、長径1.75m、短径1.45mの楕円形の土坑である。断面形は箱形であるが斜面に構築されているため、南側は浅くなっている。深さは最大で0.55mである。埋土は4枚に分層され、全て自然堆積土と考える。3層は炭化物を多量に含んでいる。

SK 35(図版112、写真図版129)

AG 7区に位置し、長径2.0m、短径1.8mの円形の土坑である。断面形はロート形で深さは0.65mである。埋土は5枚に分層され、全て自然堆積土と考える。埋土には炭化物、焼土などはあまり含まれず、4層に少量の炭化物が含まれたのみであった。

SK 37(図版111、写真図版127)

AD 12区に位置し、長径1.2m、短径1.1mの不整円形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.25mである。埋土は5枚に分層され、5層は貼り土、1~4層は自然堆積土である。南側壁の5層上面に焼け面が認められる。

SK 38(図版112、写真図版129)

AH 10区に位置し、長径1.45m、短径1.3mの円形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.3mである。埋土は4枚に分層され、4層は貼り土、1~3層は自然堆積土と考えるが、あるいは2層は人為的な埋め戻し土かもしれない。3層に炭化物、焼土が含まれている。

SK 39(図版112、写真図版129)

AF 7区に位置し、長径1.5m、短径1.4mの不整円形の土坑である。断面形は箱形で深さは0.35mである。埋土は4枚に分層され、全て自然堆積土と考える。埋土は炭化物、焼土などをあまり含まないが、2・3層は炭化物を少量含んでいる。

SK 40(図版113)

AE 9区に位置し、長径2.0m、短径1.85mの円形の土坑である。断面形はロート形で深さは0.55mである。埋土は4枚に分層され、4層は貼り土、1~3層は自然堆積土と考えられる。埋土1・2層には炭化物が少量含まれる。

SK 41(図版113、写真図版130)

AE 6 区に位置し、長径1.1m、短径0.95mの円形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.2mである。埋土は4枚に分層され、全て自然堆積土と考える。埋土1・2層は炭化物を少量含んでいる。

SK 42(図版113、写真図版130)

AE 6 区に位置し、長径1.1m、短径1.05mの円形の土坑である。断面形は箱形で深さは0.45mである。埋土は2枚に分層された。2層は炭化物を多量に含んだ黒色土で、炭化物を少量含んだ地山由来の土がこの上を覆っている。いずれも人為的な埋め戻しの可能性が高い。西側の側壁に焼け面が認められる。

SK 43(図版113、写真図版130)

AD 6 区に位置し、長径1.6m、短径1.45mの円形の土坑である。断面形は箱形で深さは0.4mである。また、南側で上端が広がっている。埋土は5枚に分層され、5層は貼り土、1~4層は自然堆積土と考える。特に、2~4層は多量の炭化物を含んでいる。

SK 44(図版113、写真図版130)

AD 6 区に位置し、長径1.65m、短径1.5mの円形の土坑である。断面形は箱形であるが、北向きの斜面に掘り込まれているため北側で浅くなる。また、南側に段を持ち、深さは最大で0.4mである。埋土は5枚に分層され、5層は貼り土、1~4層は自然堆積土と考える。2層に多量の炭化物が含まれている。

SK 45(図版113、写真図版131)

AE 8 区に位置し、直径1.8mの円形の土坑である。断面形は上端の広がる皿形で深さは0.35mである。埋土は5枚に分層され、5層は貼り土、1~4層は自然堆積土と考える。4・5層は炭化物を少量含む。

SK 46(図版113、写真図版130)

AH 8 区に位置し、直径1.3mの円形の土坑である。断面形は箱形で深さは0.4mである。埋土は5枚に分層され、5層は貼り土、4層は自然堆積土と考える。4層に炭化物が含まれる。

SK 50(図版111、写真図版128)

AC 15区に位置し、長軸1.6m、短軸1.15mの不整形の土坑である。断面形は箱形で深さは0.15mである。埋土は4枚に分層され、全て自然堆積土と考える。埋土はいずれも炭化物、焼土を含むが、特に4層が炭化物、焼土を多量に含んでいる。

SK 51(図版111、写真図版128)

AD 7 区に位置し、長径1.3m、短径1.15mの円形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.25mである。埋土は3枚に分層され、3層は貼り土、2層は人為的な埋め戻し土、1層は自然堆積土と考える。2層は炭化物、焼け跡を含む。

SK 52(図版111、写真図版128)

AD 8 区に位置し、長径1.0m、短径0.8mの梢円形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.1mである。埋土は3枚に分層された。全て自然堆積土の可能性が高いが、浅い土坑であるため十分な根拠があるわけではない。3層は多量の炭化物、2層は多量の焼土を含む。

B ピ ッ ト

ピットの多くは所属時期、性格ともに不明のものが多い。中には縄文時代のものが含まれている可能性も否定できない。ここでは、唯一性格がわかり、炭窯と思われる Pit 1 のみ記述する。

Pit 1 (図版114、写真図版131)

長径1.1m、短径1.0mで平面形が円形のピットである。断面形は皿形で深さは0.2mである。埋土は5枚に分層され、全て自然堆積土と考える。埋土の全ての層に炭化物が含まれ、特に4層に多量に含まれる。

2 遺 物

出土した遺物で歴史時代以降のものと思われるは砥石1点と近世以降の陶磁器の破片数点である。これららのうち、砥石のみを図示した。

A 砥 石 (図版108、写真図版176)

1は凝灰岩製の砥石である。この砥石は绳文時代の2号集石造構の北東約1m、SK 38の北東約2mから出土している。形態、機能面の状況から明らかに歴史時代のものと考えられるので、あるいはSK 38と何らかの関係があるのかもしれない。6面全て機能面となっており、特に表裏左右の砥面は使用により凹面状になり強度の使用を物語っている。これらの面には主に長軸方向の擦痕、線状痕が認められるが、中には斜行するものもある。斜行する擦痕、線状痕には右下がりのものが多い。上下面にも砥面、擦痕、線状痕が認められ、機能面であったことがわかる。砥面の形態や、断面三角形の線状痕の特徴から金属製の刃物の研磨に用いられた砥石と考える。

第84表 歴史時代の土坑観察表

追跡番号	国際番号	グリッド	長径	短径	深さ	平面形	断面形	焼け面	埋土	自然	人為	炭化物	堆積土	多い○有、△少ない	
														左	右
SK 1	108Q109	AJ 15	1.2	1.1	0.3	△	△	○	○	1-6	○	○	○	○	
SK 2	108Q109	AJ 14	1.2	1.1	0.25	△	△	○	○	1-3	○	○	○	○	
SK 3	108Q109	AJ 15	1.1	0.9	0.25	△	△			1-3					
SK 4	108Q109	AH 15	1.4	1.3	0.3	△	△			1-2	3	○	○	4層	
SK 5	108Q109	AG 14	1.2	0.9	0.3	△	△			1-4		○	○		
SK 7	108Q109	A119-14	1.55	1.25	0.2	△	△	○	○	1-2		○	○	3層	
SK 13	108Q109	AH 4	1.2	1.2	0.25	△	△			1-2		○	○	3層	
SK 14	108Q109	AG 3	1.8	1.7	0.3	△	○	○	○	1	2-3	△	○	4層	焼け面は主層上面
SK 17	108Q109	AG 14	1.4	1.1	0.2	△	○	○	○	1-3		○	○		
SK 18	108Q109	AG 13	1.6	1.5	0.2	△	△			1-2		○	○		
SK 19	108Q109	AG 15	1.9	1.7	0.3	△	△			1-4		○	○		
SK 20	108Q110	AD 11	2.6	2.5	0.3	△	△	○	○	1-5		○	○		
SK 21	108Q110	AH 19	1.8	1.7	0.25	△	△			2-4	1	△	△	5層	
SK 22	108Q110	A F 11	1.9	1.5	0.3	△	△			1-4		○	○	5層	
SK 23	108Q110	AE 12	1.1	0.9	0.2	△	△			1-2		○	△		
SK 24	108Q110	A J 12	1.25	1.15	0.2	△	△			1-3		○	○	4層	
SK 25	108Q110	AH 12	1.0	0.8	0.2	△	△			1-4		○	△		
SK 26	108Q111	AH 12	1.9	1.3	0.25	不規則	△			1-3		○	△		
SK 27	108Q110	AH 11	1.1	1.1	0.1	△	△	○	○	1-3		○	○		
SK 28	108Q111	AH 10	1.1	1.0	0.15	不規則	△			1-2		○	○		
SK 29	108Q111	A F 11	1.4	1.2	0.2	△	△			1-3		△	△		
SK 30	108Q111	A F 11	1.8	1.6	0.5	△	△	○	○	1-6		○	○	7層	焼け面は7層上面
SK 31	108Q112	AG 9	1.65	1.5	0.4	△	△			1-4		△	△		
SK 32	108Q111	A I 8	1.4	1.2	0.4	△	△			1-3		○	○	4層	
SK 33	108Q112	A H	1.8	1.65	0.45	△	△			1-4		○	○		
SK 34	108Q112	A I	1.1	1.75	0.45	△	△			1-4		○	○		
SK 35	108Q112	AG 7	2.0	1.8	0.65	△	△			1-5		△	△		
SK 37	108Q112	AD 12	1.2	1.1	0.25	△	△	○	○	2-5		△	△	5層	焼け面は5層上面
SK 38	108Q112	A H 10	1.4	1.3	0.3	△	△			1-3		○	○	4層	
SK 39	108Q112	A E 12	1.5	1.4	0.35	不規則	△			1-4		△	△		
SK 40	108Q112	A E 9	2.0	1.65	0.55	△	△			1-3		○	○	4層	
SK 41	108Q112	A E 6	1.1	0.95	0.2	△	△			1-4		△	△		
SK 42	108Q112	A E 6	1.1	1.05	0.45	△	△	○	○	1-2		○	○		
SK 43	108Q112	A D 6	1.6	1.45	0.4	△	△			1-4		○	△	5層	
SK 44	108Q113	A D 6	1.65	1.5	0.3	△	△			1-4		○	△	5層	
SK 45	108Q113	A E 8	1.8	1.8	0.35	△	△			1-4		△	△	5層	
SK 46	108Q113	A H 8	1.3	1.3	0.4	△	△			1-4		○	○	5層	
SK 50	108Q111	A C 15	1.6	1.15	0.15	不規則	△			1-4		○	○		
SK 51	108Q111	AD 7	3.1	1.15	0.25	△	△			1	2			3層	
SK 52	108Q111	A D 8	1.6	0.8	0.1	△	△			1-3		○	○		
PIT 1	108Q114	AK 14	1.1	1.0	0.2	△	△			1-5		○	○		

第 IX 章 自然科学分析

1 上ノ平遺跡 C 地点出土炭化材の樹種同定

古環境研究所

A 試料と方法

試料は、SI 1 Pit 1 (縄文時代)、SK 13・20・30・42(歴史時代)より出土した炭化材で、各地点 3 点(a・b・c)ずつの計15点である。

炭化材は剖析して新鮮な基本三断面(木材の横断面・放射断面・接線断面)を作製し、落射顕微鏡によって75~750倍で観察した。樹種同定はこれらの試料標本を解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

B 結 果

15点の炭化材はいずれもクリと同定された。なお、炭化材においては、炭化の際に収縮膨張していたり、黒色の炭化物となることから表面構造の一部しか観察ができない。さらに横断、接線、放射の各面についての良好な破断面の作成が非常にむずかしい。したがって、同定の精度は生材に比べ遙かに劣ることは否めないため、このことに留意する必要がある。結果を第84表に示し、章末に各断面の顕微鏡写真を示した。以下に、同定された樹種の同定の根拠を記す。

• クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科(図版177)

横断面: 年輪のはじめに大型の道管が、数列配列する環孔材である。晚材部では小道管が、火炎状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。

放射断面: 道管の穿孔は單穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面: 放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質よりクリに同定される。クリは北海道の西南部・本州・四国・九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20m、径40cmぐらいであるが、大きいものは高さ30m、径2mに達する。耐朽性強く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材で、現在では建築・家具・器具・土木・船舶・彫刻・薪炭・椎茸など広く用いられる。

参考文献

高島 謙二郎 1985 木材の構造、文水堂出版。p. 20~100.

第85表 樹種同定結果

試 料	樹種	(和 名 / 學 名)
S I I Pit 1-a	タリ	<i>Castanea arenata</i> Sieb. et Zucc.
S I I Pit 1-b	タリ	<i>Castanea arenata</i> Sieb. et Zucc.
S I I Pit 1-c	タリ	<i>Castanea arenata</i> Sieb. et Zucc.
S K 13-a	タリ	<i>Castanea arenata</i> Sieb. et Zucc.
S K 13-b	タリ	<i>Castanea arenata</i> Sieb. et Zucc.
S K 13-c	タリ	<i>Castanea arenata</i> Sieb. et Zucc.
S K 20-a	タリ	<i>Castanea arenata</i> Sieb. et Zucc.
S K 20-b	タリ	<i>Castanea arenata</i> Sieb. et Zucc.
S K 20-c	タリ	<i>Castanea arenata</i> Sieb. et Zucc.
S K 30-a	タリ	<i>Castanea arenata</i> Sieb. et Zucc.
S K 30-b	タリ	<i>Castanea arenata</i> Sieb. et Zucc.
S K 30-c	タリ	<i>Castanea arenata</i> Sieb. et Zucc.
S K 42-a	タリ	<i>Castanea arenata</i> Sieb. et Zucc.
S K 42-b	タリ	<i>Castanea arenata</i> Sieb. et Zucc.
S K 42-c	タリ	<i>Castanea arenata</i> Sieb. et Zucc.

2 放射性炭素年代測定

A ^{14}C 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在(1950年 AD)から何年前(BP)かを計算した値。 ^{14}C の半減期は5,568年を用いた。

B $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(%)で表す。

C 補正 ^{14}C 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正值を加えた上で算出した年代。

D 曆 年 代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を補正することにより、曆年代を算出した。補正には年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値を使用した。この補正是10,000年 BP より古い試料には適用できない。表中の上段には交点、下段は 1σ の値を表示してある。

第86表 放射性炭素年代測定の試料と方法

試料名	地點・層準	種類	前処理・調整	測 定 法
No. 1	S K 13	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄 ベンゼン合成	β 線法 (標準)
No. 2	S K 20	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄 ベンゼン合成	β 線法 (標準)
No. 3	S K 30	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄 ベンゼン合成	β 線法 (標準)
No. 4	S K 42	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄 石墨調整	β 線法 (AMS)
No. 5	S I I Pit 1	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄 ベンゼン合成	β 線法 (長時間)

第87表 放射性炭素年代測定結果

試料名	14C時代	$\delta^{13}\text{C}$ PDB(CO ₂)	層 年 代	測定値 (B^{14}C)
No. 1	760±70	-26.7	730±70	A, D, 1, 285
No. 2	700±60	-26.5	670±50	AD1, 250-1, 300
No. 3	740±50	-27.3	710±50	AD1, 285-1, 315
No. 4	900±60	-27.4	860±60	A, D, 1, 290
No. 5	5,900±100	-26.9	5,600±100	AD1, 275-1, 300
				BC3, 925, 3, 875, 3, 810
				BC3, 975-3, 715

第X章 まとめ

1 旧石器時代の石器について

A 石器製作技術

本遺跡から出土した旧石器時代の石器の製作技術を検討する。すでに、A地点の報告書で行ったように、石器製作技術を石材の獲得から石器の廃棄にいたるまで運用される石器の製作・整形・変形の技術と定義し、石材の獲得、剥片生産(石刃生産)、ツール製作・使用・再生・廃棄の各段階について検討する。なお、分析の対象とするのはブロック出土石器である。

(1) 石材獲得段階

本遺跡出土石器の石材は大部分が珪質頁岩で、これに玉髓が一定量加わる。珪質頁岩を主体とする点はA地点出土石器と共通するが、A地点では珪質頁岩の他に凝灰岩、鉄石英が認められ、細部では異なる。原石の状態で遺跡に持ち込まれた母岩が認められない点もA地点と共通する。石材の産地は、珪質頁岩、玉髓とも新潟県北部から山形県と考えられるが、良質の頁岩は新潟県内ではまれなようである[阿部1995]。

(2) 剥片生産段階

本遺跡のツールの素材は大部分が石刃であり、剥片としたものも石刃技法の枠の中で理解可能なものがほとんどである。ここでは石刃の属性分析の結果から石刃技法の特徴を記述する。用いる属性は第41表に示したもので、計測基準は第5図に示した。

形態

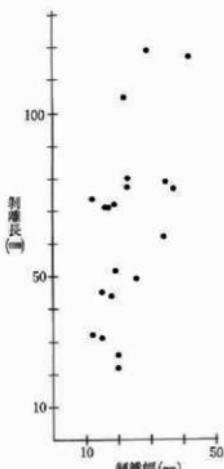
計測可能な石刃の長幅グラフを第18図、幅厚グラフを第21図に示した。長幅グラフではA地点とよく似ているが、C地点の石刃の方が若干大きいようである。剝離長50・100mm付近を境界として、小型(8点)、中型(9点)、大型(3点)に分類可能なようにも見えるが、A地点では大きさの変化が連続的で分類が不可能だったことを考慮し、グラフを示すだけにする。

背面構成

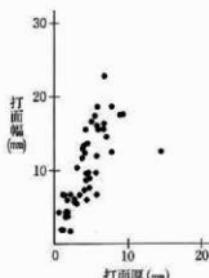
20点の完形石刃を背面構成によって分類すると、I類が7点(35%)、II類が9点(45%)、III類が4点(20%)であった。この結果はA地点よりもII類の割合が高いものであった。

調整技術

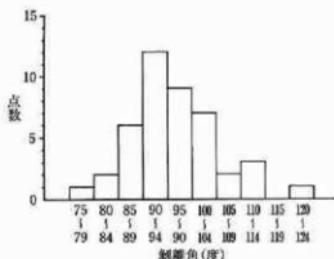
石刃技法における各種調整技術について頻度を見てみると(第88表)、打面調整は47点中31点(66.0%)、頭部調整は51点中8点(15.7%)に認められる。また、稜形成痕のある石刃の存在から稜形成が、接合資料8から打面再生がそれぞれ存在していたことがわかる。石刃技法関係の接合資料が少ないため個体を単位とした石刃技法の特徴は不明だが、本遺跡の石刃技法が各種調整技術を持っていたことがわかる。



第18図 石刀の刺離長幅分布図



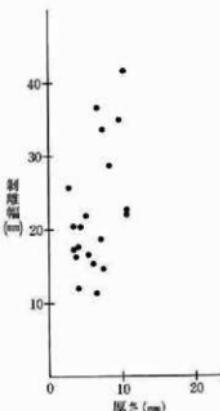
第19図 石刃打面幅厚分布図



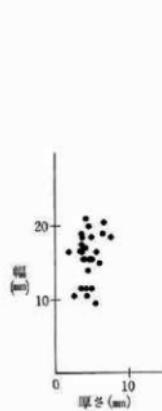
第20図 石刀刺離角ヒストグラム

第88表 完形石刀の形態分類

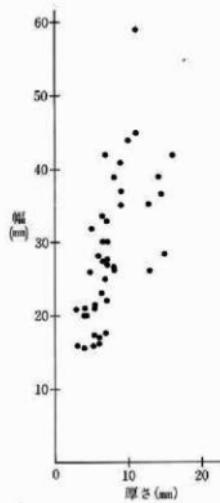
打面種類	打面形状	打点位置	バルブ形状
調整	31	平 垂 27	I a 22 S 41
单剥離	13	凸 状 9	I b 6 D 5
複剥離	2	凹 状 3	II 21 F 3
自然	1	山 状 8	III 2
節理		点 状 4	



第21図 石刀幅厚分布図



第22図 ナイフ形石器幅厚分布図



第23図 鋸刻刀形石器幅厚分布図

剥離技法

打面のサイズ、打面形状、バルブの形態、打点の位置から石刃の剥離技法を推定する。打面のサイズはA地点と同様に比較的小さく薄いことから、打面の大きさをコントロールしやすい加撃方法を用いていたと考える。そして、打面形状は平坦、凸状、山型のものが多く、バルブの発達したものの割合も高いことから、具体的にはパンチを用いた間接打法によって石刃剥離が行われた可能性を指摘しておきたい。打点の位置はIa類とII類の比率が均衡しており、稜上加撃と棱間加撃のどちらかに偏る傾向は認められない。

(3) トゥール製作・使用・再生・廃棄段階

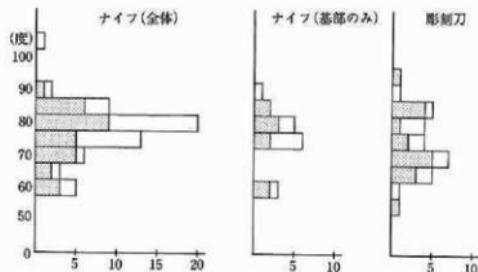
主要トゥールであるナイフ形石器(以下ナイフ)、彫刻刀形石器(以下彫刻刀)とトゥールではないが石刃について検討する。

トゥールの製作

ナイフ形石器、彫刻刀形石器は大部分が石刃を素材としている。一部は剥片を素材とするものも存在するが、打面再生や石核整形剥片を用いている例はない。たとえばB5-10の素材は剥片であるが、これも石刃剥離に失敗して剥片になったものと思われる。石刃、ナイフ、彫刻刀の幅厚グラフを比較すると大型の彫刻刀を除いて、ナイフ、彫刻刀の幅厚が石刃のそれにはほぼ取まることがわかる。さらに、ナイフの素材には幅20mm、厚さ10mm以下のものが、彫刻刀の素材にはそれより大きいものが主に用いられている。第24図では彫刻刀とナイフの基部加工について角度を比較してみた。その結果、角度には両者間の違いを認めることはできない。薬師堂遺跡(菅沼1993)やA地点での分析とは異なった結果であり、さらなる検討が必要と考えるが、ここでは両者に用いられた調整技術は同じものであるとしておく。

使用

A地点の報告書ではナイフの主な機能を刺突具とし、彫刻刀については多様な用途に用いられた可能性を示唆した。C地点では新たな方法の分析は行っていないが、基本的にはA地点での結論を変更する必要はないと考える。ナイフではやはり先端を欠損し基部のみが出土する例が多く、B7-51のように衝撃剥離と思われる破損を先端に持つものもある。彫刻刀については、使用痕分析などによって先の可能性を検討する必要がある。石刃では、B5-5+B5-48のように側縁に明らかに使用痕と思われる微小剥離痕の認められる例があり、一部の石刃が道具として使用されたことは確実であろう。石刃がどのような脈絡で使用されたかを明らかにすることは、石器群の機能構造を解明する上で重要課題である。



第24図 ナイフ形石器・彫刻刀形石器基部加工角度ヒスイグラム

再生

ナイフの中には明らかに再生されたと考えられるものはない。また、A 地点の報告書で指摘したナイフから彫刻刀への器種替えについては、C 地点でも類似した形態の彫刻刀は出土しているものの接合資料などの確実な証拠は得られなかった。ただし、トゥール製作で指摘したナイフと彫刻刀の基部加工の共通性は器種替えの可能性と矛盾しない。彫刻刀の再生システムについては次項で詳述したい。

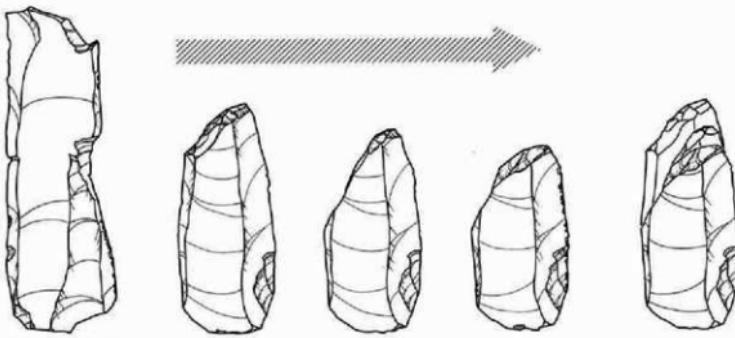
廃棄

再生が行われず、基部だけが出土することが多いことから、ナイフは破損によって機能を果たせなくなることが廃棄の契機となるものが最も多いようである。彫刻刀は刃部再生が頻繁に行われ、遺跡間を持ち歩かれていることは確実であり、ナイフとは異なる廃棄パターンを考える必要がある。A 地点では将来の使用のために彫刻刀を残していく可能性を指摘したが、現実には、データを用いてこの仮説を検証することは困難である。ただし、キャッシュ、デボなどと認識できる出土状況がみられない点は、こうした戦略の果たした役割がそれほど高くないことを示しているのかもしれない。まずは、実資料を用いて石器の使用・再生・廃棄のパターンの実態を明らかにすることが先決と考える。

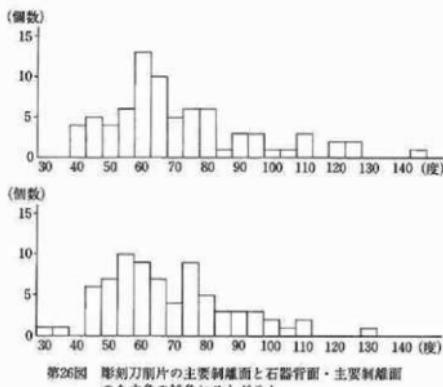
B 神山型彫刻刀形石器における刃部再生と形態変化

本遺跡では11例の彫刻刀の刃部再生に関する接合資料が得られた。これらの接合資料を通じて刃部再生の手順やそれに伴う形態変化が検討可能である。個々の接合資料の事実記載はすでに行っているので、若干のまとめを行いたい。

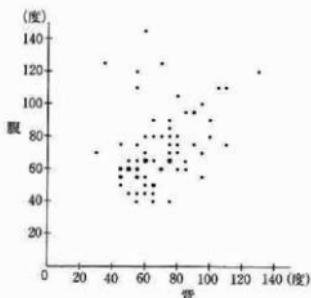
得られた接合資料は、接合資料2・5を除いて神山型彫刻刀の刃部再生のものである。削片は最高でも2枚接合しただけで、接合資料だけ形態変化を明らかにできる資料は多くない。その中で、接合資料3・4・6は特に刃部再生に伴う彫刻刀の形態変化をよく示している。この接合資料から明らかなのは、①素材石刀の長さが残された彫刻刀よりもかなり長い、②刃部再生が素材石刀の長軸方向に後退するように行われる、の2点である。したがって、彫刻刀は刃部再生の進行によって長さを減らすだけで、それ以外の形態は大きく変化していない。接合資料6の彫刻刀B5-70の素材となった石刀は幅、厚さから同一母岩の石刀B8-3+B8-12とはほぼ同じ長さであったと思われ、刃部再生によって長さが約半分にまで減



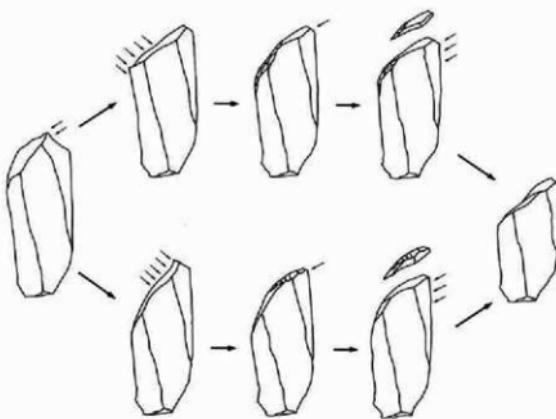
第25図 接合資料6における刃部再生による形態変化



第26図 彫刻刀削片の主要剝離面と石器背面・主要剝離面のなす角ヒストグラム



第27図 彫刻刀削片の主要剝離面と石器背面・主要剝離面のなす角の補角相関図



第28図 彫刻刀形石器の刃部再生工程模式図

少している可能性が指摘できる(第25図)。また、接合資料3では石刀B7-81の打面よりも彫刻刀B3-46の素材石刀の打面の方が大きいことから、やはり素材石刀の長さと廃棄された彫刻刀の長さには大きな差があることがわかる。接合資料4も接合資料6によく似ており、同じようなあり方が想定できる。

また、接合資料から彫刻刀面作出に先行する調整の実態が明らかとなった。接合資料4・6・11では調整が先行する彫刻刀面の末端と素材石刀の側縁のなす角が小さくなったりときに行われていることを示している。さらに、接合資料4・6では一度彫刻刀面末端と素材側縁の角度が調整された後は、その角度が小さくならない限り調整が施されずに彫刻刀面が作出されていることがわかる。また、接合資料11では2回の槌状剥離の後、彫刻刀面末端と素材側縁の角度が小さくなったりために集中的に調整が施されている。接合資料6のB5-18や接合資料9では彫刻刀打面付近にのみ調整が施されており、彫刻刀打面と槌状剥離

を施す作業面とのなす角を修正したり、先行する橢状剥離によって生じた「ひさし」を除去する役割もあったことがわかる。もし、彫刻刀面末端と素材側縁との角度が小さいまま橢状剥離を加えた場合、剥離がスムーズに抜けずに末端がヒンジ、ステップ等を生じる可能性がある。また、彫刻刀打面と作業面のなす角が不適当な場合には、橢状剥離がスムーズに抜けないかあるいは素材石刃を縦割りしてしまう危険性もある。もちろん、実際の調整加工には彫刻刀面の打面付近から末端まで連続して施されているものや、一部のみに調整が認められるものなどの多様性は存在する。また、これらの調整が使用のために刃部の形状を修正する役割がなかったとは断定できない。むしろ、調整後に橢状剥離が行なわれずに廃棄された接合資料12はこの可能性を示唆している。調整部位が刃部として使用されたかどうかについてはやはり使用痕分析などによる検討が不可欠であろう。

しかし、調整部位の使用の有無にかかわらず、彫刻刀面作出に先行する調整が彫刻刀面末端や先端の角度を修正することによって、素材石刃の長軸を後退するように刃部再生を行ふことに重要な役割を果たしていたことは間違いない(第28図)。この石刃の長軸を後退して刃部再生を繰り返すシステムは、刃部再生に伴う石器の大きさの減少を少なくするもので、一定量の石材から得られる刃部の長さを指標とした場合きわめて効率的なものである。また、第89表のような彫刻刀削片における再生品の多さとも矛盾しない。第26・27図で示したような刃部再生によって刃角が変化しないことにもこれらの調整が寄与しているものと思われる。このように調整を駆使してコントロールされた刃部再生を繰り返す様子は、石器に現れた管理の原理と呼べるものである。そして、この刃部再生システムは A 地点の報告書で指摘した彫刻刀を携帯することによって必要な道具を確保するという、当該石器群の技術的組織の根幹をなすものであったと考える。神山型彫刻刀は製作者の頭の中にある目的的な形態というよりは、こうした石刃を素材とした刃部再生システムの表現型とはいえないだろうか。

C 石器群の編年的位置づけ

A 地点の報告書では、本石器群がいわゆる杉久保石器群であり火山灰分析の結果から AT 降灰以降に位置づけられることは述べたものの、いわゆる東山石器群、国府石器群との関係については言及しなかった。新潟県における三者の関係については、別稿で概略を示したことがある(沢田1994)。そこでは、東山石器群を AT 降灰前から AT 降灰後に渡る石器群と位置づけ、杉久保石器群がこれに後続するとした。そして、国府石器群はこの中に一時的に流入していく石器群とした。具体的に国府石器群と並行する石器群については明言しなかったが、東山石器群の一部がこれにあたると考えている。この編年観の根拠となるのは東北日本において東山石器群が AT 下位と上位から出土していること(中川ほか1995)、上ノ平遺跡 A 地点で杉久保石器群が AT よりも上位から出土し、層位的には AT よりもむしろ AS-YPK の降灰層準に近いことである。

この編年観は東山石器群の年代幅を比較的長くみている。当然、東山石器群が細分可能なのかどうかが問題となるであろう。現時点ではこうした視点での検討をほとんど行っていないが、スクレイパーの形態、鋸歯縁石器や台形様石器の有無などによって細分できる可能性を今後検討してゆきたい。また、石刃技法の差や石刃技法以外の剥片剥離技術の実態も明らかにする必要がある。

いっぽう、杉久保石器群の細分については A 地点の報告書でナイフの形態によって細分できる可能性を指摘した。具体的には新潟県楡ノ木平遺跡(中村1978)、秋田県鶴子台遺跡(小林ほか1992)、岩手県和賀

第89表 彫刻刀面刃部再生時の削片の数と割合

	点 数	%
第1削片	16	16.7
再生削片	80	83.3
計	96	100.0

人遺跡〔和賀仙人遺跡研究グループ編1984〕、新潟県荒沢遺跡など長軸が素材石刃の長軸と一致するような二側縁調整のナイフを一定量保持する石器群と典型的な杉久保型ナイフを主体とする石器群は分離できる可能性が高い。さらに、検討の余地はあるものの檜ノ木平、和賀仙人遺跡で尖頭器が共伴していることから、これら二側縁調整のナイフをもつ一群が杉久保石器群の新しい段階である可能性が高い。それでは、こうしたナイフの形態の差が遺跡の機能すなわち移動システムの中での脈絡の違いに起因する可能性はないのだろうか。A 地点や C 地点出土石器群に見られるようなトゥールや石刃を主に携帯するシステムでは遺跡の機能の差が石器の形態や組成の差として現れにくいものと考えられる。さらに、ナイフの主要な機能が刺突であり、あまり刃部再生による形態変化のみられないトゥールであることを考慮するとその可能性はきわめて低いといえよう。

東北日本における後期旧石器時代の編年作業においては、より資料の実態に基づいた検討の必要性を感じる。杉久保石器群、東山石器群といった概念は一定の有効性を持ってはいるが、石器群内での変異や石器群間の中間的な様相の把握において限界がある。石器群の差と地域性との関係もさらに検討する必要があろう〔石川1993〕。今後こうした視点での分析を行った上で、稿を改めて東北日本における後期旧石器時代の編年について論じようと思う。

2 縄文時代草創期の石器について

A 接合資料からみた石器製作技術

縄文時代草創期の石器群では、7母岩9例の接合資料が得られた。とくに、接合資料1・3・4では数多くの剥片が接合しており、技術的な検討が可能である。すでに、接合資料の事実記載は第VI章で行っているので、ここでは接合した剥片の属性分析から接合資料の特徴を検討する。

接合資料1(第29・30図、第72表)

B1-530を境に2段階の工程に分離した。前半の工程は原石の節理面、自然面除去の段階といえるものである。この工程で剥離された剥片は大きさや剥離角にばらつきがある。また、打面の種類も節理面、自然面が多い。いっぽう、後半の工程では剥片の平面形にはばらつきがあるものの、剥離角は110度を中心比較的まとまった分布を見せる。打面も調整打面、複制離面打面のものが増え、とくに調整打面は形状が山型のものが多い。後半段階の剥片の中にはブロック1から他のブロックに搬出されたものも認められる。

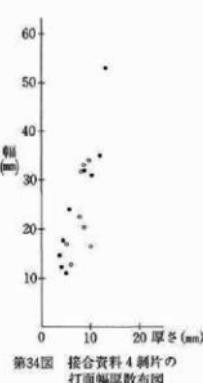
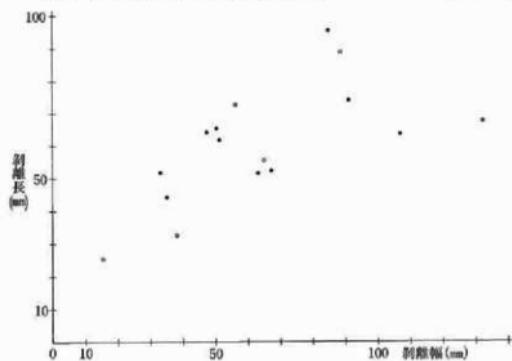
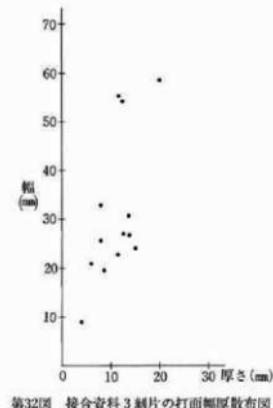
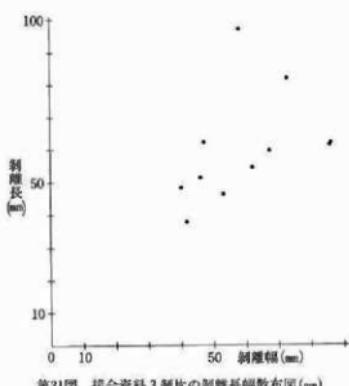
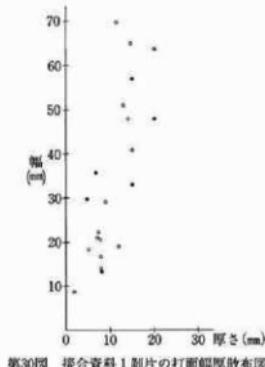
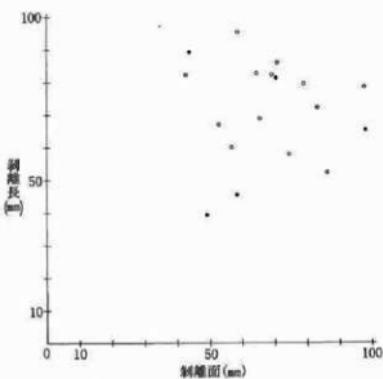
接合資料3(第31・32図、第73表)

この接合資料は原石の自然面除去にはばらつきがあるが、剥離角は100~104度を中心としてまとまる点が他の接合資料とは異なっている。打面では調整打面が1点認められるものの例外的で、形状も平坦なものが多い。また、ブロック1から搬出された剥片は1点だけである。

接合資料4(第33・34図、第74表)

この接合資料はやや扁平な円錐の自然面除去のものである。B1-389より後を後半段階の工程とした。前半段階は扁平な円錐の周縁で打面と作業面を入れ替えながら交互剥離を行い、自然面を除去する工程と

1) これらの石器群を茂呂系ととらえ、杉久保石器群とは別のものと考える研究者も多いが、筆者は彫刻刀の類似度を重視し、大体で杉久保石器群の中で理解している。



考えられる。この工程で生じた剥片は、大きさにばらつきがあるが剥離角は一定している。これはこの工程で交互剥離が規則的に行われていたことによると考える。後半の工程は周縁からの剥離がかなり進行した後にさらに求心状に剥離を施している段階である。生じる剥片はやはり大きさにばらつきがあり、剥離角も一定ではない。ただし、調整打面を持つものが認められる。後半段階の剥離順序の新しいものはブロック6から出土している。ただし、ブロック6には同一母岩のチップは認められず剥片が搬出されたものと思われる。

出土した縄文時代草創期の石器群にみられる技術的特徴について述べたい。使用されている石材は頁岩の角礫・亜角礫・円礫である。表面に節理面を持つものも認められる。高橋春栄氏によればこれらの石材は、遺跡から3kmほど離れた長谷で産出するもの(阿部1995)にきわめてよく似ているといふ。

得られた接合資料の多くはこの原石の自然面や節理面を除去する工程のものである。接合資料2・5では節理面による分割が行われている。いっぽう、接合資料3・4では分割が行われていないことは確実である。分割は原石の状態に応じて採用されたりされなかったりする技術といえそうである。自然面除去は原石の棱線を手がかりに行われることが多い。こうした棱線をはさんで交互剥離を行う接合資料1・4や片面につき数回ずつの剥離を繰り返す接合資料2・3などこの作業にもバラエティーがある。この段階で生じた剥片がトゥールの素材となったり他のブロックへ運ばれたりすることはきわめてまれである。自然面除去がある程度進行した接合資料1・4では統いて石核整形と思われる段階の剥片が接合している。この段階では前の工程で交互剥離の行われた接合資料1・4でも同じ作業面から数枚の剥片を連続して剥離するようになり、打面がやや固定的となる。割合は低いものの打面調整も行われるようになる。この工程で生じた剥片にはわずかではあるが縦長のものや比較的形状の整ったものがあり、こうした剥片の中には他のブロックに搬出されているものもある。石核整形と同時に整った形状の剥片を剥離する意図も生じているのかもしれない。

接合資料5個体1・接合資料8はこうした石核整形が施された後の石核である可能性が高い。前者では数枚の剥片が接合しているが、節理割れなど不規則な剥離が含まれ工程は明確ではない。後者は石質が母岩1によく似ており接合資料1に後続している可能性があるが、接合関係は認められなかった。ただし、石核の形状は接合資料1にみられるような整形剥離と調和的である。接合資料5個体1・接合資料8とも石刃を連続的に剥離しているが、剥離技法は大きく異なる。前者は、節理面を打面として小型の石刃が連続的に剥離されている。打面となった節理面を作業面として幅広の縦長剥片を連続的に剥離する工程も見られる。後者は、打面調整・石核調整を行なながら大型でやや幅広の石刃が剥離されている。出土石器には47点の石刃が含まれており、これらの中には調整打面を持つものも多い。これらの点から本石器群が石刃技法を持っていることは確実である。得られた接合資料の多くは中心部分が遺跡外に搬出されているものが多いが、石刃石核ないしその母型が搬出されていた可能性が高く、接合資料からその形状は比較的粗い剥離面で構成された両面体ないし多面体であったものと思われる。

B 石器群の編年的位置づけ

本石器群は①大型の尖頭器を伴うこと、②石刃技法を持つことからいわゆる神子柴・長者久保石器群の特徴を持っている。石刀素材の彫刻刀形石器の存在もこの編年観を支持している。ただし、当該石器群の主要な器種である石斧を本石器群は組成していない。

神子柴・長者久保石器群が石刃技法を持つことは以前から指摘されてきたが、その内容については不明

廉な部分が多い。長野県神子柴遺跡〔藤沢・林1961〕や新潟県村杉遺跡〔阿部1988〕のように円盤状の石刃石核が認められる場合と、青森県大平山元Ⅰ遺跡のように円筒形の石刃石核が認められる場合とがあり、両者の関係は不明である。本石器群の接合資料8にみられる石刀技法は神子柴・長者久保文化における石刃技法のあり方を接合によって示すことのできる貴重な例であると考える。石刃石核の母型は断面がD字形となるような両面体であり、その断面凸形の面を石刀剥離の作業面としている。剥離された石刃は調整打面を持ち幅広で、背面に石核整形段階の横方向の剥離面を持っている。このような石刃の特徴は他に図示した石刀(図版61-58-60)にもしばしば認められ、こうした石刃技法が本石器群の中で特異なものではなかったことを示している。いっぽう、接合資料5個体1にみられるような石核は今回類例を見つけることができなかった。今後の課題としておきたい。

ところで、得られた接合資料の多くが中抜けで石核が遺跡外へ搬出されていた点は、当該石器群の石材獲得・消費システムと集団移動とのかかわりを考える上で重要である。石核が搬出されていることから、石核を携帯して必要に応じて石核から石刃・剥片等を剥離して必要な道具を確保するようなシステムの存在が予想される。ところで、搬出された石核はいわゆる両面体であったわけだが、こうした両面体はしばしば石核とツールの二面性を持ちながら携帯される石器であることが指摘されている〔阿子島1991〕。本石器群でも遺跡から搬出された両面体がこうした二つの機能を保持しながら携帯されていた可能性を指摘しておきたい。上ノ平遺跡C地点出土石器群からはこれに関するデータはあまり得られなかつたが、今後このような視点で縄文時代草創期の石器群を検討する必要がありそうである。

いっぽう、神子柴・長者久保石器群にはいわゆるデボがしばしば認められ、こうした石核運搬システムとデボを当該石器群の技術的組織の中でどのように位置づけるかは今後の重要な課題といえよう。また、上ノ平遺跡C地点から谷を隔てた吉ヶ沢遺跡B地点でも当該石器群が出土しており、これらは両面加工石器・剥片・石刀を主体としている〔飯坂1995〕。両者の石器群を合わせて検討することによって、神子柴・長者久保石器群の技術的組織がさらに明らかになることが期待される。

3 縄文時代前期末の上ノ平遺跡C地点

第1群土器とした縄文時代前期の土器は大木6式ないしそれに並行するものである。これらの土器を主に文様から13類型に分類したが、福島県法正尻遺跡〔松本ほか1991〕や鹿島遺跡〔丹野ほか1991〕での層位の出土例によれば、1~6類が大木6式古段階、7~12類が新段階になるものと思われる。近年、新潟県東蒲原〔瀧沢ほか1995、南1995〕、福島県会津地方〔芳賀・丹野1990、丹野・松本ほか1991、藤谷・芳賀1993〕で大木5~6式期の資料がまとまって検出され、阿賀野川流域における様相が明らかとなりつつある。

本遺跡出土土器は全て深鉢で、器形は口縁が外傾し頸部に脇曲を持ち胴部上半の張るもの、いわゆる金魚鉢型のもの、円筒形状を呈し口縁部のわずかに外反するもので構成されている。また、本遺跡の大木6式の土器には東北地方中北部でみられるような沈線による頸部のX字状・対向線状の文様は認められない〔興野1970〕。この点はすでに法正尻遺跡の報告書でも指摘されており、大木6式における地域差としてとらえられる可能性が高い〔松本ほか1991〕。また、10類としたものは新潟県柿崎町鍋屋町遺跡第Ⅲ群土器第3類〔寺村・室岡ほか1960〕に類似が求められ北陸系の土器と考えられる。このように大木6式を主体とし一部北陸系を伴うという本遺跡出土土器群は、阿賀野川流域の前期末の土器の様相を示しているものと思われる。

最後に遺構・遺物を合わせて、本遺跡の性格を推定してまとめとする。検出された遺構は竪穴住居跡1

棟、ピット 1 基である。したがって、遺跡の性格は拠点的な集落というよりは、キャンプサイトとしての性格が強いといえる。しかし、堅穴住居が検出されていること、土器が大木 6 式古段階、新段階にまたがることから、ある程度継続的に利用されていたものと考える。具体的にはある季節に繰り返し利用された枝ムラないしキャンプサイトが想定できよう。石器では不定形石器が多く、石匙、打製石斧、鎧状石器といった当該期の特徴となる定型的なツールが少ない点も、本遺跡がキャンプサイトであるという解釈と調和的である。近年の調査例の増加によって、拠点的集落、キャンプサイトというような遺跡の性格を視野に入れながら土器、石器など遺物のあり方を比較することによって、阿賀野川流域における当該期の集落生業システムを実証的に検討できる状況が整いつつあるといえよう。

4 歴史時代の焼土坑について

本遺跡で検出された焼土坑はほかの阿賀野川 SA 予定地内の遺跡でも検出されており [沢田ほか 1994、藤巻樞 1996]、本遺跡例を含めた总数は百基を越えるものと思われる。これらの土坑についてはこれまで時期が不明のままであったが、今回放射性炭素年代測定を行い 13~14 世紀の年代が得られた。A 地点の報告書では遺構との共伴関係は不明であるものの、平安時代の土器片が出土していることから、土坑の所属時期が平安時代になる可能性を指摘した。今回の分析結果とはかなりの開きがあり、この原因として①土坑の構築年代そのものに幅がある、②平安時代という解釈に過ちがある、③測定誤差などが考えられる。

今回の年代測定では年代測定値に対して、 ^{14}C 測定値による同位体選別の補正や年輪年代による過去の ^{14}C 濃度の経年変化の補正が行われている (奥村 1995)。ただし、この補正プログラムの中に半減期などの他の補正が含まれているのかは不明であるとのことであった (古環境研究所早田勉氏のご教示)。近年、分析技術の向上やこうした補正によって放射性炭素年代測定法による詳細な年代測定値を得ることが可能になってきた (町田ほか 1995)。このような高精度の理科学的分析を生かすためには、われわれ発掘調査担当者が分析の原理・方法を十分に理解すること、試料の採取・取り扱いに注意を払うことが必要となろう。

今回分析に用いたサンプルは土坑の底面ないし埋土下層から採取したもので、土坑の時期からはずれる可能性は低い。また、4 つのサンプルではほぼ同様の年代測定結果が得られている。したがって、現時点では今回の年代測定結果をこれらの土坑の所属時期の基準とすべきと考える。ただし、年代測定の補正方法などに不明な点などもあることから一応の目安としておきたい。今後、類例の検討、年代測定を増やしていくことによって年代の上下限を検討する必要があろう。

最後に土坑の性格についての所見を示す。土坑の構造はきわめて簡単で径 1~2 m の円形の土坑が掘られただけのものである。ただし、底面や側面に貼り土の認められるものが一定量存在する。複数の焼け面の認められる例がないことから、焼成は 1 回だけで繰り返し利用された可能性は低いと考える。埋土は大部分が自然堆積であるが、一部ではあるものの下層に人為的な埋土を持つものが存在する。遺構の性格としては炭焼きを行った土坑の可能性が高い。土坑の構造が簡単、土坑の配置に企画性が認められない、生産されていた炭も軟質で質の悪いものであったことなどから、小規模で家内的な炭焼きに伴う遺構と考える。また、年代測定とあわせて樹種同定を行ったが結果は全てクリであった。生産形態と樹種との関係も今後検討してゆく価値がありそうである。

これらの土坑は、構築年代、遺構の性格を含めて分析例、類例の増加に期待する点が多いが、古代後半から中世にかけての小規模で家内的な生産形態に伴う遺構の可能性があり、今後も注意を払う必要があろう。

要 約

- 1 上ノ平遺跡 C 地点は新潟県東蒲原郡三川村大字上戸谷渡字上ノ山6270ほかに所在する。遺跡は阿賀野川左岸の河岸段丘上に位置し、標高は約67~73mである。
- 2 調査は磐越自動車道阿賀野川サービスエリア建設に伴い平成3~5年に行われた。調査面積は10,100m²である。
- 3 調査の結果、旧石器時代、縄文時代草創期を中心とし、縄文時代前期、歴史時代を伴う遺跡であることが判明した。検出された遺物は旧石器時代のブロック7か所、縄文時代草創期のブロック5か所、縄文時代前期の竪穴住居跡1棟、ピット1基、中期の集石遺構3基、歴史時代の土坑47基、ピット14基などである。
- 4 旧石器時代の遺物は全て石器で、手掘り出土446点、ふるい出土188点の合わせて697点で、大部分は7か所のブロックから出土している。7か所のブロックには母岩の共有関係が認められたので、これらは同時期に形成されたものと考える。遺物は、ナイフ形石器42点、彫刻刀形石器95点、二次加工ある剥片(石刃)5点、石刃130点、彫刻刀削片148点などである。ナイフ形石器は杉久保型、彫刻刀形石器は神山型を主体とする。石材は珪質頁岩を主体とし、ほかに玉髓、チャートなどが認められる。
- 5 縄文時代草創期の遺物は石器および櫛で、924点で、大部分は5か所のブロック、とりわけブロック1から出土している。ブロック1からは661点の遺物が出土しており、接合資料の存在から剥片生産を主体とした石器製作が行われたことがわかる。ブロック6からは母岩S6がまとまって出土しており、この母岩による石器製作が行われたことがわかる。ブロック9は3点の尖頭器破片以外は剥片・チップ類で尖頭器の最終的な整形が行われていたようである。ブロック10・11はそれぞれ7点、5点の剥片・石刃からなり、ブロック1から撤出された石器が遺棄ないし廃棄されたと考える。ブロック1・6・10・11では母岩の共有が認められ、これらの同時性が検証されたが、ブロック9は他のブロックと母岩を共有しておらず、時間差があるものと考える。
- 6 縄文時代は西地区と東地区で主体となる時期が異なる。西地区では竪穴住居跡1棟、ピット2基が検出され、遺物は土器234点と石器368点が出土した。西地区出土土器の大部分は縄文時代前期のものであり、石器や遺構もこの時期のものと思われる。土器は東北系の大木6式の土器を主体とし、わずかに北陸系の土器が加わる。とくに、福島県会津地方との類似性が高い。石器は石鏃、範状石器、ビエス・エスキュー、不定形石器、石核などで、凝灰岩、流紋岩、頁岩、鉄石英を主な石材としている。東地区では集石遺構3基が検出され、遺物は土器数十点と石器82点が出土した。東地区出土土器で時期のわかるものは中期前葉新崎式の同一個体の破片のみであり、石器や遺構もこの時期のものと思われる。石器は範状石器、打製石斧を主体とし、石鏃、不定形石器、石核などが加わる。
- 7 歴史時代のものと思われる土坑が47基検出された。これらの多くは、底面や側面に焼け面を持ち、覆土に多量の炭化物・焼土を含んでいる。A地点の報告書で炭窯としたものと同じである。また、底面や側面に貼り土を持つものも認められる。放射性炭素年代測定を行い、13世紀から14世紀に相当する年代が得られた。この年代はA地点の報告書の9世紀後半という年代観とずれがある。今後の分析例の増加を待ちたい。また、炭化物の樹種同定を行い、全てクリという結果が得られた。

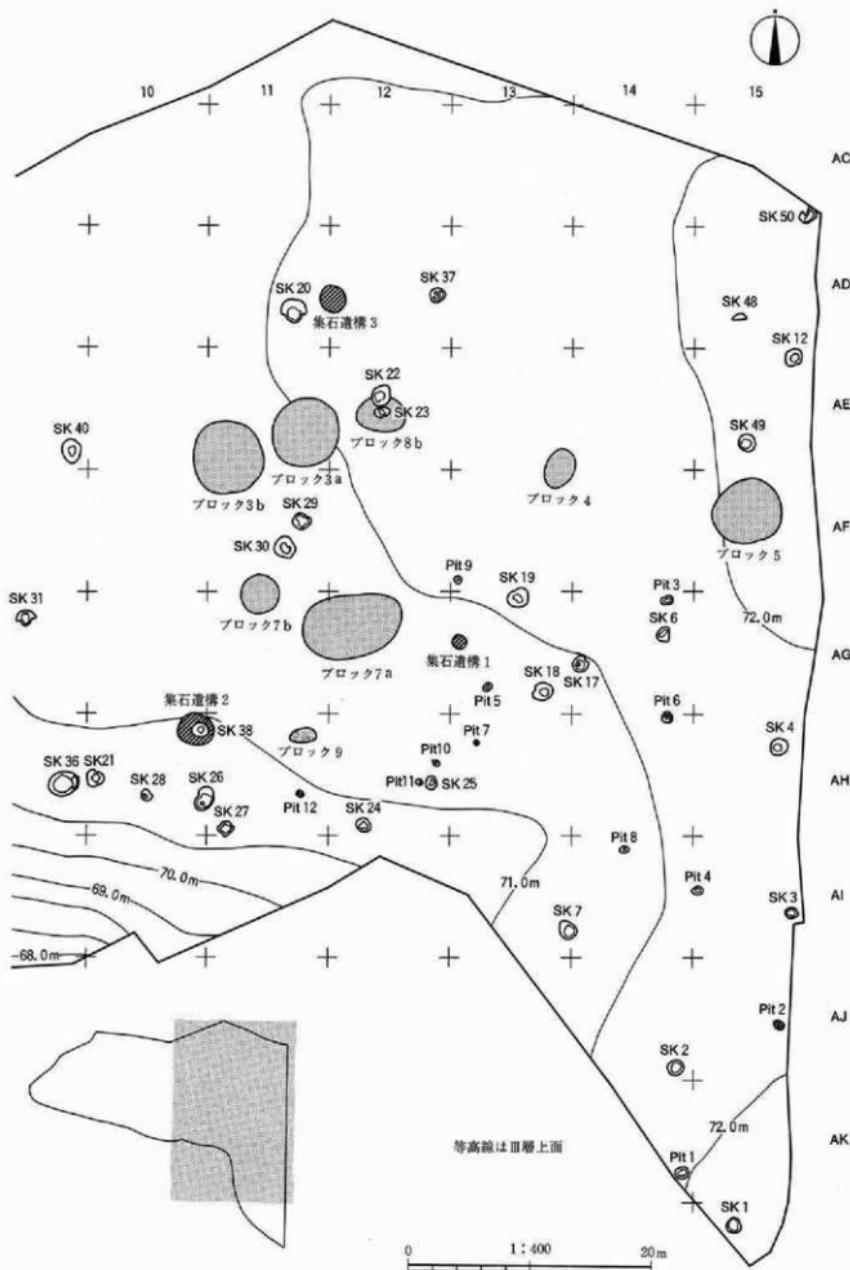
引用・参考文献

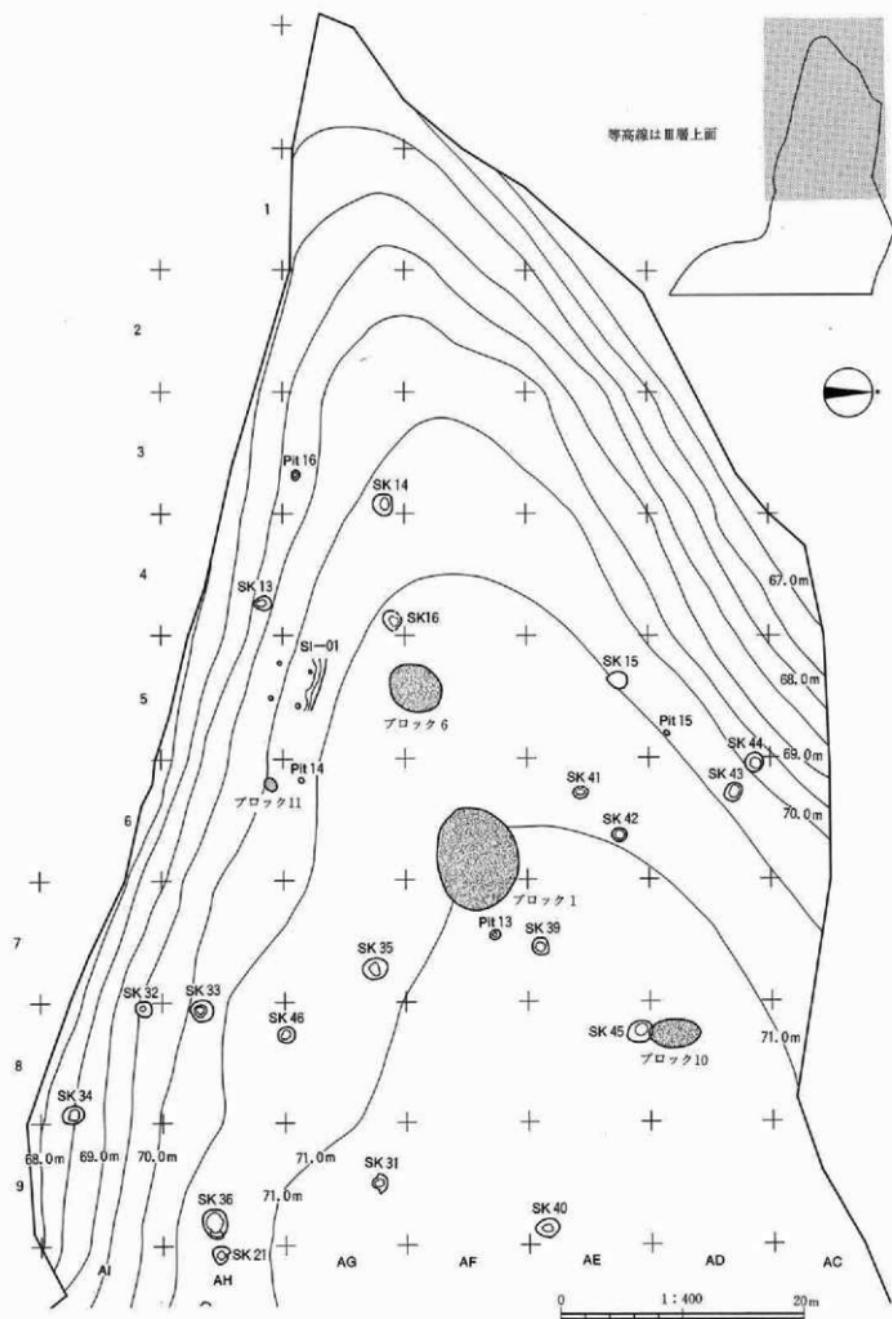
- 相原淳一・村田晃一ほか 1986 「宮城県文化財調査報告書第117集 七ヶ宿ダム開通跡発掘調査報告書Ⅱ 小瀬川遺跡 遺物包含層石器編」 宮城県教育委員会・建設省七ヶ宿ダム工事事務所
- 阿部朝衛 1988 「大木家所蔵の旧石器」「北越考古学」創刊号 pp.46~49 北越考古学研究会
- 阿部朝衛 1995 「新潟県北部における石器材料の調査」「菅原史学」10 pp.353~372
- 飯坂盛泰 1995 「七瀬道下遺跡」「新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成6年度」pp.12~13 財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 飯坂盛泰 1995 「吉ヶ沢遺跡B地点」「新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成6年度」p.14 財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石川忠美子 1994 「東北日本における尖頭器出現期の石器群の様相」「岩崎卓也先生退官記念論文集 日本と世界の考古学—現代考古学展開—」pp.46~61
- 奥村晃史 1995 「¹⁴C年代の補正と高精度化のための手法」「第四紀研究」34-3 pp.191~194 日本国第四紀学会
- 鶴原 洋・阿子島香 1981 「頁岩製石器の実験使用痕研究—ポリッシュを中心とした機能推定の試み—」(東北大使用痕研究チームによる研究報告 その2)「考古学雑誌」第67巻第1号 pp.1~36 日本考古学会
- 與野義一 1970 「大木式土器理解のために(見)」「考古学ジャーナル」48 pp.20~22 ニュー・サイエンス社
- 小林 弘 1988 「三川村鈴置遺跡の先土器時代の石器」「北越考古学」創刊号 北越考古学研究会
- 小林 克・義一郎・小山内男・青藤典男 1999 「秋田県文化財調査報告書第230集 一般国道7号琴丘能代道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ 鴨子台遺跡・八幡台遺跡一」秋田県埋蔵文化財センター
- 佐藤正知・龍沢規則・上田順二 1995 「新潟県埋蔵文化財調査報告書第70集 番越自動車道関係発掘調査報告書 番沢遺跡・上城遺跡」「新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 沢田 敦 1994 「新潟県の様相」「第2回 岩宿フォーラム/シンポジウム 群馬県の岩宿時代の変遷と特色 予稿集」pp.61~65 笠懸野岩宿文化資料館・岩宿フォーラム実行委員会
- 沢田 敦・飯坂盛泰・津洋介・中澤 敏・小池右子 1994 「新潟県埋蔵文化財調査報告書第64集 番越自動車道関係発掘調査報告書 上ノ平遺跡A地点」「新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 渋谷孝雄・佐藤正俊・長橋 至 1984 「山形県埋蔵文化財調査報告書第82集 吹浦遺跡第1次緊急発掘調査報告書」建設省東北地方建設局酒田工事事務所・山形県教育委員会
- 渋谷孝雄・佐藤正俊 1985 「山形県埋蔵文化財調査報告書第93集 吹浦遺跡第2次緊急発掘調査報告書」建設省東北地方建設局酒田工事事務所・山形県教育委員会
- 渋谷孝雄・黒坂雅人 1988 「山形県埋蔵文化財調査報告書第120集 吹浦遺跡第3・4次緊急発掘調査報告書」建設省東北地方建設局酒田工事事務所・山形県教育委員会
- 管沼 亘 1992 「五泉市薬師堂遺跡旧石器時代資料の再検討」「新潟考古」第3号 pp.61~78 新潟県考古学会
- 鈴木俊成・高橋保雄 1993 「石器の実測方法」「考古学ジャーナル」360 pp.29~33 ニューサイエンス社
- 仙庭伸久 1994 「石器の分類について」「札幌市文化財調査報告書XLV N 316遺跡」p.77 札幌市教育委員会
- 高橋春栄 1988 「新潟県北部の旧石器」「第2回東北日本の旧石器文化を語る会資料集」pp.25~28
- 高橋保雄 1992 「石器類」「新潟県埋蔵文化財調査報告書第57集 番越自動車道関係発掘調査報告書 五丁歩道跡・十二木道跡」pp.108~231 新潟県教育委員会
- 龍沢規則・北村 亮・佐藤正知・阿部雄生 1995 「新潟県埋蔵文化財調査報告書第68集 番越自動車道関係発掘調査報告書 大坂上遺跡・猿頭遺跡・中棚遺跡・牧ノ沢遺跡」「新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 田中耕作・増子正三・鶴巣徹志・吉井雅男 1994 「ナイフ形石器文化成立期の前山遺跡・上野林」遺跡」「新潟県考古学会第6回大会発表要旨」pp.5~10 新潟県考古学会
- 丹野隆明・本間 宏・松本 広・香内 修 1991 「福島県文化財調査報告書第266集 国营会津農業水利事業開拓遺跡調査報告 虎島遺跡・平林B遺跡・施現山下遺跡」「福島県教育委員会
- 寺崎祐助 1993 「鍋屋町式土器について」「第6回純文セミナー前期終末の諸様相」pp.195~225 純文セミナーの会
- 寺村光晴・室岡 博・内藤克一・五十嵐健雄・大塚家太郎・三井田忠 1960 「鍋屋町遺跡」「柿崎町教育委員会
- 富樫泰時・白石建雄・村岡百合子・藤原克敏 1977 「米ヶ森遺跡発掘調査報告書」「秋田考古学協会
- 中川重紀・三浦謙一・佐藤 隆・星 雅之・猪池強一 1995 「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第215集 大波II遺跡発掘調査報告書 東北横断自動車道開通跡遺跡発掘調査」「財團法人岩手県文化振興事業団

- 埋蔵文化財センター
 中村孝三郎 1978 「越後の石器」 学生社
- 西秋良安 1994 「石器製作における偶発削離の問題」『東海大学校地内調査報告』4 pp.111-125 東海大学校地内遺跡調査委員会・東海大学校地内遺跡調査団
- 芳賀英一・丹野隆明 1990 「福島県文化財調査報告書第227集 国営会津農業水利事業関連遺跡調査報告書 中宵遺跡・上宵A遺跡・青宮西遺跡・三十刈遺跡・水上遺跡」 福島県教育委員会
- 藤沢宗平・林 茂樹 1961 「神子柴遺跡—第一次調査概報—」『古代學』第9巻第3号 財團法人古代學協会
- 藤谷 誠・芳賀英一 1986 「福島県文化財調査報告書第164集 国営会津農業水利事業関連遺跡調査報告書IV 藤巻遺跡・下谷ヶ地平B・C遺跡」 福島県教育委員会
- 藤巻正信・大川原英智・間 洋介 1996 「新潟県埋蔵文化財調査報告書第71集 蒙古自動車道関係発掘調査報告書 吉ヶ沢遺跡 A地点・上ノ平遺跡B地点・中峰遺跡」 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 松本 茂 1991 「福島県文化財調査報告書第243集 東北横断自動車道遺跡調査報告11 法正尻遺跡」 福島県教育委員会・財團法人福島県文化センター・日本道路公団
- 町田 洋・大村明雄・福澤仁之・岡田篤正編 1995 「第四紀研究第34巻第3号 高精度年代測定と第四紀研究」 日本第四紀学会
- 御堂島正 1991 「石蹴と有舌尖頭器の衝撃剥離」『古代』92 pp.79-97 早稲田大学出版部
- 南 雄二 1995 「北野遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成6年度』pp.15-17 財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 村田晃一・真山 悟・伊藤 哲・今野 隆・佐藤広史 1987 「宮城県教育委員会調査報告書第122集 七ヶ宿ダム関連道路発掘調査報告書Ⅱ 小堀川遺跡」 宮城県教育委員会・建設省七ヶ宿ダム工事事務所
- 山田芳和編 1986 「石川県能都町 真船遺跡」 能都町教育委員会・真船遺跡発掘調査団
- 山中一郎 1979 「技術形態学と機能形態学」『考古学ジャーナル』167 pp.13-15 ニューサイエンス社
- 和賀仙人遺跡研究グループ編 1984 「和賀町文化財調査報告書第11集 和賀仙人遺跡発掘調査報告」 和賀考古学会
- 若林伸亮・大越造正・橋本博幸・松本 茂・大河奈夫・佐藤耕三 1983 「福島県文化財調査報告書第117集 国営会津農地開発事業 母畑地区遺跡発掘調査報告13 萩師堂遺跡・蓬入遺跡・栗木内塚」 福島県教育委員会・財團法人福島県文化センター
- 綿貫俊一・堤 隆 1987 「荒屋遺跡の細石刃文化資料」『長野県考古学会誌』54 pp.1-20 長野県考古学会

図 版

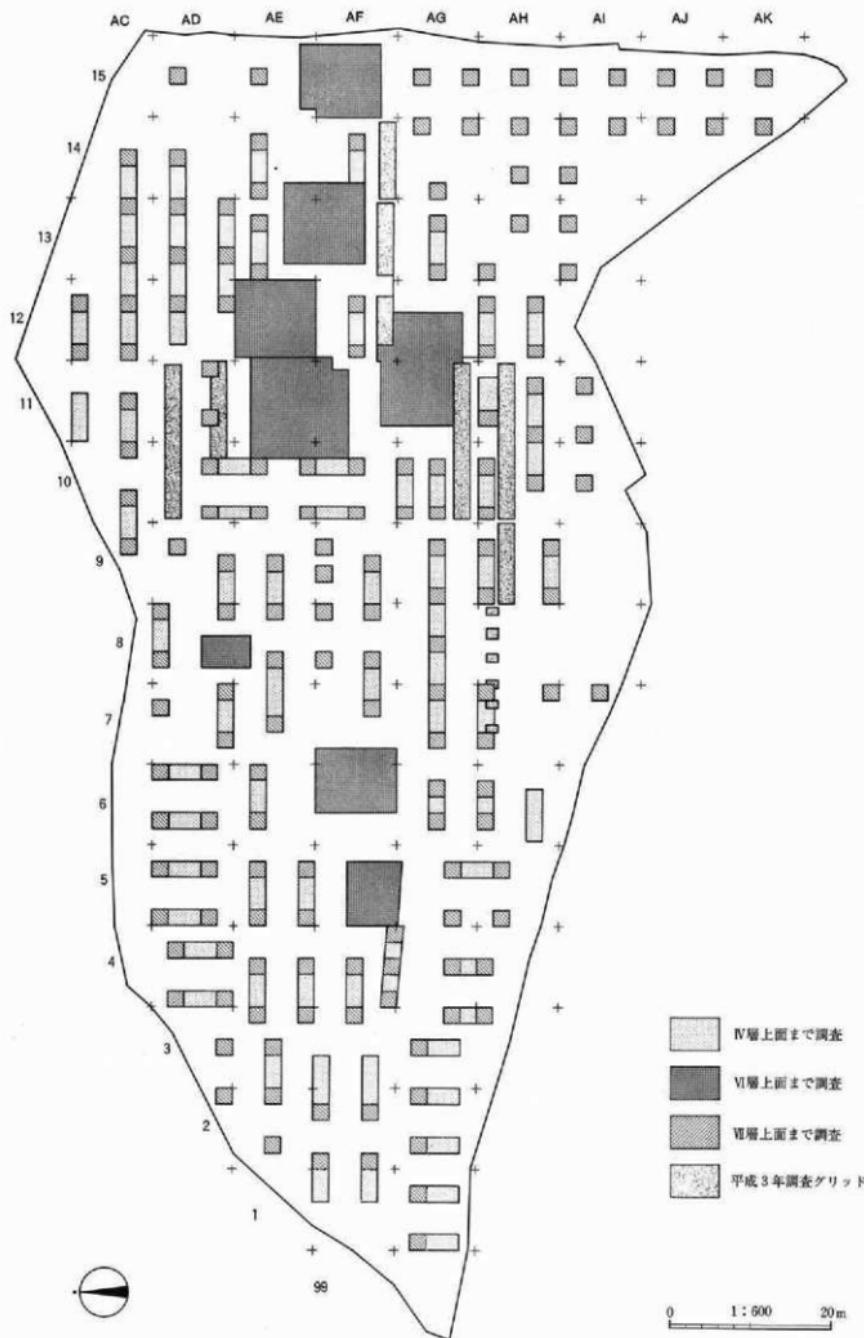


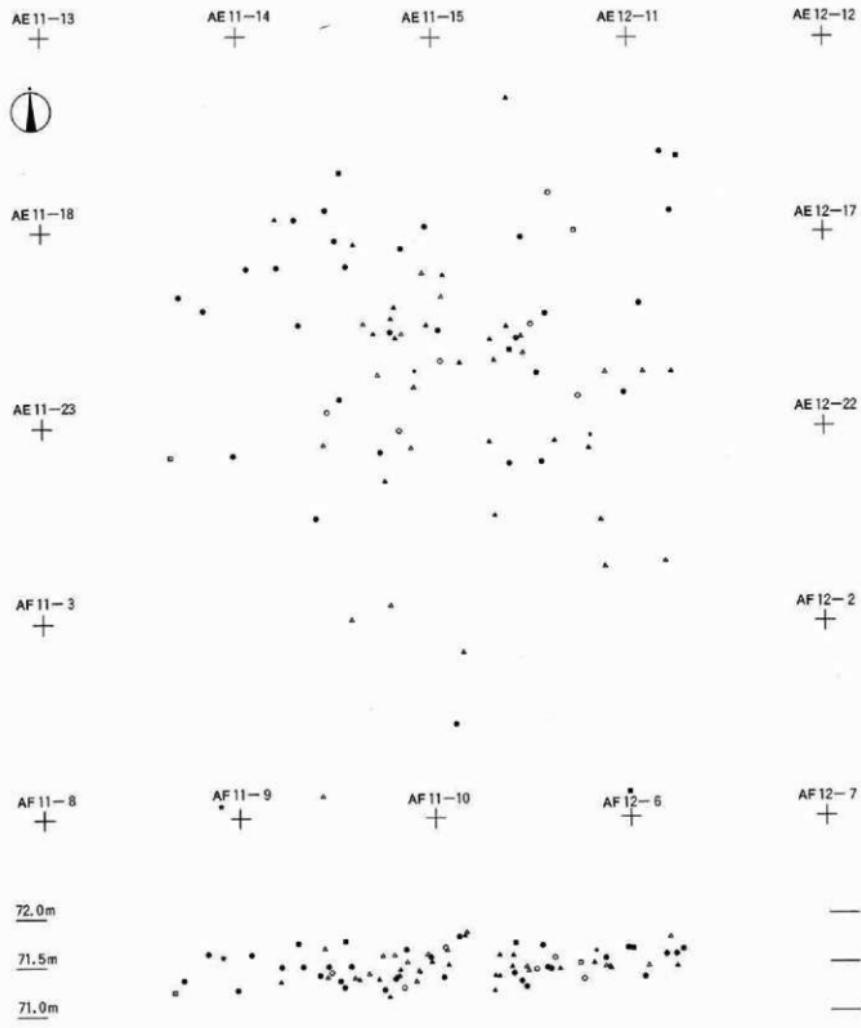




図版 4

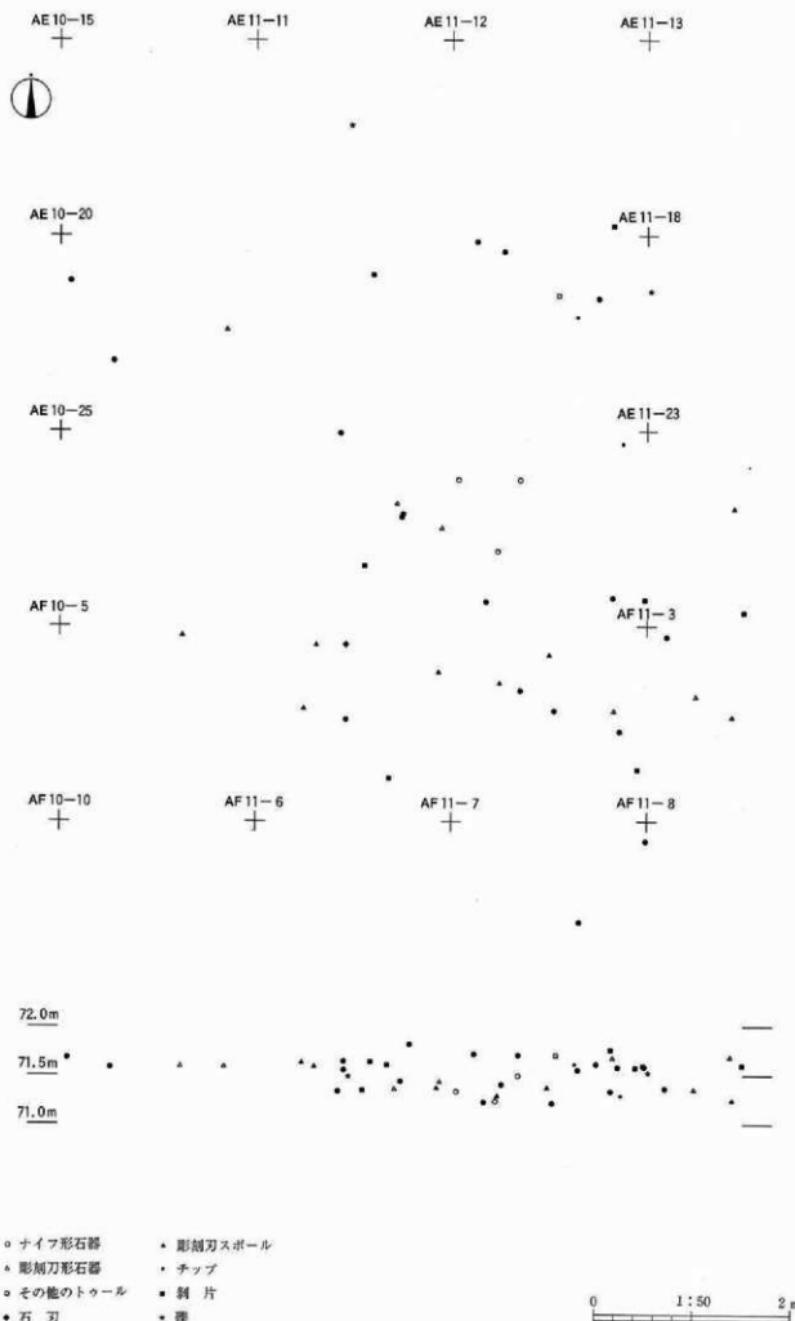
旧石器時代・縄文時代草創期発掘調査区図

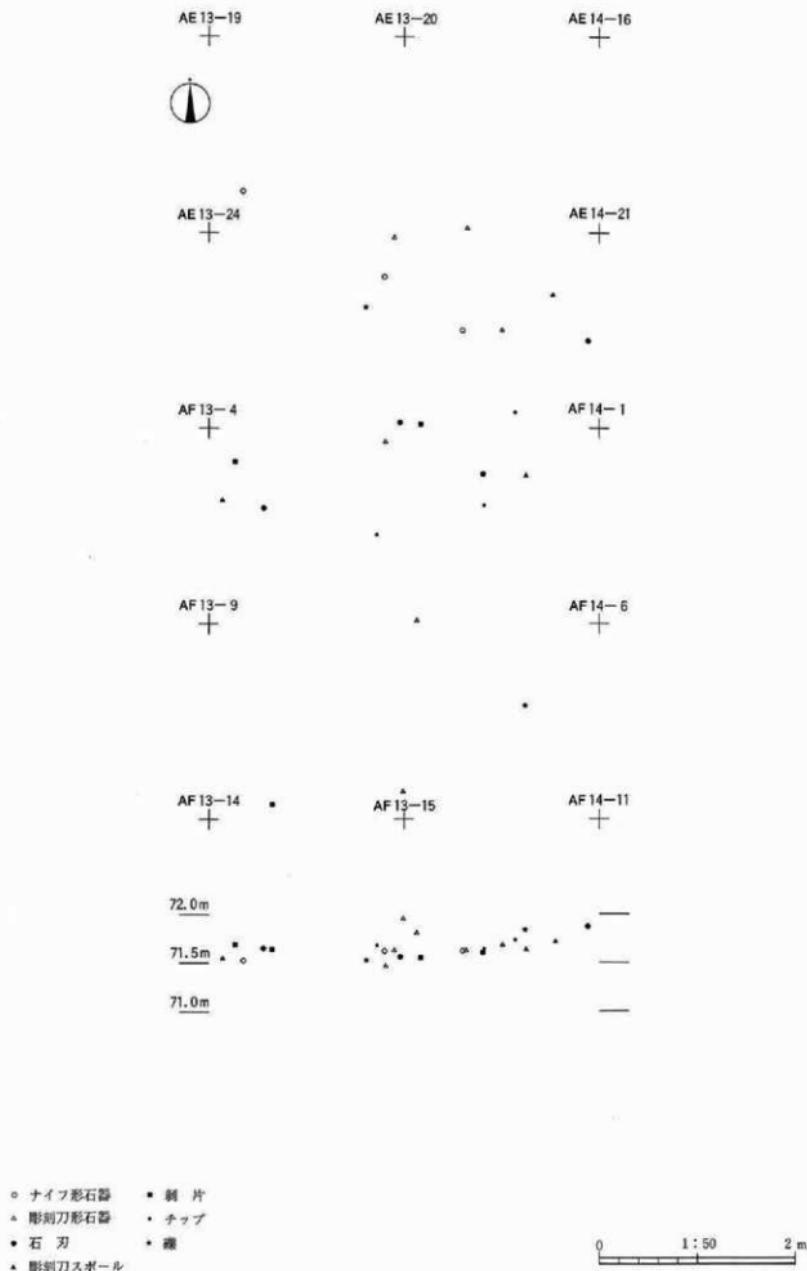


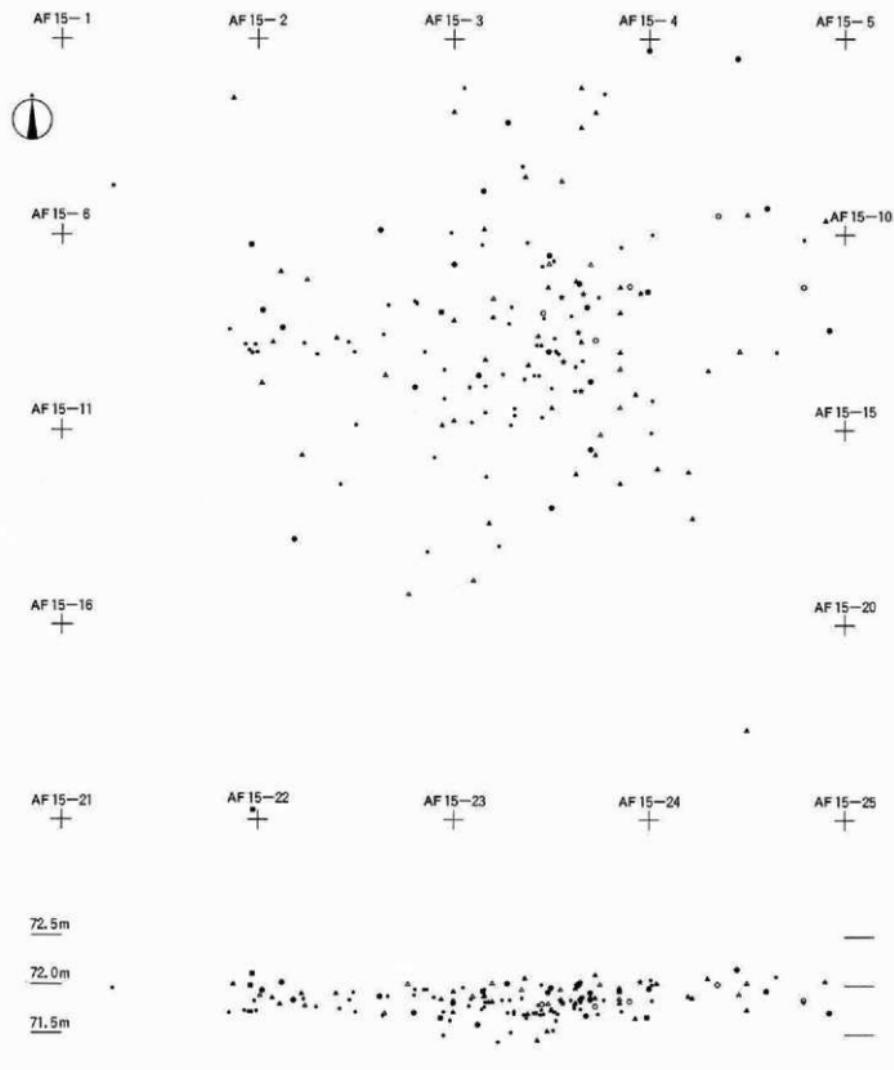


- ナイフ形石器
- △ 彫刻刀形石器
- その他の中工具
- ◆ 石 刀
- ▲ 彫刻刀スボル
- チップ
- 鋼 片
- 磨

0 1:50 2 m







- ナイフ形石器
- △ 鋸割刀形石器
- 石刀
- ▲ 鋸割刀スボール
- 刃 片
- ◆ チップ
- 種

0 1:50 2 m

AF 11-25



AF 12-21



AF 12-22



AF 12-23



AF 12-24



AG 11-5



AG 12-4



AG 11-10



AG 12-9



AG 11-15



AG 12-14



AG 11-20



AG 12-16



AG 12-17



AG 12-18

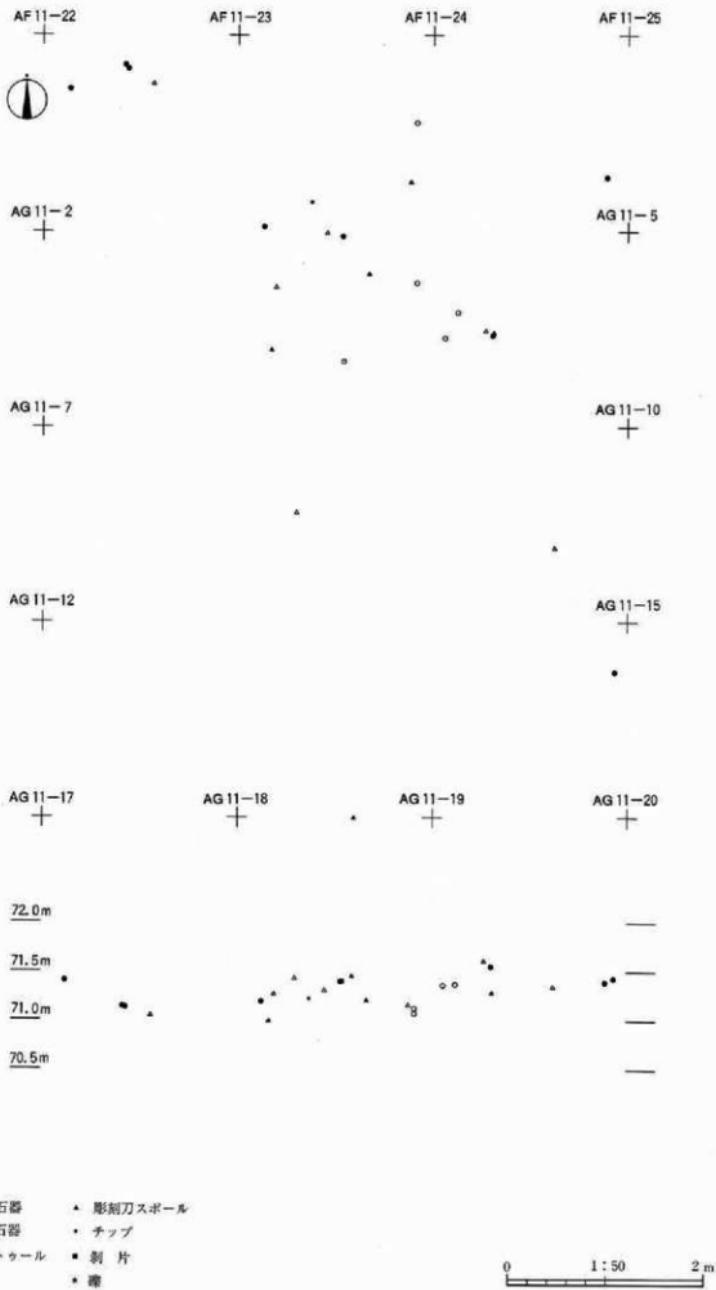


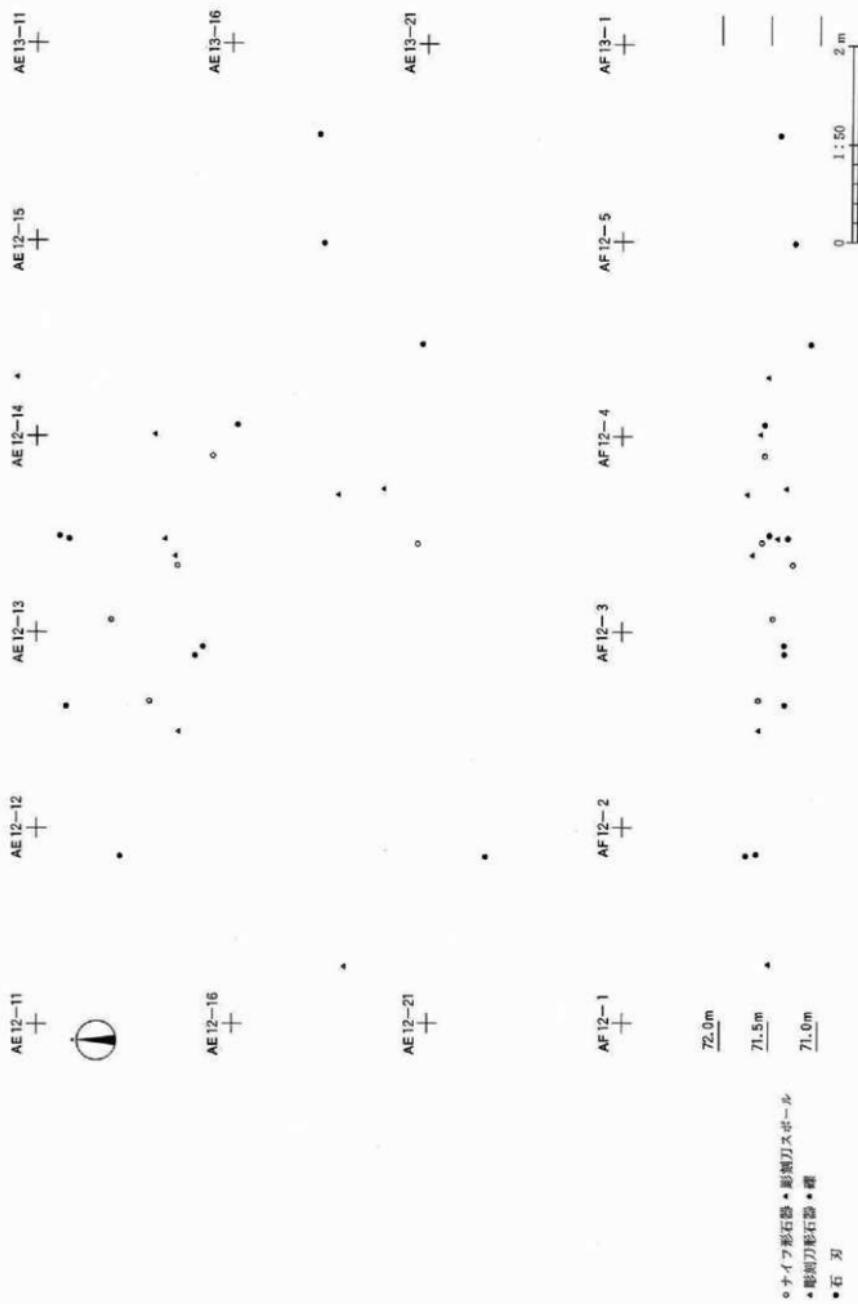
AG 12-19

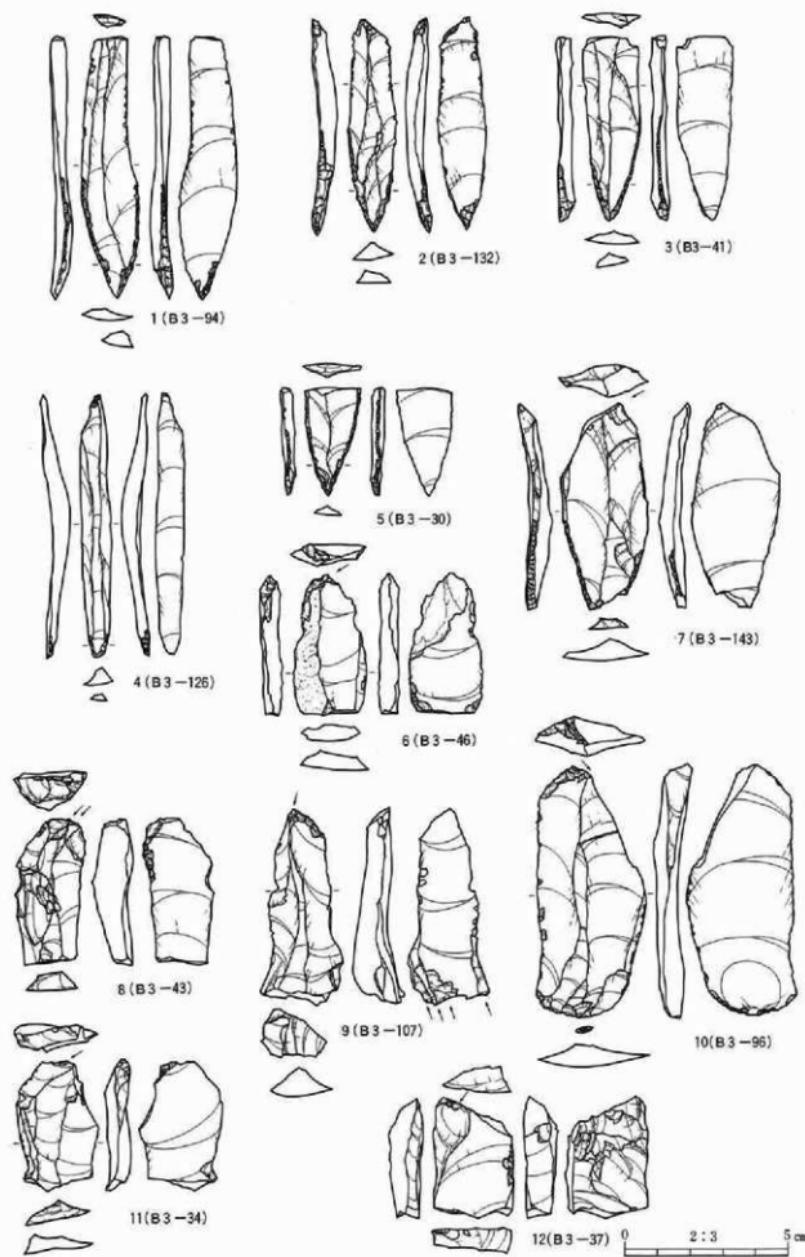
72.0m71.5m71.0m70.5m

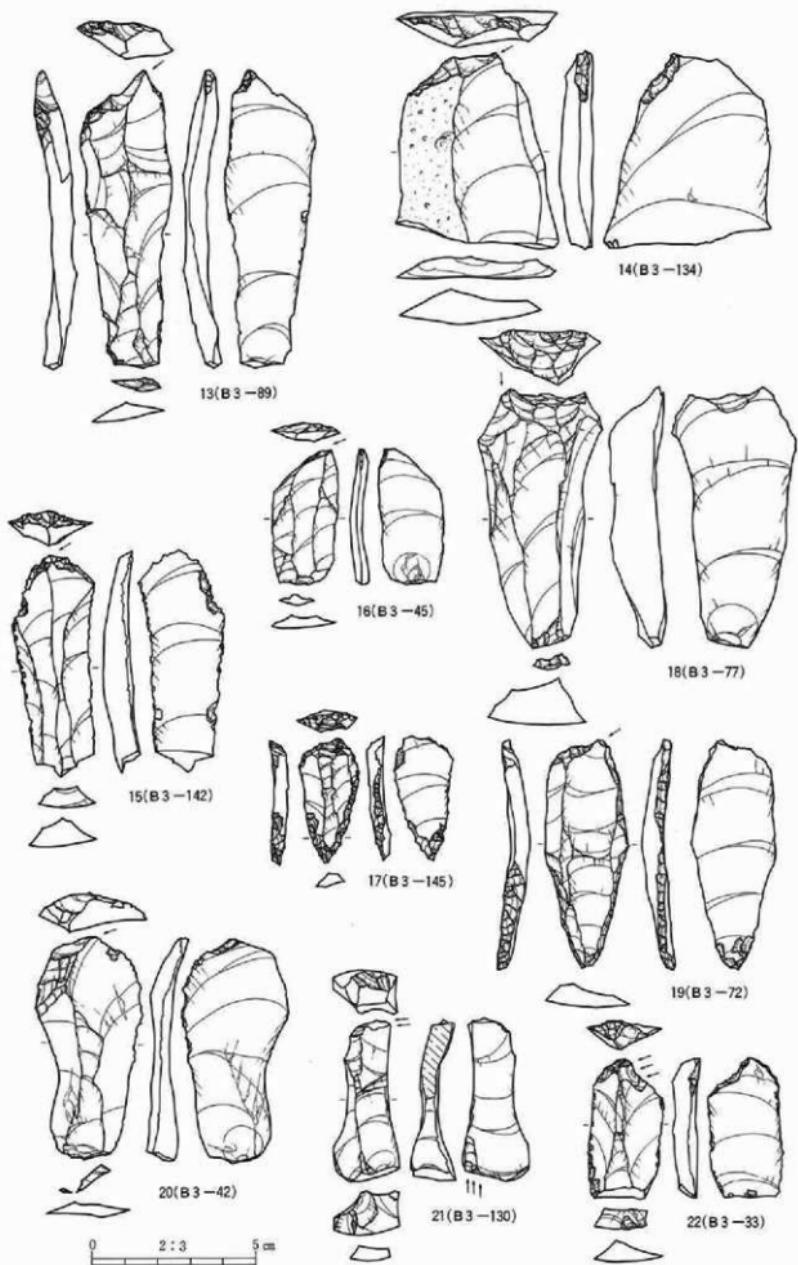
- ナイフ形石器
- △ 彫刻刀形石器
- ★ その他のトゥール
- 石 刀
- ▲ 彫刻刀スボル
- ◆ ナップ
- 剥 片
- ◆ 碓

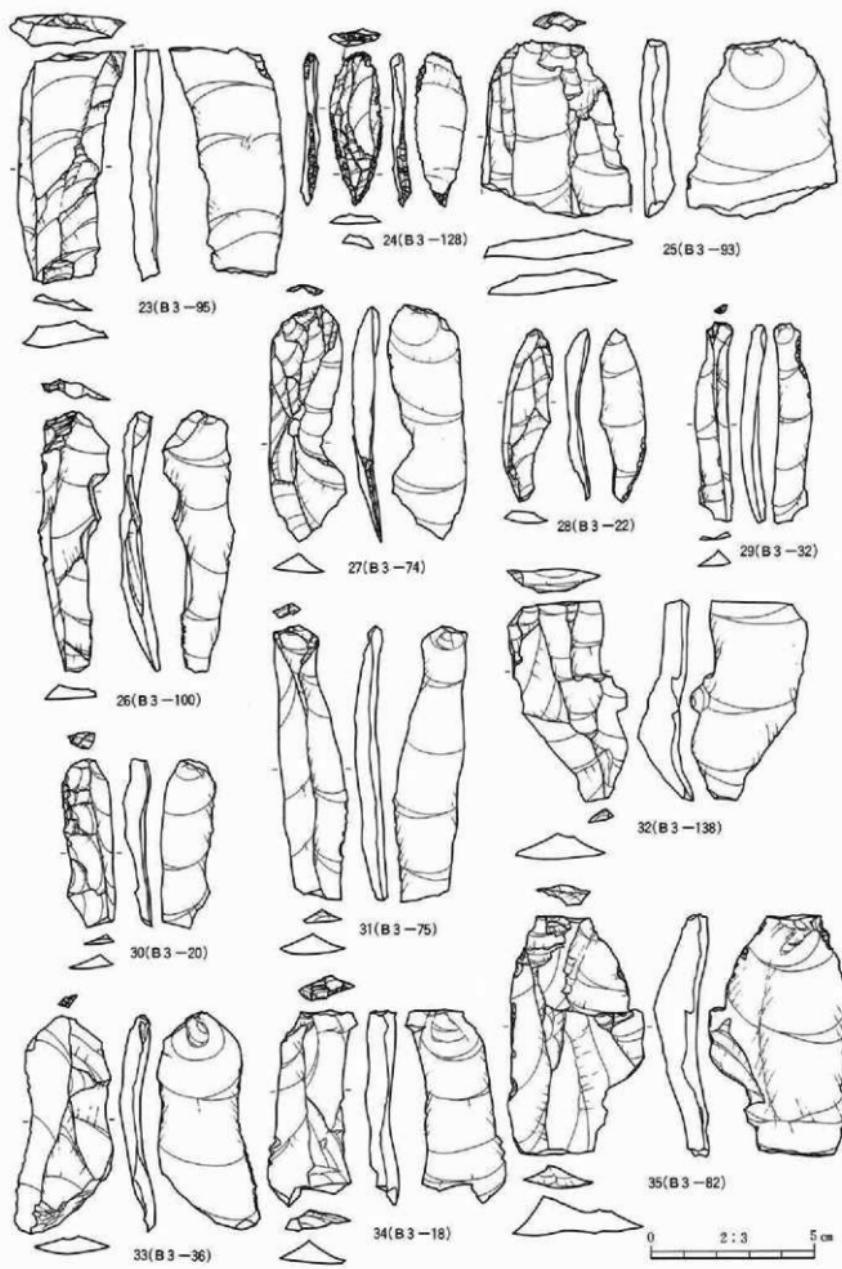
0 1:50 2 m

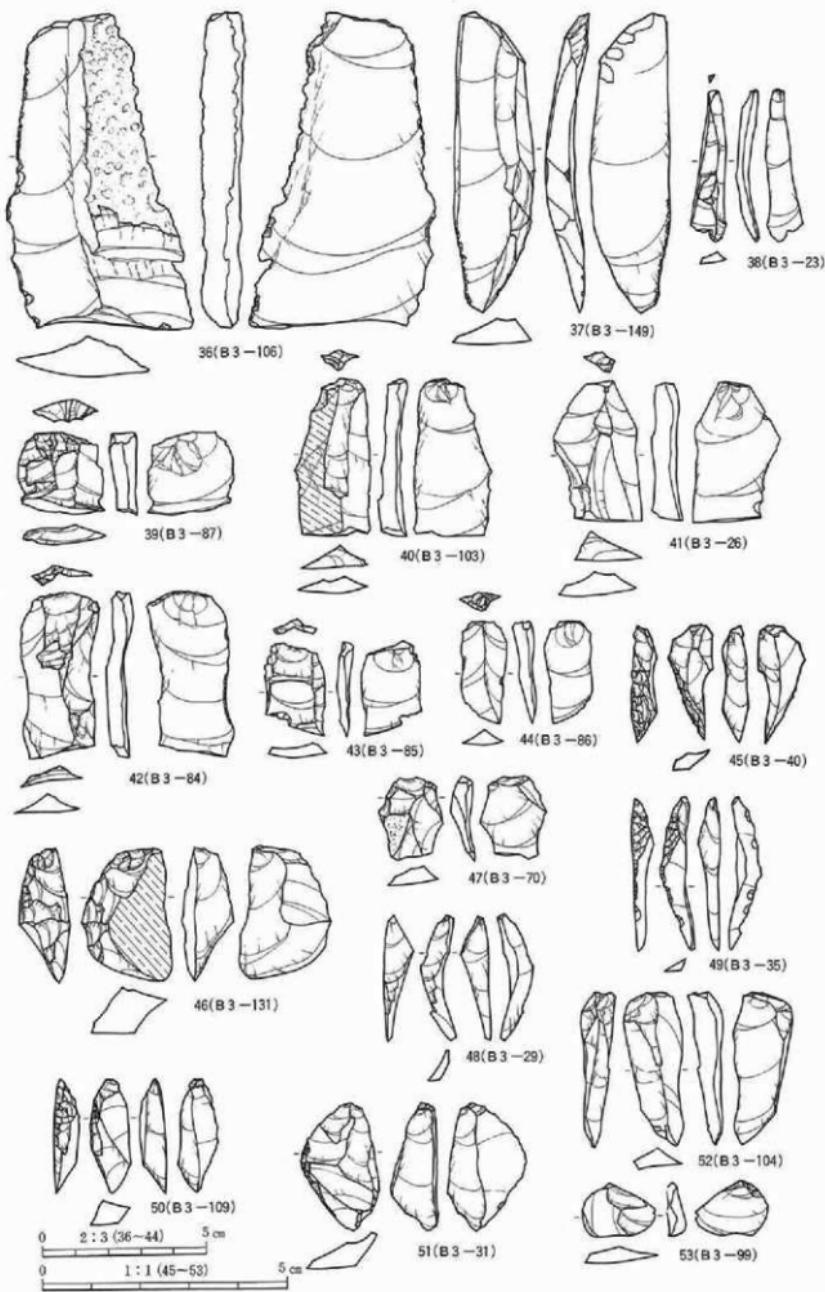


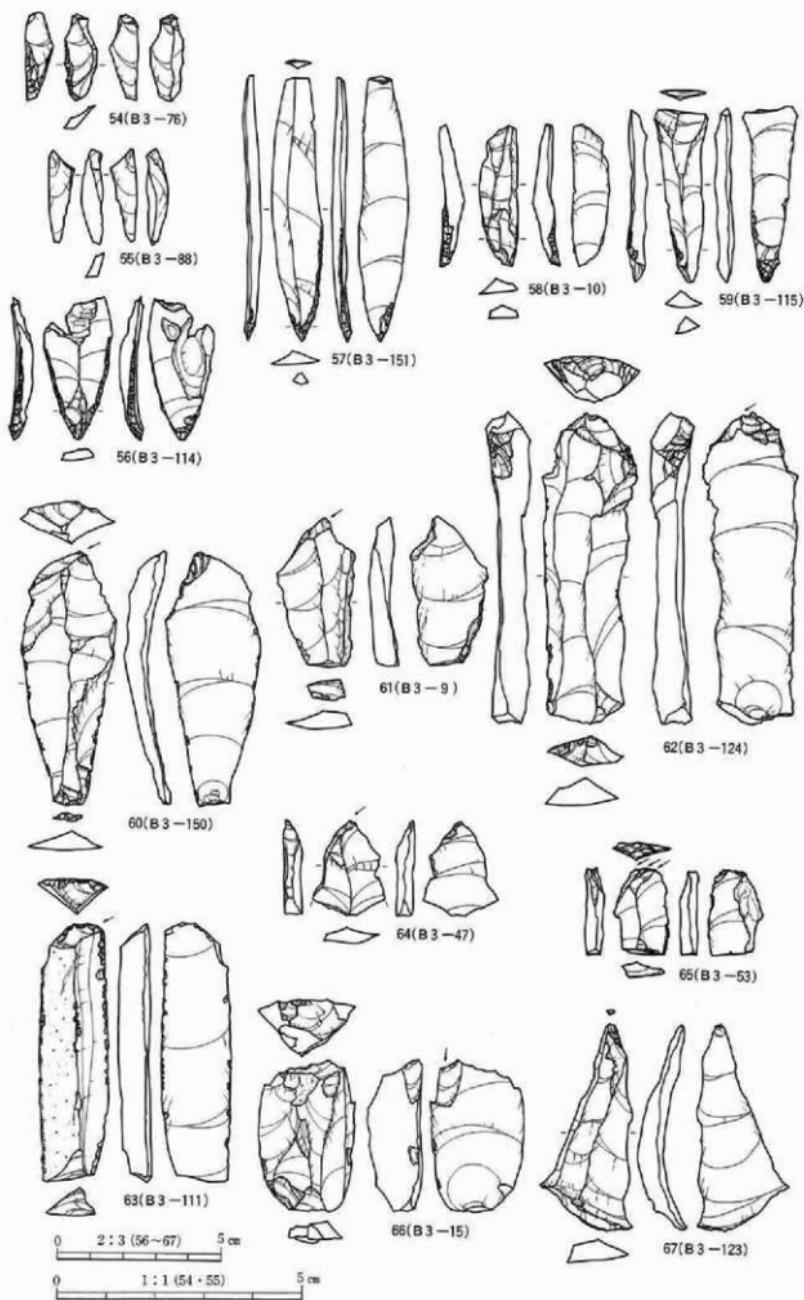


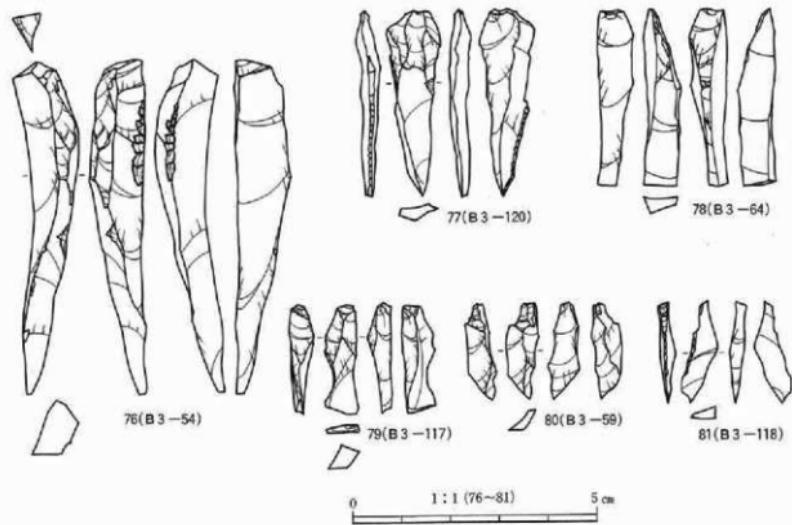
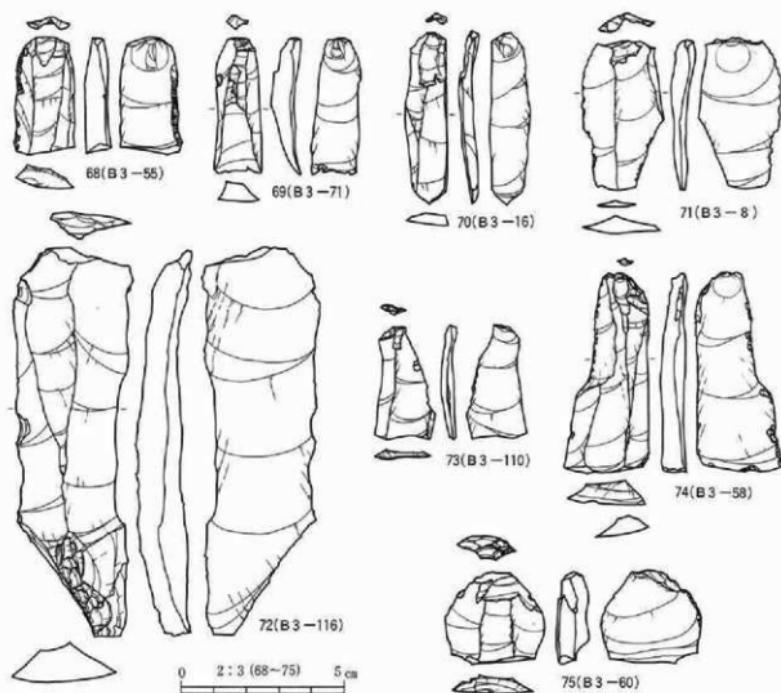


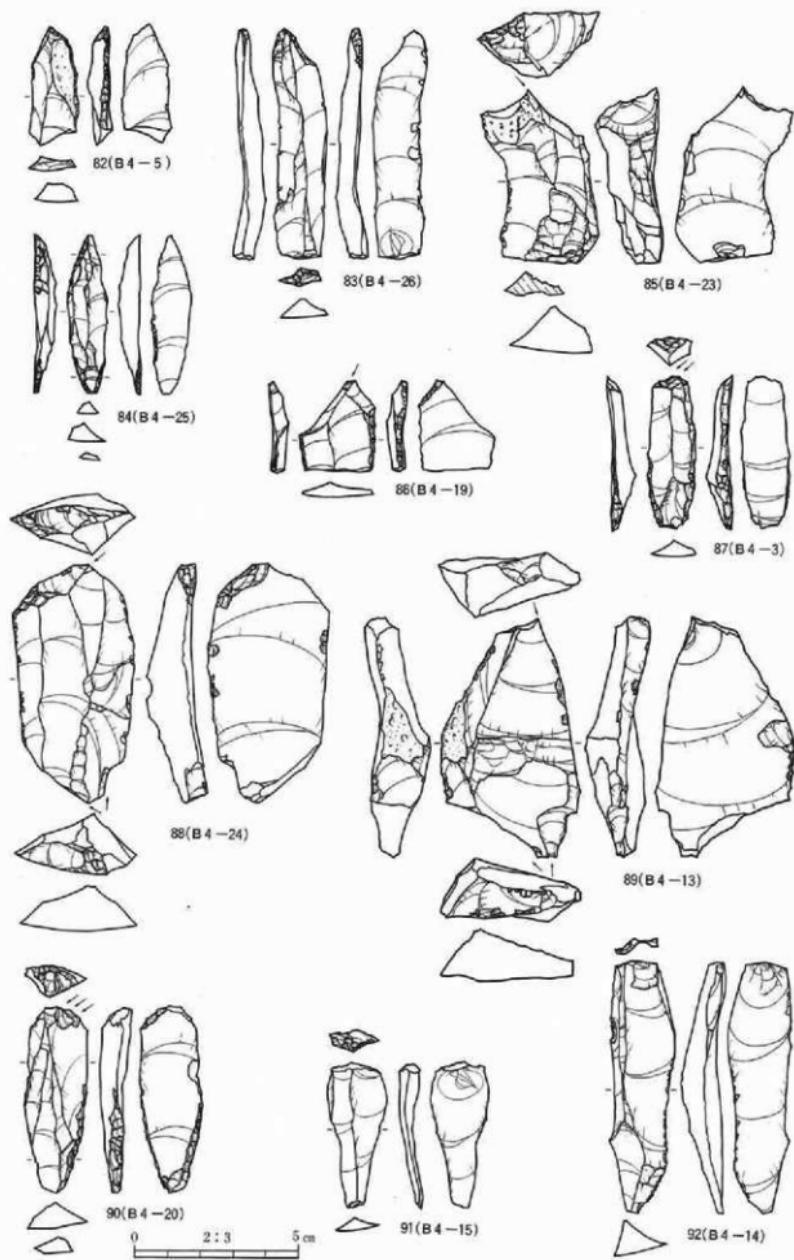


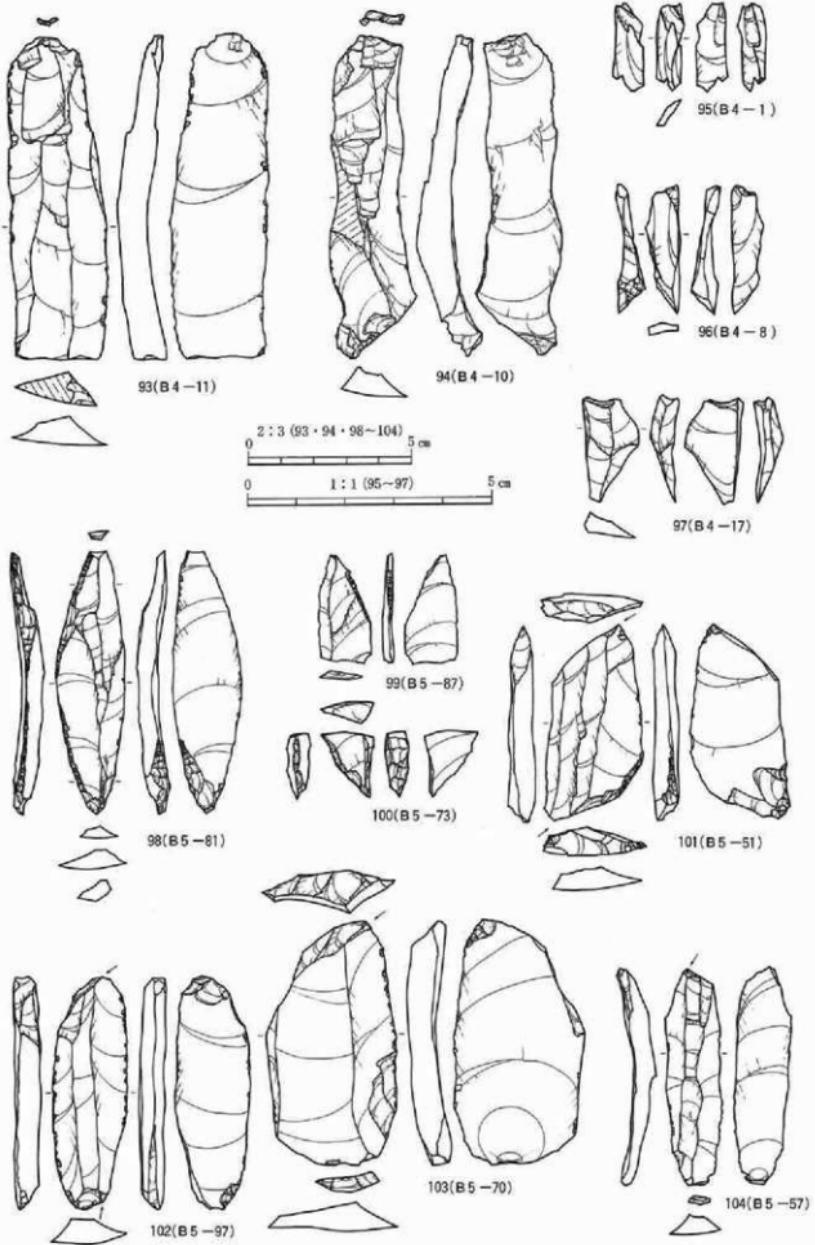


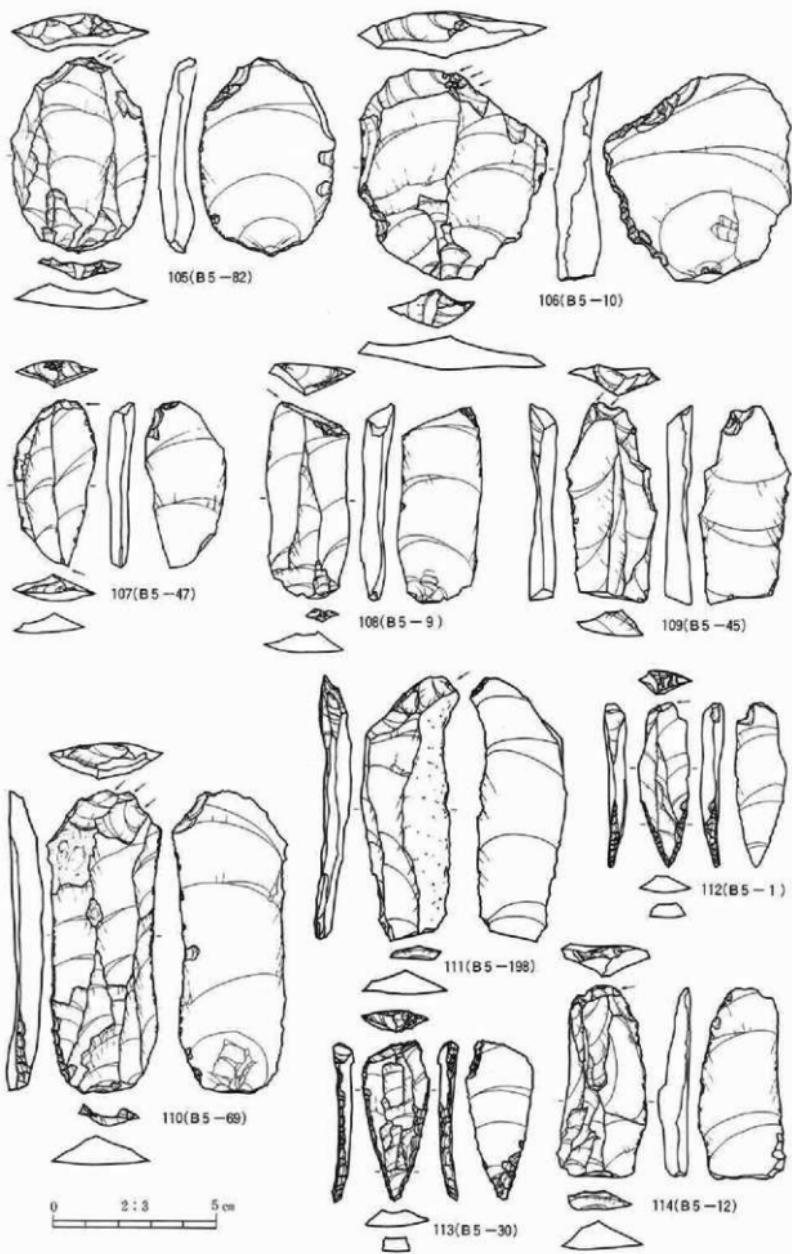


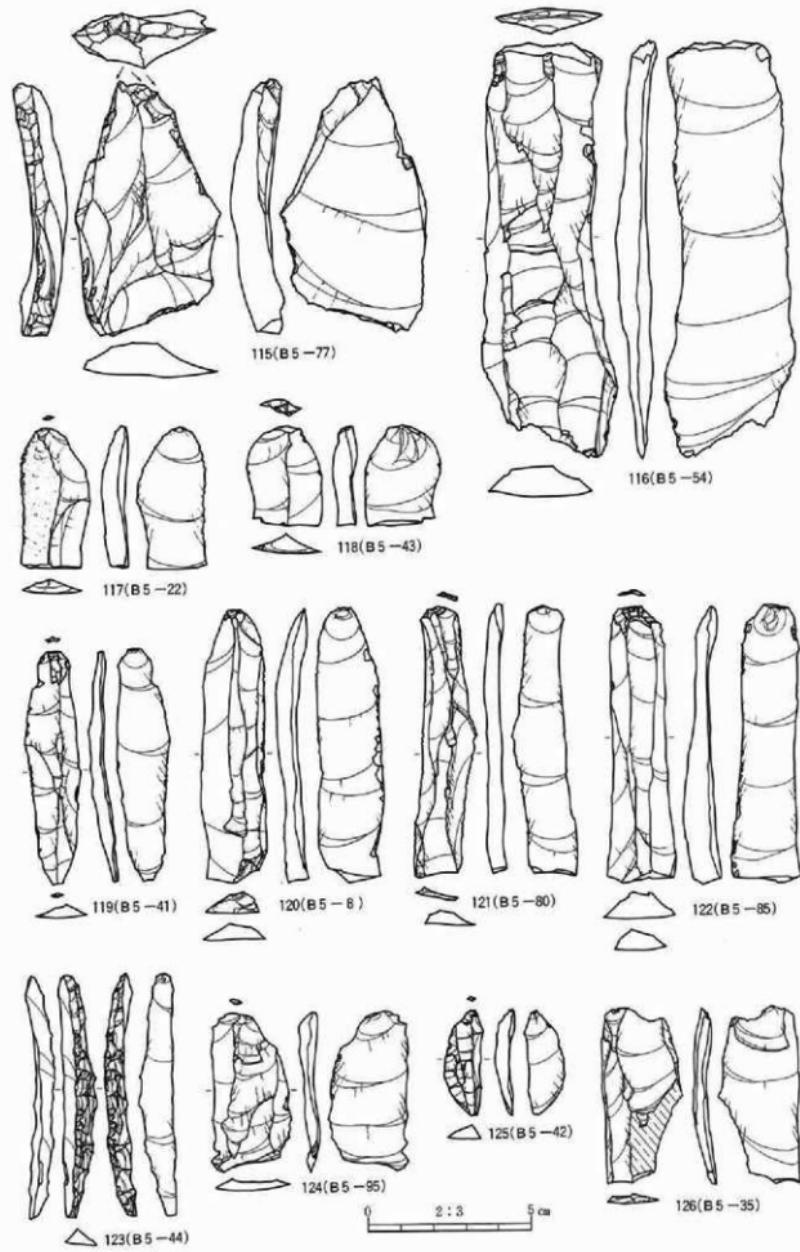


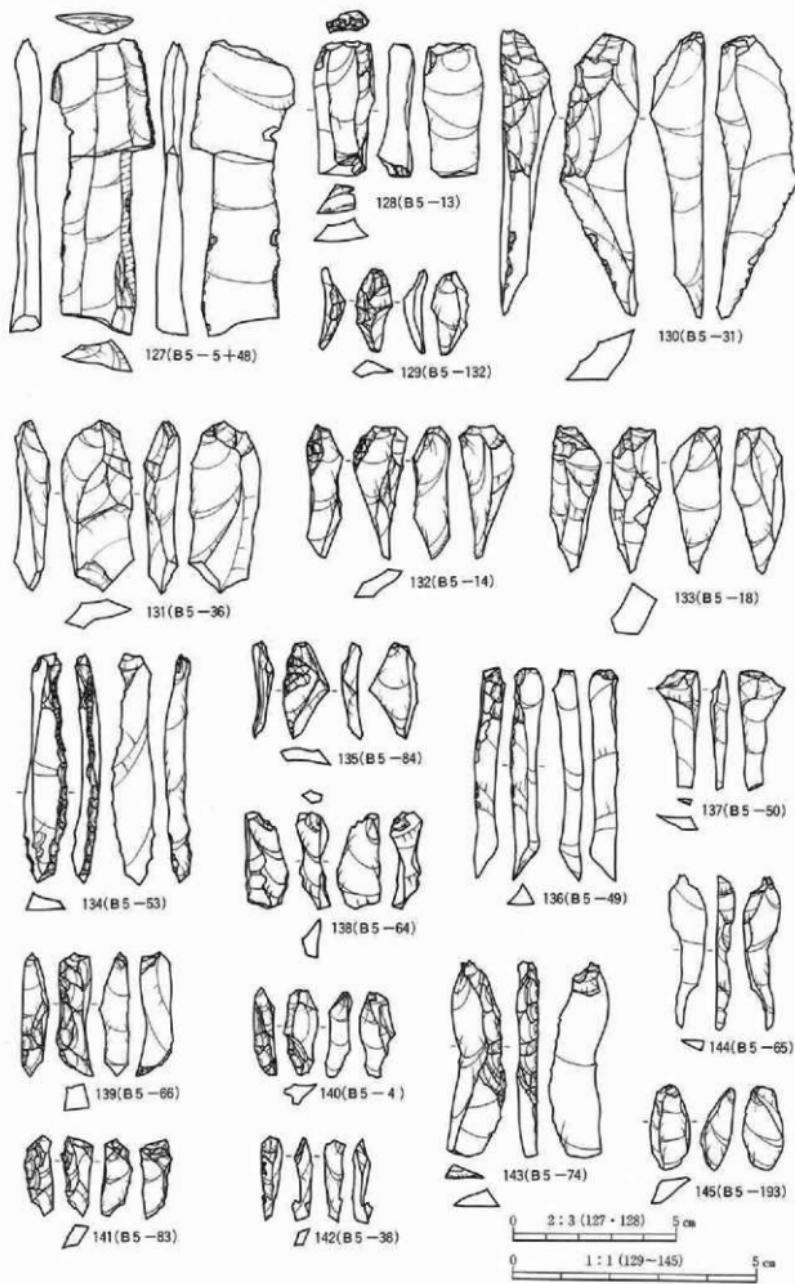


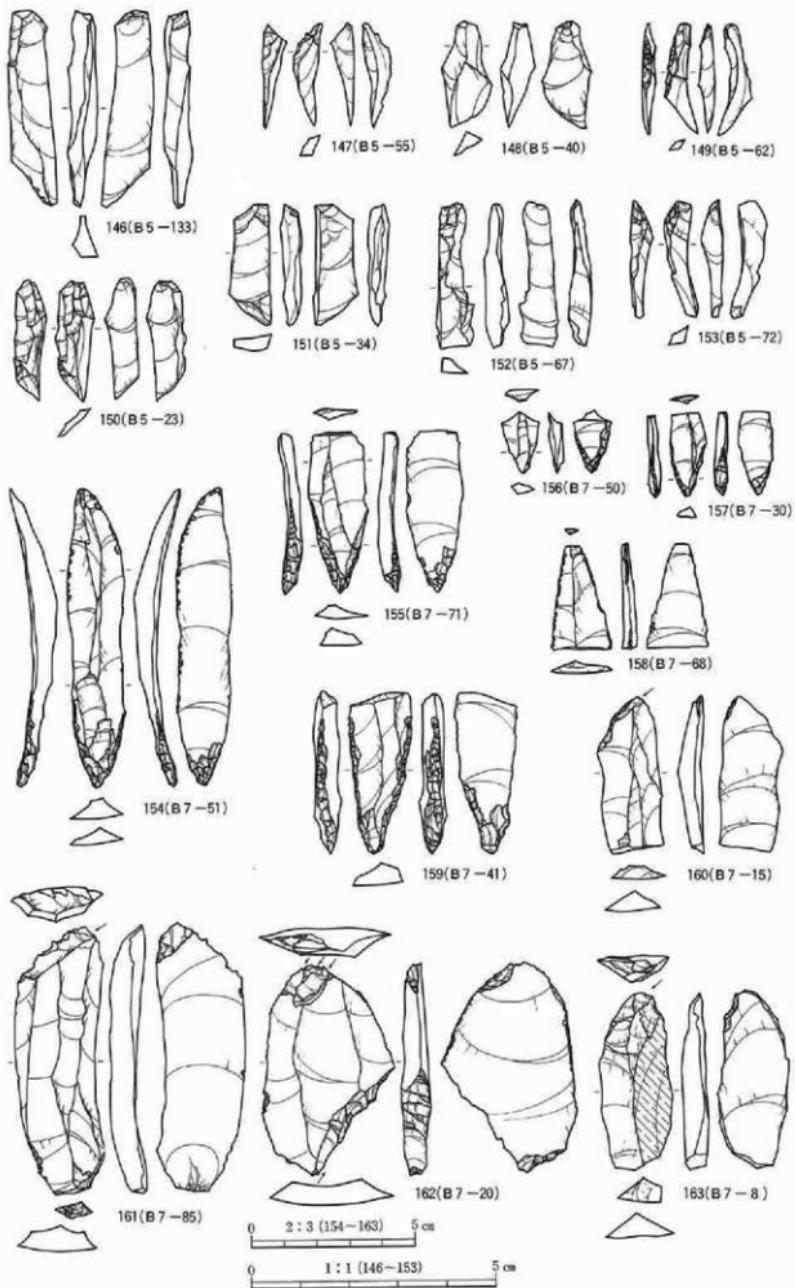


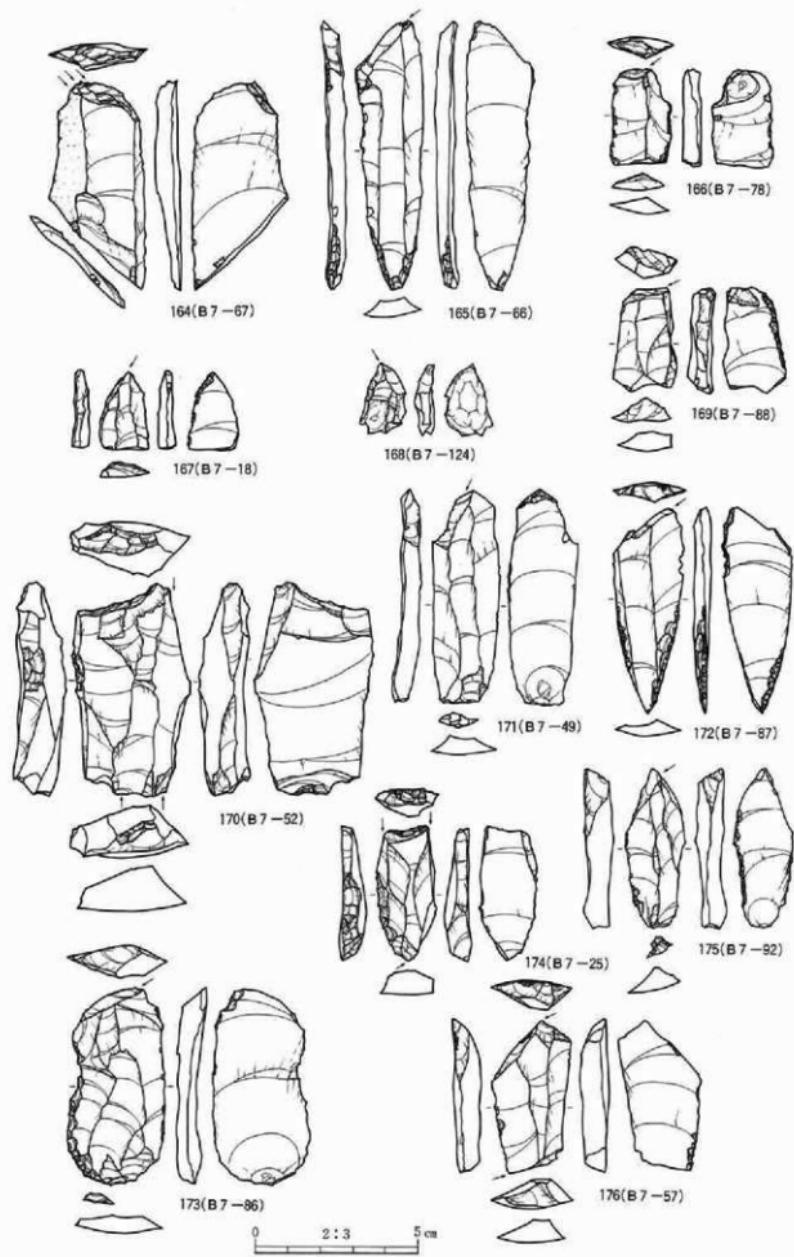


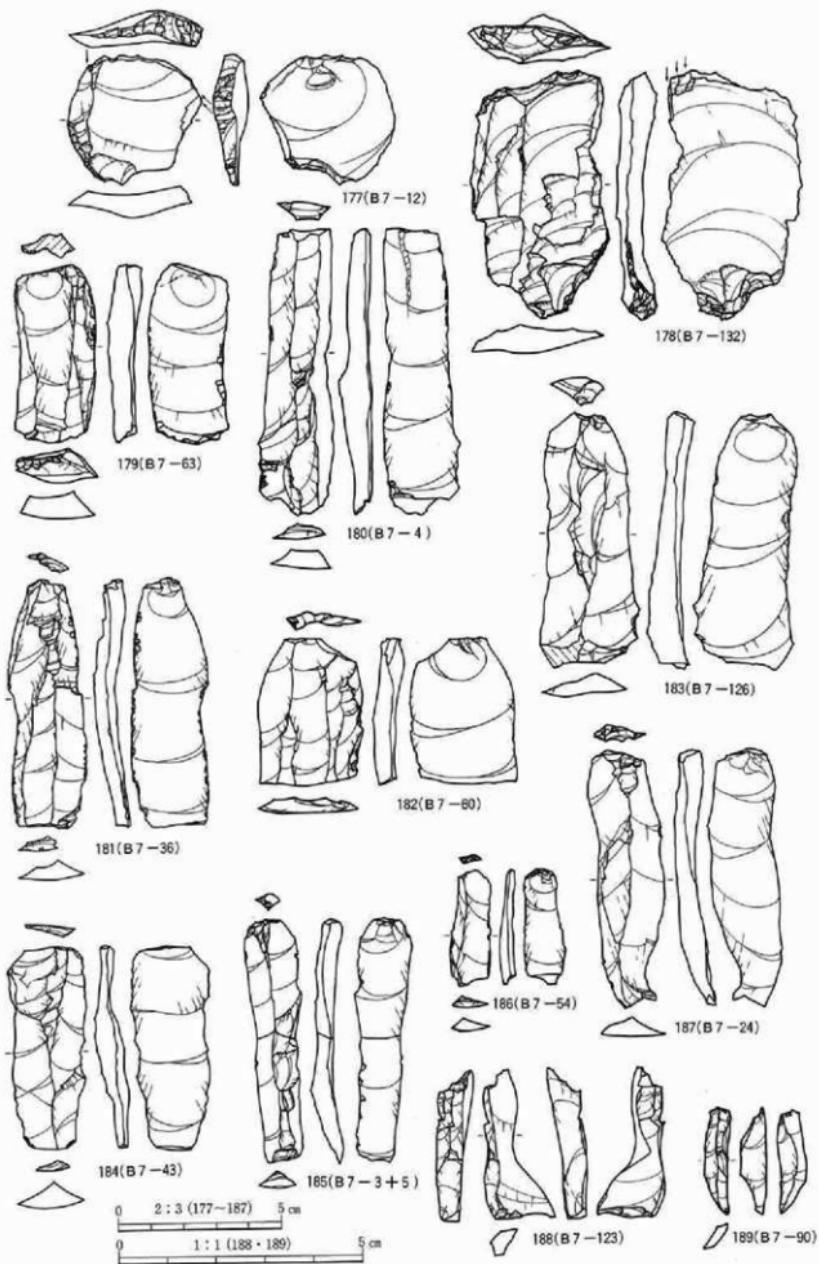


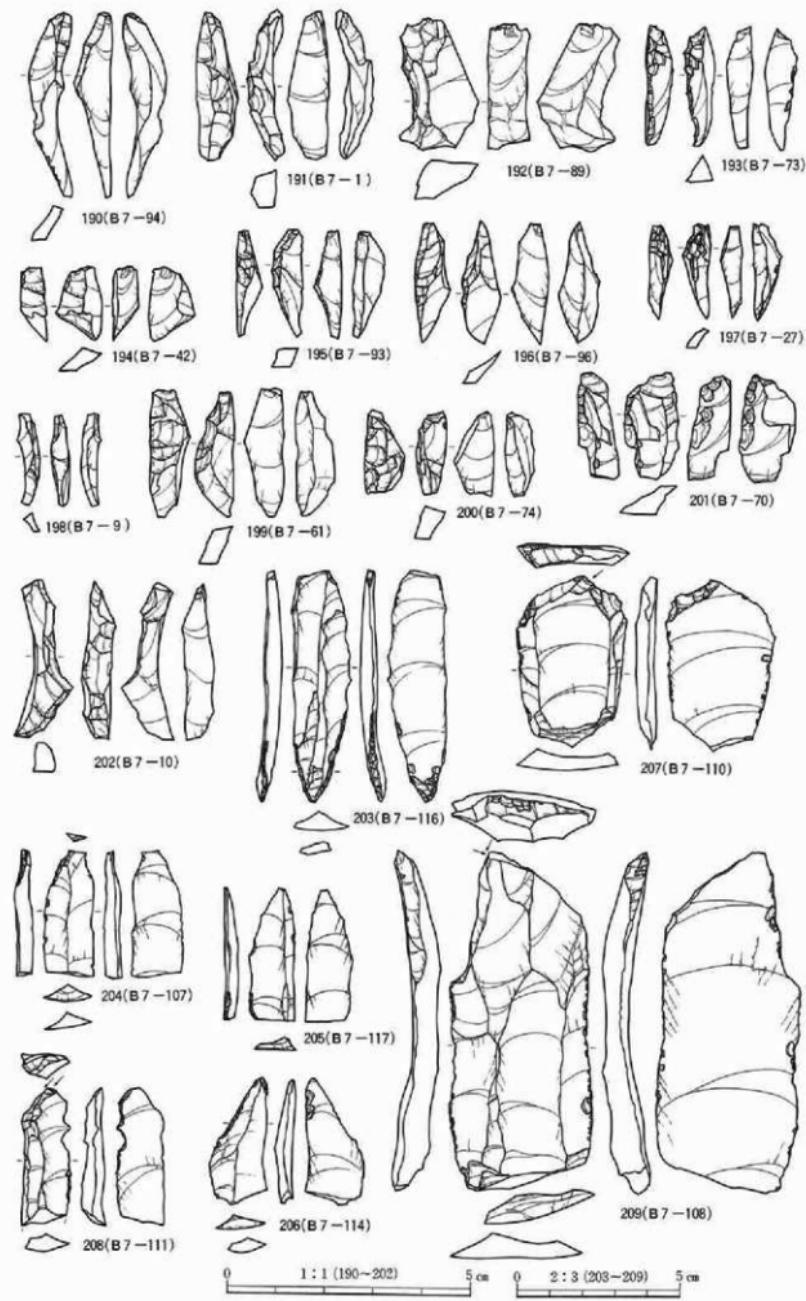


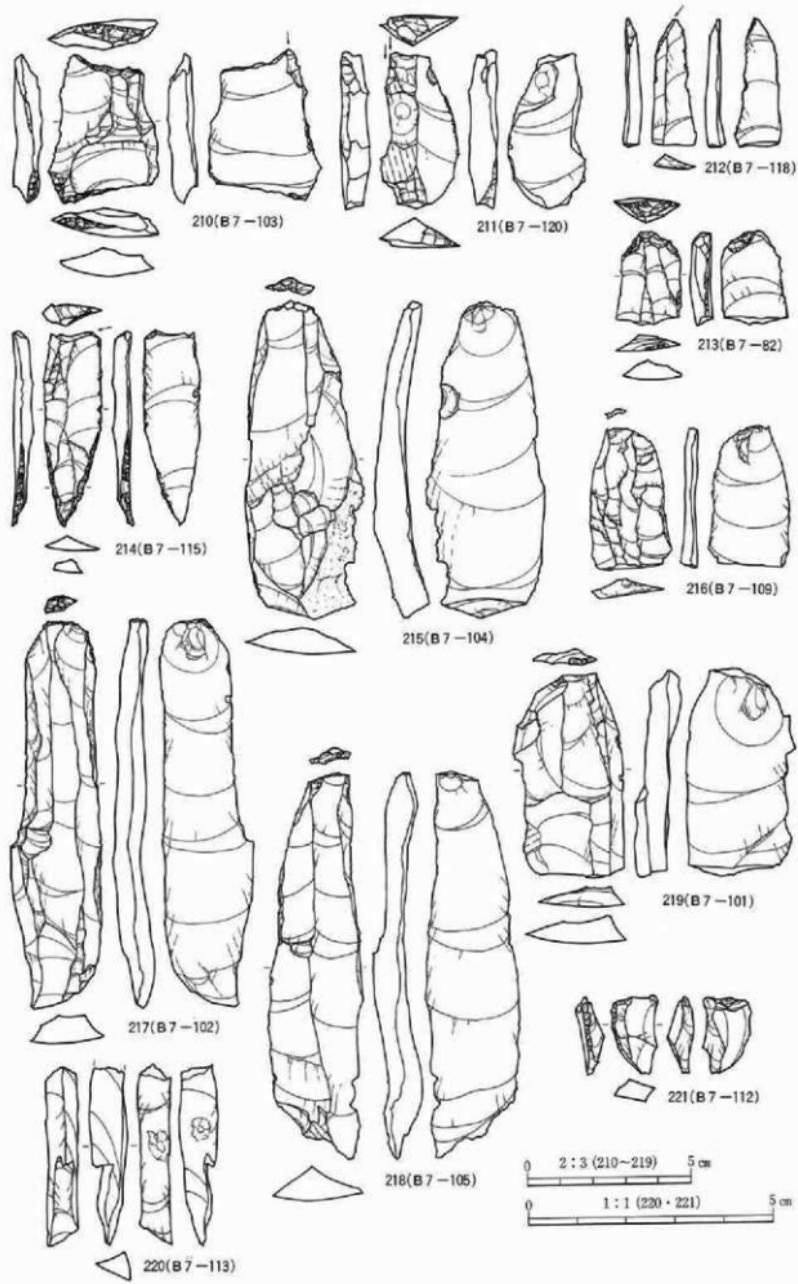


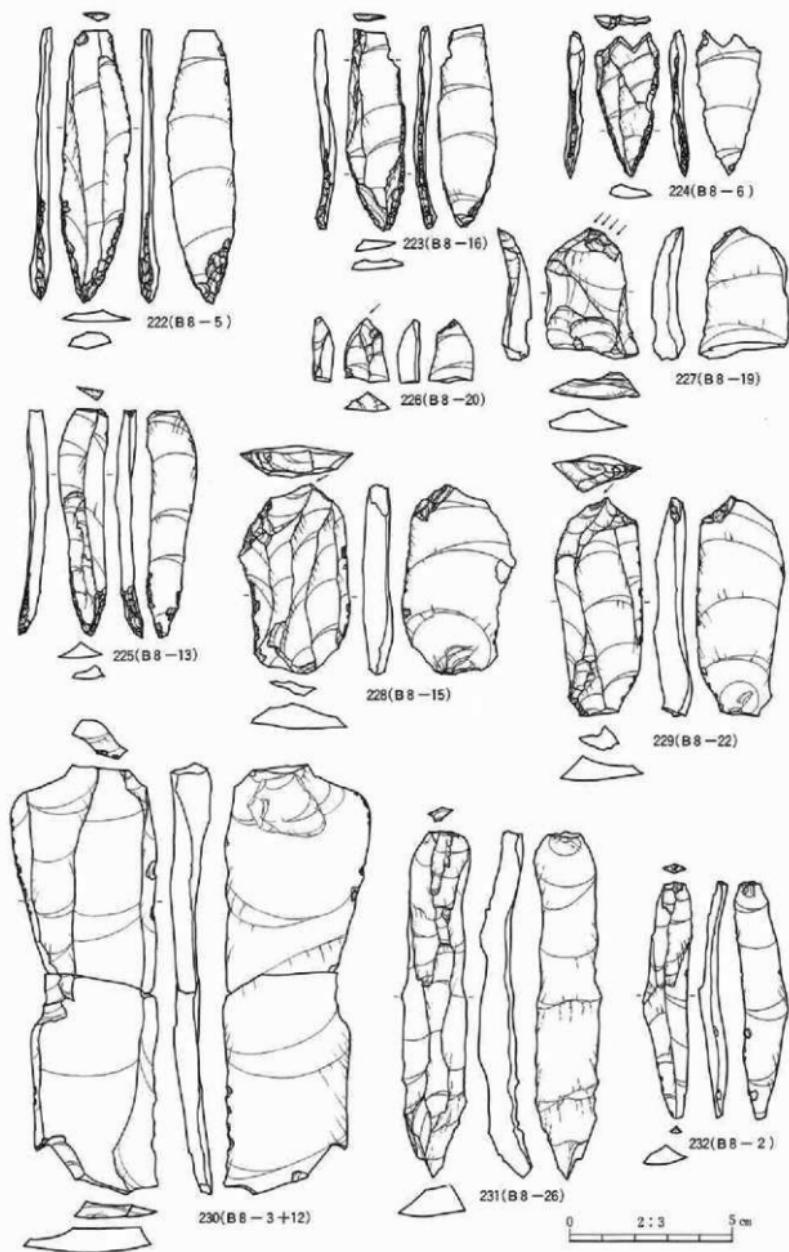


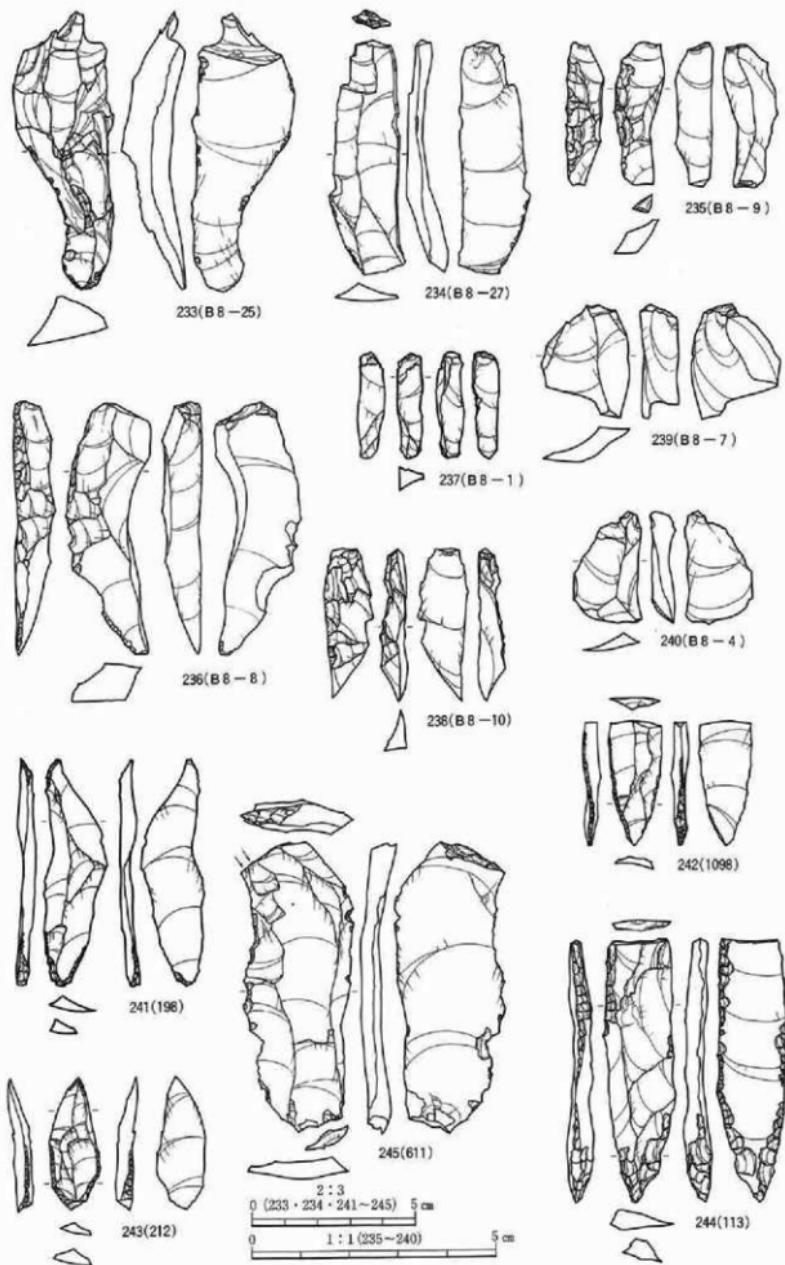


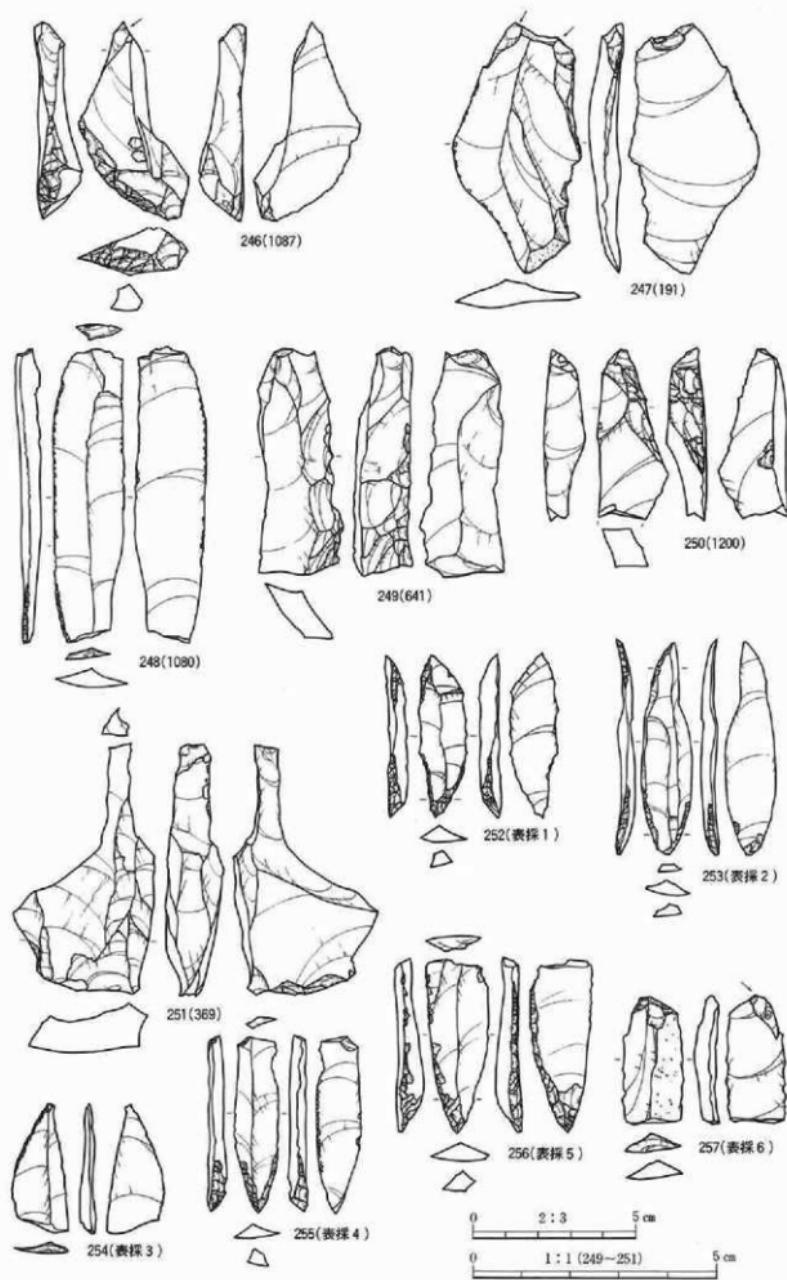


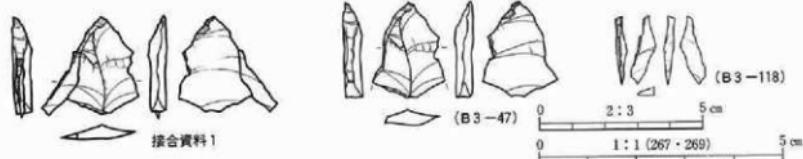
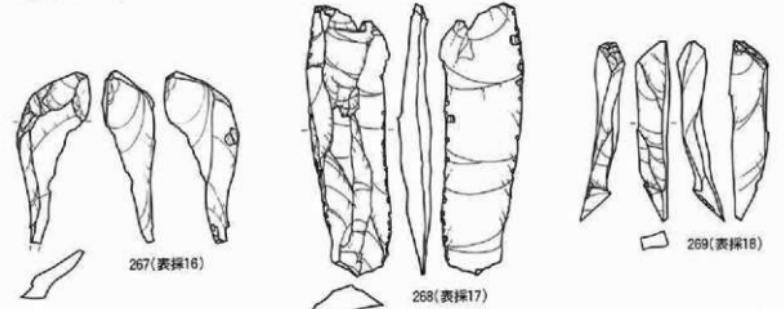
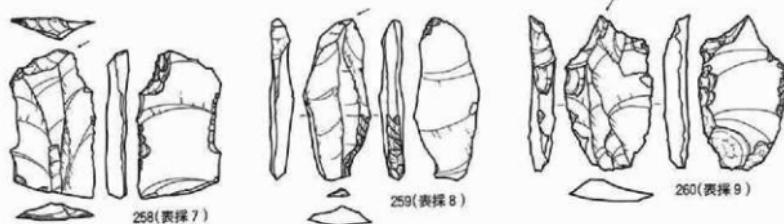




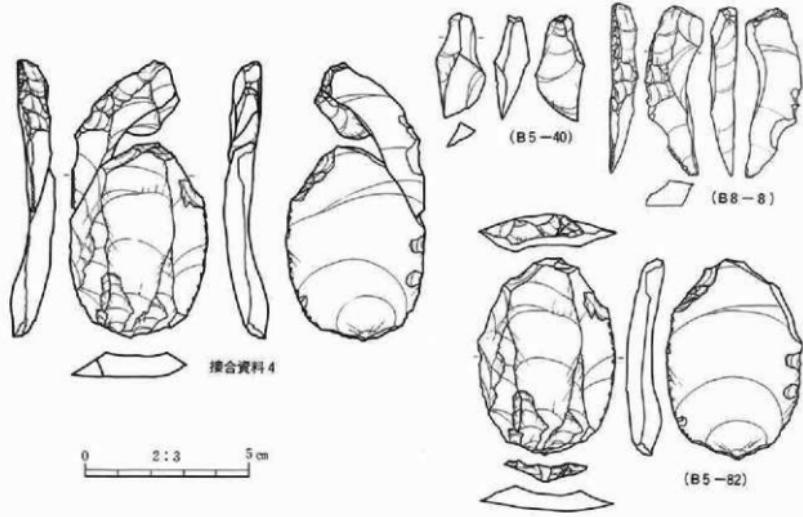
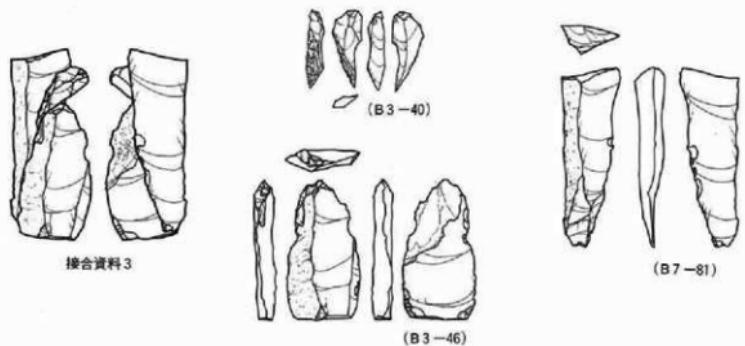
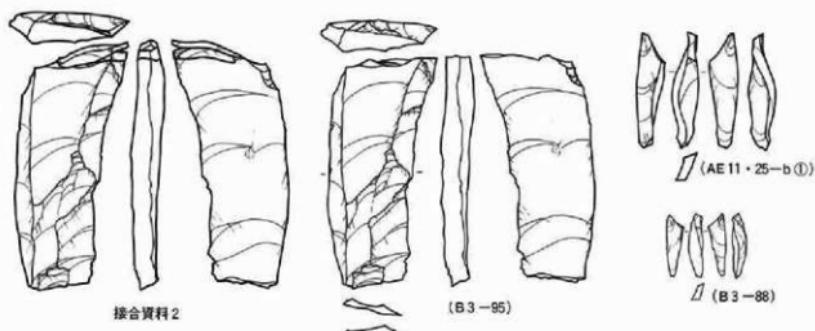


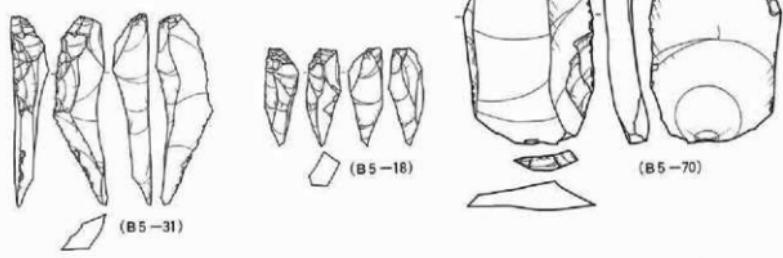
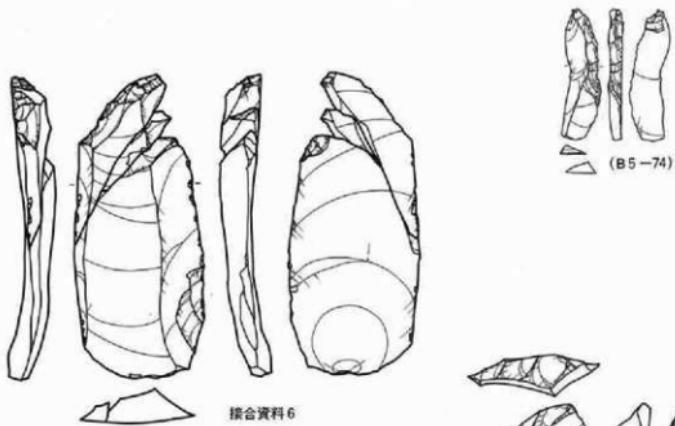
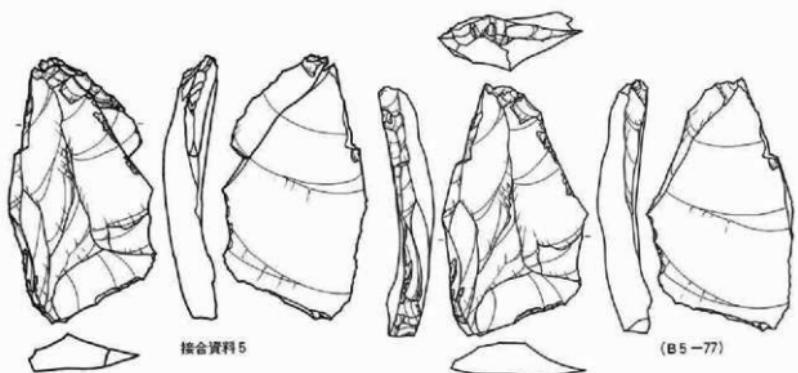




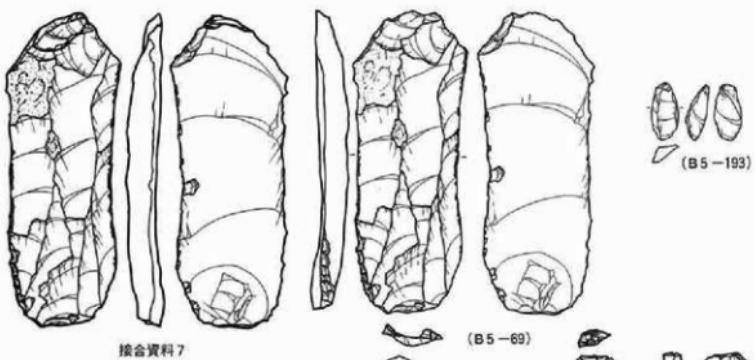


接合資料1

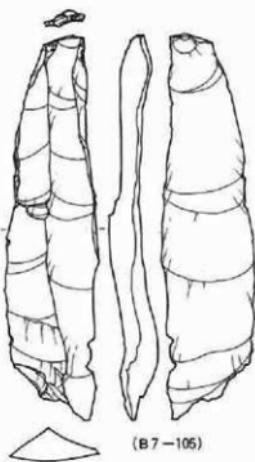
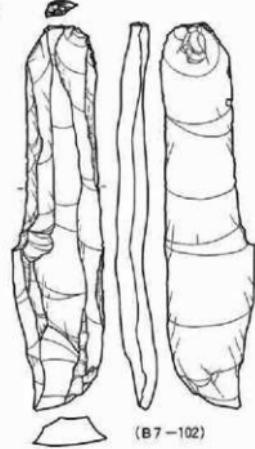
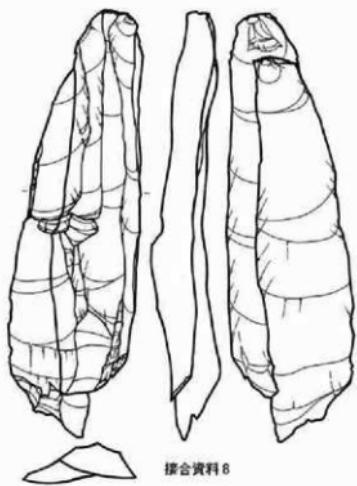




0 2 : 3 5 cm

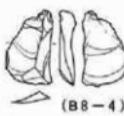
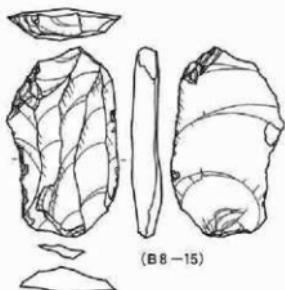
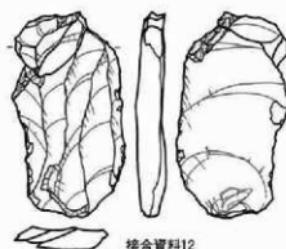
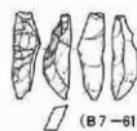
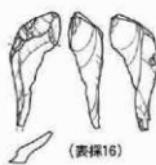
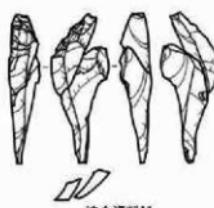
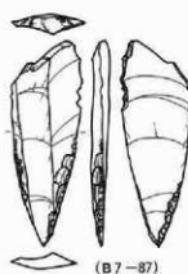
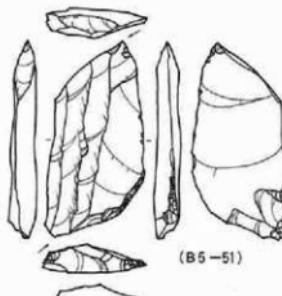
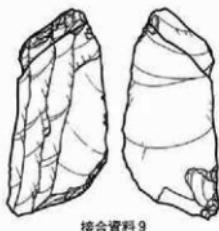


(B5-69)

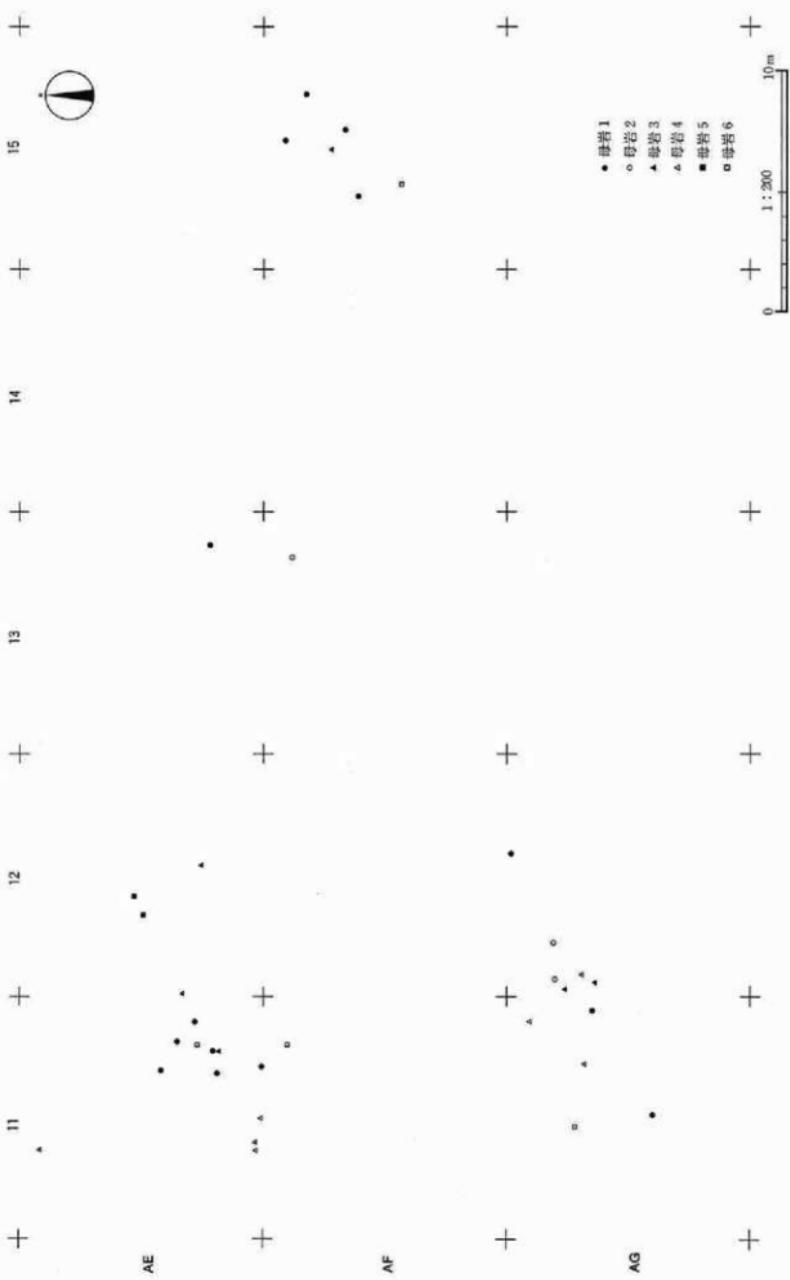


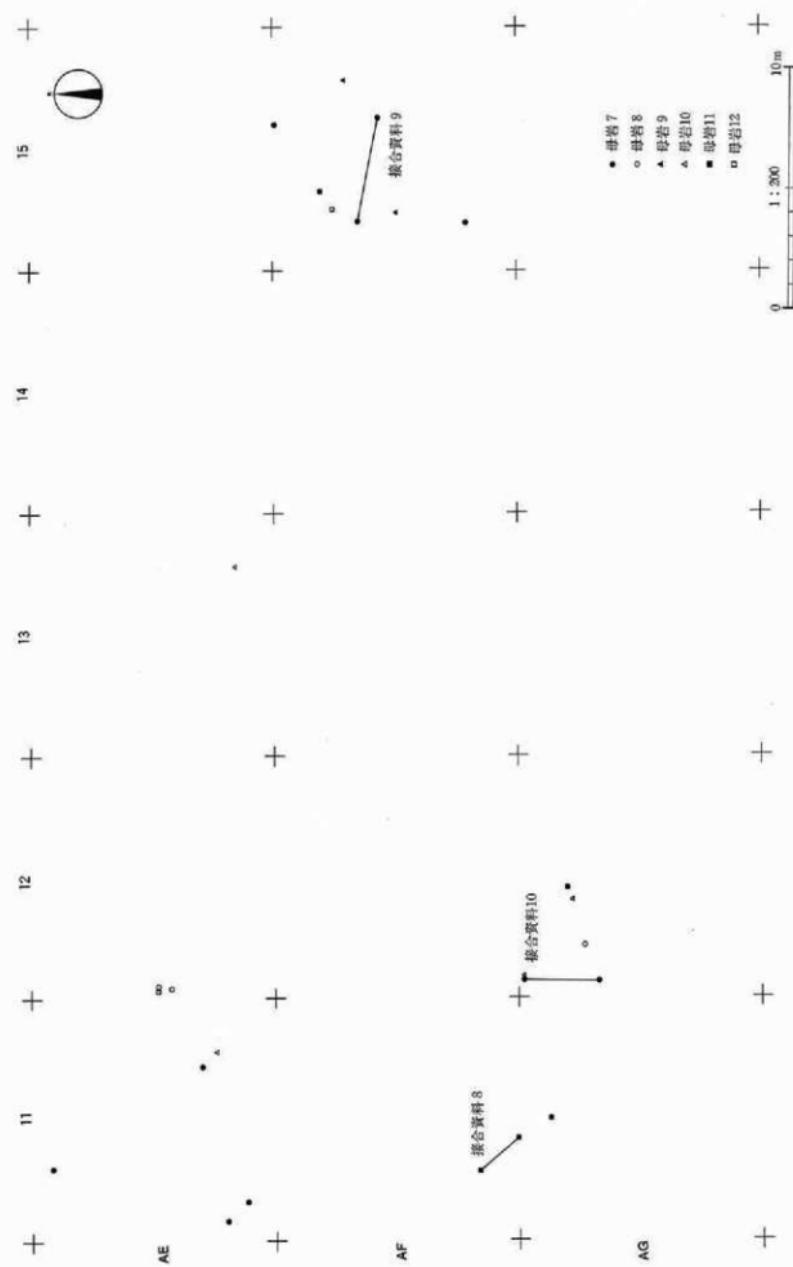
0 2:3 5 cm

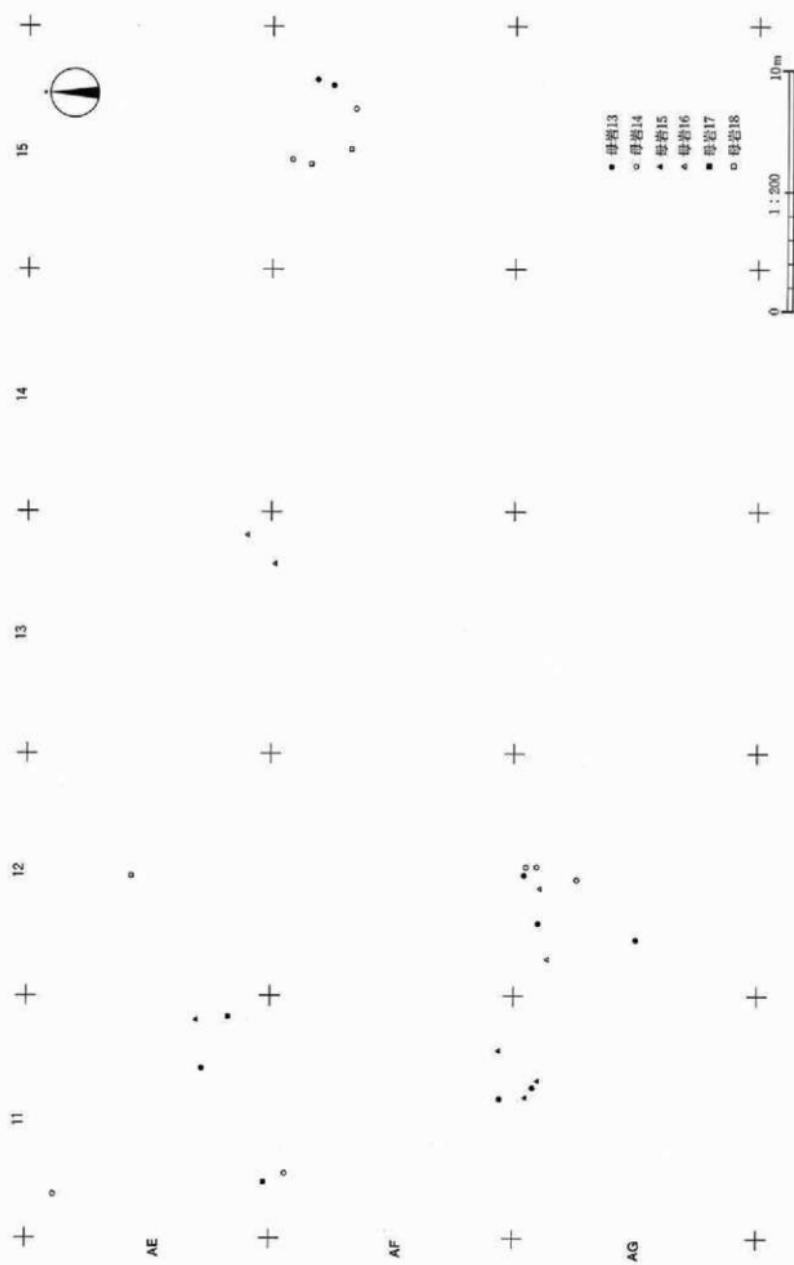


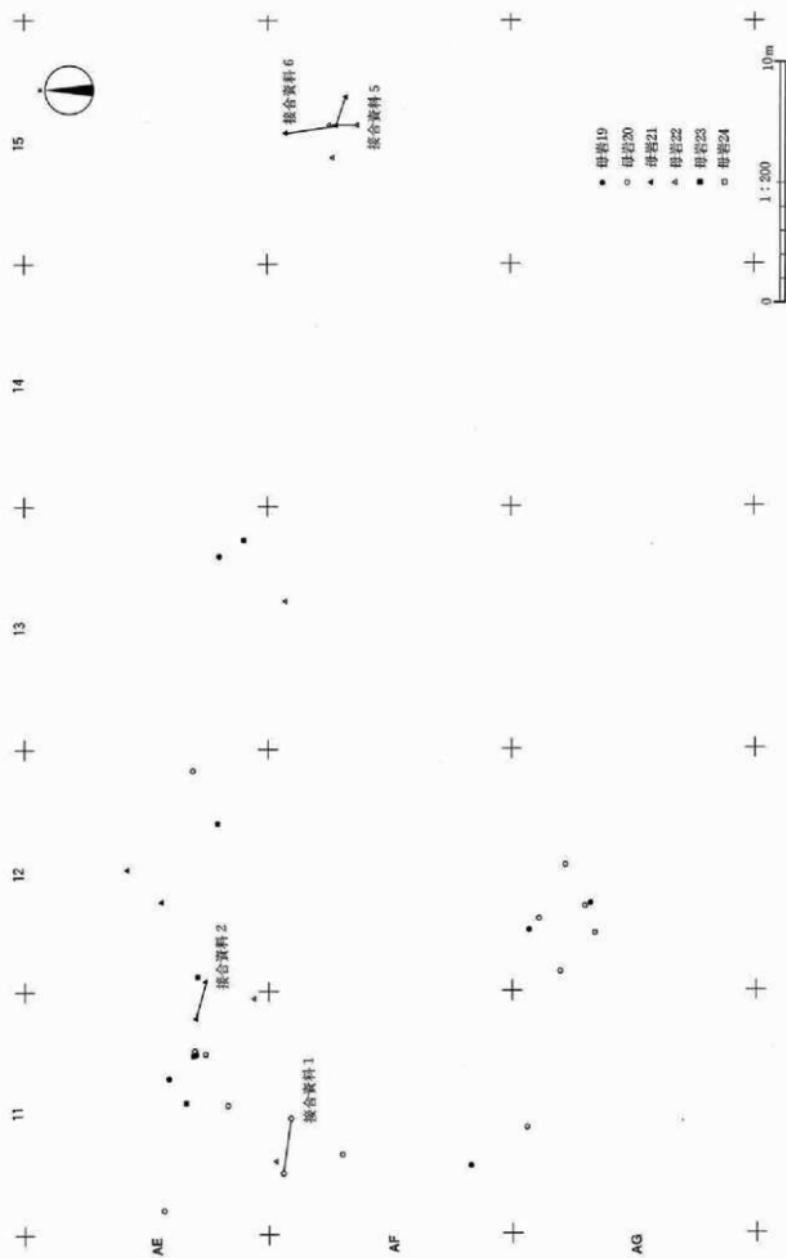


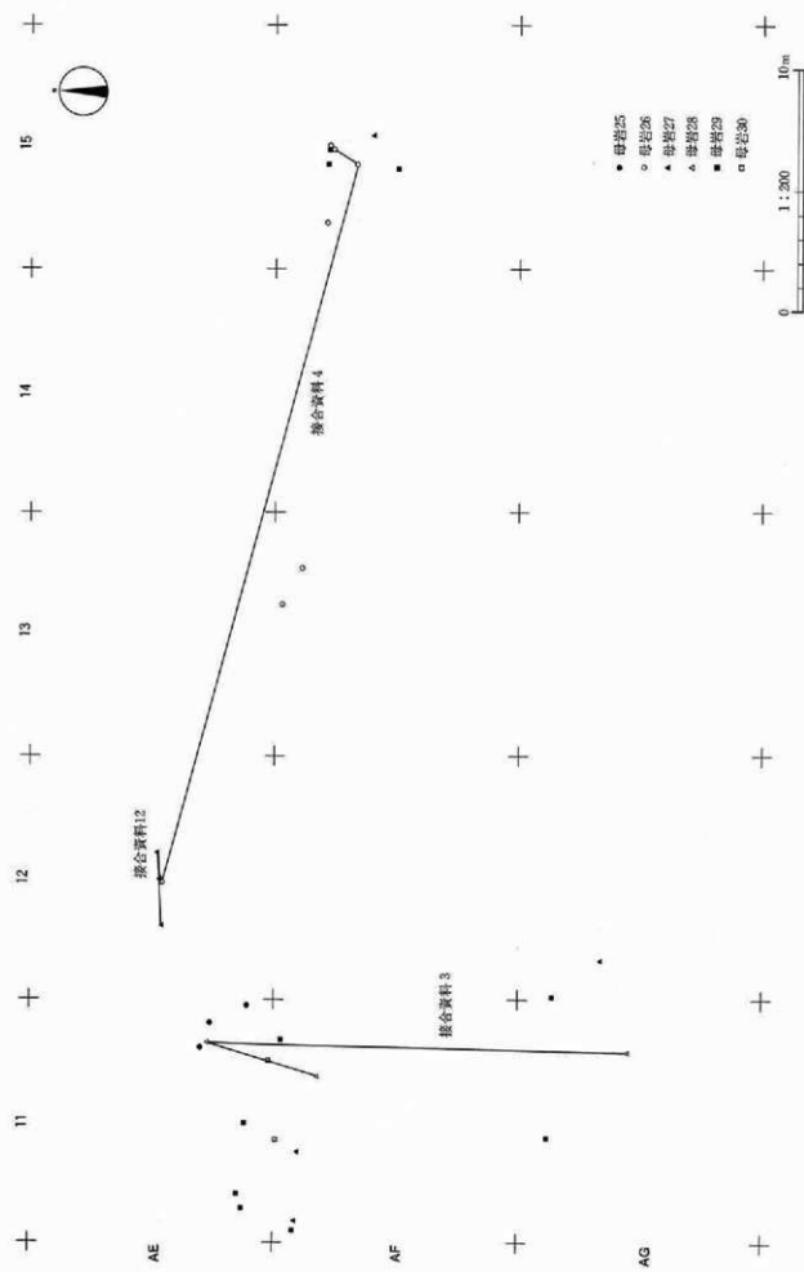
0 2:3 5 cm

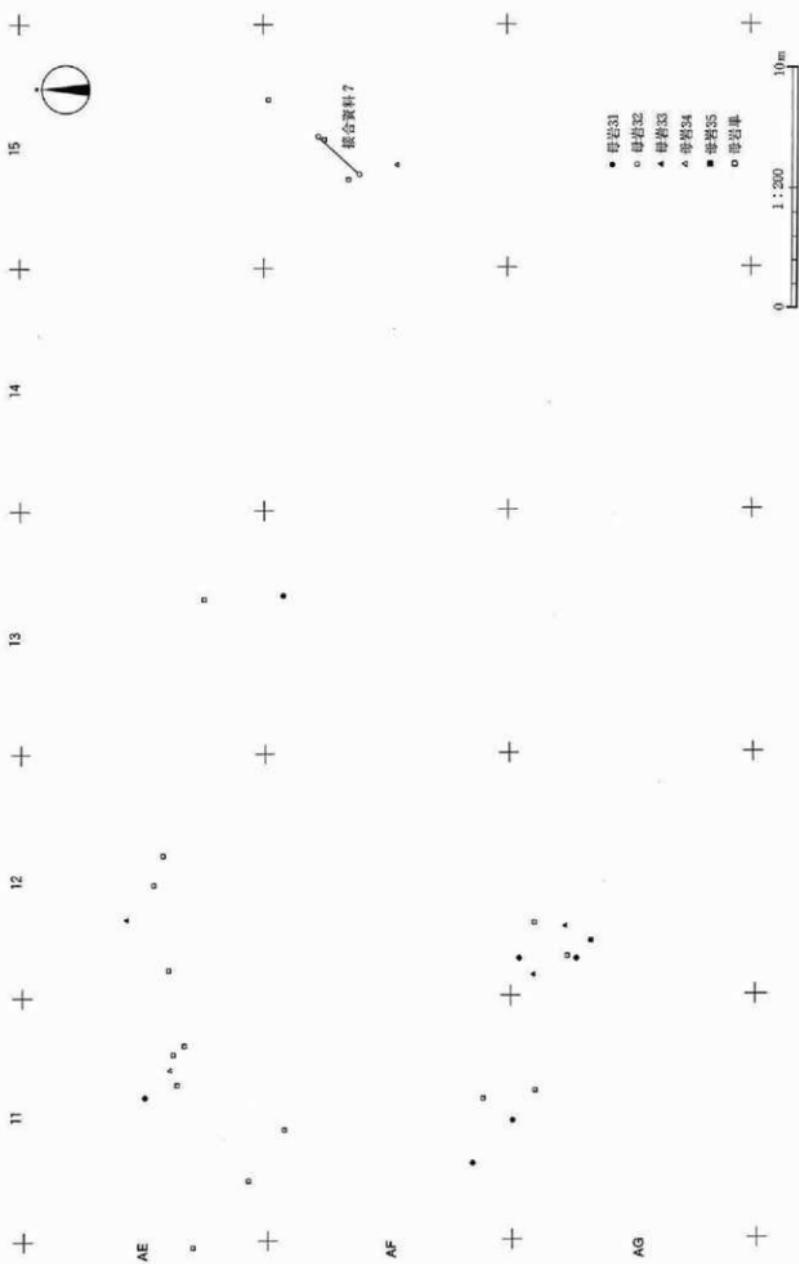


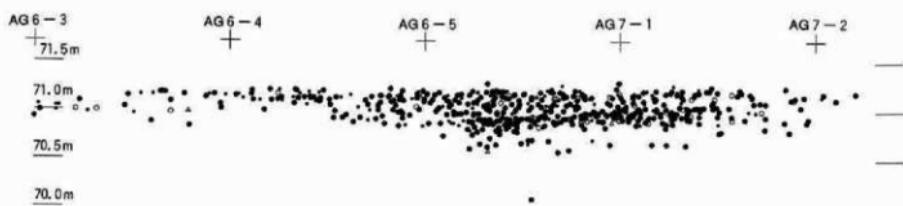
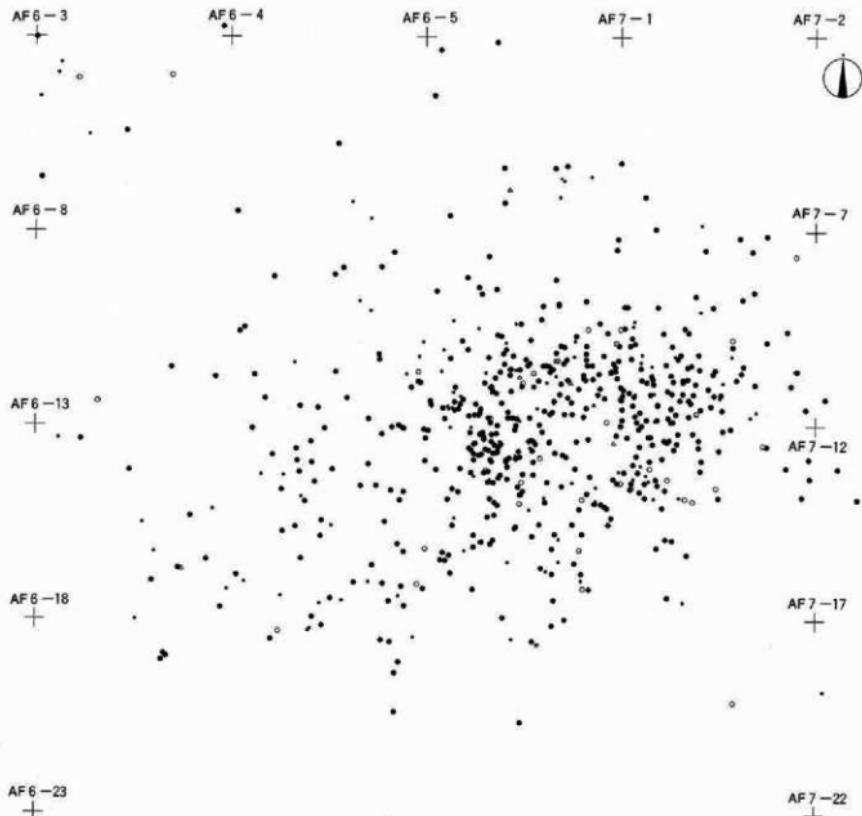






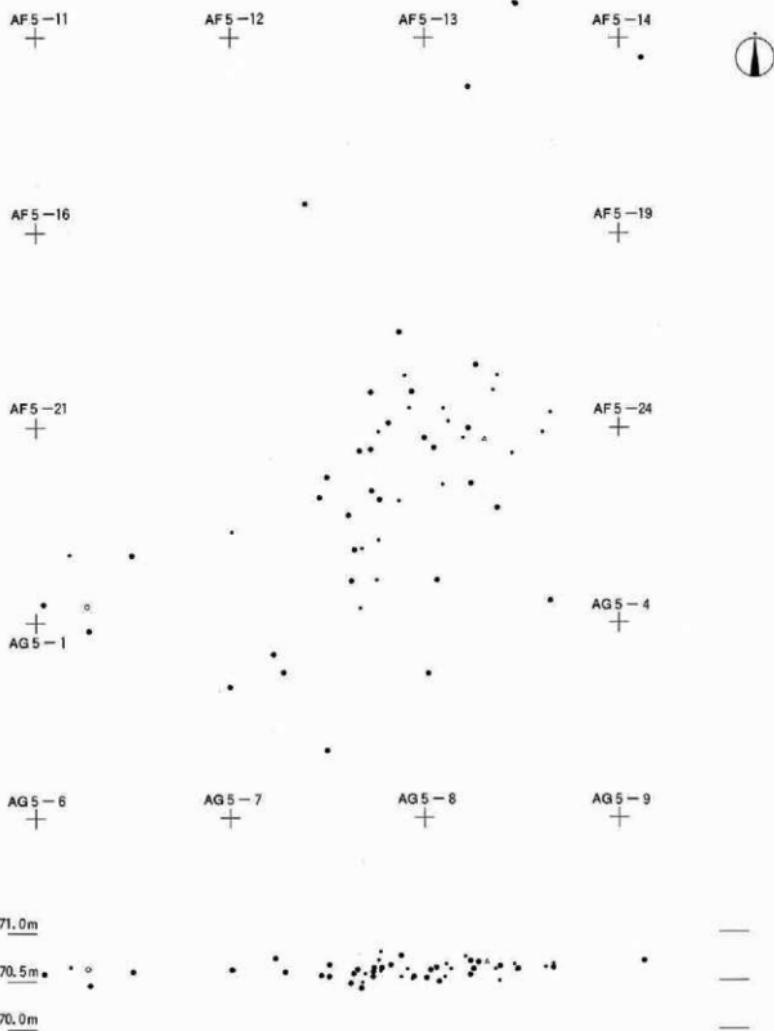






- 石刀
- 尖頭器
- ▲ 石核
- チップ
- その他のトゥール
- 磨
- 刺片

0 1 : 50 2 m



● 尖頭器
○ 石 刃
★ 石 核
■ 刻 片

◆ チップ
■ 刻 片

AH 11-3



AH 11-4



AH 11-5



AH 11-8



AH 11-10



AH 11-13



AH 11-14



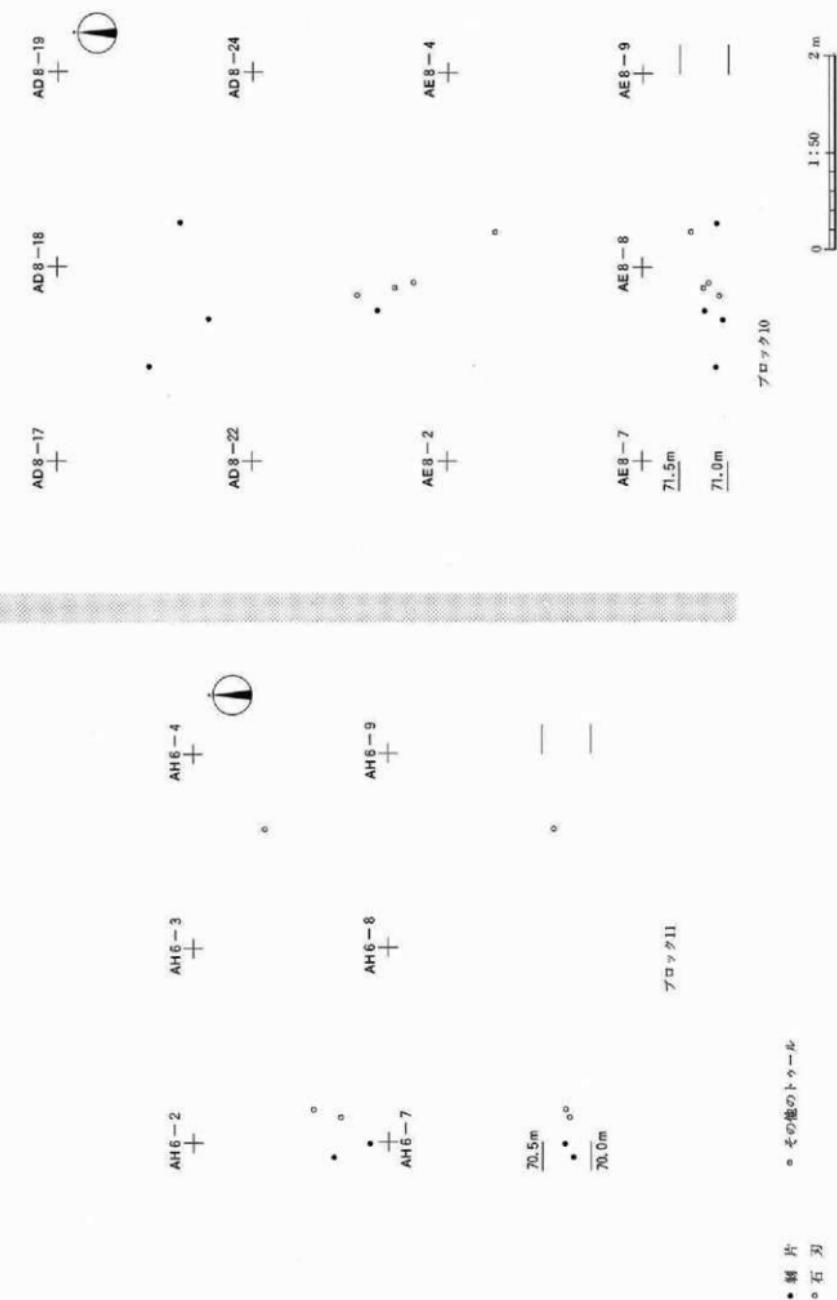
AH 11-15

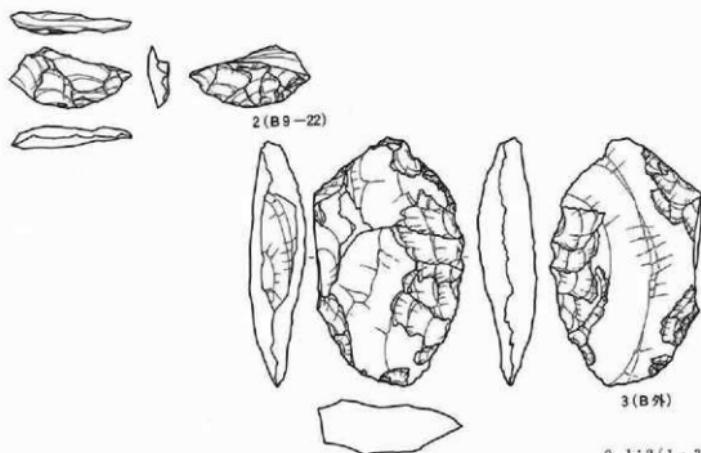
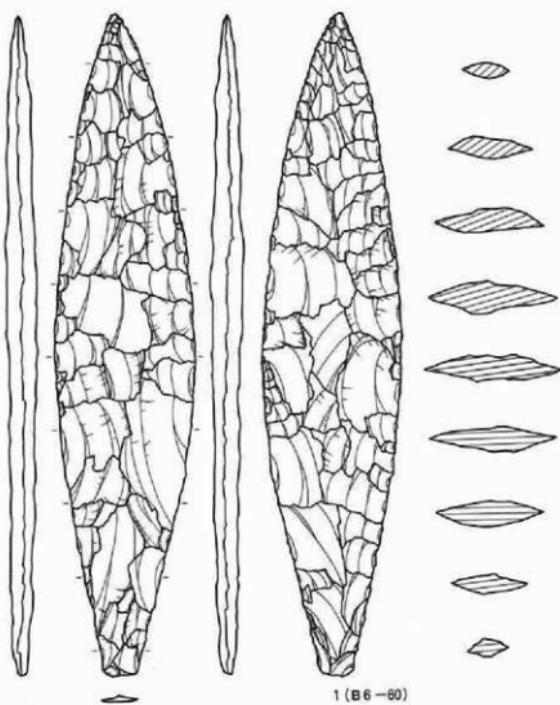
71.5m71.0m70.5m

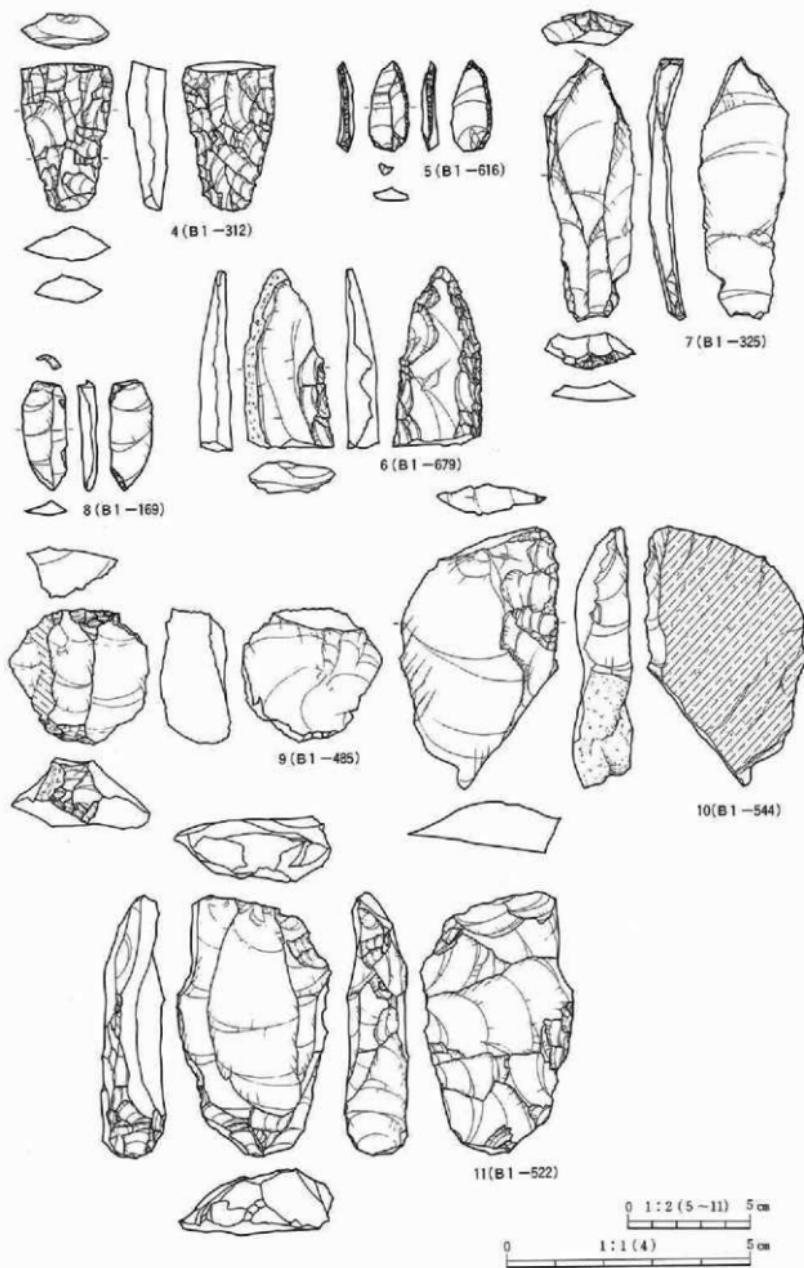
- チップ
- 刺 片

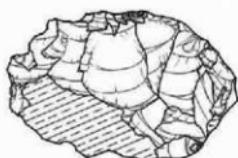
- 尖頭器
- 瓦

0 1 : 50 2 m

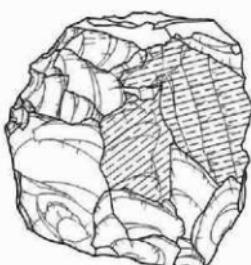
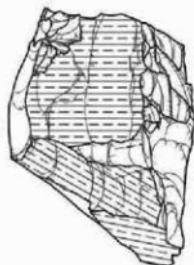
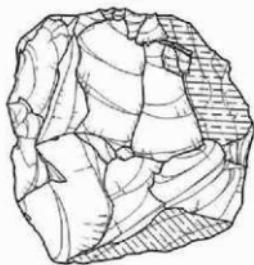




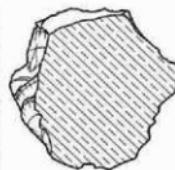




12(B1-533)



13(B1-541)

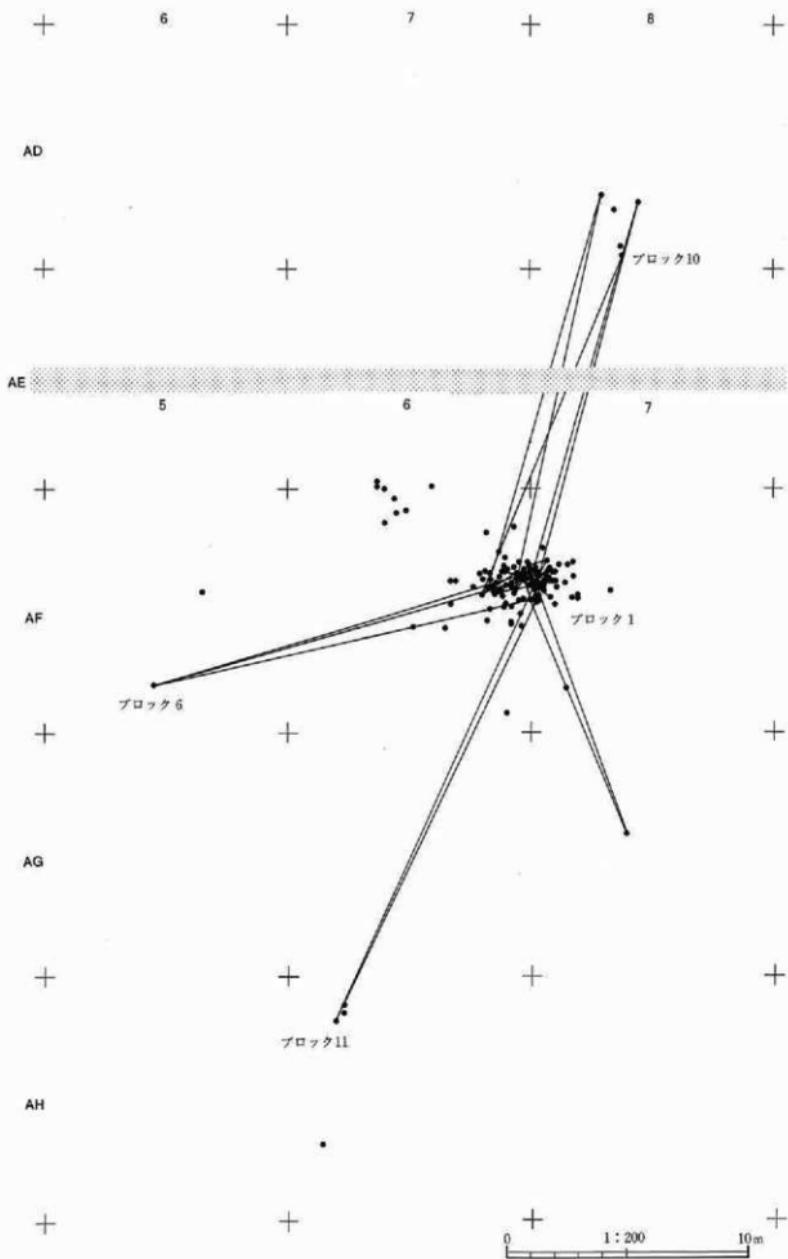


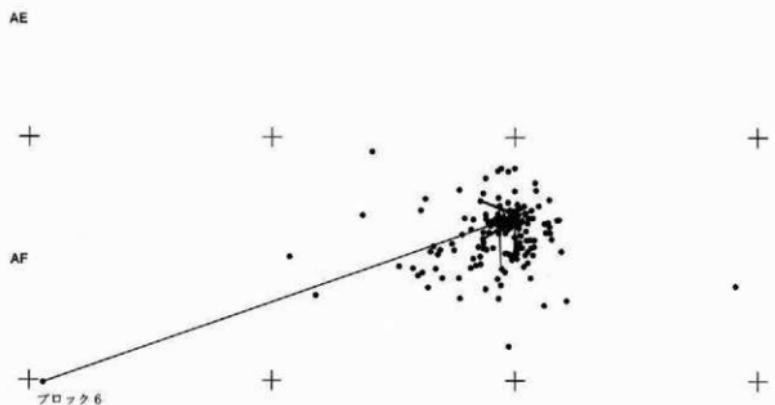
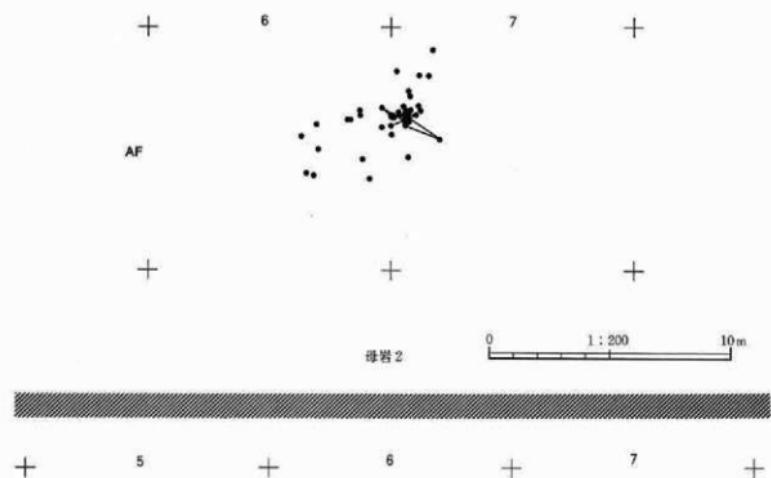
14(B1-632)

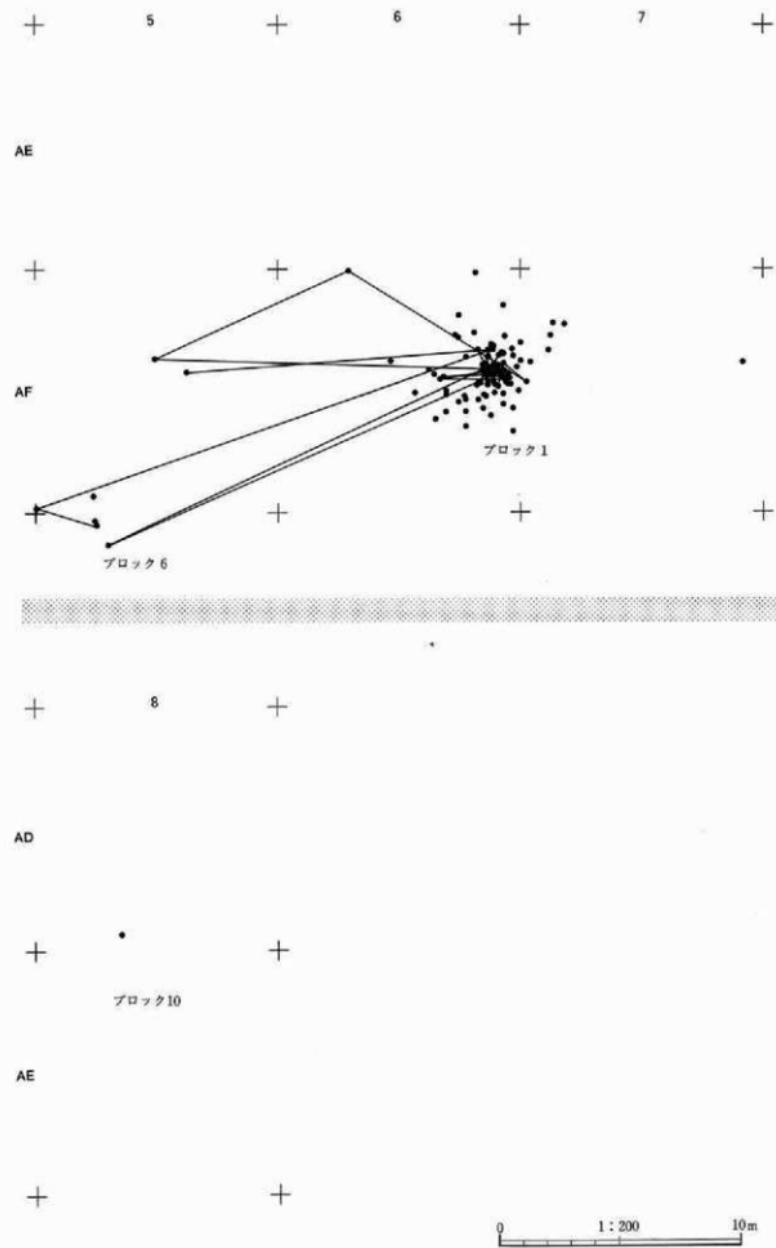


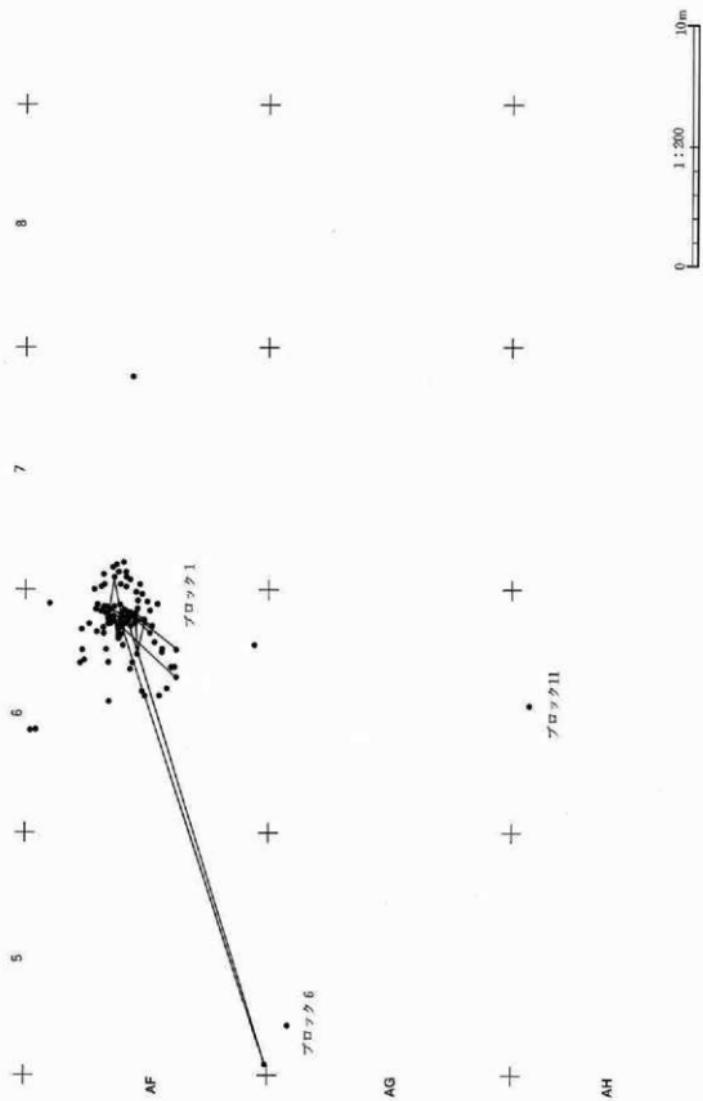
15(B6-34)

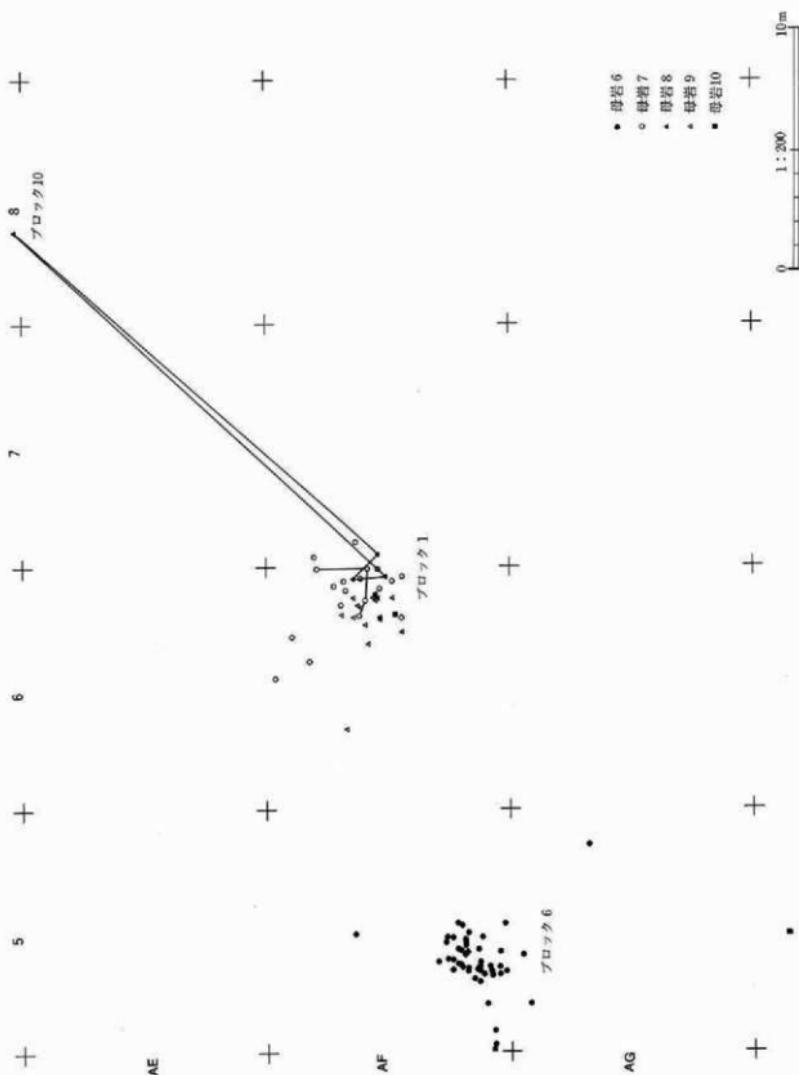
0 1 : 2 5 cm

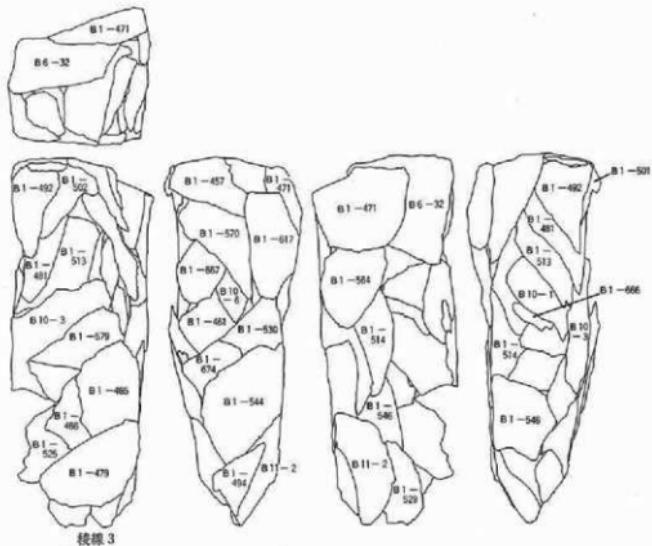










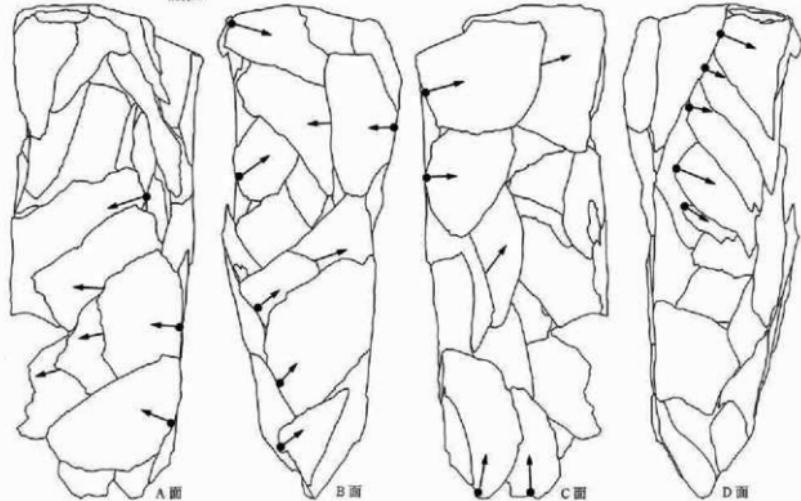


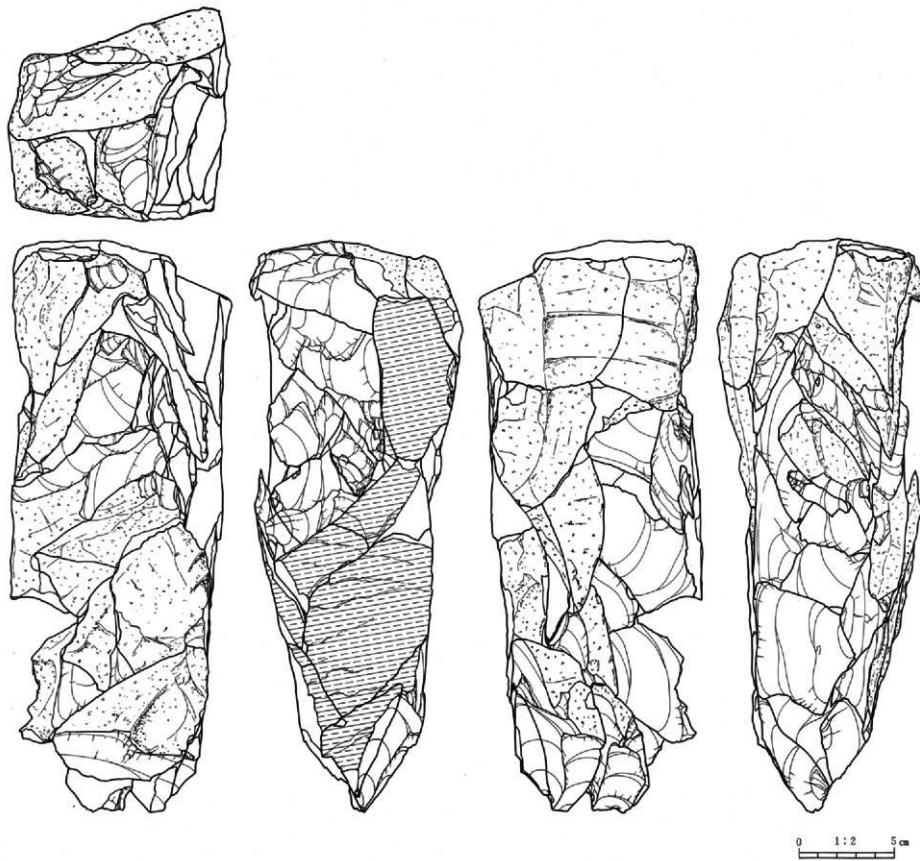
株標 3



後線 1

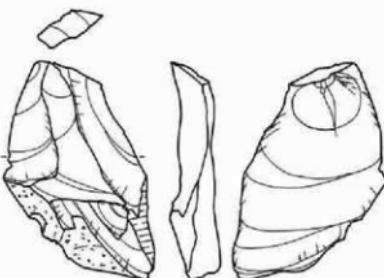
後線 2



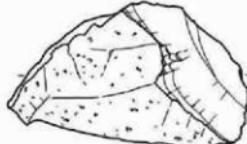




16(B1-494)



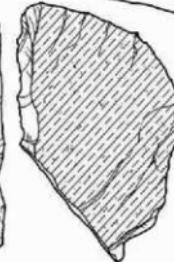
17(B11-2)



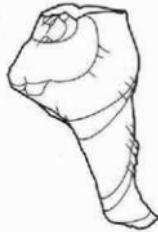
18(B1-479)



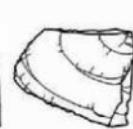
19(B1-465)



20(B1-544)

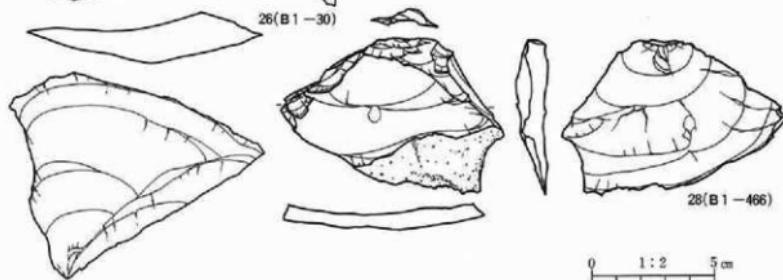
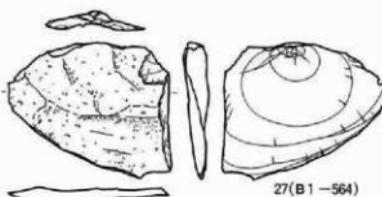
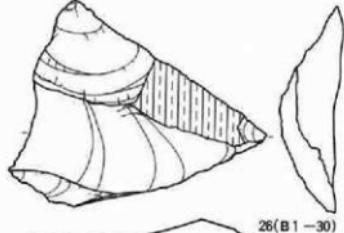
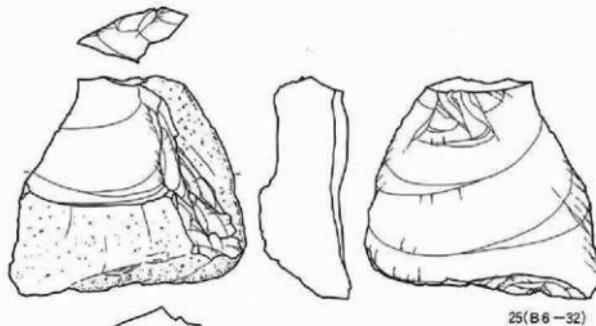
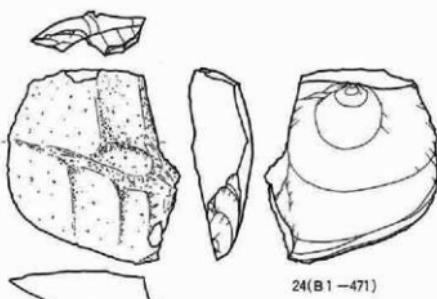
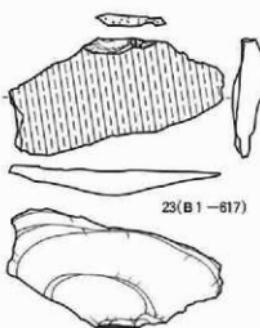


22(B1-457)

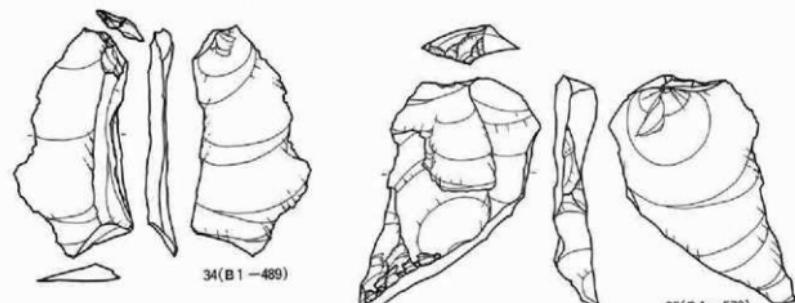
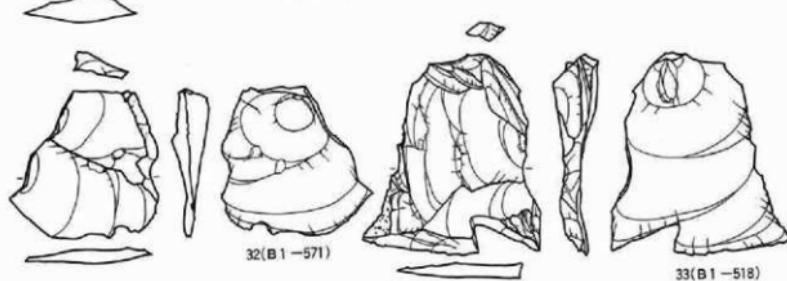
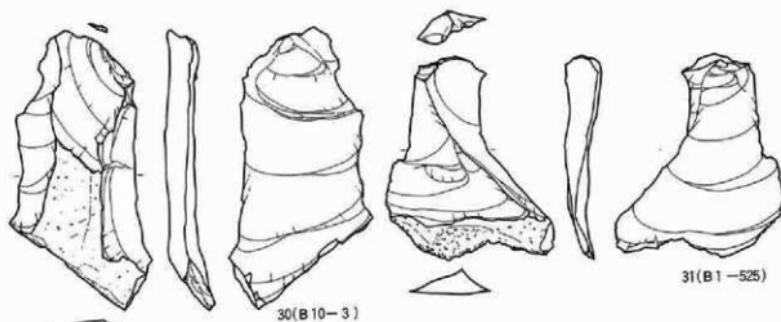
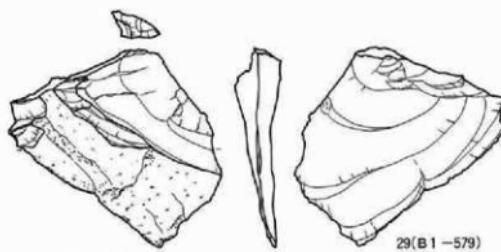


21(B1-674)

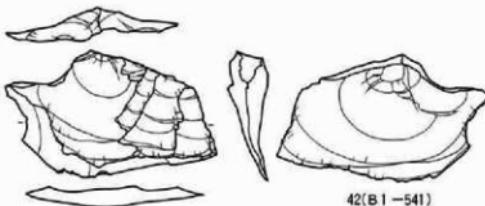
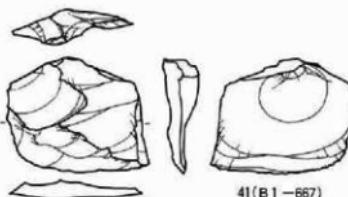
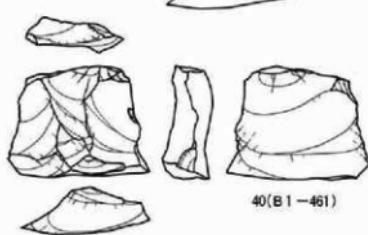
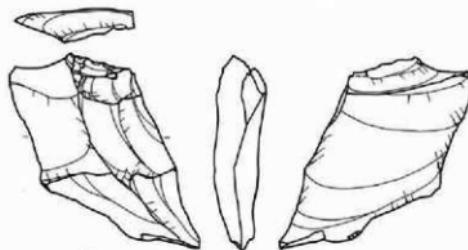
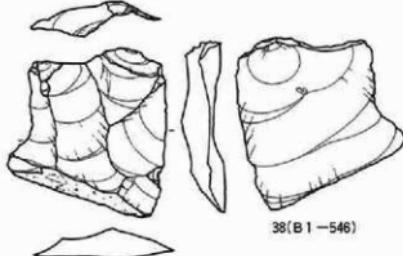
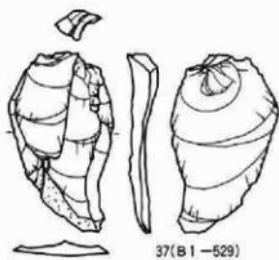
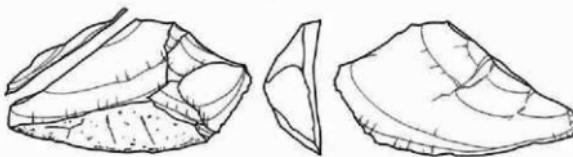




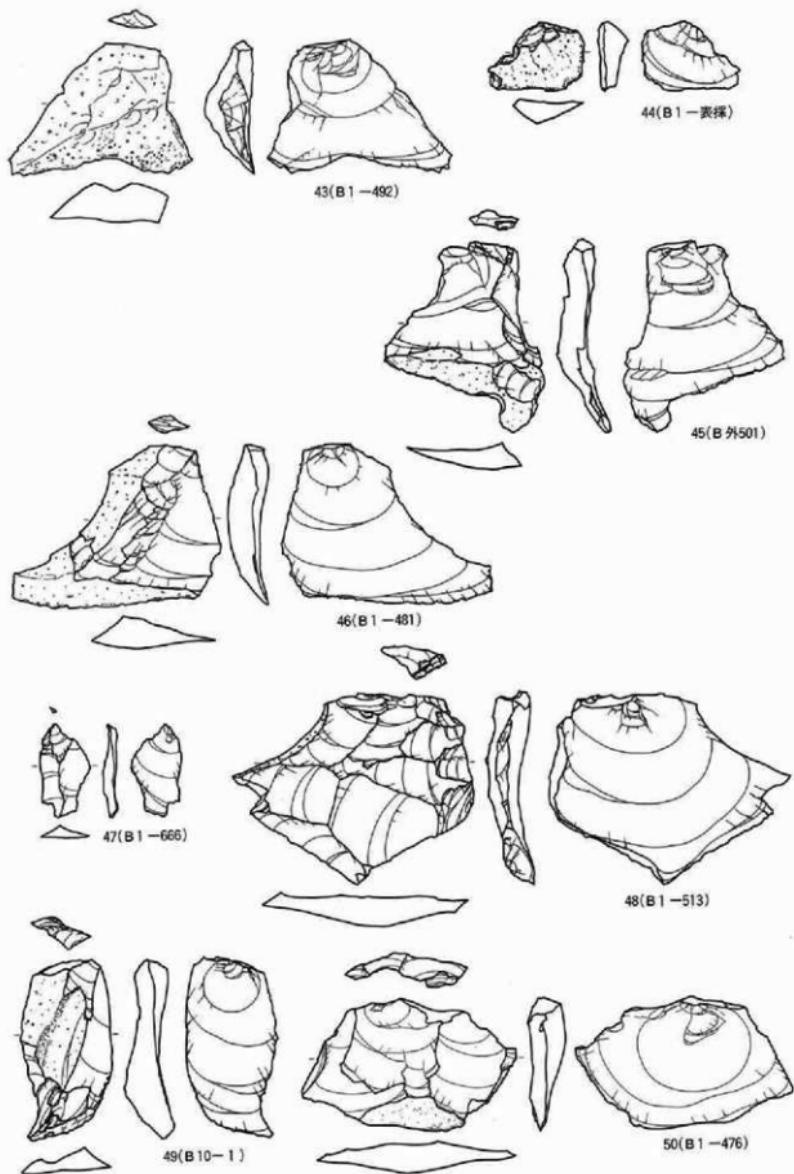
0 1:2 5cm



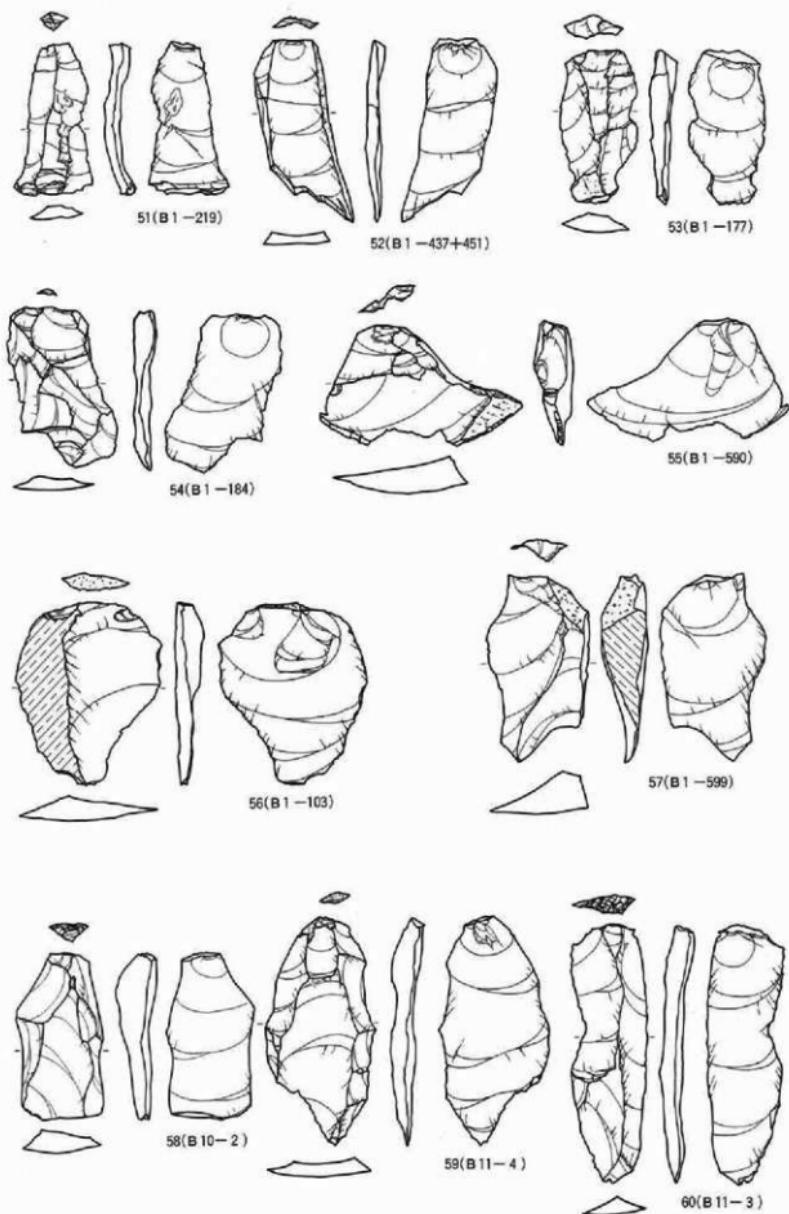
0 1:2 5cm

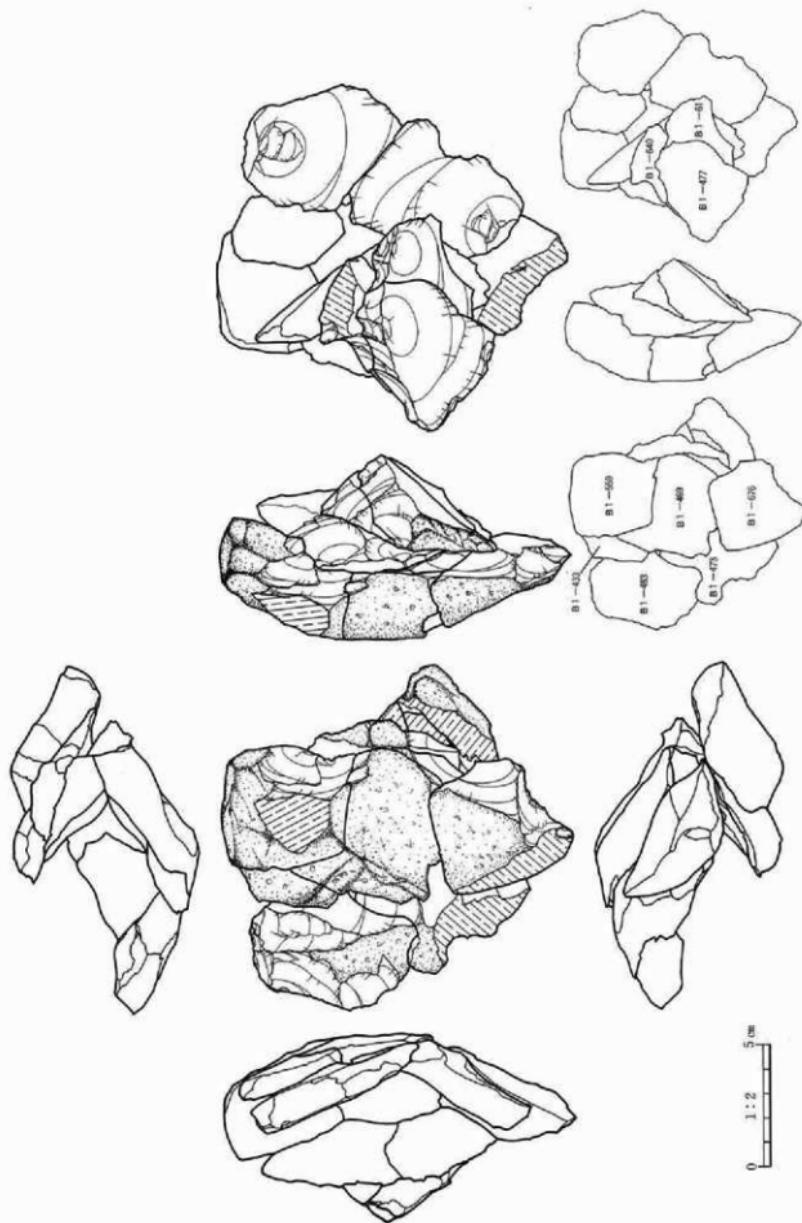


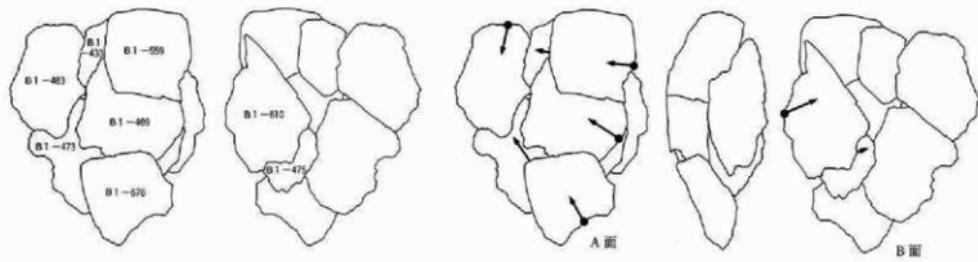
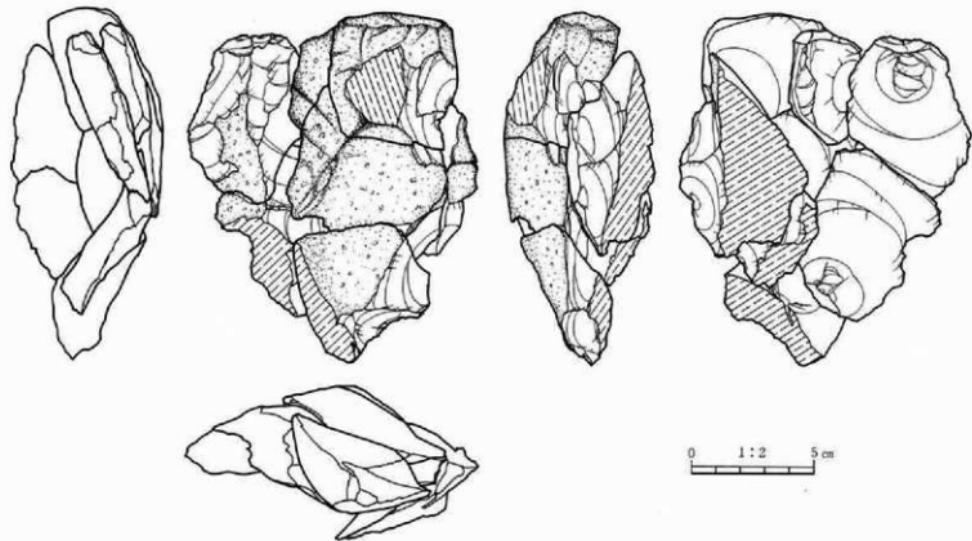
0 1:2 5cm

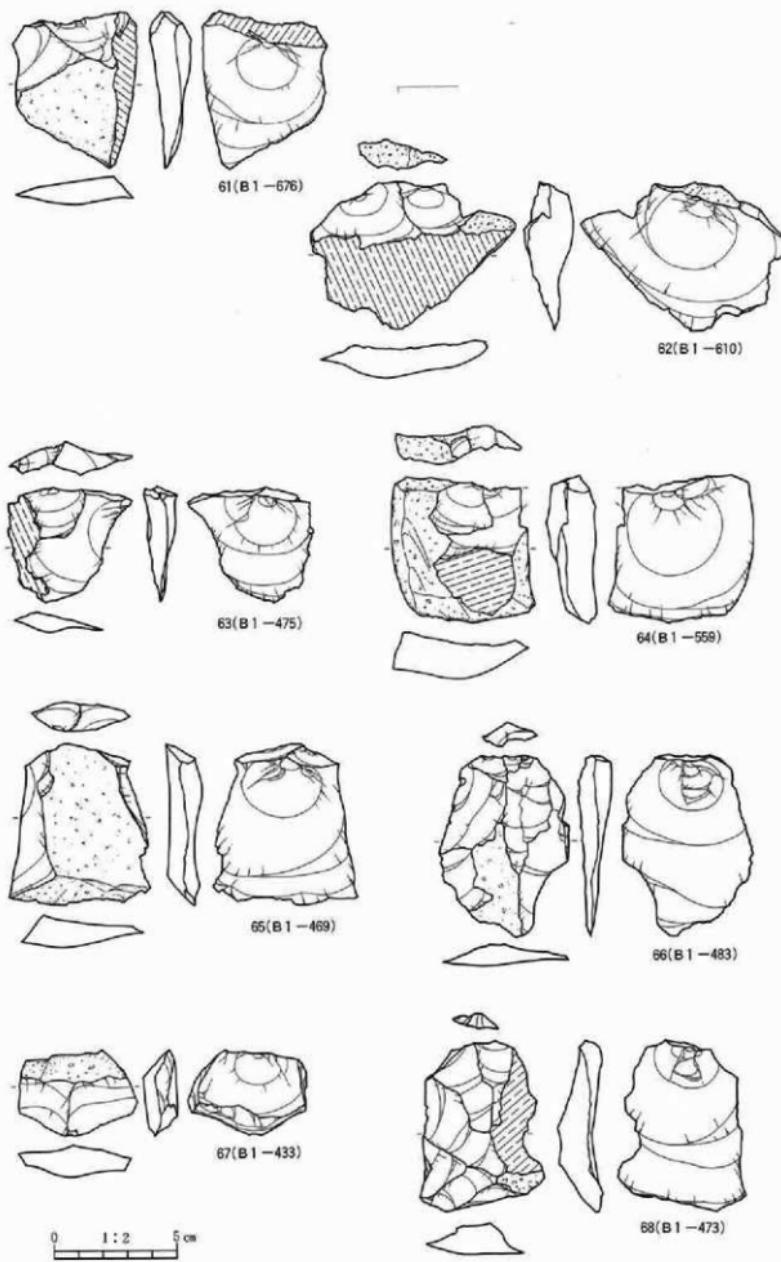


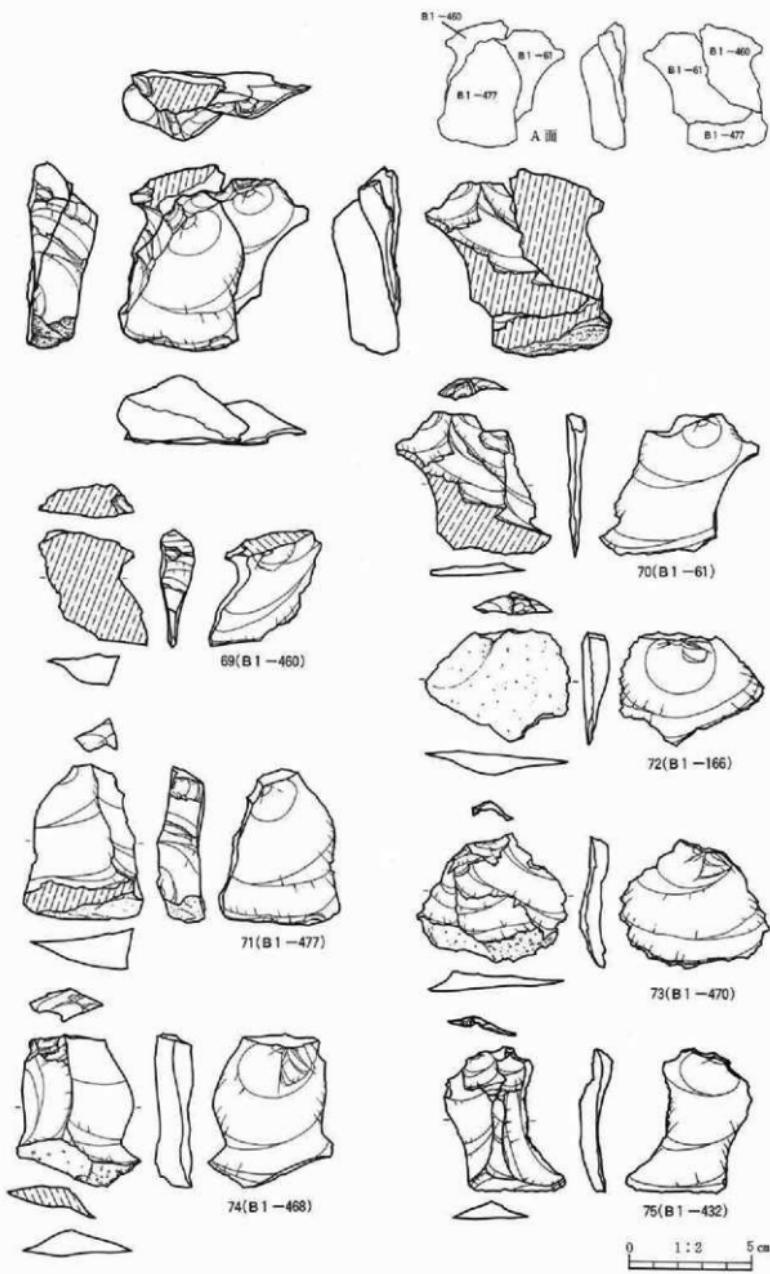
0 1:2 5 cm

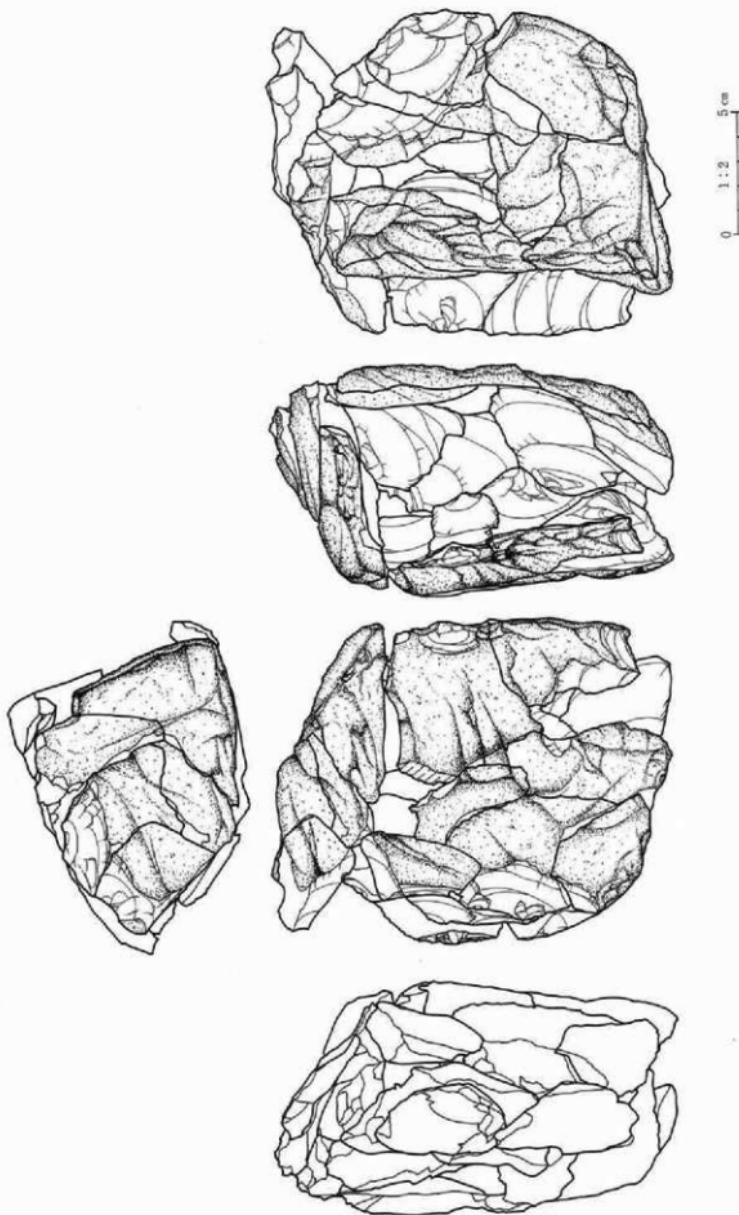


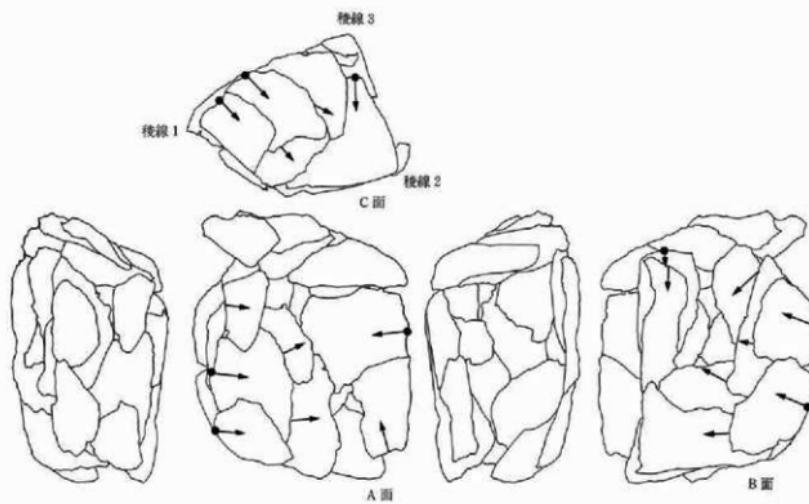
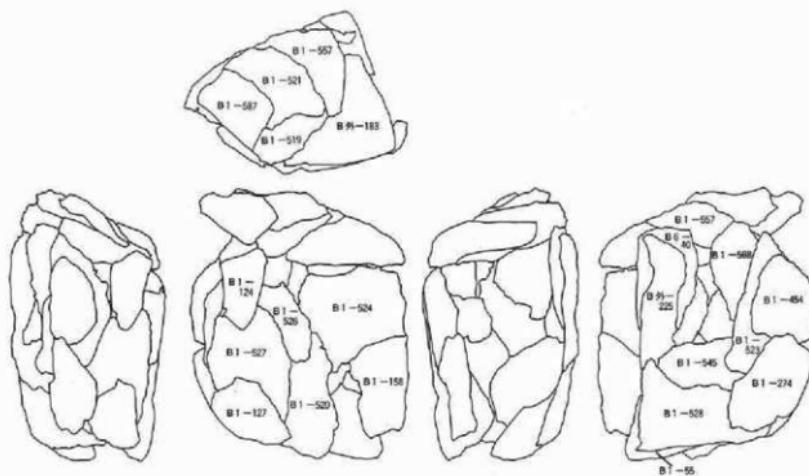


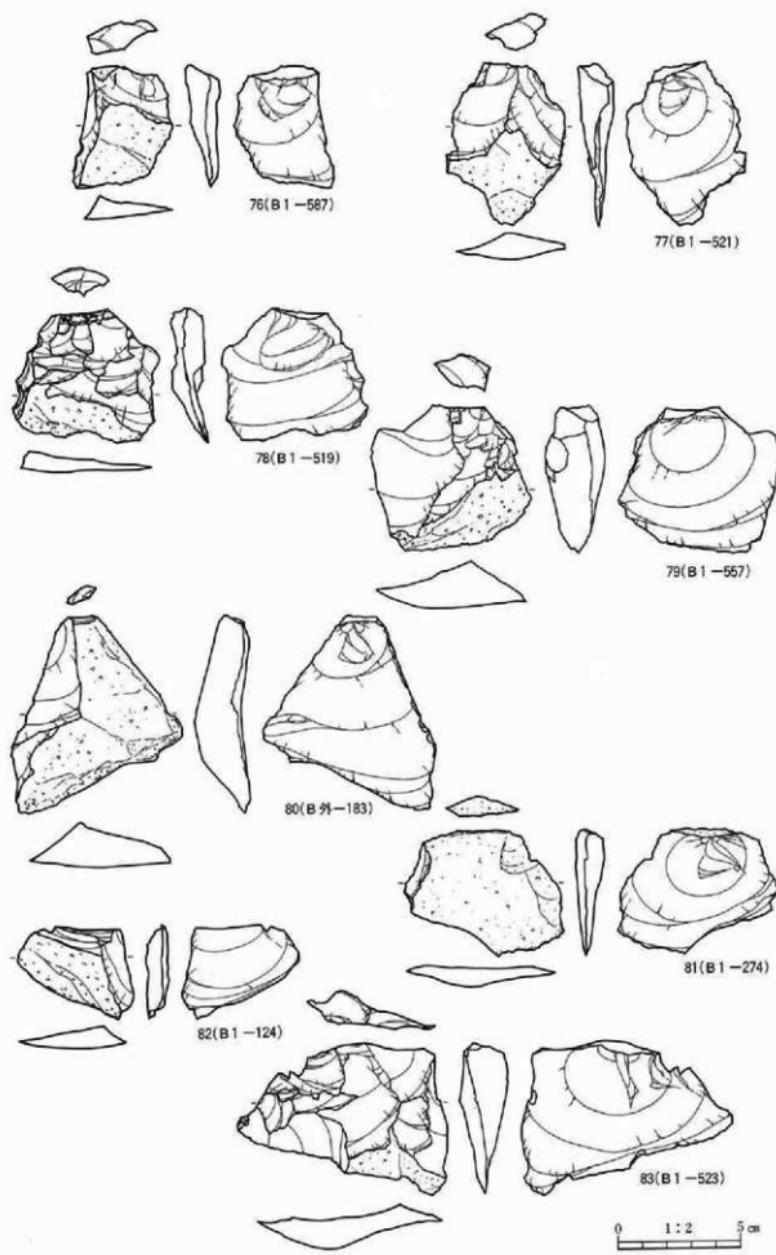


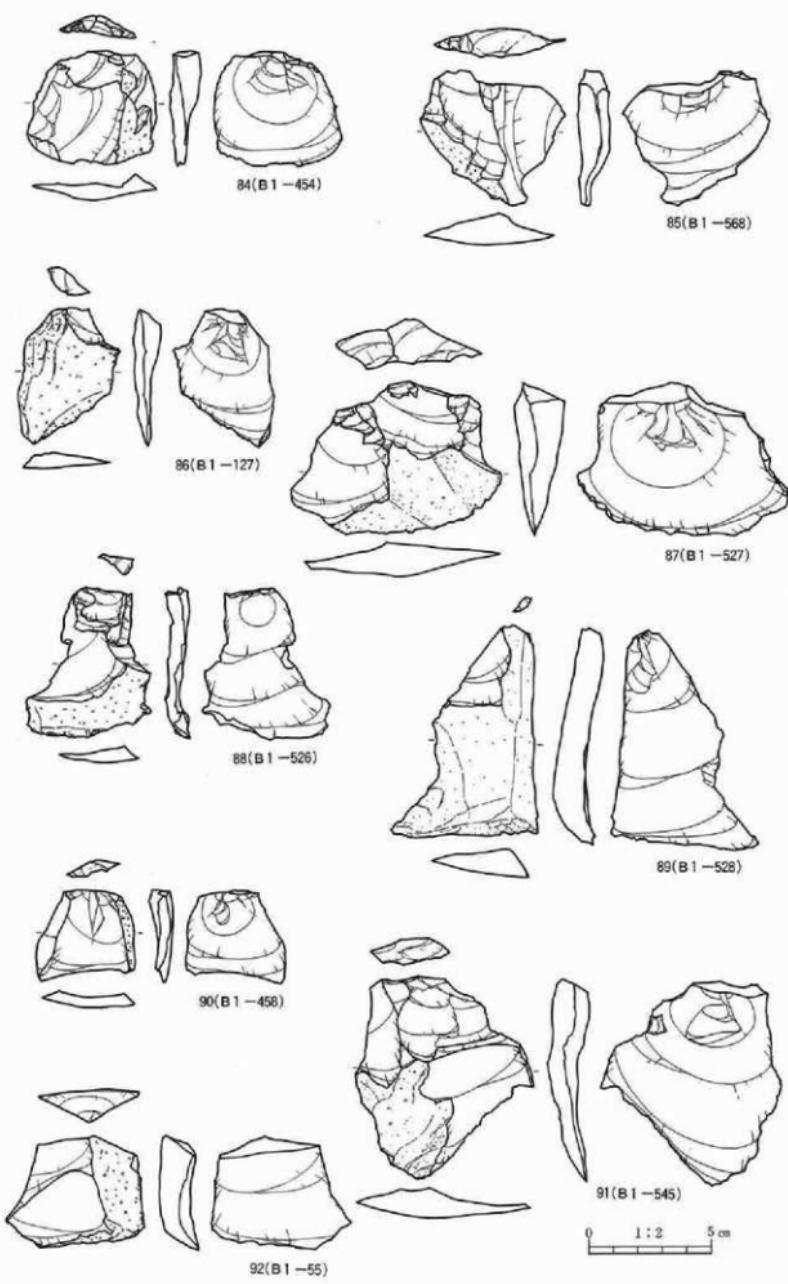


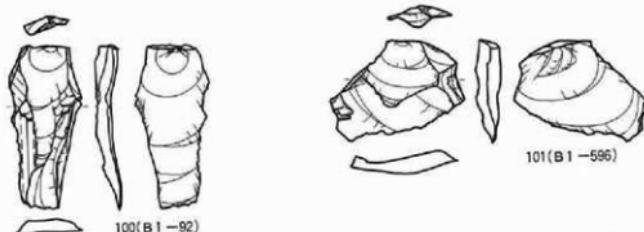
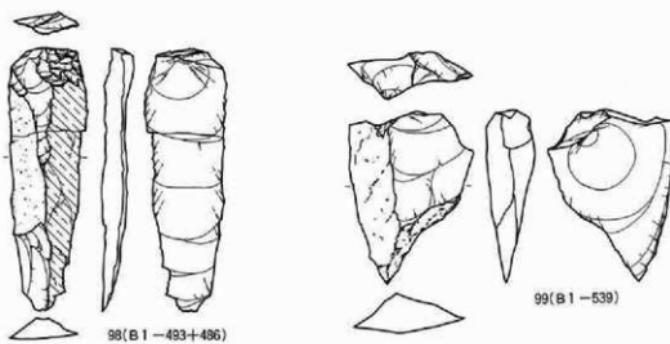
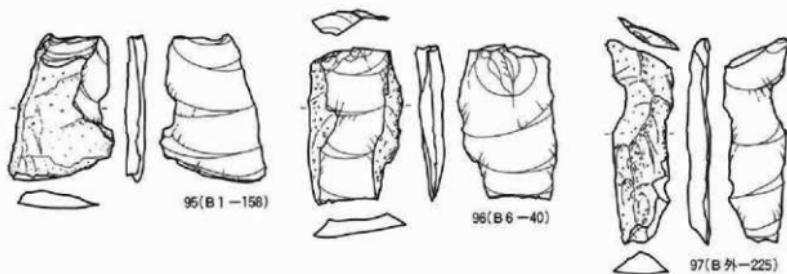
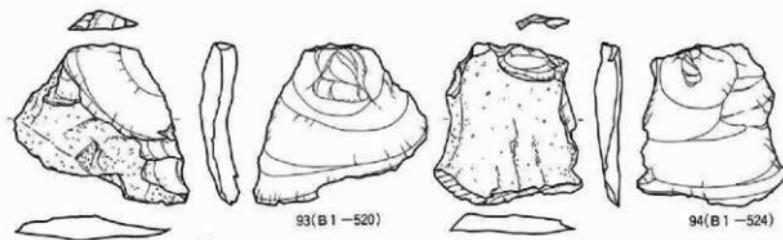




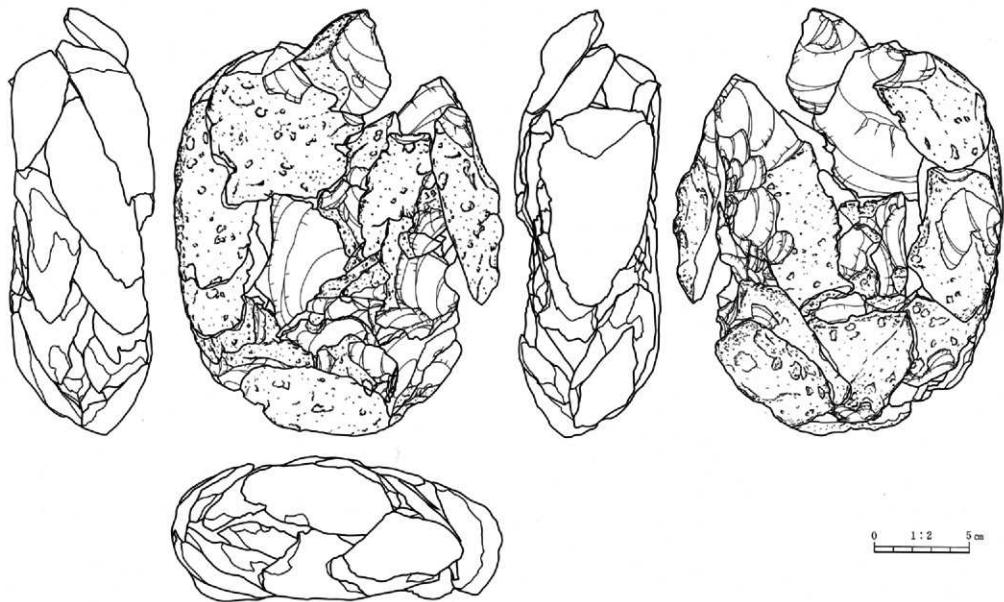




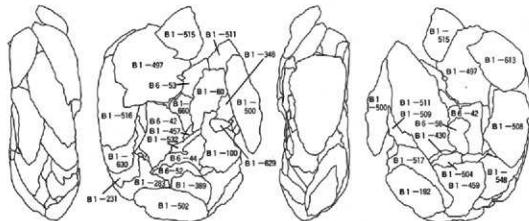


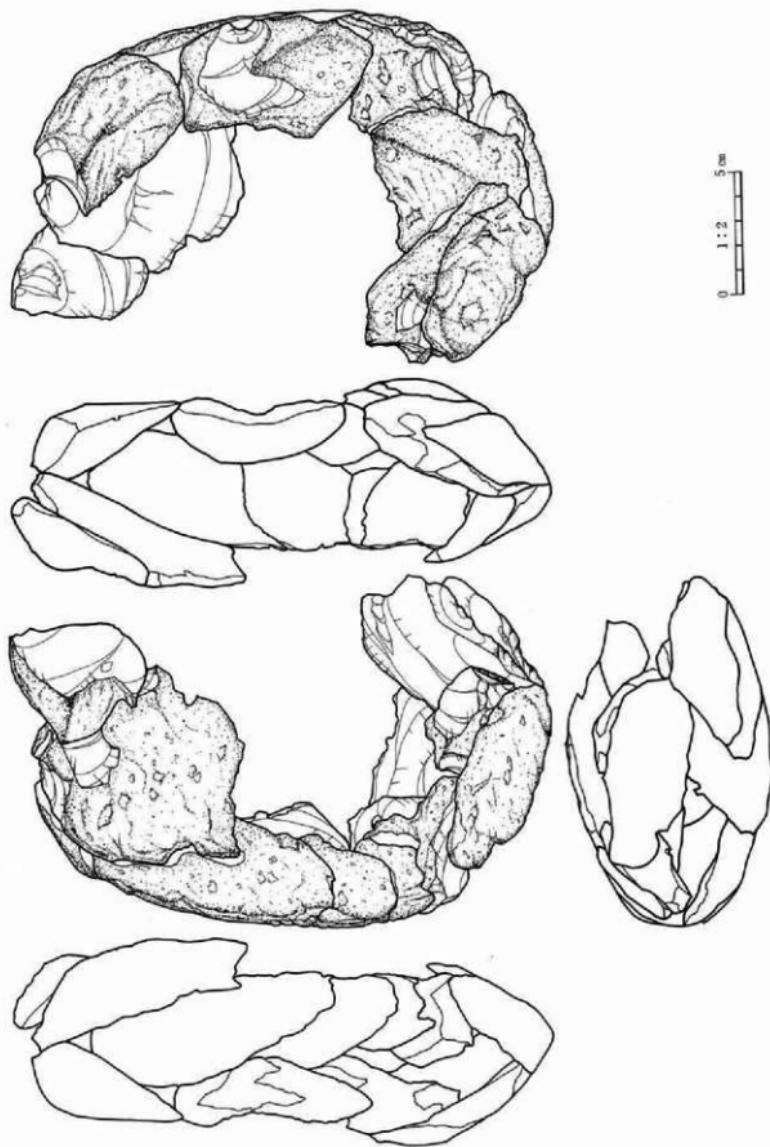


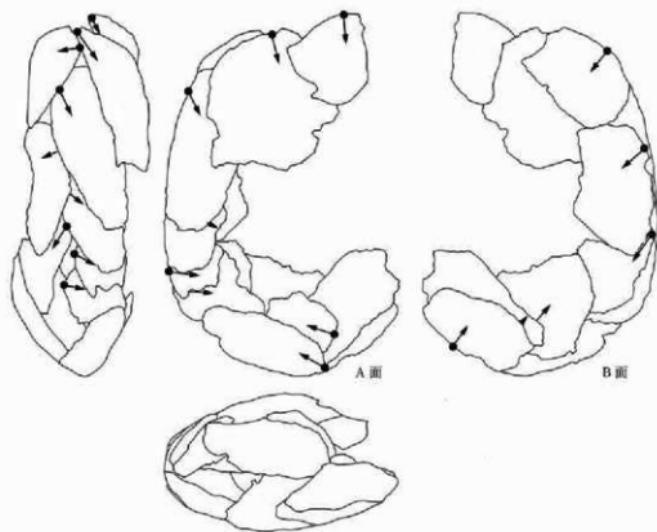
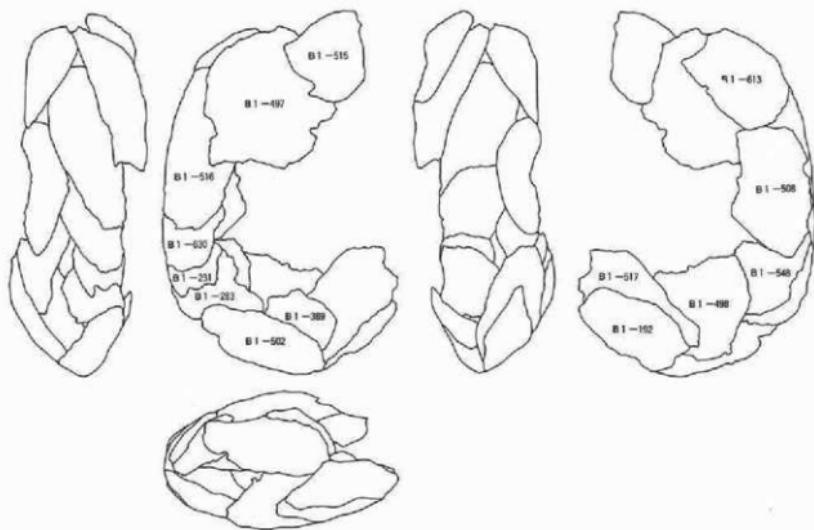
0 1 : 2 5 cm

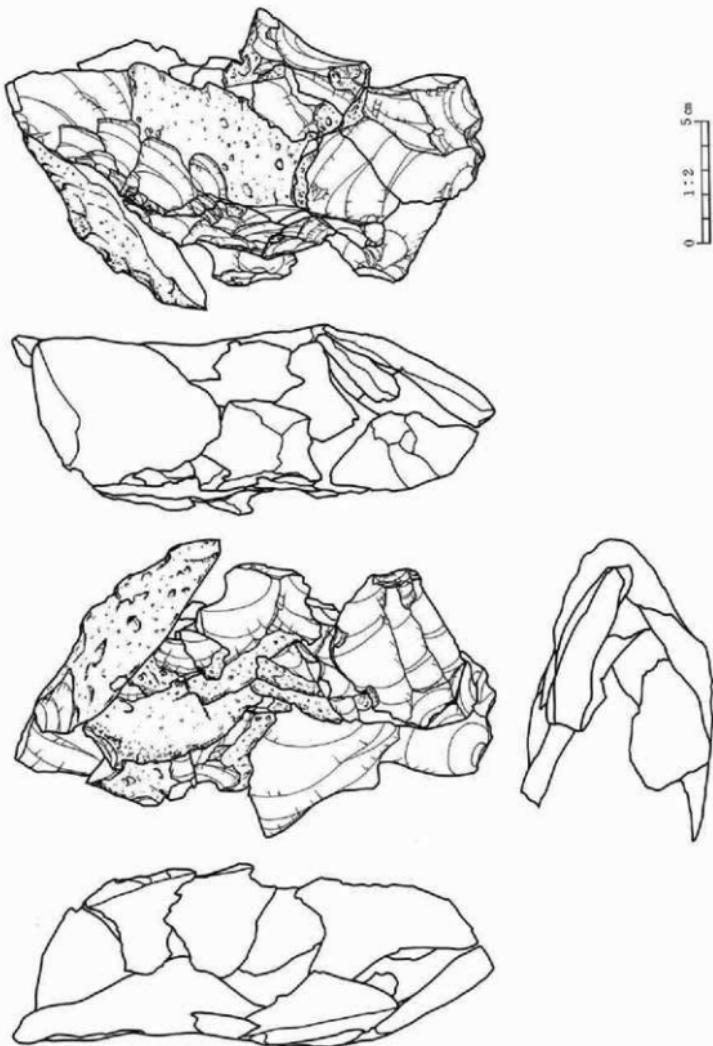


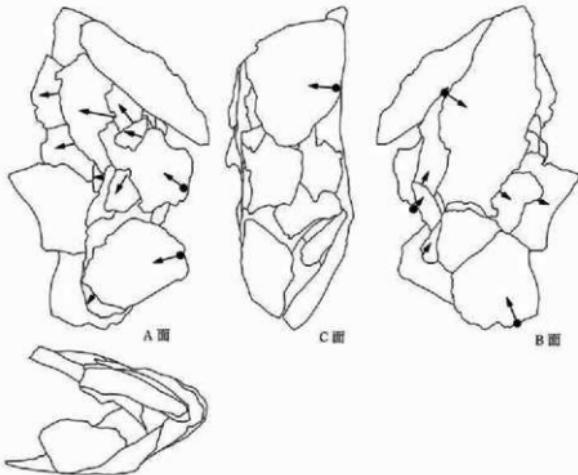
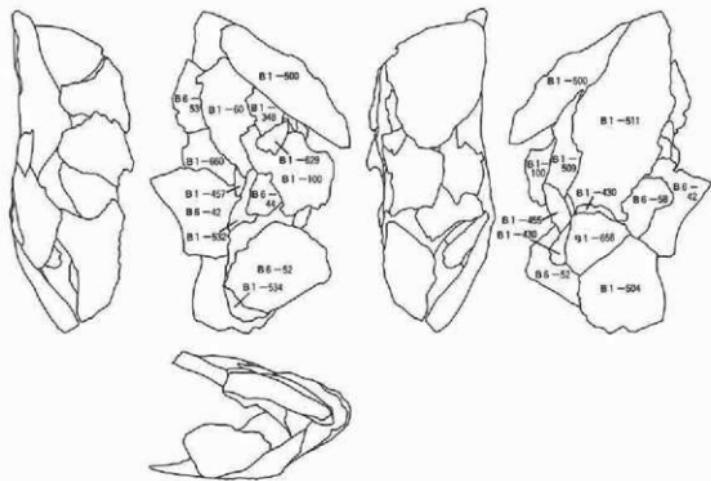
0 1:2 5cm

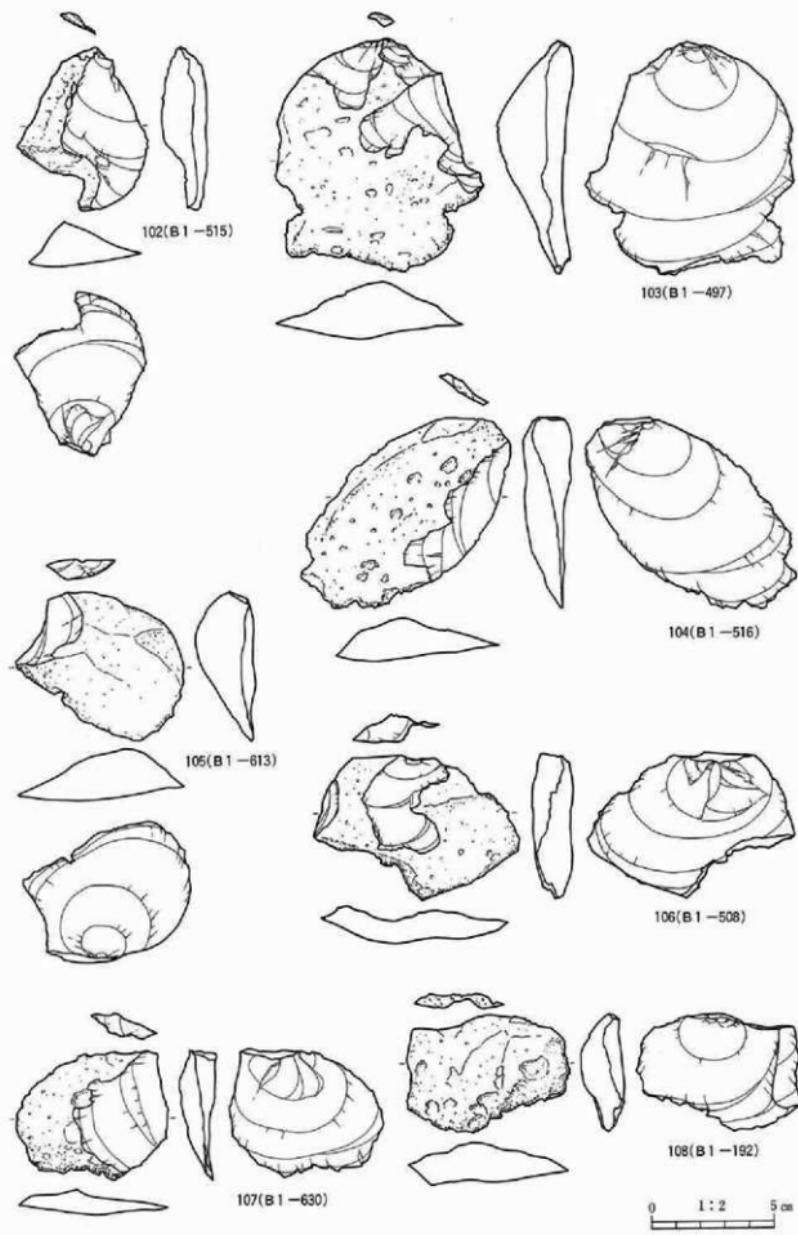




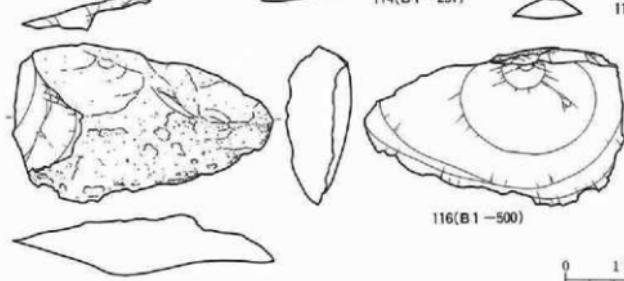
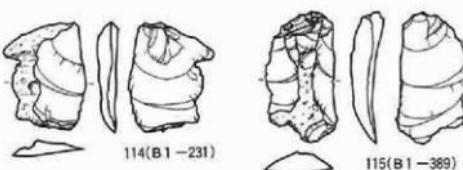
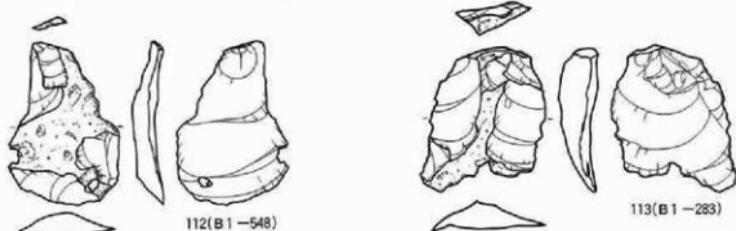
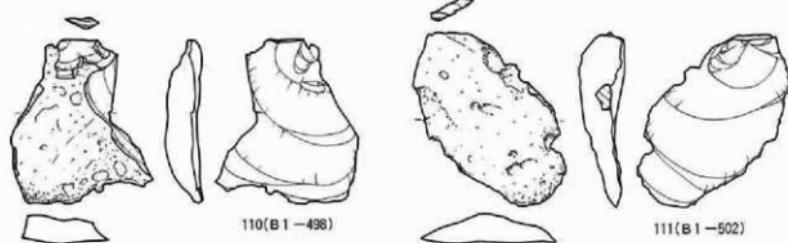
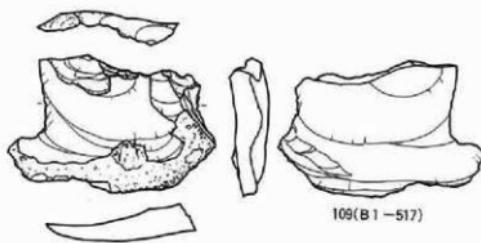




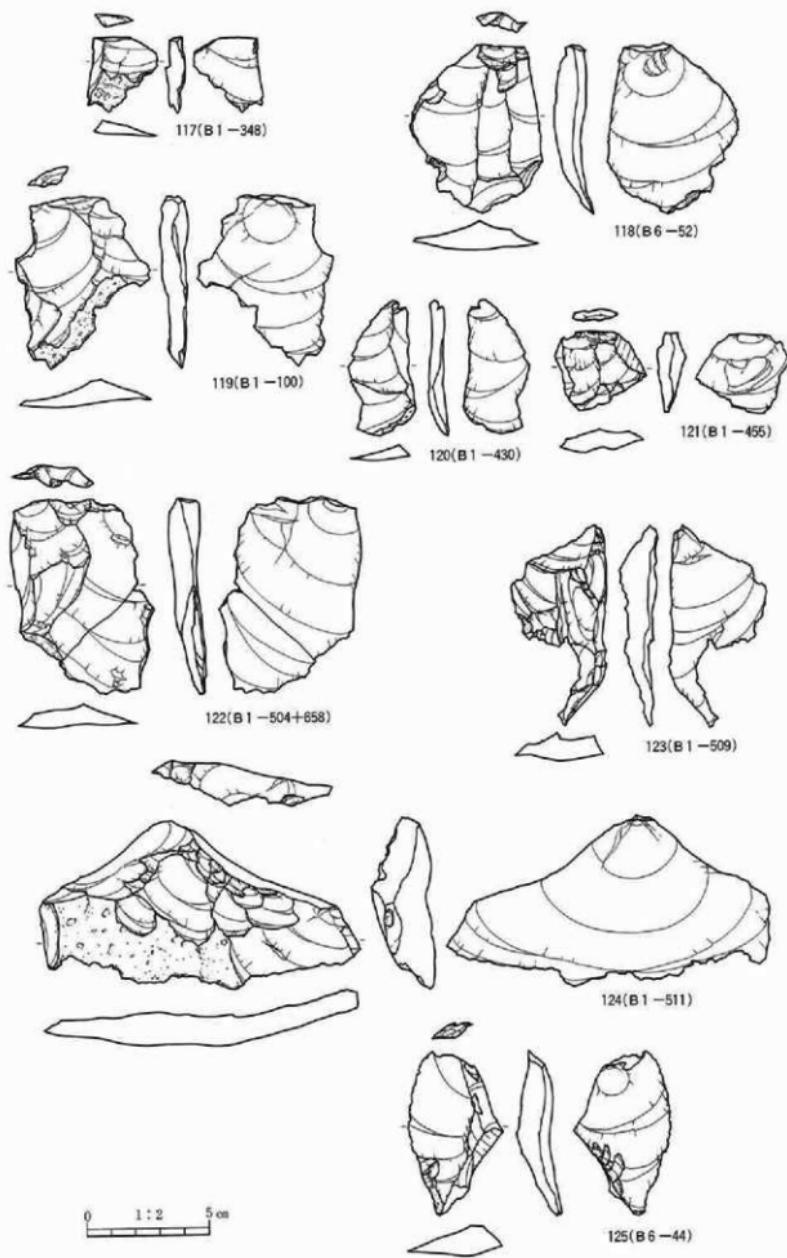


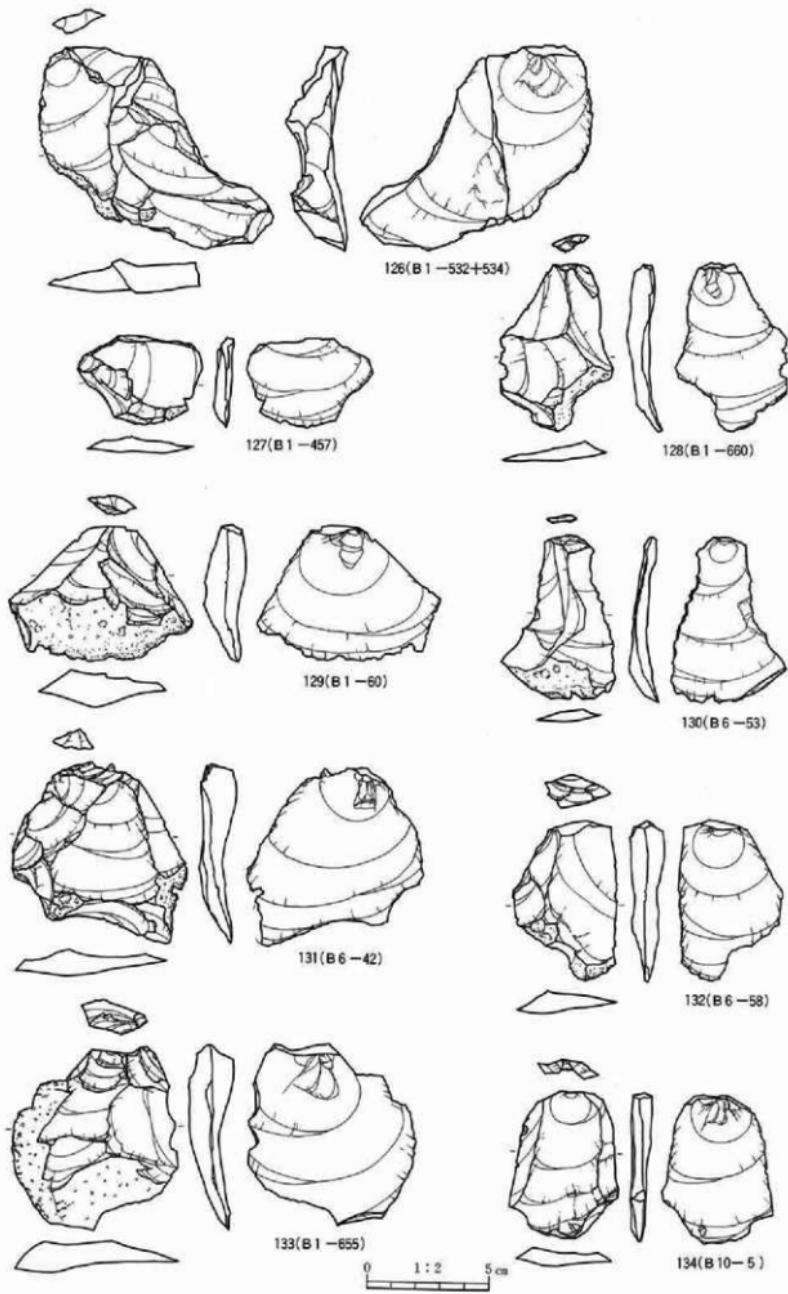


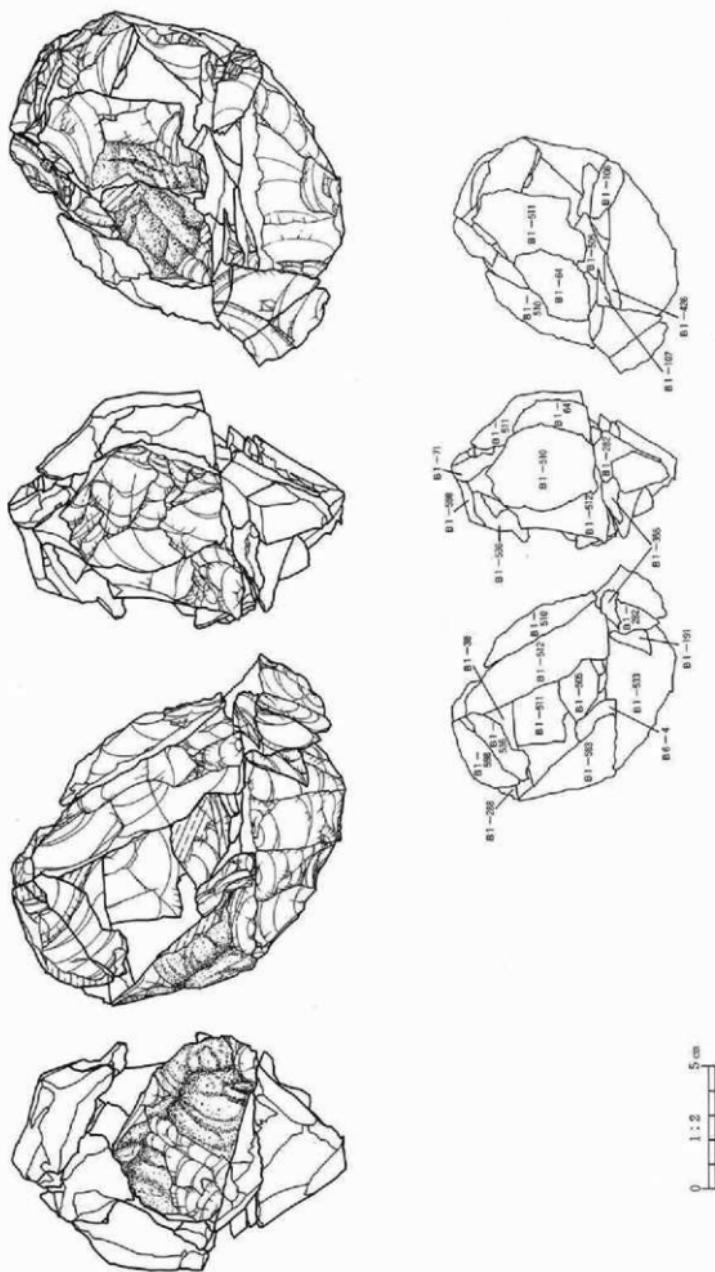
0 1:2 5 cm

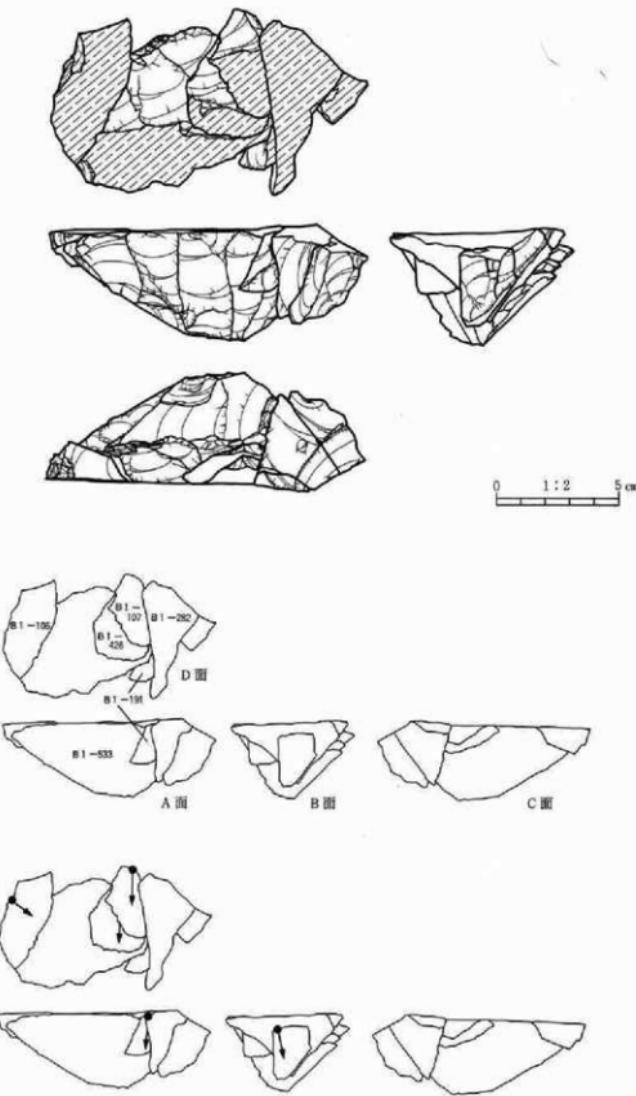


0 1:2 5 cm











135(B1-不明)



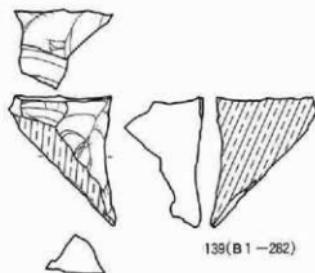
136(B1-248)



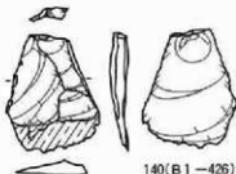
137(B1-191)



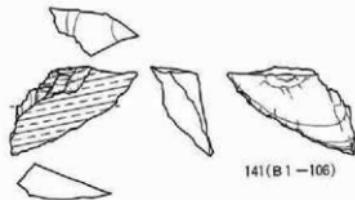
138(B1-107)



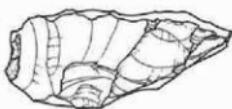
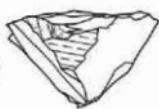
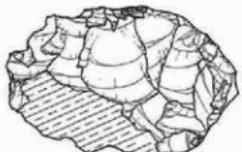
139(B1-282)



140(B1-426)

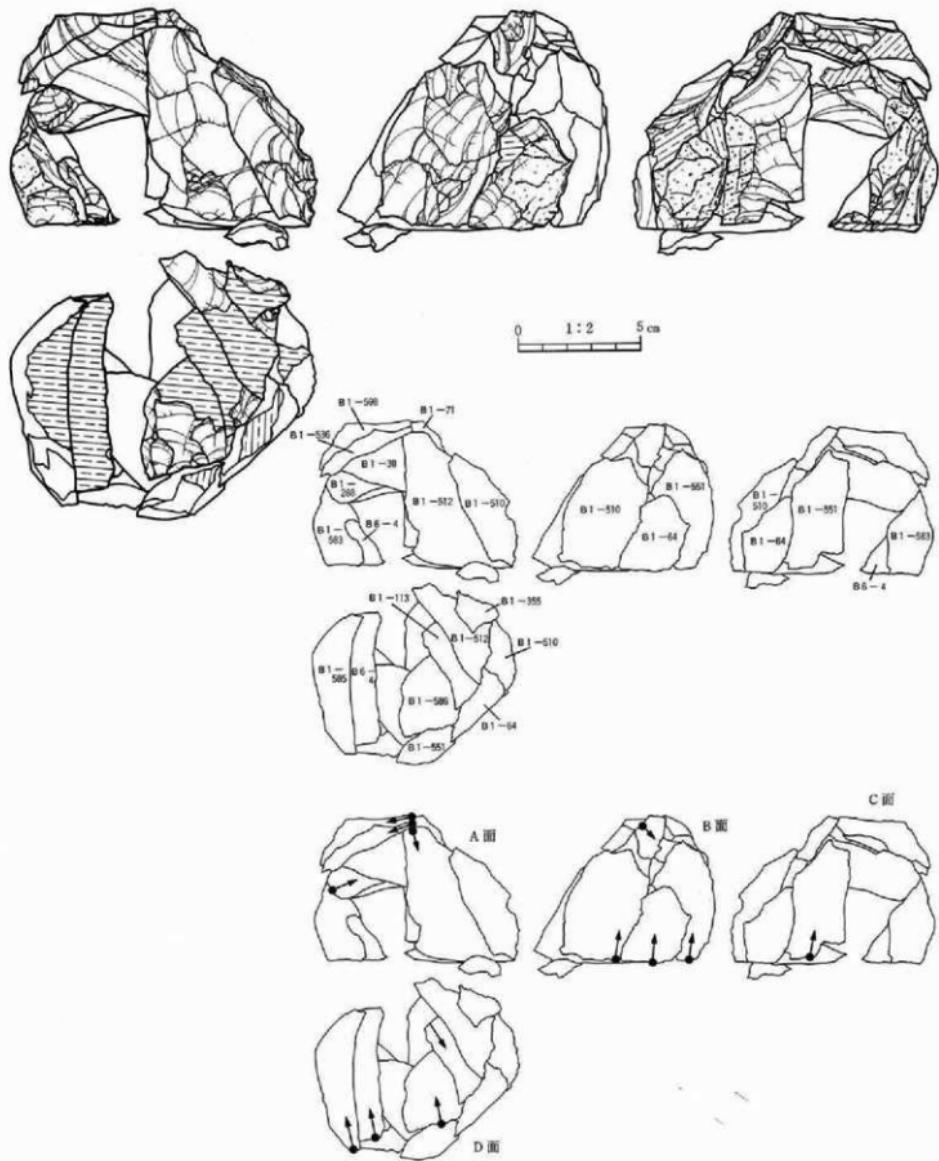


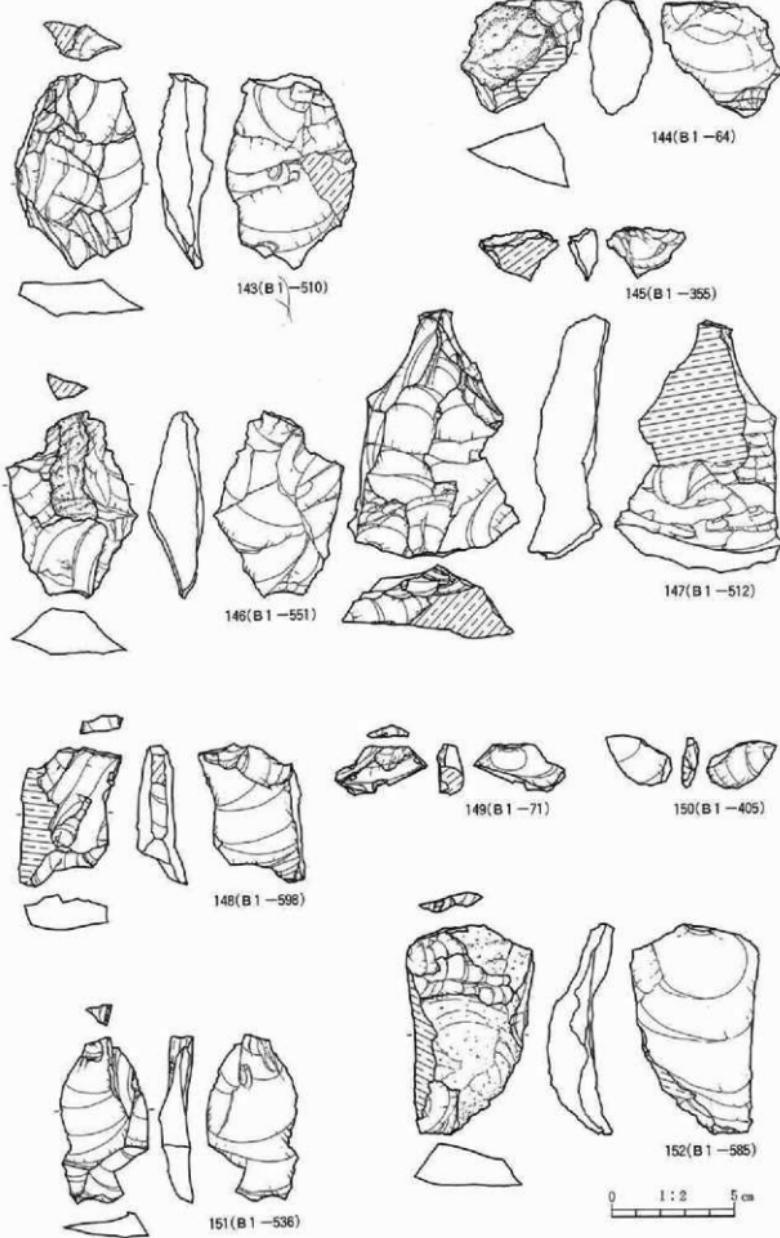
141(B1-106)

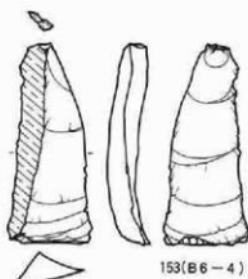


142(B1-533)

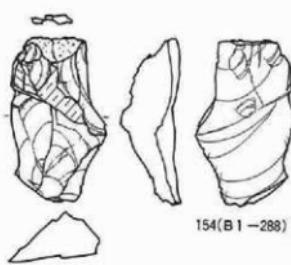
0 1:2 5 cm



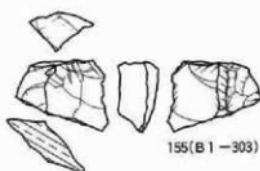




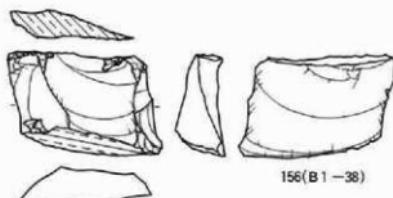
153(B6-4)



154(B1-288)



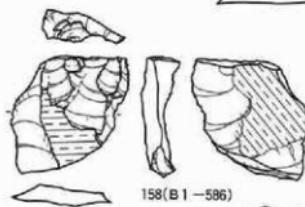
155(B1-303)



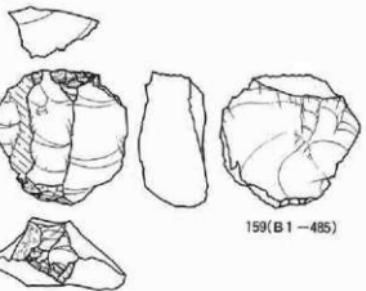
156(B1-38)



157(B1-113)



158(B1-586)

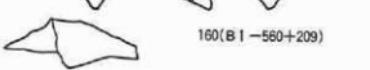


159(B1-485)

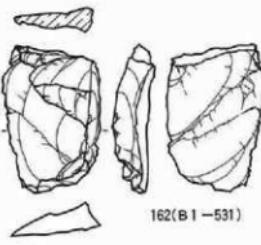
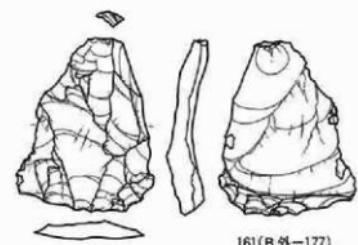


接合資料6

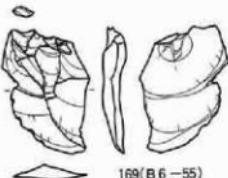
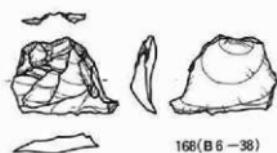
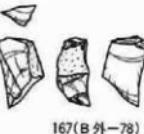
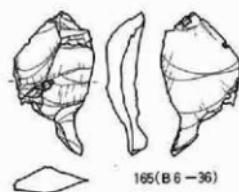
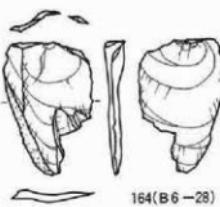
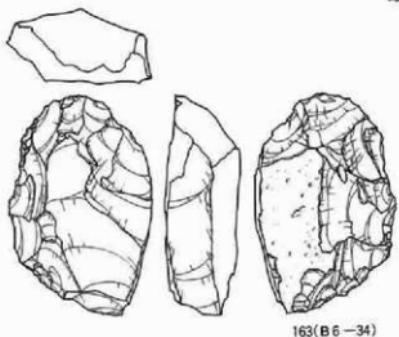
0 1:2 5 cm



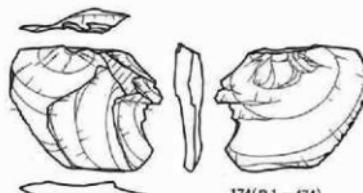
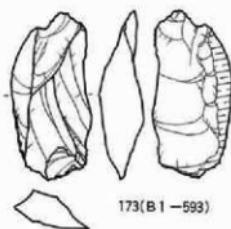
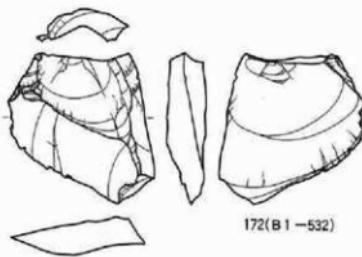
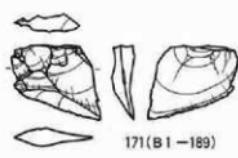
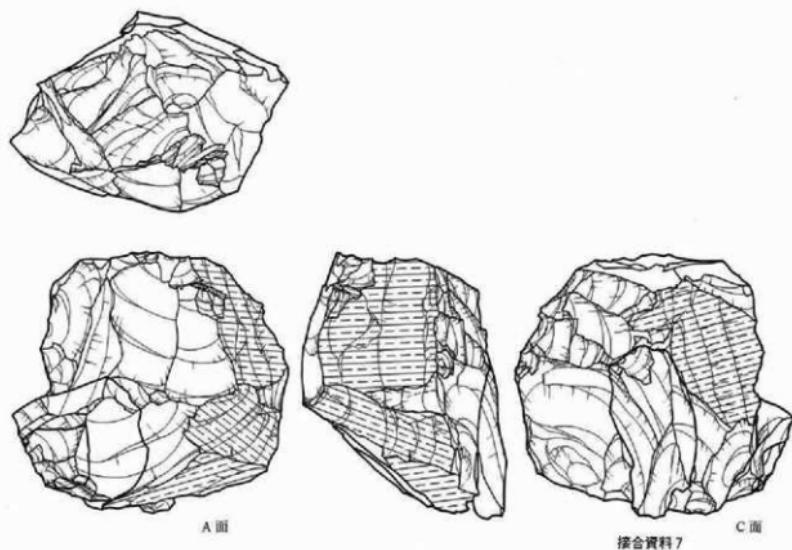
160(B1-560+209)



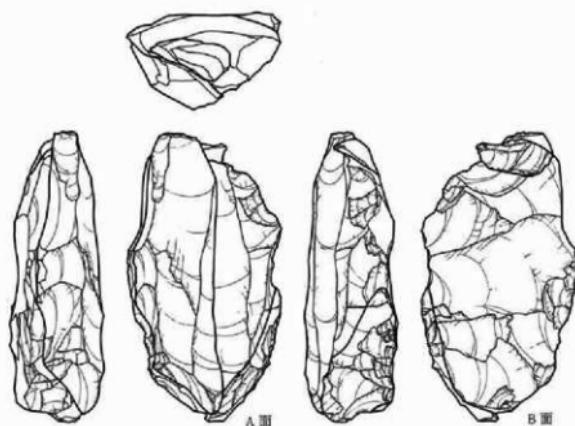
母岩 5



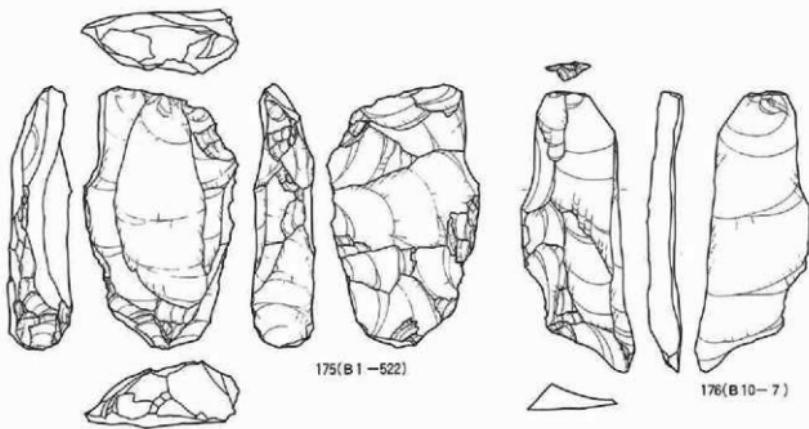
母岩 6



0 1 : 2 5 cm



接合資料 8



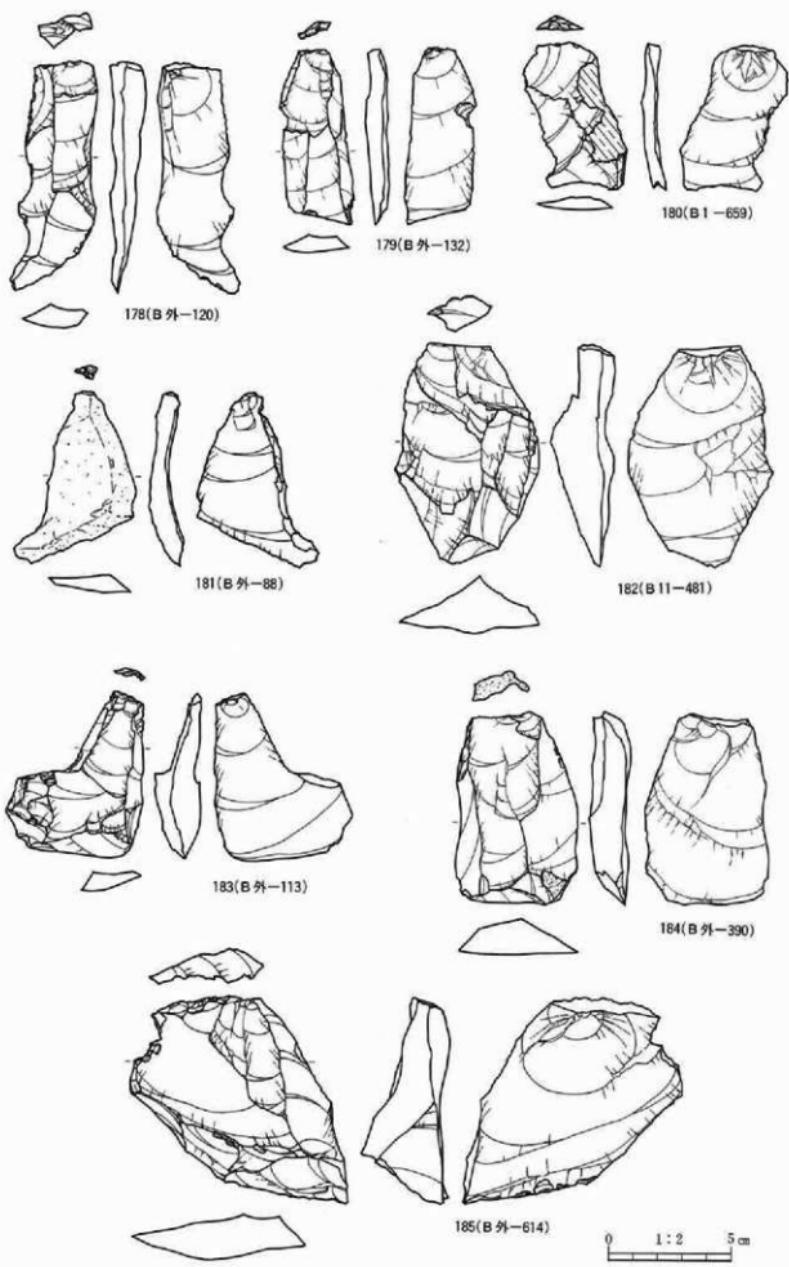
175(B1-522)

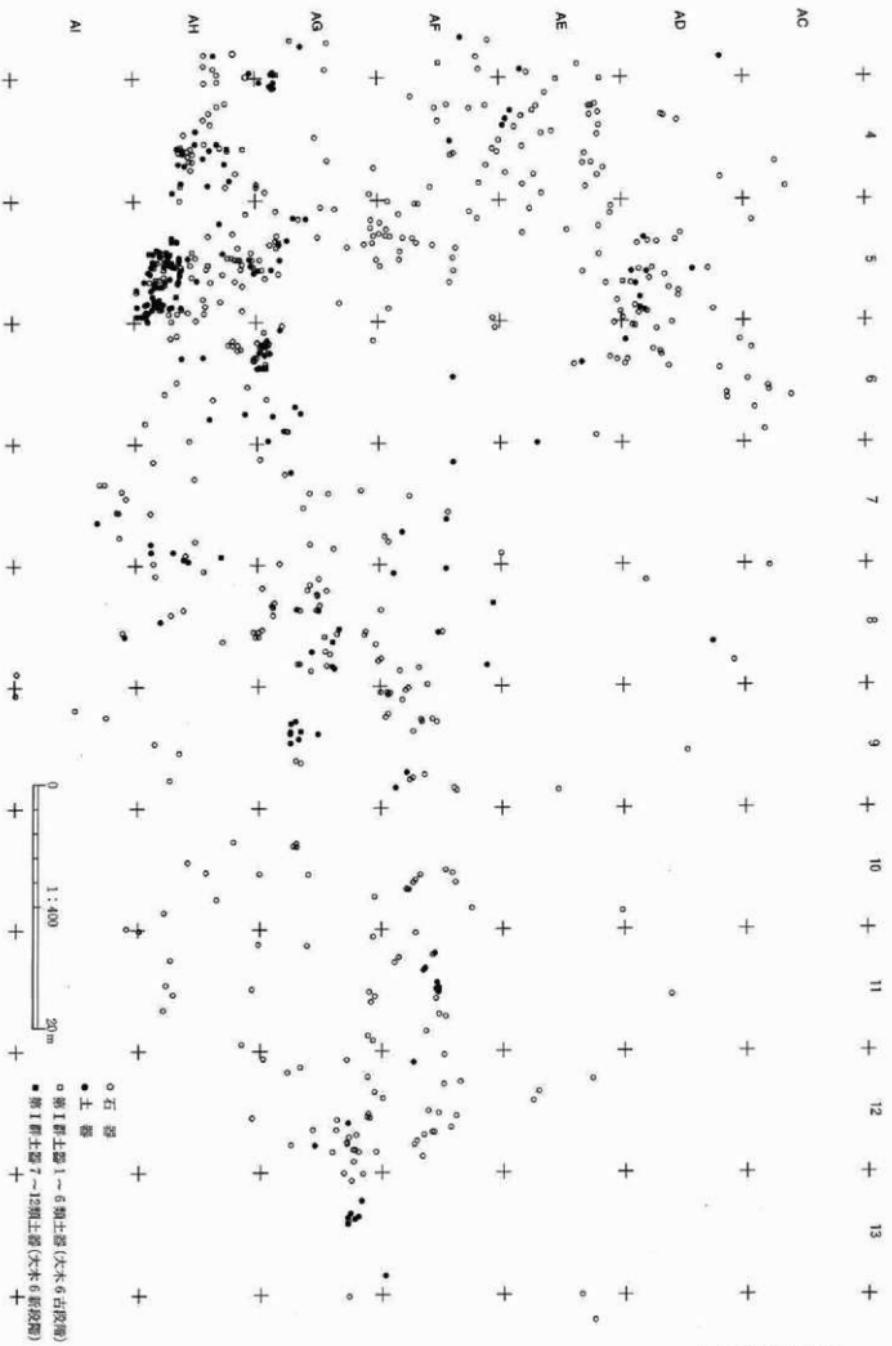
176(B10-7)

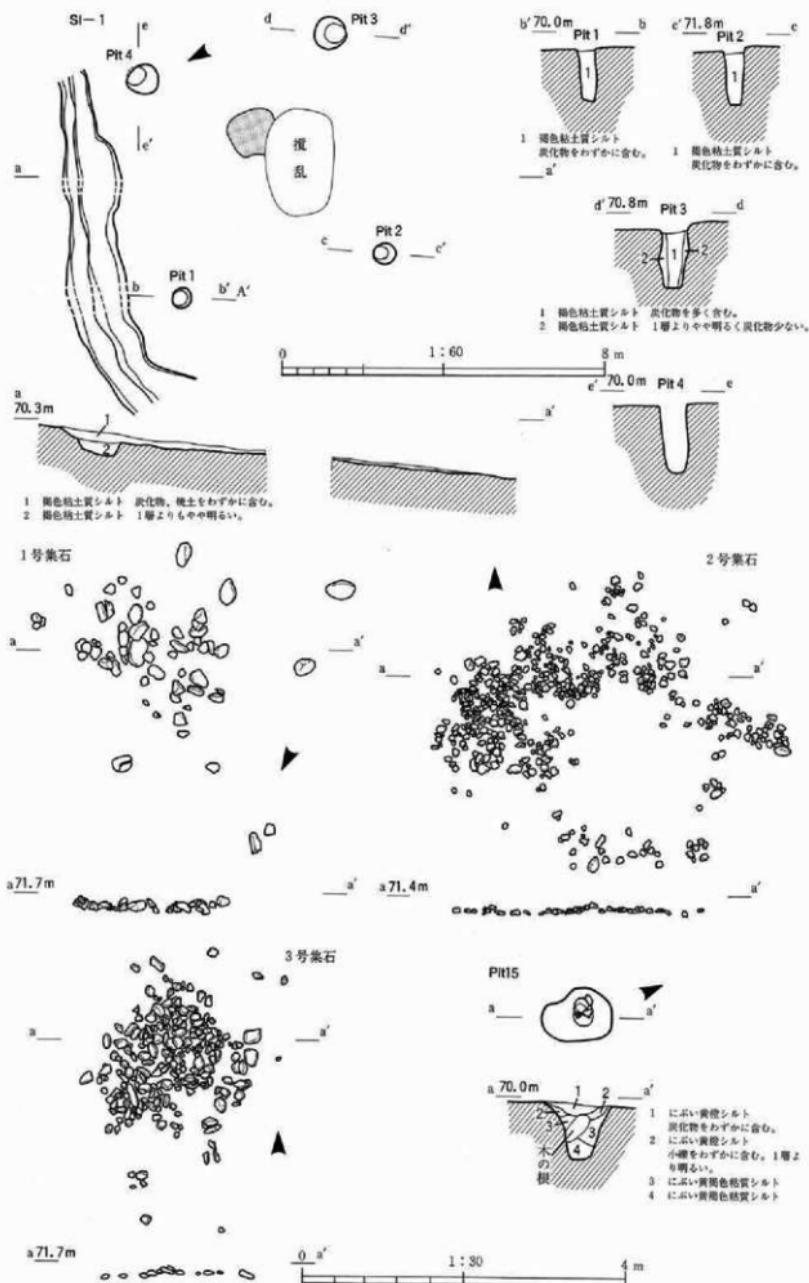
177(B1-276)

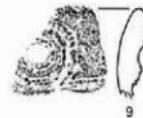
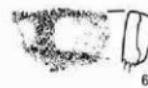
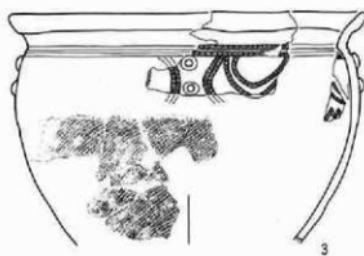
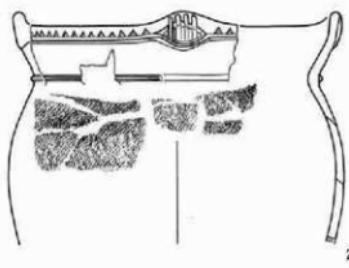
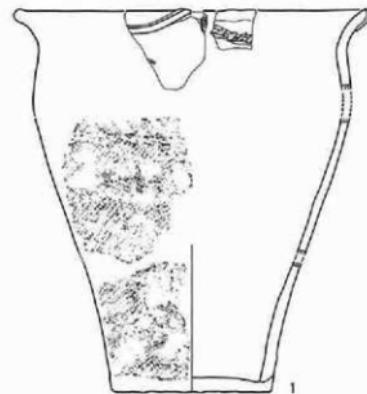
178(B1-324)

0 1:2 5 cm

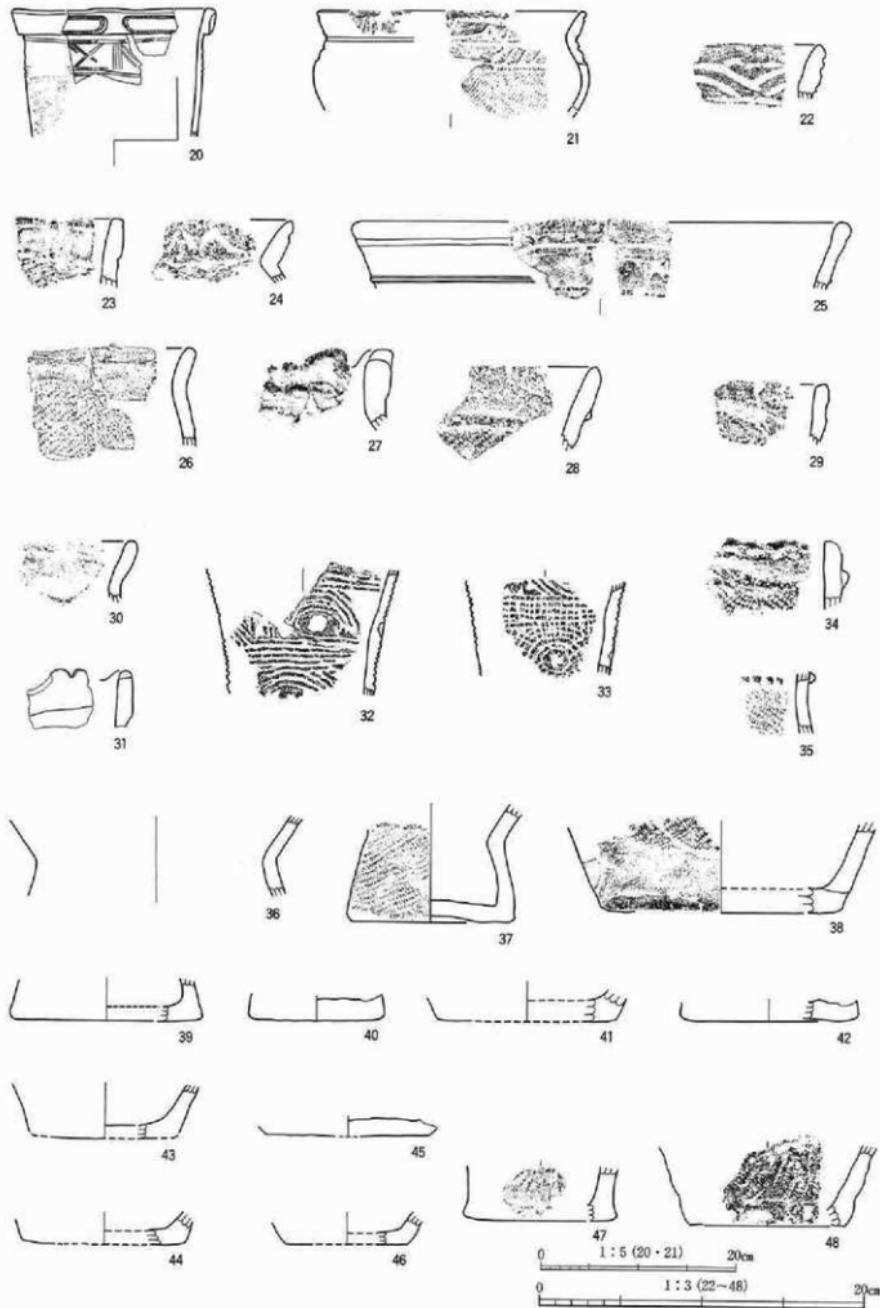








0 1:5 (1~3) 20cm
0 1:3 (4~19) 20cm





49



50



51



52



53



54



55



56



57



58



59



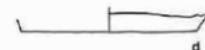
a



b



c



d



60



61

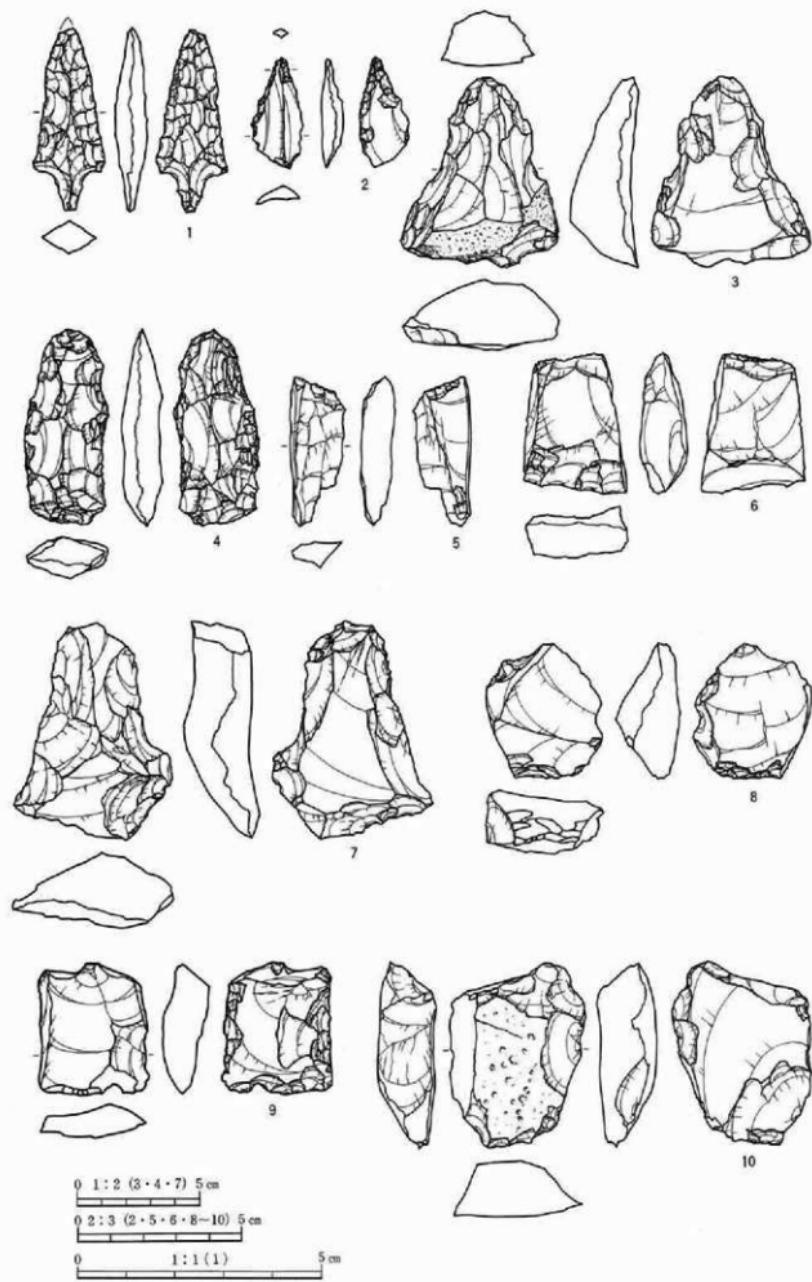


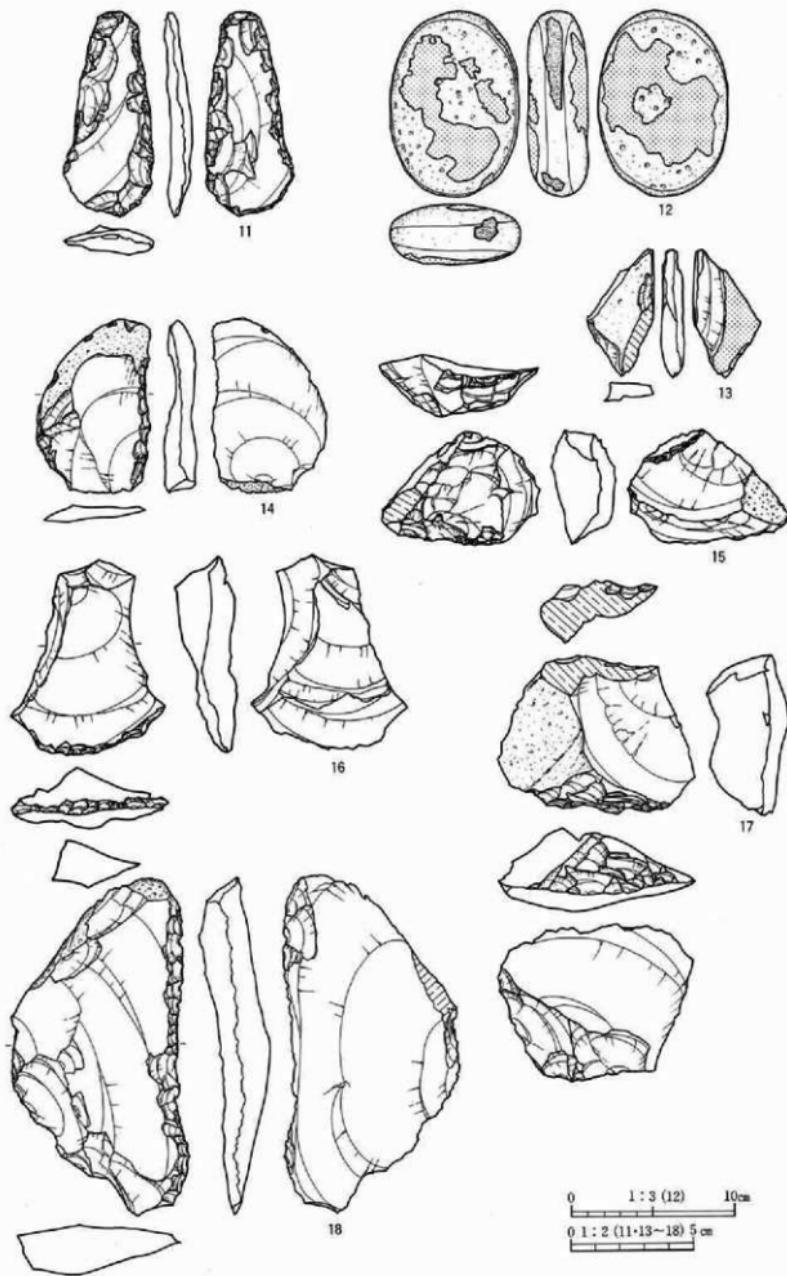
62



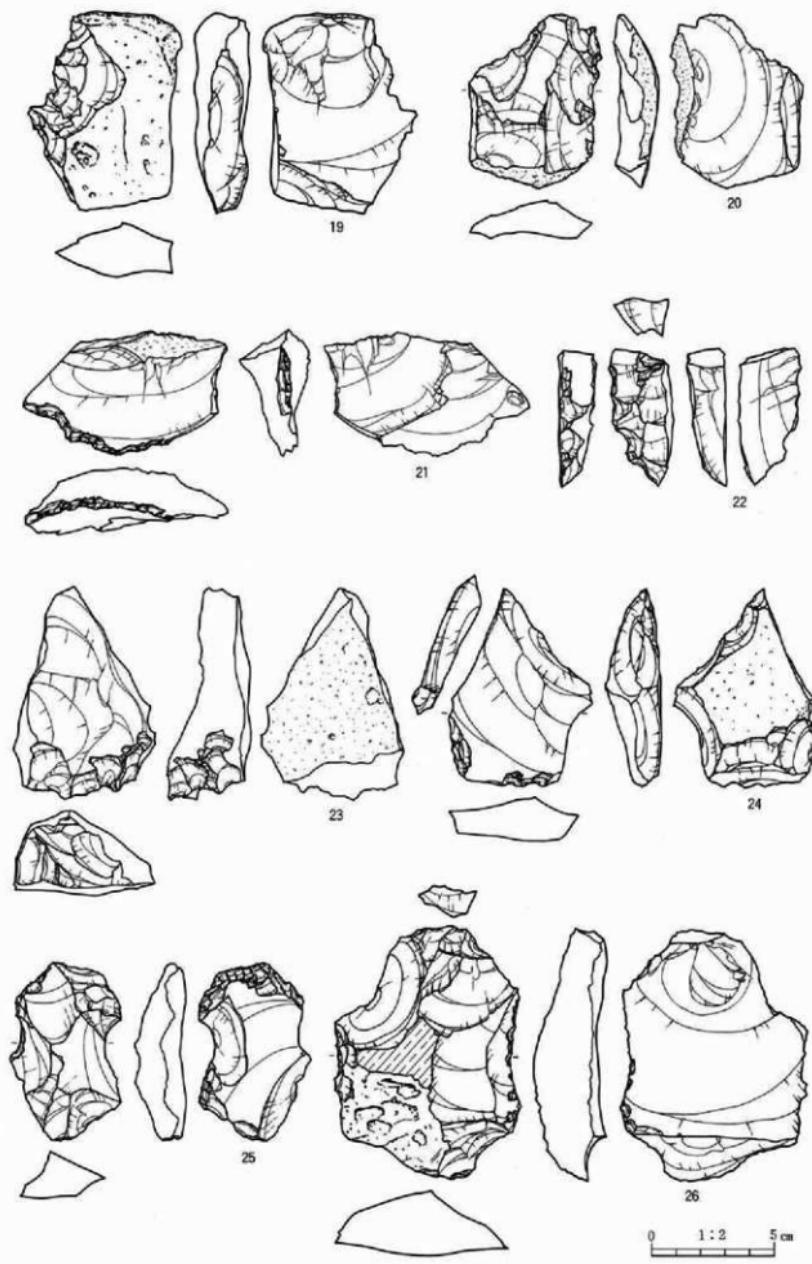
63

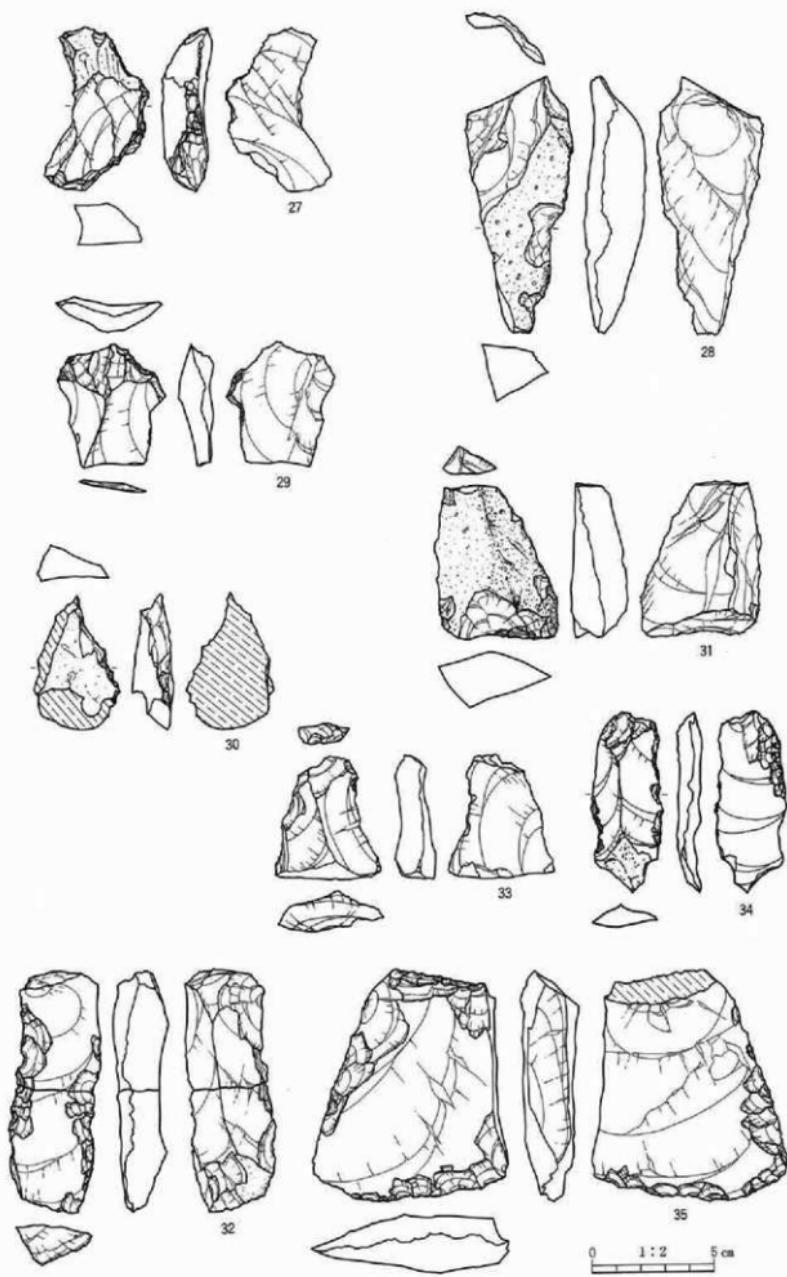
0 1 : 3 (49-64) 20cm

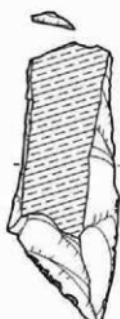




0 1 : 3 (12) 10cm
0 1 : 2 (11-13-18) 5cm







36



36



36



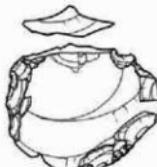
37



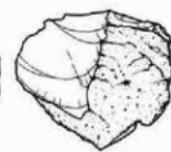
37



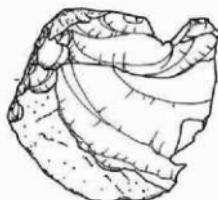
38



39



40



41



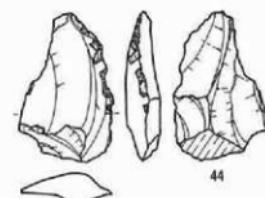
42

0 1:2 5cm

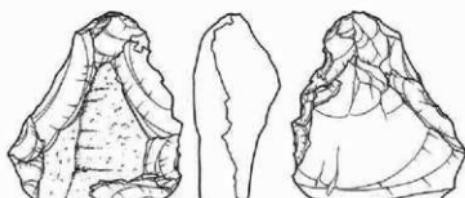


43

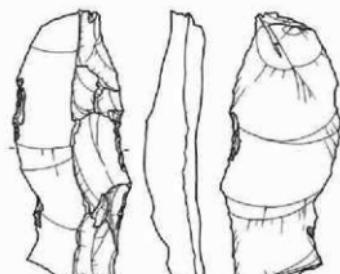




44



45

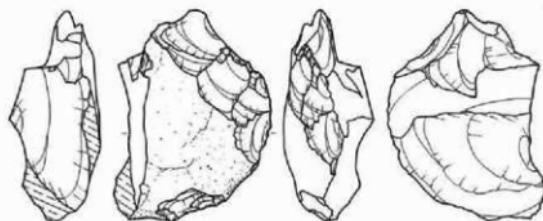


47

46



46



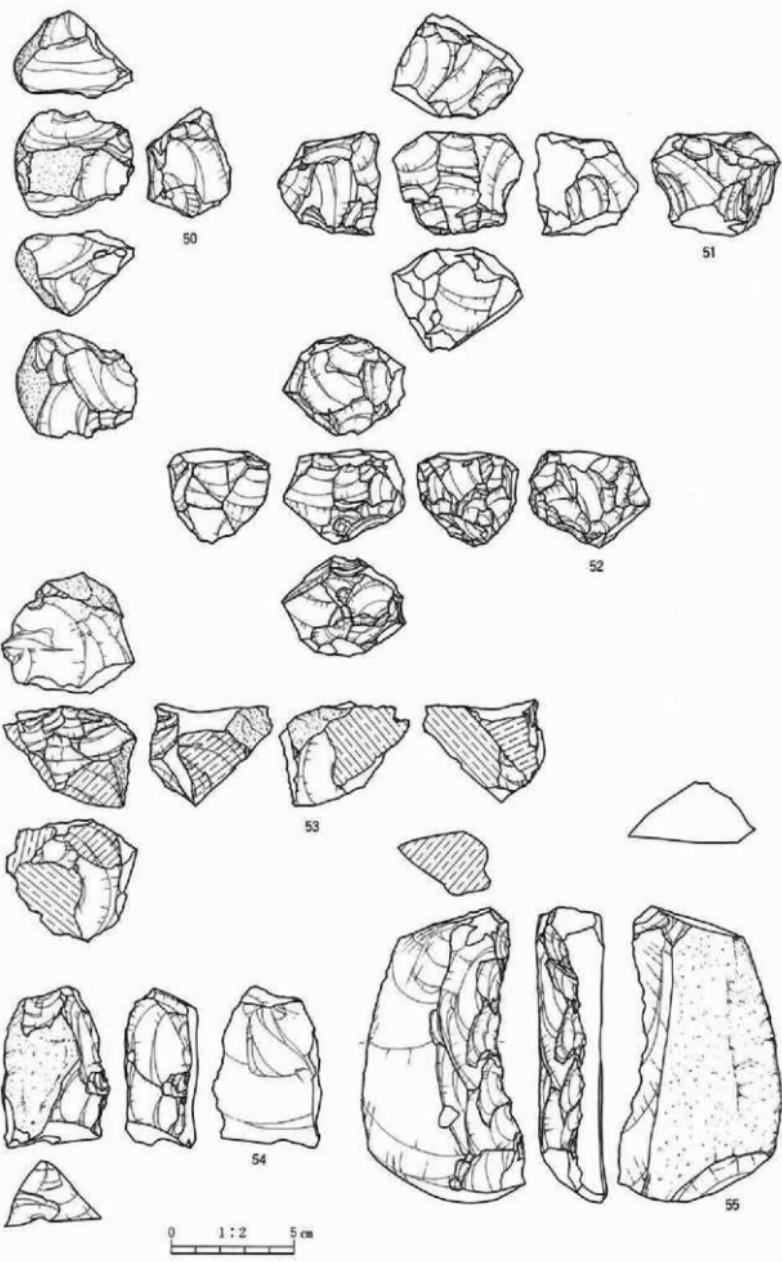
48

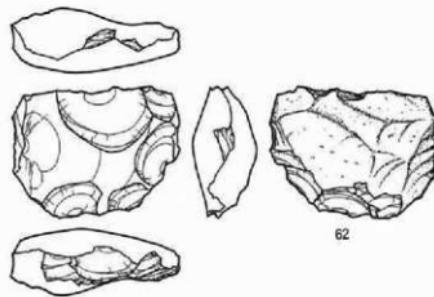
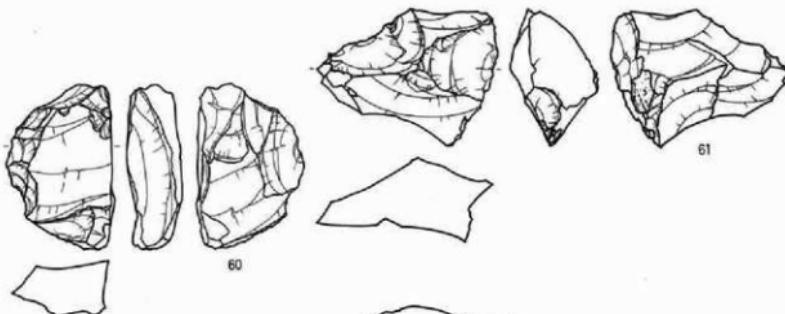
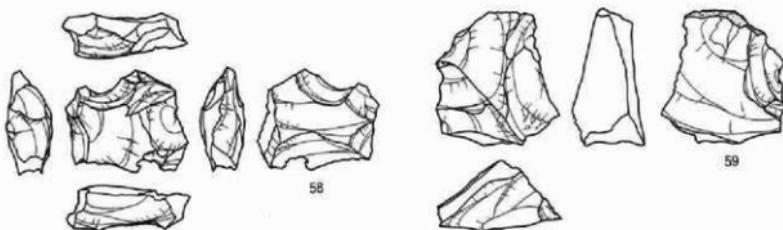
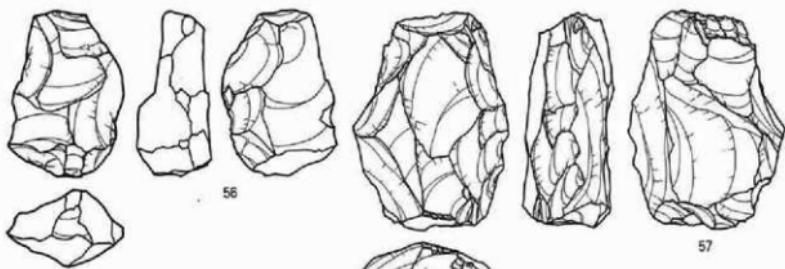


49

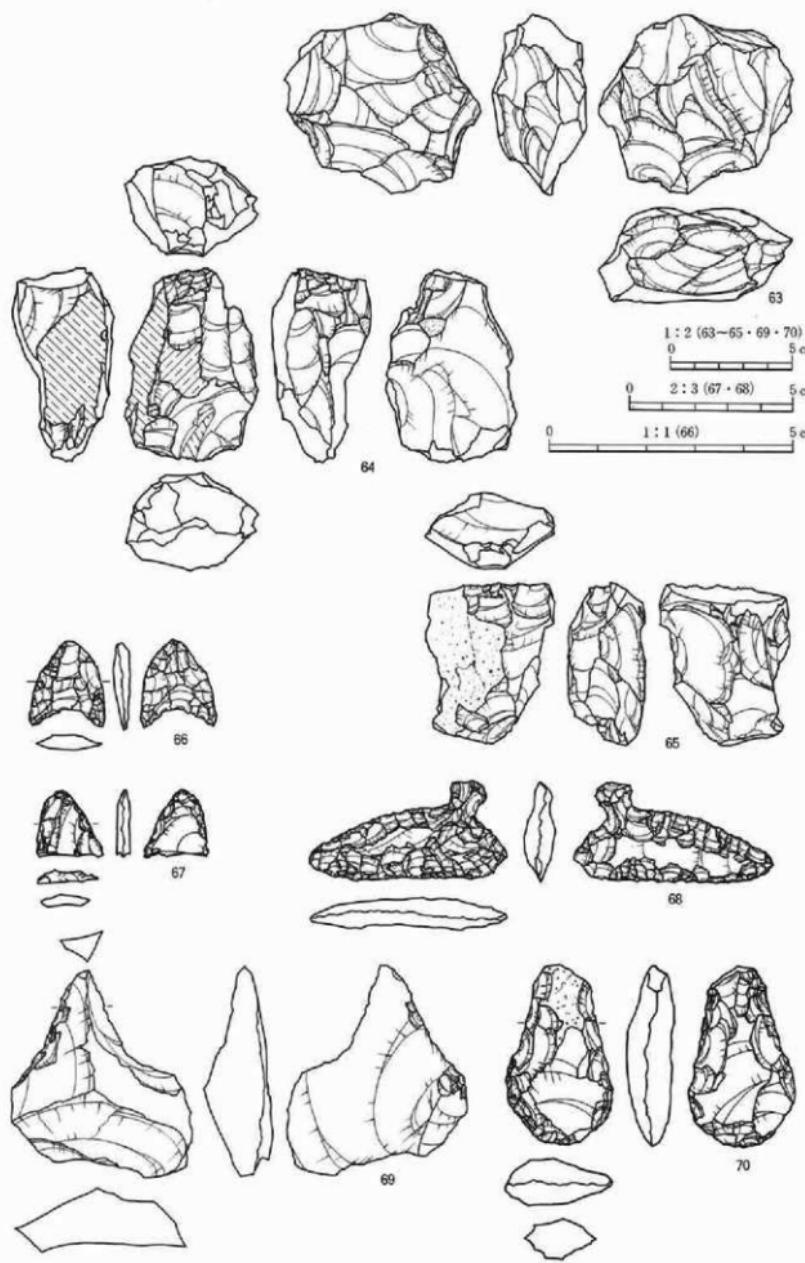


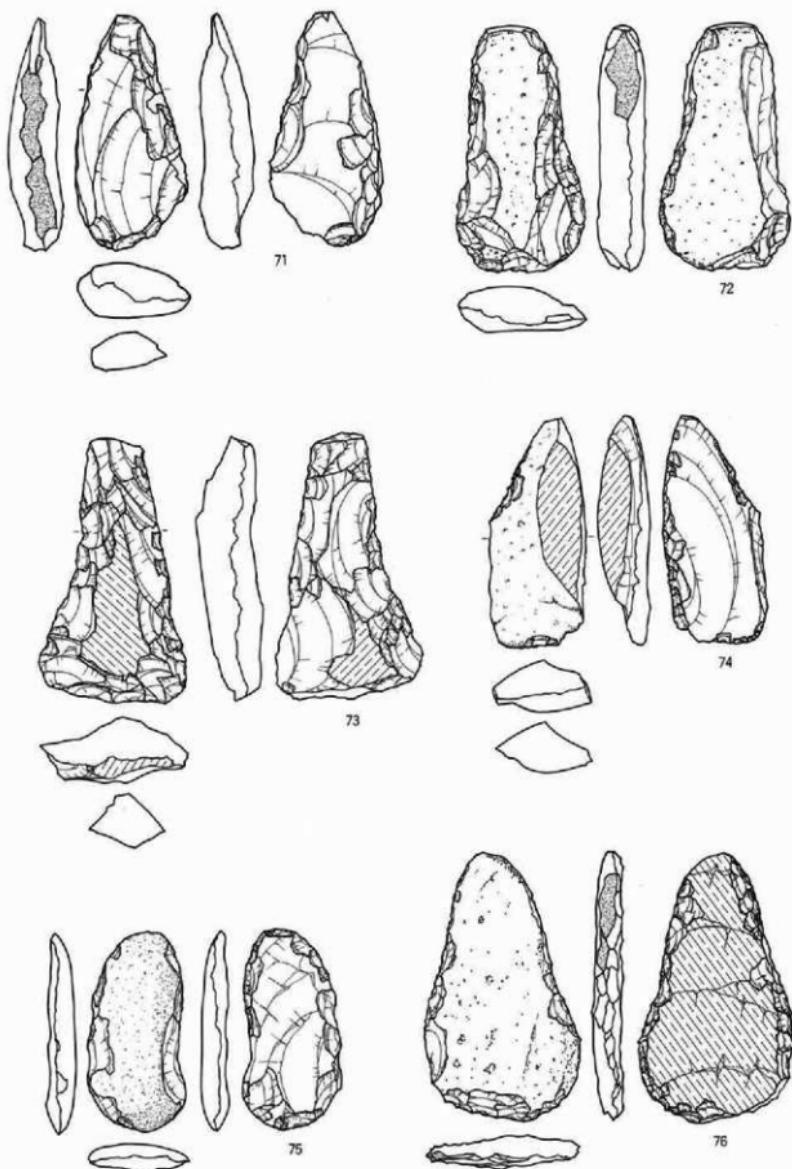
0 1:2 5cm



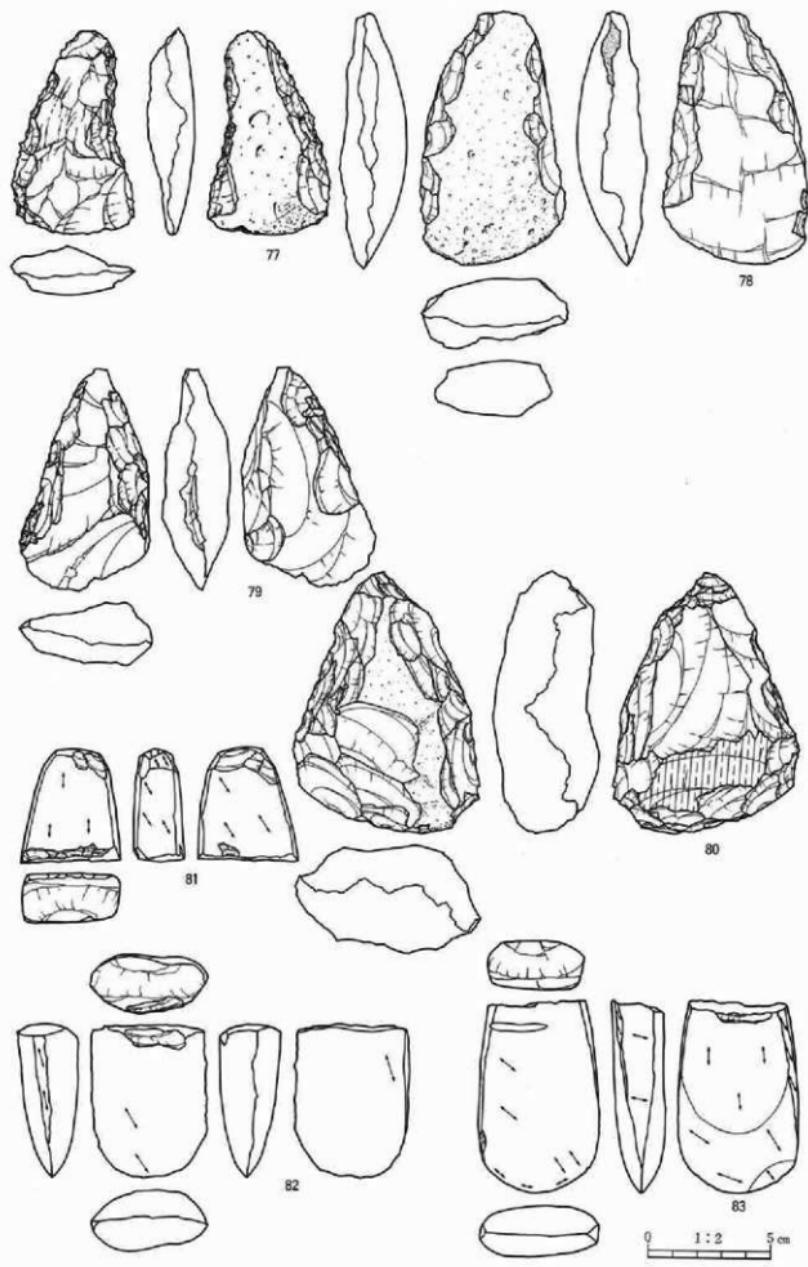


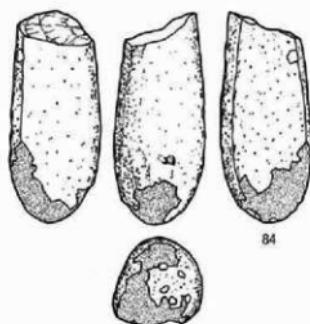
0 1:2 5 cm



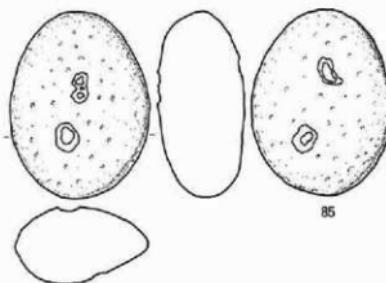


0 1:2 5cm

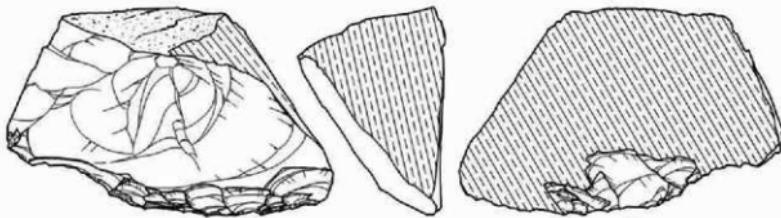




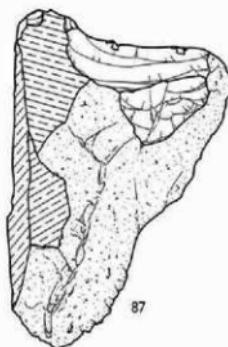
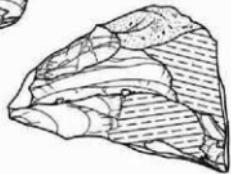
84



85

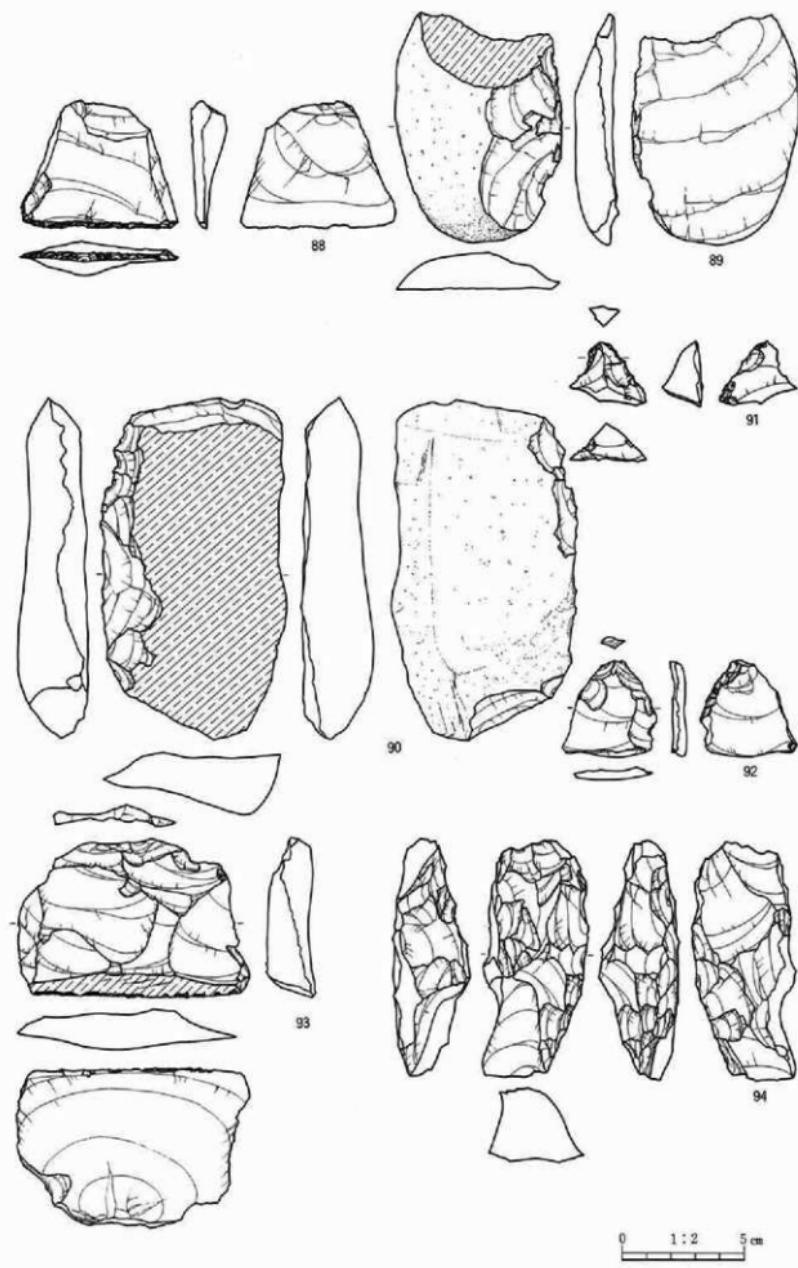


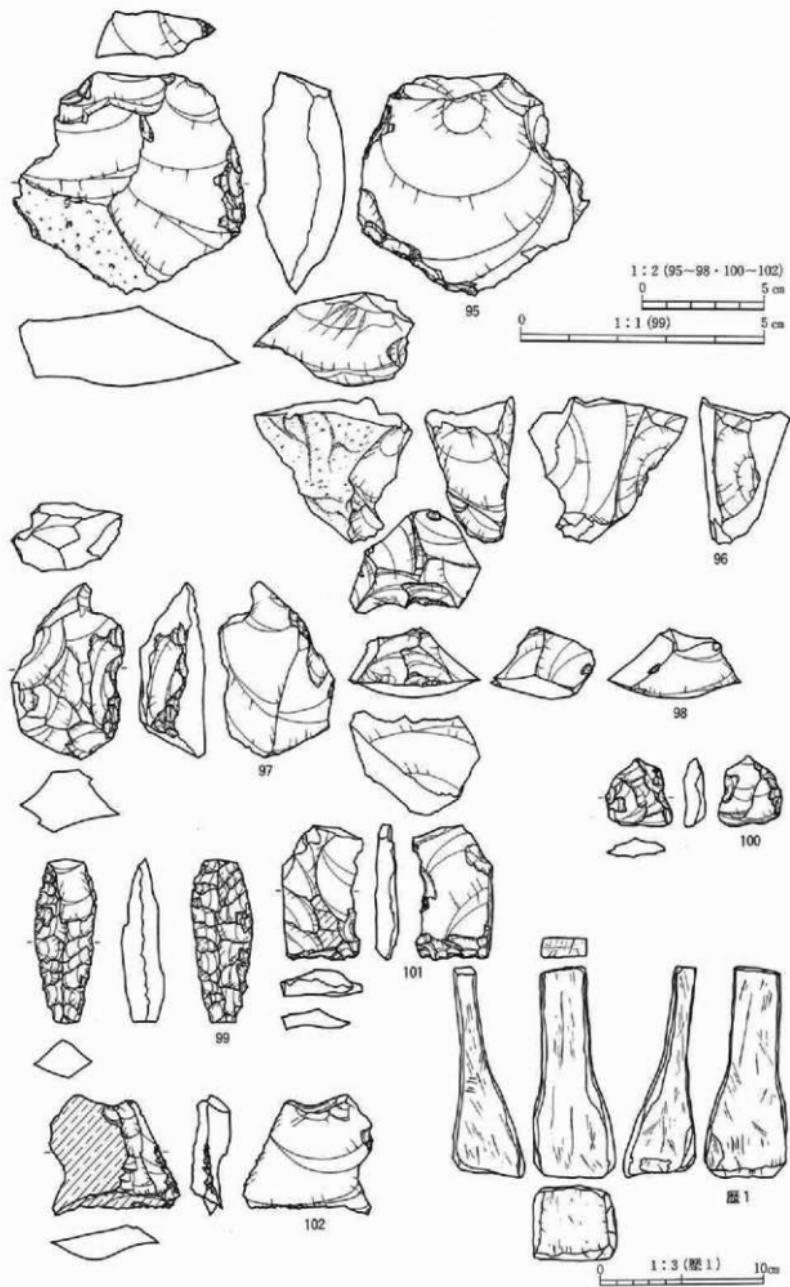
86

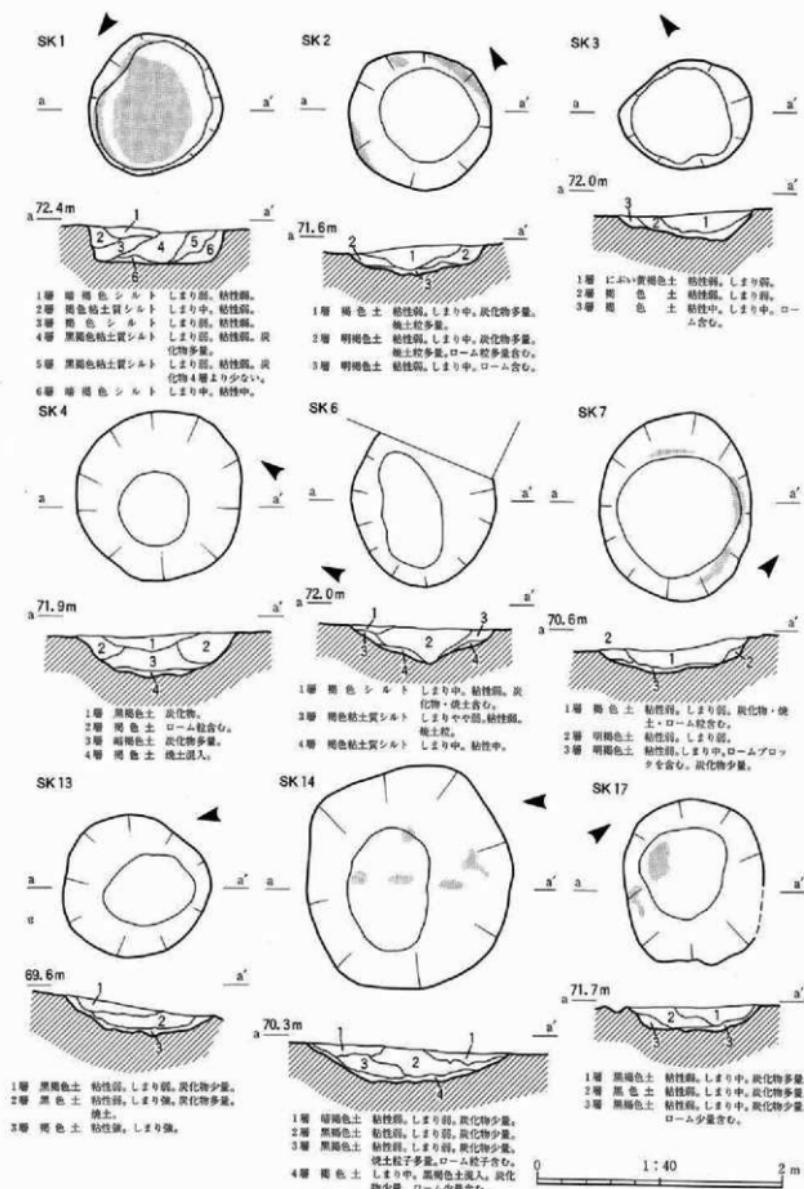


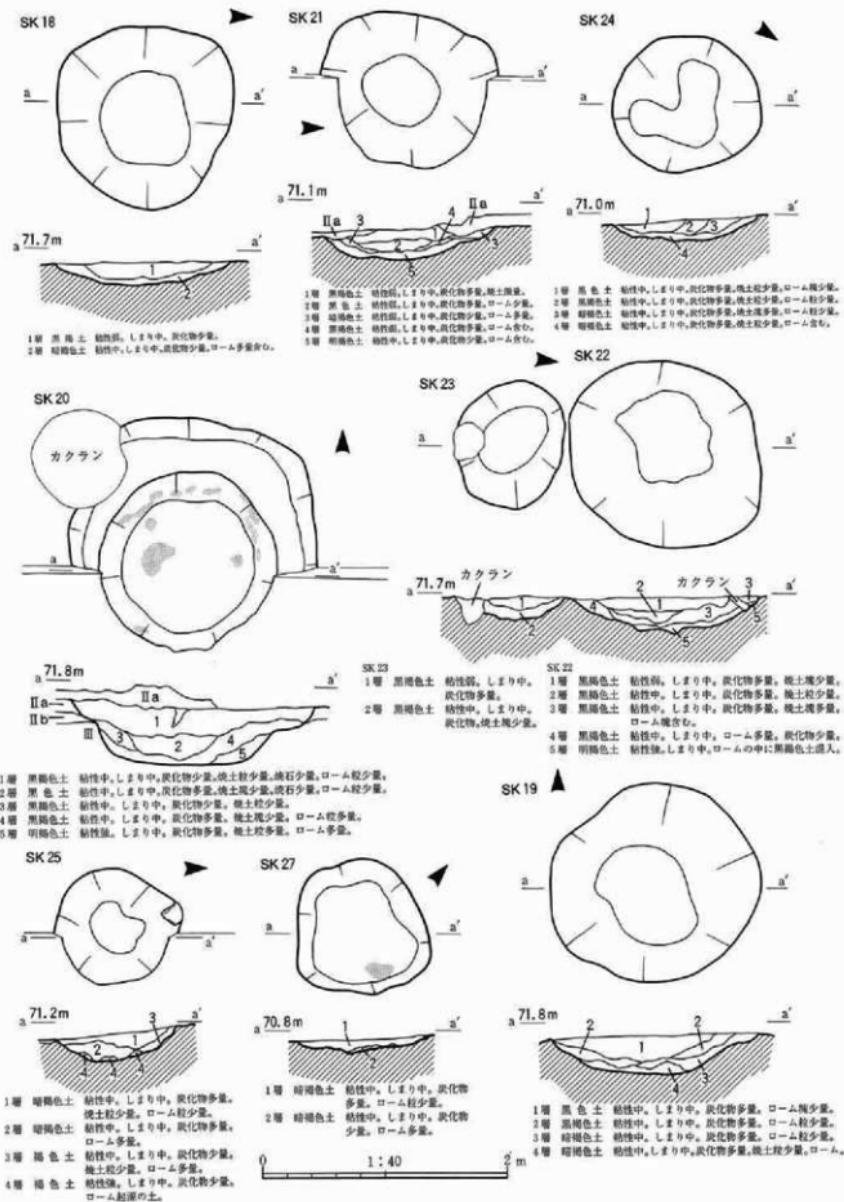
0 1 : 2 (86・87) 5 cm

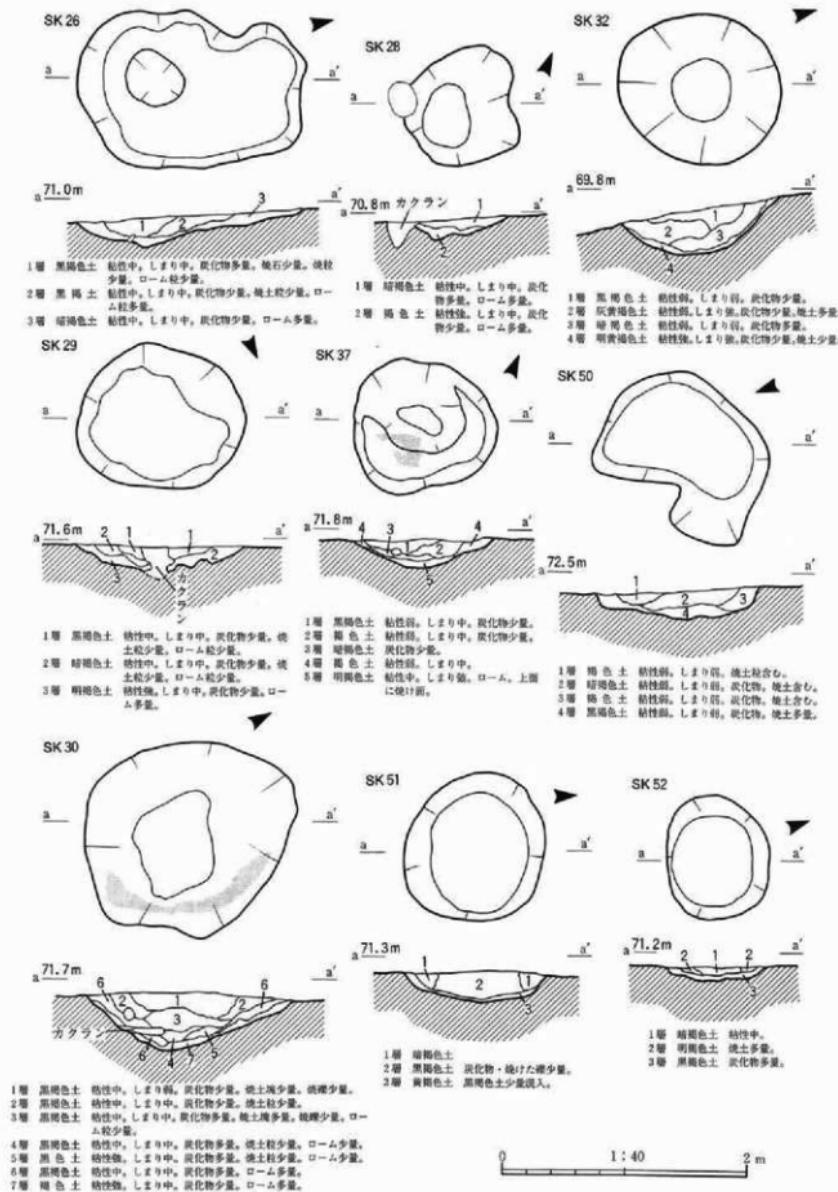
0 1 : 3 (84・85) 10 cm

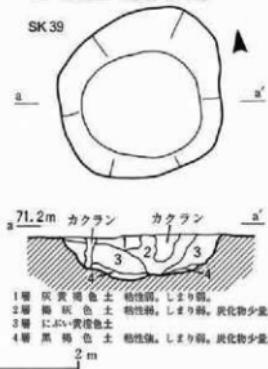
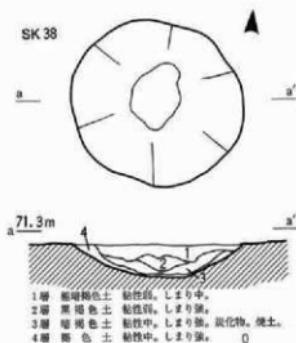
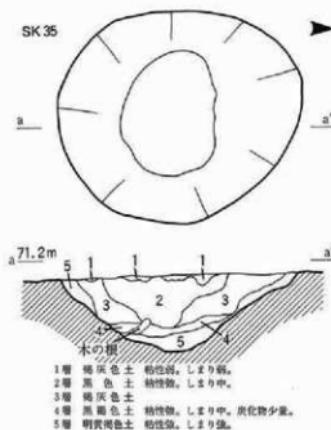
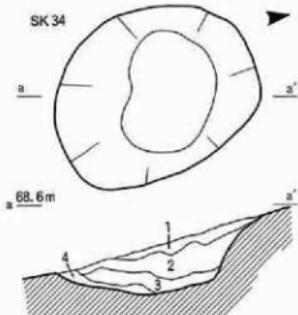
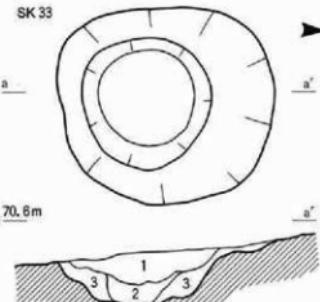
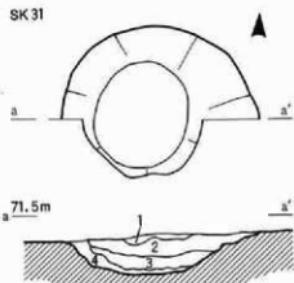


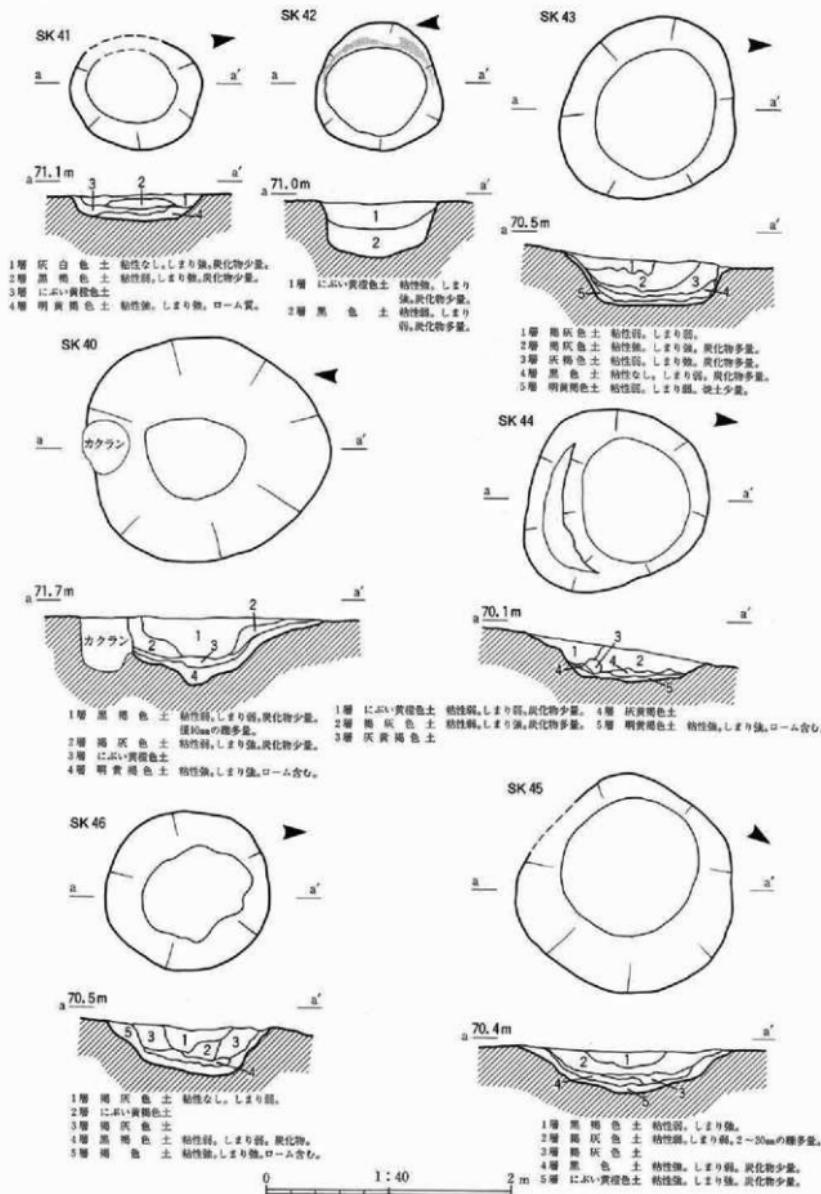


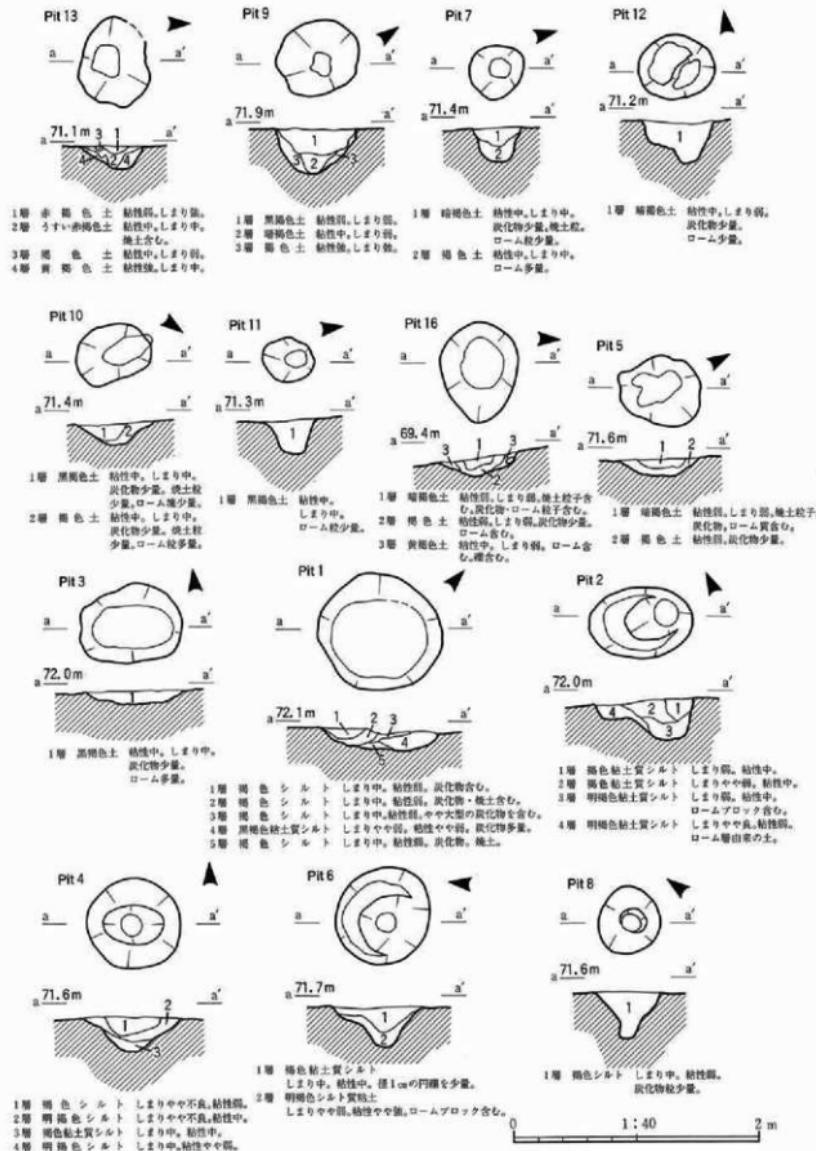














1. 造跡遠景（北東から）



2. 造跡遠景（西から）

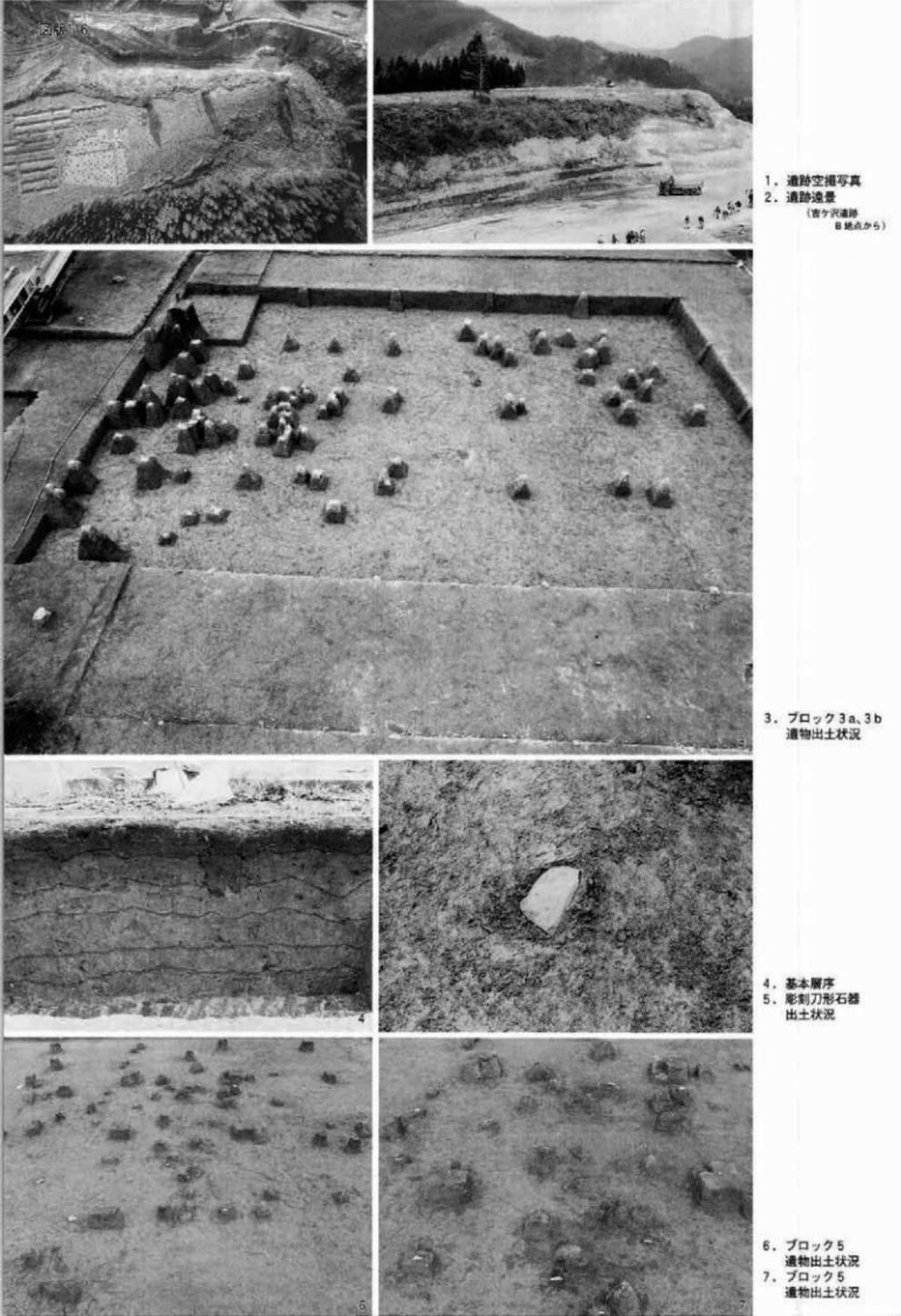
2



3. 上ノ平遺跡
C 地点遠景(西から)
4. 吉ヶ沢遺跡
B 地点遠景(西から)



3





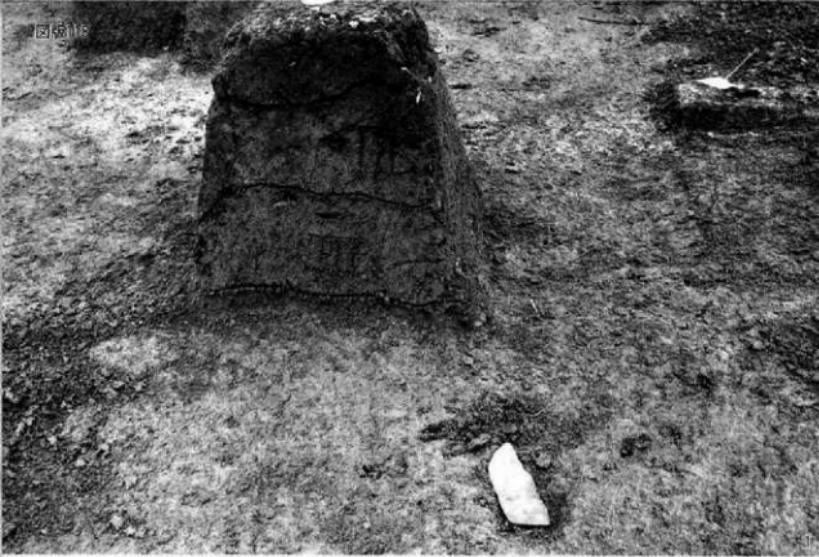
1. ブロック4
遺物出土状況



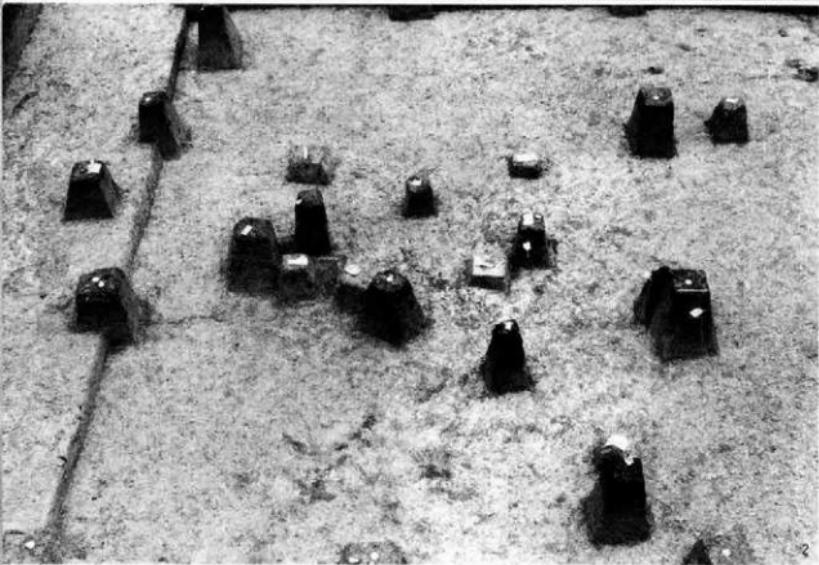
2. ブロック7a
遺物出土状況



3. ブロック7b
遺物出土状況



1. 彩刻刀形石器
出土状况



2. ブロック 8
遺物出土状況



3. 石刃出土状況
4. 東地区発掘状況



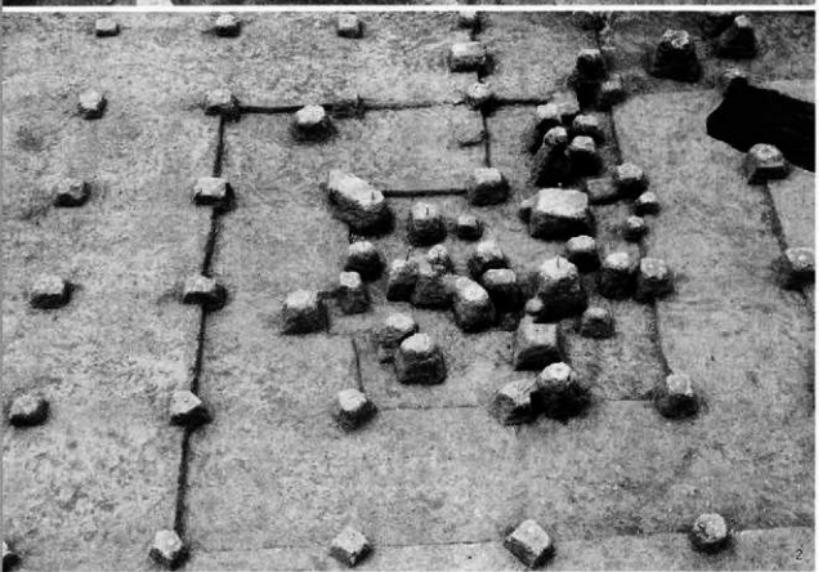
1. ブロック1 IIa層
遺物出土状況



2. ブロック1
遺物出土状況



3. ブロック1
遺物出土状況



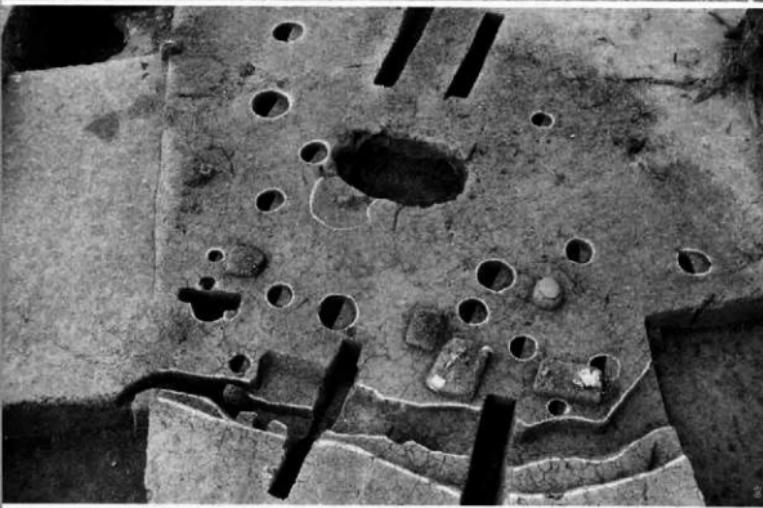
3. ブロック9
遺物出土状況

4. ブロック6
尖頭器出土状況





1. SI 1 检出状况



2. SI 1 完掘状况



3



3. SI 1 土层断面
4. SI 1 Pit 1 断面



5



5. SI 1 Pit 2 断面
6. SI 1 Pit 3 断面

6

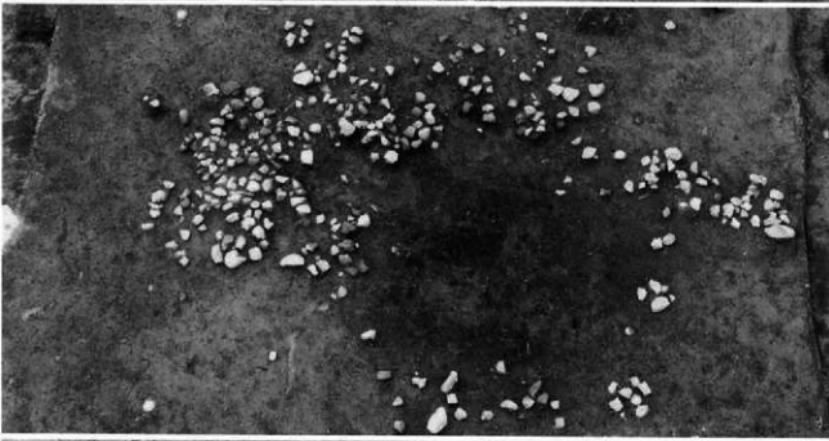
1. Pit 15
土器出土状况
2. 東地区新石器
出土状况



3. 1号集石遗構

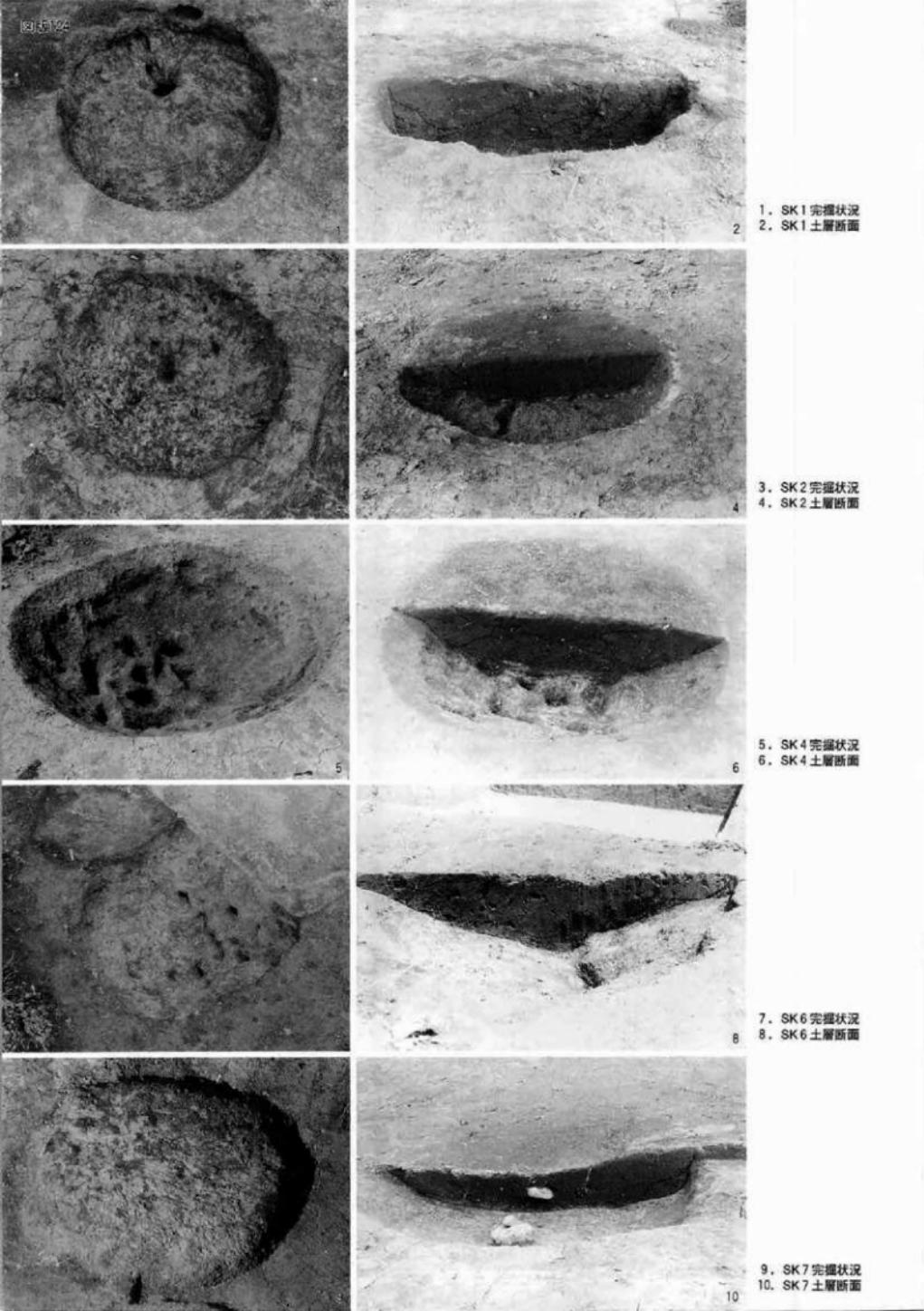


4. 2号集石遗構



5. 3号集石遗構





1. SK1 完掘状況
2. SK1 土層断面

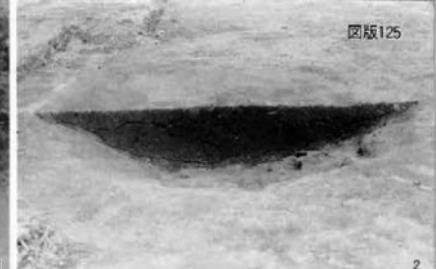
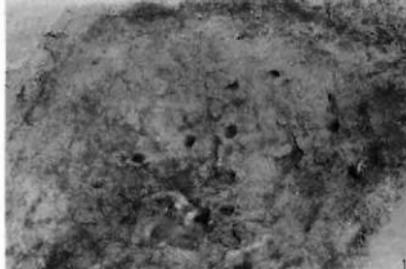
3. SK2 完掘状況
4. SK2 土層断面

5. SK4 完掘状況
6. SK4 土層断面

7. SK6 完掘状況
8. SK6 土層断面

9. SK7 完掘状況
10. SK7 土層断面

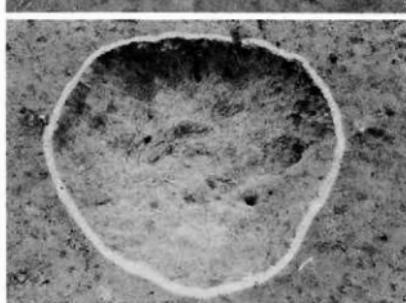
1. SK14完掘状況
2. SK14土層断面



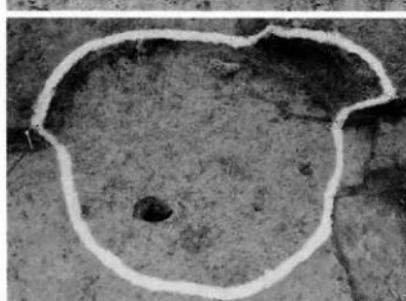
3. SK17完掘状況
4. SK17土層断面



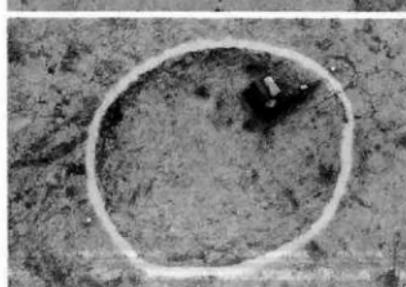
5. SK18完掘状況
6. SK18土層断面

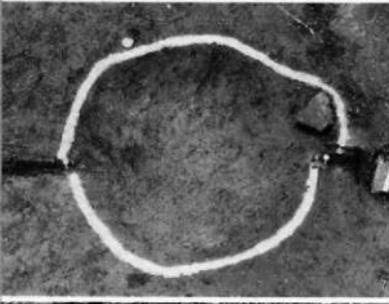
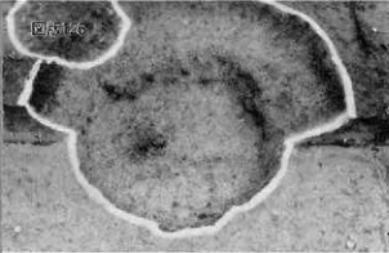
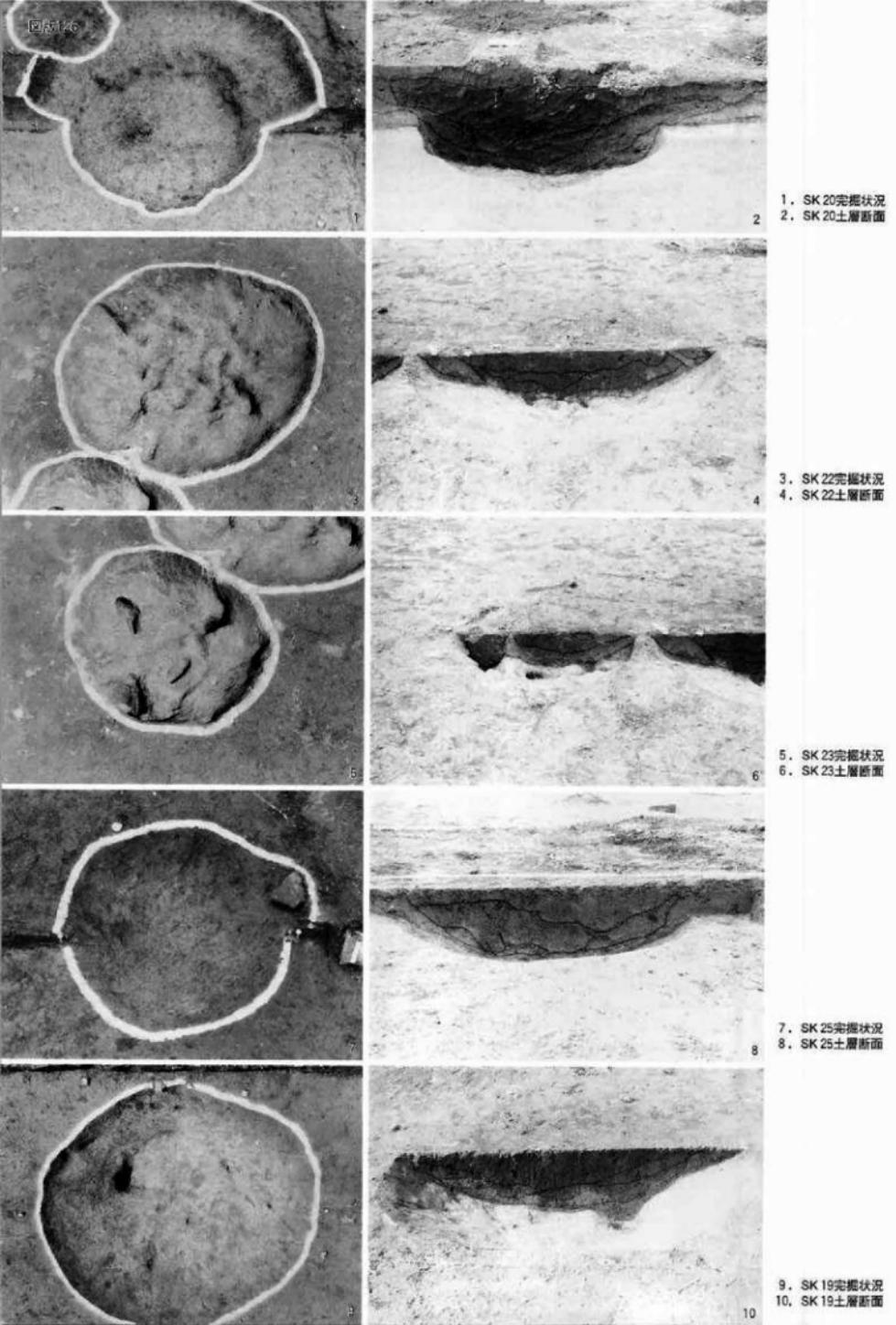


7. SK21完掘状況
8. SK21土層断面

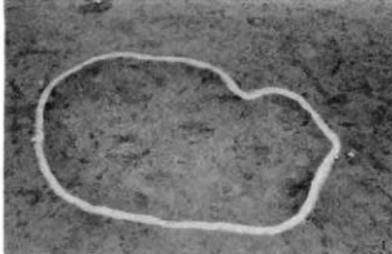


9. SK24完掘状況
10. SK24土層断面

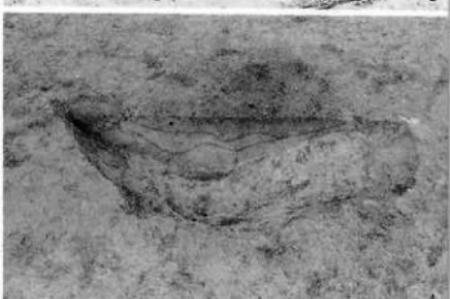
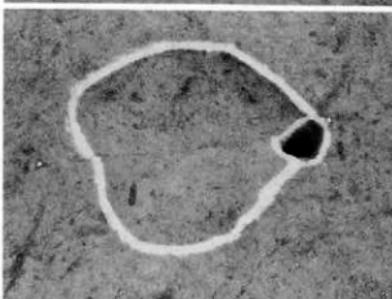




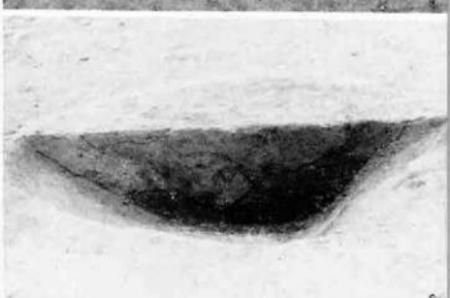
1. SK 26完掘状况
2. SK 26土層斷面



3. SK 28完掘状况
4. SK 28土層斷面



5. SK 32完掘状况
6. SK 32土層斷面

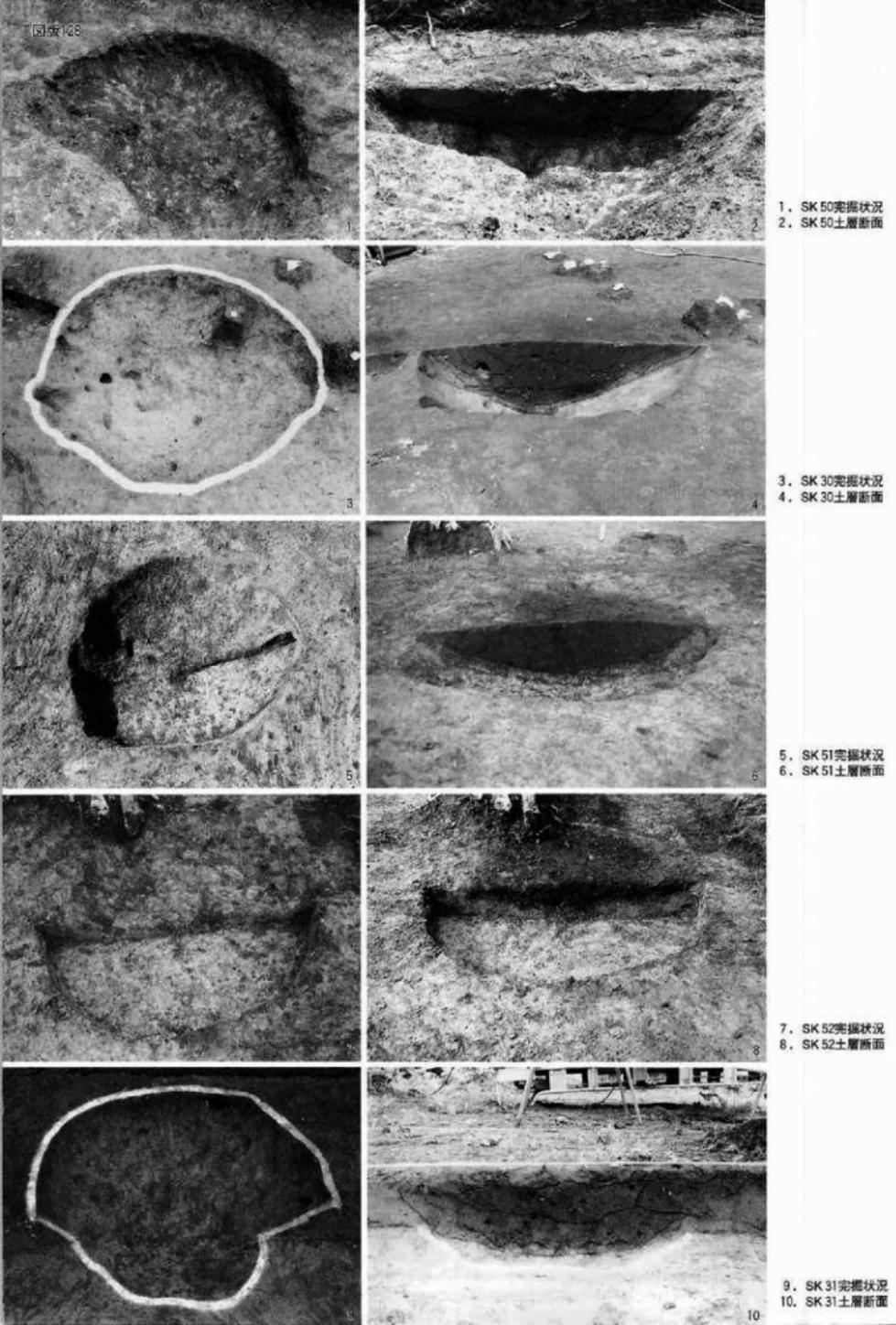


7. SK 29完掘状况
8. SK 29土層斷面



9. SK 37完掘状况
10. SK 37土層斷面





1. SK 50完掘状况

2. SK 50土層断面

3. SK 30完掘状况

4. SK 30土層断面

5. SK 51完掘状况

6. SK 51土層断面

7. SK 52完掘状况

8. SK 52土層断面

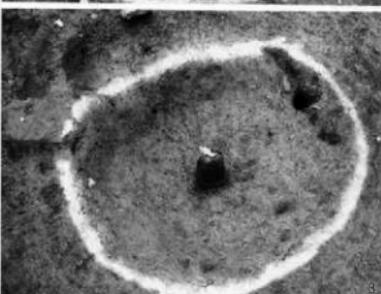
9. SK 31完掘状况

10. SK 31土層断面

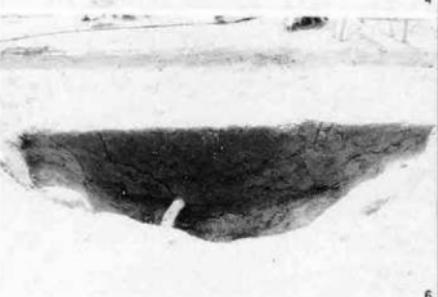
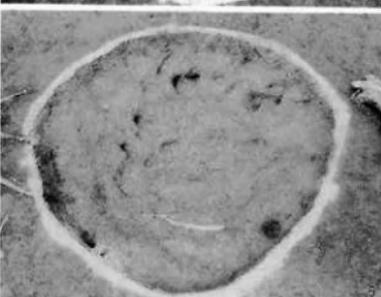
1. SK 33完掘状况
2. SK 33土層斷面



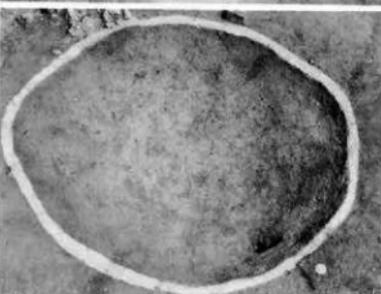
3. SK 34完掘状况
4. SK 34土層斷面



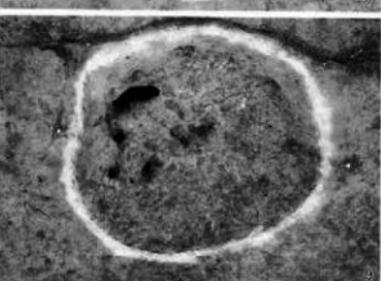
5. SK 35完掘状况
6. SK 35土層斷面

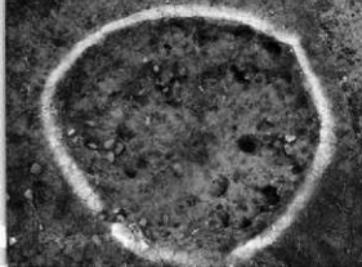
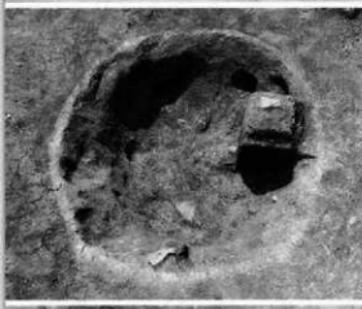
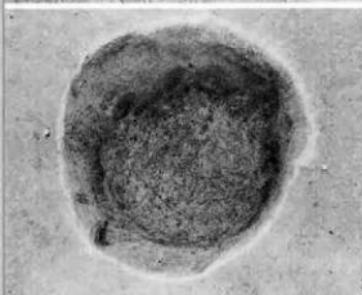


7. SK 38完掘状况
8. SK 38土層斷面



9. SK 39完掘状况
10. SK 39土層斷面

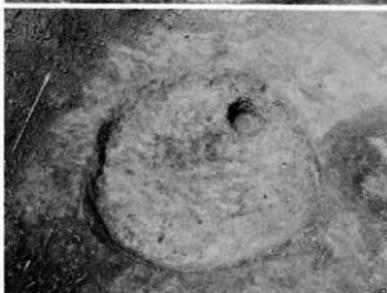




1. SK 45 完掘状況
2. SK 45 土層断面



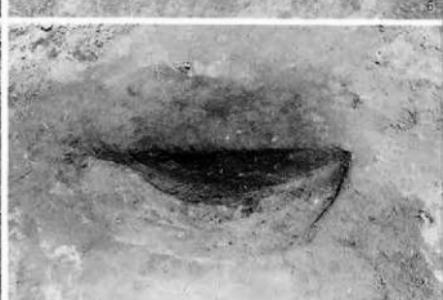
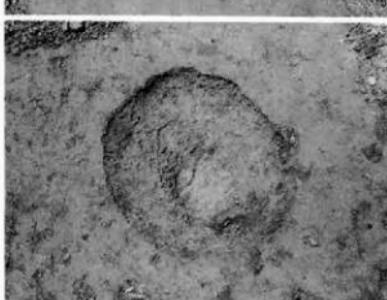
3. Pit 1 完掘状況
4. Pit 1 土層断面



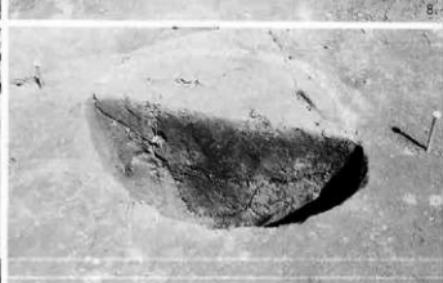
5. Pit 2 完掘状況
6. Pit 2 土層断面

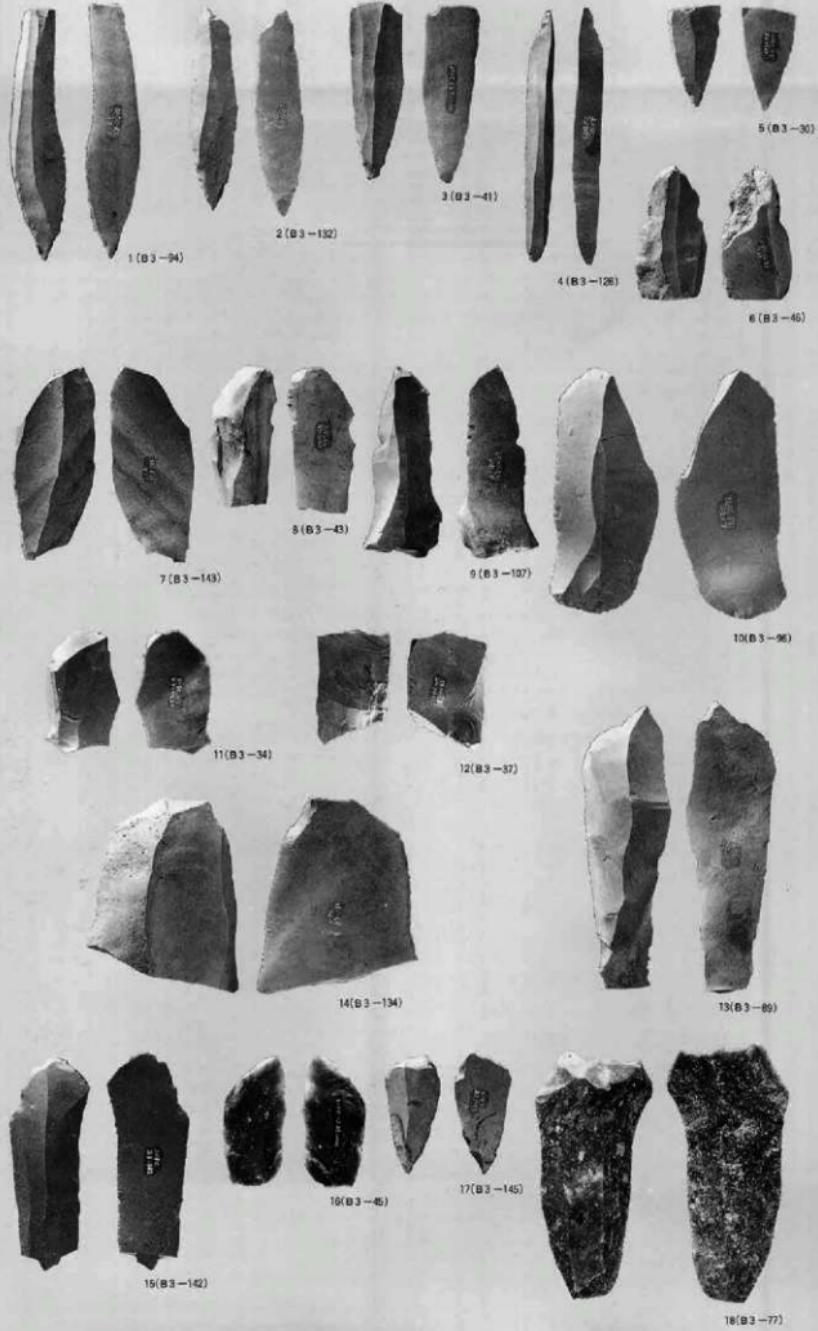


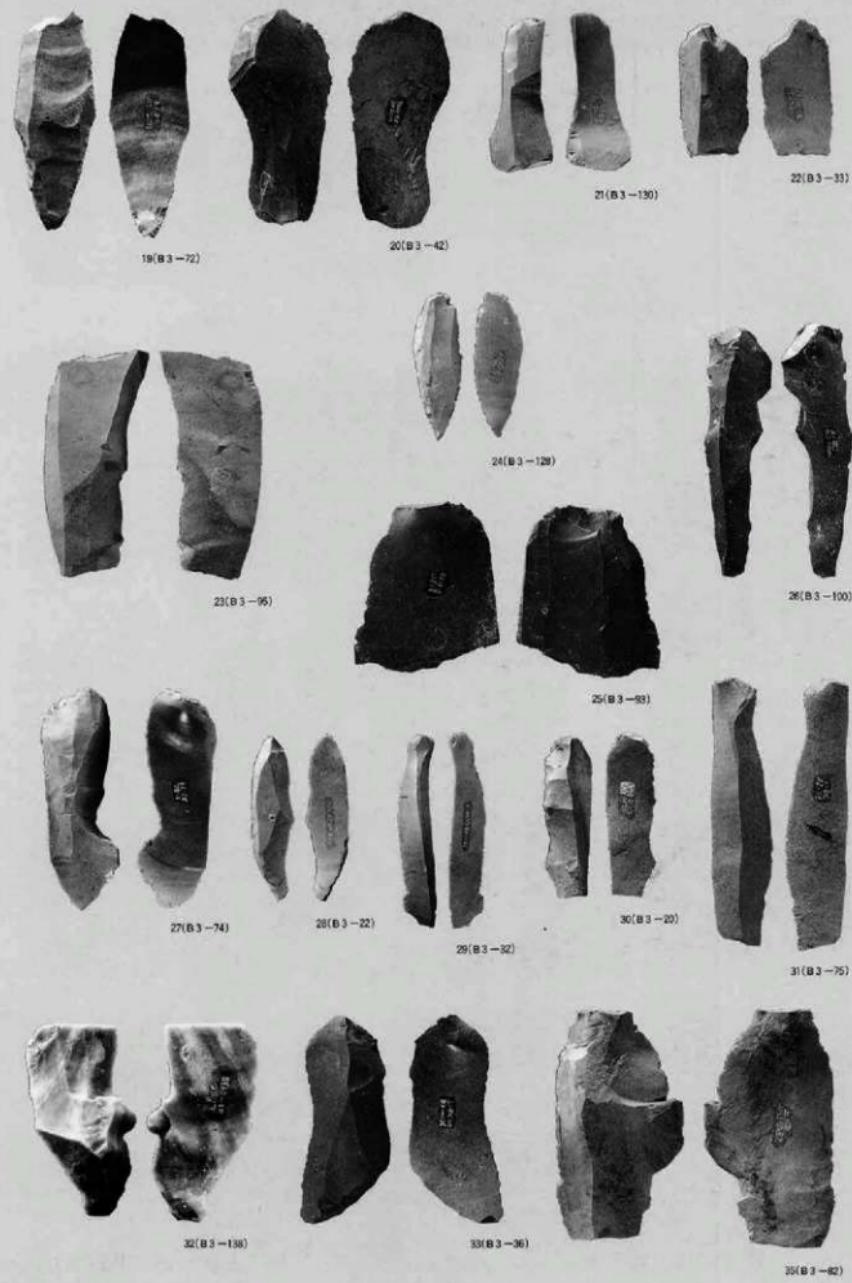
7. Pit 4 完掘状況
8. Pit 4 土層断面



9. Pit 9 完掘状況
10. Pit 9 土層断面





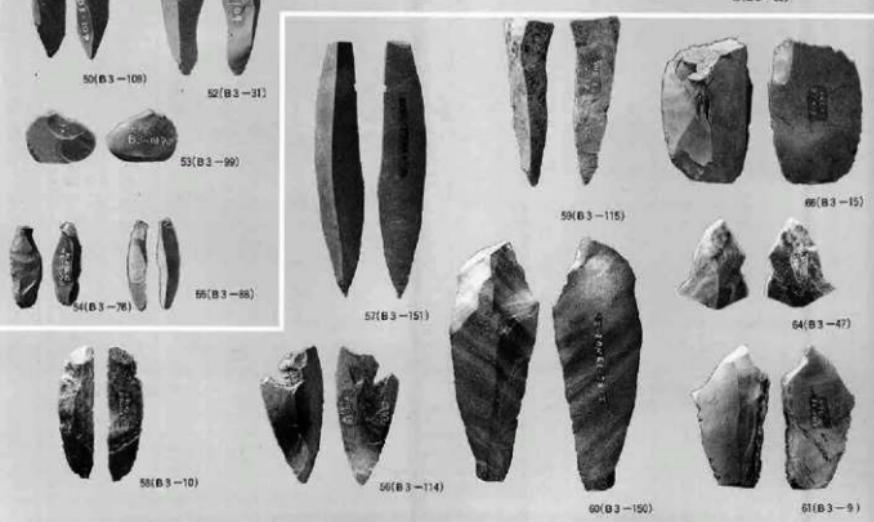


34~44 2:3

45~55 1:1



2:3

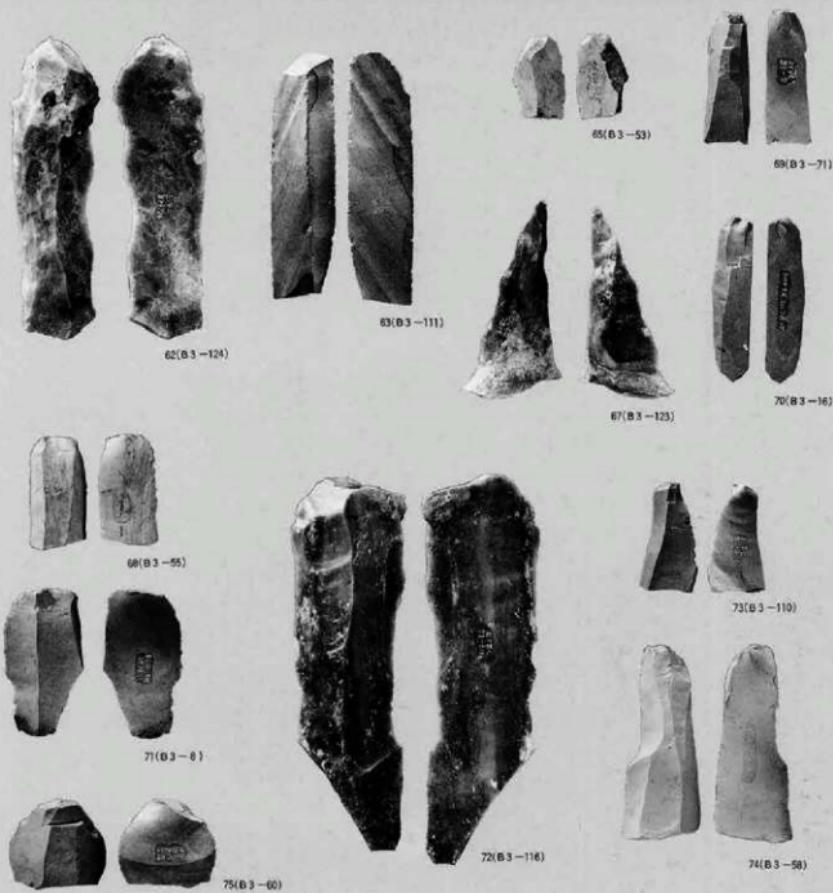


ブロック3b

出土石器

62~75 2:3

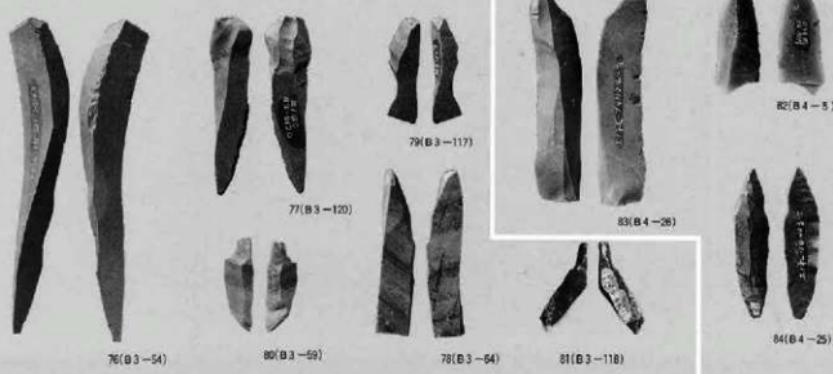
76~81 1:1

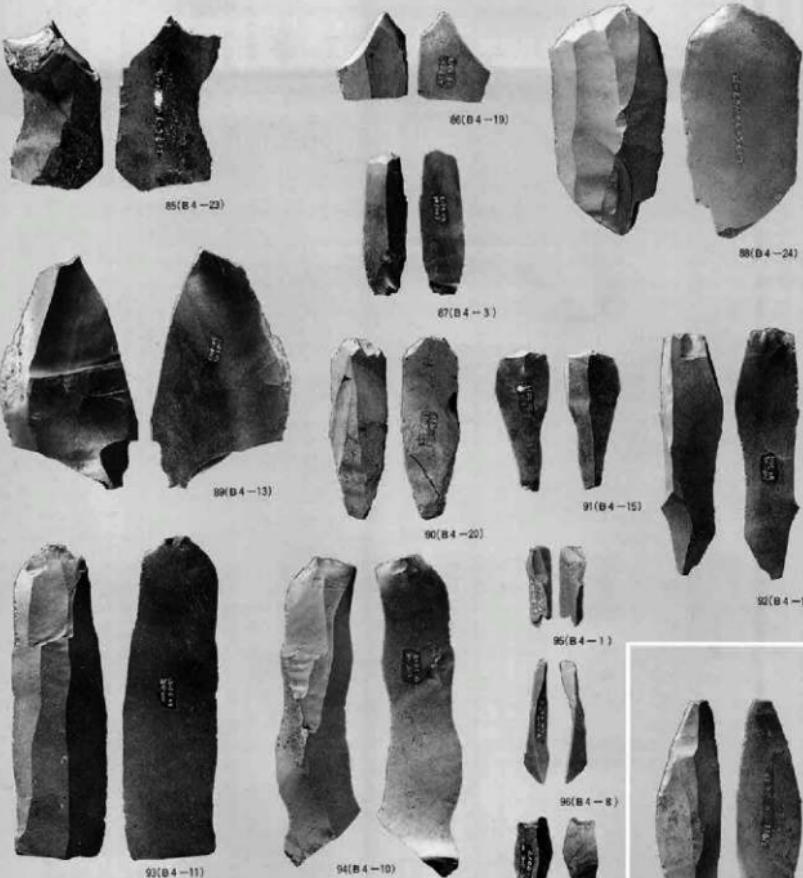


ブロック4

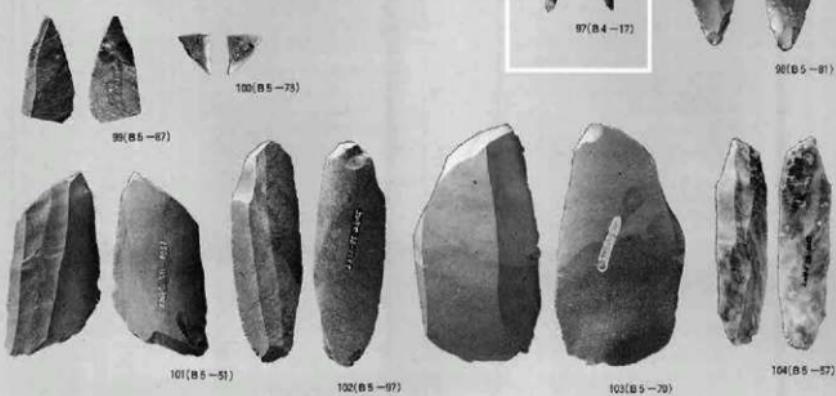
出土石器

82~84 2:3



85~94 2:3
95~97 1:1

98~104 2:3





105(B5-82)



106(B5-10)



107(B5-47)



108(B5-9)



109(B5-45)



110(B5-198)



112(B5-1)



110(B5-89)



113(B5-30)



114(B5-12)



116(B5-54)



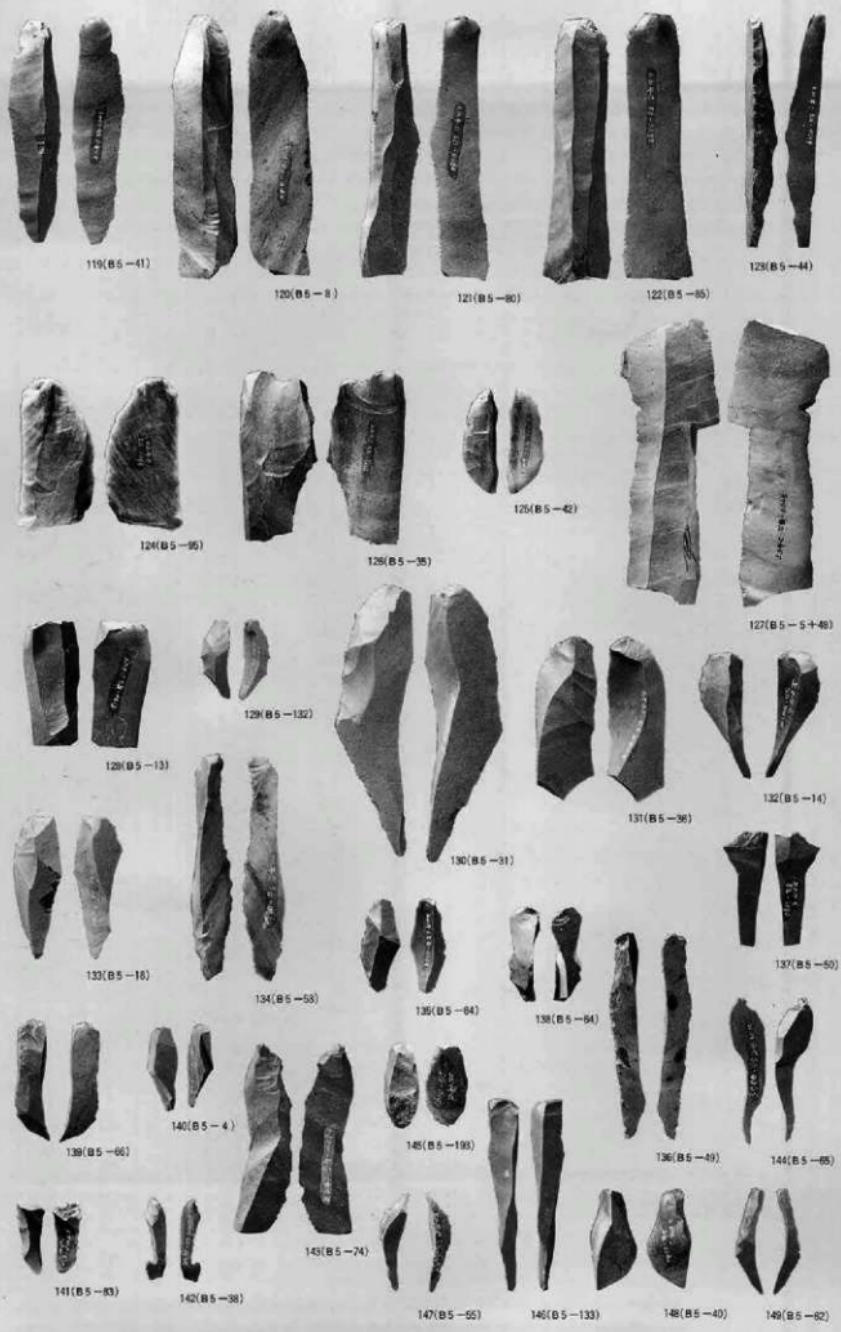
115(B5-77)



117(B5-22)



118(B5-43)



ブロック5

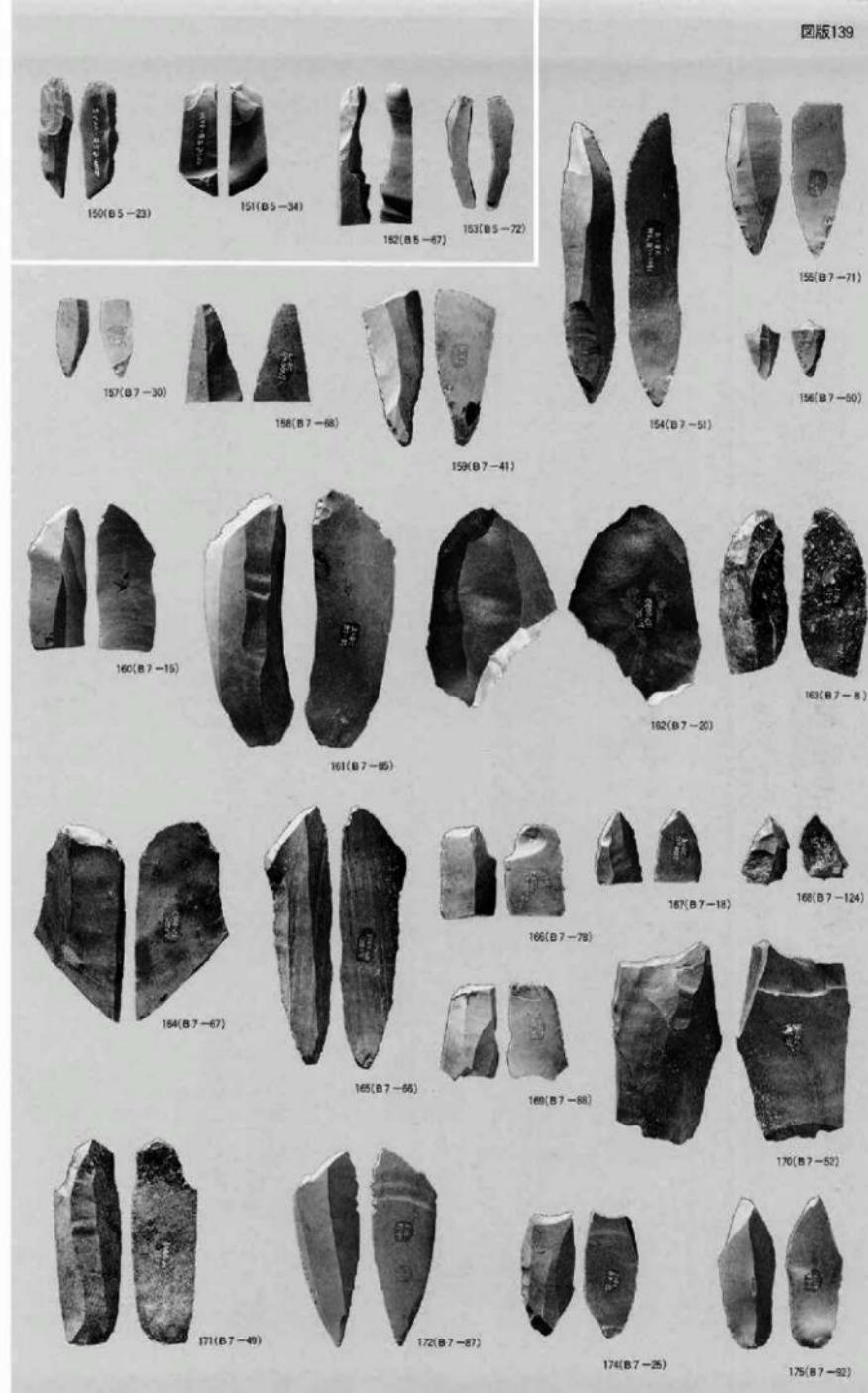
出土石器

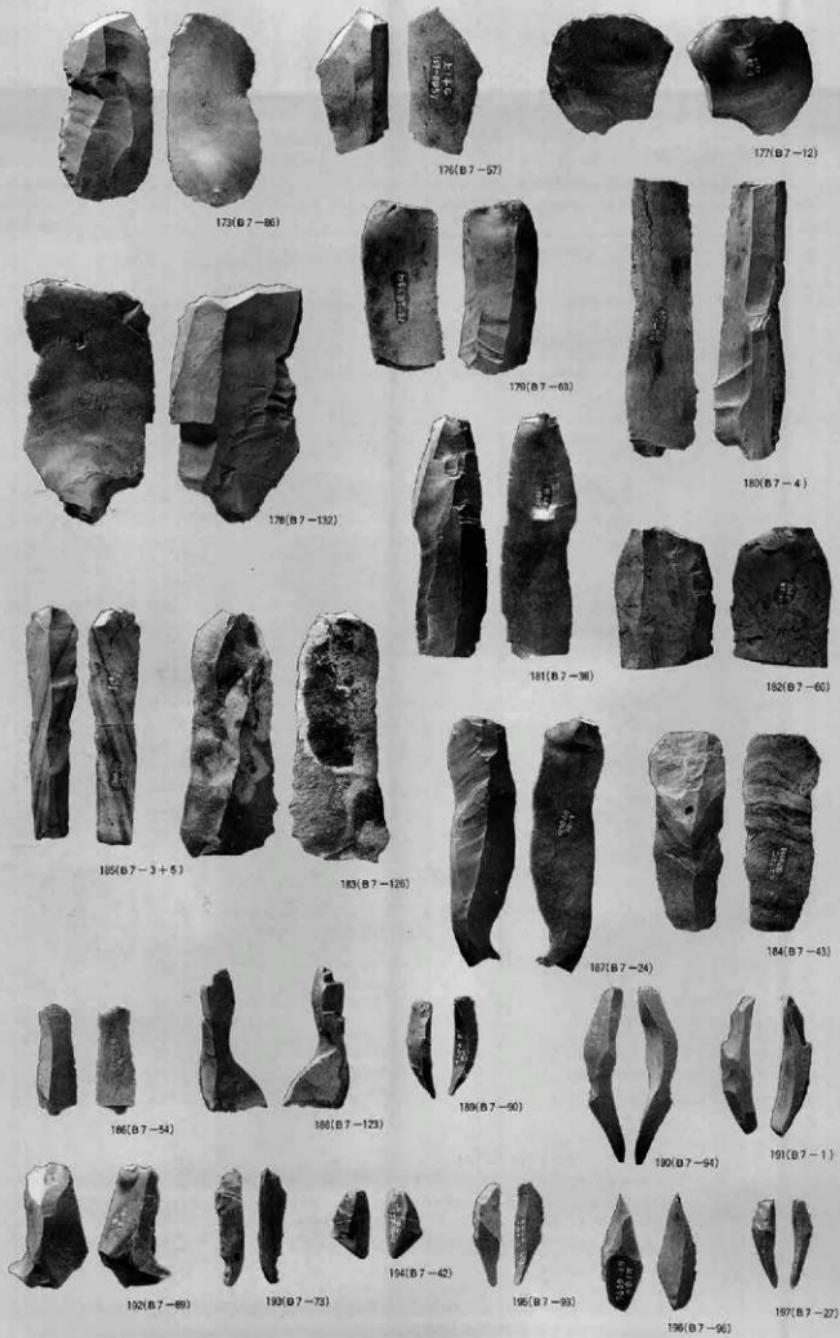
150~153 1:1

ブロック7a

出土石器

154~175 2:3





ブロック7a

出土石器

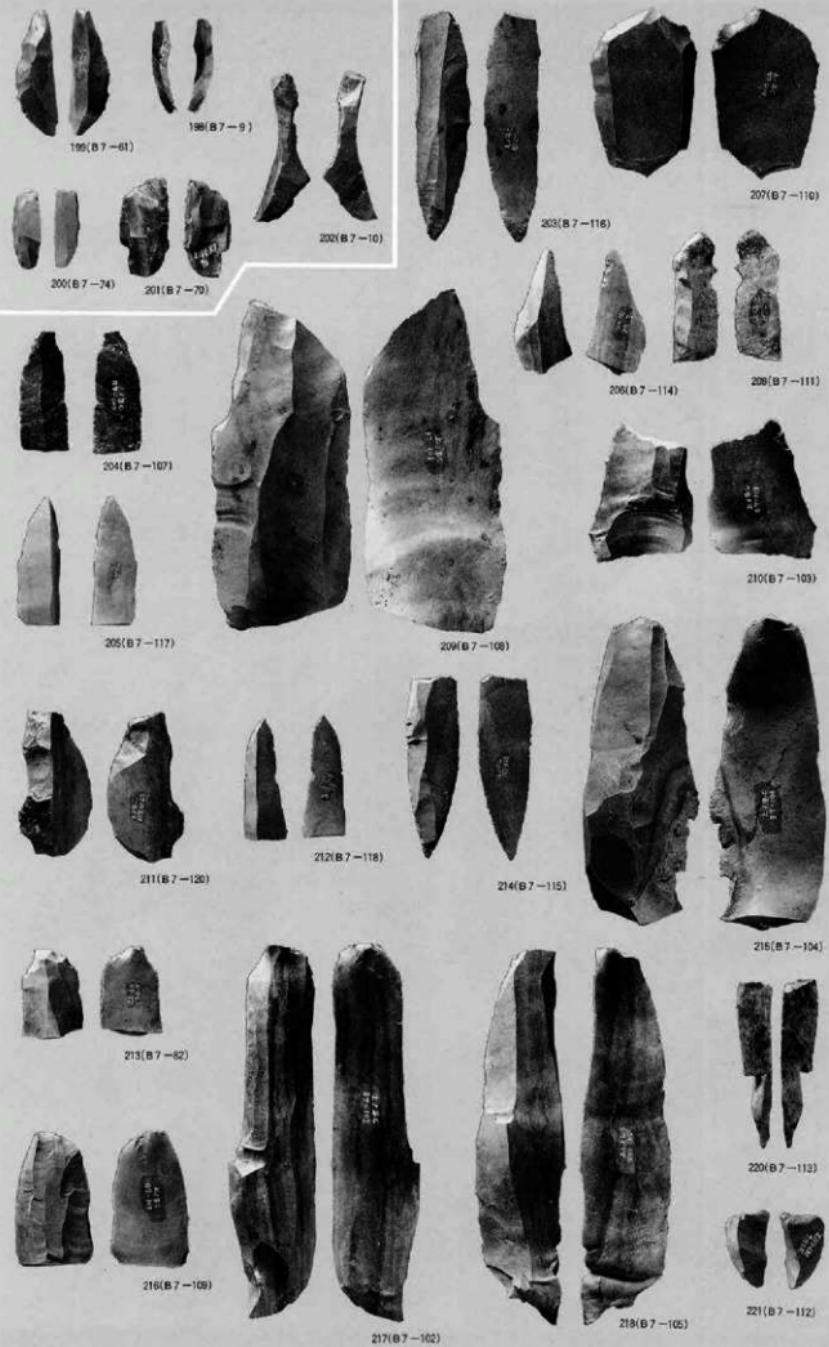
198~202 1:1

ブロック7b

出土石器

203~218 2:3

220~221 1:1



ブロック7b

出土石器

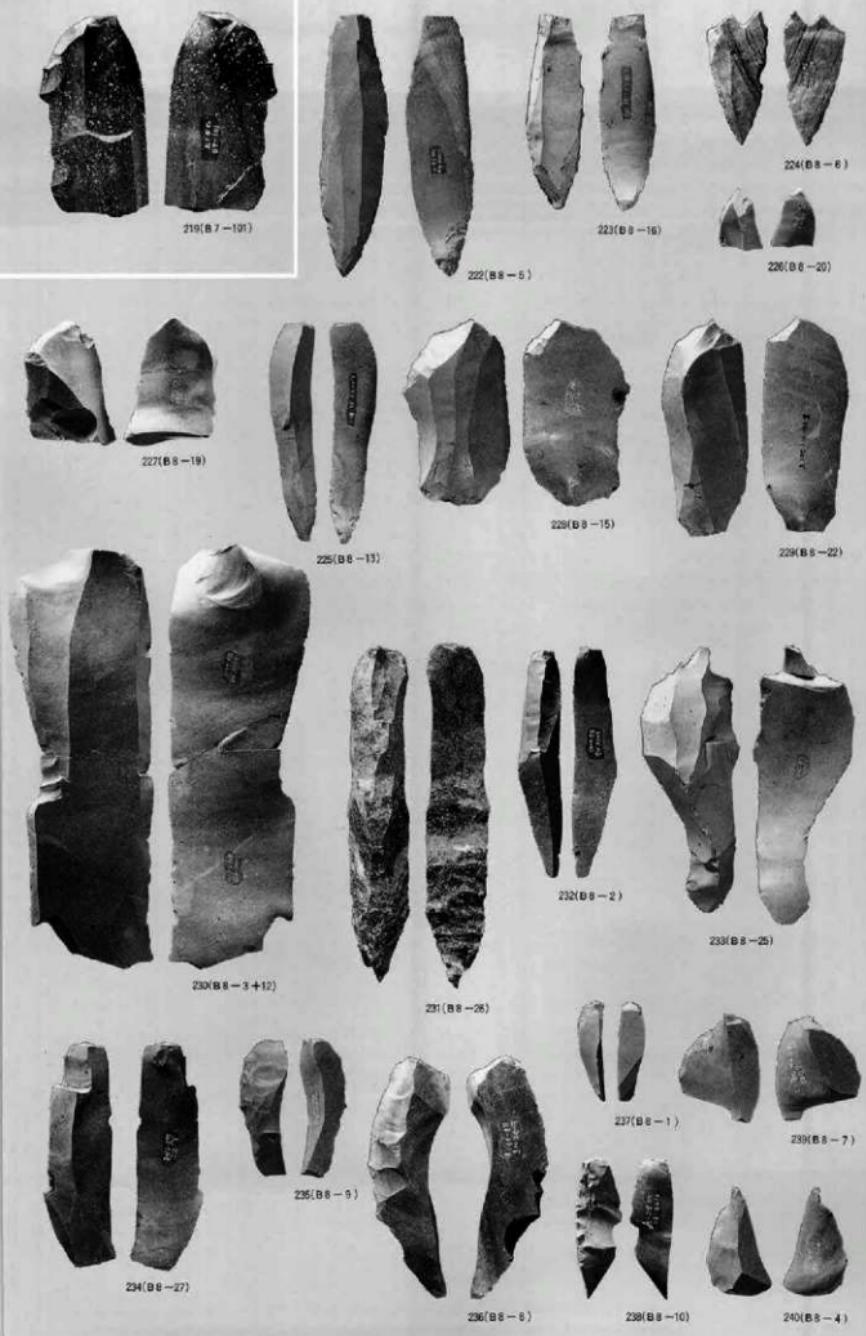
219 2:3

ブロック8

出土石器

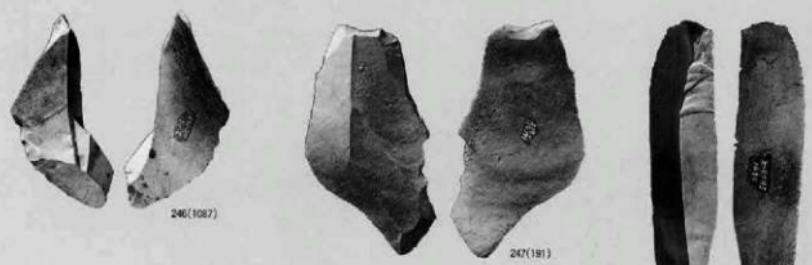
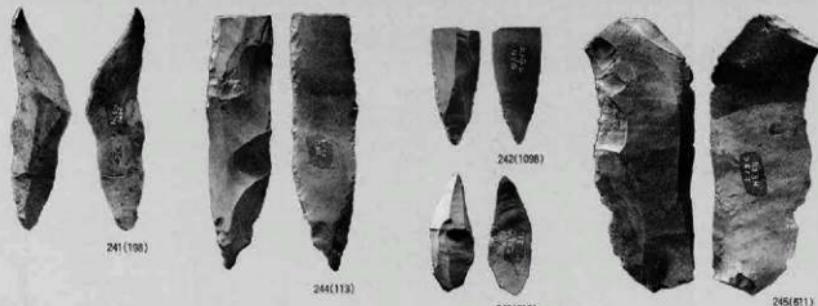
222~234 2:3

235~240 1:1



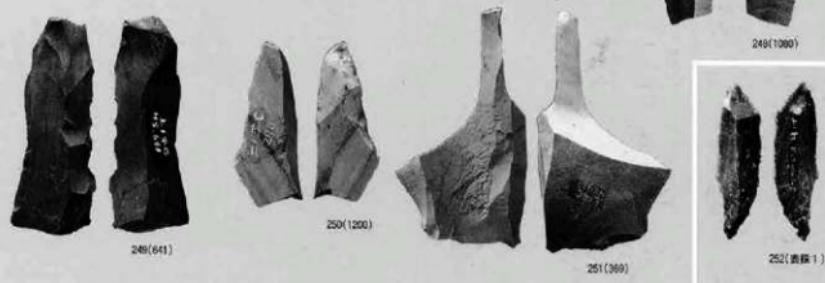
ブロック外
出土石器

241~248 2:3
249~251 1:1



表面採集石器

252~258 2:3

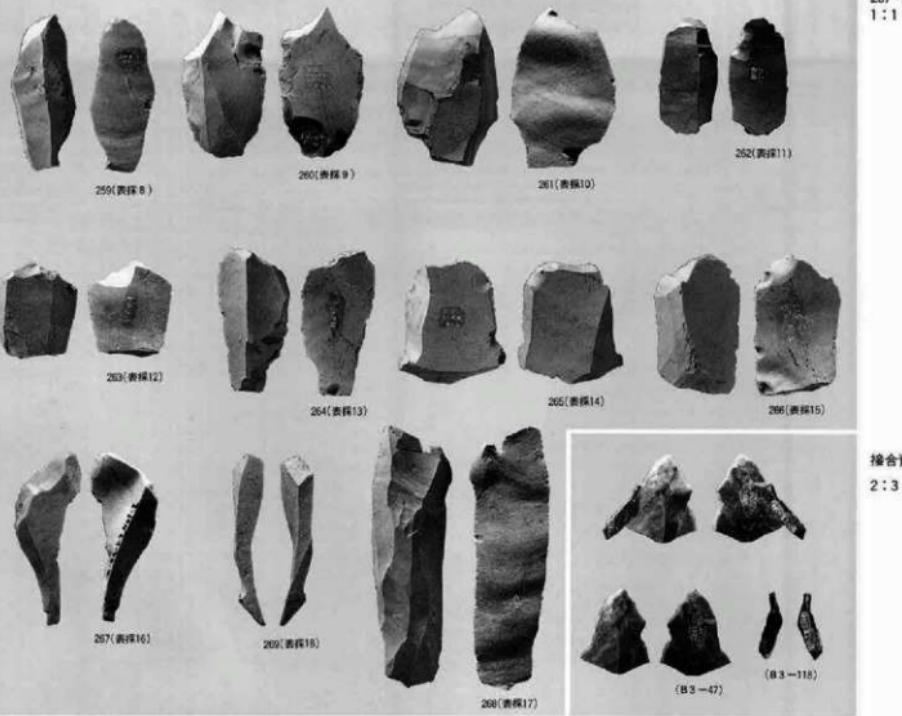


259~266・269

2:3

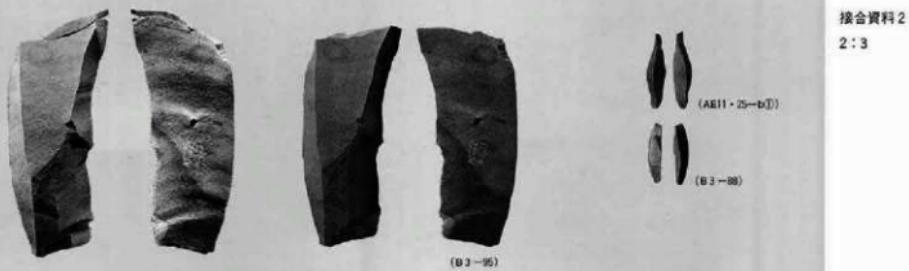
267・268

1:1



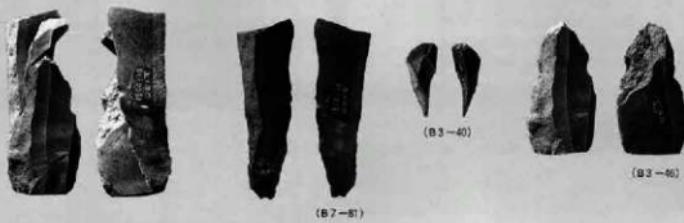
接合資料1

2:3



接合資料2

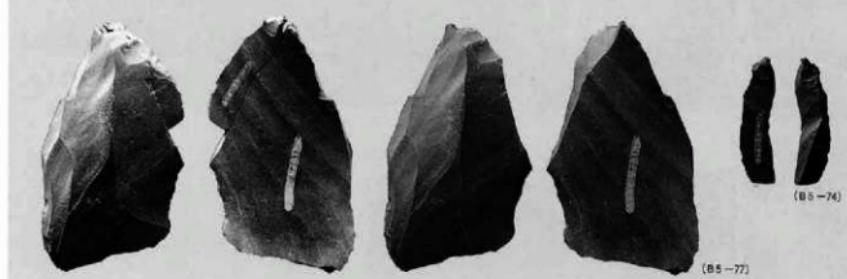
2:3





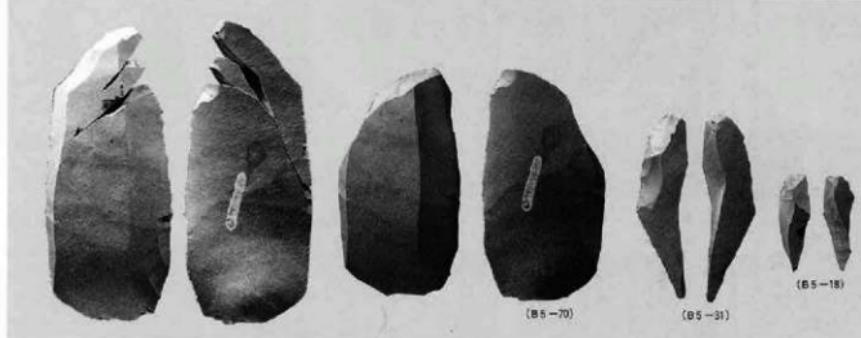
接合資料5

2:3



接合資料6

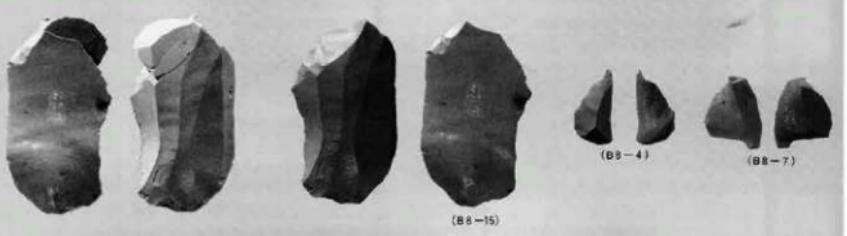
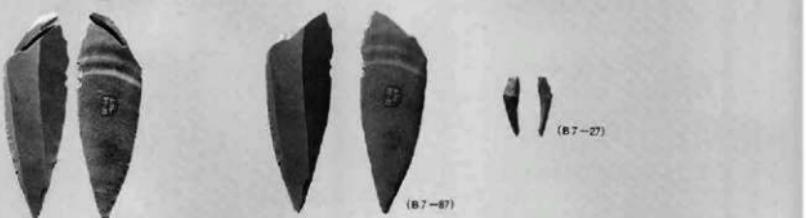
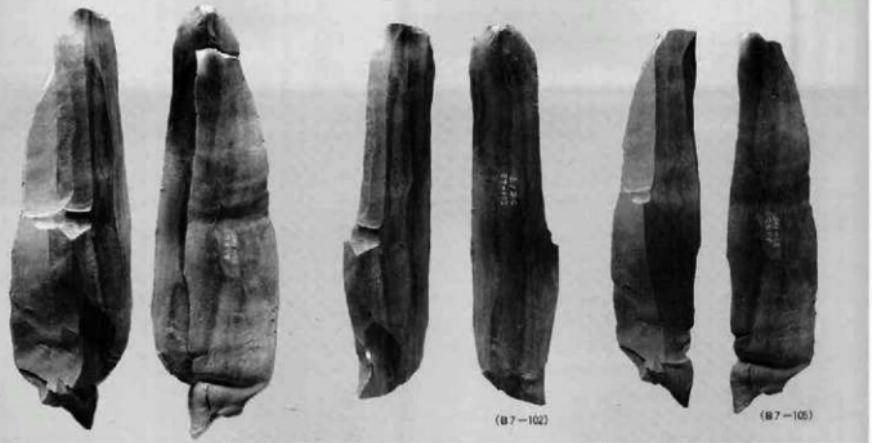
2:3

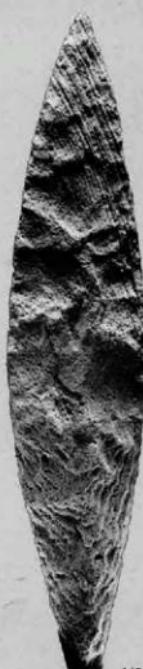
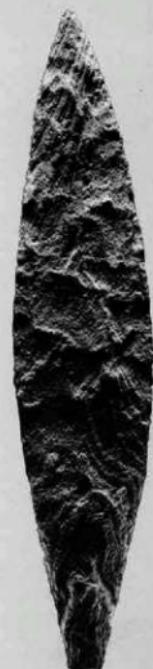


接合資料7

2:3







2 (B 9-22)



3 (B 9)



4 (B 1-312)



5 (B 1-616)



6 (B 1-109)



6 (B 1-679)



7 (B 1-325)



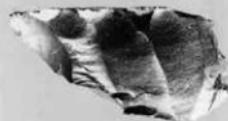
8 (B 1-485)



10(B1-544)



11(B1-522)



12(B1-533)



13(B1-561)

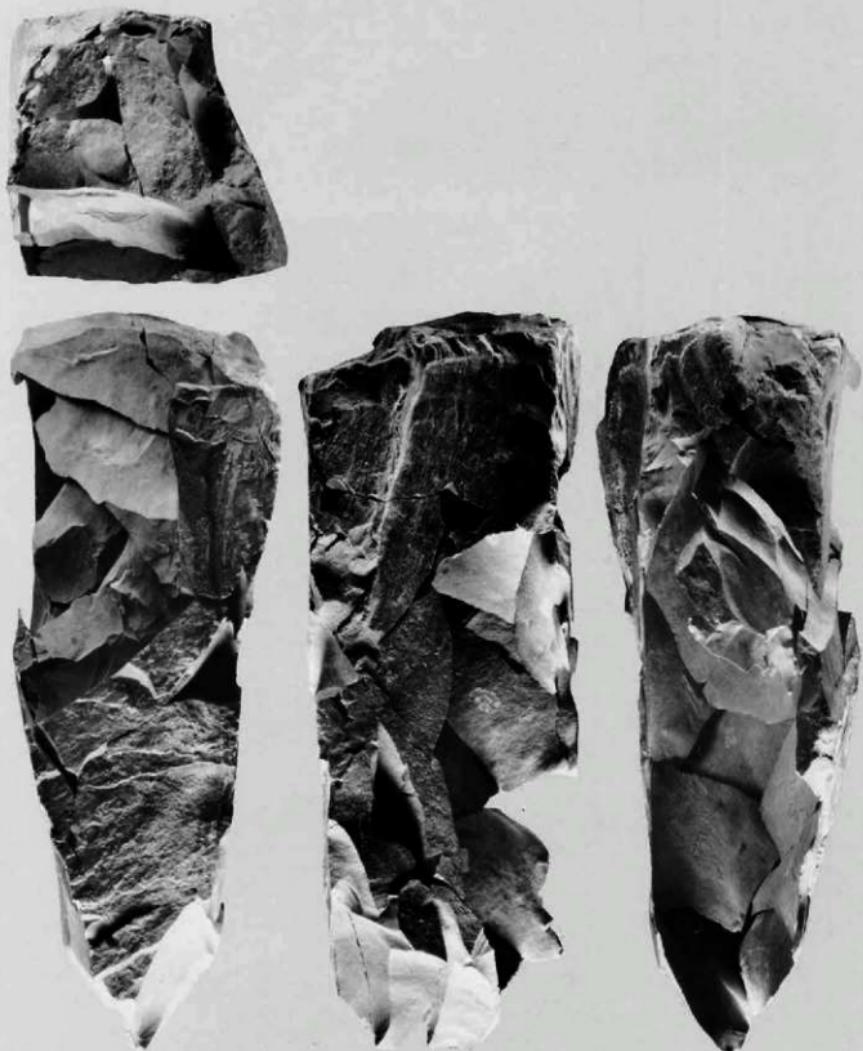


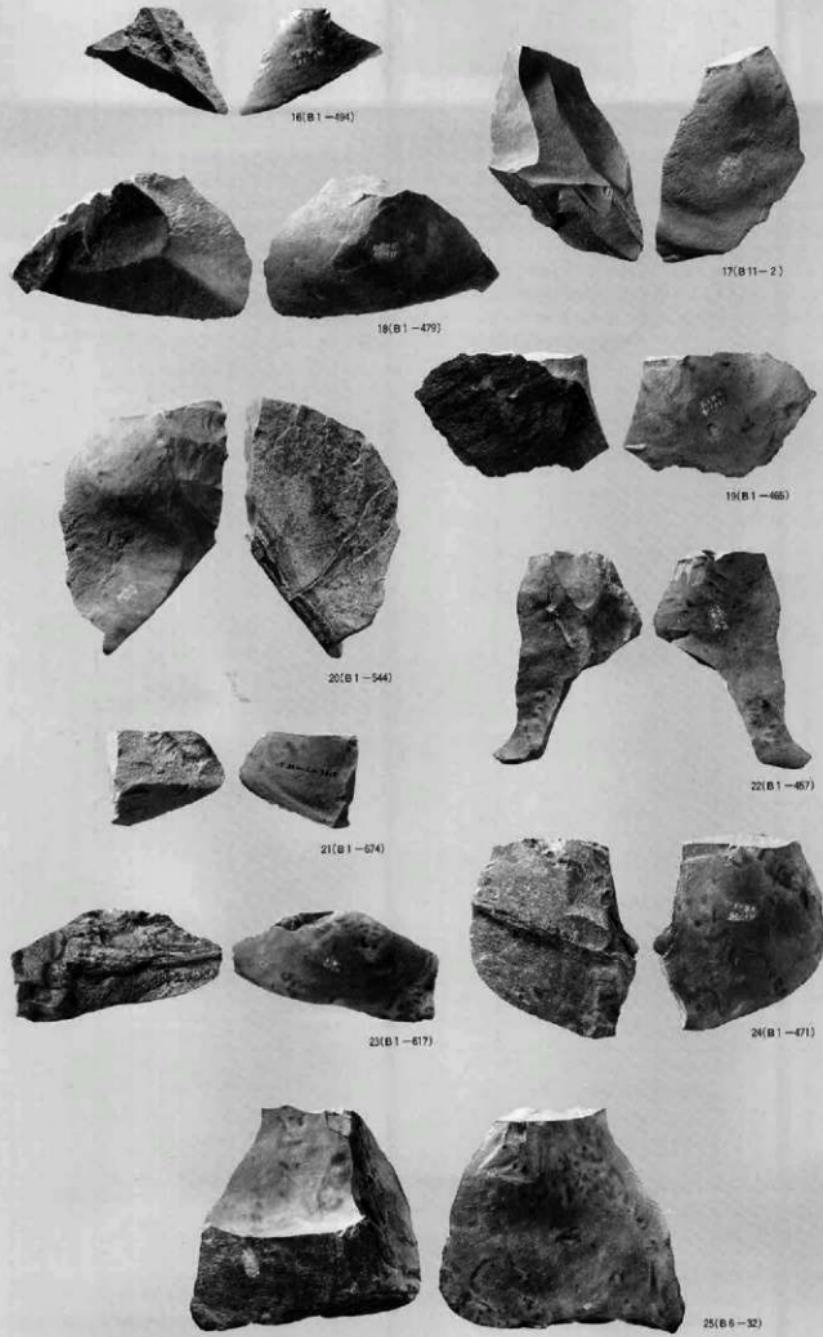
14(B1-832)

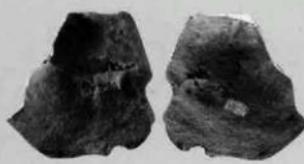
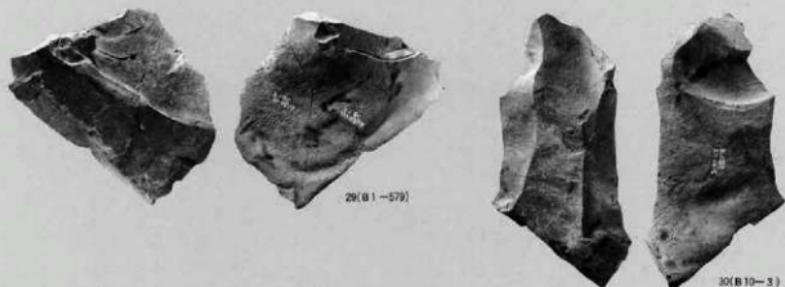
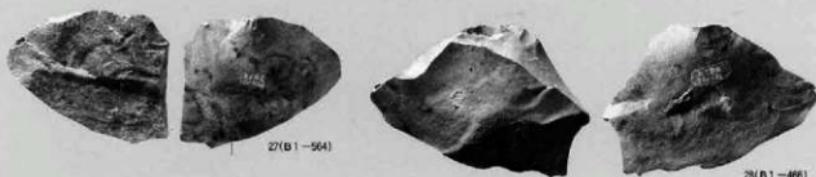
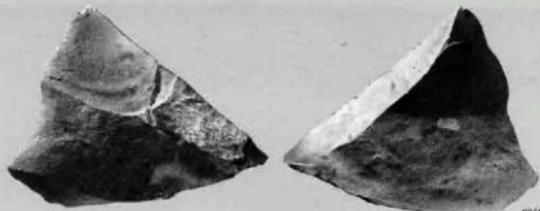


15(B6-34)











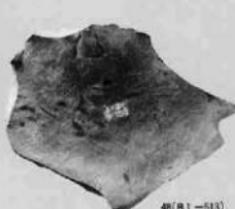
1:2



46(B1-481)



47(B1-660)



48(B1-513)



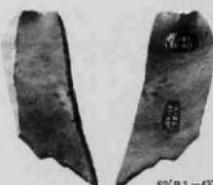
49(B10-1)



50(B1-476)



51(B1-219)



52(B1-437+451)

53(B1-177)



54(B1-184)



55(B1-590)



56(B1-103)



57(B1-599)

58(B10-2)

59(B11-4)

母巻 1



母器 1



接合資料 2

繩文時代草創期
母器 1

1:2



接合資料 2 個体 1



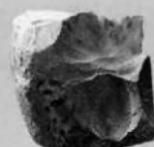
61(B1-676)



62(B1-610)



63(B1-476)



64(B1-889)

繩文時代草創期
母器 1

1:2

繩文時代草創期
接合資料 2

1:2

1:2



65(B1-402)



66(B1-483)



67(B1-433)



68(B1-473)

1:2



複合資料2個体2



69(B1-400)



70(B1-61)



71(B1-477)

1:2



72(B1-196)



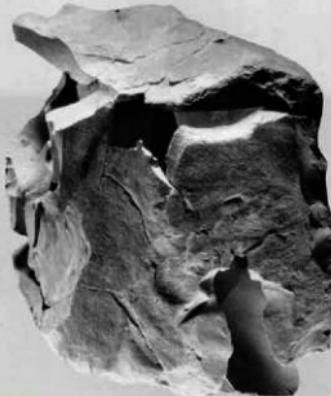
73(B1-470)



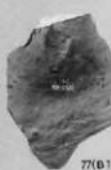
74(B1-468)



75(B1-432)



接合資料3



76(B1-587)

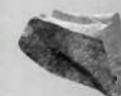
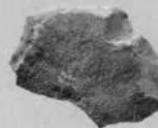
77(B1-521)

78(B1-519)



79(B1-557)

80(B外-183)



81(B1-274)

82(B1-124)

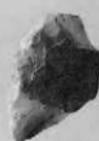


83(B1-523)

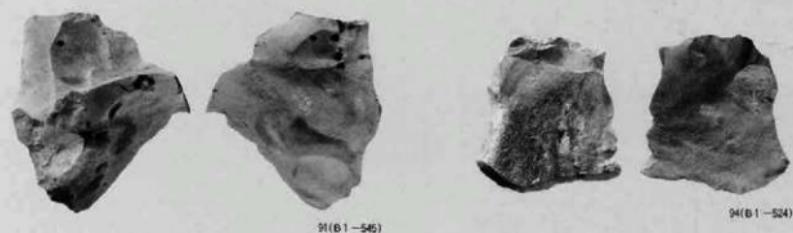
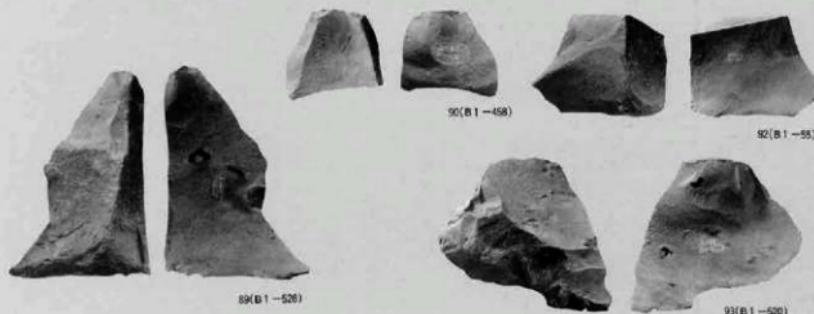
84(B1-454)

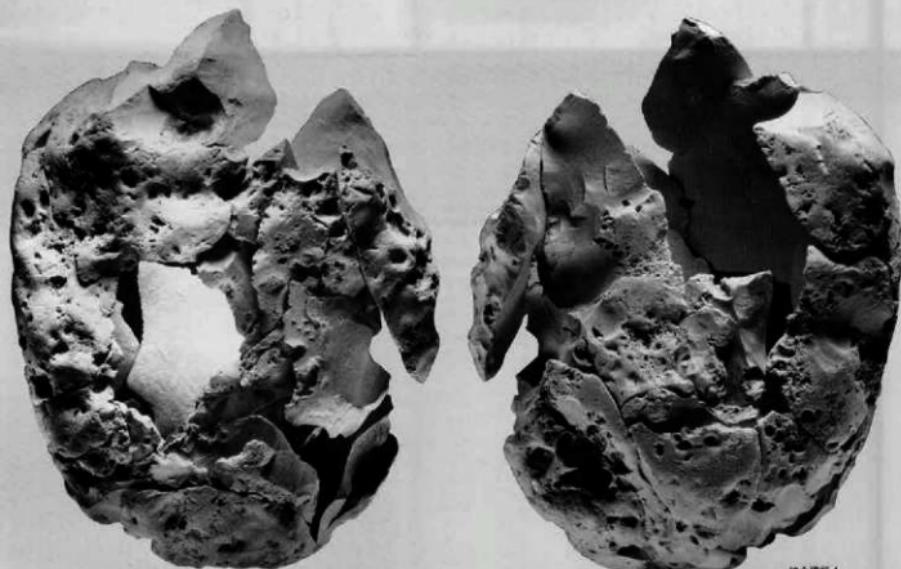


85(B1-568)

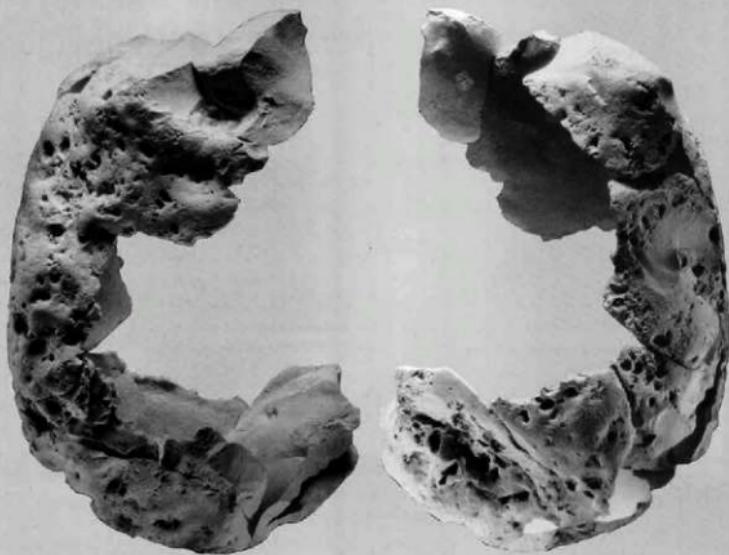


86(B1-127)



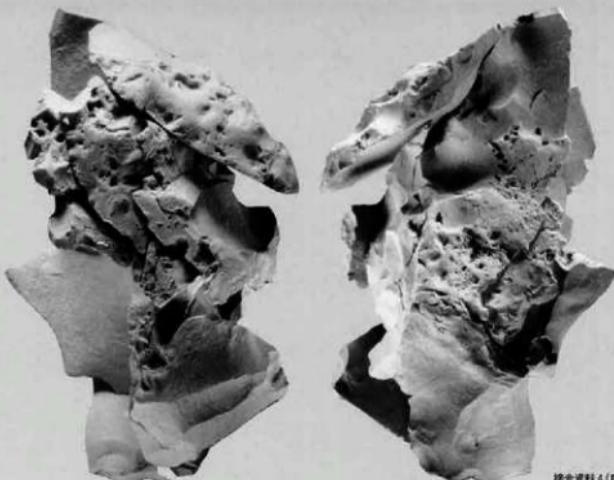


接合資料4



接合資料4(B1-515-B1-309)

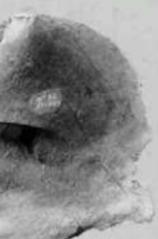
1:2



接着資料 4(B1-348~B6-42)



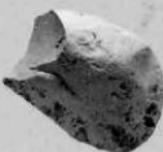
102(B1-515)



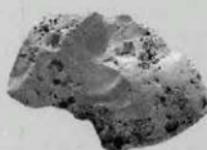
103(B1-497)



104(B1-516)



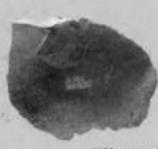
105(B1-613)



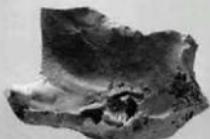
106(B1-508)



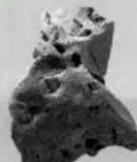
108(B1-192)



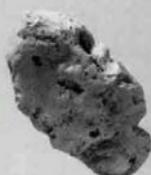
107(B1-630)



109(B1-517)



110(B1-498)



111(B1-502)



112(B1-548)



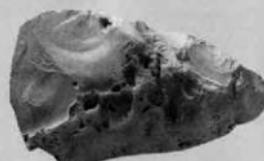
113(B1-285)



114(B1-231)



115(B1-388)



116(B1-500)



117(B1-348)



118(B6-52)



119(B1-100)



120(B1-430)



121(B1-455)



122(B1-504+658)



123(B1-509)

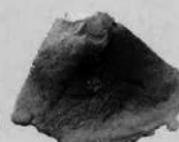
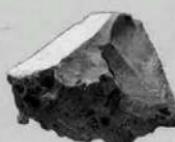
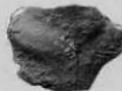


124(B 1-511)



125(B 6-44)

126(B 1-532+534)



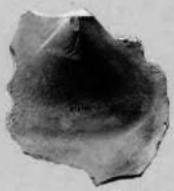
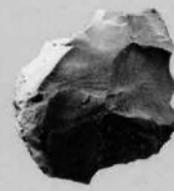
127(B 1-457)

128(B 1-60)



129(B 1-60)

130(B 6-42)



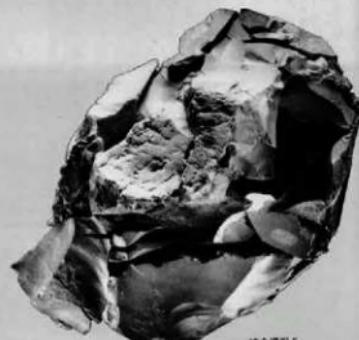
130(B 6-51)

131(B 6-51)



132(B 6-58)

133(B 1-665)



接合資料5



接合資料5個体1



136(B1-246)



137(B1-191)



138(B1-107)



139(B1-292)



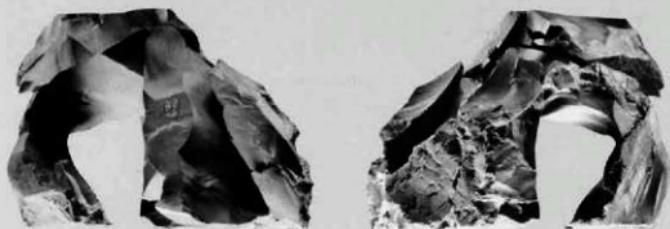
140(B1-426)



141(B1-106)



142(B1-533)



接合資料5個体2



143(B1-510)

144(B1-64)

145(B1-355)



146(B1-561)

147(B1-512)



148(B1-588)

150(B1-405)

151(B1-71)



152(B1-585)

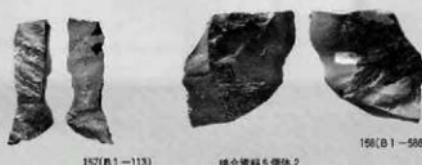
153(B1-4)

154(B1-288)



155(B1-303)

156(B1-98)



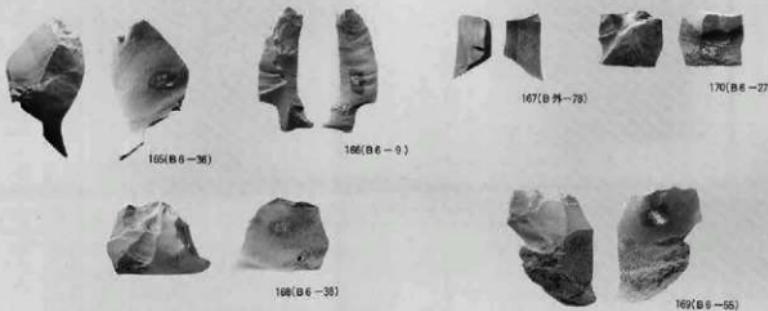
接合資料 5 個体 2

接合資料 6
1:2

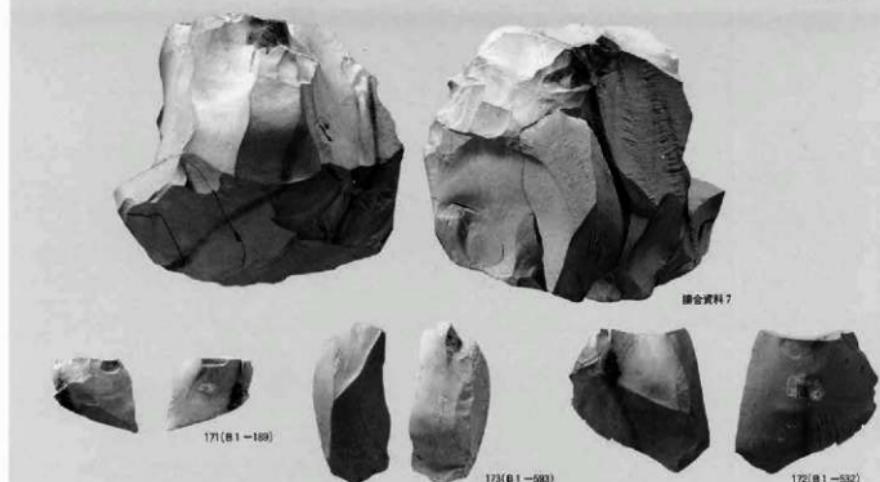
接合資料 6

母岩 5
1:2

164(B6-26)

母岩 6
1:2

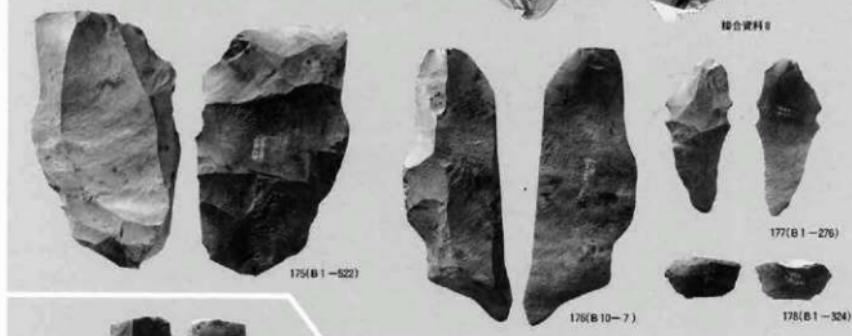
1:2



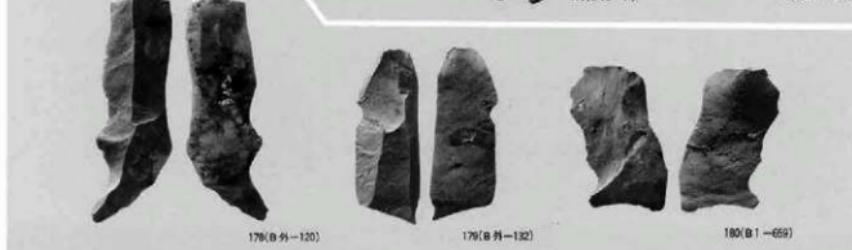
母巻7
1:2



接合資料8
1:2



母岩外
1:2





181(B外-88)



182(B外-1)



183(B外-131)



184(B外-390)



185(B外-614)



1



2



3



4



5

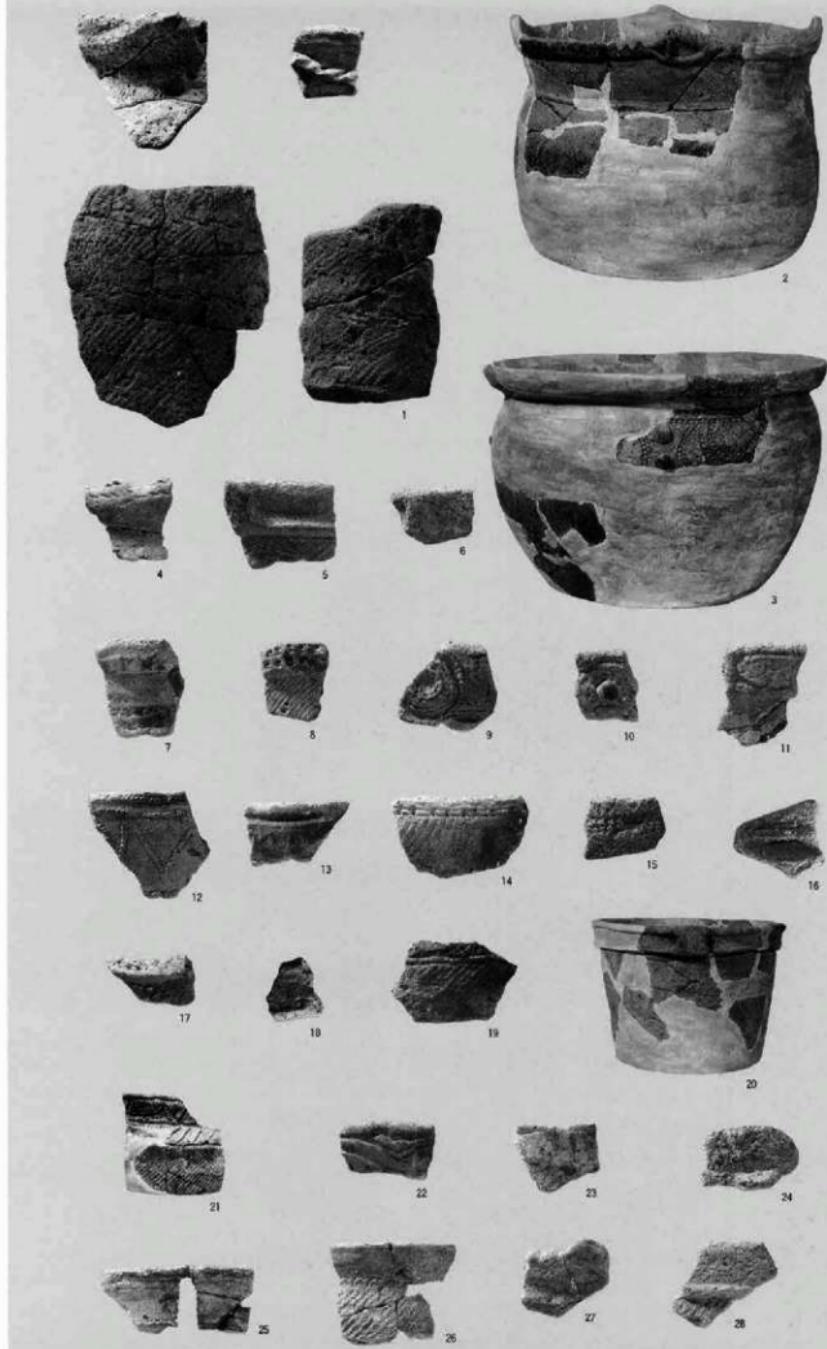


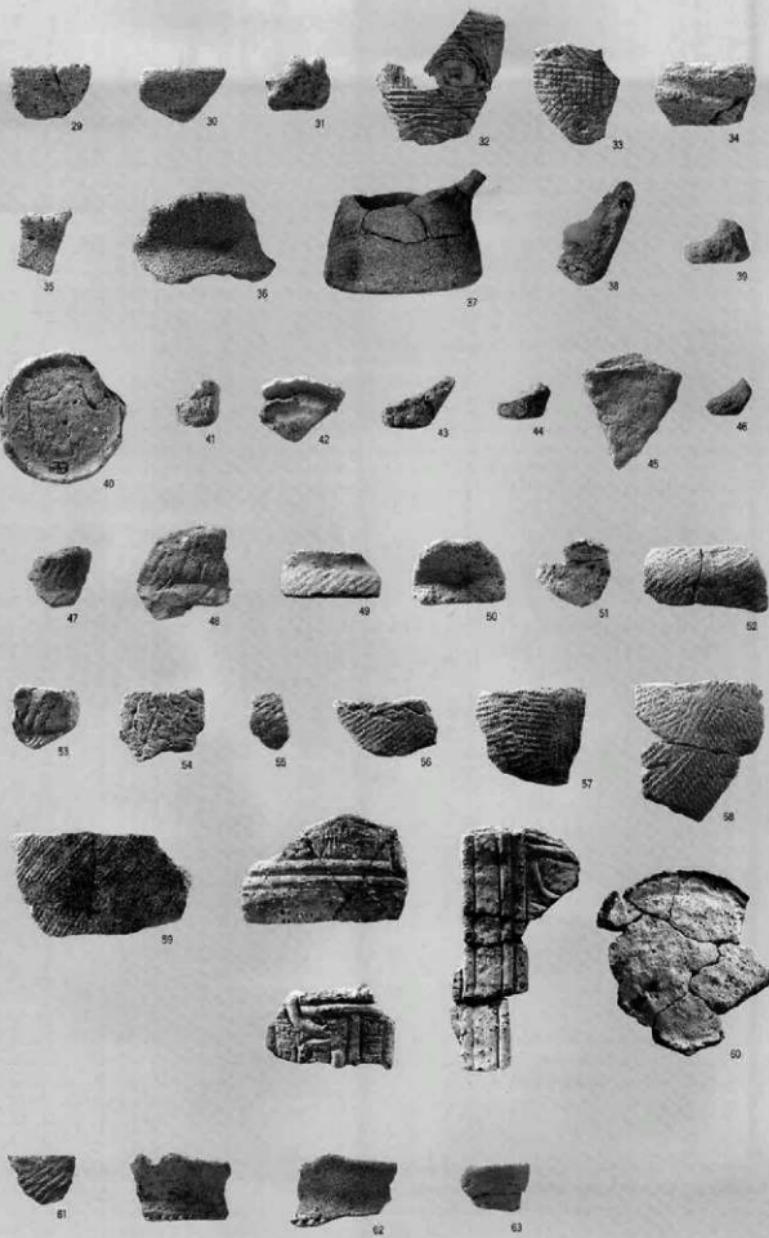
6

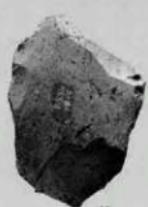
縄文時代の石器
(西地区)

繩文土器

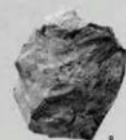
1~3 20~21
1:5
4~19 22~28
1:3







10



8



9



7



11



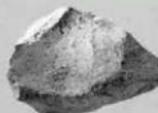
12



14



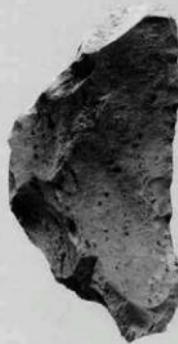
15



15



15



16



17



19



20



21



22



23



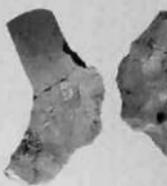
24



25



26



27



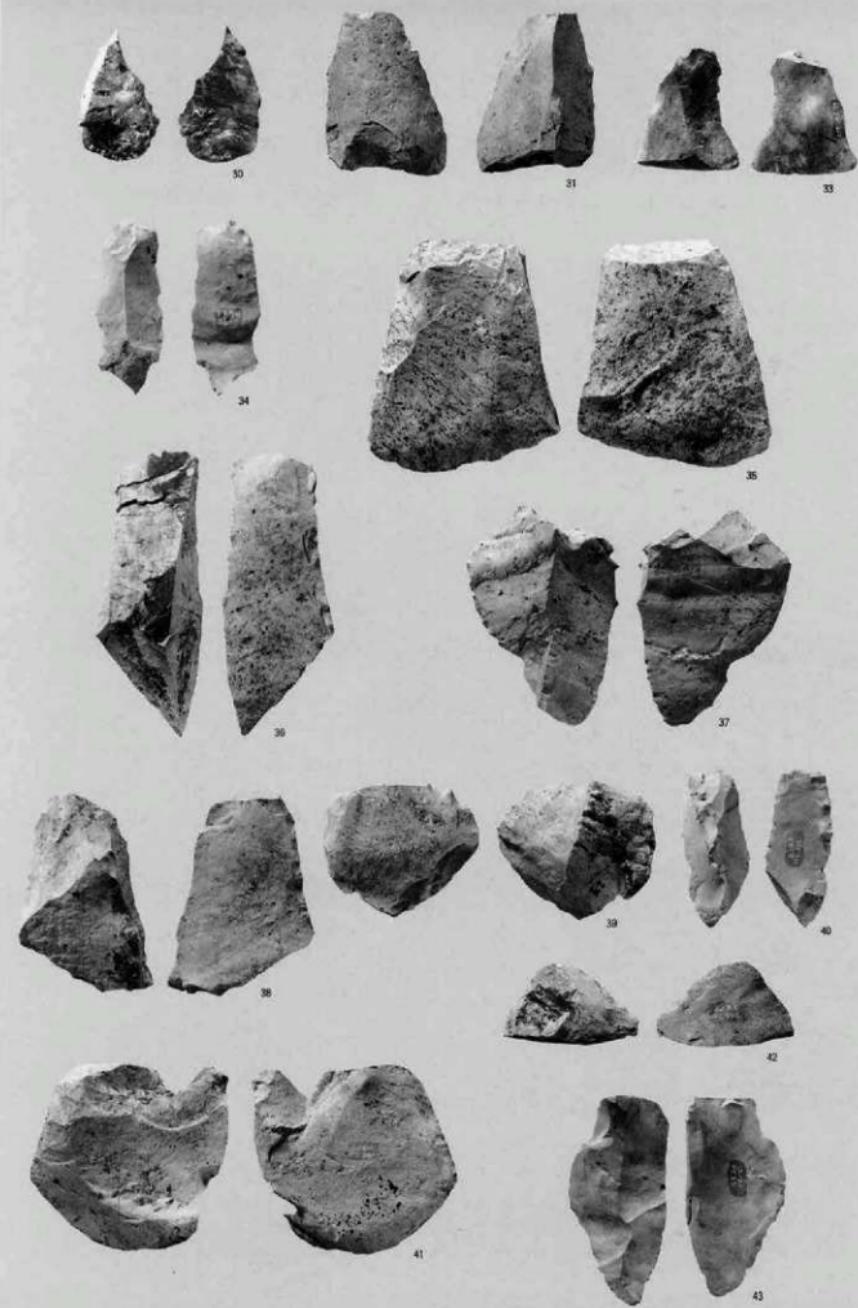
28



29



30

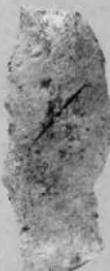




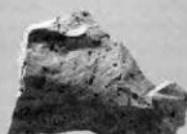
44



45



46



47



48



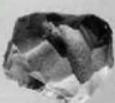
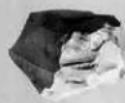
49



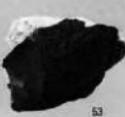
50



51



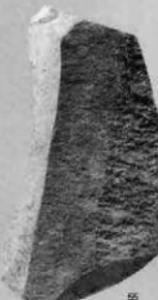
52



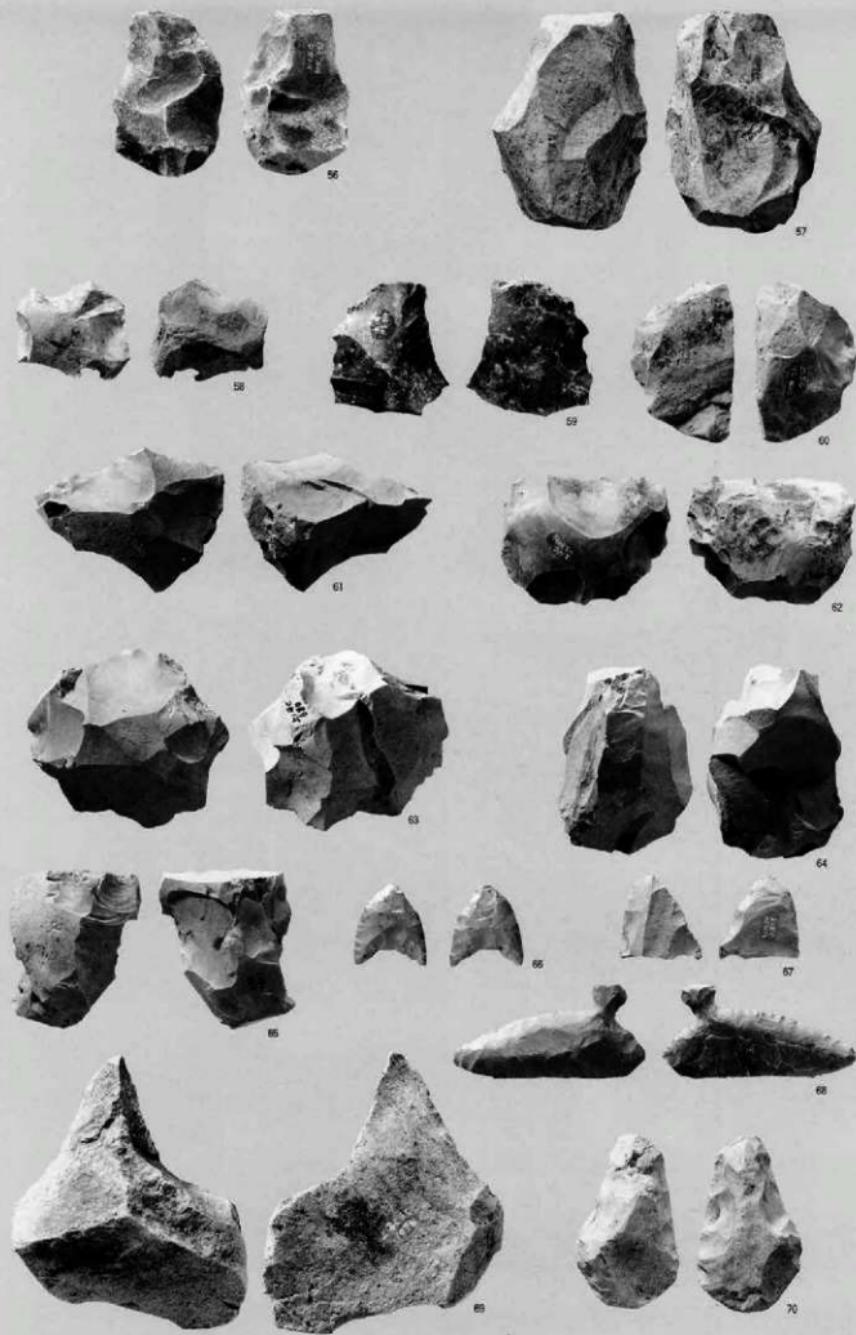
53

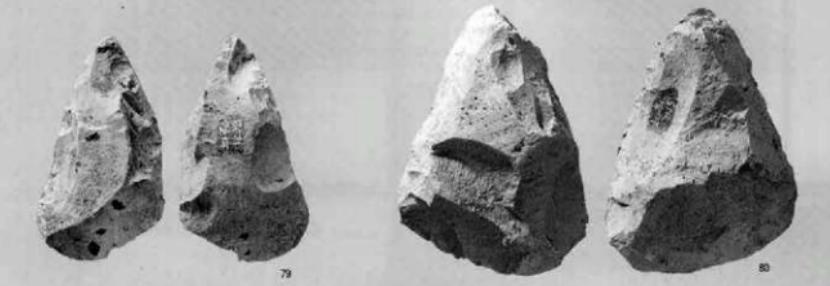
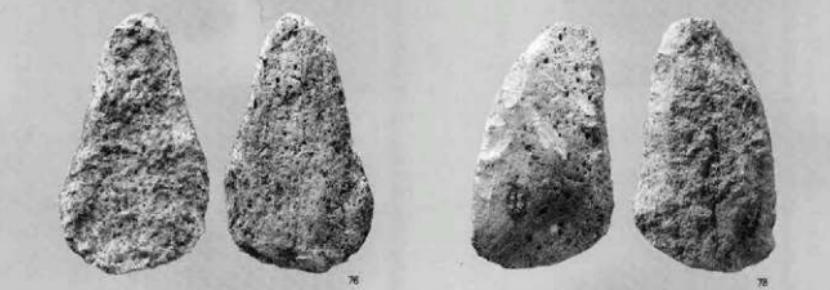
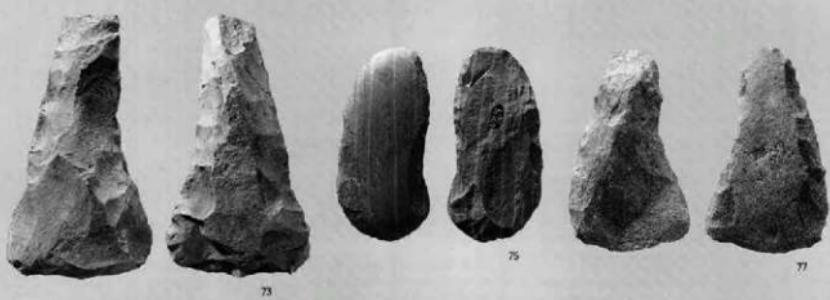
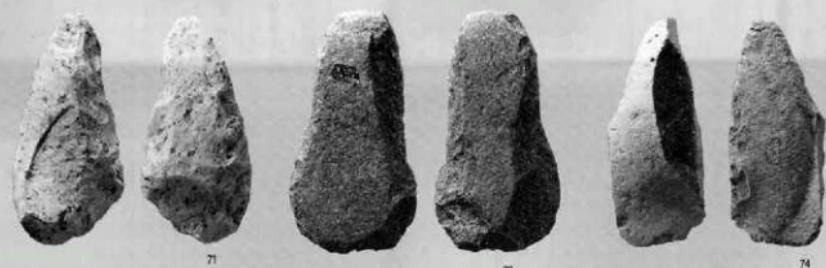


54



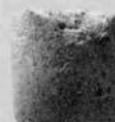
55







81



82



83



84



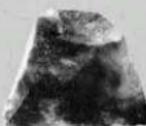
85



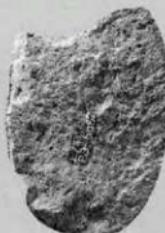
86



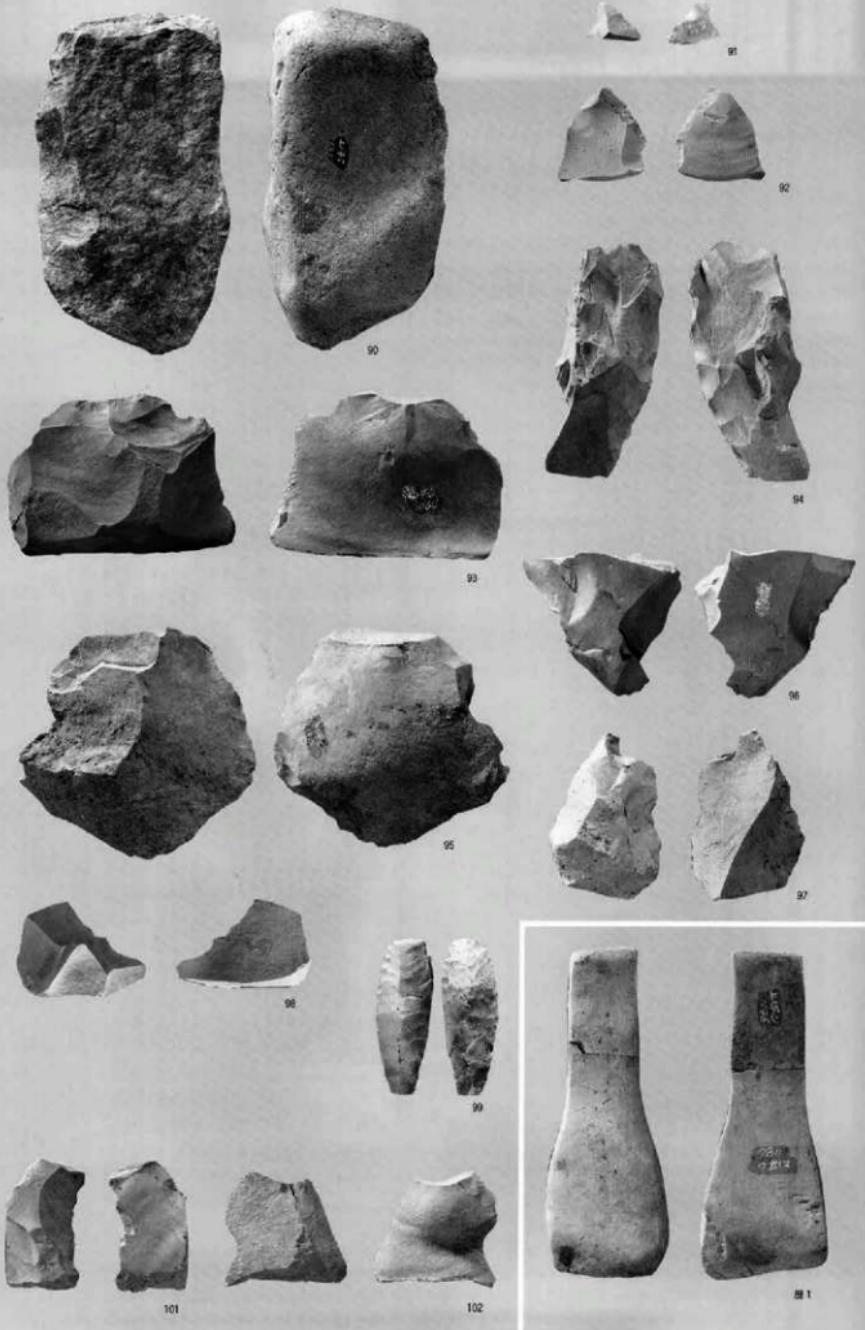
87



88

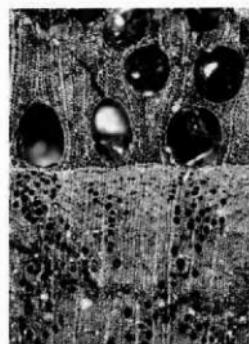


89



歴史時代の純石

上ノ平遺跡 C 地点出土炭化材の顕微鏡写真

1. SII Pit 1-b クリ
横断面 :0.4mm

放射断面 :0.4mm



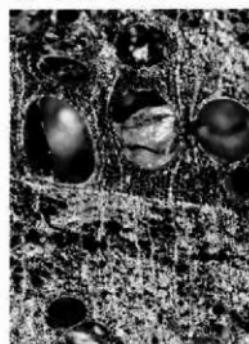
接線断面 :0.1mm

2. SK13-a クリ
横断面 :0.4mm

放射断面 :0.2mm



接線断面 :0.2mm

3. SK30-a クリ
横断面 :0.4mm

放射断面 :0.2mm



接線断面 :0.2mm

報告書抄録

書名	上ノ平遺跡C地点						
発行者名	磐越自動車道関係発掘調査報告書						
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第73集						
編著者名	沢田 敦						
編集機関	財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団						
所在地	〒951 新潟県新潟市一番堀通町5923-46 TEL 025-223-5642						
発行年月日	西暦 1996年3月31日						
所取遺跡	所在地	コード 市町村 遺跡	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査要因
上ノ平遺跡 C地点	新潟県長岡市三川村 大字上戸谷流字上ノ山 6270ほか	15-384	24 37度 44分 秒	139度 19分 秒	第1次調査 1990.11.19～1990.12.7 第2次調査 1991.9.27～1991.10.4 1992.4.22～1992.7.22 1993.4.12～1993.8.24	10.100m ²	道路（磐越自動車道 いわき～新潟線）の 建設に伴う事前調査
所取遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
上ノ平遺跡 C地点	散布地	旧石器時代 縄文時代草創期 前期 中期 中世	ブロック7か所 ブロック5か所 堅穴住居跡1棟、ピット1 集石造壙3 土坑47、ピット14基		石器686点（ナイフ、彫刻刀、石刃、削片など） 石器923点（尖頭器、彫刻刀、石核、削片など） 土器34点、石器368点（石器、石匙、笠状石器、両板石器、打製石斧、磨製石斧、不定形石器など） 磁石		中世の遺構は放 射性炭素年代測 定による

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第73集

磐越自動車道関係発掘調査報告書

上ノ平遺跡C地点

平成8年3月30日印刷
平成8年3月31日発行発行・編集 新潟県教育委員会
新潟市新光町4-1
電話 (025) 285-5511附 新潟県埋蔵文化財
調査事業団
新潟市一番堀通町5923-46
電話 (025) 223-5642印刷 長谷川印刷
新潟市小針1-11-8
電話 (025) 233-0321

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第73集 『上ノ平遺跡C地点』 正誤表

頁	位置	誤	正
抄錄	北緯	37度44分	37度44分07秒
抄錄	東経	139度19分	139度19分12秒